日野市議会会議録

昭和60年第３回定例会

第20号～第33号

9月12日開会

10月9日閉会

日野市議会

日野市立図書館
☎81－7354
15 02 507

昭和６０年　第３回定例会日程

９月１２日　（木曜日）　会期の決定

９月１３日　（金曜日）　行政報告、諸般の報告

９月１７日　（火曜日）　行政報告、諸般の報告、審査報告、議案上程、請願上程

９月１８日　（水曜日）　一般質問

９月１８日　（木曜日）　一般質問

９月２０日　（金曜日）　一般質問

９月２４日　（火曜日）　一般質問

９月２５日　（水曜日）　一般質問

９月２６日　（木曜日）　一般質問

９月２７日　（金曜日）　一般質問

９月３０日　（月曜日）　一般質問

１０月　１日　（火曜日）　一般質問

１０月　２日　（水曜日）　一般質問、請願上程

１０月　９日　（水曜日）　審査報告、議案上程、請願上程

1502507

昭和６０年
第３回定例会

日野市議会会議録目次

○ ９月１２日　木曜日（第１日）

出　席　議　員 …… 1
欠　席　議　員 …… 1
出　席　説　明　員 …… 2
議　事　日　程 …… 2
開　　会 …… 5
会議録署名議員の指名 …… 5
会　期　の　決　定 …… 5
散　　会 …… 9

○ ９月１３日　金曜日（第２日）

出　席　議　員 …… 11
欠　席　議　員 …… 11
出　席　説　明　員 …… 12
議　事　日　程 …… 12
開　　議 …… 13
散　　会 …… 18

○ ９月１７日　月曜日（第３日）

出　席　議　員 …… 19
欠　席　議　員 …… 19
出　席　説　明　員 …… 20
議　事　日　程 …… 20
開　　議 …… 25
行　政　報　告 …… 25

諸　般　の　報　告 …… 100
（請願審査報告）
請願第６０－６号　アフリカの飢餓救援に関する陳情 …… 100
（選　　挙）
南多摩東部共立病院組合議会議員の補欠選挙について …… 101
（選　　任）
下水道対策特別委員会委員の欠員に伴う委員の選任について …… 102
（設置・選任）
日野市議会昭和５９年度一般会計決算特別委員会の設置及び委員の選任について…… 102
日野市議会昭和５９年度特別会計決算特別委員会の設置及び委員の選任について…… 102
（議案上程）
議案第　５６号　昭和５９年度日野市一般会計決算の認定について …… 103
議案第　５７号　昭和５９年度日野市国民健康保険特別会計決算の認定について …… 104
議案第　５８号　昭和５９年度日野市都市計画事業特別会計決算の認定について …… 104
議案第　５９号　昭和５９年度日野市下水道事業特別会計決算の認定について …… 104
議案第　６０号　昭和５９年度日野市立総合病院事業会計決算の認定について …… 104
議案第　６１号　昭和５９年度日野市受託水道事業特別会計決算の認定について …… 104
議案第　６２号　昭和５９年度日野市農業共済事業特別会計決算の認定について …… 104
議案第　６３号　昭和５９年度日野市老人保健特別会計決算の認定について …… 104
議案第　６４号　昭和５９年度日野市仲田緑地用地特別会計決算の認定について …… 104
議案第　６５号　昭和５９年度東京都市廃棄物処分地管理組合会計決算の認定について …… 106
議案第　６６号　日野市立地区センター条例の一部を改正する条例の制定について …… 107
議案第　６７号　日野市地区広場設置条例の一部を改正する条例の制定について …… 107
議案第　６８号　日野市下水道条例の制定について …… 109
議案第　６９号　日野市老人福祉手当条例の一部を改正する条例の制定について …… 121
議案第　７０号　日野市心身障害者(児)福祉手当支給条例の一部を改正する条例の制定について …… 121
議案第　７１号　日野市児童育成手当条例の一部を改正する条例の制定について …… 121
議案第　７２号　昭和６０年度日野市一般会計補正予算について(第2号)…… 123
議案第　７３号　昭和６０年度日野市国民健康保険特別会計補正予算について(第１号) …… 127
議案第　７４号　昭和６０年度日野市下水道事業特別会計補正予算について(第２号) …… 128
議案第　７５号　昭和６０年度日野市立総合病院事業会計補正予算について(第２号) …… 130
議案第　７６号　昭和６０年度日野市受託水道事業特別会計補正予算について(第１号) …… 130
議案第　７７号　市道路線の一部廃止について …… 132
議案第　７８号　市道路線の廃止について …… 132
議案第　７９号　市道路線の認定について …… 132
議案第　８０号　仲田緑地築造工事請負契約の締結について …… 134
（報告事項）
報告第　５号　昭和５９年度日野市土地開発公社決算の報告について …… 135

報 告 第 6号 交通事故（日野市高幡２５番地先路上の市の義務に属する事故）の専決処分の報告について …… 137
（請願上程）
請願第６０－９号 無認可保育室の助成に関する陳情 …… 138
請願第６０－１０号 「国家秘密に係るスパイ行為等の防止に関する法律案」に反対する日野市議会の意見書を求める請願 …… 138
散 会 …… 139

○ ９月１８日 水曜日（第４日）
出 席 議 員 …… 141
欠 席 議 員 …… 141
出 席 説 明 員 …… 142
議 事 日 程 …… 142
開 議 …… 143
（一般質問）
板 垣 正 男 議員
1. 再び私道の固定資産税、都市計画税は非課税にせよ、との要求について …… 143
2. 日野駅の改造計画について …… 149
3. 栄町に予定されている都営住宅建設計画と公共施設建設見通しについて…… 154
4. 中小企業振興条例の制定について …… 159
古 賀 俊 昭 議員
1. 大幅に遅れている「日野市行政改革大綱」の策定について …… 164
2. 市庁舎ホールの芸術作品、陶壁画を通して、革新・森田市長の文化政策に対する姿勢を問う …… 177
3. この夏・革新・森田市長がソ連を訪問した真の目的は何か …… 182
午後４時４７分休憩後、本会議を開くに至らなかった …… 190

○ ９月１９日 木曜日（第５日）
出 席 議 員 …… 191
欠 席 議 員 …… 191
出 席 説 明 員 …… 192
議 事 日 程 …… 192
開 議 …… 195
（動 議）
高橋議長辞職勧告決議 …… 195
定足数に達せず延会 …… 208

○ ９月２０日 金曜日（第６日）
出 席 議 員 …… 209
欠 席 議 員 …… 209
出 席 説 明 員 …… 210
議 事 日 程 …… 210
開 議 …… 211
延 会 …… 212

○ ９月２４日 火曜日（第７日）
出 席 議 員 …… 213
欠 席 議 員 …… 213
出 席 説 明 員 …… 214
議 事 日 程 …… 214
開 議 …… 215
延 会 …… 217

○ ９月２５日 水曜日（第８日）
出 席 議 員 …… 219

欠　席　議　員 …… 219
出　席　説　明　会 …… 220
議　事　日　程 …… 220
開　　議 …… 221
会　期　の　延　長 …… 221
延　　会 …… 222

○ 9月26日　木曜日（第9日）

出　席　議　員 …… 223
欠　席　議　員 …… 223
出　席　説　明　員 …… 224
議　事　日　程 …… 224
開　　議 …… 225

（一般質問）

古 谷 太 郎 議員

1. 市民会館　故奈沢館長の諫止を生かせ …… 225
2. 働らく悦びと、誇りを持てる職場を、職員に与えよ …… 232
3. 東京都立三多摩美術館は、文化都市を目指す、日野市に誘致せよ …… 236

福 島 敏 雄 議員

1. 住むことが悦びであり、誇りである町を創ろう …… 238

名古屋 史 郎 議員

1. 地方行革大綱と日野市行財政調査会について …… 260

簇 野 行 雄 議員

1. 日野市立病院を考える …… 269

藤 林 理一郎 議員

1. 環境整備について …… 286

散　　会 …… 295

○ 9月27日　金曜日（第10日）

出　席　議　員 …… 297
欠　席　議　員 …… 297
出　席　説　明　員 …… 298
議　事　日　程 …… 298
開　　議 …… 299

（一般質問）

竹ノ上 武 俊 議員

1. 七生地域の総合病院建設その後の展望について問う …… 299
2. 日野市と多摩市間の交通改善（バス便など）について問う …… 305
3. 程久保川の清流化促進について …… 309
4. 市職員が更にいっそう生き生きと、市民サービスを充実させるために
と問う …… 317

橋 本 文 子 議員

1. 「住むことが悦びであり、誇りである町」をつくるために、高齢化社
会と新しい福祉のあり方について問う …… 323
2. 中国残留孤児及びその家族の受け入れ対策について問う …… 335
3. ねたきり障害者の入浴サービスは申請主義なのか、また回数について
の基準はどのようになっているのか …… 340
4. ６０年度１０月に行われる日野市職員募集について …… 343

馬 場 繁 夫 議員

1. 地震、水害における斜面災害防止・安全避難対策等における防災計画
の現状と今後の課題について …… 345

馬 場 弘 触 議員

1. ワンルーム、マンション等への対応について …… 361
2. 東町地域の環境整備について …… 368
3. 第五小学校改築への見通しについて …… 371
4. 恒久平和に対し、自治体は何をすべきか …… 374

散　　会 …… 384

○ 9月30日　月曜日（第11日）

出　席　議　員 …… 385
欠　席　議　員 …… 385
出　席　説　明　員 …… 386
議　事　日　程 …… 386
開　　議 …… 387

（一般質問）

秦　正一 議員

1. 航空機の騒音対策として防音工事の拡大と旭が丘二丁目地域の交通公害について …… 387

小俣昭光 議員

1. 総合科学館（プラネタリウム館）実現について …… 396
2. 老人、母子家庭の医療費無料化について …… 401

一ノ瀬　隆 議員

1. 「日の丸」「君が代」で国の不当な介入を許すな …… 409
2. 私道の整備をもっと真剣に考えよ …… 423
3. 豊田駅北口の利便性を高めるために …… 429

谷　長一 議員

1. 都市下水路神明上地区外排水工事を早期に実施し低地の水害を解消せよ …… 436
2. オリエント時計周辺道路水路整備について再度問う …… 441
3. 神明地区に地区センターを建設して頂きたい …… 445

散　　会 …… 449

○ 10月1日　火曜日（第12日）

出　席　議　員 …… 451
欠　席　議　員 …… 451
出　席　説　明　員 …… 452
議　事　日　程 …… 452
開　　議 …… 453

（一般質問）

鈴木美奈子 議員

1. 被爆40周年をむかえ、平和を次の世代に伝えるために問う …… 453
2. 第五小学校の改築促進について …… 468

川嶋　博 議員

1. 日野台1－2－27番地先の公道整備について市の考え方を問う …… 470
2. 市民に不便を掛けている豊田駅北口自転車置場建設は何時完成するか問う …… 473
3. 自然の緑と親水公園について問う …… 475

散　　会 …… 477

○ 10月2日　水曜日（第13日）

出　席　議　員 …… 479
欠　席　議　員 …… 479
出　席　説　明　員 …… 480
議　事　日　程 …… 480
開　　議 …… 483

（一般質問）

夏井明男 議員

1. 福祉政策の内容を一段と深化させよ …… 483
2. 差額ベットの実態と解消対策 …… 494
3. 豪雨対策 …… 499
4. 生活環境（多摩平団地周辺）整備について …… 502

市川資信議員

1.（続）地域の小さな問題も積極的に取りあげる行政を推進せよ …… 505

（請願上程）

請願第６０－１１号　（仮称）神明地区センター建設に関する請願 …… 518

請願第６０－１２号　静閑な住宅地の真中への駐車場建設反対に関する請願 …… 518

請願第６０－１３号　日野第二小学校校舎内の整備に関する請願 …… 519

請願第６０－１４号　循環バス市案に加え全市的循環バス実現を願う請願 …… 519

散会 …… 519

○１０月９日　水曜日（第１４日）

出席議員 …… 521

欠席議員 …… 521

出席説明員 …… 522

議事日程 …… 522

開議 …… 527

（議案審査報告）　（総務委員会）

議案第８０号　仲田緑地築造工事請負契約の締結について …… 527

（総務、文教、厚生、建設）

議案第７２号　昭和６０年度日野市一般会計補正予算について（第2号）…… 527

（厚生委員会）

議案第６６号　日野市立地区センター条例の一部を改正する条例の制定について …… 547

議案第６７号　日野市地区広場設置条例の一部を改正する条例の制定について …… 547

議案第６９号　日野市老人福祉手当条例の一部を改正する条例の制定について …… 549

議案第７０号　日野市心身障害者(児)福祉手当支給条例の一部を改正する条例の制定について …… 549

議案第７１号　日野市児童育成手当条例の一部を改正する条例の制定について …… 549

議案第７３号　昭和６０年度日野市国民健康保険特別会計補正予算について（第１号） …… 551

議案第７５号　昭和６０年度日野市立総合病院事業会計補正予算について（第２号） …… 551

議案第７６号　昭和６０年度日野市受託水道事業特別会計補正予算について（第１号） …… 551

（建設委員会）

議案第６８号　日野市下水道条例の制定について …… 553

議案第７４号　昭和６０年度日野市下水道事業特別会計補正予算について（第２号） …… 558

議案第７７号　市道路線の一部廃止について …… 559

議案第７８号　市道路線の廃止について …… 559

議案第７９号　市道路線の認定について …… 559

（一般会計決算特別委員会）

議案第５６号　昭和５９年度日野市一般会計決算の認定について …… 560

（特別会計決算特別委員会）

議案第５７号　昭和５９年度日野市国民健康保険特別会計決算の認定について …… 560

議案第５８号　昭和５９年度日野市都市計画事業特別会計決算の認定について …… 560

議案第５９号　昭和５９年度日野市下水道事業特別会計決算の認定について …… 560

議案第６０号　昭和５９年度日野市立総合病院事業会計決算の認定について …… 560

議案第６１号　昭和５９年度日野市受託水道事業特別会計決算の認定について …… 560

議 案 第 ６２号　昭和５９年度日野市農業共済事業特別会計決算の認定について …… 560
議 案 第 ６３号　昭和５９年度日野市老人保健特別会計決算の認定について …… 560
議 案 第 ６４号　昭和５９年度日野市仲田緑地用地特別会計決算の認定について …… 561
（請願審査報告）　（総務委員会）
請願第５８－２４号　循環バスに関する請願 …… 561
請願第５９－２１号　市内循環バス路線の早期実現を求める請願 …… 561
請願第６０－４号　日野駅～豊田駅を結ぶ市内バスを速やかに滝合橋経由平山城址公園駅まで延長し、私たちの南北交通の足を確保するための請願 …… 561
請願第６０－１４号　循環バス市案に加え全市的循環バス実現を願う請願 …… 561
請願第５９－２９号　健康保険本人の10割給付復帰、および国民健康保険への国庫補助率引き上げの意見書を求める請願 …… 562
請願第６０－８号　「国家秘密に係るスパイ行為等の防止に関する法律案」に対する日野市議会の反対決議を求める請願 …… 563
請願第６０－１０号　「国家秘密に係るスパイ行為等の防止に関する法律案」に反対する日野市議会の意見書を求める請願 …… 563
（文教委員会）
請願第６０－１３号　日野第二小学校校舎内の整備に関する請願 …… 581
（総務委員会）
請願第５８－２９号　循環バス市案に反対する請願 …… 582
（厚生委員会）
請願第６０－５号　老人医療定率負担の導入に関する陳情 …… 582
（総務委員会）
請願第５９－２８号　世界連邦都市宣言に関する陳情 …… 583
請願第６０－７号　下町下河原地区に所在する(旧)日東精密時計株式会社跡地取得に関する請願 …… 583
（文教委員会）
請願第５７－７号　遊休農地をテニスコートとして利用することに関する請願 …… 583
（厚生委員会）
請願第６０－９号　無認可保育室の助成に関する陳情 …… 584
請願第６０－１１号　（仮称）神明地区センター建設に関する請願 …… 584
請願第６０－１２号　静閑な住宅地の真ん中への駐車場建設反対に関する請願 …… 584
（建設委員会）
請願第５７－３７号　高幡不動駅北側地区の区画整理に対する反対請願 …… 584
請願第５７－５１号　高幡地区区画整理に対する京王線高幡不動駅南側住民の反対請願 …… 584
請願第５７－５５号　高幡不動駅南新井東地区の区画整理に対する反対請願 …… 584
請願第５７－５９号　土地区画整理事業策定にあたって当該計画より第一豊田荘住宅地域を除外に関する請願 …… 584
請願第５７－６２号　程久保６６２番地地域山林緑地保存に関する請願 …… 584
請願第５８－５号　高幡不動駅地区の区画整理に対する反対請願 …… 584
請願第５９－８号　生活道路設置に関する請願 …… 584
請願第５９－９号　下水道設置に関する請願 …… 584
請願第５９－１６号　基盤整備に関する請願 …… 584
（継続審査議決）
下水道対策特別委員会の継続審査議決に関する件 …… 585
農林水産省跡地利用対策特別委員会の継続審査議決に関する件 …… 585
高幡踏切対策特別委員会の継続審査議決に関する件 …… 585
廃棄物対策特別委員会の継続審査議決に関する件 …… 586
市民会館建設対策特別委員会の継続審査議決に関する件 …… 586
（請願上程）
請願第６０－１５号　日野本町四丁目のワンルーム・マンション建築に反対し

市の適切な指導を求める請願 …… 586

（議案上程）

議員提出議案第　8号　人事院勧告の完全実施に関する意見書 …… 587

議員提出議案第　9号　老人医療費の不公平な負担増ならびに老人医療自己負担引き上げに反対する意見書 …… 587

議員提出議案第１０号　東京都住宅供給公社の不当な定期的家賃値上げに反対する意見書 …… 588

議員提出議案第１１号　健康保険本人の１０割給付復帰、および国民健康保険への国庫補助率引き上げを求める意見書 …… 595

議員提出議案第１２号　「国家秘密に係るスパイ行為等の防止に関する法律案」制定に反対する決議 …… 595

閉　　会 …… 596

9月12日　木曜日　（第1日）

昭和６０年
第３回定例会

日野市議会会議録　（第20号）

９月１２日　木曜日（第１日）

出　席　議　員（２８名）

１番	橋本文子君	２番	福島敏雄君
３番	小俣昭光君	５番	谷　長一君
６番	古谷太郎君	７番	馬場繁夫君
８番	馬場弘融君	９番	高橋徳次君
１０番	旗野行雄君	１１番	一ノ瀬　隆君
１２番	板垣正男君	１３番	鈴木美奈子君
１４番	川嶋　博君	１５番	飯山　茂君
１６番	夏井明男君	１７番	黒川重憲君
１８番	古賀俊昭君	１９番	市川資信君
２０番	藤林理一郎君	２１番	名古屋史郎君
２２番	竹ノ上武俊君	２３番	米沢照男君
２４番	中山基昭君	２５番	大柄　保君
２６番	秦　正一君	２７番	奥住芳雄君
２８番	石坂勝雄君	３０番	高橋通夫君

欠　席　議　員　（なし）

欠　　員

４番　２９番

説明のため会議に出席した者の職氏名

市長	森田喜美男君		
助役	赤松行雄君	収入役	加藤一郎君
企画財政部長	前田雅夫君	総務部長	伊藤正吉君
市民部長	佐藤智春君	生活環境部長	坂本金雄君
清掃部長	藤浪竜徳君	都市整備部長	結城邦夫君
建設部長	中村亮助君	福祉部長	高野隆君
水道部長	永原照雄君	病院事務長	大賀松雄君
教育長	長沢三郎君	教育次長	小山哲夫君

会議に出席した議会事務局職員の職氏名

局長	岩沢代吉君	次長	馬場守君
書記	田中正美君	書記	土方留春君
書記	谷野省三君	書記	串田平和君
書記	佐々木茂晴君		

速記委託先　住所　東京都立川市曙町一丁目１０の３

立川速記者養成所　所長　関根福次

速記者　浜田文子君

議事日程

昭和６０年９月１２日（木）

午前１０時開会

日程第１　会議録署名議員の指名

日程第２　会期の決定

日程第３　行政報告

日程第４　諸般の報告

本日の会議に付した事件

日程第１から第２まで

午後4時50分開会

○議長（高橋通夫君）　これより昭和60年第3回日野市議会定例会を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

ただいまの出席議員28名であります。

次に日程第1、会議録署名議員の指名の件については、会議規則第81条の規定により、議長において

22番　竹ノ上　武　俊　君

23番　米　沢　照　男　君

を指名いたします。

次に日程第2.　会期の決定の件を議題といたします。

議会運営委員長の報告を求めます。

〔議会運営委員長登壇〕

○議会運営委員長（中山基昭君）　本日12日よりの第3回の定例会の運営につきましては、先日9日に議会運営委員会を開催し、議案の取り扱い、通告質問者の確認と発言の順位、会期と日程の配置、請願の取り扱いについて、協議を行ってまいりました。その御報告を行い、御確認と御協力をいただいてまいりたいというふうに思います。

お手元に配付をされております日程予定表、あるいは通告質問の一覧表等を参照していただきたいと思います。日程表等につきましては、若干の変更を最後に申し上げてまいりたいと思います。市長の方からの提案されます議案は、既に送付をされておりますところの25議案になりますが、議案65号の廃棄物処分地管理組合の会計決算の認定につきましては、既に組合議会におき事業や経過が確認をされてきておりますので、即決といたしたいと思います。そのほかの全議案につきましては、これからの設置が予定をされておりますそれぞれの特別委員会と関係の各常任委員会に付託をし、審議を進めることにいたしたいというふうに思います。会期、日程等につきましては、決算特別委員会4日、一般通告質問5日というふうな日程配置でございますけれども、特に一般質問の通告者は、一覧表のように21名から50件が予定をされております。したがいまして、1日最小限4名の消化をひとつ目標、予定にしてまいりたいというふうに思います。なお、この会期は、本日の12日から10月8日の27日間を設定をしてまいりたいと思いますけれども、本日の議事の消化の関係上、これからの行政報告、ある

いは諸般の報告等につきましては、明日の１３日に繰り下げをしてまいりたいと思います。以下別表の１３日以降の日程をそれぞれ1日ずつ繰り下げを行いまして、１０月3日の予備日これ等につきましては、大変決算特別委員会等でのこの審議等の状況もございますけれども、この中に設定をしてまいりたいと思います。したがいまして、最終は当初の予定のように１０月８日まで、こういうふうな日程配置に変更してまいりたいというふうに思います。

以上大変雑駁でございますが、よろしく御審議と御確認を願いまして報告にかえさせていただきます。

以上です。（「議長」と呼ぶ者あり）

○議長（高橋通夫君）　藤林理一郎君。

○２０番（藤林理一郎君）　招集は午前１０になっておりました。ところが、今、5時１０分前本会議が開かれたわけでございますけれども、その6時間余りの時間、これをひとつどのような形で本会議が開かれなかったか、それをひとつ御説明をしていただきたいと思います。

○議長（高橋通夫君）　議会運営委員長。

○議会運営委員長（中山基昭君）　藤林議員にお聞きしたいと思いますけれども、議会会運営委員長にお尋ねされるのか、あるいは議長さんにお尋ねなのか、その辺をひとつ明確にしてください。（「議長」と呼ぶ者あり）

○議長（高橋通夫君）　議長お答えします。

この件については代表者の方から各会派に発表があったことと存じますので、御了承願いたいと思います。

藤林理一郎君。

○２０番（藤林理一郎君）　各会派に代表者が出ておりますけれども、そのたびに報告がなされております。ただし、その報告は非常にあいまいなように私の方で……（「議事進行、議長、5時を経過するので、まず今の委員長報告を締めてからやってください」と呼ぶ者あり）

○議長（高橋通夫君）　ただいまの議会運営委員長の報告のとおり会期を決定するに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（高橋通夫君）　御異議ないものと認めます。よって会期は、本日から１０月８

日まで、期日２７日間と決定いたしました。（「終わり」と呼ぶ者あり）

お諮りいたします。議事の都合によりあらかじめ会議時間の延長をいたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（高橋通夫君）　御異議ないものと認めます。よって会議時間を延長をすることに決しました。

藤林理一郎君。

○２０番（藤林理一郎君）　私は怠慢という言葉はいけなかったかもわかりませんけれども、議長はもう少しこの議会中は日程まで決まっております。そういう関係でもう少し精力的に各議員さんなり、代表者なりを説得をして、そして1時間も早く本会議に臨む、これが議長の役目じゃなかろうか、こういうふうに私は考えて質問しているわけですから、だから、この6時間何分間というんですか、これを非常に私は不満です。もう少しこれから先、議長なりそれから、もう一つは事務局、やっぱり議会は日程も決まって1週間前に各議員さんの手元に配付されておりますから、そのつもりで各議員が出席しているわけです、早くから。そういう意味からいって私は質問しているわけです。これをこのようなことをこれから続けていくというふうになりますと、私は議長の責任、また事務局の責任にかかってくると思います。だから今後このようにならないようにぜひともスムースに議会が運ばれるようにお願いいたしたいと思います。

○議長（高橋通夫君）　藤林理一郎議員の旨を体して、今後につきましては、議会運営については、副議長あるいは事務局とよく緊密な連絡をとりまして、御趣旨に沿うように努力します。

古賀俊昭君。

○１８番（古賀俊昭君）　きょうから第3回の日野市議会の定例会が始まったわけですが、今その初日に当たって藤林議員の方から議長の方に御質問がありました。この定例会の招集に当たりまして、私ちょっと前々から思っておりましたんですが、議長にちょっとお聞きしたいことがありますので、この機会に関連をしてお尋ねをしたいと思います。

9月5日付で、私のところに議長から昭和６０年第3回日野市議会定例会の開催について、ということで連絡がございました。文書をいただきました。この招集についての文章の中に、

当日は時間厳守の上、議事堂に御参集願いたいという文言がございます。私、要綱及び条例等ひっくり返してよく見てみました。議事堂という言葉はどこにも出てこないんです。また、この庁舎が完成をしましたときに、森田市長及び名古屋議長だったと思いますが、庁舎のパンフレットが作成されております。その中にも庁舎案内の中に図面等はありますが、議事堂というのはどこにも存在しない。存在しない場所に集まれというのは、私、文言についてやはり見直しを行った方がいいのではないかと思っておりますが、高橋議長はいかがお考えでございましょうか。

○議長（高橋通夫君）　その件につきましては、いつも議会事務局からそうした通知の方はお任せしてありますので出たことと思いますが、今後そのことについては、事務局長とよく相談しまして間違いのないようにしたいと思います。

古賀俊昭君。

○１８番（古賀俊昭君）　それでは市長にお尋ねをしますが、今定例会の開催に当たり、市長から告示がなされております。その告示の文章の中にも参集場所として、議事堂という記載が同じようにあるわけです。議事堂とは一体どこに存在するのか、市長がお出しになった文書でございますが、市長はどのようにお考えになっているか。また、やはり見直しが必要であるのではないかな、というふうに私は思うんですが、お考えをお聞きしたいと思います。私は、多分これは国会の文例等を参考にされて議事堂というのを引き写しで最初におつくりになった経緯もあるのではないかと推論するんですが、市長のお考えをお聞かせいただきたいと思います。

○議長（高橋通夫君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　議会文書に私の方から特に触れることはないと思っておりますが、古くからこういう表現によって文書が運用されてきております。そのことは共通のつまり議事を行う場所という意味で議事堂という表現は当たっておるわけでありますから、特に異論はない、このように思っております。

○議長（高橋通夫君）　古賀俊昭君。

○１８番（古賀俊昭君）　議長さんは、よく検討して今後見直してみたいという旨の御発言があったと思うんですが、市長は別に構わないとおっしゃっているんですね。市の庁舎の案内パンフレットにも議事堂というのはどこにも出てこないんです。しかも、参考文例の中に

は確かに出ているようですが、実際例規集等の中にもどこにもございません。堂というのは、やはり独立した建物を指して議会棟等があればそういう表現も当たらずといえども遠からずで別段見直しの必要はないということも納得できないことはないんですが、存在しない場所をどこにも出てこない場所に集まりなさい、という告示をなさるということは、ちょっといかがかなと思うんですが、率直に御検討なさってはいかがでしょうか。

○議長（高橋通夫君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　従来の慣例ということで行われております。それから、固有名詞というものを使うのが妥当であるのかどうなのか、要するにこの場所が議事堂であることは間違いないわけでありますから、検討はいたしますが、特に私は疑問を持ってない、こういうことでお答えをしたわけであります。

○議長（高橋通夫君）　お諮りいたします。本日の会議はこの程度にとどめ延会いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（高橋通夫君）　御異議ないものと認めます。よって本日はこれにて延会することに決しました。

本日の未了日程は明日の日程といたします。

本日はこれにて延会いたします。

午後５時７分延会

9月13日　金曜日　（第2日）

昭和60年
第3回定例会

日野市議会会議録　（第21号）

9月13日　金曜日　（第2日）

出席議員（28名）

1番	橋本文子君	2番	福島敏雄君
3番	小俣昭光君	5番	谷　長一君
6番	古谷太郎君	7番	馬場繁夫君
8番	馬場弘融君	9番	高橋徳次君
10番	旗野行雄君	11番	一ノ瀬　隆君
12番	板垣正男君	13番	鈴木美奈子君
14番	川嶋　博君	15番	飯山　茂君
16番	夏井明男君	17番	黒川重憲君
18番	古賀俊昭君	19番	市川資信君
20番	藤林理一郎君	21番	名古屋史郎君
22番	竹ノ上武俊君	23番	米沢照男君
24番	中山基昭君	25番	大柄　保君
26番	秦　正一君	27番	奥住芳雄君
28番	石坂勝雄君	30番	高橋通夫君

欠席議員　（なし）

欠　員

4番　29番

説明のため会議に出席した者の職氏名

市長	森田喜美男君		
助役	赤松行雄君	収入役	加藤一郎君
企画財政部長	前田雅夫君	総務部長	伊藤正吉君
市民部長	佐藤智春君	生活環境部長	坂本金雄君
清掃部長	藤浪竜徳君	都市整備部長	結城邦夫君
建設部長	中村亮助君	福祉部長	高野隆君
水道部長	永原照雄君	病院事務長	大貫松雄君
教育長	長沢三郎	教育次長	小山哲夫君

会議に出席した議会事務局職員の職氏名

局長	岩沢代吉君	次長	馬場守君
書記	田中正美君	書記	土方留春君
書記	谷野省三君	書記	串田平和君
書記	佐々木茂晴君		

速記委託先　住所　東京都立川市曙町一丁目１０の３

立川速記者養成所　所長　関根福次

速記者　小野口純子君

議事日程

昭和６０年９月１３日（金）

午前１０時開議

日程第１　行政報告

日程第２　諸般の報告

本日の会議に付した事件

なし

午後４時５５分開議

○議長（高橋通夫君）　本日の会議を開きます。

ただいまの出席議員２７名であります。

お諮りいたします。議事の都合によりあらかじめ会議時間の延長をいたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（高橋通夫君）　御異議ないものと認めます。よって会議時間を延長することに決しました。

お諮りいたします。議事の都合により暫時休憩いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（高橋通夫君）　御異議ないものと認めます。よって暫時休憩いたします。

午後４時５６分休憩

午後８勝２２分再開

○議長（高橋通夫君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

日程に入る前に、一言、議長から発言いたします。

以前、革新クラブ会派所属でありましたが、昭和５８年１２月１６日をもって革新クラブを脱会された橋本文子議員に、通告いたします。

控室の割り振りについては、無会派の控室は第６、第７議員控室が割り当てられています。議会運営のルールに基づいて、再三再四控室の移動を通告いたしましたが、かたくなに拒否し、本日まで移動されておりません。このため、２日間にわたって議会が空転してしまったことは、極めて遺憾であります。直ちに無会派控室に移動するよう、本会議場で改めて通告いたします。

今後とも、橋本文子議員が良識ある議員として、議会ルール、秩序を厳重に守られるよう強く要望しておきます。（「議長」と呼ぶ者あり）橋本文子君。

○１番（橋本文子君）　ただいまの通告に対して、一言申し上げたいと思います。

９月６日の代表者会議録によりますと、その他、という４番目の項目の中の５点目に、議員控室の件で、９月１１日までに橋本議員が革新クラブから出られるよう議長において処置をすること、という取り決めがなされておりますけれども、この件に関して、どのような処置をお

取りになったんでしょうか。お伺いいたします。

○議長（高橋通夫君）　議長といたしましては、代表者会議に諮って、いろいろこのことについて協議いたしました。橋本文子君。

○１番（橋本文子君）　何か勘違いをしておられるんじゃありませんか。

９月１１日までに議長において処置をすること、と。その、どういう処置をなさったか。代表者会議から議長に託されたものなんです、この文章は。代表者会議から議長に、９月１１日までに処置することと、託されております。その件を、議長はどのように処置をなさったのか、お伺いをしているわけであります。

○議長（高橋通夫君）　議長においては、独断でやるわけにはいかないので、協議をして、今まできたわけです。（「議長」と呼ぶ者あり）橋本文子君。

○１番（橋本文子君）　具体的な内容が、全く話されておりません。私は、具体的なことをお伺いしているわけですから。９月１１日までに処置をすること、議長において処置をすること、と記録されておりますね。

だから、それを具体的にどんな処置をなさったのか、それをお伺いしているのであります。

○議長（高橋通夫君）　どこに記録されているんです。橋本文子君。

○１番（橋本文子君）　代表者会議録、昭和６０年第３回定例会。午後３時３８分から午後４時１５分までに行われた。場所は、議長の応接室であります。

そして、そこに出席された議員は、当然、代表者の方でありまして、奥住議員、黒川議員、竹ノ上議員、飯山議員、一ノ瀬議員、さらに高橋議長、米沢副議長と、あと事務局の方々が出席をされているわけであります。

ここにしっかりと、議長において処置をすること、と明記されているんです。それは、議長はお受けになったはずです。ですから、議長が１１日までにどのような処置をなさったのか、それをお伺いしなければ、今の通告を、私は、そのままお受けするわけにいかないではありませんか。お伺いいたします。

○議長（高橋通夫君）　１１日までの代表者会議のことについては、代表者から会に帰って発表があったと思いますが。橋本文子君。

○１番（橋本文子君）　昨日の議会におきまして、ある新政会の議員からの発言がございました。その内容によりますと、５時近くまで紛糾して議会が開かれなかった理由はどういうことなのだ、議長にお伺いをしたい、という質問さえあったぐらいです。つまり、話されていれば、そういう質問が本会議場で、昨日の５時近くになって出るはずはありません。

ですから、私はお伺いをしているんです。議長は１１日までに処置をすることということに対して、例えば、私に、こういう話が出ていると話すことも、その方法の中の一つにあるでしょう。それは末端のことではあるでしょうけれども、私に何らかの、この内容を伝える義務もおありになるんじゃないでしょうか。

具体的に、どんな処置をなさったのか。これは、代表者会議から議長にあずけられたものです。ですから、議長及び副議長の責任で、これは何らかの処置をなさるべきものだと、私は考えます。

ですから、どういう処置をなさったのか、それをお伺いをしているわけです。

○議長（高橋通夫君）　協議をしたけれど、適切な処置は見つからなかったわけです。（「議事進行」と呼ぶ者あり）一ノ瀬　隆君。

○１１番（一ノ瀬　隆君）　ただいまの橋本議員のお話をお伺いいたしまして、議事進行という形で、発言させていただきたいと思います。

代表者会議のメモが云々ということでございましたけれども、代表者会議で、いつの幾日までに議長が何をしろということは、一般議員に対してではなく、代表者に対しての約束でありますし、その点については、１２日に開かれた代表者会議において、議長から十分説明がなされております。それで、そのときに約束した代表者は、全員了解しているはずです。

ただ、その問題については、解決をしておりませんので、それからいろいろと折衝があった、いろいろな論議があったところであります。

さて、この件について、昨年の３月定例会で、橋本議員は、それ以前、私ども革新クラブから脱会いたしまして、その時点では、応接室などに荷物を置いていたというときがございました。

石坂前議長より、（「うそが言える」と呼ぶ者あり）傍聴などが来るんで、そういう状態ではちょっとまずいんで、１日、２日で何とか部屋の件は解決するから、ぜひ革新クラブに置いてくれないか、というような話がありました。

私ども革新クラブは、現実に大きな（「本当にそうだったんですか」と呼ぶ者あり）荷物はまだ私どもの部屋にあるんで、１日、２日だったらいいんではないかということで、革新クラ

ブ全員これを了承して、石坂議長に伝えました。そして、その後、１日、２日というのが、いつになっても事態は解決しないということで、その状況のまま続いておりました。

私は、代表者会議など、事あるごとに、控室の問題はどうなっているのかということを、議長ないし議会事務局に聞いて、ただしております。これに対して、議長並びに議会事務局は、大変努力はされたようですけれども、現時点、どうにもならないというような事態が続いておりました。

そして、ことしの４月の市長選挙、そして７月の都議選挙ですか、滝瀬議員、並びに小山議員が辞職し、控室の余裕ができたわけであります。こういう状況におきまして、それから初めての定例会が、ここで始まるわけでありますけれども、その時点で、私が従来からお願いしてきたことは、解決できるんじゃないか、そういうことで、６日の代表者会議、１２日の代表者会議などで論議をいたしまして、さっき議長が発言されましたように、代表者会議の同意を得て、議長がこの取り決めを行い、橋本議員に通告したところだと思います。

議長の取り計らいである、無会派の議員は第６、第７議員控室に入ってほしい、入れ、という指示は、極めて妥当であると思います。その妥当な指示に従わず、革新クラブに与えられた部屋に居座るということは、議会運営を無視した、極めて非協力的な暴挙であると言わざるを得ないのであります。これは、革新クラブの一致した意見でもあります。

申すまでもなく、議会の運営は法律により大幅に議長にその権限が認められています。しかし、民主的に、そして議会運営をスムースにするために、代表者に集まっていただき、代表者会議を開いて、議会運営をスムースにやっていくのだと思います。

この件についても、代表者会議での報告によりますと、議長、副議長、そして事務局の皆さんは大変苦労され、いろいろと橋本議員の意見も十分に聞いたと聞いております。

革新クラブは、控室で会議も自由に開くことのできないような、不自由な状況が、長い間、続きました。この打開を一刻も早くしていただくように、切に願っているところでございます。議長の発言を強く支持し、今後、橋本議員が速やかに議長の指示に従うよう、強く要望して、議事進行での発言としておきたいと思います。（「関連、議事進行」と呼ぶ者あり）

○議長（高橋通夫君）　　竹ノ上武俊君。

○２２番（竹ノ上武俊君）　　議長に、一言、確認をさせていただきたいと思います。

ただいま、革新クラブの代表者から発言があったとおり、経過は、私もそのとおり共産党市

議団の代表者として、そのとおり確認できるものでございます。

１１日前後、議長がこの問題について各会派と折衝し、その不十分な点はございましたけれども、それが１２日へと流れてきたというものでございまして、今の革新クラブの代表者がおっしゃったとおりではないかと思います。

そこで、１２日の時点ではないかと思いますが、橋本議員への控室の問題などが、連絡がいったのではないかというふうに存じます。

それで、代表者会議の決定なり、議会のルールというものに、日野の市会議員が従うのは、これは当然でございます。議席の配分についても、その慣例とルールに従って、私どもここに座っております。ですから、これは守らなければいけません。

それで、私が確認したい点が、一つございます。それは、議長、御存じだと思いますけれども、私が読み上げますので、そのとおりであれば、そのとおりである、ということを証明していただければいいと思います。

私ども、昭和５９年３月に、議員提要という冊子を、議会事務局よりちょうだいいたしております。これに、庁舎の使用についてという規定が、明文化されております。３１４ページでございます。昭和５２年１１月２９日、会派代表者会議決定、こういうふうになっております。その後、この決定に基づいて、庁舎の使用は行われてまいっております。

そこで、今の件に関しての、決定の項を読み上げますので、それが正しければ、御確認いただきたいと思います。

(1)といたしまして、議員控室の使用について、となっております。その第１項は「会派控室は、会派構成の大幅な変動がない限り、議員の任期中は変更しないものとする」とこうなっております。したがいまして、革新クラブが１人減っても、革新クラブは今の部屋にいてもいい、とこういうことが、第１項で規定をされております。と、解するわけでございます。

それから、第２項といたしまして、「議員控室は各会派所属議員及び議員の待機、会議、諸会合の場として使用し、その責任者は会派の代表者とする」というふうになっております。したがって、他の会派の議員がそこに居座るというようなことは、代表者の権限で認めないとすることができるということが、規定されているものと思います。こういう文章になっております。

それから、(5)といたしまして、「その他必要な事項は、議長が会派代表者、議会事務局長と協議して決める」とこういうふうに結論がなっております。したがいまして、日程の流れはご

ざいますけれども、この５項に沿って決定したことには、各会派の議員さんは従わなければいけないものと、解釈することができると思います。

以上、私、３項目について読み上げたわけでございますけれども、相違なければ、議長ないし事務局長において、そのことを証明していただきたいと思います。

○議長（高橋通夫君）　そのとおり、間違いないと思います。（「思いますじゃ、困る」と呼ぶ者あり）そのとおりです。

お諮りいたします。本日の会議はこの程度にとどめ（「議事進行」と呼ぶ者あり）延会いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（高橋通夫君）　御異議ないものと認めます。よって本日はこれにて延会することに決しました。（「議長の横暴だ。議事進行」と呼ぶ者あり）

本日の未了日程は、１７日の日程といたします。

本日はこれにて延会いたします。

午後８時３９分延会

９月17日　火曜日　（第３日）

昭和６０年
第３回定例会

日野市議会会議録　（第22号）

９月１７日　火曜日　（第３日）

出席議員（２８名）

１番	橋本文子君	２番	福島敏雄君
３番	小俣昭光君	５番	谷　長一君
６番	古谷太郎君	７番	馬場繁夫君
８番	馬場弘融君	９番	高橋徳次君
１０番	旗野行雄君	１１番	一ノ瀬　隆君
１２番	板垣正男君	１３番	鈴木美奈子君
１４番	川嶋　博君	１５番	飯山　茂君
１６番	夏井明男君	１７番	黒川重憲君
１８番	古賀俊昭君	１９番	市川資信君
２０番	藤林理一郎君	２１番	名古屋史郎君
２２番	竹ノ上武俊君	２３番	米沢照男君
２４番	中山基昭君	２５番	大柄　保君
２６番	秦　正一君	２７番	奥住芳雄君
２８番	石坂勝雄君	３０番	高橋通夫君

欠席議員　（なし）

欠　員

４番　２９番

説明のため会議に出席した者の職氏名

市長	森田喜美男君		
助役	赤松行雄君	収入役	加藤一郎君
企画財政部長	前田雅夫君	総務部長	伊藤正吉君
市民部長	佐藤智春君	生活環境部長	坂本金雄君
清掃部長	藤浪竜徳君	都市整備部長	結城邦夫君
建設部長	中村亮助君	福祉部長	高野隆君
水道部長	永原照雄君	病院事務長	大貫松雄君
教育長	長沢三郎君	教育次長	小山哲夫君
監査委員	高崎克好君	監査事務局長	平敏男君

会議に出席した議会事務局職員の職氏名

局長	岩沢代吉君	次長	馬場守君
書記	田中正美君	書記	土方留春君
書記	谷野省三君	書記	串田平和君
書記	佐々木茂晴君		

速記委託先　住所　東京都立川市曙町一丁目１０の３

立川速記者養成所　所長　関根福次

速記者　川久保友子君

議事日程

昭和６０年９月１７日（火）

午前１０時開議

日程第１	行政報告
日程第２	諸般の報告

（請願審査報告）

日程第３	請願第６０－６号	アフリカの飢餓救援に関する陳情

（選挙）

日程第４	南多摩東部共立病院組合議会議員の補欠選挙について

（選任）

日程第５	下水道対策特別委員会委員の欠員に伴う委員の選任について

（設置・選任）

日程第６	日野市議会昭和５９年度一般会計決算特別委員会の設置及び委員の選任について
日程第７	日野市議会昭和５９年度特別会計決算特別委員会の設置及び委員の選任について

（議案上程）

日程第８	議案第５６号	昭和５９年度日野市一般会計決算の認定について
日程第９	議案第５７号	昭和５９年度日野市国民健康保険特別会計決算の認定について
日程第１０	議案第５８号	昭和５９年度日野市都市計画事業特別会計決算の認定について
日程第１１	議案第５９号	昭和５９年度日野市下水道事業特別会計決算の認定について
日程第１２	議案第６０号	昭和５９年度日野市立総合病院事業会計決算の認定について
日程第１３	議案第６１号	昭和５９年度日野市受託水道事業特別会計決算の認定について
日程第１４	議案第６２号	昭和５９年度日野市農業共済事業特別会計決算の認定について
日程第１５	議案第６３号	昭和５９年度日野市老人保健特別会計決算の認定について
日程第１６	議案第６４号	昭和５９年度日野市仲田緑地用地特別会計決算の認定について
日程第１７	議案第６５号	昭和５９年度東京都市廃棄物処分地管理組合会計決算の認定について

日程第１８　議案第６６号　　日野市立地区センター条例の一部を改正する条例の制定について

日程第１９　議案第６７号　　日野市地区広場設置条例の一部を改正する条例の制定について

日程第２０　議案第６８号　　日野市下水道条例の制定について

日程第２１　議案第６９号　　日野市老人福祉手当条例の一部を改正する条例の制定について

日程第２２　議案第７０号　　日野市心身障害者（児）福祉手当支給条例の一部を改正する条例の制定について

日程第２３　議案第７１号　　日野市児童育成手当条例の一部を改正する条例の制定について

日程第２４　議案第７２号　　昭和６０年度日野市一般会計補正予算について（第２号）

日程第２５　議案第７３号　　昭和６０年度日野市国民健康保険特別会計補正予算について（第１号）

日程第２６　議案第７４号　　昭和６０年度日野市下水道事業特別会計補正予算について（第２号）

日程第２７　議案第７５号　　昭和６０年度日野市立総合病院事業会計補正予算について（第２号）

日程第２８　議案第７６号　　昭和６０年度日野市受託水道事業特別会計補正予算について（第１号）

日程第２９　議案第７７号　　市道路線の一部廃止について

日程第３０　議案第７８号　　市道路線の廃止について

日程第３１　議案第７９号　　市道路線の認定について

日程第３２　議案第８０号　　仲田緑地築造工事請負契約の締結について

（報告事項）

日程第３３　報告第　５号　　昭和５９年度日野市土地開発公社決算の報告について

日程第３４　報告第　６号　　交通事故（日野市高幡２５番地先路上の市の義務に属する事故）の専決処分の報告について

（請願上程）

日程第３５　請願第６０－　９号　無認可保育室の助成に関する陳情

日程第３６　請願第６０－１０号　「国家秘密に係るスパイ行為等の防止に関する法律案」に反対する日野市議会の意見書を求める請願

本日の会議に付した事件

日程第１から第３６まで

午前１０時１１分開議

○議長（高橋通夫君）　おはようございます。本日の会議を開きます。

ただいまの出席議員２５名であります。

これより日程第１、行政報告を行います。市長から行政報告を求めます。

〔市長登壇〕

○市長（森田喜美男君）　6月議会以降、今定例会の間の主要な行政事項について私より３点の報告をいたします。

その１は職務代理者を設置したこと及び消滅をしたことについてであります。

私は、８月８日出発、日ソ親善協会が組織した第４回「日ソ不戦の誓い」訪ソ代表団約150名、７グループの編成、三多摩はヤルタグループ、この「日ソ不戦の誓い」訪ソ代表団に私費参加して、ハバロフスク、キエフ、オデッサ、キシニョフ、ヤルタ、レニングラード、モスクワの各都市を歴訪し、不戦の誓い行動に参加して、旅行目的を果たし、２３日夜、帰任いたしました。

この間、市長の職務代理者に、地方自治法第１５２条の規定に基づき日野市助役を指定し、職務の管理及び執行に支障なきことを期した次第であります。このことについては、２３日、帰任に伴い、２４日付で職務代理を解き、私が職務に復帰いたしました。この間、助役はすべての任務を遂行し、支障のなかったことを本議会に報告をする次第であります。

行政報告第２は各種行政諮問委員会の設置について申し上げます。

市の行政展開に当たって、特に重要な事項を集中審議し、その政策の遂行を期する目的をもって各種行政諮問委員会を要綱によって設けております。本年度の予算に計上し、すでに発足した諮問委員会について、この際、報告をいたします。

第１は日野市行財政調査会についてであります。

日野市の効率的市政運営を期するために別紙名簿の委員を委嘱して、本市の取り組むべき行政改革について、目下調査を進めております。名簿は別紙に差し上げておるとおりであります。

第２は日野市情報公開懇談会についてであります。

本市が情報公開条例を制定するに当たって、広い視野からその基本的理念とまた住民のプライバシー保護のことについて最善を期するために、同じく別紙名簿の専門委員を委嘱し審議を目下進めております。去る８月７日、情報公開制度の基本的理念、また、情報公開制度に関する

主要課題、その他制度化に伴う主要事項について諮問を行っております。１２月中にはその提言をまとめていただくことになっております。

第３は市内バス交通対策検討委員会の発足であります。

市内のバス運行による市民の足の利便について検討を尽くすために設けたものであります。去る８月２７日、市内バス交通の実現方策についてという課題を諮問し、現在、審議が進められておりますが、１０月末には答申が得られる予定であります。

第４として、このたび第５次日野市地域保健協議会、これは５２年度要綱制定であります。この保健協議会に対して、先日、住民の健康保持に資する健康手帳の活用方法と老人医療の無料化に資する方策についての二つの課題を諮問し審議をお願いしたところであります。以上を御報告申し上げます。

行政報告第３は、東京都の予算編成に対しまして市長会の要望についてであります。

このことにつきましては、東京都市長会で各市の要望をまとめ、９月初め、都の予算編成期に先立って毎年行っておるところでありますが、それを本年も行っておるところでございます。本年は去る９月３日、都の各局に市長会が手分けをいたしまして要請活動を行ってまいっております。その内容につきましては、お手元に配付しております資料をもって報告にかえさせていただきます。

以上、主要な行政事項３項について御報告をさせていただきました。ありがとうございました。

○議長（高橋通夫君）　次に助役から報告を求めます。

〔助役登壇〕

○助役（赤松行雄君）　高校用地の都移譲につきまして助役より行政報告を申し上げる次第でございます。

本市が誘致しました都立南平高校の用地造成工事につきましては、昨年５月、工事に着手し相当な困難を処理しながら、すべての工事を終えて施工業者よりこの７月１５日、市の竣工検査を経て受け取った次第でございます。

この用地の東京都への譲渡については、本年３月１８日、東京都財務局と日野市土地開発公社との間で土地売買契約を締結しております。契約内容は、南平八丁目２番の３ほか１筆でございますけれども、山林４万5,６９７.４９平米、実測面積でございます。代金としまして２４

億6,７６６万4,４６０円で、平米単価としましては５万4,０００円に当たるわけでございます。去る８月２日、この譲渡代金の受領と同時に正式に東京都財務局当局と高校用地の引き渡しの事務一切を完了いたしております。

高校誘致の背景に、議会の理解と御支援をいただいた次第でございまして、譲渡の完了を報告申し上げるとともに、厚く感謝申し上げる次第でございます。

以上をもちまして、南平高校用地の造成地の都移譲という工事の完了を報告する次第でございます。どうもありがとうございました。

○議長（高橋通夫君）　収入役以下については報告書のとおりですので報告を省略いたします。

これより行政報告全般について質疑に入ります。夏井明男君。

○１６番（夏井明男君）　それでは３点ほどお尋ねいたします。

一つは、前の、前回の定例会の行政報告だと思いますが、レッドランズ市への非核についての呼びかけということで行政報告があったわけですけれども、その後、このレッドランズ市の対応はどうであったか、どういうふうな反応であったか。非常に私も行政報告のときにお聞きして以来ずっと気がかりでしたので、その辺の状況を御説明願いたいと思います。

それから第２点目としましては、市内の小学校、中学校、高校の非行問題でございますけれども、夏休み中、新聞の報道でも三多摩の方で集団での窃盗事件等も報道されましたけれども、日野市内においてはどういうふうな状況であったか、把握をされていれば教えていただきたいと思います。

最後に南平の、今、高校の譲渡の件について助役から御報告がありましたけれども、この辺について、また詳しくお聞きしたいと思いますけれども、とりあえずこの２点についてお知らせ願いたいと思います。

○議長（高橋通夫君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　御質問の第１点、レッドランズ市に非核宣言の呼びかけを行った回答はいかん、とこういう質問と伺いました。

レッドランズ市から特に公式に呼びかけに応ずるとか、そういう具体的な回答はまだいただいておりません。この夏、レッドランズ市を訪れられた日野市・レッドランズ友好協会、この代表の方が向こうの情報を御承知の範囲でお伝えをいただいております。市民の間で、レッド

ランズ市の市民にどのように伝えられたかまだつまびらかではございませんが、アメリカの市民としていろいろな見解がある。日本の自治体のそのような草の根的非核平和運動に対しまして、かなりの論議があり、また評価もある。そういう範囲でいろいろな市民から意見を聞いた、こういうことが伝えられております。つまり、かなり関心をいただいておる。ただし公式に向こうには議会という形も日本の自治体のような形ではないようでありまして、どのような反応があるか、これからの推移に大きく期待をし、これからも日野市民が行かれる際にそのような意向を伝えて、そうして一つの世論形成が広まることを期待をしたい、このように考えておるところでございます。

○議長（高橋通夫君）　教育長。

○教育長（長沢三郎君）　お答え申し上げます。

夏休み中の事故並びに問題行動、日野市の状況はどうであったかということでございますけれど、全体といたしましては各学校とも夏休み中におけるところの生活指導あるいはクラブ活動、水泳指導、これらの問題に力を入れまして全市的には問題行動というのは極めて少なくて平穏な夏休みを送ることができました。

ただ全くないかといいますと中学校におきましては1校2件ほど平均にいたしますとございまして、内容といたしましては万引きだとか、あるいはバイク等、それからシンナーの吸引、無断外泊、こんなようなケースが1校平均2件ほど各学校にそれぞれ出て、学校としての指導に当たっております。

小学校関係につきましては、そういう問題行動というのはないわけでございますけれど、交通関係の事故、いわゆる車との接触等による左手の骨折事故だとか擦過傷、そんなようなケースが小学校の低学年に2件ほど夏休み期間中に起きております。

逆に新学期が始まってからの方が、この長い夏休みの経過を踏まえて各学校でも対応しているわけでございますけれど、女子の生徒によるところの暴力行為、これに伴う傷害事件等が中学校で起きておりまして、この問題につきましては、学校、家庭協力して個別指導に当たっている、そのような現状でございます。以上です。

○議長（高橋通夫君）　夏井明男君。

○16番（夏井明男君）　それでは、市長の方の御答弁いただいたレッドランズ市への対応はどうであったかということについて今お聞きしたわけですけれども、あれから大分日に

ちがたっております。それで、どういう、要するにこちらの言わんとしている善意がどの辺の程度まで届いたかということはやはり市長も一番気にされているところだと思うわけです。

今の御答弁ですと正直言ってこれからどうであるか、影響ですね、見守りたいというふうな趣旨のお話なんですけれども、やはりレッドランズ市の関係の方がこちらに見えた関係もありますから補足的な説明といかないまでも、こちらの趣旨の文書以外における趣旨をやはり折に触れてお話をされる機会が当然あったろうと思うんですが、先ほどのお話ですと、そういうお話、多少あったというお話ですけれども、一番その辺を心配しているわけで、全く好意的に今こういうふうな形で我々の市も取り組んでおります、というような話が当然呼びかけられた側からも話があって、自然ではないかというふうに思うわけですね。ですから、その辺十分配慮していただきながら誤解されないような形でぜひ取り組んでいただきたいと思います。

私は、この話は地方自治体が国のレベルを超えて、ほかの外国との都市との交流を深めるというのは、もう時代の趨勢ですから、当然だろうと思いますけれども、内容が内容ですので、一たん誤解を生みますと、どうしてもそれがしこりとなって、長期的にはお互いに損なことになる、ということも十分考えられますので、再度お聞きしているわけであります。

一つの提案でございますけれども、例えば、日野市とレッドランズ市における市の状況が、お互いによく理解をこれから深めようということであります。ですから、その土台になるようなことが、さまざま考えられると思うわけであります。例えば、日野市に日野の昆虫とか日野の動物とか植物という本が出版されておりますけれども、大分好評な本というふうに伺っております。そういう本等も日野市の文化活動等を紹介するということでレッドランズの市の方へ図書館等、また各関係のところへも贈呈する運動もされてもいいんではないか。こういうふうな日野市を理解していただく文献等の交流とか、また日野市を代表される方に交流を深めていただくとか、幾重にも考えられますので、そういう点も含めて交流の道を進めていただきたいと思うわけであります。

次に第3点目の話に入りたいんでありますが、南平の高校用地の問題であります。

これは60年第1回の3月議会でも緊急質問ということで小山良悟議員が質問をされております。さらに前回の議会でも古賀俊昭議員、さらに一般質問で名古屋史郎議員が質問をされております。私も何回かこの質問等を拝聴してまして、非常にしっくりいかないということです。内容的にはその理由づけとしてはさまざまあったけれども、工期を間に合わすために、万難を

排して進んでいるんだ、というふうな御答弁に帰着をしているかと思うわけであります。

それで、どういう点ですっきりいかないか、助役の方から担当でございますので、この際、明快に御答弁をいただきたいと思うわけであります。

市の公社を通じての追加支出ということで、１億6,０００万円、いわゆる１億3,０００万ですか、という金額が出されたわけであります。これを財政規模から見ますと、３００分の１ということですけれども、国のレベルで考えてみますと、国の予算を５４兆としますと、1,８００億の金が動いたような形であります。ですから市の財政から見ても、３００億の中の1億3,０００万が動いたということは、非常に重要な大きな問題であろうと思います。それで、この点についてお尋ねをしたいわけであります。

すでに３回の質疑の中で、かなり助役さんの方も顧問弁護士を通じて法律問題等かなり細かく詰められて、その上で対応されているということは、今までも従来の答弁の中で十分うかがい知ることができるわけであります。そういう点を踏まえまして、満足のいく御回答をいただきたいと思います。

まず第１点は、非常に疑問な点は、これは古賀議員への質問回答なんですけれども、鹿島建設との間で、１億6,５００万の工費のところを１億3,０００万円でやってもらう、というふうに契約を結んだとありますけれども、その内容はどういうことなのか、お尋ねをしたいと思います。

○議長（高橋通夫君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　都立高校用地の造成に伴いまして相当困難な幾つかの処理すべき問題があったわけでありまして、結果におきましては、日野市民待望の高校を誘致することに成功した、ということで成果はあったわけでありますが、その過程においての問題点の質問でございます。

助役は開発公社の理事長ということで、直接の責任を持つ立場であります。私は、市の行政対応といたしまして、総括的な指導を行う役目もございますので、この問題の処理について、苦心をし一定の結論をつくった、こういう処理を行っております。工事の造成過程、擁壁のひずみが生じた。これは設計ミスなのか施工ミスなのか、あるいは中間の監督ミスなのか、こういうことが明確になるとよろしいわけでございますが、それらの関係が市の技術指導といいますか、そういう面からも例えば垂直にカットすべきものを傾斜をつけたとか、あるいは裏ごめ

の材料に本来やわらかい砂を使うべきところを現地の発生剤を使ったとか、いろんなことで少々何といいますか、ひずみの原因をつくった、こういうこともあるようであります。

そこで大変大胆な決着ということでございますが、施工した鹿島建設には、そのミスに伴って必要であった追加工事、この部分の2分の1を負担してもらう。したがって２分の１がまだ手元に残ります。そこで設計業者に総工事、総事業料といいますか、仕事をした総額の３分の１をこれまた負担をしてもらう。開発公社が負担をすべきものが5,０００万少々ということになるわけでありますが、これは今後の運用努力によって、運用益を生ませて、そうして帳じりを合わせる、こういう内容でございます。これを法廷の場に持ち出して、責任の所在を明らかにすることも一つの方法でございますけれど、いろいろな事例にかんがみまして、なかなか将来に悔いを残さない処理は難しい。

そこで、私がそれぞれの会社の責任者に面接を、面談をいたしまして、そのような了解を得、決着を一応図った、このようにいたしておりますので、何とぞ御理解をいただき、今後、日野の行政に汚点を残さない、という形で進めたいと思っておりますので、よろしくお願いをしたいわけでございます。

○議長（高橋通夫君）　夏井明男君。

○１６番（夏井明男君）　市長が冒頭に述べられた、要するに困難な事業を進めた、という大枠の評価はしていただきたい、ということは私もそれは評価をしたいと思うわけであります。なぜかといいますと、あそこの不法の山砂をとった跡の、大きな巨大な池ができましたけれども、あれをいつまでも放置しておけば、下の方で相当な災害が起きるというふうな状況がありましたし、それをうまく譲渡を受けて、さらには防災工事をし、さらには高校ということが建つということで大変な御努力があったろうというふうに思います。その目的は、私も十分理解しておりますけれども、しかし、目的は手段を正当化しないということも事実でありますからその手段のその過程ですけれども、非常にこれは、私は起きてもおかしいな、寝てもおかしいなという感じを持っているわけですから、その辺、市民の方も同じような状況があれば、ぜひそういうふうになるだろうと思うんです。

今、最終的な決着の話かな、というふうに思うんですが、いわゆる、ひずみの原因がまず第１点としてはどなたにあるのか。今の市長のお話ですと、設計事務所にもあるし、工事の施工業者にもあるし、さらには市の方にもあるというふうなお話だったと思うんです。その責任の

配分を考えるときに、工事業者に対しては、工事総体の２分の１を負担していただく。そして設計事務所には工事総体の３分の１。そして日野市には5,０００万――公社の方には5,０００万相当というお話ですけれども、これは今までの助役が小山議員に対して、またさらには古賀議員に対しての質疑に対しても、御答弁とちょっと違う。さらには名古屋議員の一般質問において、契約の内容、要するに業者に対する責任の追及の根拠は何なのか、というお尋ねがあったときに、契約の何条ですか、３条ですか、５条ですか、出されて瑕疵責任、瑕疵担保責任ということで対応できるんです、というお話がありました。名古屋議員もそれを聞かれて、安心しましたというお話なんですね。まさか不可抗力ということではないでしょうね、ということを何遍も言われてます。

今までの質疑を通じてきて、今の市長のお話とかなり、かなりというか全然違うわけですよ。今まで議会で答弁されていた内容の推移から考えたのと違う、ということが明らかなんですね。これ、どのように説明されるのか。

私は、今まで３回の質問の中で、助役が答弁されたことを丹念にずっと拾ってきましたけれども、それをもとにして今お聞きをしようとしたわけですけれども、市長のお話ですと、それとちょっと違うわけですね。その点、どういうふうに説明されるのか、ちょっと納得いくように御説明願いたいと思うんですが……。

○議長（高橋通夫君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　ごもっともだと思います。私も、前回の議会の当時までは、法的手段によってでもその責任の所在を明確にし、余計な経費がかかっておるわけでありますから、なるべく市は負担をしない形で責任を業者側に持たせるべきである、このように考えておりました。しかし、状況判断をしてまいりますと、やはり市の技術指導の側にも、悪意ではもちろんないわけでありますけど、正確な設計等でなかった部分もありますし、また施工業者も無理をした面がある。三者三様にそれぞれの責任があるということを判断をせざるを得ない状況に達しましたので、一つの政治解決というような手段であるのかもしれませんけど、三者がそれぞれ責任を分かち合う。非常に無理な面もあろうかと思いますが、技術面で、つまり技術問題で法的判断を求めますと、これは非常に抵抗がある。つまり自分たちはその社の名誉のこともあるかもしれませんけど、現場は現場として、非常に強い責任に置かれておるわけであります。ああいう状況の中でもありましたし、発注をした開発公社側、そのまた技術人には市

の側にもあるわけでありまして、そういうことでよく世上に言われます三方一両損という方法が一番適当である、こう考えて大まかに責任は施工業者に２分の１を持たせる。設計業者に――これは施工業者にはつまり余分に工事をした部分の２分の１ということです。それから設計業者には、これは財政力のこともありますし、一貫して約七、八千万円の工事料――技術料であります。そういう意味でその中の３分の１を負担をしてもらう。市も、というか開発公社も応分の被害を負担をしなきゃなりませんので、そのような措置をとった。今後の努力によって挽回をする、こういうつもりでございます。

○議長（高橋通夫君）　夏井明男君。

○１６番（夏井明男君）　今の御答弁ですとますますわからなくなってくるというのが実情であります。と申しますのは、当然こういうふうな予算の支出になりますと、どなたがどういう法的根拠に基づいて支出をするのか、その場合の後の法的責任はどういうふうになるのかということが当然出てくるわけですね。

それで前の御答弁にもやはり名古屋議員の質疑もあったんですが、私も質問しましたけれども、いわゆる、こういうふうな工事をお願いをしてそれにトラブルしたときに、どういうふうな対応になるのか。類似例ということで、町田ですか、助役が出されましたけど、２市ぐらい出されました。実情は日野市とちょっと違うんではないかというお話も指摘もあったんですけど、私はそのときに助役に、いわゆるこういうふうないわゆる土木に関する業界の不可抗力に近いような場合の扱いについては今までの昔からの沿革上の処理といいますか、そういうものがある。いわば商慣習的なものがあるんではないかというお話をしたわけですね。ところが、そういうことではないんだというお話がありましたし、この間の御答弁の中にも、市の方には責任はありません、ということを言われております。明確に言われております。再三言われているわけです。最終的には、いわゆる鹿島建設との間での話し合いはついたけれども、後は設計事務所との交渉の中で、１億の負担をしていただくということで交渉をしているんだ。その交渉の根拠については大丈夫か、というお話が再三あったわけですが、それについては十分である。具体的には東京都の指導にも反したし古賀議員からの資料要求にも応じたということで、私は後は向こうの対応の仕方というふうに思っていたわけです。これはもう長い話になってます。これ、３月、ことしの３月から以前から問題になっているわけですから、それをずっとこういうふうに審議をして答弁をしてきて、今、公社の方で5,０００万負担

します、という話をぽっと言われても、よくわからない。こんな奇妙きてれつな話ないですよね。

さらに、これは一番奇妙きてれつな話の一つですけれど、もう一つおかしいのは、その追加工事の1億6,５００万の中の２分の１を鹿島の方に負担していただくんだ、という話がありましたけれども、数字的にも合わないんじゃないかなというふうに思いますし、３分の１とか２分の１というと具体的に金額的にどうなのか、ということもあるわけですね。

ですから前に、設計事務所の方にも言い分はないのか、と私は再三お聞きしましたし、ほかの議員からも指摘があったわけです。いわゆる市の方の、共同作業的な段階で市の方の側にも一半の責任はあったんではないですか、というお話をしましたけれども、ないという御答弁だったと思います。そういう中で、今度はあるんだというお話になっているんですね。

これは、今まで議会に対して正直に御報告なさってはいなかったんではないか、というふうに思うんですよ。（「そうだ」と呼ぶ者あり）設計事務所がやはり全面的に責任があればこんなに膠着することはないなというふうに私は思っていたわけですけど、今まで議会で御答弁されていたことに対してどういう（「とんでもないことだよ」と呼ぶ者あり）つじつまが合うのかですね。どうですか、その辺、率直に……。

○議長（高橋通夫君）　助役。

○助役（赤松行雄君）　私の方から御答弁申し上げたいと思います。

今までの経過の中で、いろいろと鹿島にも折衝を持ち、日本技術開発の方とも、いろいろと答弁してまいりました基本的な姿勢ということで、交渉を進めてきておるわけでございます。鹿島の方と私が交渉した段階では、１億6,８００万円の大体現場対応としてぎりぎり出血できるのが２割というようなことで、さっき数字が議員さんの中にも出てまいりましたけれども、１億6,８００万円の２割引きというようなことで、１億3,５００万円の数字が出てきておったわけでございます。これは私の段階での、要するに交渉でございます。

それから日本技術開発ともやったわけでございますけれども、日本技術開発との交渉の中では、全然責任を認めない。要するに瑕疵を認めないというふうな状況の中で、誠意を示せというふうなことにつきましても、３００万程度の要するに、これが誠意だというふうな交渉の結果になってきておるわけでございます。

その中で、責任の所在ということで、ぎりぎりの交渉をしてまいりますと、鹿島にしましても日本技術開発にしましても、市長の答弁の中にもございますように、その会社の社会的な今

後の責任というか、あるいは仕事の受注関係に及ぼす影響とか、いろんな深刻な問題があるようでございます。これはこの２社に限らず、どこの会社も同じようでございます。そういうふうなことから交渉がこじれる、あるいは解決のめどが立たないというふうな事例がいろいろあるようでございます。近い、要するにこの南多摩の市の中におきましても、責任ということだけを重点に置きまして、要するに交渉し、議会が百条調査を発動して、さらにそれに加わってやったところが、とどのつまり、一切の責任を業者の方に責任をとらせるというか、責任の所在が不明確になりまして、それでとどのつまり、一銭の負担も業者からは取り得なかった、というふうな事例等もいろいろ聞いておるわけでございます。

そういうふうな事例もございますので、現実的な最大の負担を求める、という交渉に切り変えてきたわけでございます。これについて、奇妙きてれつというふうなお話があるわけでございますけれども、さっき申し上げました、私が報告してまいりました、要するに御報告申し上げましたことについては、おっしゃるとおりでございます。そういう姿勢でいろいろ交渉した結果、いろいろと反応がございました。その反応や、今申し上げましたほかの市の例等も参酌しまして、方向を変えたわけでございます。もちろんその間には、交渉の中で市の方の技術畑の方からのこういうアドバイスもあった、あるいは、こうしろという指導もあった、というふうな新しい事実等も出てまいったわけでございますので、それらが市長の報告になっておりますので、その点については、前々の助役の報告と大分違うという仰せでございます。そのとおりかもしれませんが、現実的な対応あるいは現実的に最大の業者の努力あるいは出血を求めた、という点を御評価いただきたいと思うわけでございます。

今までの経過を踏まえて、要するに方向が変わってきたわけでございますので、何とぞその点の御理解をお願いしたいと思います。

○議長（高橋通夫君）　夏井明男君。

○１６番（夏井明男君）　今のお話は一応お聞きしておきますけど、納得はできません。そう言っても進みませんので、それは決算委員会もありますし、そこで詳しくもう少し突っ込んだ話を聞きたいと思います。

今、市長のお話を前提にしますと、もう少しその辺の説明をしておいていただきたいんですが、まず鹿島さんとの追加の中で１億6,５００万の、今、８００万というお話がありましたが、１億6,８００万の工費の中で、鹿島はそれなら１億3,０００万円でやりましょう、ということ

ですね。それで、そうしますと、あとの1億3,０００万を、あとの3,５００万ですか、これは日野市が飲むのかなというふうに考えたわけです。あとの1億は、助役が再三答弁されているように、設計事務所の方に請求をするというふうな契約になったんだ。ですから鹿島との間では、鹿島は責任の一半を認めて、追加工事の契約を結ぶときに鹿島の方でも3,５００万ですか、についての責任は負いましょう、というふうな決着を見たというふうに、この間の古賀議員の質問に対しての答弁で、そういうふうに理解したわけです。あとの1億については、設計事務所の方に負担をさせるというお話になったかと思います。

それから名古屋議員からの質疑に対しての瑕疵責任ということですが、責任ということであれば、これは無瑕疵責任ですね。無過失になるわけですよね。無過失責任だと思うんですね。ですから不可抗力よりも、ちょっと責任が軽くなるぐらいで、過失責任じゃありませんから、そうしますと鹿島が責任を認めて、3,５００万については飲みましょう、というふうな形をとれば、一つの工事に向けて、設計事務所と建設会社が、一つの工事原因に対して同じような原因として働いたということですから、競合してますから、連帯責任みたいな形が法的には出てくるだろう、というふうに私はそのときに読んだわけですけれど、この間の御答弁ですと、もしもそういう形になれば、設計事務所は何で鹿島さんの方に3,５００万で、我々に1億なのか、というふうなことが当然出てくると思うんですね。こちら側の工事をお願いした方で、どちらの方に責任を追及するかということについては、連帯責任的なことが強ければ連帯債務ですかね、連帯債務に近いような形であればどちらの財力の、資金力のあおりの方に追及しても可能なわけですね。

ですから、私はそのときお聞きしようと思ったのは、今お聞きしようと思ったのは、そういうふうな法的なところを、恐らく顧問弁護士の方と詰められた上で決着をされているのに、どうしてこういうふうな決着をしたのかな、ということが非常に私は最大の疑問だったんですけど、もしも、そうであるとすれば、設計事務所が納得しないのは、これ当然なんですね。ですから、当然その延長線では、裁判にもなり得るんではないか、というふうに読んだわけですけれど、そのときの論法の土台は、いわゆる公社側といいますか、市の側の工事にかかわるときの責任段階で、全く責任はなかったというふうなことを土台にして、私は進めてましたから、今のお話ですと、責任はあるということなんですね。それが非常によくわからないんですね。

それで今市長がおっしゃった2分の1、設計事務所に3分の1ということですけれども、金

額的にはどのぐらいの金額になるのか。それから鹿島建設との追加契約の中で、その契約がまたさらに変更することを鹿島の方としても飲んでいただいたのかどうか。それからさらに市長のおっしゃった内容で、設計事務所の方も大枠として決定を見た、というふうな御報告なのかどうか、という点をお尋ねしたいと思います。どうでしょうか。

○議長（高橋通夫君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　この決着は、これはたまたま助役の病気の検査中という約2週間の期間でもございましたし、むしろ私の責任において処理をやった、こういうふうに御理解いただきたいと思います。

それで、御不審の解けないのは、これはまたごもっともだというふうに思いますから、あらゆる資料においての御検討はいただいて結構でございますが、高校は用地をとり移譲して来年は開校される。その高校用地の造成で、日野市の土地でもない場所に残る精算上の問題を、いつまでも法廷の場等でそれぞれが主張する。私は大きい得策ではない、このような個人判断かもしれませんけど、考えました。高校用地に汚点を残さないということが、一つには日野市の行政のために大切だと思いますし、それから今言いました要するに、設計ミスか施工ミスか、あるいは中間の指導ミスか、こんなことをそれぞれ言い分はあるわけでありますけど、それぞれのまた該当者としてはあろうかと思っておりますけど、これを総括、総合いたしまして、やはり多少不審は解くのに時間がかかるかもしれませんが、責任を持って業界業者に言い含める。鹿島さんは終始大きな事業を手がけて、そしてなお高校建築まで担当しているわけですから、本来ならば、そっくり持ってもらってもいいけど、それじゃ担当者の立場がなくなるでしょう。そういうことを考えますと、大きく言ってつまり積算金額、つまり勉強して3,０００万円引いたというんじゃなくて、積算金額の半分を、これをお持ちください。そうすると約8千数百万円になるわけでありますから、そういう額をひとつ背負っていただく。それから設計業者の方には、これは日本技術開発という日本でも一流のコンサルトもできるし、その工事の指導もできる。このように期待をしていたわけでありますけど、例えば、造成の発生土壌、あの土はこれは水を含み、あるいは砕いて空気を含みますと大変な量になる土だということは、本来専門家であれば当然わかるはずでありますけど、それらの計算にもミスがあった。言うなれば、我々の信頼を裏切ったということにもなるわけでありまして、小さな、これは設計会社というのは、資本的には小さいところですから、おのずから限度もあるかもしれません。しかし、最大

限のやっぱり一番大きい部分の責任は設計にある。たまたま、その造成工事の作業中に現場の斜面の切り方を設計どおりしなかったとか、あるいは裏ごめの山砂を現場のものを使った。それから施工業者の鹿島にしてみれば、工事を急いだということはあるかもしれませんけど、その擁壁の裏側にブルを入れて、そうして地ならしをした。よく、それぞれ一流の専門家が素人でも無理があると思えるようなことをやってしまったものだ、と私はこのように言わざるを得ないわけであります。

そういうことを総合して判断をいたしまして、追加工事分の積算額1億6千数百万であります、これの半分を鹿島で責任をとってください、設計業者とは市の方で別個にやりますから。そういうふうに伝えました。そうして設計業者には日本一流ということで信頼をし切っていたその業者が、専門家がなぜこのような誤りを犯したんですか。擁壁が薄い。これは一方には面積をなるべく広くとりたい。こういうことも確かに我々の側にあったわけであります。そういうことを重ねて、工事の設計も、あるいは造成結果の擁壁も監督をされる都の行政当局には、これで許可あるいはでき上がりを認めていただいた。こういう結果にもなっておるわけでありますから、後処理としては、ひとつ何とか世間に通用するといってはまだ無理かもしれませんが、こういう処理をすることが、日野市のためにも、あるいは業者のためにもまずまずというところではなかろうか。

日野市側の全く責任のないと言っていた部分につきましても、これは個々の責任云々というよりも、やっぱり雨が降ったとか、いろいろな事情もあったわけでございますので、何とか御了承をいただきたいものだ、このように考えておる次第でございます。

数字上のことにつきましては、後で資料をもって御説明させていただきたいと思います。

○議長（高橋通夫君）　夏井明男君。

○16番（夏井明男君）　時間も大分たちましたので、最後にもう一言お聞きしたいんですけれども、聞きたいというか、お聞きしたいわけですけど、今、裁判で云々というのはどうか、というふうにおっしゃいましたけど、私もそう思います。裁判の法廷の場で出るほど一番拙劣な話はないんで、その前の段階で穏やかにお互いに誠意を込めて話し合えれば法廷の場で出さなくても解決する例は多いわけですから、その辺はそういうふうに努力をするというのは私も賛成ですけども、そうだとしましても、あともう一つ助役の方からそれの別の表現で今政治的解決方法ということも言われましたけども、そういう意味だろうとも思うわけですが、

それにしましても、これ第1点だけ不審に思うのは、私、先ほどちゃらんぽらんと言いましたけど、言葉の表現としてはお許し願いたいんですが、明快なのはつい6月の議会のときに、この契約上の責任の追及というのは瑕疵担保責任でいくんだ。不可抗力的なものはよもやないでしょうね。ありませんと。で今9月の議会ですよ。ですからそれでころっと変わっているわけですね。ですから議会に対して、いわゆる市民の方に公開の説明する場で、6月と9月でこんなに正反対な話ですよ。これが公の場でこの話をされるというその神経が、私にはわからない。契約の延長線上にあれば、そういう含みを持たせて答弁されて当然だろうと思うんですよ。まして行政報告のところで、東京都への高校用地の都移譲ということで、助役が行政報告されているわけですよ。

私はいつも思うんですが、行政報告のときにはいい話といいますか、差しさわりのない話が大体行政報告に出てくるんですけど、行政報告の中でも、真実で大きな問題ということは、行政報告の中で報告されてもいいんだろう、と思うんですよね。そういう、こういうふうな重要な問題は、全然別な情報からもらって、こういうふうに話をするわけですよ。そうじゃなくって、行政報告のときに、この高校用地の、3月のときに、こういうことが実際ありました、という話を先にされれば、一番いやな話といいますか、心配事の話ということはされるべきだろう、と思うんですよ。それをされないでしょう。

今回の助役の行政報告の中でも、このことが、こんな大事な話が行政報告のときに話がないわけですよ。こちらから質問しなければ、このままいっちゃうわけでしょう。その前提がこちらが不審を持つわけですよね。

それにもかかわらず、これは非常に、皮肉で言っているんじゃなくて、先ほど市長は情報公開云々というお話がありました。それについての問題点なんか審議していく審議委員を委嘱、という話もありましたけど、情報公開というのは、あれは政治の世界でも行政の世界でもそうでしょう。できるだけオープンに正直に皆さんに情報を御提供するという、そういう精神からきているわけですね。今のお話だと、行政報告の中でこういう話がない。情報公開の以前だと思うんですよ。片っ方で情報公開進めますと言っても、こんなに重要な問題について一言もない。私どもから追及しなければ、追及という言葉、いやですけれども、話をしなければお答えいただけないという、こういうのが、私は問題だろうと思うんですよ。

そちらの方のことについて、私は、市長御了解いただきたいというんですが、こういうふう

な運び方というのは、御了解いただけないですね。内容について裁判になるかどうか、市の方との競合的な部分があって、というふうな話があれば、率直に話をしていただければ、またそれだけの決断をされるんですから、ほかの事故の類似例等も研究されて、円満な解決方法の模索をされて手を打たれてきたんだろう、ということは思うわけですけど、しかし、その前提がそういうふうな進み方でやってこられると、やはりこちらでも何かあるんじゃないかになるわけですよ。余りにもひどいと思いますよ。６月のときに答弁されたのと、今市長の答弁と全然違うんですから。ましてあれでしょう、１億から5,０００万というお金ですよね。これ、国家予算の規模に合わせれば大問題ですよ。

こういうことは、やはりぜひ時間はかかるでしょうけれども、改めていただきたい。正直に、そういう過程があればそういう含みを持たせた答弁で結構だと思うんですよね。そういうふうにおっしゃっていただきたい。そうでなければ今まで議員に対して、何だ、おまえ、自分の答弁に対してどういうことを言ってきたのかいうふうに思われるの当然だと思いますよ。だから名古屋議員がその前の段階で安心をしましたということを盛んに言われていましたけど、あれは安心じゃないと思うんですよ。しっかりそういうふうな道でやってほしいよ、という願いが込められての意味なんですよ。こういう事態が予測されることがあるんで言われているんだろうと思うんですね。

先ほどの、ちょっとあれですけど、要するにもう少し詳しい契約上の根拠とか法的な根拠とか、そういうことについては、決算委員会の方でまた詳しくお聞きしたいと思います。以上です。（「関連」と呼ぶ者あり）

○議長（高橋通夫君）　市川資信君。

○１９番（市川資信君）　ちょっと関連で、今、夏井明男議員の質疑と市長のやりとりの中で、１点私も不審に思う点がありますので、これを市長にただしておきたいと思います。

まず１点は、市長がそれとなく非常にうまい答弁だなと思ったんですが、私の耳にとまったんで、これは一体どういうことなのかをお聞きします。

夏井明男議員が質問の中ですぐに再質問するかなと思ったんですが、聞かなかったものですから、私はその点を聞きたいと思うんですが、擁壁が薄かったかもしれない。しかし、これは設計ミスになるかもしれないんだ。しかし、我々にも面積を広くとりたい気持ちがあった。このやりとりなんですが、これは市長もう１点この点について私お聞きしたいんですが、擁壁が

薄かったかもしれない。これは設計ミスかもしれない。これはどちらかというと、日本技術開発の方の設計に属するものだと思うんですが、もう１点の我々も面積を広くとりたい気持ちがあった。できるだけ面積を広くとりたいということのやりとりの中の言葉は、設計、日本技術開発が全国津々浦々いろんなところをやっていて、こういうミスはまずないんじゃないか。ということは、こちらは１回日本技術開発が示された設計と日野市が指示した設計のやりとりの中で、設計変更とか、あるいは、そういったことがあったんじゃなかろうかな、と今の市長の答弁から受け取れるんでございますが、市長、その辺はどうなんでしょうか。

○議長（高橋通夫君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　擁壁はその強力度におきまして、状況の受ける力に数倍する支持力といいますか、支える力、これは当然だと私は思うわけであります。ですから、中の鉄筋あるいは基礎の組み方、それから厚み、皆支える力にかかわってくるものだと思います。それをまた一方経済的に見ますと、支える一つの許容限度というものがあるだろうと思いますが、そういうことは、つまり専門的に東京都の都市計画当局の出先機関の指導を経て、いずれもパスしているといいますか、あるいは指導に合致している、こういうことは当然あったわけであります。その際に我々としては素人考えで相当専門家が、あるいは施工側も、薄ければ、つまり強度に欠ける計算が出るならば、その設計側にももちろん反論するでありましょうし、防災あるいは防災工事のような場合は、そういうことが技術者の一番力を注ぐといいますか、そういうものだというふうに思うわけであります。

一方に、でき上がり面積、これも用途があるわけでありますから、その用途に支障がない、あるいは面積を著しくふやさない、こんなことも当然だと思うわけであります。

そういう意味のことを素人なりに申し上げたわけでございまして、これはだれそれがというようなことではなくて、当然ああいう丘陵地を造成する際に、だれでも頭にする問題だろう、とこう思っております。

そして、その際、我々も高校用地として譲渡する造成でございますから、堅牢であることはもちろんであります。堅牢、安全はもちろんでありますし、しかも設計上、立派に面積を保って用途にかなう、これが設計業者に、つまり能力に期待するところであります。そういう意味のことを申し上げたわけであります。

○議長（高橋通夫君）　市川資信君。

○１９番（市川資信君）　そうすると、先ほど夏井明男議員が質疑の中で、全く私もあのやりとりはよく聞いておりましたし、なおかつ小山議員――今もういらっしゃいませんが、古賀議員等がいろんな角度で追及する中で、当初は市に責任はない、ということは私の記憶にもはっきりしておりますが、きょうは市にも責任があった、責任があったということを図らずも市長が先ほど言われたわけですね。三方一両損という大岡越前の守の裁きをして決着をした。

そうすると、市の三方一両損という責任の一端、先ほど市長は学校用地、神聖なる学校用地であるので、余り裁判とか何かをしたくない、というようなことを言っておりましたけれども、いわゆる三方一両損の一つの中に、当初日本技術開発がつくった設計、示された設計を変更した。面積を広くするために一部変更したということがあったことは事実だったんでしょうか。

○議長（高橋通夫君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　私は変更というふうな言い方はしてないつもりであります。つまり、そういうことが設計をする際の、あるいは施工する側の意見も、また監督をする直接責任を持つ市の立場においても、安全で堅牢で、しかも必要な面積を保つ、あるいは必要な校舎ができる、グラウンドもできる。こういうことがだれしも考える当然の常識だ、とこんな意味で申し上げたつもりでございます。

○議長（高橋通夫君）　市川資信君。

○１９番（市川資信君）　設計変更までとは言わなくとも、そういうやりとりがあったということは事実なんでございますか。

○議長（高橋通夫君）　助役。

○助役（赤松行雄君）　日本技術開発、いろいろと経験してございます。日本住宅公団がやはり全国的にいろいろと技術的なマニュアルを持っている。建設省のやはり技術指導というマニュアル、こういうふうなものの上に立って設計しておるわけでございますけれども、市の方で彼らの設計したものについて、市の技術陣が検修し、その検修にパスしておるわけでございますけれども、市の技術陣が日本開発の要するに設計したものについて、とやかくは言っておりません。こちらの方でいろいろ再計算などはしておりますけれども、それについて擁壁を薄くしろとか、そういうふうなことは、全然注文はつけておりません。ただ、日本技術開発は、日本住宅公団だとか、あるいは建設省だとか、そういう技術的な蓄積の多いところの要するにマニュアルというものを基礎にしまして、それで日野市の設計にかかった、こういうことでございます。

その中で日本技術開発が我々に言うには、非常に結果的に、我々が擁壁がはらんだ、目違いが起きた、こういうことについて、擁壁が余りにも薄かったんじゃないかというふうな事後指摘をしたことについては、そういう技術的な蓄積のあるマニュアルを参考にしてやったんだ、ということと同時に、やはり設計業者だから経済的な仕上がり、要するに工費を幾ら使ってもいいんだ、あるいは幾ら使っても丈夫なためには、幾らでも擁壁を厚くするというふうな考え方じゃなくって、やはり設計といえども要するにこれだけの厚さにしましたのは、経済性も考え、これでもつという確信でやったんだ。こういうことを言っておるわけでございまして、日技の方から、我々が薄かったんじゃないかと事後指摘したことについては、そういう答弁が出てきておるわけでございます。薄かった部分ということについては、事故が起きてから、はらみが起きてからの要するに日本技術開発と市とのやりとりでございます。

それから、面積もたくさんとりたいということについては、任意の技術開発からの要するにこういう設計をしたという背景としての説明でございます。

○議長（高橋通夫君）　市川資信君。

○１９番（市川資信君）　どうも歯車がかみ合わないようですので、ちょっと言いっ放しになりますけれども、６月議会のやりとり、また今、夏井議員のやりとり等踏まえた中で、６月議会では全く市に責任は当初なかった。今日は市も責任がある。先ほど言ったような理由かどうかはわかりませんまれども、図らずも、今助役の答弁と市長の先ほど言った、いわゆる擁壁が薄かったかもしれない。これは設計ミスに入るかもしれない。しかし、我々も面積を広くとりたい気持があったために、我々にも責任があったんだ、というようなことをやりとりすると、今の助役の答弁、必ずしも一致、合致、市長の答弁と合致しないわけですね。

当然そこにミスがはっきりここに出て、食い違いが出ているわけですね。都の指導に合致する中でやっているんだ。いわゆる擁壁が設計側にも市側にもその責任がきょうはある程度あるんだ、というような言い回しですから、私はおかしいなと思って質問したわけです。

ちょっと最後に１点、その工事関係とは関係ないんですが、先ほど都の契約２４億６千何がしですか、日野市が当初１７億何がしで買って、この間の金利それから造成工事費、今日までかかった補修工事費も入れて総額幾らになったでしょうか。

○議長（高橋通夫君）　助役。

○助役（赤松行雄君）　南平高校の敷地を４万5,０００平米でございますけれども、造成するについての総額というのが、３６億かかっておるわけでございます。そのうち道路関係、４路線ございます。これが１２月議会で議決していただきました大里１号と、それから９月議会の、この議会でお願いしてございます南平３２号、３３号線、こういうふうなもの、藤三郎とございます。これを含めますと、これがこの中に含まれているわけですけれども、 約３億4,０００万円でございます。それから２万3,０００平米の土地が残っておるわけでございます。これが７億4,０００万円でございます。ですから金利を入れまして、高校にかかったお金は大体東京都からいただく２億5,０００万という程度で落ち着くわけでございます。「「２５億」と呼ぶ者あり）２４億、２５億ですか。そういうことでございます。

○議長（高橋通夫君）　市川資信君。

○１９番（市川資信君）　今雑駁な助役の答弁で、当初助役が言われた金額３６億に今の金額が達しませんので、これは後ほどで結構ですから、ひとつ資料で提出をしていただきたい。要望して終わります。（「関連」と呼ぶ者あり）

○議長（高橋通夫君）　古賀俊昭君。

○１８番（古賀俊昭君）　関連をして質問をいたします。

今の南平都立高校用地の造成工事のミスについては、きょうはたまたまお二人の監査委員の方がこの市議会会場にいらっしゃるわけですが、監査委員の方の耳目を集中するに十分価値のある内容だと思います。よろしくお願いをしたいと思います。

私が６月議会で、この土どめの擁壁がせり出して目違いが起きているということについてお聞きしましたときに１億3,０００万円の工事代金については、私は多分日野市が待つような結果になるのではないか、という危惧を申し上げました。助役は問題のないような打開策を講じるということをお約束なさったんですが、結果的には今回のような結末を迎えてしまったわけで、私の危惧が当たってしまったわけです。

今のやりとりをいろいろ聞いておりまして、具体的にそれぞれの会社が負担をした金額、これがはっきりしませんので、日野市開発公社の方で、土地開発公社で負担をした5,０００万円ということはわかりました。鹿島建設は、それでは追加工事の２分の１を負担をするということであれば、具体的には幾らなのか。設計業者であります日本技術開発株式会社、こちらの負担については、総事業費の３分の１というお話でございますが、金額は具体的には幾らか教えておいていただきたいと思います。

それから６月議会のやりとりの中で、名古屋議員の一般質問で明らかになったことでありますが、今回の造成工事、これは、日本技術開発と土地開発公社の間で契約を結んで行われた工事であります。造成工事、実施設計のほかに、工事管理の委託また土壌の汚染調査もあった、ということでございますが、問題は造成の実施設計が正しく行われていたかどうか。その責任を市は追及をするということで、助役の御答弁もあったわけです。その中に、日本技術開発側には、保証人として株式会社千代田コンサルタントという同系列の会社がある、というお話がございました。今回のこうした事態が発生した場合に、この保証人として名を連ねております、いわゆる契約の中に登場してまいります保証人については、何ら負担はしていないのかどうか、お尋ねをいたします。

それから市の顧問弁護士等に相談をし、市の負担というものは結果的にはないように努力をする、というお話でございました。その中で、契約の中にうたわれております瑕疵担保のことが、一般質問の中で出たわけです。第５条と第１２条の説明がございました。これらの条項を適用いたしますと、もし市側にミスがないということであれば、そう難しい話ではないのではないかというふうに私は思いますが、顧問弁護士等の意見がそうであったのかどうかわかりませんが、結果的には、この契約書に基づいた保証というのは日本技術開発側からは得られなかったわけです。顧問弁護士、日野市が抱えておられます法律の専門家の意見が最終的にそうであったのか。市長が最終的にはこういうふうに決断をしたのか、その点、二つ目お聞きをいたします。

また日野市が5,０００万円── 開発公社が5,０００万円負担するということでありますが、こうした工事ミスによる損害を5,０００万円負うということは、日野市側、つまり土地開発公社にもミスがあったということを認めたことになるわけです。平たく言えば、担当した職員に業務上の職務を遂行する上で、職員の方に責任があったとは私は思いませんが、結果的には職員に対して何か責任を暗に認めるような、職員に責任があったということを認めたことにもなると思うんです。具体的に日野市の責任というのは何を指すのか、もう一度お答えをいただきたいと思います。

それから先ほど東京都と、いわゆる譲渡の契約がなされたという報告がございました。面積についてちょっとこれを確認をしておきたいんですが、去年の１０月５日の全員協議会で、私

どもに土地使用貸借契約書というものが示されました。これは東京都教育委員会と日野市土地開発公社の間で結ばれた土地の使用貸借契約書であります。この契約書の中で、地積といたしまして実測面積が書かれております。面積は２万5,９５２.７９平米となっております。ところが、先ほど助役が御報告なさいました都に譲り渡しました面製は２万4,５６９でしたが、少しここの数字に開きがあります。この数字の開きはどういうことなのか説明をお願いをいたします。

それから、この三者間で、つまり鹿島、設計業者それから土地開発公社の間で造成工事のミスにかかわる追加工事、それぞれ負担をすることを決めたということでありますが、何か協定書か確認書のようなものを取り交わしておられるかどうか。それがもしあれば、資料としてちょうだいをしたいと思います。

以上、御回答をお願いいたします。

○議長（高橋通夫君）　助役。

○助役（赤松行雄君）　私の方からお答え申し上げたいと思います。

まず鹿島の負担でございます。市の方の設計金額が１億6,８７６万円でございますので、これの半分ということで8,４３８万でございます。当初、私が鹿島と交渉しましたのは3,０００万程度の土木分、内での努力ということで3,０００万程度の鹿島の協力というか責任というか、得られなかったわけでございますけれども、さらに市長の強力な交渉をいただきまして8,438万、こういうことでございます。日本技術開発は総体の３分の１ということで2,771万4,000円、こういう数字でございます。これを合計しますと１億1,209万4,000円、こういう数字が現実の解決、ぎりぎりの最大の努力ということで求めてきたわけでございます。

それで千代田のコンサルタントというのが保証というふうなことになっておるわけでございます。もちろん日本技術開発の方では年間の、要するに収益ということが非常に説明を聞きますと微々たるものでございます。経営上の大きな問題のようでございますので、これらの提携会社と十分に交渉して、相談している、こう思っておるわけでございます。

それから弁護士の方でございますけれども、弁護士といろいろと現実的な日本技術開発と、あるいは鹿島との交渉の結果等を報告しております。それから夏井議員さんのところで御答弁申し上げた近隣市の中で議会の百条調査というふうな発動までして建設会社、設計会社から、議会、執行部両方協力してやったけれども、やはり責任の追及というふうなことになりますと、

なかなか解決しがたいというふうな事例等も調査してもらい、こちらでも報告した結果、現実的な対応ということが示唆されて、こういうことになっておるわけでございます。

日野市の責任は何を指すかということにつきましては先ほどから市長が御説明申し上げておるわけでございます。地山を直に切るというふうなことについて、３５度で切るというふうな現場指導をしたとか、これらについては、当初大きな砂利穴があったときの地層というものが、土炭というものが表面に大きく出ていたわけですけれども、切り進むにしたがって、土炭よりも砂層の方が地層の構造として、砂層の方が非常に多くなってきたというふうな面から、市の方で、やはり３５度に要するに切らないと、要するに労働基準法上の事故が発生するというふうなことで、直に切った場合にはどうしても土どめ工事をしなきゃならんわけなんですね。土どめ工事をすると、やはり１億なり２億なりの新たな金がかかるということで、市の技術陣の方で要するに斜めにどうしても切らざるを得なかった。要するに土どめ工事の砂どめ工事の費用を回避するためには、どうしても３５度に切らざるを得なかった。こういうふうな不可避的な問題もあるわけでございます。これについては、市の責任といいますか、現実に掘り進んだところが、土炭の層よりも砂層が多くなっちゃって崩れやすい状況になった、ということでやむを得ないような状況もあるわけですけれども、日本技術開発の方とのやりとりの中では、日本技術開発は我々の方としては市の要するに技術陣の、要するにその場その場での指導があったからやったんだ、というふうなやりとり等があるわけでございます。

裁判になれば当然その点のお互いのなすりっこというふうな状況が出てきそうな状況のことでございます。その状況を市の責任というわけじゃございませんけれども、そういう状況であった、こういうことでございます。

それから面積を、正式な面積が４万5,６９７.４９平米と御報告申し上げておるわけでございます。御指摘がございましたように前の報告と多少違うかと思います。前のは、今御報告申し上げて、行政報告申し上げた数字は実測の数字でございます。それで前の数字は、私、実測で申し上げておりましたけれども、全体の中からスケールアップした数字だそうでございます。前に私が報告しましたのは、実測と報告しておるようでございますけれども、用地課長に聞いたところが、あの６月議会で報告した、私がした報告というのは、全体の実測図の中から、４万5,０００というのはまだ日野市の方に土地が残るわけでございますので、それは東京都に譲るものだけを実測してませんでしたので、スケールアップでやった数字で多少の違いが出てく

るんだ、こういうことだそうでございます。

これは本当の話でございますので、そのように御理解願いたいと思います。その点は訂正させていただきたいと思います。（「大分違うの」と呼ぶ者あり）いや、そんなに違わないですよ。

○議長（高橋通夫君）　古賀俊昭君。

○１８番（古賀俊昭君）　私がお聞きしたことで三者の施工業者、それから設計業者、土地開発公社との間で今回の費用分担を決めたということについては確認書のようなものが存在するかどうかということをお聞きしましたが、その御回答がございませんので、お願いいたします。

○議長（高橋通夫君）　助役。

○助役（赤松行雄君）　鹿島とは契約の中で8,438万というふうな契約で、1億6,800万円ですか、あの工事の実際の数字の契約は今申し上げましたような数字で契約しておるわけでございます。

日本技術開発ともきちんとした、おっしゃるような契約でやっていきたいと思います。要するに契約の取り交わしを行う、こういうことでございます。よろしいでしょうか。

○議長（高橋通夫君）　古賀俊昭君。

○１８番（古賀俊昭君）　契約の取り交わしをこれから設計業者と行うということで、まだ交渉の段階にあるということですか。どうなんでしょうか。

○議長（高橋通夫君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　代表権を持つ副社長と言われる方が、私との面談で、了承いたしましたというふうに答えられております。あと事務的な処理は、今進めつつあると思います。

○議長（高橋通夫君）　古賀俊昭君。

○１８番（古賀俊昭君）　ちょっと幾つか再質問いたします。

今のお話、最初の夏井議員とのやりとりから市川議員と含めまして、これはまだ設計会社とは最終的な金銭の授受というのはまだ行われていない、ということであります。いつごろ最終的な合意に基づく―― 市長が当事者で交渉されるというのは随分おかしな話だと思うんですね。地主さんは土地開発会社でありますのに、市長が話を詰めておられるということもちょっと不

自然だと思いますが、少なくとも契約ということであれば、時期も明示されていると思いますので、その時期についてもう一度確認をいたします。

それから、この5,０００万円については、日野市が負担します額は日野市の一般会計からの持ち出しということになるのか。つまり土地を持っておりますのは、工事を行いましたのは土地開発公社であります。土地開発公社というのは、自分のお金というのは持ってないわけですね。土地を購入する場合には、銀行からの借り入れで行っているということからしますと、この5,０００万円は一体どこから出ていくのか、ということをもう一度お聞きをしておきます。

それから、私はこういう場合には、裁判を恐らく顧問弁護士の方はやっても勝てるという見通しを多分お持ちだったのではないかと思うんです。つまり、今、市の責任について助役がいろいろおっしゃいました。いわゆる傾斜をして切らないと、労働基準法上のいろいろ問題も出てくる。安全対策ということで土どめをする必要が出てくると余計にまたお金がかかってしまう、というようなことをおっしゃいました。しかし、この設計を請け負った日本技術開発の設計図を見てみますと、ちゃんと斜めに最初からなっているわけです。垂直のものを斜めにした方がいいということを、もし市の職員の方が現場でおっしゃって現地で変更がなされたとすれば確かにその職員の方の発言というものが、設計変更をもたらしたということで市が責任を負うということも出てくると思うんですが、もともと設計図は斜めになっているんですよね。6分の傾斜で設計図は上がってきている。

今助役がおっしゃったことと、その垂直に山を切るということを市の職員が斜めに変えたのであれば、もちろん責任ということは出てくると思いますが、最初から斜めにもうでき上がって設計図というのは上がってきていますから、今おっしゃった理由というのは、ちょっと私理解できないんですが、その点をもう一度お尋ねをいたします。

それから裁判云々ということを今ちょっと言いましたが、この契約書がきちんと日本技術開発株式会社との間に土地開発公社が取り交わして、先ほどちょっと触れましたが、第5条では、工事が完成をして検査をするときに、工事ミス等があれば、その時点で費用を相手方に求めて、市はその工事のやり直しを命ずることができる、というような条項になっています。１２条は、それから以降6カ月以内に発見された同じような目的物が、要するに瑕疵があった場合、工事ミス等があった場合には日野市が指定する期限までに補修しなくちゃならない、ということになってますから、市の方に何ら後ろめたいものがなければ、当然この条項をもって裁判をやれ

ばそう難しい長期にわたる裁判というようなことは考えられないのではないかと思うんですが、私、ちょっとその点おかしいと思いますので、弁護士の方の判断はどうだったのかですね、先ほどちょっとお聞きしたんですけれど、御回答がございませんでした。お願いをしたいと思います。

それから市長が三方一両損ということをおっしゃったんです。これは損害を受けている当事者が考えることじゃないんです。つまり裁判等に訴えて和解の勧告なり話し合いを同時に進める場合も多々あるわけですから、その中でお互いにこの程度の負担をしなさいということで、第三者が三方一両損ということでアドバイスをするならば、これは納得できます。しかし、こちらが何ら負担をするいわれはないと言っていたものを、当事者がまずみずから三方一両損で話をまとめました、というのは随分おかしな話だと思うんですが、市長はそうお考えにならないかどうかですね、お聞きをいたします。

○議長（高橋通夫君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　日野市土地開発公社は、形といたしましては日野市の公共用地を先行取得するために特に許されて設けておる法人格の団体であります。しかしながら、それを含めて総括的な行政責任あるいは内部指導するのも、これも市長の大きな責任である、というふうに私は自覚をいたしております。したがいまして、当事者ではありませんが、当事者という１歩離れて見ますと三方が成り立つ、このように思っております。

○議長（高橋通夫君）　助役。

○助役（赤松行雄君）　前後しますけれども、設計図のことでございますけれども、確かに設計図、斜めの設計図もあるわけでございます。当初からということじゃございませんで東京都の西部建築指導事務所から許可をいただいているのは直切りでございます。直切りでやるんだ、ということでしたけれども、さっき言いましたように穴があいた直前の地層というのは土炭の層が多かったわけでございます。切り進んでまいりまして、砂層が多くなったというようなことで、許可いただいた時点と大分砂の構造が変わってまいりましたので、市の職員の方も直切りだと砂どめの工事を１億なり１億5,０００万かかると言ってました。工事をやらないと、要するに事故が起きちゃう。その費用を安くするために６分にする指導をしたわけでございます。ですから当初は直切りで許可を受けております。こういうことでございます。これは間違いございません。

それから5,０００万はどこからというのは、市の方からお願いするつもりはございません。開発公社ができましてから、いろいろと毎年多少の蓄えもございます。これからの要するに運用益等で埋めてまいりたい、こう考えておるわけでございます。

それから弁護士さん、さっき言いましたように、いろいろと私たち相談してまいりました。相談してまいりましたけれども、やはり、さっき申し上げましたとおり、町田も近くでも例がございました。これからすぐ近くの市の中学校用地の造成でも例がございます。稲城砂層というふうなところで、やはり多少こういう例があるようでございます。不可抗力というふうなことは申し上げませんけれども、こういう事故が起きやすいような状況でございますけれども、それらの建設会社、設計会社との要するに負担のあり方というもの等を見てみますと、そっくり事業主の方が負担したものもございますし、それから、議会がいろいろと御心配いただいて百条を発動して議会と理事者とが一緒になって追及したけれども、結果、責任を追及し切れずに、結局表立った争いになりますと、１銭も取れなかったというような例もございまして、いろいろと検討していただきました。そういう例から、やはり現実的な対応を負担をぎりぎりから求めた方がいいだろう、というふうな視野でこういうふうな今日やっておるわけでございます。

そういうふうなことで、市の方の責任というか現実対応の中で、やはり設計会社との責任の問題ではなすり合い等も出てくるわけでございますので、現実的な対応として、ぎりぎりの、できるだけの負担を求めた、こういうふうなことでの解決でございますので御理解をいただきたい、こう思うわけでございます。

○議長（高橋通夫君）　古賀俊昭君。

○１８番（古賀俊昭君）　ちょっと市の方の責任ということについては、私は大変職員の方にも重大にかかわってくる問題ですので、はっきりさせておいた方がいいと思うんです。つまり市側が5,０００万円を負担をするということは市にもミスがあったと、土地開発公社側にも何らかの後ろめたさがあるということを認めてしまったわけですので、担当しておられた職員の方の気持ちを私考えますと、いろいろ複雑な思いがあろうかと思うんです。正しく、熱心に職務をきちんと果たしておられたにもかかわらず、市長や土地開発公社理事長等の何とか早く決着つけた方がいいや、というようなお気持ちがあって、認めてしまえ、5,０００万ぐらいということであれば、担当の職員の方は大変なとんだとばっちりを受けたことになるわけです。

つまり市がそれだけの損害を負ったということは、その方にすれば、負わせたということになるわけですので、非常に後味が悪かろうと思うんです。市の認めたその責任と今助役がおっしゃったことについては、現場の職員の方もこれを認めておられるのかどうか、納得しておられるかどうかですね、その点をもう一度お尋ねをいたします。

○議長（高橋通夫君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　責任の追及の仕方ということも大切なことでございます。しかし、状況判断をいたしまして、私は、処理をしよくするためにそのような譲歩をした、というふうに御理解をいただきたい、こう思っております。それなるがゆえに、相手もかなり何といいますか、言いたいところはあったようでありますけど、大局的に処理に応じたということでございますので、ひとつこの点の決着ということを御了承いただきたい、こう思っております。

○議長（高橋通夫君）　古賀俊昭君。

○１８番（古賀俊昭君）　私、まだ続けてお聞きしようと思ったんですけど、市長の方から今挙手をされて発言されましたので、続けますが、私、先ほどお聞きした中で設計業者、つまり日本技術開発との間で、これから金銭のいわゆる造成工事のミスについて、それにかかる工事代金のやりとりがあるわけですね。まだそれは履行されていないということですが、いつごろそれが行われますかということについては、御回答がございませんでした。回答をお願いいたします。

それから、先ほど助役が御答弁なさったんですが、面積についてですね、若干違うんです。普通、契約書をつくる場合には、きちんとその当該物件の具体的な内容というのは書かれるわけですね。使用貸借について地積の実測面積として２万５,９５２.７９平米というのが出ているんです。これがどうして、いざこれに基づいて譲り渡すということが、この土地使用貸借契約書では決められているにもかかわらず、いざ譲渡されるときになると、面積が減少したのかということをお聞きしたので、もう少しわかりやすく説明をしていただきたいと思います。

結末については、非常に私、不満ですし、それから職員の方について考えますと、やはり自分たちとしては、私、何も聞いてはおりませんが、少なくとも市側のミスを認めるということについては、不本意じゃなかろうかと思います。特に設計図を見てみますと、ちゃんと斜めになっているわけですね。都の指導云々ということがありますが、都の指導を受けて設計会社が

設計をし、それを商品として日野市に、市じゃない、公社に売ったわけですね。公社はその商品である設計図を買ったわけですから、その設計図には、きちんと最初から斜めになっているわけですから、垂直云々という話がここで出てくるというのは、ちょっとわからないんですね。あわせてもう一度説明をお願いいたします。以上です。

○議長（高橋通夫君）　理事者答弁、助役。

○助役（赤松行雄君）　設計図のことでございますけれども、さっき申し上げたとおりでございます。斜めの設計図は市の方の職員からアドバイスがあって作成されたものと思います。

それから、当初まずいろいろ設計に入る前に東京都の西部建築指導事務所へこれは日本技術開発が、市の職員は１人も行っておりませんけれども、日本技術開発が行きまして、あそこの土地の造成についての基本的な話をし、その中で許可を得たのが直切りでございます。これは間違いないんだ、これ、一番最初ですから。おっしゃる斜めというのは、後でかかれたものだろうと思います、当然。とにかく建築指導事務所との一番最初の建築確認の許可というのは、直切りで出ているわけですから、これはもう間違いもない、これは一番先にあるべきことですから、こういうことでございます。ただ、切り進んでいった段階で、要するに砂層の状態が変わってきた。直切りでいったんでは、直切りを守るためには、土どめの補強工事、矢板を打ったり大変な工費がかかるということで市の職員の方は６分に指導せざるを得なかったわけですね。こういうことでございます。これはもういろいろ御不審をいただかれても事の順序はそうなんだから、これはいたし方ない。

それから平米でございます。平米の方もこれは契約を結んだんじゃないんですね、最初のは。契約を結びましたのは、今さっき申し上げました４万５,６９７.４９平米で、きょう行政報告した数字で東京都の財務局の用地部と契約しているわけです。また、これ契約する過程の中で、大体さっき言いましたように４万５,９５２.７９平米という数字は大体、大体といっちゃ悪いですけれども、スケールアップした数字できたんだそうでございます。だからスケールアップでございますので実測と多少の違いが出てきた、３００―― ２百幾ら平米ですか、出てきたわけでございます。

いろいろ御不審が、御不審があろうかと思いますけれども、そのとおりでございますので、ひとつ（「資料か何か」と呼ぶ者あり）後で資料を差し上げます。用地課長の方からとりまし

て、はい・・・。

○議長（高橋通夫君）　古賀俊昭君。

○１８番（古賀俊昭君）　私が再三お聞きしているんですが、日本技術開発株式会社との間で確認書のようなものを取り交わされて、その費用を負担してもらうのはいつごろになるんですか、ということについては全く御回答が、3回目ですけど、これをお聞きしているのが、ありませんのでお願いします。

○議長（高橋通夫君）　助役。

○助役（赤松行雄君）　用地課長の方で事務折衝を今しておるわけでございます。今、即答できませんけれども、早急に用地課長の方からその間のいきさつを聞きまして御報告申し上げたいと思いますので、きょうのところはお暇いただきたい、こう思います。（笑声）間を置いていただきたいと思います。

○議長（高橋通夫君）　古賀俊昭君。

○１８番（古賀俊昭君）　日野市が負担をする5,０００万円については、大変私、重要だと思います。要するに、市が責任を認めるということですから、その設計図がどうであったかとか、東京都の指導云々ということも、ここで私はっきりさせておきたいと思うんです。

私がいただきましたその設計図には、斜めにかかれているんですね。設計会社がこれは発注した工事じゃないんですね。日野市土地開発公社が発注した仕事なんですね。設計会社は何をしたかといえば、市から頼まれて図面をかいてもらいたいということで、図面をかき設計図を仕上げて、それを商品価値のあるものにして、土地開発公社に売ったわけですから、その設計図がもし直切りであったものを、斜めにやったというのであれば、市の指導で、直切りであったものを斜めにしたということであれば、当然責任が発生してくると思います。しかし、私が、６月議会で日本技術開発株式会社が市に提出をした設計図を、この工事ミスの当該箇所について資料をお願いしていただいたのは、最初から斜めになっているんです。だから直切りであったとおっしゃるのは、それは都の指導の段階では、直切りにするとこういうことが派生的に工事がまた出てきますよ。いろいろそういうお話があったと思います。直切りにした場合の、いろんなもろもろの施さなければならない工事と付帯工事等が出てくるというのは、それはあるでしょう。

斜めにすればこうですよ。いろんなケースを想定して指導があったと思いますが、結果的に

日野市が受け取った、買い取った実施設計書は斜めだったんじゃないんですか。

直切りであったものを斜めに担当職員の指導で設計図がいつか変わったんですか。どうなんですか。

○議長（高橋通夫君）　助役。

○助役（赤松行雄君）　先ほどからお答えしているようなことで、改めてまた追加してお答えすることはないわけでございます。一番、東京都の立川にございます西部建築指導事務所へ日本技術開発が持ち込んだ話と許可を受けたのは要するに直切りで、要するに許可を受けている、こういうことですね。

ですから、造成工事の許可が直切りで受けているわけですから、当然直切りで進めなきゃならんわけだけれども、直切りでやっていくと、その後で切り進んでいったところが、一番最初は結局土炭、土炭という要するに粘土層の土が多かったわけで、切り進んでいきますと砂層が多くなった、砂層が。それで市の方で要するにそういう設計変更をあるいはさせた、こういう段取りだと思います。

○議長（高橋通夫君）　古賀俊昭君。

○１８番（古賀俊昭君）　西部多摩建築指導事務所の、多分これ開発行為で山地の造成とか、そういう許可をする担当課だと思うんですね。そこが許可をした内容は、いわゆる垂直切りであったということでしょ。それで許可をしたものを、設計会社はその許可を受け、設計会社はそれを打ち合わせをしているにもかかわらず、設計図として日野市に―― 土地開発公社に提出をしたものは斜めだったと、（「斜めじゃないよ、直切り」と呼ぶ者あり）斜めだったということであれば、日野市は全く5,０００万円を負ういわれはないわけですよ。（「そうじゃない」と呼ぶ者あり）

あれだけの大規模な、ダム工事現場を思わせるような大規模工事について（「言われたとおりやらなかったんだ」と呼ぶ者あり）設計図を変更すをような、設計を変更するような技術指導が日野市の職員の方で自信を持っておできになるという方が、私、いらっしゃったんだと思うんですね。

設計図は最初は斜めなんですよ、私がいただいているものは。（「それは後」と呼ぶ者あり）ですから直切りであったものを斜めに市の職員のアドバイスでやった。その結果、ゆがみが出てせり出したということであれば、日野市にも責任があるということはわかりますよ。そのよ

うに助役がおっしゃったんですね、市の責任の考え方については。しかし、設計図は斜めなんです。斜めに工事が行われている。

日野市に負うべき責任は何もないんじゃないんですか。日野市が負わなければならない責任というのは。

この図面は、私が６月議会でこの件を質問しましたときに要求をして、この擁壁工事について問題点が指摘されたのでそのときに私が要求をして、いただいたものなんですね。６月にいただきました。これは違っていますか。

○議長（高橋通夫君）　助役。

○助役（赤松行雄君）　ことしの６月いただいた設計図ということで、それが違うとかということじゃございません。設計の基礎的な部分としまして、やはり監督官庁の許可を受けるべき、要するにところでございます。そういう許可等が基本になって設計が行われるわけでございますので、当初の許可の条件というのは、もちろん日本技術開発の方から経済的な方法あるいは土炭層が多いというふうな安定地層というふうな考え方だったんでしょう。直切りという話で持っていったようでございます。その直切りで許可になってきておるわけでございます。これは何よりもかによりも一番先に必要なことですね。許可を考えずに、勝手に設計図を引いても許可になるだろうかということになるわけですので、許可なり許可をする監督官庁との協議というのが、一番大事でございます。一番最初に来る問題でございます。そういうふうに御理解いただきたいと思います。

お手元にございます、要するに設計というのは、その後、現場対応として、市の方でやはり６分の傾斜にしないと大変だ、というふうな指導のもとにかかれたもの、こう考えるわけでございます。以上でございます。

○議長（高橋通夫君）　古賀俊昭君。

○１８番（古賀俊昭君）　私は、６月議会の資料要求の中で要求してまいりました内容は、日本技術開発株式会社が日野市土地開発公社に委託をされて、その結果として、公社に提出をした設計図の当該箇所について要求をしたんです。はい、出しますよということでいただいたわけです。ですから、今助役のお話が正しいとすれば、別にうそをおっしゃっているとは思いませんが、正しいとすれば、これは垂直に設計図はなっていなきゃいけないわけですよ。ところが、これは斜めになっているんですよ。説明がつかないと思うんです。だから、垂直に

設計されている設計図が、この市役所の中に、またどこかに存在するんですか。どうなんでしょうか。

○議長（高橋通夫君）　助役。

○助役（赤松行雄君）　垂直の設計図というものはあるかどうかは私も確認しておりませんけれども、当初、建築確認の要するに許可というのは、直切りで受けているわけでございます。後で、そういう担当の職員から御説明をさせたいと思います、その点の経過については。

ですから、お手元の設計図というのは後々の設計図だろうと思います。この造成工事での設計というのは、一番最初は、一番最初は高校の、高校の造成工事ということでスタートしたんじゃなくて、一番最初は、あそこの要するに防災工事という形で一番最初はスタートしているわけですから、多少そういう形態の違いはあるわけでございますので、一番最初からその設計図があるわけじゃございません。一番最初には、監督官庁との相談が一番先にあるわけですから、その点についての説明は担当者からまたいたさせますので、その点については御理解いただきたいと思います。

○議長（高橋通夫君）　古賀俊昭君。

○１８番（古賀俊昭君）　どうも納得ができないんですね。改めて担当をいただいている職員の方から説明をさせるという助役のお話でございますので、これは質問を留保しておきたいと思います。

それで、もう一度重ねて私の考え方を言っておきますが、私は日本技術開発が市に―― 土地開発公社に提出をした設計図を６月議会でお願いしていただきましたが、これがそのものだと、私、それだと思ってますよ。しかし、助役は今そうじゃないんじゃないか、というようなことをおっしゃるわけですね。開発公社の理事長がおっしゃるんですから、またそれも正しいのではないかと思いますが、東京都が垂直にあの工事箇所については、土どめを、工事をやるに際して、防災工事をやるに際して、垂直に山肌を切りなさいと指導した。その指導にもし従わずに設計がなされて日本技術開発が東京都の許可と相反する設計をして、土地開発公社に図面を出したとすれば、日野市には別に責任がないんじゃないんですか。

私は５,０００万をやはり負担をするというからには、日野市には何か不手際があったということを認めたからだと思うんです。いろいろ理由づけはされますが、５,０００万のお金がとにかく出ていくわけです、出さなくてもいいお金が。損害を日野市は被るわけです。ですから、

日野市が何か不手際があったということを認めたということは、具体的に何かということを今お聞きしていく過程でちょっとこんがらがったんですね。わからなくなりました。

担当職員の方が現地を見て、斜めになっているものを垂直とか、垂直になっているものを斜めとか、それはそのお考えを工事関係者におっしゃることは、私はそれは職務上、当然だち思います。しかし、実際にじゃあその担当職員の方の指示で設計図がじゃあ変わったんですか、最終的に。どうなんですか。

○議長（高橋通夫君）　助役。

○助役（赤松行雄君）　実際の工事は6分で進められてきておりますので、都の指導からは変わったわけでございます。東京都の指導を無視したということじゃなくて、その間には日野市の方も日本技術開発の方も、東京都の西部建築指導事務所には現状の説明をして、御理解、指導の方向を変えていただいたというか、御理解を要するに了解をとってる、あるいは指導を変えていただいた、こういうことでございます。

○議長（高橋通夫君）　古賀俊昭君。

○１８番（古賀俊昭君）　東京都が指導を変えたということは、当時の、当初のこの工事の最初、垂直に山肌を切りなさい。工事に際してはそういう許可条件を示したわけですね。その後、東京都が指示を変えたということは、斜めでもいいということを設計会社に言ったんですか、日野市及び開発公社及び設計会社に対して。東京都がそのように許可条件の変更を行った、ということに解してよろしいんですか。

○議長（高橋通夫君）　助役。

○助役（赤松行雄君）　現場の対応ということで、要するに建築指導事務所の了解をとった、こういうことでございます。

○議長（高橋通夫君）　古賀俊昭君。

○１８番（古賀俊昭君）　それでは、最初に日野市土地開発公社が日本技術開発株式会社から受け取った図面を私もう一度、私はこれがそれだと思っていたんですけど、そうでもないようですので、それをいただいた上で、もう一度この質問をさせていただきます。議長、それをお認めください。お願いいたします。

○議長（高橋通夫君）　古谷太郎君。

○６番（古谷太郎君）　時間がありませんので、簡単明瞭にお聞きいたします。

今お話聞いてますと、非常に数字的に、小学校の生徒でもわかることがわかんなくなってきちゃった。今ね、東京都へ４万5,６００平米譲ります、残地が２万3,０００平米です。これは、エンタープライズだか何かから買ったときの実測の面積です。そのままです。それはそれでいい。しかし、それじゃあ谷野さんの家だとか平　歳治さんだとか平　駒吉さんだとか、あの周辺の地主さんから買ってグラウンド用地につけた、その土地の面積はどこへいっちゃったんですか。数千平方メートル買いましたぜ。２００や３００の違いじゃないんだよ、これ。足し算なんです。何でもないこと。

最初、鈴木独歩さんがエンタープライズに売って、プライズが何かして市が買った実測面積は６万８千何百平米だったでしょう。そうでしょう。それだったら、それで谷野さんたちから買った土地が約3,０００平方メートルよりちょっと多いかもしれない。そういう足し算しただけだって、君、７万何千平方メートルですよ。７万平方メートル。どっかへ飛んじゃったのかなと思うんですが、飛ぶにしても2,０００平方メール以上の土地が飛ぶということは余りいいことじゃなく、大変なことです。これが第１点。はっきりしてもらいたい。これも足し算なんだ。聞いててわかんなくなる。

第２点は、毎年毎年２億数千万円もの市民の税金を土地開発公社の方へ繰り出している。これは事務費だとか測量費だとか、いろいろあるでしょう。金利、特に金利。

本来この公社は市が使う土地を先行取得するのが原則なんです。こういう場合は異例ですが、今5,６６６万4,０００円というお金を公社が出すんです。こういうお話です。それは後でもって穴埋めをうまくやります。穴埋めに使われる金は一般会計からの繰り出しなんです。余っている金があったら、一般会計から繰り出しちゃいけないんです。また余る方がおかしいんです。

公社というのは１坪１０万円で買えば３年後に市に売る場合には１０万円プラス金利ですというのが原則ですが、金利は今のところ日野市は一般会計で負担してますから１０万円は１０万円で売っています。そうでしょう。これみんな税金なんです、これ。今余っている金が幾らかあるかっていうと繰出金を下げなさいよ、税金の繰り出しですから。

そういうふうなどんぶり勘定、公社に出た金は幾らどんぶり勘定でも構わないんだ、というふうな感覚が三方一両損の中に流れている。いつでもそうだ。市長が根本的にどんぶりだから。監査委員もしっかりやっていただきたいんです。

それで、その点でこの計算をしてみると、３６億円です。ところが、これはもっとたくさん

かかっているんです。

南平用水、排水路だってそうです。この学校をつくんなきゃそんなにあわててつくんなくったっていいんです。今、君は苦労してんだろう。川崎街道から、あれから上の方へ西の方へ延ばす水路をつくんなきゃしようがない。あの買収が手がつかない。そうじゃないんですか、助役さん。そういう費用も１銭も入ってない。関連道路だけはちょっと入れたということなんです。残地は全く、これ、緑地として使える、まあ林として使えるかもしれないけど、ほかの用地には使えない断崖絶壁、断崖絶壁の土地ですから、これは、これもやっぱり平均して７億4,０００万で評価したと、こう言っているんですが、それでもなおかつ税金の損害は、東京都が２４億6,０００万で買ったとしても、この土地自体にかかっている純粋なる費用というのは、だれがどう考えても２７億円かかっている、以上かかっております。その資料を出してもらいたい。

そうすると２億数千万円は税金の持ち出しであります。もちろん税金が日野市は豊かで余っておりますから、そんな金は幾らでも構いません、高等学校ができたからいいじゃありませんかと、こういうことは説明するかもしれません。しかし、２６市の中で、あるいは、まあいい、２６市の中でです、市の税金を使って都立高校を誘致したようなところはどこにもない。これだけは明記してもらいたい。

日野市においてもそうです。日野高等学校の誘致においても１円も使っておりませんし、かえって日野市は提防周辺の整備をしてもらいました、東京都に。日野台高等学校でもそうです。市民の税金を使って都立高校を誘致したところは戦後ないのであります。戦前はありました。

今後の課題になるのは、私どもは東京都の施設あるいは国の施設を誘致する場合に、幾ら税金をむだにつかってもいいんだ、市民の。という生易しい考え方は避けるべきだろうと思います。この点について、市長の考え方を教えてもらいたい。第１点は道路がどっかへいっちゃった。

第３点聞きますが、東京都の建築指導事務所のいわゆる防災指導です、これは防災工事の指導です。これは垂直で許可をしております。これは私も聞きました。いつの間にか斜めになって、いつ許可をとったか。変更許可をとる必要があります。個人の家でもそうです。建築確認をとる。その建築を変更した場合に、する場合には、建築確認の変更の許可をとらなきゃならない。２回目の許可をいつ入れたか。あるいは、なあなあで、どういうふうにやったかしれませんが、防災工事の防壁の変更許可をいつとったのか。第１回はいつとり、第２回はいつ講じたのか。こんなことは当たり前のことです。そういうふうに明快に助役さんが言ってくれればだれも疑問が起きない。

だから第１点とすれば、市民の税金を5,６００万のこの赤字補てんにも充てるだろうし、また東京都と日野市の開発公社のかかった費用の差額２億円、２億数千万円、これも繰出金で補うというのは当然であります。僕は補っちゃいけないと言っているんじゃないんです。今回はもうできてしまったこと、まあまあできてしまったことだから仕方がない。仕方がないんじゃいけないんですけれども、まあ仕方がないけども、今後のことを考えると空恐ろしいような気がするんで、今申し上げているんです。

今、その面積の問題、それからつい許可を、用途会計の中の、金が余っているって、どうして余ったのか。そんなことあり得ないことです。市長も言ったんですよ。この5,６００万円の市の払う金は穴埋め、公社の会計の中で穴埋めしますって言ったでしょ、市長は。だから、そういうどんぶり勘定的な感覚が一番日野市の会計を毒しているわけです。遺跡調査会だってそうなんです。すべての問題が、刑事訴訟中に鈴木独歩さんと買収交渉を始める。こんないろんな問題がみんなこれらの不明朗な独善主義といいますか、これがその辺の不動産屋さんがやっているんならわかるけど、わかんない。もう少しはっきりしてもらいたい。

一応、その三つだけ答えをお聞きしておきます。あと、このくらいにしておきます。（「議事進行」と呼ぶ者あり）

○議長（高橋通夫君）　助役。（「議事進行」と呼ぶ者あり）秦　正一君。

○２６番（秦　正一君）　大分時間たっているんですけど、古谷議員の質問のさなかですけど、ここで休憩をとって、さらに正確な答弁と、また資料を提出してもらいたい、休憩中準備して。そのために休憩をお願いしたい。（「賛成」と呼ぶ者あり）

○議長（高橋通夫君）　お諮りいたします。議事の都合により暫時休憩いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（高橋通夫君）　御異議ないものと認めます。よって暫時休憩いたします。

午後０時２９分休憩

午後１時４３分再開

○議長（高橋通夫君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

それでは古谷太郎君の質問に対し理事者の回答を求めます。市長。

○市長（森田喜美男君）　休憩前の古谷議員の質問の中の第１点目、公社の資金、公社の活動する資金はという件について、私の見解をお答えさせていただきます。

日野市土地開発公社は、御承知のとおり日野市の行政が求める必要な用地を先行取得の手段によって行政の進展をやりよくする、こういう機関でございます。そして、その原資になる、原資を担保する財源は、すべて公金に由来する、借りも貸しも公金が源であるということは、全くそのとおりだというふうに私も存じております。

数、相当数の土地を、ある場合に確保し、ある場合に市に提供をする、こういう役目をここ１０年に及んで務めてまいりまして、一定の成果、そうして行政のこの人口急増の非常事態の折に大きい役目を果たしまいりました。建前上、一個の別の法人格もまた性格も持っておりますので、独立した予算並びに決算、これらを経ながら所有をいたしております土地物件の管理もいたしておるところでございます。

今回の南平高校を誘致のために果たした役割は、前段におきましては、日野市内に非常に替理の荒廃した状態で、市民の迷惑の源にもなり得る、そういう場所でもありました。したがいまして、災害を今後なからしめるための防災工事も必要だ、とかねがね考えていたわけでありますし、あわせて日野市内に高等学校を誘致するその場所を求めるならば、私はまずあの場所の活用こそ二者、二つの目的を遂行することのできる、そういう場所だというふうにこれまで取り組んでまいりました。

たまたま造成段階、つまり高校用地としての誘致を一段階成功し、そして、その用地の提供のために東京都の当局の依頼に基づいて造成を進めてまいったわけでありますが、その経過の中に、ごく技術的な、当初計画をしなかった部分の追加工事を生むことになったわけであります。

その追加工事の部分に責任の所在、つまり公社自身あるいは工事の設計管理をいたしております日本技術開発、それから施工業者としての鹿島建設、これらのそれぞれの責任のあり方、このことについて苦慮したわけでございますが、私の判断におきまして、後々に憂いや課題を残さない、この際、東京都に渡す土地の中に問題を整理してなくしておくことこそ、日野の行政のとるべき態度だというふうに考えまして、午前中に御回答をすることになりました三者の

処理をしよくするための協議ができ上がり、それによって、今、事態の決着を進めつつある、このように御報告をすることになりました。

土地開発公社の事業の原資につきましては、公金だということももちろんでございますし、また市の負担分、つまり公社の負担分もこれも運用の中で、帳簿の上で処理することは可態でありますし、運用益で処理をするというふうに考えておりますが、余る金も市の金、不足する場合も市の金ということに本来あるべき資金でございますので、そういう意味で、公金とは無縁だというふうなことは絶対に申し上げられないわけであります。ただ処理上、技術的に公社の運用益とすることも可能でございますので、そのようなことを御理解いただきながら、本件の処理を進めてまいっておるわけでございますので、今後もそういう御理解のもとに、もちろん大変すぐれた方式ということではないかもしれませんけれど、やむなき政治的な判断に基づく一つの処理方法として御理解を願いたい、このように感じておるところでございます。以上でございます。

○議長（高橋通夫君）　助役。

○助役（赤松行雄君）　３点の御質問でございました。あとの２点につきまして、私の方からお答えを申し上げたいと思います。

まず最初に、土地の面積でございます。その他の新日本エンタープライズ以外の地主さんから買い求めました土地は、７,４３６平米ございます。地主さんの数にしまして、道路分等も大里１号あるいは田中３２、３３、藤三郎等が入りますので、２５名の地主さんに上るわけでございますけれども、さっき申し上げましたとおり、７,４３６.２２平米、こういう大きな面積になるわけでございます。エンタープライズから買い求めましたものと合わせますと、７万２,９６４.９５平米、こうなるわけでございます。

この土地でございますけれども、先刻御報告申し上げましたとおり、都立高校には４万５,６９７.４９という実測の面積が譲渡、東京都へ有償譲渡ということでございます。そのほか道路関係では３,８９８.６２平米、これが道路関係に活用されるわけでございます。それで、残りました土地が南平高校の東側に位置する土地でございますけれども、２万３,３２８.８４平米というものが残っておるわけでございます。これを全部合わせますとさっき申し上げましたように７万２,９６４.９５平米、こういうことになるわけでございます。内訳としては以上でございます。

それから直切りの変更の許可ということでございます。

詳細に申し上げますと、昨年の５月、工事に着手したわけでございますけれども、その時点では、市の方は直切り、あるいは直切りで許可を受けたんだ、という経過は存じ上げておらなかったわけでございます。ことしの２月になりまして、擁壁にトラブルが起きました。その時点で、そのトラブルの調査過程の中で、日本技術開発が多摩の建築指導事務所の方で当初は直切りで指導を受けたんだということが、そこで初めて判明したわけでございます。それで、その前に、市はその時点で初めて承知したわけですけれども、その前にいただいている図面は、設計の図面は古賀さんの御指摘のように、６分の斜めの図面というものが当初からいただいているわけでございます。先ほどから答弁申し上げているように、我々は２月の末の時点で承知したわけですけれども、もとの順序は、一番最初は直切りで許可があったんだということが６月の末に判明したわけでございます。

そういうふうな経過でございまして、多摩の建築指導事務所と、それから設計会社の日本技術開発との要するに間での直切りの許可、あるいは変更というふうな手続がやられたわけでございます。そういうふうな経過でございますので、そのように御承知賜りたいと思います。

○議長（高橋通夫君）　古谷太郎君。

○６番（古谷太郎君）　よくわからないんだけれども、面積の問題はこれはまたいろいろ後々古賀先生が御質問されていくようです。夏井先生もされているようですが、今の、東京都は防災工事と、これは開発事業ですから、当然許可をとらなきゃできないわけです。ですから東京都知事の許可が必要ですから、この防災工事については、直切りでやりますという申請書を出して、許可をとってるわけですね。だから、私はその許可をいつとったのか、年月日がわかるはずだから。その直切りにするという許可を今度、直切りじゃなくて工事変更したわけですね。そうすると、認可の申請を変更届を出して、その許可を得なければならないわけです。だから、今の工事はいつ許可をとったのか。これ、非常に大事なことは東京都知事にも責任が発生する、大きな責任があるわけです、許可をおろしてあれば。設計事務所は東京都知事の許可なしには工事には、設計事務所としては工事を起こせないわけですから、当然日野市も起こせないわけです。

私は、先ほど高幡の老人ホームを建築許可をとらないでつくって、取り壊しを命ぜられた、ああいう事例と似ているような気がしてしようがない。それがわかれば非常にありがたい。

市長さんにもう一回聞きますがね、政治的解決というのは実に私はよくわかるんです。先ほど申し上げましたように道路用地を先行取得しておいた。坪２０万で買っといた。それを日野市に公社が５０万で売れば、３０万円差額が出るんです。２００坪やれば6,０００万円出ますから、5,６００万円ぐらいの穴埋めはすぐできる。しかし、これはやってはいけないんです。そこで、今すぐやることは、政治的解決、いわゆる暗黒なる解決ではなくて。

公社は5,６００万円、公社じゃありません。日野市は5,６６０万円を負担するんだ、損害金として負担するというんで、一般会計からお出しになったらどうですか。後でまた我々のわからない世界で、あれは政治的に解決しましたというようなことがないようにしてほしいんです。むしろここで思い切って一般会社から5,６６０万円を損害金で出しちゃって、鹿島へ払っちゃった方がよほどきれいなんです。鹿島建設にもう5,４００万払ってあるんなら公社の方へ日野市の一般会計から損失補てん金で5,６００万円入れちゃえばいいんです。金は余ってるんですか、あるんですか、税金が、今。

だから、僕は政治的に我々の議会がわかんなく、忘れたころになって、幾らでもできますよ。公社の方へ払うお金を、少し高く買ってやりやあいいんですよ、市が。土地公社の土地を。そうすれば5,０００万、6,０００万すぐ出ますけれども、やはり、これもやっぱり税金ですから、それならもっときれいにさっとこの際、解決しておくことを希望しておきたいと思うんです。

余り長く私が一人でかかわっているといけないんですが、行政は余り政治的解決というのはやってはいけない。政治的というか、我々のわからない範囲でやるわけですから、公社の公社会計でやるわけですから。だから、ひとつ公社会計じゃなくて、日野市の損失は5,６６０万円です。これは設計のミスによって生じたものです。それから設計事務所は恐らくこう言うでしょう。東京都の知事からもらいなさい、知事が認可したんですから。我々の方は責任があるとしても知事と―― 東京都と同じぐらいでしょうと言うに違いないんですよ。だから、これはなかなか解決が難しいと思う。難しいというより解決しないと思う。恐らく３００万円というのがいいところだと思うんですよ、設計事務所が出すお金は。言ったんでしょ、３００万円って。そんなものだと思う。2,７００万は出ません。

それなら、この際、思い切って政治的解決として8,０００万円を損失金で落としちゃうんです、一般会計で。そうすれば後にこのしこりが残らない。市長はもうしこり残したくないと言ってるんです。大きな過ちを犯しちゃったんだからしようがないんですよ、8,０００万。市民

には、どうも悪かったです。しかし、高等学校ができましたよと、こう言う以外に方法がないでしょう。そのほかにまだ２億ばかり損があるんです、土地代金の損失が。だから、これもこの際、思い切って穴埋めしちゃって、高等学校のことについては、もう一般会計から全部穴埋めしてありますから御安心くださいというふうに、都知事にも言えるようになさったらいかがと思うんですが、これは希望として申し上げておきます。

○議長（高橋通夫君）　助役。

○助役（赤松行雄君）　変更の許可の件でございます。５９年の６月の７日に確認ということで、確認の通知書ということで許可をいただいておるわけでございます。（「それは垂直でしょう」と呼ぶ者あり）はい。これはそういうことでございます。その後につきましては、日本技術開発と建築指示といいますか、東京都の西部建築指導事務所との中でのやりとりでございますので、きょう、連絡したんですけれども、責任者がおりませんので、明確な返事をいただけなかったわけでございますけれども、許可を、直切りの許可をいただいた後で、６分の切り下げになったわけでございますので、その間の関係につきましては、やりとりにつきましては、後刻調査の上で御回答申し上げたいと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

○議長（高橋通夫君）　古谷太郎君。

○６番（古谷太郎君）　ですから今もお金の問題も申し上げたんですが、３億円以内で済むんです、損失金は。だからね。この際、思いきって税金でもって市民にだからおわびするよりしようがないでしょ、これ。穴埋めしちゃって南平高校、都立高校の問題については、お金の面ではきれいになりました、公社にも損害かけてませんという形をとりゃいいんです。

今度の建築確認、いわゆる建築確認と同じなんですよ、防災確認ですから。この変更の認可がいつおりたかということがわかんないくらい、これ、いいかげんなんです。高幡のあれと同じなんだ、福祉センターと。福祉センターもだから取り壊しを命ぜられた。今度の防災工事もあるいは認可がおりてないのかもしれない、あるいはですよ、東京都との間に。変更届をしてないんじゃなかろうかと思う。そうなると防災工事の取り壊しを命ぜられるかもしれないんで、命ぜられなくってよかったと思うんですよ、これ。

だから、そういう意味ではもうあきらめるんですね。難しいですよ、これ。まず夏井先生のように法律専門家がお考えになれば、また別の考え浮かぶと思うけど、もう政治的解決は早くしなけりゃだめですよ。先に延ばせば延ばすほど暗黒、わけがわかんなくなる。もう我々の任

期も半年しかないんですから。その間に今のような政治的解決はできっこないんですから、もう。

だから、ひとつ思い切って損金で落とされるようにして、この際、市民には、しようがないですね、申しわけなかったと言うより。それだけ申し上げておきます。以上でいいです。

○議長（高橋通夫君）　石坂勝雄君。

○２８番（石坂勝雄君）　２点お聞きしたいと思うんですが、１点は市長の行政報告にもありましたように各行政財政なりバスの問題、地域医療の問題、こういう委員が委嘱されたんですが、特に行財政の委員の委嘱に伴って、日野はラスパイレスにしてもまだ自治省なり、そういうところから見れば平均が高い。いわゆる国家公務員から比べると高いという中で、いわゆる委員会がメンバー見ても私、知らない人が多いんですが、一応何ていうんですか、自治省とこういう行財政の改革ということは、何ていうか、指導の何か指導通達だと思うんですが、なされているんではなかろうかという中で、市の独自な考えで恐らく市長がこういうことを設けられたと私は理解しているんですが、どのような方向の中で、いつの時期に、こういう一つの答申、市長に対する答申が出てくるお考えでいるのかどうかが１点。

それから、今の都立南平高校の問題、１点私聞きたいのは、垂直か、いわゆる６分かという問題なんですが、こういう問題を決める前に、恐らく防災なり開発行為の点でやる場合には実質の、あれだけの工事ですから実質の調査を調査をしたのか、しないのかが１点と、しないとするなら、あそこはもう独歩というか、土をとっていて、かなり深く、地層というのはわかっていたんではなかろうか。こういう中で都も、いわゆる都と裁判、都が独歩に対して勧告してやってたくらいですから、いろんな地質というのは後で何かさっきのことの助役の説明だと地層が違っていたんだ、こういうようなことで垂直のものが６分で入れた。その中には、いろんな費用の点、面積の点いろんなことがあるので、いろんな問題が出てきたんだということは私もそれなりの理解をしているんです。ただ、私、今の時代に、日本航空があれだけの大きな事故をやっても、いわゆる天災でない、人災だというようなことが指摘の中で、陸上で、しかも日本の土木技術、いわゆる建築技術の、非常に何ていうか高度の技術を持っている、それはもう設計者なり、しかも天下の鹿島建設がやっていて、私は何か全く初歩的なミスではなかろうか。そういう点では、いわゆるいろんなことの要素があるから市長も政治的な解決だというようなことを言われているんだと思うんですが、そのことに私はいいとも言わないし、ここで指摘するあれはないんですが、

ただ、現実に設計なり指導を監督する都の当局なり、それから鹿島建設が、あそこの地質やそういうことがわからなかったというか、そういうことに対して非常に私何ていうか何としても解せないという問題があるんですよね。

そういう点で、日野の担当に当たる土木の人というんですか、そういう担当者がどういう形の中で日本技術開発なり、そういうルートいわゆる連携をとっていたか。我々素人じゃわからんにしても、私、素人でも実を言うと、何かここらの稲城砂層、これはちょっとこの問題とは外れますが、稲城砂層というのは、何か水道の亜鉛管というんですか、あれが非常に何か腐りやすいんだということで、今度あの亜鉛管を使う場合には、周りに違う土を入れるんだというようなことで、私事で申しわけないが、私の幼稚園なんか普通なら１５年やそこらで腐らないものが、すでに腐っているというのは、稲城砂層の、それに非常に鉄分も含んでて腐るんだ。そういう点では今のビニール管なら腐らないんだというようなことが出ています。それから何かボックスか何かで入れてやればどうだということが出ていますけど、結果論なんですね。

そういう中で、ただ私、南平の高校用地の問題も、余りいろんな、急いだとかいろんなアクシデントはあったかもしらんけど、見方によると何か日本の土木技術、そういう何か水準からいった場合、余りにも直角だとか６分の傾斜だとかということの中で、初歩的な問題じゃないか。そういう中で、そういう調査が行われてやったのか、やらないか、その辺のところを。

あとはもう私も、古谷議員が今いろんなことの名案を出されて、どうだというようなことが出たんで、あえてお聞きしませんが、実に初歩的な問題ではないのかな、ということで残念に思うんです。その辺をいま１回、その辺のことだけをお答え願いたいと思うんです。

○議長（高橋通夫君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　きょうの私の行政報告の第２項に、日野市が今進めております将来の行政改革の展望の方策を求めるために、日野市行財政調査会という専門家の、また諮問の形の検討をやっていただいております。これは、たまたま国も言うところの臨調行政改革という性格は、はっきりあるものと見なければなりませんが、自治省を通じ、また都庁を通じて行政改革大綱いわゆる行革大綱をつくれ、あるいは行革大綱のために行政改革審議会をつくれ、そうしてもう一つはそれを実施するための市長を長とする行政政革推進本部を設けよ、このような、いわゆる行政指導は各自治体にそれぞれ通達という形で求められておる、この事情もあります。しかし、私どものこれが基本的な行政姿勢といたしましては、国に向かって、国

からの指導を受けてそういうことをやるということではなくて、市民に向かって市民に責任の持てる日野市の行政をつくり上げていくんだ、こういう決意の中から自主的また主体的にこの問題に強く取り組んでいく、こういう状況下にあるということでございます。

当面の委員の方にお願いをしております答申は、第１には、中間答申として来年の予算に反映できる、つまり１２月年内あたりを目途に中間答申をいただくこと。それから年度の末あたりには全般答申をいただくこと、このようにお願いをいたしております。何か自治体の経営を窒息するような状態に置く考えは毛頭ありませんが、これからはいろいろと土木面では下水道―― 公共下水道の普及でありますとか、また区画整理による都市整備でありますとか、あるいは国有地の、市内にある国有地の確保でありますとか挙げるといとまないほど大きな事業も、つまりお金の要る事業もたくさんあるかけでありますので、これに対応するためには、やはりスクラップ・アンド・ビルドという言い方をしておりますけど、常に局面が市民ニーズにぴったりと真正面に向いた、そうして財政運営に一定の余裕と見通しのある、こういう行政展開をすることが、今日日野市に置かれておる我々の責任である、このように思っておりますので、そういう態度、観点によりまして、行政改革、日野市独自の、大綱という名前にするかどうかはまだ未定でございますけど、そのような基本、マスタープランをつくりたい、このように考えておるところでございます。またそれを目指して取り組んでおるという状況であります。

それから、今、南平高校用地のことにかかわりまして、その造成の仕上げ段階で擁壁のひずみという、ほんとのわずかなひずみという事故を起こしたわけでありますが、おっしゃるとおり私どもの方から考えましても、つまり一番能力のあると思った業者が、なぜこのような初歩的なミスを犯したんだろうか全く腑に落ちない、そういう気持ちがいたしますし、そのようなことを、つまり施工業者は、仮に設計に対して不信があるとすれば、つまり自信が持てないということであるならばはっきりと物を言うべきではないですか。何か立場上の設計管理業者に指図されたなんてことじゃ、天下の大企業は何のための名誉でありますか、いうふうなことを問うて、全くそのとおりだ、汗顔の至りである。したがって市のおっしゃるとおり責任をとり、このことの処理については市長の申し出をきっかけに反省したいと、このような態度でありました。

設計業者の方は、その能力、財政能力の点に、何ていいますか、その大きな金額をしょうだけの能力がこれはゼネコンとは違うと思います。したがいまして、果たせる範囲の能力、つま

り総工事量の３分の１ぐらいは、主として人件費で成り立つ、能力のある人たちがやれば紙の上でやれる作業でございますから、それぐらいの責任を持つのは私は当然ではなかろうか。こういうことで、責任を持つ方にその意図を伝えまして、回答を得た、こういうことでございます。

確かに日野市の明確でない、そういう責任のとり方はけしからんということも当然おありのことはもちろんでございますが、しかし、これを長く法廷の場で争うということをいたしましても、結論はむしろ後に残さない。高校の設置を祝福するということで、市民に御了解をお願いできる、その容認の範囲ではなかろうか、ということで決断をさせていただいた、こういうことでございます。

○議長（高橋通夫君）　　石坂勝雄君。

○２８番（石坂勝雄君）　　ただ、さっき両方の行財政の問題と、今の南平の学校の不始末の問題で、私、別に意見ということではないんだが、感ずるのは、今回行政報告の中にもある議会に百条委員会をつくってやった遺跡調査の問題にしても、相手方が亡くなって相続云々の問題、それからその後の何ていうか兄弟の云々の、あとの例えば３カ月、１１月になる。こういうようなことで、見方によると、私何か非常に結果から見れば実に何かむだなことをしているというようなことがあるけど、我々議員というのは、やっぱり一つの執行者のチェック機関の機能がなくなったときは意味がないという、こういう議論の場でチェックしていくことが、私、使命だと思うんです。

ただ問題は、その場合、行政の方はわかりやすくやってもらわないと一番困るんじゃないかと思う。そういう面でいけば、ある時期が来れば、きちんとした、やっぱり答えをいわゆる遺践調査の問題にしても、いわゆる南平のその高校の問題にしても、ここの、きょうの何か私都立高校の都に移譲する問題という助役のその報告があるんだから、少なくとも今までの１年有余にわたってもこの問題はかなり議論がされてきているんですから、資料で経緯の中でこうなるんだと、それから特に６月の議会で言われたこと、確かに名古屋議員も一般質問で指摘されたことを見ると、きょうの何か変革が、はなはだしく変わってきているということが大きないわゆる時間を費やしているというか、また当然費やさなきゃならんということになると思うんですが、その点、いま少しわかりやすい、もう最後になれば答えをきちんと出してもらう、こういうことを強く私ども要望しておきます。以上です。

○議長（高橋通夫君）　　谷　長一君。

○５番（谷　長一君）　　先ほどですね、市長が８月８日出発しましたモスクワへの、ソ連ですね、不戦の誓いということで行ったそうですけれども、ソ連に行きまして、どのようなことを行ってきたか、ということをお伺いするわけです。

それはどうして聞くかということになりますと、前にレッドランズに文書を送った。これは姉妹都市であるレッドランズです。それでこれを見ますと、確かにこれは人類共通の願いだということは、平和等がなければ教育も福祉も破壊されてしまうということは、よくわかっているわけです。そこで、軍縮を求める運動ですね、これは人類共通の願いじゃないかと思うんです。市長が出された日野市の核兵器の廃絶・平和宣言都市ということは、確かに議会でも議決したわけです。それで、世界の恒久平和に向けて核兵器が地上から姿を消す日まで、その廃絶を叫び、平和が市民生活の基本である理念に賛同されるよう文書を送達したわけでありますけれども、このレッドランズにおきまして、その趣旨に賛同されて広く市民にアピールをして、それでまたレッドランズがこれに連帯して平和都市の宣言をなされるようにお願いしたというふうに私は考えているわけです。

そこで、その後のレッドランズ市のこの親書を出した対応というのは、先ほど夏井議員が質問なさったけれども、対応はなかったと言いますけれども、そこいらの、そのあたりをもっと深く、そのような市長がレッドランズ市長に送っているわけですから、どのようになっているかというようなことは、今は電話もあることだし、そのくらいの情報は収拾しているのではないかと思いますけれども、その点につきまして、市長のお考え、または事務局におきまして、そのようなことを行ったという事実があったら教えていただきたいと思います。

最初にその２点をお伺いいたします。

○議長（高橋通夫君）　　市長。

○市長（森田喜美男君）　　きょうの私の行政報告の、つまり一時市長の職務から離れて、私費ではございますけど、海外出張をするという期間がございました、その間の職務代理者を設置した。そうして帰任いたしましたのでその職が解消いたしました。こういうことを当然の義務として御報告をした次第でございます。

その日ソ親善協会の訪ソ代表団の募集ということは各支部があって、その支部から印刷物等が日野市にも情報として参ったということがきっかけでございました。たまたま前の議会のと

きに、友好都市であります、姉妹都市提携をやっておりますアメリカのレッドランズ市に核兵器廃絶・平和都市宣言を行っております自治体として、日本の１個の自治体としてお呼びかけをするということは私は信頼をより高める手段だ、こう思ってそのようなことを行いました。

ところが、いろんな見方があるわけでありまして、一番扱いにくい問題を問いかけて、そうして友好関係に水を差すというようなことがあってはならない、ということもつくづく感じました。またアメリカのみにそういうことを求める、その２大核保有国であるソ連にも求めるべきではないか、そのような働きかけをすべきではないか、という質問の中の提起もございました。そういうことで、この機会にということでソ連の代表団の応募に応じたわけでございます。

幾つかの市を歴訪したわけでございまして、こちらで用意をいたしました呼びかけの文書をそれぞれの責任の持てる立場にある方に伝えて要請を行ったわけであります。

不戦の誓いの代表団の行動と申しますのは、ソ連側の各都市には対外文化協会連絡会というような意味だと思いますけど、つまり向こうのあいさつをかりるならば、それぞれ各界においてその都市で指導的立場にある方々がその文化協会をつくられて、それが対外の友好関係に自治体レベルで、自治体レベルといいましょうか、段階段階で応じておる、こういうことのようであります。行って驚きましたのは、不戦の誓い行動、これは何千名の向こうの市民が参集いたしまして、そうして無名戦士の墓という場所だと思いますが、巨大な記念碑あるいは記念広場、これらがつくられておりまして、そこで花輪を贈り、特にソ連は第２次大戦では2,０００万の国民を失ったということでございます。レニングラードでも５０万人の命が犠牲になったというふうなことも伺いました。したがいまして、ちょうど日本側の行動と意義相通ずる関係があったと思っております。

そういう活動を経て、ごく短期間また広い土地の中の点にしか値しない、そのような活動のコースではございますけど、気持ちとしては、目的を達し得た、目的の一端は達し得た、このように意義を感じておるところでございます。

肝心のレッドランズの方からは、まだ、いわゆる回答としての公式なものはございません。私の聞きましたのは、この夏、日野市・レッドランズ友好協会の婦人のあちらで昨年もスティをされた、ホームスティをされた。日野市とまた両市の関係を非常にうまく連携をさしていただいております方の、ことしの夏のレッドランズ訪問中のいろいろな感触あるいは市民との交流という中で、いろいろな考え方は確かにアメリカ側にもあるわけだが、いわゆる草の根運動

というような形で自治体レベルがこのように取り組んでおるということは、なかなか意味のあることだという、そういう話があったというふうに伺っております。

今後、どのような方法が適切かということは十分考えまして、でき得ればそういうことの理解のできる市民関係の交流ないしは意思の疎通を図れば幸いである。これこそ真の世界に共通する人類としての課題ではなかろうか、と私は考えておるところでございます。

今後、なすべきことは多々あろうかと思っておりますけど、自治体の微力の中で、何をするかということをこれからも追究をしてまいりたい、このように願っております。以上です。

○議長（高橋通夫君）　　谷　長一君。

○５番（谷　長一君）　　これは確かに、反戦反核ということは大切なことであるということは私も十分承知しているところでありますけれども、しかし、東洋精神とヨーロッパ精神というのを考えてみますると、非常に大きな差があるのではないかと思うんです。まして、この地方公共団体、都市観というのを見ますと、教育の問題にしましても日本とアメリカとの差というのは非常に大きいんですね。

どうしてかと申しますと、アメリカへ行きますと、まず私がびっくりしたのはレスビアンをやる方を全部集めてある学校が公立で成立しているんです。できているんですね。そうかと思うと、同性愛を行う人がその同性愛同士が一つの学校に行っているんです。そういうふうに、日本とアメリカとは違うんですね。まず、そのあたりを、これ極端なことを申し上げますけれども、相違があるわけなんです。

そのような都市に対して、このような確かに宣言をしたという、反戦反核、この核兵器廃絶・平和都市宣言ということは、もうこれは人類共通の目的であるということはわかっているんですね。しかし、私は形式的に流れるということではなくて、やはり実質をとるということが大切ではないかということを市長に言いたいわけです。これはやはり思想の違うソ連でも同じではないかと思うんです。

その点をこれから、あたりも市長はよくお考えになって、このような行動をしていただきたい、ということを申し上げまして、要望しまして終わります。

○議長（高橋通夫君）　　藤林理一郎君。

○２０番（藤林理一郎君）　　３点ばかり質問させていただきます。

消防委員会のことでございますけれども、ことしの３月いっぱいで、水利という問題を１年

間取り組んでまいりました、消防委員会で。それを市長側の方に提出をしております。この日野は用水、または多摩川、浅川に囲まれまして、非常に水のことについては恵まれた土地柄でございますけれども、その中に火災が発生したそのときに、まだ水に、消火に当たるその地域が水が足りない、こういうような地域が何カ所かございまして、それをテーマとして消防委員会で取り上げ、水利問題というような形で実は防災課を通じまして、市長の手元に提案を申し上げてございます。そのことについて、市長さんの方で、今現在、我々が1年間この問題に取り組んできた問題について、どのように考え、どのように対応しているのか、それを1点お聞きしたいということでございます。

その次でございますけれども、6月の議会に私、一般質問させていただいた中で、公害問題に取り組ましていただきました。この公害の問題について、非常に日野市全体のことについて、私は質問させていただきましたけれども、この一つの日野台二丁目、四丁目、一丁目、この地域についての公害問題についての質問に、この3カ月間の間に行政側はどのようにこの公害問題に取り組んできたのか。そして、どのように東京都また企業側と話し合いを持たれてきたのか。これが1点ですね。

あとの1点は、過日10日、今月の10日でしたか、敬老会、70歳以上の方を新しくできた市民会館、この場所に招きまして敬老大会を催しなされましたけれども、会館の中で実は飲み物それから食べ物一切禁止されているということは、これは私どもが認め、また結構なことじゃないか、このようには考えておりますけれども、何せこの2時間ないし3時間、あの会館の中でいろいろな行事がございまして、そして70歳以上の方たちがあの中で何一つ口にせず、この催しに対して我慢しておった。

私、考えますと、会館の中で飲み物、食べ物、これはやってはいけないということで議会側の方でも、また理事者側の方でも決めたことですからよろしいと思いますけども、ロビーというものがありまして、そして外にあの広い休憩の場所も設けてございますから、その所にお茶の1杯でも差し上げるようなことをなぜ今回はやらなかったか。今までは体育館の、南平体育館ですか、その所でいろいろな飲み物それから食べ物、また記念品を差し上げておりましたけれども、今回に限って、何のことも考えずしてそのままの状態でお招きした方たちをそのまま帰したということで、口癖のように私は大勢の方から聞いております。

そこで予算の関係もあろうかと思います。そしてまた立派な市民会館の中で飲み物、食べ物

出した場合に、下のじゅうたんなりが汚されるというようなことで、一切そういうものが禁止されたとは思いますけども、普通の行事でおやりになるというのは、それで結構だと思いますけども、70歳以上の方の人たちをお招きをした方たちに対しては、お茶の1杯ぐらいロビーまたは外の今何というんですか、休憩場所設けてございますよね、その辺の所にテントでも張って、そして自由にお茶でもお飲みください、というような温かい気持ちを行政側の方で考えられなかったのか、その考えられなかった理由と、そして、これからずっと続けてまいることですから、来年度は何かこのことについて考えがあるようでしたら、それをお聞きかせいただきたいと思います。

この3点について質問させていただきます。

○議長（高橋通夫君）　生活環境部長。

○生活環境部長（坂本金雄君）　1、2点についてお答えをいたします。

まず第1点の消防委員会の答申の件でございますが、過去3年間を見ただけでも消防委員会は非難場所それから非難経路についての答申、さらに消防団の詰所の整備計画について、そして先ほど御質問がございました59年度におきましては消防水利の問題、毎年テーマを決めまして御熱心な協議の結果、それを市長に答申をしております。59年度につきましても、本年3月31日付で藤林委員長名で森田市長あてに答申書が提出されております。

この中身につさましては、消防水利平常時と震災時に大別いたしまして、消防水利が果たして十分かどうか、こういう内容でございます。市内全域を250メーターのメッシュに区切まして、そのメッシュの中に十分な水利が保てるかどうか、こういう御調査をいただき、さらに不足数についての提言をいただいております。

私ども公害防災課内部的には、来年度に向けてこれだけ整備したい、という数を持っておりますが、今後、市長並びに財政部局とも十分協議をいたしまして、61年度予算に向けてこの答申の具現化に努力をいたします。

第2点目の日野自動車の臭気の問題でございます。

6月議会に藤林議員さんから御質問いただきまして、その折に私から、日野自動車は留保工場の指定を受けている。今後、東京都と協議をいたしまして連携を保ちながら必ず調査をいたします、というお答えをしたと思います。お答えの翌日に、日野自動車に文書を発送いたしまして、夏場に付近の民家の窓を開けているような状態のときを選んで臭気の測定をいたしたい、

御協力願いたい、という内容の文書を送りまして、そして測定は７月の２４日に実施をしてございます。環境管理センターという法人に委託をいたしまして、７月の２４日、２地点日野自動車の境界線上の２地点を選びまして、午後２時５５分と３時１４分の２回にわたりまして、測定をいたしてございます。

その測定の結果、測定値が、２時５５分の方は１３と出ております。それから３時１４分の方は同じく測定値が１１と出ておりまして、結果的に申し上げますと、この測定値は大変問題のない測定値でございまして、非常に低い数値でございます。においの質といたしまして、わずかな樹脂系の焦げるにおいがする、こういうような意見がついて、この測定記録の証明書が私どもの手元に来ております。この点につきましては、さらに工場側とも協議を重ね、今後にわたりまして公害の出ないように工場独自の努力もお願いを申し上げ、さらに私どももチェック体制を強めてまいりたいと思います。以上です。

○議長（高橋通夫君）　福祉部長。

○福祉部長（高野　隆君）　第３点の御質問についてお答えをいたします。

過日９月１０日の日に、市民会館で敬老大会を催しました。午前中に800名午後に約1,200名参加いただきまして、福祉関係者皆さんの御協力によりまして、大過なく無事に終了いたしました。

しかし、その中で何点かの反省を私どもしております。その中には御指摘のありましたように、初めての会場使用でございましたけれども、湯茶の接待がないとか、あるいは昨年に実施しましたときにはお土産を差し上げたわけですけれども、それについても実施しなかった。こういう点について、いろいろ御要望等も聞いております。使用禁止ということでの、建物の取り決めの中での私どもの配慮といたしましては、そういう物をお配りしたり、あるいは置いたりすることによって、粗相のないようにという配慮もございましたけれども、実際に実施しておりますときには、会場かなりのども渇きますし、時間も長い関係もございますので、特に湯茶の接待につきましては来年度十分に反省を加えていきたい、改善をするように努力をしていきたい。御指摘のありましたように会場の一隅にでも何とか設置するような努力をしていきたい、こういうぐあいにまた考えておるところでございます。その他につきましてもまた改善をしていきたいというぐあいに考えております。

○議長（高橋通夫君）　藤林理一郎君。

○２０番（藤林理一郎君）　今３点について答弁いただきましたけれども、本当にまじめに答弁いただきまして、ありがとうございました。

できるだけ、このように公害の問題、それから消防関係、そして敬老大会については、ぜひ今答弁していただきましたように、努力していただきたいというふうに考えて、以上で終わります。ありがとうございました。

○議長（高橋通夫君）　馬場繁夫君。

○７番（馬場繁夫君）　１点のみちょっとお伺いしたいと思います。

昭和５８年に東京都の公害の研究所の方から、清掃工場にボタンの乾電池を一つ投入しますと、通常の約３０倍の水銀が煙になって出てくるというような指摘があったわけですけど、そのような経過の中で、日の出町の最終処分地におきまして、地元の自治会と公害に対する協定を結びまして、そういう関係上、日野市におきましても公害を発する廃乾電池、水銀等の分別収拾を行ったわけですけど、それから約１年が経過した状況の中で、ことしの７月におきまして、厚生省におきまして廃乾電池は一般ごみと一緒に廃棄しても危険はない、というような安全宣言が出されたわけでございます。非常に我々も遺憾に思っておるわけでございますけど、また町田市におきましても、昭島市におきましても、そのような厚生省のそういう話があってからも、今後廃乾電池等につきましては、継続的に分別収拾して行っていく、というような宣言もされておりますけど、当日野市におきましても、今後そのような乾電池についてはどういうような対応していく必要があるのか、また厚生省のそのような安全宣言についてどう今後お考えになっているか、についてお聞きしたいと思います。

○議長（高橋通夫君）　清掃部長。

○清掃部長（藤浪竜徳君）　お答えいたします。

厚生省の諮問機関でございます適正処理専門委員会の答申につきましては、我々担当者といたしましても、積極的に取り組んできた関係で釈然としないものがございます。この問題につきましては、内部討議を行っております。

それで水銀につきましては、本来有害物質に指定されてございます。有害物質に指定されております水銀を他のごみと一緒に合わせて処理するということは法の趣旨にも反するというふうに考えております。また厚生省から出されました、いわゆる安全宣言というものにつきましても、環境汚染につながらないという保証はないと考えております。

したがいまして廃乾電池等の有害ごみは、今までどおり今後とも分別収拾を当面続けていく、という考えでございます。なお、したがって引き続き市民の方の協力をこれからもお願いしていきたい、とこのように考えております。以上です。

○議長（高橋通夫君）　橋本文子君。

○１番（橋本文子君）　冒頭の市長報告のところで、行財政調査会が結成されたことと、それから情報公開制度審議会ですか、これらのメンバーを見ますと、女性が１人もいないではないか、とやや疑問を感じておりますので、そのあたりはどのような経過でそういう結果になったのか、お伺いをしたいと思います。その１点でございます。

○議長（高橋通夫君）　関係部長答弁、企画財政部長。

○企画財政部長（前田雅夫君）　お答えをいたします。

ただいま行財政調査会並びに情報公開懇談会の委員の中に、女性が入っていないではないかということでございますが、こういった委員会を設定する場合には、今までも議会の中から青年層あるいは女性を入れたらどうか、という強い要望があるわけでございます。その辺のことにつきましては、十分考慮したわけでございますけれども、結果としては、女性が入らなかったわけでございます。

情報公開の懇談会にいたしましてもかなりふさわしい女性の弁護士がいたわけでございますけれども、ちょっと身体的なことがございまして、除外をしたという経過もございます。それから行財政の調査会につきましては、かなり広く検討はしたわけでございますけれども、適任者がいなかったということでございます。

○議長（高橋通夫君）　橋本文子君。

○１番（橋本文子君）　どの範囲をどのように御調査されて、選んでこられたのか、先ほど女性の弁護士、お体のぐあいが悪い方は、たまたまあったけれども、そういうことでやめたんだ。女性の弁護士もこの広い社会の中にたった１人ということはないだろうと思いますし、本気で女性を、やはりこの世の中、男女半々に暮らしているわけですから、できるだけ幅広い角度から意見を求めるということになれば、やはり女性がいないというのは片肺飛行ではないか、というふうに私は感じています。

かつて一般質問の中でもそのような質問もさせていただいておりますし、たしか板垣議員の方からも出てたような気も、鈴木さんもそうでしょうか。やはり男女両方からの意見が集約されて初めて、その出てくるものが平等になってくるんじゃないかというふうに思います。

幅広い意見を集める意味で、今回このような結果を見て、大変残念に思っているんですが、幅広い意見を集約する意味ではもっと精力的に人を集めて、各方面にわたって調べて、ぜひともこういう審議会なり懇談会なりに欠落することがないように、女性がいないというふうなことがないようにお願いをしておきたいと思います。

じゃあ要望も一緒になってしまいましたが、そのようなところで今後ぜひそのあたりを精力的にお願いいたします。

○議長（高橋通夫君）　古賀俊昭君。

○１８番（古賀俊昭君）　私は先ほど南平都立高校用地の造成工事ミスのことで関連質問し、この質問についても、質問事項を留保しておりましたので、まずそれから始めてまいります。

先ほど、これは簡単にやります。その後ですね、担当の方にちょっと私なりにいろいろ聞いてみたんですが、非常にわかりにくいんですね。つまり市の責任、いわゆる5,０００万余の負担については、具体的に市は何をもって5,０００万を充てるのかという、その点が非常にわかりづらいわけです。

いわゆる擁壁の工事というのは、工作物として、工作物をつくる場合には当然建築確認が要る。しかし、その周りで行う開発行為については、これはまた別建ての東京都との交渉があったというようなことであるようなんです。私が先ほど市の責任の具体的な内容についてお聞きしましたときに、助役は、その垂直と斜め、例の問題に理由を求められたんですが、もともと設計図は斜めでできてきているということで、私が先ほどお示しした日本技術開発の設計図、これ唯一存在するのみで、ほかにはないようです。

この設計図を上げた日本技術開発については、当初自分たちには責任はないということで市が弁護士等を通じて、その補修費について、日本技術開発に補修費の負担を求めた際に、責任はないということで突っぱねているわけですね。しかし、その段階では、ですから日野市に、市当局には土地開発公社には責任がない、という毅然とした態度を貫いておられたわけです。ですから私どもは市の方には何ら過失はない。ゆめゆめ5,０００万円以上の負担をする、というようなことはないだろうと思っていました。ところが、結果的には今回御報告があったように、それぞれ三者で負担をするという結論のようであります。

助役がおっしゃった市の職員、いわゆる市が関与して、何か変更になった部分については、具体的にもう少しわかりやすく、私がわかるように説明をしてもらいたいんです。つまり市の担当者が垂直だ、６分切りだといういろんな議論がある際に、設計会社の意向や東京都の意向とは逆の結論を、結論と申しますか、内容のことを工事現場等、また設計段階で主張されて、それが今回のミスに結びついたということであれば、市にも責任があるということでわかるんですが、設計図は当初６分切りになっていたということで、これを承知で鹿島も工事をやっているわけですね。ですから、もし設計をやった日本技術開発が、自分には設計ミスはないということであれば、それでは工事をやった側に責任があるのかということになってくるわけです。

それぞれ皆責任が少しずつあるということであれば、日野市の責任というのは、一体何なのか、もう一度御答弁をお願いをしたいと思います。

それから負担の問題なんですが、金額ですが、この補修に際して必要な経費は１億3,０００万だ、ということが６月議会で御答弁がありました。１億3,０００万円で補修工事の契約を行ったということでございました。先ほどの分担、負担割合を見てみますと、トータルをしますと１億1,０００万余になるのではないかと思いますが、日野市の負担については5,０００万円ちょうどなのか、5,０００万を上回る金額なのか、この点を確認をしておきます。

それから面積の確認ですが、東京都に有償譲渡したのは実測で４万5,６９７.４９平米という数字を今助役はおっしゃったんですが、これと高校のいわゆる有効面積２万4,０００ですね、２万4,５６９平米というのは、どういう関係になるのか。２万5,０００―― ２万4,５６９平米を東京都に有償でお渡しになったと私は思ってましたが、今の報告では、いわゆる造成区域の、開発区域面積のかなりの部分４万5,６９７.４９という数字をおっしゃったんですが、東京都には一体何平米を土地開発公社からお売りになったのか、もう一度確認をしてその後の質問に入っていきます。

○議長（高橋通夫君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　第１問の、つまり本来ならば必要のなかった若干の擁壁のひずみを、これを補強強化する、その工事がどうしても必要なので１億、積算すれば１億６000何がしの工事を行ったわけですね。それを、じゃあどのように事後処理をするか、ということのその解決方法、これを私は処理がしいいようにさせていただいた。責任の度合いに応じてということは、一応は言いたいところでありますけど、それを追及していると、なかなか法廷で

も恐らくけりがつかない。こういう性質の事件だという判断のもとに、日野市も１歩譲って、そうして処理をやりよくした、ということでありまして、その分がどういう責任が日野市にあったか、ということは私は強くは、むしろ必要ない。つまり処理を完結するための前提条件として、相手の人たちとも何とか飲める状況を提示した。本来ならば、現場技術陣は断じて受け付けないという態度もあるわけですけど、私は、次元を変えて会社の責任、中枢部の方と交渉してそういう大変独断専行と言われる性質の内容ではございますけど、とにかく早くこういう問題は処理をすることこそ賢明である、という判断のもとに行ったということでございまして、日野市の持つべき責任の度合いは、何十何％であったというふうなことは考えておりません。そのように解決の政治的決着と言わざるを得ない理由を説明をさせていただいておるところでございます。

それから第２段の、これは極めて簡単なことでございまして、まず南平の穴のある荒廃用地があった。これを市で確保して防災工事を施すとともに、あわせて都立高校を誘致を目指した。そういうことの結果、用地の買い足した部分もあります。その買い足した部分ももちろん合わせて東京都に今回は移譲しておりますから、それらのプラスマイナスの計算をすれば極めて数字は簡単に出る、こういうふうに思っております。

ただ進入路としての道路あるいは、地主交渉の中で言われたその土地の、余計というより、余計の部分もあるかもしれません。そういうことがございますので、進入路のこと、あるいは排水関係のこと、あるいはその緑化工事などのことにつきましては、私はいずれ市が行政責任において行うべき事柄だ、ということで分離をして、これは市が直接工事として行うのが筋だ、とこういうふうな取り組みでやってまいったところでございますし、また今後もそういうことで、公共事業はお互いの責任のある行政機関同士の信頼と理解のもとにやっていくべきものだ、このように考えております。（「市の負担金額は幾らですか」と呼ぶ者あり）

○議長（高橋通夫君）　助役。

○助役（赤松行雄君）　大体鹿島が負担する、日本技術開発が2,７００万ですか、負担しますと残りは5,６００万。それから日本技術開発に責任がないということは、市の方からアドバイスを受けてやったことなんだから日本技術開発には自分のところには責任がないんだ、というふうに繰り返してきてますけれども、市がやったことなんだから。それで６分に切るということは、６分に切ることによって土量が多くなり、埋め戻しの土量が多くなり、傾斜です

から土圧が余計かかるんだ。直で許可を受けたということは、土量が少なくて直に要するに土圧がかかって、容器にかかる土圧が非常に少ないんだ、というところに問題点があるわけなんですね。

そういうわけで技術開発は、言いわけですけれども、技術開発そのものはやはりはっきりした委託を受けて責任を持って工事をやるわけなんで、市に対してそう軽々に責任を転嫁するもんじゃない、というのが我々の考え方でございますけれども、やりとりの中では市の要するに指導、そういうものを受けたんだからということを繰り返して、おっしゃるようなことを繰り返しているわけですね。そういうことでございます。

それから都への平米でございますけれども、４万5,６９７.４９でございますね。この中にはグラウンドの部分、校舎の部分それから駐輪場ですか、駐車場、（「自転車置き場」と呼ぶ者あり）そういうふうなものが約２万5,０００ですね。そのほかはコンクリのブロックで固めてある所と全然手をつけない自然のままの緑地帯で動物園と隣り合った所までいくわけですね。その合計がさっき申し上げました４万5,６９７.４９でございます。（「２万4,５６９というのは」と呼ぶ者あり）それは校舎と駐輪場でございます。

○議長（高橋通夫君）　古賀俊昭君。

○１８番（古賀俊昭君）　じゃあ、この補修費の負担については、一応これで終わりにします。

面積について、今東京都に譲渡をした面積のトータルが、４万5,６９７ということですね。それで、東京都と以前貸借契約を結んでたときがございますね。造成工事をやるときに。そのときには、校舎面積部分についてだけ約２万5,０００平米を貸借なさったということなんですが、じゃあ、先ほどおっしゃった２万4,５６９平米というのは、当然４万5,６９７.４９の中に含まれると思いますが、どういう意味でこの２万4,５６９平米というのはおっしゃったんですか。この数字は校舎部分のみの面積ということですか。（「そういうことです」と呼ぶ者あり）

そのほかはグラウンドや駐輪場だということですね。これを引けば残りの面積がそれらに充てられる、また植栽等行うという面積ですか。

○議長（高橋通夫君）　助役。

○助役（赤松行雄君）　４万5,０００からただいまの数字を引きまして、残りましたの

はコンクリでブロックで擁壁面を固めてございますね、斜めに。それから、その上が自然緑地がございますね、動物園に開かれた。その部分です。

○議長（高橋通夫君）　古賀俊昭君。

○１８番（古賀俊昭君）　わかりました。じゃあ学校用地、いわゆる有効、何というんですか、校地として、学校用地として有効に使用し得る面積として２万4,５６９平米が数字としてある。残りは先ほどおっしゃったように自転車をとめる駐車場とか、がけっ縁とかいろいろ防災工事やったいろんな所含まれるわけですね。その４万5,６９７.４９平米の譲渡価格が、先ほどおっしゃった２４億6,７００万ということでございますか。（「はい」と呼ぶ者あり）はい、わかりました。非常にわかりづらかったので確認をしました。あとは別の方にお譲りをいたします。

○議長（高橋通夫君）　次に高橋徳次君。（「いや、まだ、これで終わったというか、あとこれから質問に入ります」と呼ぶ者あり）古賀俊昭君。

○１８番（古賀俊昭君）　幾つか簡単にお聞きをいたします。

まず一つは、今少しお話がありましたが、いわゆる市長が熱心にやって進めておられます平和都市実現のための、もろもろの運動についてであります。

ことし８月１日のひの広報に、市長室からという１面のまず冒頭に、市長はこのようにお書きになっております。ことしは太平洋戦争の終戦４０周年、その終戦の一つの動機となった地球上初めての核戦争、広島・長崎の原爆惨禍の４０周忌にも当たる年です。ということをお書きになっております。

私は、これを読みましたときに、新聞記事で読みましたが、ことしの８月の５日、レーガン大統領が、ホワイトハウスで新聞記者に問われまして、４０年前の原爆投下について答えてるんです。その内容と内容が同じなわけです。つまり、この原爆投下によって、歴史上最大の戦争を終結させる努力として行われたものである、レーガン大統領はこう言っているわけですね。つまり、この原爆が投下されたから戦争が終わったんだ。原爆投下を正当化をいたしております。くしくも市長のおっしゃっているこの内容、市長室からの記事を見てみますと、同じことが書いてあるんです。今読みましたとおりです。終戦の金つの動機となった。原爆が落ちたから戦争が終わったんだということをおっしゃっております。

私は、これは原爆で犠牲になられた方を含めて、また悲惨な体験をなさった方がとても容認

できる内容ではないと思うんです。市長は、この広報にお書きになったとおり、原爆投下があったから戦争が終わった。つまり原爆投下を正当化するアメリカ大統領のお考えと私は同じように思うんですが、間違いございませんか。それを一つお尋ねをいたします。

○議長（高橋通夫君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　文章は意を伝えるためにあるものですが、まれに、その意のまた伝わらない、あるいは誤解をされるということもしばしばあるわけであります。

私の意図は原爆は許せない。いかに戦を終結させたという役割があったにせよ、その原爆投下が戦争の手段に使われたということは人類として許されるべきものでないということを強調したつもりで書いております。

ですからレーガンが何とおっしゃろうとそれはそれでアメリカの立場でございましょうし、我々日本人はだれがつくり、だれが指揮し、だれが落とした、そういう一連の経過はあるでありましょうけど、原爆を戦争の手段に使ったということは、つまり戦争というものの本来のあり方を一変させて、人類の全滅すら可能にならしめたということで到底許されるべき戦争の手段ではないということを強調したい、とこう思っております。

○議長（高橋通夫君）　古賀俊昭君。

○１８番（古賀俊昭君）　市長は今言いわけがましく自分の真意とは違うとおっしゃったんですが、自分で市長室という広報に原稿としてお書きになっているわけです。別に秘書課の長谷川課長が代筆してお書きになったものじゃないと思うんです。市長は事細かに御自身でお書きになるそうですから、これは市長の私は本心だろうと思うんです。ここにちゃんと書いてあるんですね。一つの終戦の一つの動機となった。

いわゆる広島・長崎に対する原爆投下というのは、無防備都市に対する爆弾の投下ですから、国際法からも許されない、大変戦争犯罪行為として非難されなければならない行為です。当時のトルーマン大統領も同じようなことを、レーガンと同じようなことを言っております。ところが、日野市長が、平和都市宣言をなさっている日野市長・森田市長さんがそれと同じような内容の記事を広報にお書きになるというのは私は合点がいきませんでした。しかし、市長の本心といいますか、そういう見方をなさっているのかなとも思いましたので、お聞きをしたような次第です。あえてそうでないとおっしゃればそれでも結構でございますが、私はそのように感じましたので、お聞きをいたしました。

次に同じように、もし反論があれば後でなさっていただいて結構でございます。大阪上中学校で行われました署名運動のことについてお尋ねをいたします。

これも核兵器とかかわってくるわけですが、私は大阪上中学校だけの問題ではないと思っておりますが、たまたま大阪上中学校に通学をなさっている御父兄の方からお話がありましたので、ここで教育委員会また市長のお考えをただすわけであります。

大阪上中学校でことしの夏休み前に核兵器全面禁止、廃絶のために広島・長崎からのアピールということで国際署名という文書が、取り扱い団体は東京都教職員組合ということで各生徒に配られております。内容は、核兵器全面禁止、廃絶のために広島・長崎からのアピールを支持し私の名を書き記しますということで、１０名の署名がなされるようになっております。

私は核兵器の廃絶を求める市民の声というのは、どなたにお聞きをしても同じであろうし賛成は得られる、また異論を唱えられる方はないと思いますが、核戦争をなくすためのいろいろ方法論となりますと、その具体的取り組みについては、１８０度全く意見を異にするさまざまな立場の方がいらっしゃるわけであります。

ところが、この署名がなぜ問題かと私が言いますと、これは日本共産党が行っている署名活動であります。ことしの６月の赤旗の号外を私は今ここに持ってきておりますが、ここにこの署名運動のことが記されております。ちょっと簡単な文章ですから見てみます。日本共産党は今皆さんの周りの核戦争を防ぎ、核兵器をなくそうと呼びかけた広島・長崎からのアピール署名運動に取り組んでいます。つまり日本共産党が取り組んでいる署名活動を学校の教育現場において生徒たちに配付をするという行為は果たして許されるであろうかと思うわけであります。

この件について、教育委員会はこの事実を把握しておられるかどうか。また教育現場でのこうした行為というものについて、どのようにお考えになるか、その所見を承りたいと思います。一つずつやってください。

○議長（高橋通夫君）　教育長。

○教育長（長沢三郎君）　お答え申し上げます。

今、古賀議員さんの方から御質問のありました問題につきまして、教育委員会では７月の19日の日にそういうその行為があったということをキャッチしております。

大阪上中学につきましては、特に現在の２年生、来年３年生になる子供たちが修学旅行に京都、広島方面の計画を立てている、それとの関連の中で広島の原爆関係の問題については、非

常に大きな面で事前指導等もいろいろ行われている、こういうように聞かされているわけです。

この平和問題のとらえ方というものにつきましては、確かに今古賀議員さんが御指摘にありましたように、いろんなとらえ方があるという関係から、教育現場の中で、ある面では平和教育という面で先生方が非常に神経を使っている、あるいは場合によっては萎縮している、そういう面もなくはないということも確かに教育現場の中にはございます。今回のこの問題につきまして、先ほど申し上げましたように、職員団体名の署名用紙、これを学校で配付する。平和教育の問題、この問題は平和という観点の中で、確かに重要な問題であり教育していかなくてはならないわけでございますけれど、教育活動というものと組合活動、このけじめはきちっとつけながら対応していかなくてはいけない。こういうことで、今職員団体名の入った署名用紙を、非常に何と申しますか、不注意に子供たちに配るというような行為、これは学校現場ではあってはならない行為ではなかろうか、こういうことで学校当局の方にも十分指導しております。

それからなお、学校を通して配付する文書、これらにつきましては、当然父母全体に行き渡るわけですから、父母からの不審を招くような形での文書、こういうものにつきましては、事前に校長あるいは教頭の許可の上に取り扱うように、とこういう形で大阪上中学の方には指示してございます。以上です。

○議長（高橋通夫君）　古賀俊昭君。

○１８番（古賀俊昭君）　事が起こっても速やかに対応していただければそれでいいと思いますが、やはり長年こうした慣行が、いわゆる組合の活動に大変熱心な先生たちは、別に校長や教頭の許可も得なくても構わないんだという、そのような意識も多分あったのではないかと思います。。

また私が大変問題だと思うのは、その平和教育の名をかりてその生徒たちに配られたいろいろな資料があります。この中に、あなたは核戦争阻止、核兵器廃絶で平和の未平を選びますか。それとも好核政府――核が好きな政府で原爆死を選びますか。そして大きな核という字が真ん中に大きく書いてあります。この好核政府というのは、私は赤旗を大体ほとんど全部目を通して読んでおりますが、日本共産党の中央機関紙ですね。これにずっと今連載をされて使われている言葉が好核政府という言葉です。義務教育の学校の現場で、正当な選挙を通じて組織をされている政府、これに対して、任意の義務教育を終えた人たち、

またさまざまな社会的なグループの人たちが、それぞれおのおのの場所で、好核政府だということを言うのは、それは言論の自由、思想信条の自由がありますから構わないと思います。公正で、そして中立を保たなければならないそうした義務教育の学校現場で、政府を好核政府というレッテルを張って、そして、さも、この時代主義といいますか、つまり、今のあなたは政府を支持しますと原爆で死にますよ、ということをビラ、つまり教育資料として配っているわけです。こうしたことが現に日野市内の学校では行われている。

先ほどの署名もそうです。校長先生方も大変御苦労なさっていると思うんです。しかし、校長先生や教頭先生が御存じない所で、堂々とこういうことが白昼行われるという、大変問題だと思います。その後、担当教師に注意をなさったと思うんですが、こうしたことが、二度と繰り返されないとは言えないわけです。ほかの学校でのいろいろなこともお聞き及んでおります。

少なくとも、こうした教師に対しては、具体的に注意とか、それから呼んでいろいろなお話をなさるというようなことも必要かと思いますが、具体的にやはり教師として常軌を逸した行為については、教育委員会としては私はある程度厳しく厳正に対応されることが必要ではないかと思います。

さらに教育長にお答えを求めたいと思いますが、教師のこうした問題教師に対するお考えについてお聞かせいただきたいと思います。

○議長（高橋通夫君）　教育長。

○教育長（長沢三郎君）　お答え申し上げます。

御承知のように、現在の教師の任命権者につきましては、これは都道府県の教育委員会、それから服務監督権者というのはこれは各市町村の教育委員会、こういうように任命と服務監督が区分けされている。当然、ですから日野市内の小中２８校、これの服務監督というものにつきましては教育委員会が対応し、適切な指導、助言、こういうものを実施していく。なお最終的なその先生方の処分関係に伴う問題、こういう問題につきましては、これは都道府県の任命権者の教育委員会の処理範囲という形になっておりますので、少なくとも、そういう形で東京都の教育委員会まで問題が持ち上がらないような指導、これは当然市の教育委員会として今後も手立て、また指導していきたい、こう考えております。

○議長（高橋通夫君）　古賀俊昭君。

○１８番（古賀俊昭君）　少なくとも、小中学校という義務教育の場所では一党一派に

偏った教育また教育材料、つまり教材の配付等は行ってはいけないわけです。これは当然のことなんです。ですから処分というようなことは、大仰かもわかりませんが、たび重なるようなこうしたことが行われるようであれば、教育委員会としても毅然な私は処置を行っていただきたい、対応していただきたいと思います。

ことしは長崎や、それから広島に旅費を補助をして市民を、市民にそうした行事に対する参加も市で応援をするということで、予算措置もなさいました。そういう方が広島や長崎に行って、赤旗を一生懸命読んで、その内容を声高らかにおっしゃるのは私は構わないと思います。しかし、私たちの子弟を預かっている日野市の学校で、こうした一つの政党に偏るどころか、一つの政党そのものが教育を管理するようなことが堂々と行われてはいけないと思いますので、市長、教育長にも、その点十分留意をしていただくようにお願いをしておきます。

全体主義、共産主義国家というのは、西側諸国の平和運動、反核運動というものを利用して、自己の政治的目的を達成するためにこうした運動を利用するという面もあるんですね。それは、私が別に指摘をするわけではなくて、西側また東側の国々から出されておりますいろんな資料でも指摘をされております。収容所列島等お読みになればよくわかると思うんですが、その点、くれぐれも間違いのないようにお願いをしておきたいと思います。

また、ソ連訪問については、私は後で一般質問で市長にお聞きをいたしますので、そのときに御回答をお願いいたします。

次に、福祉祭りというのがございました。ことし6月9日、日野市、日野の中央公園で行われたわけであります。第6回目ということでございました。日野市もこの催し物に後援をいたしまして、当日は天候が悪かったと思いますが、大変多くの市民の方が参加されたと思っております。寄付も大変たくさん集まったようでございますが、私、この福祉祭りに参加をされたある方から、ちょっとこういう点はどうだろうか、ということで御指摘があったことがございますので、その点をここでお聞きをして、もし、改めるべきであればそのようにお願いをしたいと思います。

と申しますのは、この福祉祭りにさまざまな収益金、広告料とかバッジ代とかいろんなものが何か入ったようでありますが、その収入はそれはいいといたしまして、支出の面でこの行事に参加をした、いわゆる芸能人と申しますか、歌手というんですかね、歌を何か歌われたようでありますが、その方に対して出演料というものが大変多額な額が支払われているということ

を聞きました。何か７０万円以上だったということなんです。８０万円近かったようなことも聞きますが、私は福祉祭りというこうした行事に芸能人の方をお呼びする場合には、福祉やこうした催し物に対する理解のある方であれば、そうしたギャラの面でもある程度安く協力をしていただける方もあるでしょうし、一たん受け取った後に、また日野市に対してあるいは社会福祉協議会に対して寄付という形でお返ししたりすることもあるんじゃないかと思います。

果たして、この８０万円近い出演料というものは適切かどうかですね、もし普通のギターを弾いたり何か伴奏を自分でおできになる方が、何か舞台でにぎやかにやるのであれば、協力してもいいよという方が私はいらっしゃるんじゃないかと思うんです。何もその１００万円近いギャラを払ってまで、呼んで果たしてやることが必要なのかどうか。もし御承知であればその点、お考えをお聞かせいただきたいと思いますが、日野市も後援をいたしておりますので、この点の所見を承りたいと思います。

なお社会福祉協議会に対しては、2,０００万円以上の市の補助金も出ております。市のこうした行事については、市長の方でもやはり関心を示していかなければならないわけでありますので、この出演料、正確な額は私は知りませんが、果たして、８０万円前後だと思いますが、こうした額を払って行うことが必要なのかどうか、その点についてお尋ねをいたします。いかがでしょうか。

○議長（高橋通夫君）　福祉部長。

○福祉部長（高野　隆君）　ただいまの御質問にお答えいたします。

福祉祭りにつきましては日野市社会福祉協議会が主催してやっております。日野市後援ということもございますけれども、実質的には社協が中心になってことしから青年フェスティバルと分離いたしまして福祉祭りだけを独立して実施する。もう、こういう形で実施しておる事業でございます。これについて当日、歌手が数十万円の出演料を払って出演をしたか、ということについての御質問でございますが、この点については、私は存じておりません。これに関連して、会場整備に、会場設営についての一定の委託料が支払われている、こういうことについては承知しておりますが、歌手に数十万円が払われている、こういうことについては、承知しておりませんので、そのようなことがありましたならば、調査いたしまして、またお知らせしたいと思っております。

○議長（高橋通夫君）　古賀俊昭君。

○１８番（古賀俊昭君）　私は当日福祉祭りの会場にいました。壇上で紹介を受けられた方は、馬場弘融議員と高橋徳次議員だったと思いますが、私もいましたけど、特に、ああすばらしい歌手が来ているな、というような有名な歌手じゃなかったと思うんですね。その方に対して、多分支払われたんだと思うんですが、高いか、安いかは議論が分かれるかもわかりませんが、どういう方に幾ら出演料というのが払われたか、後で御調査をいただいてお知らせいただきたいと思います。お願いをしておきます。

それから、もうこれで最後の方になります。７月の１日の広報にですね、住まいの改良相談開設ということで、市の方で大工さんたちを紹介をするということで記事がかなり大きく模式図も入れて出ております。私はここでちょっと不思議に思いましたのは、この住宅相談ということは、これは市でやることには一向に差し支えありませんし、大いにやっていただいて結構だと思いますが、やはり大工さんなどを紹介するということは、紹介される市民の方からすれば、どこに頼んだらいいだろうかと迷っておられるときは大変ありがたいわけですね。しかし、この紹介をする側の日野市が、ある特定の方だけを紹介したのでは他の業種の方に大変、他の登録をされていない方と均衡を欠く、つまり不平等な扱いを市がするという結果になりかねないわけです。

私、この記事を見まして、市の方の担当窓口の方に行きましたら、住宅相談の窓口というパンフレットが置いてございました。そして工事を実施する組合として、東京土建日野支部住宅相談センターというのが出ております。この東京土建日野支部住宅相談センターというのは、御承知のようにある政党に非常に近い組合組織ですね。組合であり、またそうした業者の方のお集まりである。その横には、このパンフレットの横には日野市建設総合センターということで、よりよい住まいづくりのお手伝いということで同じようにパンフレットが出ております。内容は新築、増築、修理ということで家を建てるというようなことから、雨漏りや雨どいの修理等まで全部行うということで、どちらも同じなんですね。こちらは、総合センターの方には業者の方の名前がずらっと並んでます。もう一方の、市が仲介をするというこの住宅相談の方には、別に業者の方の名前はないんですが、市内にはいろいろな商工会とか団体にお入りになって、いわゆるそうした業界の全体的な発展と、みずからの企業の繁盛のために、いろいろ工夫をしておられると思うんですが、事前の準備として、商工会等とも打ち合わせをされたような話は聞いておりますが、どうして、こうしたごく限られたグループの方についてのみ日野市

が仲介の労をおとりになるということをお決めになって、スタートをもうしてしまったのかどうか。その点。

また、今後このままの形で行くのかどうか、お尋ねをしたいと思います。

○議長（高橋通夫君）　生活環境部長。

○生活環境部長（坂本金雄君）　お答えいたします。

御質問の中にございました東京土建日野支部の住宅相談センター、そのパンフレットは、母体となる団体は東京土建の一般労働組合日野支部が母体になる相談センターでございます。また、もう一方のパンフレットは恐らく日野市建設総合センターというので、商工会の中にございます建設協和会が母体となっているパンフレットであろうかと思います。

７月１日から発足をいたしまして約二月を経ておりますが、その間に８月末現在で、５５件の相談の申し込みがございました。７月から始めまして、８月いっぱいで５５件でございますので１日１件強の相談の件数があったわけでございます。余り大きい相談はなくて、とよが壊れたとかペンキのはげた部分を塗ってもらいたいとか、そういう小さな相談でございます。

市内にはこういった建設の団体が数団体ございます。その中から東京土建の一般労働組合日野支部だけをなぜ取り上げたかと申しますと、法人組織を持たない資金的にも比較的小さな貧弱な、通称一人親方と呼ばれる大工職、タイル職、それから塗装職、そういった一人親方の団体を対象にして、とりあえず発足をいたしたわけでございます。その後、同じ東京土建の産業労働組合日野支部というところからこの登録に私の方も入れてくれという相談が持ちかけられました。商工会の中にある建設協和会からもこういう申し出がございました。

これは御質問の中にもございましたように、同じように一人親方でやっている、そういう方たちの就労の機会拡大、こういった目的のために、同じような方でしたら、公平性を欠かないような配慮をしなければならないと思っております。この件に関しては、産業経済課が起案をいたしまして現在市長決裁中でございます。なお市長決裁の前にはそれらの団体の代表の方を市長相談の日においでいただきまして、市長からじかに団体の内容、構成員メンバーの問題などを聴取いたしまして、誤りのない判断をいたしたい、このように考えております。

○議長（高橋通夫君）　古賀俊昭君。

○１８番（古賀俊昭君）　今の部長の御答弁でさらに市内でいわゆる一人親方のような、何ていいますか、小規模な業者の方にお仕事をやっていただく機会を確保するために、新たに

追加の措置を、今市長決裁をまつばかりだということで用意しておられるようであります。

しかし、それはそれで結構だと思いますが、日野市がやはりこうした制度をスタートさせる以上は、これもまた先ほどの話とまた関連をしてくるんですが、やはり市内にはさまざまな業者の方がいらっしゃるわけです。特定のこうした団体やグループの方だけをまず取り上げて措置をするということ、しかも市の広報で市がバックアップをそれにするということは、やはりちょっとやり方としてまずいんではなかろうかと思うんです。ほかの団体に対する呼びかけも、私はあったんではないかと思うんですが、やはりうまく取りまとめを市の方でして、全体を包括した中で多くの業者の方に、大半の方に加盟をいただいて、そして制度として私はスタートさせるのが一番いいのではないかと思います。

すでに幾つか照会があって、日野市の方に市民の方からお問い合わせがあって、業者の紹介もしておられるようですが、この現在登録をされている業者というのは、どのくらいの数いらっしゃるわけですか。何業者。

また小さな、今工事ということが多いとおっしゃったんですが、例えば工事に先ほどのような造成工事とまではいきませんが、工事にはたまたまミスがあったというようなこともあるわけです。そうした補償等の問題が起きた場合には、日野市はどうしたかかわりをなさるのか。この制度の内容を少し説明していただくと同時に、どういう業者の方がいらっしゃるか。また、そのリストは私どもこんな業者の方がいらっしゃいます、ということで見せていただけるかどうかですね。お尋ねをいたします。

○議長（高橋通夫君）　生活環境部長。

○生活環境部長（坂本金雄君）　お答え申し上げます。

業種はいわゆる大工さん、ペンキ屋さん、畳屋さん、それから屋根屋さん── かわら屋さんですね、そういった家の建築にかかわる職人さんで構成をされておりまして、はっきりした人数は把握しておりませんが、後ほどこの人数については御報告をさせていただきます。

市を経由をいたしまして、その相談事を受けますと、受けた産業経済課がこの団体にお知らせをいたしまして、適当な業者を派遣するような方法をとっておりますけれども、その際に生じた施工上のミスあるいは責任問題、その他のトラブルにつきましては、東京土建日野支部住宅相談センターに全面的にとってもらうようになっております。以上です。

○議長（高橋通夫君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　一言申し上げておきたいと思います。

よく地元商工業の育成ということが言われるわけであります。私どもも何とか地元の弱小業者といいますか業種、これらを育成をしたいと考えております。それで中小企業という総括的な呼び方があるわけでありますが、その際には３００人おるのも中流企業である、１００人いても小企業である。つまり法人格を持って人を使って利潤追求をしている、こういうのも大切な階層でありますが、一番個人で地道に腕を磨いて何とか生計を立てていこうという人たちも大切な方々であります。したがいまして、一般に産業経済行政というのは、都圏レベルの行政にゆだねたいわけでありますけど、なお地元としても力の弱いところを何とか支えていく。これは市民に対する一種の福祉事業でも同様であります。弱い層をなるべく支えていくという考え方であります。

そこで今考えておりますのは、小規模事業者、あと何といいますか、振興条例といいますか、何かそういう弱小の業者を支える手段、紹介も一つだと思います。これは一方には需要があるわけでありますから、市民が自分のところを何とか直したい、そのような際にその需要にこたえる供給ということも、これは供給の紹介、これも行政にあっていいように思っております。

そういうことから要請もあって、一段階そういうところに入っておるわけでありますけど、考えは別段仕分けをするつもりはございませんが、どちらかというと、法人格を持たない、あるいは企業、人を使って利潤追求という形ではなくて、自分が働いてその報酬を得る、こういう人たちが何とか組合をつくって、そうして自分たちの共同の力で産業界に一定の信用が得られるようになれば幸いではないかと思っております。

今、別の官公需というのもちょっと大げさでありますけど、市が発注する際、買い物を発注する際、ガソリンあるいは用紙、これらにつきましては、その組合と単価契約をいたしまして、その組合に注文をすれば、その中のそれぞれのお店が、多分順番かもしれませんけど、便宜を図って必要なところに納めていただく、こういうような仕組みがございます。何かそれに近いような、ある程度組合のような形をとれば、これは大きな組合じゃなくて業種別の申し合わせ、組合のような形があるならば、そこにもごく細かいどこそこを修理するとか何々を手直しするとか、そんなような仕事も発注できるような仕組みをつくりたい、こう考えております。

今、契約という観点から言いますと、一定の個人としての、個人または法人としての信用と責任が持てる、というのが登録業者の資格ということになっておりますけど、もう少しそれに

組合的な要素でも適用できる、これは法的に何か可能だ、というふうな判断も聞いておりますので、微力ではありますが、そのあたりを弱小産業といいましょうか、そのような方々の、今、非常に仕事も少ないそうでありまして、不景気であります。大きな仕事を要するに大きな企業に出して、そっくりそのまま利潤を持っていかれるというのは極めて残念でありますし、なるべく地元にいろんな形で経済の循環があって、利潤が少しでも広く残っていく、このようなこと、言うべくして難しいかもしれませんが、目指しておるということでございまして、別段特定とか何とかかんとか、そんなことは言うなれば無関係でありまして、なるべく多くの人がそれに適用できるようにしていきたいと思っております。

ただ商工会というような、商工会の商業部会というようなことでは、工業部会というようなことではちょっと単位が違ってまいりますので、個人経営のレベルで、というふうに考えております。それで建設事業の数千万円でありますとか億単位でありますとかというのは、これはやれる人が数社はいるわけでありまして、地元育成、地元育成といったって、ひっきようするところは、その数社に限るわけでありますので、そうじゃなくて機会があればやっぱり飛び上がりたい、という人も努力をすれば可能である、こういう地域社会になれば幸いである、このように思っております。

○議長（高橋通夫君）　古賀俊昭君。

○１８番（古賀俊昭君）　市長のおっしゃったことは、まことに私も全面的に賛成ですよ。ですから、それをやるには市内に今市長がおっしゃったような、対象業者の方をまず集まっていただいて、そういう方をできるだけ多く網羅した形でこういう制度はスタートするべきではなかったんですか、ということを私は言っております。

東京土建日野支部に入っておられる方だけが、そうした業者の方だけじゃないわけです。ですから、そうした準備を十分にしてスタートを私はやるべきであったということを、取り上げて市長にお考えをお聞きしたんで、私は別に市長の今のお考えに反対をしたり反論をしたりしているわけではありません。スタートの仕方に問題があったのではないか、ということを言っております。

どうか、市内にはたくさん零細といいますか、お一人でおやりになっている方もいらっしゃるでしょうし、今市長のおっしゃったようにさまざまな業者の方もおありだと思います。ですから、特定、ある限られたセクトの人のみをまず取り上げて、市の広報でそれをお世話すると

いうのは、やっぱりちょっと早計ではなかったかな、早計といいますか、ちよっと早まったんじゃないかな、という私は感じを持っております。十分その辺を反省をしていただいて、きちんとした日野市内の方どなたにも市が公平な立場でそうした恩恵を、恩典を差し延べることができるように十分工夫をしてやっていただきたいと思います。

私、先ほどお聞きした、この業者の方はどのくらいいらっしゃるかということで、御回答なかったんですが、今、日野市で紹介をしておられる、いわゆる工事を実施する組合として、この東京土建に加盟している業者は何業者、どういう方がいらっしゃるか。日野市民に日野市が紹介するんですから堂々と公表なさっていいと思いますが、ここでもしおわかりになれば、お名前を聞かせていただけますか。

○議長（高橋通夫君）　生活環境部長。

○生活環境部長（坂本金雄君）　お答えをいたします。

産業経済課、市が仲立ちをいたしまして紹介の内容を住宅相談センターに伝えまして、この住宅相談センターがあらかじめローテーションを組んでおいた業者の方にお願いをする、こういうシステムをとっております。（「答えになってないよ」と呼ぶ者あり）

○議長（高橋通夫君）　古賀俊昭君。

○１８番（古賀俊昭君）　この東京土建日野支部の登録をされている業者は、何業者ぐらいいらっしゃるのですか。また、その業者の方のお名前はどういう方か、私、知りたいと思いますので・・・。

○議長（高橋通夫君）　生活環境部長。

○生活環境部長（坂本金雄君）　現在、手持ちございませんので、後ほどお知らせしたいと思います。

○議長（高橋通夫君）　いいですか。（「もう、やめます」と呼ぶ者あり」高橋徳次君。

○９番（高橋徳次君）　それでは教育委員会の方へ２点ばかりお伺いします。

まず、その第１点目は、これはある中学校で起きた一生徒のことでございますけれど、そのお父さんから伺いますと、何かその生徒がいたずらをしたということで、その先生が頭髪をつかんで引きずり回した、ということですね。それで、その子供は自分が悪いと思ったか家へ帰っても黙ってた。ところが、１週間ばかり経たら痛い、痛いと言い出して、それで親も気づいて変だなということで、そこ、こぶだと思っていたら、さわってみたらぶよぶよするので、こ

れは大変だということで医者へ行ったら、要するに頭髪をまとめて引っ張ったということで、頭皮と頭蓋骨ですか、これが剥離してしまって、その間へ出血して血が固まった。それが日にちがたって痛くなってきて、子供も実は先生に引っ張られてということで、医者の方で切開して、中の血腫を取り出して縫い合わせて、それは一応それで事なきを得たということですけれど、これ、教育委員会の方ではこれは御存じなんですか。その点が１点と。

それからもう一つは、もうこれは四、五年来再三にわたってお願いしているんですけれど、実は平山季重ですね、これの碑の移転について、地元の方が知らない間に七生農協、現在の七生農協の支所の裏から図書館の所へ動いてしまった、ということで、地元としてはどうしてもあんな隅の所に置いてもらっては困るということで、できれば、京王のロータリーの中心の中へ移してほしいということで、もう４年ぐらい前に京王電鉄からはそこへ移してよろしい、という正式な文書を受け取っています。にもかかわらず、もう今まで１０数回教育委員会の方へその移転に関してお願いしたんですけれど、いつも返事は返ってこずに、こちらから一々お伺いする。それと文化財保護委員会がうんと言わないということで現在に来ています。しかし、またここで地元としてはどうしてもあの碑は京王のロータリーの中心地へ移してほしい、という強い要望が出ています。現在それは一体どうなっているか、その点。

その２点伺いします。

○議長（高橋通夫君）　教育長。

○教育長（長沢三郎君）　第１点目の方について、私の方からお答えいたしたいと思います。

教師の暴力あるいは体罰、これにつきましては法律でも全面的に禁止されておりますし、再三先生方が感情的な形の中で生徒に暴力を振るうとか体罰を加えるとか、そういうことについては厳禁をしております。

ただ、今高橋議員さんの方からお話のございました、先生が子供の頭髪をつかんで引きずり回した。そのために頭皮と頭蓋骨の間が剥離してしまうというような大事故があった場合におきましては、即座に教育委員会の方にその事故の経過あるいは内容、こういうものが一部始終届けられるはずなんですけれど、私、この件については、まだ全く指導室の方からそういう関係の報告も聞いておりませんし、それから父兄と学校の間で、その点について悶着が起きている、というような話も聞いておりませんので、早速これは指導室を通して調査いたしたいと思

います。

○議長（高橋通夫君）　教育次長。

○教育次長（小山哲夫君）　教育次長から御質問の、第２点目の市の指定文化財であります平山季重の記念碑の平山駅前のロータリー移転についての御質問が出ましたので、私の方からお答えいたします。

たしか、この問題につきましては、昨年の３月の予算委員会の席で、同様の趣旨の御質問を板垣議員からいただいております。これにつきましては、市の指定文化財でございますので、当然日野市の教育委員会の方で指定しております関係上、この文化財に関しましては、御案内のとおり日野市文化財保護審議会という教育委員会の諮問機関がございます。そこへ昨年のたしか６月３０日の日に、第１回目の文化財保護委員会を開きまして、その際に諮った。さらに本年の７月１８日の日に、６０年度の第１回目の文化財保護委員会を開催いたしまして、現在継続審議中というのが結論でございます。

問題点は４点あるかと思います。

まず第１点目は、先ほど議員さんからの御発言にありましたとおり、現在立っておる、つまり平山図書館のすぐ手前の市道に面して南に立っておりますけれども、ここの立っておる場所、これがもともと文化財保護審議会の先生方の御調査等によりますと、そこにもともと建っていたんじゃなかろうか、それがいつの日か定かではございませんけれども、先ほど御指摘がございましたように、その東側の、つまり今の平山の大地区センターのすぐ後ろの松の木の所へ移されている。それが平山のいわゆる農業協同組合の、七生支所ですか、平山支所をつくる際に、たしか昭和５３年度と記憶しておりますけれども、その際に今の位置へ移したという、こういう経緯がございます。したがって現在の位置にもともと建っているんだからそこでいいんじゃないか、という意見でございます。（笑声）

それから第２点目は、今御指摘がありました平山駅前のロータリーのいわゆる植え込みがあります、１坪ほどの土地へ移るという、こういう地元からの御要望でございますけれども、ここは御案内のとおり駅前でございますので、バスあるいは車、盛んにそこを行き来するわけでございますので、当然記念碑をそのロータリーの植え込みの中に移しますと、記念碑に書いてある字跡があるわけでございますけれども、字跡を読むという、こういう心理的な働きが起こるであろう。そういたしますと、当然そのロータリーを横断しまして、その松の木だか知りま

せんけれども、その辺に移した場合には交通事故を起こすという、そういう現象が起こってくる可能性があるわけでございます。しかも日野市の教育委員会の方で指定した関係もございますので、その辺の管理責任の問題も問われるであろう問題が第２点目として起こってくるわけでございます。

それから第３点目は、確かに現在立っております位置でございますけれども、現有位置が非常に市道に面して平山図書館のすぐ南に建っておりますので、一般の市民が見た場合に、非常にわかりにくいという、そういう関連問題もございます。そこで、文化財保護審議会の委員さんの中にも、今申し上げたロータリーの所へ平山季重が昔住んでいたんだという、居館の跡だということを、そこへ案内板といいますか、そこへ、ここが、この地域が平山季重公のいわゆるやかたの跡であった、ということを一般に知らせるということとあわせまして、今あります所に記念碑が立っておりますという、そういう意味の案内板を立てるという一つの方法があるわけでございます。こういう意見が出ております。

それから第４点目は、いわゆる市で指定しました史跡でございますけれども、これを移転する場合には、所有者の了解が必要でございます。その所有者が一体だれかということが今のところはっきりとしておりません。

そういうことがございますものですから、それらの問題をさらに煮詰めるべく教育委員会といたしましては、１０月の中にさらに第２回目の文化財保護審議会等開く予定でございますので、その中でさらに詰めまして、それらの結果を踏まえて、教育委員会の方の指定でございますので、教育委員会の方に諮りまして、態度を決めていきたいと思っておりますので、もうしばらくの間、時間をちょうだいしたいと思います。よろしくどうぞお願いいたします。

○議長（高橋通夫君）　　高橋徳次君。

○９番（高橋徳次君）　　第１点目の教育委員会へ質問しました傷害の件ですけれど、これはその後校長さんが再三学校の方に、御本人の父親がかけ合ったあげく、校長さんが謝りに来たということで、親ごさんとしては、一応納得はしているということのようですけれど、いずれにしても、先ほど来少年の非行化ですか、こういった問題が取り上げられているという中で、教師といえどもやはり人間です。まして、いたずらした生徒なり非行化なり、それを正す場合にそこにいろんな口論とか感情問題が出てきて、思わぬ災害を招くということもあり得ると思います。

そういった意味で、要するに非行化も是正、これはしなければなりません。と同時に、それを是正する教師の方にもやはり十分そういったあれを考慮してやっていただきたい。このように強く要望しておきます。

それから２点目ですけれども、現在要するにもとの場所に戻したということでございますけれども、先ほど次長の方からもお話がございましたとおり、これがもとに戻したといっても、もとは平山小学校校庭で、校舎の前面にございました。ですから非常に見通しのよい所で、また裏の道も盛んに、細い道ですけど、利用、その当時は利用していました。それが平山小学校の東へ移り、前に池がつくられて、さらに立派な碑になりましたけれど、先ほどお話にございすしたとおり、あそこ、農協が市有地と交換したときに、伺ってったら農協が現在の所へ移したということのようです。

それでロータリーの所が非常に危険だと言いますけれど、あの京王のロータリーですけれど、ロータリーの周辺にずっと歩道もございます。ですから本来通勤者はその歩道を通って駅へ行くというのが安全なんですけれど、もう通勤者の――朝晩の通勤者ですね、また日中にしてもそうです。９９％はほとんどはロータリーを横断してます。この方がはるかに危険じゃないかと思うんですね。

それで、このロータリーへ案内板をつくったにしてもやはりそれを見にいくのにはそのそばに行かなきゃいけませんし、（「そうだ」と呼ぶ者あり）ということで文化財保護委員会の方でもとにかく、もう、これ私が聞き出してからもう４年ぐらいたつんですよ。（「頑張れ」と呼ぶ者あり」ところが、もういつも同じで、ロータリーが危険だということでそのまま来ているんですけれど、とにかく、いずれにしましても、とにかくもう時間も大分あれしてますのでこの辺であれしますけれど、もうとにかくこれだけはぜひ早急に文化財保護委員会と教育委員会の社会教育の方ですか、結論を出していただきたいと思います。

これを強く要望しておいて、終わります。

○議長（高橋通夫君）　　議長ですね、文化財保護委員会の一人としてちょっと言いますが、これは先ほどから教育次長が回答したとおりです。

特に昔の写真で見ると、大体あそこがそうだという今後の話ですね。そういうことと、それから、あのロータリーの真ん中に建てていった場合、もしけがした場合ですね、（「議長は答弁しなくていいんだよ、議長」と呼ぶ者あり）その補償が（「議長、おかしいぞ」と呼ぶ者あ

り）自治会の補償するのがどうかということとか、そういうのがあったので、さらに継続事項となったわけですから、御了承願いたいと思います。高橋徳次君。

○９番（高橋徳次君）　とにかくね、（笑声）今の所ではもう全然見えないということ。（「そうだ」と呼ぶ者あり）（笑声）見えないものを置いてもしようがないでしょう。

○議長（高橋通夫君）　いや、だから案内板をつくって・・・（「よせよ」「議長、おかしいよ」「早く締めちゃえ」と呼ぶ者あり、その他発言する者多し）（笑声）

ほかに御質疑はありませんか。なければこれをもって行政報告を終わります。

次に日程第２、諸般の報告を行います。

会務報告については、お手元に配付してあります報告書のとおりですので、事務局長の報告は省略いたします。

諸般の報告全般についての質疑に入ります。なければこれをもって諸般の報告を終わります。（「休憩」「議長、議事進行」と呼ぶ者あり）飯山　茂君。

○１５番（飯山　茂君）　今、休憩ということで何か原稿を持ったようですけれども、４時１０分ですので、この後何をやるのか、それから時間の延長をするのか、その辺を私は決めていただきたいと思います。

○議長（高橋通夫君）　お諮りいたします。議事の都合により、あらかじめ会議時間の延長をいたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（高橋通夫君）　御異議ないものと認めます。よって会議時間を延長することに決しました。

お諮りいたします。議事の都合により暫時休憩いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（高橋通夫君）　御異議ないものと認めます。よって暫時休憩いたします。

午後４時１２分休憩

午後７時１３分再開

○議長（高橋通夫君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

これより請願第６０－６号、アフリカの飢餓救援に関する陳情の件を議題といたします。

総務委員長の審査報告を求めます。

〔総務委員長登壇〕

○総務委員長（竹ノ上武俊君）　総務委員会の請願審査の結果について御報告申し上げます。

本年度第２回定例会で総務委員会に付託されました請願第６０－６号でございます。件名はアフリカの飢餓救援に関する陳情ということでございます。請願者は立川市錦町１－１７－７、アフリカの飢餓救援三多摩の会、代表者は土生長穂さんこの方が代表者でございます。

内容といたしましては、アフリカの飢餓の現状にかんがみ、日野市が広報等通じて市民に救援の緊急性を訴えていただくこと。もう一つは、市当局が独自の活動をするとともに、市民の救援運動を援助することというものでございます。

総務委員会は、この件名の内容については、積極的に当然活動すべきことであるというような審議をなしまして、慎重審議の結果、全会一致採択と決した次第でございます。

よろしく御審議のほどお願いいたします。

○議長（高橋通夫君）　これより質疑に入ります。なければこれをもって質疑を終結いたします。

本件について御意見があれば承ります。なければこれをもって意見を終結いたします。

これより本件について採決いたします。本件に対する委員長報告は採択であります。本件は委員長報告のとおり決するに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（高橋通夫君）　御異議ないものと認めます。よって請願第６０－６号、アフリカの飢餓救援に関する陳情の件は、委員長報告のとおり採択と決しました。

これより日程第４、南多摩東部共立病院組合議会議員の補欠選挙の件を議題といたします。

選挙の方法については、地方自治法第１１８条第２項の規定により指名推選によりたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（高橋通夫君）　御異議ないものと認めます。よって選挙の方法は指名推選によることに決しました。

お諮りいたします。指名の方法については、議長において指名することにいたしたいと思い

ますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（高橋通夫君）　御異議ないものと認めます。よって議長において指名することに決しました。

南多摩東部共立病院組合議会議員に藤林理一郎君を指名いたします。

お諮りいたします。ただいま議長において指名いたしました藤林理一郎君を当選人と定めることに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（高橋通夫君）　御異議ないものと認めます。よって、ただいま指名いたしました藤林理一郎君が南多摩東部共立病院組合議会議員に当選されました。

ただいま当選されました藤林理一郎君に本席より会議規則第３２条第２項の規定により当選の告知をいたします。

これより日程第５、下水道対策特別委員会委員の欠員に伴う委員の選任の件を議題といたします。

委員の選任については、お手元に配付しました印刷物のとおりです。

質疑、討論を省略し、直ちに採決いたします。本件は、原案のとおり決するに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（高橋通夫君）　御異議ないものと認めます。よって下水道対策特別委員会委員の欠員に伴う委員の選任の件は、原案のとおり選任することに決しました。

これより日程第６、日野市議会昭和５９年度一般会計決算特別委員会の設置及び委員の選任の件を議題といたします。

委員の選任については、お手元に配付しました印刷物のとおりです。

これより本件について採決いたします。本件は原案のとおり決するに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（高橋通夫君）　御異議ないものと認めます。よって日野市議会昭和５９年度一般会計決算特別委員会の設置及び委員の選任の件は、原案のとおり可決されました。

これより日程第７、日野市議会昭和５９年度特別会計決算特別委員会の設置及び委員の選任

の件を議題といたします。

委員の選任については、お手元に配付しました印刷物のとおりです。

これより本件について採決いたします。

本件は原案のとおり決するに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（高橋通夫君）　御異議ないものと認めます。よって日野市議会昭和５９年度特別会計決算特別委員会の設置及び委員の選任の件は、原案のとおり可決されました。

これより議案第５６号、昭和５９年度日野市一般会計決算の認定の件を議題といたします。

理事者から提案理由の説明を求めます。市長。

〔市長登壇〕

○市長（森田喜美雄君）　議案第５６号、昭和５９年度日野市一般会計決算の認定について提案の理由を申し上げます。

本議案は、地方自治法第２３３条第３項の規定に基づき、昭和５９年度日野市一般会計決算の認定を求めるものであります。

なお、同規定により、監査委員の意見書及び主要な施策の成果等の書類を添えて提出いたしますので、よろしく御審議の上、認定をお願い申し上げます。

○議長（高橋通夫君）　監査委員から監査報告を求めます。

〔監査委員登壇〕

○監査委員（高崎克好君）　監査報告いたします。

昭和５９年度日野市一般会計の決算審査につきまして、前もって市長から提出を受けました歳入歳出の決算書類、財務諸表、付属明細書等につきまして、名古屋監査委員とともに慎重なる監査を行いました。また関係職員よりもその詳細にわたりまして内容の説明を受けました。

監査の結果は、決算書を初め、すべての書類に計数等の誤りはなく、関係法規にも準拠し、予算の執行状況もおおむね議会の議決に沿って執行されていると認められましたので、ここに御報告いたします。以上でございます。

○議長（高橋通夫君）　これより質疑に入ります。なければこれをもって質疑を終結いたします。

本件について御意見があれば承ります。なければこれをもって意見を終結いたします。

お諮りいたします。これをもって議案第５６号、昭和５９年度日野市一般会計決算の認定の件は、一般会計決算特別委員会に付託いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（高橋通夫君）　御異議ないものと認め、一般会計決算特別委員会に付託いたします。

これより議案第５７号、昭和５９年度日野市国民健康保険特別会計決算の認定、議案第５８号、昭和５９年度日野市都市計画事業特別会計決算の認定、議案第５９号、昭和５９年度日野市下水道事業特別会計決算の認定、議案第６０号、昭和５９年度日野市立総合病院事業会計決算の認定、議案第６１号、昭和５９年度日野市受託水道事業特別会計決算の認定、議案第６２号、昭和５９年度日野市農業共済事業特別会計決算の認定、議案第６３号、昭和５９年度日野市老人保健特別会計決算の認定、議案第６４号、昭和５９年度日野市仲田緑地用地特別会計決算の認定の件を一括議題といたしたいと思いますが、これに御意議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（高橋通夫君）　御異議ないものと認め、一括議題といたします。

理事者から提案理由の説明を求めます。市長。

〔市長登壇〕

○市長（森田喜美男君）　ただいま上程されました議案第５７号から議案第６４号まで、それぞれの特別会計決算認定についての提案の理由を申し上げます。

議案第５７号、昭和５９年度日野市国民健康保険特別会計決算の認定について提案の理由を申し上げます。

本議案は、地方自治法第２３３条第３項の規定に基づき、昭和５９年度日野市国民健康保険特別会計決算の認定を求めるものであります。よろしく御審議の上、認定のほどをお願いいたします。

議案第５８号、昭和５９年度日野市都市計画事業特別会計決算の認定について提案の理由を申し上げます。

本議案は、地方自治法第２３３条第３項の規定に基づき、昭和５９年度日野市都市計画事業特別会計決算の認定をお願いするものであります。

議案第５９号、昭和５９年度日野市下水道事業特別会計決算の認定について提案の理由を申し上げます。

本議案は、地方自治法第２３３条第３項の規定に基づき、昭和５９年度日野市下水道事業特別会計決算の認定をお願いするものであります。

議案第６０号、昭和５９年度日野市立総合病院事業会計決算の認定について提案の理由を申し上げます。

本議案は、地方公営企業法第３０条第４項の規定に基づき、昭和５９年度日野市立総合病院事業会計決算の認定をお願いするものであります。

議案第６１号、昭和５９年度日野市受託水道事業特別会計決算の認定について提案の理由を申し上げます。

本議案は、地方自治法第２３３条第３項の規定に基づき、昭和５９年度日野市受託水道事業特別会計決算の認定をお願いするものであります。

議案第６２号、昭和５９年度日野市農業共済事業特別会計決算の認定について提案の理由を申し上げます。

本議案は、地方公営企業法第３０条第４項の規定に基づき、昭和５９年度日野市農業共済事業特別会計決算の認定をお願いするものであります。

議案第６３号、昭和５９年度日野市老人保健特別会計決算の認定について提案の理由を申し上げます。

本議案は、地方自治法第２３３条第３項の規定に基づき、昭和５９年度日野市老人保健特別会計決算の認定をお願いするものであります。

議案第６４号、昭和５９年度日野市仲田緑地用地特別会計決算の認定について提案の理由を申し上げます。

本議案は、地方自治法第２３３条第３項の規定に基づき、昭和５９年度日野市仲田緑地用地特別会計決算の認定をお願いするものであります。

以上、８議案につきまして提案の理由を申し上げました。

よろしく御審議の上、認定をいただきますようお願い申し上げます。

○議長（高橋通夫君）　監査委員から監査報告を求めます。

〔監査委員登壇〕

○監査委員（高崎克好君）　監査報告いたします。

昭和５９年度日野市国民健康保険特別会計、同じく日野市都市計画事業特別会計、同じく日

野市下水道事業特別会計、同じく日野市立総合病院事業会計、日野市受託水道事業特別会計、同じく日野市農業共済事業会計、同じく日野市老人保健特別会計、同じく日野市仲田緑地用地特別会計、これらの事業会計及び特別会計の５９年度の決算審査につきまして、一般会計同様、前もって市長から提出を受けました決算書、財務諸表、付属明細書等につきまして、名古屋監査委員とともに慎重なる監査を行いました。また関係職員よりもその詳細にわたりまして内容の説明を受けました。

監査の結果は、決算書を初めすべての書類に計数等の誤りはなく、関係法規にも準拠いたしております。予算の執行もおおむね議会の議決に沿って執行されていると認められましたので、ここに御報告いたします。以上でございます。

○議長（高橋通夫君）　これより質疑に入ります。なければこれをもって質疑を終結いたします。

本８件について御意見があれば承ります。なければこれをもって意見を終結いたします。

お諮りいたします。これをもって議案第５７号、昭和５９年度日野市国民健康保険特別会計決算の認定、議案第５８号、昭和５９年度日野市都市計画事業特別会計決算の認定、議案第59号、昭和５９年度日野市下水道事業特別会計決算の認定、議案第６０号、昭和５９年度日野市立総合病院事業会計決算の認定、議案第６１号、昭和５９年度日野市受託水道事業特別会計決算の認定、議案第６２号、昭和５９年度日野市農業共済事業特別会計決算の認定、議案第６３号、昭和５９年度日野市老人保健特別会計決算の認定、議案第６４号、昭和５９年度日野市仲田緑地用地特別会計決算の認定の件は、特別会計決算特別委員会に付託いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（高橋通夫君）　御異議ないものと認め、特別会計決算特別委員会に付託いたします。

これより議案第６５号、昭和５９年度東京都市廃棄物処分地管理組合会計決算の認定の件を議題といたします。

理事者から提案理由の説明を求めます。市長。

〔市長登壇〕

○市長（森田喜美男君）　議案第６５号、昭和５９年度東京都市廃棄物処分地管理組合会計決算の認定について提案の理由を申し上げます。

本議案は、東京都市廃棄物処分地管理組合の解散に伴い、地方自治法施行令第５条第３項の規定に基づき、昭和５９年度東京都市廃棄物処分地管理組合決算の認定を求めるものであります。

よろしく御審議の上、認定をいただきますようにお願いをいたします。

○議長（高橋通夫君）　監査委員から監査報告を求めます。

〔監査委員登壇〕

○監査委員（高崎克好君）　監査報告いたします。

東京都市廃棄物処分地管理組合は昭和５９年９月３０日付で解散いたしました。５９年度の決算審査につきまして、決算書類、財務諸表等につきまして監査を行いました。

監査の結果は、決算書を初め、すべての書類に計数等の誤りはなく、かつ関係法規に準拠しておると認められましたので、ここに御報告いたします。以上でございます。

○議長（高橋通夫君）　これより質疑に入ります。なければこれをもって質疑を終結いたします。

お諮りいたします。ただいま議題となっております本件については、委員会付託を省略いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（高橋通夫君）　御異議ないものと認めます。よって本件については、委員会付託を省略することに決定いたしました。

本件について御意見があれば承ります。なければこれをもって意見を終結いたします。

これより本件について採決いたします。

本件は、原案のとおり決するに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（高橋通夫君）　御異議ないものと認めます。よって議案第６５号、昭和５９年度東京都市廃物処分地管理組合会計決算の認定の件は、原案のとおり認定されました。

これより議案第６６号、日野市立地区センター条例の一部を改正する条例の制定、議案第67号、日野市地区広場設置条例の一部を改正する条例の制定の件を一括議題といたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（高橋通夫君）　御異議ないものと認め、一括議題といたします。

理事者から提案理由の説明を求めます。市長。

〔市長登壇〕

○市長（森田喜美男君）　議案第６６号、日野市立地区センター条例の一部を改正する条例の制定について提案の理由を申し上げます。

本議案は、市立三沢東地区センターの開設に伴い、日野市立地区センター条例の一部を改正するものであります。

議案第６７号、日野市地区広場設置条例の一部を改正する条例の制定について提案の理由を申し上げます。

本議案は、市立かしまだい地区広場の開設に伴い、日野市地区広場設置条例の一部を改正するものであります。

以上の２議案の詳細につきましては、担当部長に説明いたさせますので、よろしく御審議のほどお願いいたします。

○議長（高橋通夫君）　関係部長から詳細説明を求めます。生活環境部長。

○生活環境部長（坂本金雄君）　御説明いたします。

議案第６６号、日野市立地区センター条例の一部を改正する条例の制定について御説明いたします。

今回、改正をお願いいたしますのは市内５１番目の地区センターの完成を見ましたので、別表に追加をお願いするものでございます。

４ページをお開き願いたいと思います。別表第１、２条関係でございますが、名称の欄、市立南平東地区センターの下に市立三沢東地区センター、この右の欄、設置場所の所に、日野市三沢１１６番地の６を加えるものであります。

この地区センターの敷地の面積は１８２平米ございまして、私有地でございます。建物面積は６０.０３７平米、延べ面積は９９.３７３平米となりまして、木造モルタル２階建ての構造でございます。続いて議案第６７号、日野市地区広場設置条例の一部を改正する条例の制定について御説明申し上げます。

今回、改正をお願いいたしますのは、市内７番目の地区広場が完成いたしましたので、別表

第２条関係に追加をお願いするものでございます。

４ページをごらんいただきたいと思います。名称の欄、市立まつばやし地区広場の下に市立かしまだい地区広場。その横の位置の欄に、日野市南平一丁目１０番地の４３を追加をお願いするものでございます。

この地区広場の面積は5,０７９.６５平米でございまして、一面にクローバを吹きつけてございます。

よろしく御審議のほどをお願い申し上げます。

○議長（高橋通夫君）　これより質疑に入ります。なければこれをもって質疑を終結いたします。

本２件について御意見があれば承ります。なければこれをもって意見を終結いたします。

お諮りいたします。これをもって議案第６６号、日野市立地区センター条例の一部を改正する条例の制定、議案第６７号、日野市地区広場設置条例の一部を改正する条例の制定の件は、厚生委員会に付託いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（高橋通夫君）　御意議ないものと認め、厚生委員会に付託いたします。

これより議案第６８号、日野市下水道条例の制定の件を議題といたします。

理事者から提案理由の説明を求めます。市長。

〔市長登壇〕

○市長（森田喜美男君）　議案第６８号、日野市下水道条例の制定について提案の理由を申し上げます。

本議案は、下水道処理区域の拡大に伴い、水質規制関係、使用料等、現状に合わない条項の内容を整備するため、日野市下水道条例の全部を改正し、新たに日野市下水道条例を制定するものであります。

申すまでもなく、日野市公共下水道は今後当分の間の最大の事業でありますことにかんがみ、新しい体制をつくってその第１歩を踏み出そうとするものであります。

その詳細につきましては、担当部長に説明いたさせますので、よろしく御審議のほどをお願いいたします。

○議長（高橋通夫君）　関係部長から詳細説明を求めます。都市整備部長。

○都市整備部長（結城邦夫君）　それでは私から議案第６８号、日野市下水道条例の制定について内容を御説明申し上げます。

現行条例は昭和３３年１０月に制定されました。以後３６年、４４年、５３年と改正を重ねまして、現在に至っている条例でございます。本条例は多摩平の単独処理区に適用いたしておるものでございまして、その後、公共用水域の水質の保全に資するために、下水道法の改正が２回にわたって行われ、水質の規制関係の条文が強化されてきておるところでございます。今後、日野市におきましても、水域の公共下水道の処理区域の拡大に伴い、また水質規制関係の整備と下水道使用料の適正化を図っていくために現行条例の全部を改正いたすものでございます。

内容について、主なものについて御説明を申し上げたいと思います。

第１章は趣旨並びに用語の定義でございまして、第３条の４ページでございますが、３条は、排水設備の設置義務を定めたものでございまして、義務者は、供用の開始の日から６カ月以内に排水設備を設置しなければならないという義務化を特に明記いたしたものでございます。

次に７ページの第６条関係でございますが、排水設備の工事につきましては、その重要性あるいは特殊性にかんがみまして一定の能力を有する者に行わせる必要があるわけでございます。したがいまして、指定工事店制度を採用したものでございまして、これをここに明記いたしたものでございます。

次に第８条関係でございます。除外施設の新設等の届け出でございます。除外施設の新設等の届け出義務を規定いたしたものでございまして、水質規制の事前のチェックを行うことを目的といたしたものでございます。

次が９ページの１１条関係でございます。１１条は水質管理責任者の選任等でございまして、特定施設と除外施設の設置を行う者に対しまして、排除を制限される水質の下水を排除させないために必要な業務に従事する水質管理責任者を選任いたして必ず責任者を置く旨を定めた規定でございます。

次が１０ページでございますが、１５条でございます。特定事業所から排除される下水の水質基準でございまして、特定事業所から排除される下水につきましては放流水の水質の技術上の基準をさだめる必要がございまして、法令等に従いましてここにそれを明記いたしたいものでございます。

次が１１ページの１６条でございます。下水の排除の制限でございまして、下水道施設を保護するために施設の機能を妨げ、または施設を損傷するおそれのある一定の基準に適合しない下水を継続して排除して、公共下水道を使用する者に対しまして除外施設を設ける、または必要な措置をしなければならない旨を規定いたしたものでございます。

１２ページの１７条でございますが、改善命令等でございます。排除を制限されている下水道を公共下水道へ排除している者に対しまして、汚水の処理方法等の改善を命じ、または下水の排除の一時停止を命ずることができる旨を定めたものでございます。

１３ページの２１条でございます。この２１条は使用料の算定方法でございまして、料金をここで定めるものでございまして、ここに御提案いたしております料金体系は、現行の料金体系と同様の従量逓増型の料金体系をとっております。平均改定率といたしましては４９.６％の増でございまして、この欄にございますように、一般汚水につきましては１０立方までを基本料金として定め、使用料を３２０円、以下１０立方を超え２０立方までは１立方について６５円、このように次のページの所にございますように量がふえるにしたがって１立方に対する単価が上がっておるわけでございます。浴場汚水につきましては１０立方までを基本料金として１３０円、以後これを超えるものにつきましては、１立方について１３円を定めたものでございます。

次が１５ページの２４条関係でございますが、２４条では使用料の減免を定めてございます。公益上そのほかまた特別の事情があると認めるときは、使用料を減免することができる旨を定めたものでございまして、公益上、その他特別の事情につきましては、施行規則の２３条で定めております。

次が１７ページの３１条でございますが、罰則でございます。現行条例では過料2,０００円以下とございますのを１万円以下に改めたものでございます。

次が１９ページの付則でございまして、６０年12月１日から施行する旨を定めたものでございいます。以下、経過措置の関係でございます。

簡単でございますけれども、説明を終わらせていただきます。よろしく御審議のほどをお願い申し上げます。

○議長（高橋通夫君）　これより質疑に入ります。名古屋史郎君。

○２１番（名古屋史郎君）　お尋ねをいたしますが、これは先般の全員協議会で若干御

説明のあった下水道使用料改定資料というものを出されて御説明のあったものと全く同じであって、言うならば値上げ、全面改正、条例の全面改正ということで、いわゆる値上げを含むところの条例の提案だというふうに解釈してよろしいかどうか、まず伺いたいと思います。

○議長（高橋通夫君）　都市整備部長。

○都市整備部長（結城邦夫君）　御指摘のとおり条例関係につきましては、この中に下水道使用料の関係についても規定をいたしております。これだけではなくて、それ以外の規定につきましても今回御提案を申し上げておりますのは、内容を全面的に洗い直し、法律に従いまして改正を行っているものでございます。

したがいまして、下水道料金も当然この中に含まれておるものでございます。以上でございます。

○議長（高橋通夫君）　名古屋史郎君。

○２１番（名古屋史郎君）　それでは伺いますが、改定資料というものに、るる改定の背景その他参考資料などをつけられて御説明が若干あったんですが、まず１点伺いたいのは、５３年に条例改正を行い、５３、５４、５５年度と３カ年にわたり改正をされて、その後改定を行わず現在に至っている。その後に効率的な運用を図ってきたけれども、６億円も累積赤字を出している。るるいろいろ書かれていますが、５５年から６０年、今日まで、言うならば何もしないでいて、この供用開始のこの時期に大幅な値上げをしてこられたという、その５年間ですね、正確には４年間というんでしょうか、そこらあたりはどんなふうに考えていらっしゃるのか。

例えば、参考にそこにあるように地方公営企業法なり下水道法では、下水道使用料は下水道サービスの対価であり、能率的な管理のもとで適正な原価を償うものでなければならないとされている。こういったものに対して５５年以降、今日まで供用開始をされるこの時期に当たって市民負担の公平を守るということで提案されてきたその間、５６から５９ですか、そこまで何を考えて、どういう手を打ってこられたのか、まず、その辺から伺いたいと思います。

○議長（高橋通夫君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　今回の下水道条例の全面改正議案の提案の理由の中で、ただいま申し上げたとおりでございますが、日野市のこれから取り組みます全市に普及を図る公共下水道事業は、極めて大きい課題であるという認識で臨むものであります。

今日まで多摩平の下水道、下水排水区についてのみ、つまり多摩平の範囲の下水道条例があったわけでございますが、今後は多摩平のその拡張というよりも、全市に下水道区域を普及させようという、そのための第１歩、その体制づくりである、このように理由を申し上げたいと思っておるところであります。

今、御指摘の実質的に既存の多摩平地域には、値上げという形で影響が出るわけでありますが、私は、過去のことを云々するという、そういう理由よりも前向きに全市に普及させる、このための新しい体制づくりだということを強調したいと思っております。したがって、新しい体制の使用料には、多摩平地域の区域に値上げという形で影響をもたらすことは事実でありますけど、ひとつ全市的な観点から、多摩平地域には特に曲げてこの事業のための御理解とおつき合いをお願いをしたい、とこのように思っております。

過去、新しい下水道事業、いずれ近く取り組むときが来るということもございましたし、値上げの期間を若干怠っていたということも理由にあるかもしれませんが、これは過去に例えば今御指摘のあった６億円の支出、言うなれば超過分を、これを補おうというためでもございませんし、また、そうことも理由にはしたくない、とこう思っております。

したがいまして、全く新しい観点から日野市の下水道事業に取り組む、この基本姿勢の現実的な条例制定、新しい体制づくりの第１歩である。このような御理解で特に多摩平には値上げという影響がありますけど、ぜひ御理解を持っておつき合いをお願いをしたい。これがまた今後の事業に大きく寄与していただけるものだ、とこのように思っております。

値上げということは心苦しいことではございますけど、大きい仕事に取り組む場合に、従来の一地域に対する特殊事情ということはこれもまたあわせて吸収していかなければならない面も伴うわけであります。これまで地域に対しまして、なるべく事前了解を得る努力をしたいというふうには思っておりましたが、ある部分には行って、ある部分には必ずしも徹底してないということがあるかもしれません。

しかしながら、議会でこの議案を御審議していただいて、そうして御決定をいただくことに伴って、この下水道事業に大きく取り組んでいく、そのまま御理解を進んで得ていくということに邁進をいたしたい、こういう決意でございますことを特に強調させていただきたいと思っております。

○議長（高橋通夫君）　名古屋史郎君。

○２１番（名古屋史郎君）　私は、全市的な下水道事業が完成といいますか、普及するということについては、もう全く皆さん方と同じような気持ちで、一日も早いその実現を望んでいるものであります。

今の御答弁ですと、前向きに一地域の特殊事情という、その表現はちょっと私はわからないんですが、私の聞いているのは、５５年以降、特殊事情があったとすればその特殊事情をどうして克服しようとする努力をされないで、ここへ来て全体の供用開始の時期だから前向きにつき合ってほしいという、その４年間なり５年間は何をしてたんですか、ということを伺っているわけなんです。（「そうだ」と呼ぶ者あり）

そこの御返事がないと、何か市民の負担の公平だとかいうことも、私は全体的な下水道の促進ということについて、全く異議を差し挟むものじゃないんですけれども、値上げということを伴うわけですから、値上げというのは、する方もしたくはない。される方はされたくないということなんですから、それを３年間努力してきて、それからあと何とかしなきゃならないということに考えつかなかったのか、というところを伺っているわけです。５５年以降です。55年以降、この提案されるまでに何を考え、何をなさったのかというところを聞いてるわけです。そこの御回答がないと、何か下水道の普及に反対してるとか、そういうことではないんですから、その質問に対してのお答えを願いたいと思います。

私は、この改定の理由ずらずら並べてある、それから６０年４月現在、都内で最下位である、料金がですね。こんなことをよく恥ずかしくもなく出せるな、こういう感じがいたしますが、ちょっと私の言い方、乱暴でしょうか。もし、反論があればお答えいただきたいと思います。

○議長（高橋通夫君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　その資料のあることも存じております。私は、しかし、その資料に準拠して説明することよりも、より下水道事業のこの今後の取り組みということで、御理解をいただく方が望ましいというふうに考えております。

何年間、つまり怠ったというふうにも言えるかもしれませんが、多摩平は過去２０年間、20年余でありますが、いろいろな特殊事情がありました。それから、私が、今特殊事情と言うのは、新しい全市事業に、全市の下水道事業に取り組む前段でございますから、いずれ近く全面改定の時を迎える。それが早ければ早いほどいいというふうに思っておりましたが、その間、何年か経過して、御指摘、その間に何しとったかと言われるような状況が生まれた、と言うべ

きかもしれません。

そういうことでございまして、早ければ早いほどよかったわけでありますが、今日改めて提案をしてお願いをする、こういうことになりました事情も、御理解をお願いをしておきたい、こう思っております。

○議長（高橋通夫君）　名古屋史郎君。

○２１番（名古屋史郎君）　特殊事情という言葉じりではありませんが、私は、市長の言われるのは、要するに多摩平には都内最下位の安い、それでサービスしてあげてたんですよ、ここで上げるのが何が悪いんですか、とそういう意味なんですか、特殊事情というのは。その特殊事情の説明が私にはちょっとわからないんですよね。

○議長（高橋通夫君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　これまでお話をしておる中で、そのことを込めておるわけでありますが、そういうけちなことを私は申し上げておるつもりはございません。もっと大局的な観点に立って、この下水道事業に取り組む、このことを申し上げておるわけでありまして、部分的な値上げというふうな、つまり、あるいは過去が最低、安かったとか、６億円の過剰支出があった、というようなことで値上げをする、という性質のものでないということを強調したいために、多少言い方に適当でない点があったかもしれませんが、提案の理由は全く新しい体制で取り組む、その第１歩ということで御理解をお願いしたい、こういうことでございます。

○議長（高橋通夫君）　名古屋史郎君。

○２１番（名古屋史郎君）　大変、きょうは時間も遅くなっています。まだたくさんありますので、これは即決というわけじゃないんしょうから、担当委員会で十二分に審議をいたしまして、ぜひ本当の市民福祉を考える行政にしていただくよう心から願いまして、質問を終わります。

○議長（高橋通夫君）　ほかに御質疑はありませんか。夏井明男君。

○１６番（夏井明男君）　詳しくは委員会の方で御審議いただき、最終的な本会議でも詳しくお聞きいたしますけども、今の質疑の中で、若干資料的に、このような重要法案につきましては、さまざまな資料もそろえられて準備万端であろう、ということで質問いたすわけですが、多摩平地域の一般会計からの繰り入れの比率ですね、多摩平の下水道料金における一般会計の繰り入れの比率が東京都の場合でも過去に最高的に一般財源からの繰り入れで補てんを

したという例がありますが、ほかの市等の一般財源からの繰り入れの比率という数字は、まだ資料的に見させていただいてませんが、御参考までに、その辺、どういうふうな資料がおありなのか、お話ししていただきたいと思います。

第２点は、供用開始ということで、多摩平以外の地域でこの下水道の恩恵を受ける戸数があるわけですけれども、供用開始を受ける恩恵戸数が、年次的にどのくらい予測が立つのか、その戸数を教えていただきたいということが２点であります。

第３点目は、多摩平という町名のつく住宅の戸数がどのぐらいあるのか、教えていただきたいと思います。

○議長（高橋通夫君）　都市整備部長。

○都市整備部長（結城邦男君）　第１点の一般会計からの繰り入れの比率でございますが、この資料関係にも、６０年から６２年という形で、３カ年間のものは出ておりますが、従来からも大体このような形で一般会計の繰入金があったわけでございます。資料の５ページでございます。改定前の財政収支計画というところで一般会計の繰入金7,900万だとか6,700万、こういった数字が載っているわけでございますが、３年間で約２億の繰入金が一般会計から今後予定されている。従来もこの繰入金につきましては、今まで多摩平の処理場におきましていろいろ整備を行ってきたところでございます。

これらの整備が多いときでは１億2,１００万、これは５９年度でこれらの整備を行っております。また５８年度では6,５００万、５７年度は8,８００万というような主要な改修工事が行われてきております。

これらにつきましてはやはり一般会計から繰り入れていただきませんと、料金だけでは対応し得ないものでございます。したがいまして、これらの額は、一般会計から毎年、毎年繰り入れられてきたものでございます。

他の市におきましても、維持管理の教費については全部料金に含めてやっておるという所は非常に少なくて、ほとんどが一般会計からの繰入金で賄っている、というのが実情でございます。

それから落川地域につきましてこれから供用開始を行っていくわけでございますが、供用開始に当たりまして、落川の地域では当面の戸数としては全体で約３１８軒が１１ヘクタールでは該当いたしますが、そのうち約２割程度が、当面今年度供用の開始が行われる予定になっております。以後、６３年までには、３１８戸全部を供用開始をしていく。これは１１ヘクタールに限られたものでございますが、６２年度末、いわゆる６３年からは、この１１ヘクタール以外の地域につきましても、供用の開始が見込まれております。したがいまして、今後の供用の開始は、この３１８戸以上に供用の開始が行われてくる予定になっております。

それから多摩平の戸数関係でございますが、人口では調べてあるんですが、人口で、実際にお使いになっている方々、これが１万6,０００人、約１万6,０００人でございます。戸数ではちょっと今資料として把握したものを持ち合わせておりませんので、人口で御容赦願いたいと思います。以上です。

○議長（高橋通夫君）　夏井明男君。

○１６番（夏井明男君）　今、お話で大体概略わかったんですけれども、今の多摩平地域における下水道処理に対して、一般財源の方から人口1,６００人の対象で一般会計からの繰り入れが、（「１万6,０００人」と呼ぶ者あり）１万6,０００の人口の中で一般財源から7,９００万―― 8,０００万というふうな繰り入れがあるんだ、というお話でした。

他市においては、維持管理は賄い切れるけど、一般会計からの繰り入れも相当している、というお話なんですが、その他市の一般会計からの繰り入れの相当というのが、現在の多摩平における下水道料金体系の中のものと、どのぐらいかけ離れているのか、という点を先ほどお聞きしたわけですが、詳しくは、この点、資料をもとに、ぜひこの辺の資料を出していただいて、詳しくは建設委員会の方で討議していただければと思います。以上です。

○議長（高橋通夫君）　古賀俊昭君。

○１８番（古賀俊昭君）　市長選挙が終わりましてまだ半年もたたないうちに、５０％の公共料金の値上げを提案される、さすが森田市長だなと思うわけであります。

この改定の理由の中に、先ほど市長の言葉の中にもありましたが、市民の公平な負担という、そういう原則を一つ挙げられたように思います。私―― おっしゃったかどうか知りませんが、ここにそう書いてあるんです。

市民の間にありますいろいろな、今度のこの下水道については、ある地域には下水道はいつになったら供用開始されるかわからない、という地域もあります。ただ、そういう地域については、くみ取りトイレについては、くみ取り等が行われている。ところが、くみ取りにつきましては、全部無料化されているわけです。ある地域のトイレの処理については、全く無料であ

る。公共下水道がありますこの多摩平地域については、下水道料金という名でトイレの、いわゆる処理についてはお金を払う。同じトイレを使うという行為については、全く同じなわけですが、ある方は料金を払い、ある方は払わないという方がいらっしゃるわけです。

ちなみに、くみ取りの方は約１万2,０００世帯、３万4,０００人近くいらっしゃいます。公共下水道は、今１万6,０００人というお話がありました。6,６００世帯。多摩平地域のみであります。

平等と公平ということからすれば、できるだけその間隔が開くことは避けるべきではないかと私は思いますが、市長のお考えはいかがでしょうか。

○議長（高橋通夫君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　日野市が都市であるという最低条件には、下水道が少なくも普及しているということでなければならないと思います。今日まで、人口の増加あるいは市街地の形成という表面的な意味では、人口規模において、あるいは市街化の形成において、一応都市といえるというふうに我々もまた日野市を都市と見ておるわけでありますけど、こと下水道に関しましては、全く面目もない状況にあるということであります。

そういうことから、特にくみ取り便所の無料化ということは、本来あるべき都市の下水道がないということの、何ていいますか、それの一つの反映として、無料という最低審準のことをたどってきた。これは、もう２０年ぐらい前、２０年にはならないかもしれませんが、無料化を行った、これは東京都政の全域的な施策でもありました。

トイレに関します限りは、くみ取りが農村では肥料の材料ということで、一定の価値を持った時代もあるわけでありますが、今はそういう状況もいかなる地方といえどもなくなったと思います。

したがいまして、これからまさに下水道の普及こそ、後おくれというふうに言われて、大変我々も苦しいわけでありますが、ようやく流域下水道方式のもとに日野市内の面的整備、公共下水道に取り組む時代になった。処理場の整備も４年後にはほぼ見通しが立つわけでありますし、その完成時には、完成時、稼動開始時には一定の汚水がまた流れ込むような、そういう普及地域も毎年今後やっていくわけであります。

そういうことから考えまして、今言われる逆の不公平といいますか、くみ取りの無料化なる意味を御理解をいただきたいことと、それから下水道こそ今後あるべき都市の汚水処理の最低

条件ということでありますから、それに伴う料金は、都市生活として必要な個人負担である、このようになっていくわけであります。それの今入り口を進みつつある。

多摩平は２０年ばかりの歴史があるわけでありますけど、これは日野市一般の公共下水ではなくて、多摩平団地の地域のみの下水道であったわけであります。したがって、今、新しい料金体系が値上げという形で影響し、迷惑ではあると思いますけど、日野市全体の都市水準を高めるために、多摩平地域の住民の方には、大きな観点からおつき合いをいただく。そうして、結果、いずれそれが達成しますと、全市公平関係は均衡してまいるわけでありますから、そのあたりを見通してこのことに取り組んでおる、というふうに御理解をお願いしたいと思います。

○議長（高橋通夫君）　黒川重憲君。

○１７番（黒川重憲君）　市長はけちなことは言わないと言うんですが、どうも最近の市長の答弁を見てみますと、先ほどの南平のことでもそうですが、多少問題はあるけれども、学校ができるからいいじゃないか、我慢しなさいとか、それから、この下水道の料金の値上げも住民が多少値上げで困るかもしれないけれども、日野市の将来を見るならば、これもしようがないじゃないか。何か問題を少し隠して、そして大きな大局があればいいじゃないか、こういったことに終始されているような気がしてならないわけです。

私は、先ほどの名古屋議員さんからの質問、全くそのとおりだと私は思っています。ふだんは余り意見が一致しないんですけど、このことだけについては（笑声）ばっちり今意見が一致したんですけれども、この下水道料金改定のこの理由という中に、まさに名古屋議員から先ほどいろいろ指摘がありました。５８年が４億9,０００万、５９年に６億7,０００万、これだけの繰り越しをする。そして適正な下水道使用料に改定しないと住民負担の公平の原則に著しく欠ける。そんなことはわかり切っていることです。だから、なぜ今までに放置をしておいて、今になって急にやるのか。こういう議論が出てくるのは、これは当然のことだろうと思うわけです。そして、下の方には昭和５５年で、日野市と同率であった東京都は、徐々に値上げをしてきました。料金改定をした。そして都のこの動きに準じて、多摩各市でもみんなしてきた。しかし、日野市だけはなぜかしなかった。これは全く市長の考えがあって行われなかったことだろうと思います。そして、この時期になって、都内で最下位になったからという理由で今になって上げる。

もう市長選はないからいいんですよ。（笑声）ところが、来年、私たちの選挙はあるんです。

（笑声）多摩平の人たちは大変なんですよ、今。もう、この下水の、このことだけでもってもうじんま疹ができるんです。（笑声）市長はもう楽だからいいですよ、もう自分の選挙終わってしまったわけですから。

なぜ、こういう問題はもう少し前に出さないんですか。十分出せる時期があったじゃないですか。

この辺も含めてひとつ委員会で十分審議していただきたいわけですが、その点、市長から答弁があれば・・・。

○議長（高橋通夫君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　多少不見識な言辞を弄して御迷惑をかけておると思います。

今言われる、確かに選挙で戦う立場としての配慮を（「そんなことないよ、市長」と呼ぶ者あり）あるかもしれませんけど、私はその事柄よりもなお私の、私どもの、また選挙のことを言いますならば、大きな大公約であります下水道の普及ということに取り組むためには、やっぱりそういう可能な状態、整備すべきものをきちんと整備しておく。これがまたスタートの大きな仕事だと思って、無理かもしれません。また、値上げという形は望むわけではありませんけど、おつき合いをお願いをしたいというのは、こういう意味でございます。

これからの大きな仕事に、お互いが議員の皆さんとともに取り組むわけでございますので、市民にも、その今の説明資料そのものは私も内部でこういう理由ではだめだ、大きな事業に取り組むためにやらせていただくんだ、という姿勢で説明をしなければ、何か過去に優遇をしてあるから、貸しがあるからそれを取り戻すんだなんていう、そういう言い方では絶対だめだ。もっと誠意のある、そうして今後の市政に臨む、そこのところを理解をしていただいて御納得をいただく、これ以外にないというふうに考えておりますので、よろしくお願いをいたします。

○議長（高橋通夫君）　ほかに御質疑はありませんか。なければこれをもって質疑を終結いたします。

本件について御意見があれば承ります。なければこれをもって意見を終結いたします。

お諮りいたします。これをもって議案第６８号、日野市下水道条例の制定の件は、建設委員会に付託いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（高橋通夫君）　御異議ないものと認め、建設委員会に付託いたします。

これより議案第６９号、日野市老人福祉手当条例の一部を改正する条例の制定、議案第７０号、日野心身障害者（児）福祉手当支給条例の一部を改正する条例の制定、議案第７１号、日野市児童育成手当条例の一部を改正する条例の制定の件を一括議題といたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（高橋通夫君）　御異議ないものと認め一括議題といたします。

理事者から提案理由の説明を求めます。市長。

〔市長登壇〕

○市長（森田喜美男君）　議案第６９号、日野市老人福祉手当条例の一部を改正する条例の制定について提案の理由を申し上げます。

本議案は、東京都の老人福祉手当に関する条例の改正に伴い、老人福祉手当の支給額を月額１万7,５００円に改めるため、日野市老人福祉手当条例の一部を改正するものであります。

議案第７０号、日野市心身障害者（児）福祉手当支給条例の一部を改正する条例の制定について提案の理由を申し上げます。

本議案は、東京都の心身障害者（児）福祉手当に関する条例の改正に伴い、心身障害者（児）福祉手当の支給額を改めるため、日野市心身障害者（児）福祉手当支給条例の一部を改正するものであります。

議案第７１号、日野市児童育成手当条例の一部を改正する条例の制定について提案の理由を申し上げます。

本議案は、東京都児童育成手当に関する条例の改正に伴い、児童育成手当の支給額を改めるため、日野市児童育成手当条例の一部を改正するものであります。

以上、３件につきましては、それぞれ担当部長に説明いたさせますので、よろしく御審議のほどお願いいたします。

○議長（高橋通夫君）　関係部長から詳細説明を求めます。福祉部長。

○福祉部長（高野　隆君）　それでは議案第６９号、日野市老人福祉手当条例の一部を改正する条例の制定について御説明を申し上げます。

この条例の改正につきましては、６０年４月２４日付、東京都の福祉局長から通知がありました。東京都の老人福祉手当に関する条例の一部を改正する条例が、６０年３月３１日公布さ

れ、それに伴って市町村老人福祉手当条例の準則の一部を改正したので、市町村でも所要の手続をとるように通知があったものでございます。

それによりまして、４ページ、５ページをお開き願いたいと思いますが、新旧対照表でございますけれども、今まで１万6,５００円を支給しておりました老人福祉手当を１万7,５００円に引き上げるものでございます。

なお、この適用につきましては条例の付則に掲げましたように、６０年１０月１日から適用したいというものでございます。どうぞよろしく御審議のほどお願いいたします。

引き続き議案第７０号、日野市心身障害者(児)福祉手当支給条例の一部を改正する条例の制定について御説明申し上げます。

この条例の改正につきましては、昭和６０年７月１０日付、東京都福祉局長から東京都心身障害者福祉手当に関する条例の一部を改正する条例が６０年３月３０日公布され、これに基づき市町村心身障害者福祉手当条例準則の一部改正の通知を受けたので、それにより改正するものでございます。

議案書の４ページ、５ページをお開き願いたいと思います。新旧対照表によりますとおり第３条第１項に掲げます各号を、まず第１号、精神発育遅滞程度中以上の者、身体障害者障害程度２級以上の者、脳性麻痺または進行性筋萎縮症の者、9,５００円とありますのを１万円に引き上げ、第２号、特殊疾病に罹患している者、7,５００円を8,０００円に引き上げ、第３号、精神発育遅滞程度軽度の者、身体障害程度３級及び４級の者、5,５００円を6,０００円に引き上げるものでございます。

なお、この条例の適用につきましては、昭和６０年１０月１日から適用したいということでございます。よろしく御審議のほど、よろしくお願いします。

引き続き議案第７１号、日野市児童育成手当条例の一部を改正する条例の制定について御説明を申し上げます。

この条例の改正につきましては、昭和６０年５月１５日付、東京都福祉局長通知により、東京都児童育成手当に関する条例の一部を改正する条例が６０年３月３０日に公布され、市町村児童育成手当条例準則の一部改正が行われたので、市町村においても、所要の手続をとるよう通知がございました。

これに伴いまして、４ページ、５ページに掲げましたように、それぞれ表に掲げますように、

第４条第１項第１号に該当する児童、育成手当でございますけれども、児童１人当たり月額7,５００円とございますのを8,０００円に、障害手当9,５００円とございますのを１万円に引き上げるものでございます。

なお、この適用につきましては昭和６０年１０月１日から適用し、６０年９月以前の分につきましては、従前の例によるということでございます。

よろしく御審議のほどお願いいたします。

○議長（高橋通夫君）　これより質疑に入ります。なければこれをもって質疑を終結いたします。

本３件について御意見があれば承ります。なければこれをもって意見を終結いたします。

お諮りいたします。これをもって議案第６９号、日野市老人福祉手当条例の一部を改正する条例の制定、議案第７０号、日野市心身障害者(児)福祉手当支給条例の一部を改正する条例の制定、議案第７１号、日野市児童育成手当条例の一部を改正する条例の制定の件は、厚生委員会に付託いたしたいと思いますが、これに御意議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（高橋通夫君）　御異議ないものと認め、厚生委員会に付託いたします。

これより議案第７２号、昭和６０年度日野市一般会計補正予算（第２号）の件を議題といたします。

理事者から提案理由の説明を求めます。市長。

〔市長登壇〕

○市長（森田喜美男君）　議案第７２号、昭和６０年度日野市一般会計補正予算第２号について提案の理由を申し上げます。

本議案は、昭和６０年度日野市一般会計補正予算第２号であります。補正額は、歳入歳出それぞれ４億6,４２７万4,０００円を追加し、歳入歳出予算の総額を３１５億2,６１６万8,０００円とするものであります。

内容につきましては、担当部長に説明いたさせますので、よろしく御審議のほどお願いいたします。

○議長（高橋通夫君）　歳入歳出全般の説明を関係部長から求めます。企画財政部長。

○企画財政部長（前田雅夫君）　議案第７２号、昭和６０年度日野市一般会計補正予

算第２号につきまして御説明申し上げます。

１ページでございますけれども、第１条、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ４億6,４２７万4,０００円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ３１５億2,６１６万8,０００円とするものでございます。第１条の２項につきましては第１表によりまして説明をいたします。

８、９ページをお開きいただきたいと思います。歳入でございますけれども、今回の補正の内容といたしましては国及び都の支出金の増額によるもの及び前年度の繰越金４億3,７１４万1,０００円を財源とするものでございます。歳入につきましての詳細は説明欄の記入のとおりでございますので省略をさせていただきます。

歳出でございます。２０ないし２１ページでございます。歳出につきましては特別職及び非常勤職員の報酬等の改正に伴う補正、ないしは歳入で申し上げました国及び都の支出金に伴う単価及び対象人員の増に伴う支出でございます。その他、当初予算で計上いたしました経費について、予算執行上、支障のあるものの不足分の補正というものでございます。まず議会費につきましては省略をさせていただきます。

２２、２３ページでございます。まず３目の広報広聴費でございますが、使用料及び賃借料１７万円でございます。これは人権擁護委員視察研修バス借上料ということでございますが、これは南多摩地域でございますが、４・５部会と称しております。これが主催をいたしまして都外に研修に行くわけでございます。慣例といたしまして、当番市がバスを持つということでございますので、日野市は特別大型を所有してございませんので、借上料として今回計上した、というものでございます。次が１０目の支所費でございます。工事費５６０万円でございますが、これは住民基本台帳のいわゆるコンピューター導入に関係いたしまして、多摩平支所の床の改修及び暖房の経費でございます。

次、２４、２５ページでございます。１４目の事務改善推進費でございますが、１８節の備品購入費３９６万3,０００円でございますが、これも住民基本台帳の電算化に伴う１階フロアーの事務室の整備に要するところの文書及び、文書等の保管庫一式でございます。次の１６目の諸費でございますが、返還金でございますが、ここに書いてございますとおり昭和５９年度の金額が確定をいたしました。それで、いわゆる超過分についての返還をするものでございます。内容につきましては説明欄のとおりでございます。

それから３４、３５ページに飛びまして、民生費でございます。１目の社会福祉総務費でございますが、最下段に１９節、負担金、補助及び交付金でございますが、１００万円でございます。これは地域難病活動記念事業補助金ということで、地域の難病活動が本年で１０周年を迎えるというものでございます。民間団体が中心になりまして日野市が後援となり、１００万円を補助するというものでございます。

次のページ、３６、３７ページでございます。２目の身体障害者福祉費の２０節、扶助費でございます。これは福祉手当でございますが、国制度が４５０円アップし、さらに都及び市の制度は５００円アップしております。これの不足分の計上でございます。

次のページの３８、３９ページでございますが、これは精神薄弱者福祉費でございます。20節の扶助費でございますが、これも国制度が４５０円、都及び市の制度が５００円アップになりますのでその差額分の増額計上でございます。

それから４２、４３ページにまいりまして、児童福祉費の４目、保育園費でございます。備品購入費で４１３万7,０００円でございますが、これは保育園のヒーターの交換、いわゆる今まで石油ストーブを使っておりましたものを計画的に更新をするというもので、クリーンヒーターにかえていくというものでございます。それから、この下に給食用9万4,０００円で電子レンジ及び冷蔵庫が書いてございますけれども、これは保育園で措置しておりますアレルギー性幼児の給食の保温といいますか、そういうものに使うものでございます。それから次が浅川河川敷の測量でございますが、落川地先の占用許可申請に必要な測量等の費用というものでございます。

それから４６、４７ページでございます。じんかい処理費の委託料でございますが、有害ごみ運搬処分の費用でございますが、当初予算に計上してございますが、不足が生じましたので、今回再計上するというものでございます。

次が４８、４９ページの病院費でございます。投資及び出資金でございますが、市立総合病院事業会計出資金1,０３３万円ですが、これは受電設備及び屋上の防水工事をするための繰り出し、いわゆる出資金でございます。

それから、少し飛びまして５６、５７ページでございます。土木費の道路橋りょう費でございますが、３目の道路新設改良費、工事請負費でございますが、3,４５０万。説明欄にございますように道路の改修新設２路線、舗装改良３路線、側溝新設３路線でございます。次の１７

節の公有財産購入費の１億8,５９９万8,０００円でございますが、これは南平高校の関連道路分の市の公社からの引き取りをするものの予算計上でございます。

次が５８、５９ページでございます。交通安全対策費の工事請負費でございますが、3,324万7,０００円。平山七生台６号線準歩道設置ほか記載のとおりのものでございます。それから、さらにその下の負担金、補助及び交付金の６００万円でございますけれども、豊田駅北口のパーキングポストの、いわゆる負担金でございます。

次のページ、６０、６１ページでございます。河川維持費の工事請負費６００万円でございますが、台風６号及び７月１４日の集中豪雨等にかかる補修でございます。

それから、次にまいりまして６２、６３ページでございます。公園管理費の工事請負費でございますが、神明上緑地植栽、これは歳入にも関連しておりまして、神明上緑地の植栽をするものでございます。５０万円でございます。それから、さらに緑化費の工事請負費でございますが、一応３小、６小の緑化と、それから中央公園の南側の現在空き地がございますけれども、その土地の整備に要するものでございます。これは３４０万円というものでございます。

次が６８、６９ページでございます。学校管理費の工事請負費でございますが、東光寺小学校ほか１校の給食室の換気設備の改修でございます。それから学校建設費の工事請負費でございますが、これは第５小学校の東側のフェンスの設置という費用でございます。

次のページにまいりまして７０、７１ページでございます。学校管理費の委託料２５０万円でございますが、いわゆる赤水対策といたしまして、第一中学校の給水管を洗浄する費用でございます。それから、さらに一番最後の学校建設費の工事請負費の５７１万円につきましては、七生中学校の防球フェンス、西側及び南側でございます。

それから次のページにまいりまして７２、７３ページでございます。図書館費の工事請負費でございます。これは中央図書館の屋上の防水工事でございます。

それから７４、７５ページでございますが、市民プール費、工事請負費の3,７８３万円でございますが、このプールにつきましては将来河川の改修に合わせまして、本格的な改築をするわけでございますが、当面、最小限度の経費を施しまして、とりあえずの暫定、最小限度の改修を労しておこうというものでございます。以上でございます。

○議長（高橋通夫君）　これより質疑に入ります。なければこれをもって質疑を終結いたします。

本件について御意見があれば承ります。なければこれをもって意見を終結いたします。

お諮りいたします。これをもって議案第７２号、昭和６０年度日野市一般会計補正予算（第２号）の件は、歳入全般及び歳出のうち議会費、総務費を総務委員会へ、歳出のうち民生費、衛生費、労働費、消防費を厚生委員会へ、歳出のうち農業費、土木費を建設委員会へ、歳出のうち教育費を文教委員会へそれぞれ付託いたしたいと思いますが、これに御意議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（高橋通夫君）　御異議ないものと認め、それぞれの委員会へ付託いたします。

これより議案第７３号、昭和６０年度日野市国民健康保険特別会計補正予算（第１号）の件を議題といたします。

理事者から提案理由の説明を求めます。市長。

〔市長登壇〕

○市長（森田喜美男君）　議案第７３号、昭和６０年度日野市国民健康保険特別会計補正予算第１号について提案の理由を申し上げます。

本議案は、昭和６０年度日野市国民健康保健特別会計補正予算第１号であります。補正額は、歳入歳出それぞれ4,２１７万1,０００円を追加し、歳入歳出予算の総額を30億4,277万7,000円とするものであります。

詳細につきましては、担当部長に説明いたさせますので、よろしく御審議のほどお願いいたします。

○議長（高橋通夫君）　関係部長から詳細説明を求めます。市民部長。

○市民部長（佐藤智春君）　それでは議案第７３号、昭和６０年度日野市国民健康保険特別会計の補正予算第１号につきまして説明をさせていただきたいと思います。

特別会計補正予算書の内容でございます。

今回の補正につきましては、歳入歳出それぞれ4,２１７万1,０００円を補正し、予算額を30億4,２７７万7,０００円とするものでございます。

説明書の６、７ページをお開きいただきたいと存じます。まず歳入でございます。療養給付費交付金繰越金６９４万6,０００円、その他繰越金3,５２２万5,０００円は、いずれも５９年度よりの繰越金で、合わせまして4,２１７万1,０００円を計上いたしました。

次の８、９ページ、歳出でございます。総務費の賦課徴収費の委託料２０３万1,０００円で

ございますけれども、これは条例等の改正によりまして、従来より行っております国保税の賦課徴収計算に必要な計算業務のプログラムの変更が生じてまいりましたので、費用の補正をお願いするものでございます。

次のページの保険給付費負担金３２７万円、退職被保険者等療養費の保険者負担分。これは見込み違いもございまして不足を生じてまいりましたので今回補正をお願いするものでございます。

次の１２、１３ページ、償還金でございます。昭和５９年度分、国・都よりの概算交付を受けておりましたけれども、実質計算に基づきまして、国庫支出金、療養給付費交付金、都支出金合わせまして3,６８７万円返還するものでございます。以上でございます。

よろしくお願いをいたします。

○議長（高橋通夫君）　これより質疑に入ります。なければこれをもって質疑を終結いたします。

本件について御意見があれば承ります。なければこれをもって意見を終結いたします。

お諮りいたします。これをもって議案第７３号、昭和６０年度日野市国民健康保険特別会計補正予算（第１号）の件は、厚生委員会に付託いたしたいと思いますが、これに御意議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（高橋通夫君）　御異議ないものと認め、厚生委員会に付託いたします。

これより議案第７４号、昭和６０年度日野市下水道事業特別会計補正予算（第２号）の件を議題といたします。

理事者から提案理由の説明を求めます。市長。

〔市長登壇〕

○市長（森田喜美男君）　議案第７４号、昭和６０年度日野市下水道事業特別会計補正予算第２号について、提案の理由を申し上げます。

本議案は、昭和６０年度日野市下水道事業特別会計補正予算第２号であります。補正額は、歳入歳出それぞれ1,６１７万7,０００円を追加し、歳入歳出予算の総額を２１億５６万9,000円とするものであります。

詳細につきましては、担当部長に説明いたさせますので、よろしく御審議のほどお願いいたします。

○議長（高橋通夫君）　関係部長から詳細説明を求めます。都市整備部長。

○都市整備部長（結城邦夫君）　それでは私から議案第７４号の昭和６０年度日野市下水道事業特別会計補正予算第２号につきまして御説明を申し上げます。

今回の補正は歳入歳出ともに補正額1,６１７万7,０００円でございます。内容について御説明を申し上げます。

２０ページでございますが、歳入でございます。先ほど御提案申し上げました条例の改定に伴いまして、下水道使用料が増額、収入が増額してまいります。この補正額を、増額分を補正いたすものでございます。

次が２２ページでございますが、繰越金でございます。これは前年度からの繰越金を計上いたしたものでございます。

次、２４ページでございますが、歳出でございます。まず下水道総務費の中の１９、負担金、補助及び交付金でございますが、水洗便所改造資金の融資あっせん利子補給金でございますが、これは今回の条例の改正等に伴いまして、水洗便所の改造資金の融資あっせん規則を新たに定めるものでございまして、水洗便所に改造いたす場合、融資あっせんを行う制度を設けたものでございまして、年度内に２５件が一応予定されますので、これにかかります利子を補給いたすものでございます。

次が１９ページでございますが、これは南多摩処理区の流域下水道の維持管理負担金でございまして、１立米当たり３８円の負担でございます。

次が２６ページでございますが、多摩平の処理場費でございます。まず１３の委託料でございますが、下水道の使用料の収納状況、これは東京都の方に委託をして料金の収納をお願いしているものでございますが、それの経費の不足分でございます。次が１３の委託料でございますが、多摩平処理場の来年度以降実施いたします改修工事等の実施設計をここで行うものでございます。２階層の覆蓋等の決定をいたしているものでございます。

以上、簡単でございますけれども、御説明を終わらせていただきます。よろしく御審議のほどをお願い申し上げます。

○議長（高橋通夫君）　これより質疑に入ります。なければこれをもって質疑を終結いたします。

本件について御意見があれば承ります。なければこれをもって意見を終結いたします。

お諮りいたします。これをもって議案第７４号、昭和６０年度日野市下水道事業特別会計補正予算（第２号）の件は、建設委員会に付託いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（高橋通夫君）　御異議ないものと認め、建設委員会に付託いたします。

これより議案第７５号、昭和６０年度日野市立総合病院事業会計補正予算（第２号）、議案第７６号、昭和６０年度日野市受託水道事業特別会計補正予算（第１号）の件を一括議題といたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（高橋通夫君）　御異議ないものと認め一括議題といたします。

理事者から提案理由の説明を求めます。市長。

〔市長登壇〕

○市長（森田喜美男君）　議案第７５号、昭和６０年度日野市立総合病院事業会計補正予算第２号について提案の理由を申し上げます。

本議案は、昭和６０年度日野市立総合病院事業会計補正予算第２号であります。補正予定額は、資本的収入及び支出それぞれ1,０３３万円を追加し、収益的収支及び資本的収支の予定額を２３億1,６２４万2,０００円とするものであります。

議案第７６号、昭和６０年度日野市受託水道事業特別会計補正予算第１号について提案の理由を申し上げます。

本議案は、昭和６０年度日野市受託水道事業特別会計補正予算第１号であります。補正額は、歳入歳出それぞれ1,０７７万4,０００円を追加し、歳入歳出予算の総額を１１億2,２０２万5,０００円とするものであります。

以上の２議案の詳細につきまして、担当部長に説明いたさせますので、よろしく御審議のほどお願いいたします。

○議長（高橋通夫君）　関係部長から詳細説明を求めます。簡単に。（笑声）病院事務長。

○病院事務長（大貫松雄君）　御説明いたします。

まず６０年度特別会計補正予算書を御参照願います。

３２ページ、３３ページをお開き願います。事業計画書の資本的収入及び支出の収入でございますけれども、これは一般会計からの出資金をもって1,０３３万円を充てるものでございます。支出については建設改良費のうちの工事請負費の補正をお願いするもので、内容として受電設備の容量を大きくし、また診療棟の屋上６０５平米の改修と、それからボイラーの取りつけで差金等が生じましたので相殺し1,０３３万円の補正をお願いする次第でございます。

よろしくお願いいたします。以上です。

○議長（高橋通夫君）　水道部長。

○水道部長（永原照雄君）　それでは議案第７６号、昭和６０年度日野市受託水道事業特別会計第１回の補正予算に関しまして御説明申し上げます。

３９ページをお開き願います。歳入歳出ともに1,０７７万4,０００円を追加いたしまして歳入歳出ともその総額を１１億2,２０２万5,０００円としようとするものであります。

説明の都合上、４２、４３ページをお開き願いたいと思います。歳出から御説明したいと思います。配水費の委託料１２６万9,０００円を追加しようとするものでございますが、これは行政報告書の５２ページにもございますように、京王七生平山台の高配地区に配水しておりますところの配水池ののり面擁壁等が６月３０日の台風第６号に伴う豪雨のために危険な状態になりましたので、この配水池を中心に約１万5,０００平方メートルの現況測量並びに縦横断の測量に必要な費用でございます。

節の１５、工事請負費でございますが、９５０万5,０００円の追加でございます。これは前に言いましたように、配水池の危険な状態でございますので、このままほうっておくわけにはいかない非常に危険な状態でございましたので、護岸工奉を行ったものでございます。その内容はシート張りを行ったわけでございます。それから押さえ盛り土を行ったこと、それから、その他雑工事、のり面の定点測量等を行ったものでございます。それから、のり面の上部のカットをいたしました。以上でございます。

歳入につきましては今必要な経費を都から委託金として送ってくるということでございます。以上でございます。

○議長（高橋通夫君）　これより質疑に入ります。夏井明男君。

○１６番（夏井明男君）　ちょっと確認でお聞きしたいんですが、総合病院の事業会計

の３３ページのところで受電設備の改修ということで約８００万円上がってますが、この内容はどういう内容なのか。老朽化で取りかえるということでしょうか。

○議長（高橋通夫君）　病院事務長。

○病院事務長（大貫松雄君）　ＣＴの導入に伴いまして受電設備を大きくするということでございます。（「了解」と呼ぶ者あり）

○議長（高橋通夫君）　ほかに御質疑はありませんか。なければこれをもって質疑を終結いたします。

本２件について御意見があれば承ります。なければこれをもって意見を終結いたします。

お諮りいたします。これをもって議案第７５号、昭和６０年度日野市立総合病院事業会計補正予算（第２号）、議案第７６号、昭和６０年度日野市受託水道事業特別会計補正予算（第１号）の件は、厚生委員会に付託いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（高橋通夫君）　御異議ないものと認め、厚生委員会に付託いたします。

これより議案第７７号、市道路線の一部廃止、議案第７８号、市道路線の廃止、議案第７９号、市道路線の認定の件を一括議題といたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（高橋通夫君）　御異議ないものと認め一括議題といたします。

理事者から提案理由の説明を求めます。市長。

〔市長登壇〕

○市長（森田喜美男君）　議案第７７号、市道路線の一部廃止について提案の理由を申し上げます。

本議案は、市道上田１３号線ほか６路線を道路法第１０条第３項の規定に基づき、一部廃止するものであります。

議案第７８号、市道路線の廃止について提案の理由を申し上げます。

本議案は、平山下耕地土地区画整理事業完了により、下耕地２号線ほか１２路線を道路法第１０条第３項の規定に基づき、廃止するものであります。

議案第７９号、市道路線の認定についての提案の理由を申し上げます。

本議案は、落川２０号線ほか４５路線を道路法第８条第２項の規定に基づき、新たに市道認

定をするものであります。

以上、３議案の詳細につきまして、担当部長に説明いたさせますので、よろしく御審議のほどお願いいたします。

○議長（高橋通夫君）　関係部長から詳細説明を求めます。建設部長。

○建設部長（中村亮助君）　それでは、ただいま上程をいたしました３議案につきまして御説明申し上げます。

まず議案第７７号ですけれども、これは市道路線の一部を廃止するものでございます。上田１３号線並びに石灘１号線につきましては、現況が廃滅をいたしておりますので、これを一部廃止するものでございます。

次に下耕地１号線、三十一の１号線、平山橋程久保１号線、２号線、３号線並びに嶽ノ下１号線の６路線につきましては、平山地区で施行されました下耕地の土地区画整理事業の完了に伴いまして、同地区内に存しました市道の一部を廃止するものでございます。

次に議案第７８号でございます。市道路線の廃止でございます。これは下耕地区画整理事業の施行に伴いまして、同区画整理事業区域内にございました市道下耕地２号線ほか１２路線の全部を廃止するものでございます。

次に議案第７９号でございますが、これは市道路線の認定でございます。認定を今回お願いをするものは、議案書の記載のとおりでございまして、全部で４６路線ございます。

まず落川２０号線から２８号線の９路線につきましては、百草園自治会の私道を寄付受領いたしまして、さらにそれを市で道路整備をいたしまして、その整備が完了いたしましたので、今回認定をお願いするものでございます。

次に百草５号線につきましては、百草地区内にございました東電学園の敷地内にありました道路敷との交換によるもので、新たに築造されたつけかえ道路分、これを市道として認定をお願いするものでございます。

それから南平３５号線につきましては、南平駅のホームの延伸に伴いまして、踏切道のつけかえがございました。そのつけかえをいたしました道路の認定をお願いするものでございます。

それから新井７１号線につきましては、市の下水道計画新井北幹線に伴いまして、道路新設計画がございます。その計画をされます路線を今回御認定いただくものでございます。

それから鹿島台の１８号線から２０号線の３路線につきましては、都市計画法の４０条の２

項によりまして、開発行為に伴う帰属でございます。

それから鹿島台の２１号、２２号線の２路線につきましては、今般道路寄付受領に伴いまして、認定をお願いするものでございます。

それから平山２７号線から５４号線までの２８路線につきましては、ただいま御説明申し上げました議案第７７号と７８号で一部及び全部廃止をいたします下耕地区画整備理事業区域内の市道を、区画整理事業で新設されました路線に新たに認定をするというものでございます。

それから最後の下耕地１０号線につきましては、下耕地１号線を議案第７７号で一部廃止をいたします。これの再認定をさらにここでお願いしたいというものでございます。

以上、７７、７８、７９の３議案につきまして、御説明申し上げました。よろしく御審議を賜りますようお願い申し上げます。

○議長（高橋通夫君）　これより質疑に入ります。なければこれをもって質疑を終結いたします。

本３件について御意見があれば承ります。なければこれをもって意見を終結いたします。

お諮りいたします。これをもって議案第７７号、市道路線の一部廃止、議案第７８号、市道路線の廃止、議案第７９号、市道路線の認定の件は、建設委員会に付託いたしたいと思いますが、これに御意議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（高橋通夫君）　御異議ないものと認め、建設委員会に付託いたします。

これより議案第８０号、仲田緑地築造工事請負契約の締結の件を議題といたします。

理事者から提案理由の説明を求めます。市長。

〔市長登壇〕

○市長（森田喜美男君）　議案第８０号、仲田緑地築造工事請負契約の締結について提案の理由を申し上げます。

本議案は、仲田緑地築造工事の請負契約を締結するもので、地方自治法第９６条第１項第５号の規定及び議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第２条の規定により提案するものであります。

入札の結果、１億4,６００万円で大成・日野大野建設共同企業体が落札いたしました。

詳細につきましては、担当部長に説明いたさせますので、よろしく御審議のほどお願いいたします。

○議長（高橋通夫君）　関係部長から詳細説明を求めます。総務部長。

○総務部長（伊藤正吉君）　議案第８０号の内容につきまして、御説明申し上げます。

工事件名、仲田緑地築造工事でございます。これは５９年度を初年度といたしまして３カ年計画でこの築造をしていく。こういうことで今年は２カ年目に当たるわけでございます。５９年度につきましては、全体の荒地造成と排水あるいは園路の一部を造成をしたわけでございます。今年度は別紙３ページあるいは４ページに工事の概要等が書いてございますような形の工事を施行するものでございます。

契約金額は１億4,６００万円。契約の方法は指名競争入札。業者の指名につきましては、受注機会の増大を図るために建設企業体方式を取り入れました。８月１２日、指名委員会を開催いたしまして、第１グループ１０社、第２グループ１０社をそれぞれ指名いたしまして、選定いたしまして、建設共同企業体を任意に組ませまして、９月２日に入札を執行した結果、別紙入札書のとおり大成・日野大野建設共同企業体が落札してございます。詳細は２ページに入札調書がございますので御参照いただきたいと思います。

工期につきましては、契約の翌日から６１年の３月２０日まで。契約の相手方といたしましては、東京都新宿区西新宿一丁目２５番１号、大成・日野大野建設共同企業体。構成員（代表者）東京都新宿区西新宿一丁目２５番１号、大成建設株式会社、取締役社長、里見泰男。以上でございます。

よろしく御審議をいただきたいと思います。

○議長（高橋通夫君）　これより質疑に入ります。なければこれをもって質疑を終結いたします。

本件について御意見があれば承ります。なければこれをもって意見を終結いたします。

お諮りいたします。これをもって議案第８０号、仲田緑地築造工事請負契約の締結の件は、総務委員会に付託いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（高橋通夫君）　御異議ないものと認め、総務委員会に付託いたします。

これより報告第５号、昭和５９年度日野市土地開発公社決算の報告の件を議題といたします。

理事者から提案理由の説明を求めます。市長。

〔市長登壇〕

○市長（森田喜美男君）　報告第５号、昭和５９年度日野市土地開発告社決算の報告についての説明を申し上げます。

本報告は、地方自治法第２４３条の３第２項の規定に基づき、昭和５９年度日野市土地開発公社の決算を報告するものであります。

詳細につきましては、担当部長に説明いたさせますので、よろしく御承認のほどをお願いいたします。

○議長（高橋通夫君）　関係部長から詳細説明を求めます。総務部長。

○総務部長（伊藤正吉君）　昭和５９年度日野市土地開発公社の決算書の内容につきまして御説明申し上げます。

まず４ページ、５ページでございますけれども、昭和５９年度の取得用地でございます。14件にわたりまして面積といたしましては4,９５０.０１平米。金額が４億2,６５９万4,２４０円でございます。

次に６ページ、７ページでございますけれども、同じく５９年度におきまして処分した用地でございます。１３件にわたりまして合計面積では8,９７１.１１平米。金額が９億9,７９２万5,２８９円、こういうことでございます。中ほどにナンバー９にございますが、これにつきましては南平八丁目２番３ほか１筆、こういうことでございます。これは高校用地でございます。これは３月１８日に所有権だけを移転したということで、ここに処分用地ということで一覧に記入してございます。経理につきましては６０年度に経理をしてございますので、ここでは所有権移転のみ、とこういうことでここに掲げた次第でございます。

それから８ページ、９ページでございますけれども、まず収入でございますが、先ほど申し上げましたように、事業収益といたしましては、７ページにございます用地の処分代を収益として９億4,３７０万3,８４９円。それから借入金につきましては長期借入金の明細書がございます。３２ページでございますけれども、それのうちのナンバー３９から７４までの代金がここに借入金ということで記載してございます。７億８１７万3,９５３円でございます。それから事業外収益といたしましては受取利息です。それから雑収益、こういうことで雑収益につきましては市からの利子補給分でございます。３億2,０６６万3,９１６円。合計で19億7,297万6,７７９円でございます。

それから１０ページ、１１ページでございますけれども、これから支出でございます。これは先ほども申し上げました取得用地代が、土地の取得費としてここに書いてございます。決算額の欄でございますが、それから土地造成費といたしましては１億6,９６２万4,０００円でございます。これは南平高校用地の前払い金と三沢中の造成に関連いたします工事費でございます。それから販売費及び一般管理費、これにつきましては土地開発公社の必要経費でございます。それから事業外費用といたしまして借入金、これは２６ページから３６ページにございます長期借入金の５９年度に償還した元金の２０件分でございます。それから支払利息につきましては３３ページにございます長期借入金明細書にあります５９年度の支払利息。こういうことでトータルで１７億1,９３４万2,４９１円、こういうことになっております。

それからページを飛ばしていただきまして１８、１９ページでございますけれども、公有地用地明細書、それから２０、２１ページ、これらは公有地の明細書でございます。

御参考までに公共用地の事業別の面積を概略申し上げますと、八丁目関係、南平八丁目関係では７万2,１９５.２１平米。それから万願寺土地区画整理事業関連が１万3,００８.７１平米。それから豊田南土地区画整理事業が2,６９９平米。それから高幡の区画整理事業の関係が7,６３４平米。それから都市計画道路関係その他で4,６７３.２５平米。こういうことでトータルといたしましては、２１ページにございますように１０万1,０１０.６３平米を保有しております。金額が４８億７０４万8,４７６円でございます。

以上、雑駁でございますが、報告にかえさせていただきます。

○議長（高橋通夫君）　これより質疑に入ります。なければこれをもって報告第５号、昭和５９年度日野市土地開発公社決算の報告の件を終わります。

これより報告第６号、交通事故（日野市高幡２５番地先路上の市の義務に属する事故）の専決処分の報告の件を議題といたします。

理事者から提案理由の説明を求めます。市長。

〔市長登壇〕

○市長（森田喜美男君）　報告第６号、交通事故（日野市高幡２５番地先路上の市の義務に属する事故）専決処分の報告についてを報告いたします。

本報告は、日野市高幡２５番地先路上における交通事故について、専決処分により相手側との損害賠償額及び和解の締結をいたしましたので、地方自治法第１８０条第１項及び第２項の

規定に基づき、議会に報告するものであります。

詳細につきましては、担当部長に説明いたさせますので、よろしく御承認のほどをお願いいたします。

○議長（高橋通夫君）　関係部長から詳細説明を求めます。総務部長。

○総務部長（伊藤正吉君）　それでは報告第６号の内容につきまして御説明申し上げます。

事故名でございますけれど、日野市高幡２５番地先路上の交通事故でございます。これは60年の５月２７日、４時ごろでございますけれども、建設部の土木課の職員が高幡地区の舗装の補修作業中に右折しようとして地下道に入ろうとしたわけでございますが、そこに横断歩道がございましたので歩行中の横断歩道者を見送って発進しようとしたところが、死角に自転車を引いた、加賀美ゆみさんがいらした。こういうことで自転車を引いていたわけでございますけれども、その自転車に接触いたしまして自転車を壊した、こういう内容でございます。

和解の相手方といたしましては、日野市南平九丁目２２番地の１４、加賀美ゆみさん。１２歳で七生中の１年生でございます。そういう意味で保護者の加賀美郁夫さんが和解の相手方でございます。

それから損害賠償額でございますが、２万9,０００円。これは自転車を少し壊しましたので、その修理代、こういうことでこの損害賠償額が決定したわけでございます。

なお人身につきましては事故はございません。物損事故だけでございます。

以上、報告にかえさせていただきます。

○議長（高橋通夫君）　これより質疑に入ります。なければこれをもって報告第６号、交通事故（日野市高幡２５番地先路上の市の義務に属する事故）の専決処分の報告の件を終わります。

これより請願第６０－９号、無認可保育室の助成に関する陳情の件を議題といたします。

請願の要旨は、お手元に配付しました印刷物のとおりです。

請願第６０－９号の常任委員会への付託は、会議規則第１３８条の規定により、議長において厚生委員会に付託いたします。

これより請願第６０－１０号、「国家機密に係るスパイ行為等の防止に関する法律案」に反対する日野市議会の意見書を求める請願の件を議題といたします。

請願の要旨は、お手元に配付しました印刷物のとおりです。

請願第６０－１０号の常任委員会への付託は、会議規則第１３８条の規定により、議長において総務委員会に付託いたします。

本日の日程はすべて終わりました。

本日はこれにて散会いたします。

午後９時１９分散会

9月18日　水曜日　（第4日）

昭和６０年
第３回定例会

日野市議会会議録　（第23号）

９月１８日　水曜日　（第４日）

出　席　議　員（２８名）

１番	橋本文子君	２番	福島敏雄君
３番	小俣昭光君	５番	谷　長一君
６番	古谷太郎君	７番	馬場繁夫君
８番	馬場弘融君	９番	高橋徳次君
１０番	旗野行雄君	１１番	一ノ瀬　隆君
１２番	板垣正男君	１３番	鈴木美奈子君
１４番	川嶋　博君	１５番	飯山　茂君
１６番	夏井明男君	１７番	黒川重憲君
１８番	古賀俊昭君	１９番	市川資信君
２０番	藤林理一郎君	２１番	名古屋史郎君
２２番	竹ノ上武俊君	２３番	米沢照男君
２４番	中山基昭君	２５番	大柄　保君
２６番	秦　正一君	２７番	奥住芳雄君
２８番	石坂勝雄君	３０番	高橋通夫君

欠　席　議　員　（なし）

欠　　員

４番　　２９番

説明のため会議に出席した者の職氏名

市長	森田喜美男君		
助役	赤松行雄君	収入役	加藤一郎君
企画財政部長	前田雅夫君	総務部長	伊藤正吉君
市民部長	佐藤智春君	生活環境部長	坂本金雄君
清掃部長	藤浪竜徳君	都市整備部長	結城邦夫君
建設部長	中村亮助君	福祉部長	高野隆君
水道部長	永原照雄君	病院事務長	大貫松雄君
教育長	長沢三郎君	教育次長	小山哲夫君

会議に出席した議会事務局職員の職氏名

局長	岩沢代吉君	次長	馬場守君
書記	田中正美君	書記	土方留春君
書記	谷野省三君	書記	串田平和君
書記	佐々木茂晴君		

速記委託先　住所　東京都立川市曙町一丁目10の3

立川速記者養成所　所長　関根福次

速記者　田辺雅子君

議事日程

昭和60年9月18日（水）

午前10時開議

日程第1　一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1

午前10時14分開議

○議長（高橋通夫君）　本日の会議を開きます。

ただいまの出席議員21名であります。

これより日程第1.　一般質問を行います。

一般質問1の1.　再び私道の固定資産税、都市計画税は非課税にせよ、との要求についての通告質問者、板垣正男君の質問を許します。

〔12番議員登壇〕

○12番（板垣正男君）　通告質問の順番1番でございますが、ひとつよろしくお願いしたいと思います。

私は、再びこの問題を取り上げるわけでございますが、昨年の12月にも同じような趣旨の質問を行いました。市側の考えもただしたわけでありますが、今回は問題点をしぼって質問を行っていきたいと思いますので、積極的な市側の答弁を期待したいと思います。

私道の固定資産税、都市計画税は非課税にせよとの要求についてということでございます。この問題は、昨年の12月に固定資産税の評価替えに伴う問題に関連いたしまして質問を行いました。一般的な私道の非課税措置も講ぜられているようにも伺ってまいっているわけでありますが、課税の基本となる実態に合わせた課税制度がとられているというふうにも伺っているわけであります。そこで、分筆されているされてないにもかかわらず、公道並みに私道が利用されているという土地は、たくさん市内にあるわけでございます。特に集合住宅、一般にマンションの建設が進んでまいりますと、そういう土地というのがふえてまいります。昭和53年に日野市がつくりました建築指導要綱、町づくり指導要綱に基づきまして、私道の分筆、分離、公道化というようなことについては、かなり整理されて処理されたというふうにも伺っているわけでありますけれども、それ以前に造成された住宅地、あるいは集合住宅等の未処理のままの用地というのがあるわけでございます。私が住んでいる住宅もその一つでございますし、市内にはそういう個所もたくさんあるわけでございます。

そこで、集合住宅の場合の道路として利用されているこの用地、いわゆる私道でございますが、一般住宅の私道と同じように利用されているわけでありますから、当然集合住宅の私道についても非課税の処置をするということが、今日の実態に合った方法やり方ではないかと、このように思うわけであります。そういう観点からも御質問を行いましたし、問題も提起をして

まいっていたわけでありますが、市側でも鋭意努力検討が行われているものと私は想像してまいってきたわけであります。そこで、そういう点を一つ中心に市側でも答弁いただきたいのでありますけれども、その前に、いわゆる私道の扱いが今日どのようにされているかということを一つ伺っていきたいと思います。仮に非課税措置がとられているということでございますならば、具体的な手続方法等について教えていただきたいと思うわけであります。

3点目に、集合住宅の私道の扱い。私道もいろいろ形態がございます。たとえば公道から公道に抜けているというような場合。公道に抜けないけれども、私道に抜けるというような場合もございますし、それから、袋小路になっているものもございます。車返しがつくられてあるところもありますし、それがないところもある、というふうにさまざまでございます。さらには、１００戸近い住宅が私道に隣接するという場合もございますし、わずか１０数戸、２０軒足らずの戸数の場合もございます。いろいろ形態はあるわけでありますが、形態によって違うような措置をとるのか。それとも形態を問わず2戸以上不特定多数が利用できるという状態であるならば、それを対象とするという考えにあるのかどうか、というようなことなども含めて、市側の取り扱いについて御説明をいただきたいと思います。

以上3点でございますが、ひとつよろしくお願いしたいと思います。

○議長（高橋通夫君）　板垣正男君の質問についての答弁を求めます。市民部長。

○市民部長（佐藤智春君）　ただいまの3点につきましての御答弁を申し上げたいと思います。

まず第1点の御質問でございますけれども、御承知のとおり固定資産税等を非課税とする私道の非課税措置につきましては、地方税法の第３４８条第2項第5号に、いわゆる公共の用に供する道路であるかどうか。これらを基準に判断をしております。ここに言う「公共の用に供する」とは、その道路が道路として使用するに当たって何ら制約がないこと。さらに、ほかの公道への連絡状況、あるいは周囲の土地との利用状況から見て、客観的に不特定多数人の利用に供されることを条件としておると、こういうことでございます。

これらの取り扱いにつきましては、行政実例などで、すでにかなり多くの認否の基準が示されております。しかしながら、議員さんのただいまの御発言のように、ここ数年来土地開発が盛んに行われまして、道路等の状況が以前よりますます多様化してまいります。東京都を初めといたしまして、２６市各市におきましても、その判断に現在苦慮をして、ここに言う「公共

の用に供する道路」が、かなり広義に解釈する傾向になってきたということは事実でございます。したがいまして、いわゆる共用の私道、いわゆる行き詰まりの私道につきましても、そこに複数の家屋が接面し、通行に何ら制約のないものにつきましては、非課税道路に準じた扱いとしておるというのが現状でございます。

日野市におきましても、これら取り扱いにつきましては、一般の住宅地などと大規模団地などとの二通りの方法を現在講じておるわけでございます。まず一般の住宅地につきましては、東京都と同様に複数の家屋が接面　、その利用が不特定多数人の利用に何ら制約がない道路であることを条件に非課税扱いとしておるわけでございます。それから、大規模団地等の取り扱いにつきましては、その団地内が住宅部分、あるいは道路部分、あるいは駐車場部分などそれぞれ分筆され、その利用が明確なところなどにつきましては、現状地目に即した原則的な課税をしておるというのが現状でございます。また、すべての住宅用地を分筆せずに、そのまま使用しているところなどにつきましては連檐1宅地とみなしまして、住宅部分、道路部分あるいは駐車場部分などを、すべてを含みまして小規模住宅用用地といたしまして、課税標準額の評価額の4分の1ということで課税しているのが現在の現状でございます。第1点目につきましては、現状の報告をもってお答えをさしていただきたいと、こういうことでございます。

2番目の、非課税措置のための手続はどのようにするのかということでございますけれども、その土地が分筆されまして公衆用道路として登記されているところは、登記所からの定期的な通知によりまして現地調査を実施いたします。したがいまして、所有者の申請がなくても事務的に非課税措置をとるということができるわけでございます。分筆をされてない土地につきましては、道路として利用している部分及び地積などが不明確なためでございますので、所有者から測量図等を添付して非課税申告書の提出を求めまして、現地調査を行い課税のための仮分筆という方法をとり非課税としておるわけでございます。いずれにしてもいろいろとケースがございますので、そのようにさせていただいているということでございます。

それから、3番目の件でございます。集合住宅の私道の扱いということでございますけれども、地目の認定につきましては1筆ごとに行いまして、その大部分が何に使われているかということで認定するのが原則でございます。団地につきましても、それぞれ分筆されれば現状に合った措置がとれるものと考えております。しかしながら、先ほどのお話にもございましたように、諸般の事情から分筆せずに利用されている住宅団地もかなり多く現状あると考えており

ます。これらの措置につきましては、東京都でも現在では１宅地とみなしまして、宅地として課税しておるというのが現状でございます。

以上でございます。

○議長（高橋通夫君）　板垣正男君。

○１２番（板垣正男君）　一般的な私道に対する非課税措置、市側の現状についても説明があったわけでございますが、要するに私道の非課税申請を行う。その際、測量図等を添付して申請すれば、市の調査をもって適当と認められるところであるならば、非課税措置をするということのようでございます。私は、その上に立ちまして集合住宅の私道の扱いをどのようにするかということで質問を行っているわけでございますが、いまの部長の説明でもございますように、まだ明確に一般住宅私道と同じように非課税にするということまでには至っていないようでございます。集合住宅に入居するかどうか。そこに住むかどうかということは、もちろん入居者の自由の判断に任せられるわけでありますけれども、そういう住宅形態にするかどうかということについては、これは入居者の責任にかかわるものではないわけでございます。しかも、道路として利用される用地を分筆されているかどうかというところまでは、なかなか調べられないというのが入居する際の実情ではないかと思うわけであります。いろいろと用地を調べる。住宅を調べるという中で分筆されてないということがわかってくるわけでありますけれども、現状はどうかというと、実際は道路と同じように不特定多数が利用する。こういうふうに供されているわけであります。

地目の問題で言いますと、たとえば駐車場に利用されているところは、一般的には雑種地というふうになるようでございますが、集合住宅の場合は当然住宅が集合するわけでありますから、駐車場用地も何台か一緒に設定されるということになるわけであります。１戸ずつの駐車用地をそれぞれ設置するということにはとてもならないわけでございますが、それでも駐車場用地というのは、住宅戸数に等しいだけの駐車場が設けられるということはないんですね。これは、どこの団地でもそうだと思うんですけれども、たとえば２５０戸の集合住宅は、じゃあ２５０台分の駐車場がつくられるかというと、決してそうではないと思うんです。ところが、一般的には１戸１駐車場を設ける場合もあるわけでありますし、それができるようになっているわけであります。ところが、集合住宅の場合は共用地というようなことなどもございまして、なかなか個人の判断で駐車場をつくるということもむずかしいわけでございます。どうしても

一定とスペースをとった共同の駐車場を設ける。こういうふうにもともとできているわけでありますから、個人の判断で勝手に駐車場をあちこちにつくるということにはなっていかないわけであります。しかも、駐車場というのは小宅地と認められた用地内にも、これはつくるわけでありますから、１戸建ての住宅の場合はそのまま小住宅ということでは地目は決定されるわけです。ところが、集合住宅の場合だけが駐車場は地目変更を行う。雑種地として見なければいけないという理由は一体どこにあるのかということに私は疑問を抱かざるを得ないわけであります。これは、昨年来質問を行うことを通じて問題を提起しているわけでありますから、この住宅内での駐車場というのは、これはあくまでも宅地とみなすというふうに見ても、私は自然ではないかと思うわけであります。

私道の公共用道路並みの非課税というのは、最近各自治体ともかなり実施してまいっております。東京都もそのような措置を講じたというふうにも伝えられておるわけであります。しかし、集合住宅の場合だけがなかなかその適用を受けられない。公道から公道にちゃんと通じているかどうか。そのところがポイントであったというようなことなどもあったわけでありますけれども、それがだんだん崩されてきているようでもあります。袋小路であったとしても公道並みの用地に扱うという考え方がだんだんと広まりつつあるわけでございますが、車返しも設置されているというところもあるわけでございます。

たとえば議会にもかつて提案されて認定された個所もございますが、私道から市の公道に移管するという場合、いろいろと条件がございますが、しかし、その立地条件によっては袋小路であっても公道として扱うという場合もございました。これは、議会でもそのように認定したわけでございますが、道路の形態は先ほど部長も申しておりましたように、いろいろと幅が出てまいりまして単調にはいかないというのが実態ではないかと思うわけであります。行政実例の一、二が、部長からも説明ありましたように非課税に該当するという道路の、昭和２６年９月１４日と、昭和４２年４月５日に出されております行政実例にはこのように述べております。「特定人が特定の用に供する目的で設けた道路であっても、その道路の現況が一般的な利用について何らの制約を設けず開放されている状態にあり、かつ当該道路への連絡状況、周囲の土地の状況等から見て広く不特定多数人の用に供される性格を有するものについては、公共の用に供する道路に該当する」と、こういうふうにはっきりと行政実例も出されているわけでございます。これは、一般住宅の場合というふうに特定しているわけでもございませんし、集合住

宅は該当しないと、こういうふうにも特定していないわけでございます。ですから、集合住宅の場合も同じような扱いを行ってしかるべきものではないか。このように私は考えているものでございます。速やかにこうした住民の声を取り上げて、市側でも非課税措置が講じられるように強くお願いしたいわけでございますが、この点での部長の再度の答弁をお願いしたいと思います。

○議長（高橋通夫君）　市民部長。

○市民部長（佐藤智春君）　お答えをいたします。おっしゃるとおり集合住宅の取り扱いにつきましては、現状ではそれぞれ異なるいろいろな要素もあろうかと思います。そういうことで、各市ともその取り扱いには若干の差異が生じておることは事実でございます。今後私どもといたしましては、国、都、あるいは他市との関係も踏まえた中で、団地内の原則的な均衡、あるいは団地内の現状等を検討いたしまして、御質問の趣旨はよくわかりますので、さらに研究、協議を重ねていきたいと、このように考えております。

○議長（高橋通夫君）　板垣正男君。

○１２番（板垣正男君）　ただいまの私の質問と、事務当局の答弁を踏まえまして市長の見解をお伺いしておきたいと思います。

○議長（高橋通夫君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　いろいろな住居の形態で都市化が進み、また、道路等において複雑な面を生じておると思います。地方公共団体である自治体は営利を追求する機関ではありませんから、なるべく公的なものには、個人の負担にならないようにということが一つの原則であろうと思います。したがいまして、公共の度合い――よく集合団地等で、ここは団地内であるからよその車は入らないようにとか、あるいはスピードの出し過ぎをしないようにとか、そういう団地管理的な標識も出されているわけでありまして、その際は、この道路は自分たちの広場として共有の部分である、したがって、公共の用に供してはいない、と。こういう意思が働いていると思うのであります。マンション等の廊下その他共有部分と、こういうこともおのずからあるわけでありますし、言われる観点からの要求は、やはり一つの申請主義によってそのことを明確にした上で非課税に該当させるべきもの、あるいは課税対象に該当させるもの。こういう仕分けを明らかにするということが望ましいと思っております。いろいろ複雑なこともあると思いますし、御指摘のところがかなり非課税に該当する範囲にあるものもあると思い

ますので、実情に即し今後なるべく整理を進めていきたい、とこう考えております。

一方、利用されて集合住宅団地等で、その道路の見解について内部的な管理を、これを明らかにされるということも大切だと思います。一般に通過道路として広く公共の用に供されている場合は、これは当然非課税になるべきものというふうに扱えると思いますので、そのような事務的処理を役所側のみにゆだねず、やはり申請をしてこられるということが一つの解決のきっかけをつくり出すことになると、このように考えます。法的な知識を持っているということではございませんが、一般的に考えてそうあるべきものではないかと思っておりますので、そういう意味での見解を申し述べたところでございます。

○議長（高橋通夫君）　板垣正男君。

○１２番（板垣正男君）　市長の考えもわかりました。事務当局も鋭意今後研究していただきたいと思います。

市長がただいま答弁の中で、交通規制で看板を出すということでちょっと触れておられましたけれども、これは、交通安全上の問題で看板を出して交通規制をするということであって、何も土地の占用を主張して他の人には使わせないということではないと思うんです。このことと非課税の処置の問題とはちょっと違うんではないかというふうに私は受けとめておりますので、ひとつ市長の方でもお考えになっていただきたいと思います。住民の申請によって市側でも必要な検討を加え対応するという基本的な考えも示されました。大いにそういう点は主張すべき点主張し、また、改善すべき点改善するという住民側からの働きかけなども行って、適切な措置がとられるよう今後もお願いしておきたいと思います。

以上をもちまして私の質問を終わります。

○議長（高橋通夫君）　これをもって１の1.　再び私道の固定資産税、都市計画税は非課税にせよ、との要求に関する質問を終わります。

次に１の2.　日野駅の改造計画についての通告質問者、板垣正男君の質問を許します。

○１２番（板垣正男君）　日野駅舎の改造問題は、日野の議会でも久しく論議をされてまいりました。とてもとてもだれだれ議員に任せるというわけにはまいらない大きな問題でもあるように思いますので、私も再三再四この問題で議会で論議を行ってまいってきているわけであります。というのは、議会はもちろんでありますけれども、市の当局も一緒になって国鉄日野駅の問題を取り組まなければ、到底駅利用者の利便、駅周辺の整備とあわせた改造計画と

いうのが進んでいかないのではないか、こう考えているわけであります。

昭和４８年当時だったと思うんでありますが、もうすでに１０年以上も前の話であります。私が議員になってもう１６年になるわけでありますが、その後いろいろと議会での論議、議会に特別委員会が設置されたという経過もございますが、そういう経過を踏まえて市の内部に日野駅の改造問題でプロジェクトチームができた、鋭意検討していきたい、こういう表明などもあったわけであります。私たちは大いに期待を持ちまして、議会でもそのチームの取り組みの状況などを伺ったりしてまいったわけであります。しかし、その後、神明上の区画整理事業の完了もございました。駅周辺のバスの発着なども、最近新しい路線が設置されたということなどもありまして、乗降客もふえてまいりました。それだけに駅舎の改善は今日の町づくりや、駅利用者の安全、サービスの向上、そういう点からの利便を要求する声もたくさんのぼってきているわけであります。私などは、再三再四そういう意見を聞いておりますし、また、相談も寄せられていると、こういう実情でございます。

駅舎の改造はなかなか進まなくても、現在の駅舎においてもサービスの向上を図るということも、これは当然のことでございまして、たとえばホームの上屋の設置を初めといたしまして、防風壁の設置の問題、駅構内の路面の整備の問題、さらには改札口のわきに設置されております自動販売機が、中央線の中でも一番古い自動販売機が設置されておりました。そこで、私も国鉄西局に参りまして、あの販売機を現代的なものにかえてもらえないかと。こういうふうに要求いたしましたら、国鉄側も大変好意的な対応を示してくれまして、千円札でも買うことのできるこういう券売機にかえてもらうということがありました。改札口の幅も、車いすが通れるように改善されたということもございます。これは、障害者の団体の皆さん、あるいは障害者の皆さんが実際に駅を利用すると車いすじゃ通れないという、そういう狭隘な改札口であったのでありますけれども、それも改善することができました。これは、国鉄がやっぱり利用者のことをよく考えていてくれているんだ、こういうふうな印象も、また一面では持ったわけでありますから、私たちが要望を行っていけば、国鉄もやはり改善に対応してくれる、こういうことを物語っているんではないかと思うわけであります。

そこで、じゃあ駅舎はなぜなかなか改善されないか。これは、国鉄の駅の中でも文化財に指定されているような歴史物だというふうにも伺っております。これはこれで大いに価値のあるものだと思うわけでありますが、そのことと、やっぱり駅の利用ということもあわせて考えな

ければならないわけでありますから、別個に文化財の保護も考えてよろしいんではないかと思うわけであります。それで、その一方の改善の方向も、また進めなければならないというのが駅周辺の住民の皆さん、あるいは駅を利用される皆さん等しく考えておられることと思うわけであります。

最近、八王子の東小宮から日野駅に通ずるバス路線も新設されました。工業団地からの駅利用者もふえたわけでありますし、将来日野駅を利用するであろうと思われる――八王子にも大きな団地が建設されるという計画も伺っているわけであります。一層駅の利用者はふえるでありましょう。そうなってまいりますと、あの狭いガードをくぐって駅を利用するという駅周辺の現状を、何としても変えていかなければならない。歩行者の安全を第一に考えて、もっともっと利用しやすいものにする。こういうことが必要だと思うわけであります。私が議員になって今日まで、この問題を取り上げ続けているのはそういう観点からのものでもございますだけに、市長も十分御理解をいただいているものと考えております。

そこで、具体的に質問を行っていきたいと思います。けれども、駅舎の改善計画というのは国鉄にただしてみますと、国鉄は協議に応じると、こういう態度を示しております。しかも、西局の相当の地位にある方でございますが、しかし、じゃあ改善するには費用が必要だ。その費用の点については国鉄は責任は持てない。こういう考えを示す。しかし、私は責任は持てないといっても、１銭も出しませんよということではないと思います。国鉄側に必要性を認めて計画に乗せるならば、国鉄は当然駅利用者のために必要な改善を行う予算を計上するというのもあたりまえの話であります。何十億何百億とかけて新幹線もつくりますし、成田空港のあの新幹線、いまだに利用されてないようなところにも、何百億というお金をかけて駅をつくって野ざらしにさしておくわけでありますから、そういうむだ使いをもっともっと倹約検討して、必要な個所に予算を振り向ける。こういうことも行うならば、私は容易に日野駅の改善を行い得るものだと思うわけであります。

その際、ガードの拡幅というものも一緒に考えていかなければならないと思うわけであります。先般福島議員も一般質問で取り上げたようでございますが、どうしてもだめかというのではなくて、必ずこれを、ガードを広げて歩行者の安全に供する、こういうことが私は大事だと思うわけであります。これは、恐らく単独の事業だけではなかなか進まないではないかという印象を私持っておりますので、駅舎の改善にあわせてガードの拡幅も考えていく必要があろう

かと思います。周辺の整備なども課題にのぼっているようでございますが、それらとの関係も考えるならば、これからの一つの大きな課題として取り組む、そういう機会ではないかと思うわけでございます。市側の考え、そして、現在どのような国鉄との協議が行われているか。ひとつ御説明をいただきたいと思います。

○議長（高橋通夫君）　板垣正男君の質問についての答弁を求めます。企画財政部長。

○企画財政部長（前田雅夫君）　お答えをいたします。

日野駅の改良計画でございますけれども、経過につきましては、いま板垣議員さんがおっしゃったとおりでございます。現在、日野駅の改良の方法としては二つ考えられるわけでございます。一つは、いま議員さんもおっしゃいましたように、いわゆる日野市が請願駅として応分の負担をして改良する方法。あと一つは、現在市が考えております森町の再開発を含めて日野駅を改良する方法。こういったことを現在検討しております。現在森町の再開発とあわせて駅改良ができないかということにつきまして、住宅都市整備公団の方に、その計画の検討を依頼しているということでございます。早急に方針といいますか、方向づけをしたいというふうに考えております。

それから、２番目の日野駅のガード下の国道の拡幅でございますけれども、この件につきましては建設省並びに国鉄の方に、市長名で拡幅の文書要請を行いました。さらには市長が――区画整理事業の関係もあるわけでございますけれども、これにあわせまして、事務を担当しております相武国道事務所の方にも陳情したという状況でございます。この前の議会でも説明をいたしましたけれども、国鉄は現在分割民営化の大きな課題を背負っておりますし、また、国は財政の大きな問題も抱えているわけでございます。なかなか先が見えないというような状況でございます。しかしながら、住民の要望は切実なものでございますので、私どもも精力的に今後この整備につきまして努力をしてまいりたいというふうに考えております。

○議長（高橋通夫君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　日野駅の駅舎を、現在の駅舎を初めまして駅構造を改善するということは、日野市の都市計画上重要な課題であるという認識は絶えず持っておるわけであります。駅舎は、できれば線下駅にして、そして、両面から乗降客が入れるようにすると。そういうことがベストだと思っているわけでありまして、そのことをいま国鉄当局に交渉を持っても、なかなか当事者能力として回答は出てこないではないかと思いますので、私は、日野市

の主体性において、つまり財政負担は日野市が行うと。（「軍資金をつくれよ、軍資金を」と呼ぶ者あり）それから、また財政の運営は駅舎の高層化でありますとか、そういうことによって成り立つ仕組みを考えると。こういうことをいま頭に描きながら、可能な方法をいま模索をしておるということであります。具体的には住宅公団にも大きく協力をいただきたいと手法を考えておるところであります。

現在の駅舎そのものは、これは確かに文化財としても価値のある建物だと思いますので、これは、日野市がいずれ受け取って、しかるべきところに文化財として再建築を図ると。そして、何か文化財の展示場等にすることもできると、このように思っております。（発言する者あり）ただではもちろんいけないかもしれません。土地はひとつ日野市に――その跡地の土地は一たん日野市に譲っていただいて、日野市が、その土地をいま言いますような駅ビル等の貴重な財産――材料として、そして、設計をつくることを可能ならしめると、このように考えたいと思います。

森町の、すぐ甲州街道を分けて森町地域の事柄もありますので、何よりも中央線という貴重な交通機関に最も便利のいい場所にあるということは需要が十分あり得るということになりますので、この事業は私は可能であるというふうにいま踏んでおるわけであります。甲州街道のガード下部分の狭隘も、そういうことと一緒にして解決を図る、こういうことが考えられますし、あわせて、もっと２１世紀の半ばごろには複々線化という課題も生まれてくると思いますので、そういうことを総合的に考えまして、大きな日野市将来の一つの玄関としての計画を持つということが大切だと、このように思っております。

○議長（高橋通夫君）　板垣正男君。

○１２番（板垣正男君）　私は、実は市側がこれほどまで積極的な答弁をするとは予想はしていなかったのでありますけれども、企画財政部長の答弁、市長の答弁とも、日野駅の改善問題はガードの拡幅、あるいは森町の整備とあわせて総合的に考えていることが示されました。大変私としても心強い限りでございまして、ぜひ市長の任期中にこの課題をやり遂げていただくように私は期待を申し上げておきたいと思います。（「もう1.期やれ」と呼ぶ者あり）しかも、２１世紀の展望まで示されたわけでありますから、これほど大きい話もないわけでございますし、また、展望を示してくれたということにもなるわけであります。場合によっては次期もという声も、あるいは上がるかもしれませんが、しかし、次期を待たずして早目に着手

をしていただきたいと、こうお願いしておきたいと思います。

特に、私は甲州街道のガードの拡幅問題は、森町の整備とあわせて考えるということも、一つの大きなポイントになるかと思うわけでありますが、問題は建設省の考えも十分考えていかなければならないのではないかと思います。と申しますのは、これまで私たちが住民サイドで建設省の担当者と何回か話し合いを持ちましたが、その都度甲州街道の拡幅よりも、１・３・１の道路建設が優先する。こういう答弁に終始してまいっていたのであります。そういう考え方を駅周辺の整備、ガード下の拡幅という点で優先させる。こういう考え方の転換といいますか、重要性を認識させるということも重要なポイントではないかと思うわけであります。私たちも引き続きそうした点からの要望を建設省側にも強めてまいりたいと考えておりますが、市側でも一層の努力をお願いいたしまして、私の質問を終わります。

○議長（高橋通夫君）　これをもって１の２．日野駅の改造計画に関する質問を終わります。

次に１の３．栄町に予定されている都営住宅建設計画と公共施設建設見通しについての通告質問者、板垣正男君の質問を許します。

○１２番（板垣正男君）　現在栄町に予定されております都営住宅の建設用地は、遺跡の調査が進められております。聞くところによりますと、来年いっぱいかかるという話なども伺っているわけでありますが、これは、後ほど詳しく教育委員会から説明いただきたいと思うわけでございますが、昨年度から始まりました遺跡の調査も、３年かかるということにもなっていきそうでございます。都営住宅の建設の要求にあわせて公共施設建設の要望が高かったのでございますが、遺跡の調査が始まった時点で、これらの見通しもある程度出てまいりまして、駅周辺の住民の方、あるいは強く要望されたり、ＰＴＡ関係の運動された方々に一定の見通しを与えたということにもなってきたと思います。

私も、昭和５２年、５４年、５５年、過去３回にわたってこのところに関係する質問を行ってまいりました。今回で４回目ということになるわけであります。昭和５３年に神鋼電機が移転いたしまして、都の住宅局に土地が移ったわけでございますが、それ以来東京都の遺跡調査が大幅におくれた。市側の努力などもあって昨年から遺跡の調査が始まったということになったわけでありますが、その間、ブランクと申しますか、見通しがほとんど立たない。こういう状況が続いたわけでございます。私も昭和５５年の質問以来――６０年ですから、５年ぶりに

この問題をさらに取り上げるということになったわけでございます。いよいよ建設計画も具体化されてまいったようでありますから、今議会都営住宅の建設計画と公共施設の建設の見通しが、現状どのような展開が行われているか。ひとつ説明をいただきたいと思うわけでございます。

○議長（高橋通夫君）　板垣正男君の質問についての答弁を求めます。教育次長。

○教育次長（小山哲夫君）　教育次長から、前段の栄町の遺跡調査の現状と見通しについてという御質問が出ましたので、私の方からその点につきましてお答えをいたします。

ただいまの御発言にもございましたとおり、日野市栄町の都有地約２万２，０００平米ほどでございますけれども、これにつきましては、いわゆる遺跡の包蔵地という形になっております。したがいまして、都営住宅を建設する前に先立って、法律上遺跡調査をする義務がございます。昭和５３年度東京都の方にこの土地が移りましてから、当時の遺跡調査会の方で遺跡調査の表面調査を行ったわけでございます。一応表面調査が昭和５３年度に終わりましたので、それを受けまして、いわゆる本調査をすることになったわけでございます。ところが、御案内のとおり遺跡調査会の団長が昭和５５年３月にやめられました。そこで、遺跡調査会の立て直しという問題もございました。あわせまして日野市の遺跡調査の調査方法につきましても、いろいろと問題点がございました。日野市の遺跡調査会が従来は包蔵地全体の調査を担当してまいりましたけれども、遺跡調査会の能力からして、遺跡調査全域を調査させるところに無理がございました。そこで、遺跡調査の調査方法を変えまして、日野市の遺跡調査会は、あくまでもいわゆる個人住宅、あるいは日野市の公共事業の開設に伴う包蔵地につきましては日野市の遺跡調査が担当いたしますと。他の大規模団地につきましては、それぞれの大規模団地をつくる原因者の方で遺跡調査会をつくり遺跡調査をしてもらいたい。いわゆる従来の集中方式から分散方式に変えたという経緯がございます。

そういうことで、実は昭和５５年に当時の落川の遺跡調査も日野市で担当してまいりましたけれども、これも東京都の土地でございますので、５５年の１１月には東京都の住宅局の方で遺跡調査会をつくってもらいたいということで調査会をつくりました。その際に、栄町の土地につきましても東京都の住宅局の土地である。あわせて栄町の遺跡調査会もつくってほしいということを要望してまいりましたけれど　ななかなか遺跡調査会の方としての団長その他の構成ができなかったという経緯がございます。そこで、私ども教育委員会といたしましては、精

力的に東京都の住宅局並びに教育委員会の方に対しまして、栄町の遺跡調査を早急にひとつやってもらいたいということをかねがね要望してまいりました。そこで、昭和５９年の６月２８日の日でございますけれども、東京都住宅局並びに東京都教育委員会の方の主体性を持たせました栄町遺跡調査会が発足いたしました。そこで、昨年の７月から遺跡調査の予備調査を東京都の方にお願いしてまいりました。その結果でございますけれども、昭和５３年当時は大分遺構、あるいは住居址、そういったものが出てくるであろうというふうな予想がされましたけれども、昨年の、いわゆる東京都の表面調査、予備調査によりますれば、比較的住居址は少ない。いわゆる古墳が大分出ておる。それから、遺物が約2,５００点ほど出ましたけれども、ほとんど摩滅等がありましてその辺の調査がわりあい５３年当時と比べてみて比較的少ないんじゃないかというふうな、こういう結果がございます。

そこで、昭和６０年度につきましては、この予備調査を受けまして本格調査に入りましょうということでございます。本格調査につきましては、２万2,０００平米のうちの半分、１万1,０００平米を昭和６０年度に本格調査をいたしましょう。残りました１万1,０００平米につきましては、昭和６１年度にやりましょう。つまり６０年６１年度２カ年間にわたりまして本格調査をいたしましょうということでございます。私もたまたま地元教育委員会の１員といたしまして、役員会にも出席し、いろいろと質問もし要望してまいりました。東京都の方といたしましても大分調査がおくれておりますということで、精力的になるべく早く調査を終えたいということでございます。したがって、栄町の方に、調査が終わった後に公共施設の建設につきましても、できることならば調査を早く終え、そして、一括して住宅等の建設を行ってまいりたい。こういうふうな要望がございますけれども、調査がおくれた場合には、調査が終わったところから部分的に住宅等の建設を行っていきたいというふうな予定でございます。

一応本格調査につきましては昭和６０年度、６１年度の2カ年間にわたっておりますけれども、調査のいかんによっては、あるいは何年か延びるかもしれないということでございます。したがって、一応予定といたしましては昭和６０年度６１年度という形になっておりますけれども、若干調査のいかんによっては延びる可能性があるだろうということでございます。大体数年以内には遺跡調査を終えたいというのが現状でございます。

以上でございます。

○議長（高橋通夫君）　企画財政部長。

○企画財政部長（前田雅夫君）　都営住宅の計画の内容につきまして御説明申し上げます。

所在地につきましては、ただいまお話がございましたように神鋼電機株式会社の東京工場が豊橋に移転をいたしまして、その関連で社宅用地が空きまして、東京都住宅局が昭和５４年に取得したというものでございます。栄町の二丁目でございます。面積といたしまして2万2,284平方メートルでございます。現在東京都が日野市の方に提示してございます建設戸数は、総戸数１８９戸でございます。地上3階建ての１１棟でございます。建設の仕方といたしましては第１期といたしまして９棟１６５戸を建設し、さらに第２期といたしまして２棟２４戸を建設するというものでございます。２期に分ける理由といたしましては、まだ公共下水道がこの地域にはもちろんございませんので、当面は独自の処理施設をつくって処理をするわけでございますので、将来公共下水道ができた段階では、この施設を取り壊し、２棟２４戸を追加すると、そういうものでございます。

この都営住宅の建設につきましては、昭和５３年でございますけれども、建設計画に係る基本事項ということで、日野市の方から都に要望してございます。その中で、特に地域の住民の方に関係のあることを申し上げますと、用地４００平方メートルを市に提供していただきたいという項目がございました。この件につきましては、一方かなり時間も経過しておりますし、周辺の状況も変わっておるわけでございます。現時点で、私ども考えておりますのは、東京都が地域開発要綱というものを持っております。この地域開発要綱をもとに、地域の市民が使う施設の見直しをいたしたいというふうに考えております。そんな状況でございます。

○議長（高橋通夫君）　板垣正男君。

○１２番（板垣正男君）　遺跡調査の進行状況と見通しの説明もございました。調査の概要については大体わかったわけでございますが、６１年度におさまらないで、より延びる可能性もあるということでございます。これは、必要な調査がまだ継続されるということでもあるでしょうからやむを得ないとしましても、しかし、希望とすれば調査がスムーズに６１年度完了できるように努力をしていただきたいと思うわけでございます。

都営住宅の建設についても概略説明がございましたが、肝心の公共用地の提供と施設の建設の見通しという点でございますが、つくった後の管理なども当然関係してくるかと思うわけでございます。ただ単なる集会施設ということなのか。あるいはもっと多面的な利用のできる施設

になるのかまだはっきりしませんが、現在市側と東京都が打ち合わせなり協議を行っているというのは、いま部長が説明したような範囲にとどまっているんですか、さらに詳しい協議が行われているということはないのかどうか。本当の概略的なところで交渉がまだ進んでないということなのかどうか。もうちょっとその辺を詳しくもし報告ができれば説明していただきたいと思うんです。

○議長（高橋通夫君）　企画財政部長。

○企画財政部長（前田雅夫君）　現時点でのお話を申し上げますと、先ほど申し上げましたけれども、都営住宅建設に関連する地域開発要綱というものがございます。東京都はこれをもとに市内の都営住宅の建て替え計画を持っておりますので、その全体計画を踏まえて、関連する地元供用施設といいますか、そういった市民施設の話し合いをしたいという申し入れを受けている段階でございます。

○議長（高橋通夫君）　板垣正男君。

○１２番（板垣正男君）　まだ余り詳しいところまで話は進んでないようでございますが、今後さらに協議は深まっていくものと思います。そこで、４００平米の提供を申し入れたということがございますが、これも見直すということになってまいりますと、どういうような用地面積になるのか。したがって、施設の規模というものもまだはっきり浮かんでこないと思うわけであります。私は市長にお伺いしておきたいと思うんですが、かつて栄町周辺も第三小学校区にあったころ、いわゆる小学校区に文化施設をつくってほしいというＰＴＡを中心とした要望がございました。今日までそれは生きているわけでございますが、これにこたえるべく都営住宅建設にあわせた公共用地の施設建設が期待を持たれてまいっていたわけであります。話がまだ煮詰まっていないという現時点での答弁は、まだ概略の域を出ないということになるかせしれませんけれども、市長の考えとして、こうした住民の要望にこたえる一つのチャンスではないかと思うのでありますけれども、どのようにお考えになっておられるか。具体的なイメージなどを持っておられれば、そういうことも含めてひとつ考えを聞かしていただきたいと思うんです。

○議長（高橋通夫君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　神鋼電機社宅の跡地を東京都住宅局にあっせんしたのは日野市であります。それは、あの地域に一つの人口の、何て言いましょうか――人口をふやして、

そして活力をつくりたいという一面と、それから、それをきっかけに公共機関同士の協議によって、あの地域に公共施設の実現を図りたいと、こういうことが基本になっております。２・２・１という都市計画道路のこともございますし、それから、雨水雑排水の排水施設のことも、その際関係する範囲においては一つのきっかけができると。このように期待をして、早く文化財調査が終って都営住宅建設の協議が積極的にできるときを待っていると。こういう状況であります。

今日、日野市内の小中学校は空き教室が生じてまいりますし、中学校も間もなくそういう時期に入るわけであります。そうなりますと、このときにある程度の地域の近代化、あるいはそのための人口増加も受け入れて、つまり学校等の施設に収容能力が余裕があるということであります。そういう条件でございますから、地域地域にある程度の人口もふえるが日野市の発展に役立つという状態をつくり出すことが大切であると、こう考えております。そういう観点から、都営住宅がつくられます際に、いろいろな期待が確かにあるわけでございますので、学校に対します公共負担等はもう必要がないわけでありますから、別途の地域に活力をつくり、文化や福祉の活動がともにできる、そういう条件の施設に切り替えていきたいと、このように考えております。

いずれにいたしましても早く必要な調査が終わって、そうして、また半分終われば、その半分の着工もできるという可能性もあるわけでありますから、早急にそういう協議ができる機会を設けたい、このように考えておるところでございます。

○議長（高橋通夫君）　板垣正男君。

○１２番（板垣正男君）　都側との協議を鋭意進めて、住民の要望にこたえられるようにしていただきたいことを最後に強く要望いたしまして、この質問を終わります。

○議長（高橋通夫君）　これをもって１の3.　栄町に予定されている都営住宅建設計画と公共施設建設見通しに関する質問を終わります。

次に１の4.　中小企業振興条例の制定についての通告質問者、板垣正男君の質問を許します

○１２番（板垣正男君）　通告いたしました質問の４点目、中小企業振興条例の制定について質問を行います。きょうの質問は、条例の制定を中心に市側に提起をするものでもございますだけに、余り細かい具体的な点にわたっての提起は控えたいと思います。基本的な考え方、今後の中小企業をどう振興させるか。行政側としての姿勢を伺っておきたいと思います。

地方自治法の第２条第２項には地方自治体のやるべきことを事細かに述べております。そして、第４項には地方自治体、特に市町村の義務的な事項を含まない項目について述べてあるわけでございますが、６項には都道府県の義務的な事項が規定されてございます。その中に「農林水産業及び中小企業その他の産業の指導及び振興、特産物の保護奨励に関する事務等」というふうに述べられておりまして、都道府県が責任を持って中小企業の振興のために必要な施策を行うよう規定されておるのであります。ですから、市町村にこの問題を提起し、市町村の施策として展開させようという場合、地方自治法に基づく義務的な事項ではないという解釈も成り立つわけであります。そのためにというふうに私は解釈もしているのでありますけれども、市町村の産業政策というものがなかなか思い切ったことができずに今日まできているのではないか。こう解釈もするのであります。しかし、その一方で、じゃあ都道府県が有効な今日の中小企業を振興させるだけの施策が行われているかどうかということになりますと、私はその点でもまた疑問を持つわけでございます。

今日の経済状況、経済構造から見ましても、中小企業の置かれている立場というのは非常に困難な状況にございます。私は多くを申し上げるまでもなく経営であり、あるいは生活実態というのは極端に不振業種もあるわけでございます。定期に政府が行っております産業統計資料というのがございますが、これらの資料を拝見しても中小企業の置かれている立場は非常に困難なものでございます。日野市のこれらの調査を見てまいりますと、個人営業あるいはごく小規模な企業ということが言えるかどうかわからないくらいの小規模な経営、ふえてはおるものの、これらの企業の経営の実態というのは大変切実なものがあるわけでございます。そこで私は、行政として基本的な中小企業に対する振興の姿勢を示す条例をもって基本的な立場を明らかにして、そこに基づいて具体的な施策を展開することが必要ではないかと考えるものであります。

先般日野市が実施いたしました住宅相談窓口というのがございます。これは、７月から実施されたわけでございますが、いわゆる一人親方と言われている職人の方々に対する仕事のあっせんを行うというものであります。これまでほとんど行政の光を当てることのなかった階層にも、今回その光を当てることができたとこのように私も考えるものでありますが、もっと広く考えるならば、勤労者互助会が創設されました。かなりの人たちが加入をしておりますけれども、これは、勤労者の暮らしを守るという観点からの施策であったわけでございますが、広く

見るならば未組織労働者の生活を守るということとあわせて経営の安定も図る、そういう役割りも果たしているものと思います。このほか各種の融資制度などもございます。これらの施策を展開する上で系統的に、そして、継続的に施策が展開され、市内の中小業者経営の安定と営業の振興を図る、そういう方向づけを持てないものだろうかと思うわけであります。それともう一つは、町づくりの面からの振興策ということも考えていかなければなりません。この点は、いろいろ関係者に伺っても大変むずかしい課題があるというふうに言われております。一つの自治体で、市町村段階でこうしたところまで踏み込んだ産業振興政策というのは、なかなか立てにくいものだというふうにも伺っていたわけでありますが、しかし、本格的な産業政策を展開しようということであるならば、町づくりの点からも取り組んでいかなければならないのではないかと思うわけであります。ですから、そういう点でのばらばらな行政施策であってはいけないわけでございまして、一つの方向、はっきりとした目的を持った町づくり、その他の施策もあわせて展開させる必要があるかと思うわけであります。

地方自治体、市町村段階における中小企業基本条例を設置しているところは、まだ全国的には少ないようでございます。私の伺っているところでも、東京でもわずか一、二実施している。こういう状況のようでございます。産業政策の立案のむずかしさということ。あるいは最初に申し上げましたように、地方自治法での市町村の位置づけ、こういう点なども関係あって、施策がなかなか前進しなかったということがあるのではないかと思うわけでございます。それで私は、市側の考え、産業政策を展開させる上での基本的なこうした条例の制定がどのようにお考えになっているか、担当部長、あるいは市長あわせて質問を行いたいと思います。

○議長（高橋通夫君）　板垣正男君の質問についての答弁を求めます。生活環境部長。

○生活環境部長（坂本金雄君）　ただいま御質問の中小企業振興条例の制定につきましては、本年５月の庁議に今後の事業計画として明らかにされてございます。この事業計画の中には「中小企業と消費者」という大題目がございまして、そのトップに中小企業振興条例の制定が位置づけられております。そのほかにも市の発注する契約については、比較的小さな企業も見逃がさないようにとか、あるいは商店街の環境改善に助成をするとか、大型店の一方的進出の規制、こういう問題が含まれているわけでございます。私どもは、この事業計画を実行に移すべく、産業経済課が中心になりまして検討を始めております。

条例の基本的な考え方でございますけれども、何といっても事業者自身の努力を第一に考え

たい。市は、その努力を側面から援助、あるいは支援する立場をとってまいりたい。そして、2点目に支援をする対象でございますけれども、中小企業と一口で言ってしまいますが、中企業になりますと、昨日の古賀議員の市長答弁のとおり、３００人を擁するような大きな会社、十分ひとり立ちのできる大きな会社も入ってしまう。したがって、もう少し対象を小さなものにしようということで、小規模あるいはそれ以下の方を対象にしたい。こういう二つの基本的な考え方がベースになっております。したがいまして、中小企業振興条例も、あるいは小規模事業者育成条例、または小規模事業者振興条例、こういうような条例の名前になるかもわかりません。

他市の中小企業振興条例を参考に見ますと、融資を中心に置いておる条例が大変多うございます。わが日野市におきましては、すでに日野市中小企業事業資金融資あっせん条例というのがございまして、この条例に基づく融資事業が商工政策の目玉と現在なっております。ちなみに今年４月1日から８月いっぱいまでの５カ月間、申し込み件数を見ますと７５件の申し込みがございまして、その申し込み額の総額は3億1,０００万を超えている状態でございます。

まず、こういう融資の面は現在の条例でまず満足できる。そうすると、そのほかに何を条例の中心に持ってくるかということになるわけでございます。そこで、昨日も市長がちょっと触れましたように、市の発注する契約について、できるだけ小規模事業者の受注機会の増大を図る、このことは小規模事業者に対する育成、あるいは振興の有力な手段となるわけでございますので、こういった官公需の発注契約、これを優先的にできないものか。そういう点に中心を置いて検討を進めているわけでございます。すでに担当者をまじえて市長との意見交換も数度持たれました。産業経済課のつくりました考え方を文書で市長にあげてございます。今回の御質問を契機に、さらに一段と検討を深めまして、なるべく早い時期に条例として上程をいたしたい。このように考えております。国には、官公需についての中小企業者の受注の確保に関する法律というのがございまして、この法律の中には「地方自治体も中小企業者の受注について努力をしなければいけない」こういう表現がございます。この法律の精神を尊重いたしまして具体的な事柄を煮詰め、条例案をつくってまいりたいとこのように考えております。

以上です。

○議長（高橋通夫君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　ただいま答弁をいたしました部長の申し上げたとおりでありますが、なるべく企業というよりも生業という階層に属する、しかも、技能労務者が経営をされるそういう事業、こういうところを対象になるべく機能のできる内容を持った条例を制定したいということで、いま検討中でございます。きのうもちょっと申し上げたわけでありますが、努力をすれば1歩格上げができる。繁栄の足しになるというふうなきっかけをつくる、そういう仕掛けと、その心構えを織り込むことが大切なことだとこのように考えをいたしまして、いろいろ関係方面にも指導を仰ぎながら実現をしたいと思っております。

○議長（高橋通夫君）　板垣正男君。

○１２番（板垣正男君）　市ではすでにことしの５月、庁議で決定しているということもいま明らかにされました。大変積極的な姿勢で取り組んでいるということがうかがえるわけでございますが、なかなか行政の光が届きにくい小規模経営者、あるいは業種、階層、こうしたところにこそ市町村の行政を一層強化していく大変意義の深いことだと私は考えております。

最初に申し上げましたように、地方自治法の位置づけが、市町村段階での産業振興政策、義務的な事項とされていないとしても、私は今日の小企業の実態を見るならば、当然行政としての施策がもっともっと展開されていかなければならないと思うわけでございます。基本的な条例ができ、それに基づいて官公需の発注割合を大幅にふやすとか、あるいはその他いろいろな施策が展開されるということになってまいりますと、私は、市内のこうした関係企業の皆さん方から、必ずや歓迎されるような施策、あるいは条例になっていくんではないか、こう期待をするものでございます。また、そのことが東京都、あるいは国の施策を充実させる、こういう方向にも発展していくと思うのでございますだけに、その意義は非常に大きいものがあるんではないかと、このように判断しております。ぜひ今後も鋭意検討され、より市民の期待にこたえる産業振興政策の展開がなされますよう強く要望いたしましてこの質問を終わります。

○議長（高橋通夫君）　これをもって１の4.　中小企業振興条例の制定に関する質問を終わります。

お諮りいたします。議事の都合により暫時休憩いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（高橋通夫君）　御異議ないものと認めます。よって暫時休憩いたします。

午前１１時３７分休憩

午後１時８分再開

○議長（高橋通夫君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問２の1. 大幅におくれている「日野市行政改革大綱」の策定について、の通告質問者、古賀俊昭君の質問を許します。

〔１８番議員登壇〕

○１８番（古賀俊昭君）　それでは一般質問を行います。

御承知のように自治省はことしの1月２２日に地方行革大綱を策定いたしまして、地方自治体がみずから行うべき行政改革のポイントを示したわけであります。この大綱の中では、地方行革の重点事項として七つの項目が挙げられております。念のため申し上げますと、事務事業の見直し。２番目が組織機構の簡素合理化。３番、給与の適正化。４番、定員管理の適正化。５番目、民間委託、ＯＡ化等事務改革の推進。６番目が会館等公共施設の設置及び管理運営の合理化。最後が私どもに直接かかわってまいります地方議会の合理化。このように以上７点挙げられているわけであります。いずれも幾たびとなく行財政運営の簡素化、また、効率化ということでいろいろな方面から主張されてきたことばかりであります。そして、これらを推進するために民間有識者等からなる委員会を設置し、また、行政改革推進本部を設けて、それぞれの自治体ごとに行革大綱を作成決定するように求めているわけであります。

これに対して森田市長は、国の指導を受けてやるのではなく、自主的主体的に取り組んでいく。つまり日野市は独自路線だと６月議会でも、また今議会でも表明をされております。私は、市長がいたずらに国、自治省に対立姿勢を示すのは大変大人げないとは思いますが、要は実効が上がるかどうかであります。市民の多様な行政需要にこたえられる健全な行財政の運営が、不断の努力によって確立できるのであれば、わが道を行く日野方式、森田方式でもあながちだめだとは言えないのではないか、このように思います。最終的には、これは市民が納得をするか理解を示すかによって決まる問題でもありますので、今回は国や東京都の関係についてはこれ以上は触れないことにいたします。

去る７月２３日、日野市行財政調査会設置要綱が制定をされまして、日野市行財政調査会が８月の５日からスタートをいたしております。現在かなりのハイスピードで鋭意会議が持たれているようでありますが、昨日の市長の発言でありますと、年内に中間答申を受け、来年度、つまり昭和６１年度予算に反映させたいということであります。さらに、最終答申は昭和６１

年３月、年度末との見通しが述べられました。また、この答申を受けて行財政推進本部が策定をする――私がいま求めております日野市行政改革大綱が決まってくるわけでありますが、大綱という名称にするかどうかはわからないというお話もございました。名称の問題は別にしまして、大綱に当たるものをつくるという意思はあると認められたわけであります。そこで具体的に質問に入ってまいります。

自治省は行政改革大綱を今年８月末日を目途に策定すように指導していたわけでありますが、もうとっくに期日は過ぎてしまっております。日野市行政改革大綱の策定はいつごろになるのか、その期日の見通しについてお尋ねをいたします。

次に、行財政調査会委員の任命に関して、以下３点について質問をいたします。

設置要綱の１条には「社会経済情勢の変化に対応する効率的な市政の実現を図るため、市長の諮問機関として日野市行財政調査会を置く」と、このように設置目的が書かれております。しかし、私は先般この議会に配られました委員名簿を拝見いたしまして、この委員会が設置目的に沿って最終的におまとめになる答申は、どんな内容になるのであろうかと、少々危惧の念を抱かざるを得ない、そうした感じになったわけであります。委員の構成は学識経験者４名、経済及び市民関係３名、そして、労働関係３名ということで、合計１０名の方が名前を連ねておられます。

私は、詳しくはそれぞれの委員の方について、経歴とか物の考え方というのは深くは存じ上げませんが、一応私が知る範囲でこの委員の方何人かそれぞれのお立場について見てみますと、まず学識経験者の中の柴田徳衛東京経済大学教授、それからまた、大原光憲中央大学教授、このお二人の学者の方については、ある程度物の考え、行政改革に対する姿勢というのがわかるわけであります。つまり、柴田東京経済大学教授は、いわゆる行政改革反対の立場をとっております政党等を支持し、また、そうした活動も、論文等もお書きになっているようであります。日本共産党の影響を大きく受けて開かれております日本母親大会、こうした集会で助言者として発言をなさっております。また、大原光憲教授については、いわゆる社会主義協会派と呼ばれる社会党の派閥がありますが、その協会派の機関紙であります「社会主義」という機関紙に執筆をしておられます。御承知のように社会党は自治労を擁して行政改革には真っ向から反対をしているわけであります。つまり、私が知る範囲では４名の学者の方のうち、お二人はそうしたはっきりとしたお考えをお持ちである。つまり日野市の行政改革を進めるということで、

事務事業また制度の見直し等についてどのようなお考えを最終的にお述べになるのか大変興味があるところでありますが、非常に委員がこうした方が選任をされたということに関しましては、多少の疑問を感じるわけであります。

それからまた、労働関係ということで３人の方がいらっしゃいます。金井さん、沢田さん、内山さんという方であります。御承知のように労働組合関係におきましても、いわゆる民社党等を支持をいたしております同盟と呼ばれる労働組織等においては、行政改革については非常に熱心にその推進についてさまざまな活動を行っておられるようであります。しかしながら、ここに３人並んでおられる労働関係の委員の方についてはいずれもその組織――つまり同盟系組織に所属される方ではありません。つまり総評ないしはそれにたぐいする――いわゆるこれまた行革反対の立場に立つ方、いずれもそうであります。

以上のように１０人のうちの５名、半数の委員は、いわゆる行政改革というものについて反対の立場を明らかにしている人たちであります。幾ら残りのほかの半数の委員の方が、日野市の行政機構の見直し、洗い直し、総点検に熱心に取り組まれても、根本的に基本的に立場を異にする人たちが半分もいらっしゃるような状態では、これはかなりむずかしい仕事になるのではないかと思うわけであります。市長が委員を任命なさっております。いかなる基準をもってこれらの委員の方を任命されたのか、その基準等についてお尋ねをしたいと思います。

次に、さらに不自然なことがあります。それは、委員の中に――他市でも行財政推進委員会、これに類する組織が日野市では行財政調査会でございますが、ほとんどの自治体で組織をされております。２６市中もう２３市ですでに設置が行われているようでありますが、それらの日野市を除くほかの市では例のないことが、日野市のこの委員選考に当たっては行われております。それは、日野市の職員組合の副委員長が任命をされていることであります。組織や機構、制度といったものを見直すわけでありますから、本来であれば外部の人に検討してもらうのが常道だと思います。内部の人、内輪の人をメンバーにあえて他市では全くやっていないようなことを行われた、おやりになった理由は何であるのか。その理由を教えていただきたいと思います。

次に、同じく行財政調査会の委員選任についてでありますが、この委員の選任が、議会で議決をした内容とは違ってきているということであります。その点についてお尋ねをいたします。つまり６月議会で私どもが議決をした補正予算では、行財政研究会委員謝礼として２万円、８

人の方に１２回に分けて支払うということで予算計上がされております。つまり行財政研究会のメンバーは８人としてあったわけであります。いつの間にか２人ふえて委員が１０名となっております。十分に事務当局等で準備がなされて出された補正予算であるはずでありますから、議会が議決した予算どおりに私は当然執行すべきだと思います。なぜ、いとも簡単に変更をなさったのか。その理由をお尋ねをいたします。

次に、市長を長とする行政改革推進本部は、設置がすでに要綱で決まってはおりますが、まだ具体的な動きを示しておりません。他市等ではすでにその会議等、メンバー等も決まり推進本部独自の動きが出てきているわけでありますが、このまま休眠状態をいつまで続けるのか。つまり、いつからスタートを切るのかお尋ねをいたします。

以上、行財政調査会に関する３点についてお尋ねをいたしました。

次は、自治省が今回７月の２５日に事務次官通知で「地方公務員給与に関する個別の指導助言について」というものを出しました。つまり第２次個別指導団体を公表したわけであります。つまり今回は第１次が給与だけの、いわゆる高給与の是正ということで、ラスパイレス指数１１５以上の自治体が第１次個別指導では団体名が公表され、個別に助言等を受けてきたわけであります。ところが、今回は退職金についてもその見直しを求めて、高額退職金の自治体に対しては、実施を行っている是正の進まない自治体についても名前が挙げられております。これらが１５３市町村、高給与についてであります。また、退職金については１００団体、合計２５３団体が団体名を挙げられ、そして、是正を実施するように求められ、そして、１０月末に提出をするようにということで、是正計画、つまり６０年度を初年度として３カ年にわたる昭和６２年度までの是正計画の提出を求めているわけであります。

日野市はラスパイレス指数は確かに昭和５８年が１１６.２、昭和５９年が１１５.４、そして、試算ではありますが、ことしの４月１日現在で１１２と、着実にラス指数については下がってきております。しかし、今回指導の一つの目安となりました１１２以上ということで、給与についても前回と同じように名前が出てきているのであろうと思います。また、退職金については、国は、すでに法律改正を行って勧奨等の退職については６２.７カ月で実施をしております。そして、今回は７６カ月を上回る自治体についてその名前を公表をして是正を求めているわけであります。日野は、給与についても退職金についても両方に要指導団体として名前が出てきているわけであります。ちなみに全国の自治体の中で両方に名前を連ねているのは３７市であ

ります。６５１の市がございますので、わずか5.6％という大変少ない自治体数でございますが、その中に両方に名前を連ねるということで名が挙げられているわけであります。

この是正計画、自治省から求められております――東京都を通じて提出をするのだと思いますが、是正計画は１０月末までにお出しになるのかどうか、その点をお尋ねをいたします。組合のビラ等を見ますと、是正計画は出させないということで活字が躍っているわけであります。市長のお考えをお聞きをいたします。

それから、退職金の昭和６０年度のいわゆる定年勧奨、長期勤続，これらの対象者に対する支給率のことについてお聞きをいたします。是正計画ともかかわってまいりますが、これは、昭和５９年度は８９カ月の支給でありました。改正計画に従いますと、今年度は８０カ月になるはずであります。今年度は一体何カ月を目指して準備を進めておられるのか、ことしの支給率についてお尋ねをいたします。

また、通し号俸制について最後にお聞きをしておきます。６月議会で私、通し号俸制について行革大綱の中に入るのかどうかということをお聞きをいたしました。助役は、行財政研究会の答申に従って対応してまいりたいと、このように答弁はあったわけであります。そこで、この通し号俸制については再三その是否は論じられ、いかに欠陥給与体系かということはすでに証明済みであります。すでに５８年の６月には議会でこの是正を求めて議会の議決もなされ、そして、一般質問等、また議会でも数々の多くの議員からも指摘がなされ、そして、先般は申し入れ書という形で市職員の皆さん、内部の方からもすでにその通し号俸制の見直しについては表明がなされ、給与制度の是正に向けては、とにかくいち早く着手すべき時を何度も市当局は逃してきているのではないかと思うわけでありますが、今回の行財政調査会で検討の対象として現在進めておられるのか、また、行財政調査会の答申の後、行政改革大綱の中に取り上げて是正に向けて取り組むのかどうか、その点を最後の質問としてお伺いをいたします。

以上です。

○議長（高橋通夫君）　古賀俊昭君の質問についての答弁を求めます。企画財政部長。

○企画財政部長（前田雅夫君）　まず第１点目の、大綱はいつできるかということでございますが、現在行財政調査会におきまして現状の洗い出しをしております。その次のステップといたしましては、討論まとめということになるわけでございますけれども、先ほどから市長が申し上げましたけれども、調査会に最終答申を来年３月ということでお願いがされてお

ります。したがって、いわゆる国で言うところのいわゆる行革大綱でございますけれども、いわゆる計画といたしましては答申以降になるということになるわけでございます。

それから、２番目の委員の人選の基準でございますが、これは、日野市行財政調査会の設置要綱を７月２３日に制定をいたしまして、各委員さんにはこの趣旨をよく説明をし理解をしていただきまして、委員の承諾をいただいたというものでございます。したがって、審議の姿勢としては前向きに行ってもらえると、また、現在審議しておりますけれども、そういう形で進んでおる次第でございます。

それから、３番目の、委員の中に市の職員組合の副委員長が入っているじゃないかということですが、確かに他市では総評とか同盟系の委員といたしまして、現在８市、１２人入っております。日野市につきましては市の職員組合の副委員長が入ったということでございます。考え方といたしましては、他の自治体のいわゆる職員組合の代表であろうが、地元の――地元といいますか、私どもの市の職員組合の役員であろうが、内容的には全く私ども考え方としては同じではないかと。調査会のやはり一番の目的は実行性の担保力の高いものをつくり、それをさらに次の段階としては実行するということが大きな課題になるわけでございますので、そういう点からすれば、かえって調査会の中で出るいろんな意見、議論等、直接聞いていただいた方がかえっていいんではないかというふうに考えている次第でございます。

次に４番目の調査会の予算の議決の人数と異なる点でございます。これは、確かに議員さんのおっしゃるとおり予算につきましては８名でございますので、８名以内で運用するのが適当なわけでございますけれども、先ほど申し上げましたように、行財政のいわゆる審議につきましては、やはりかなり行財政に精通した委員でなければならない。あるいは今後の実行性の担保ということを考えますと、いますこし人数をふやした方がよかろうということで、予算計上とは違いましたけれども、２名の増員をしたという次第でございます。

５番目の推進本部のスタートでございますが、私ども当初、この行財政調査会と同時にスタートする準備をしておりました。要綱人選等も全部整っております。しかしながら、行財政調査会のスタートが８月５日に第１回目が行われたわけでございますけれども、座長の肥後先生の意見等もございまして、やはり調査会が先行し、それに追随するような形で、やっぱり推進本部が動かないとまずいんではないか、というような指摘もありますし、また、推進本部の本来の趣旨からいきましても、いわゆる行財政の改革の計画の策定、いわゆる行革大綱の策定、

あるいは推進という役割りがあるわけでございますので、1歩おくれたような形で進めたいということで、故意にスタートをおくらしたという状況でございます。現時点では、１０月議会終了後推進本部の第1回目の会合を持ちたいというふうに考えておる次第でございます。

○議長（高橋通夫君）　総務部長。

○総務部長（伊藤正吉君）　給与の個別指導団体の件につきましてのお答えでございます。

確かに７月２５日付で私どもにも書簡が参っております。それで、自治体名も公表されております。全国で１５３団体が給与の個別指導、それから、退職金につきましては１００団体、こういうことで２５３団体、こういうことで公表されておるわけでございます。日野市につきましては、いま公表いたしましたのが、５９年の４月１日の給与関係につきましてはラスパイレスの指数をもとにしまして、公表されているわけでございます。その後、日野市におきましては御承知のように厳しい対応の中で全員の職員の6カ月延伸、あるいは初任給の引き下げ、それから、５５歳の頭打ち、それから、５８歳以上の昇給停止、こういうような措置によりまして、ラスパイレスが下がってきたわけでございます。先ほど古賀議員さんの方では１１２というような御指定でございますけれども、私どもまだ試算の段階でございますが、１１３をわずかに上回るんではないかと。これが6カ月でございますので、ひと回りいたしました来年の1月1日の昇給者が6カ月延伸いたしますと１１２％台に入るわけでございますけれども、まだその分が入っておりませんので、一応１１３.１くらいに試算としてはなっております。

それから、退職金につきましては組合との交渉の中で５９年までは合意がなりまして、３６年の８９カ月とこういうことで決まっておりますけれども、６０年度につきましては、まだこれから組合交渉等を重ねまして、退職金の月数につきましては減らしていく方向で組合交渉に臨んでまいりたいと、こういうふうに考えております。

それから、最後の通し号俸制の問題につきましての行財政委員会でございますけれども、話題になっているかということでございますが、一応私どもの方は給与関係、そういうものにつきまして、各市の状況とか、それから、日野市の状況、そういったものをいろいろ資料に委員会の方に出しまして検討をなさっております。

以上です。

○議長（高橋通夫君）　古賀俊昭君。

○１８番（古賀俊昭君）　私がお聞きをしました最後から3番目の是正計画の提出について、１０月末までに提出するようにと求められているわけですが、決められた期限までに提出するのかどうかということについては御回答がありませんでしたので、お聞きの内容に御答弁をお願いいたします。

○議長（高橋通夫君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　政府のいわゆる臨調行革の立場から、また、それを支持される発言内容として聞くわけであります。私は、常に申しておりますとおり、行政改革は、これはみずからの問題である、そう、よそから支配をされて行うべきことではなくて、自主的、自発的、主体的に行うことが真の行政改革であるとこのように思っております。したがいまして、国に向かって行うということではなく、市民に向かって行うということが基本姿勢でなければならないとこう思います。そういう観点から、今日の私どもの機能的行政の指針となる行政改革の方針を定めようという取り組みをいたしております。

諮問をいたします行財政調査会の各委員の方、これは、私どもが最も信頼のできる見識を持たれた方々ばかりであるというふうに期待をし、また、りっぱな人を集め得たと思っておるところでございます。２名増員をいたしておりますのは、これは、市民を代表すべき立場の方、あるいは労働を代表すべき立場の方。そのことで1名ずつ増員をいたしましたが、特に市の職員団体から委員を出るように進めたということは、これは日野市の一つの特色であると思います。本来行政は、これは職員とともにお互いの信頼関係で展開をすべきものであります。労働組合は、私は行政――われわれのある意味ではパートナーであると。その立場にあるものも参加させてこそ、真に内容のあるそういう行政改革に取り組むことができるとこのように考えております。予算の上で御審議をいただいた人数よりも2名ふえておるわけでありますが、特に職員から出ておるものについては、特別に報酬を払うわけではありませんから、予算の範囲で執行できるとこのように考えております。

それから、都を通じていろいろの要請は参っておるわけでありますが、1面にはそのことの尊重もいたしつつ、日野市にふさわしい形でこの事業の推進を行うと。こういうふうに取り組んでおります。したがって、国からとか、あるいは都から求められる期日にぴたりと合わせるというふうには必ずしも意を払っていないところであります。日野市は日野市として、しっかりしたものをつくろうとこういうことであります。市民には発表して、十分批判にこたえるも

のを得たいとこのように思っております。いま御質問の、国の提出期限に合わせるかどうかということにつきましては、これは主体的な立場において対応をいたしたいと、こういうことであります。

以上、ごく大筋ではございますが、われわれの考え方を申し上げまして御理解をお願いしたいと思います。

○議長（高橋通夫君）　古賀俊昭君。

○１８番（古賀俊昭君）　再質問をいたします。

日野市の行政改革大綱の策定については、答申が出た後ということでございます。来年の3月以降に策定がされるであろうということで、答申が出てからということも理解できないわけではございません。できるだけ早く日野市の一つの処方せんが出来上がって行政改革にきちんと取り組むような体制を築いていただきたいと思います。期限は８月いっぱいだったんですけれども、大変おくれてしまっているわけです。

それから、委員の選考については、就任をしていただく際に十分行財政調査会の目的役割りというものを理解していただいてお願いして、それを了解した形の上で就任してもらったということで、特に危惧はしておられないようでありますが、私の危惧が杞憂に終われば幸いでございます。

それから、市の職員組合の方を１名委員に入れたということで市長からも答弁がありました。労働関係を代表して、必ずよその自治体でこうした委員会、調査会等が設置される場合には入っておられます。しかし、それはやはり自分たちの組織を見てもらうわけですから、外部の方に外の方から見ていただくということで、市の職員の方はお入りになってないんです。日野市方式ということをいま市長はおっしゃいましたが、職員組合の幹部の方がお入りになったということで、むしろそれが行政改革大綱を策定、また、それを実施していく上でプラスになるんだというようなお考えでございますが、私は必ずしもそうは考えません。企画財政部長のお話では、直接話をいろいろ経過を聞いてもらった方がいいのだということであります。つまり傍聴してもらうような立場で参加をしていただいているというようなことだろうと思うんですが、委員の務めは、先ほどおっしゃいましたように、これから大変な答申をまとめるということで、それぞれが皆さん大きな役目を負っておられるわけです。１人だけお客様のような方がちょこんといらっしゃって、果たしてその効ありやと思うわけであります。日野市だけがこうした形

をとっております。しかも、多分当初の議会で議決した内容よりも人数がふえたというのは、こうした組合関係の方の参加ということでふくらんでしまったのであろうと思います。

そこで、いま確認をしておきますが、この調査会の委員の方には謝礼が支払われるわけであります。市長は、いま報酬等は払わないとおっしゃったんですが、同じように出席をした委員が、委員でありながら１人だけ報酬を受け取らないということで、組合からの参加者納得をしておられるのかどうか。行財政調査会に参加をする際には職場からいなくなるわけです。つまり職免の扱いを行って賃金カットは行わない。つまり有給の職免扱いをしているのかどうか。報酬は間違いなく支払わないということで最後まで通していかれるのかどうか。その点をもう一度確認をいたします。

○議長（高橋通夫君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　いま部長の方から知らしてくれたわけでありますが、私の思い違いでありました。職員の身分で職員組合の立場から参加しておる職員は、その時間におきましては、無給の職免ということになっております。そして、報酬は一般として支払う、とこういうことでありますので、そのことはひとつ訂正さしていただきます。それは職員課で事務処理をいたしておるということであります。訂正いたしておきます。

いろいろと私も考えたわけでありますし、うちの行政調査会がいろいろな意見の立場の方もおいでだと。学識経験者の方は、これはすでに定評のあるりっぱな方々でございます。それから、市民を代表される方もわれわれの信頼のできる方だということでございます。労働界は当然参加をしてもらって、いろいろな具体的な問題についての意見を提起していただくと。こういう関係で、別段委員会が採決を行って結論をするという場ではございませんし、十分意見交換の中で、一定の合意の得られるものが答申となっていただけるものだとこのように考えております。また、われわれの側にも無条件で返事をお願いしておるわけではなくて、かくあるべきと考える点を、資料あるいは議題として提起をし、審議をしていただいて、その意見に参加をし、また、拝聴をする、とこういう関係でございます。何か論争の場とか、あるいは利害関係の取り引きの場とか、そういう機関では全くございませんので、それぞれの見識においてりっぱに運営をしていただいております。調査会につきましてはそういうことでございますので御理解をお願いいたしておきます。

○議長（高橋通夫君）　古賀俊昭君。

○１８番（古賀俊昭君）　市長が最初に御答弁なさった内容と、いま訂正がありまして違ってきたわけです。組合から出ている職員の方で委員の方は謝礼は受け取らないんだから、予算の範囲内で執行できるとおっしゃったんですが、ちゃんと謝礼は受け取るんだということでいま訂正をなさったということは、議会で議決した予算に従ってこの研究会――つまり調査会は、委員の方に対して謝礼が支払えなくなってしまうということになるわけです。職員組合の方を加えたということは、市長のあくまで強い意思なのか、組合からの強い要望があって実現をしたことなのか、その点をひとつお尋ねをしたいと思います。

なお、最初有給で報酬を受け取らないのかなあと私思いましたら、いわゆる職免扱いにして無給にする。そのかわり謝礼として２万円１回につき支払うということであります。調査会に出席なさって説明をなさっている部長さんや課長さんや、担当課の職員の方は、同じように会に出席して資料づくりや大変忙しい思いをされるのでしょうけれども、これは当然職務ということで別に謝礼が出るわけじゃありません。しかし、組合から出ていらっしゃる方には、その間は無給扱いになってはいるものの、２万円という額が１回につき支払われると。同じ職員の方でありながら、非常にアンバランスを私生じるのじゃないかなと思いますが、そうしたことは別段意に介する必要はないのかどうか。また、職員組合が出しておりますこうした「市職ニュース」等を見ますと、つまり地方行革反対闘争を行うと、闘いの方向を確認するというような、非常に戦闘的な行革粉砕の言葉で満ちあふれているわけです。そういう方がお入りになって――多数決で採決することはないというようなことをおっしゃいましたが、どのような役割りを一体果たされるのか。先ほどいろいろ御説明はありましたが、もう一度簡単で結構です。御説明をお願いをしたいと思います。

なお、是正計画の提出については、今回退職金についてもまだ高いですよと。職員の皆さんの給与についてもまだ高額ですよということで、自治省から名前を挙げて今回指導を２回目受けるようになったわけです。両方に顔を出しているのは、さっき申しましたように全国にたくさん６５０以上の自治体がありますが、わずか３７市であると。その３７の中に日野市は現在入っているわけでありますので、やはり是正計画の提出については、いつまでということは多少前後することあるかもわかりませんが、第１次個別指導の際にも――昭和５７年の７月だったと思いますが、是正計画を提出しておられます。提出を考えているのかどうか。もう少し自主的という言葉で私が理解できればいいんですが、いろんな意味にもとれるわけでありますので、是正計画の提出を考えているのかどうか。その点もう一度確認をいたします。

なお、通し号俸制、この制度のもう時代に合わなくなってきている状況については、いろいろな指摘が再三なされてきているわけであります。特に、ラスパイレス指数ではまだ今回国が指導の基準といたしました１１２以上よりも――平均をすると１１３.１ということでかなり高給与になっているわけでありますが、実体はそれぞれ部長さん方の場合には、ほとんど大体国並み――大体１００前後。係長さんでも１００をやっと超えるかどうか。初任級、つまり若い方が非常に１１６や１１７というような数値もあるようであります。つまりラスパイレス指数を下げるということは、もちろん進めていかなくてはならない一つの課題ではあろうかと思いますが、やはり非常にでこぼこ、ばらつきがある。管理職には非常に冷たい給与制度になっているということから、やはり通し号俸制の見直しということは、きちんと大綱の中に盛り込むなら盛り込むつもりであるかどうか。そうしたお考えをやはりお示しになるもう時期がすでに来ている。いろいろな議会での議決や、指摘や、また申し出書があった段階で、本来であればもう着手をしていなければならない私は事柄であろうと思います。もう一度その点の確認をお願いをいたします。

以上です。

○議長（高橋通夫君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　組合の役員を行財政調査会のメンバーに迎えたということにつきましては、私は、当初組合が参加するかしないか、できないか図りかねておりました。それで、組合に対しましては、席を空けておくから参加する意思があればいつからでも出席してほしいと、こういう態度でおりました。組合も、多分内部討議の結果、進んで参加をし、市長に協力をしようということだと思っております。

そこで、現実的に若干まだラスパイレスが高いという問題。あるいは退職金がまだ所期のあたりに到達し得ていないということ。それから、もう一ついわゆる通し号俸の今日の評価というあたりの事柄が、やはり論議の課題でもあり、また、これからの行革の一つの方針に上ってくる、とそういう考えを持っております。日野市の場合、給与にいろいろな矛盾アンバランスがある、過去に大幅の特別昇給等が行われていて、横の関係でふぞろいであると。こういう難題を抱いております。先般行った昇給の延伸でありますとか、あるいは先ほど部長も申しました頭打ち、あるいは定年制が固まったというふうなことから、かなり効果は上がっておるわけ

であります。あと今日までの取り組みの延長の上で、それらもいずれ是正というか、今日の情勢に合うように進めてまいる考えであります。

通し号俸につきましては、欠陥というふうにはこの施行当初は考えられませんでしたが、今日期待したとおりにならなかったということもありますので、この件につきましても適切な処理をしてもらいたいとこのように考えておりますし、また、それも当然調査会の議題に供せられる、こういうふうに進められつつあると思っております。これで、この答えでいいですか。（「是正計画」と呼ぶ者あり）是正計画は、いまお話ししましたとおり、是正の方向を進めていく、こういうふうにお答えをいたしました。

○議長（高橋通夫君）　古賀俊昭君。

○１８番（古賀俊昭君）　多少もともと見解の相違はあるわけですが、やはり国から指摘を受けるまでもなく、当然やっていなくてはならないことをやっていれば、うちは自主的にやっておりますと、三鷹の市長さんのように独自路線を堂々と主張できるわけであります。しかし、このようにいろいろ指摘を受け、形が出てきた以上は、やはり最終的には市民の了解納得が得られなければならないわけですから、当然求められている是正の水準までは至急に適正化を図っていただくように――議題にも行政調査会でのせられるということでありますので、中には通し号俸制絶対死守なんていう委員の方もたくさんおられると思いますが、ぜひ市長の意思が実現をするように願っておきたいと思います。

通し号俸制については欠陥とは思わないということでございましたが、具体的にこの制度を是正した自治体がございます。御承知かと思いますが、いわゆる第１次の昭和５７年度から始まりました高給与の個別指導団体の中で、埼玉県の越谷市がありました。越谷市は、日野と同じような、いわゆる給与表が１本の通し号俸制をとっていたわけであります。つまり等級別に分かれていない給与制度で、実質的にはそういう制度であったわけです。越谷では是正の指導を受けまして、昭和５８年の４月１日から給料表の是正を行いまして、すでに是正を完了いたしております。また、初任給の３号給の引き下げ等も、５７年の４月１日から５９年の４月１日までかかって行うという計画も実施に移されて、なお昇給延伸等の対応もなされているようであります。やる気があればいつでも可能になるわけでありますので、行財政調査会の検討がこれから半年以上かかるわけでありますが、ぜひ推進本部においては独自に取り組むことも可能でございますので、この悪名高い通し号俸制についてはぜひ早い是正が図られるように取り

組みをお願いをしておきたいと思います。

とにかく市長も言われるように、行財政改革――行政改革は、国や東京都から言われて取り組むのではないわけです。それは当然のことだと私も思います。要するに日野市がさらに発展をしていくために、また、これから、市民サービスを新たに開始する場合に、また、町づくりを進めていく場合に新たな財源を求めていくためには、どうしても行政改革というのは成し遂げなければならない課題であるわけです。どうか市長もそうした意をくんで、市民の意をくんで行革へ――土光さんも大変御高齢で、まだ８９歳だと思いますが、がんばっていらっしゃいます。そうした情熱というものをぜひ持っていただいて、行政改革大綱に向けて努力をしていただくようにお願いをし、この質問を終わります。

○議長（高橋通夫君）　これをもって２の1.　大幅におくれている「日野市行政改革大綱」の策定に関する質問を終わります。

次に２の2.　市庁舎ホールの芸術作品、陶壁画を通して、革新・森田市長の文化政策に対する姿勢を問う、についての通告質問者、古賀俊昭君の質問を許します。

○１８番（古賀俊昭君）　別にこれはそう大した問題でもないかもわかりませんが、結果としまして、私が通告をしまして、市役所１階のロビーの前のいろいろな掲示物――設置されておりましたものが少し数が減っているようであります。かなり効果が上がっているということもあります。しかしながら、まだ完全に私が意図するお願いする内容のとおりにはなっていないようでありますので、市長のお考えをここでただしていきたいと思います。

いよいよといいますか秋で、芸術の秋であるわけでありますが、また、１１月の３日には文化の日ということで、そうした日もめぐってまいります。市長が１日と１５日に毎月発行しておられる日野市の広報の上の方に、いつも掲げている文章があります。「みんなでつくろう緑と文化の市民都市」と、森田市長の大変お気に入りのスローガンが書かれているわけであります。芸術というものも私は文化のはんちゅうの一部に入ると思いますので、今回いま通告をいたしましたように、市役所の１階ロビーにございます芸術作品ではございます陶壁画――日野の地名が焼き込まれたものであります。この陶壁画を通して市長の言われる文化というものに対する理解度、これをぜひ知りたいと思います。そこで質問を行うわけであります。

いま全国の多くの自治体におきまして、いわゆるソフトな面での施策というのが、大変盛んに市民の前に展開をされているわけであります。つまりいろいろな形で文化行政というものが

推進をされております。日野市でも７月の２０日、待望久しかった市民会館がオープンをいたしまして、森田市長は開館――いわゆるオープンの式典で、「市民会館も、市民皆さんの文化活動の拠点となる使命を持つものです」とあいさつをされました。市民会館の完成は等しく市民が歓迎するところでありますが、しかし、文化行政を主導する立場にある市長に、文化についての正しい理解認識がなければ、各分野で文化活動を展開しておられるたくさんの市民の方々があるわけでありますが、行政としては市民不在の文化行政になりかねないのであります。

問題の庁舎１階にございます日野の地名の入った陶壁画でございますが、この陶壁画については昭和５２年に完成をしております。製作は、もちろん日野市がお願いし、森田市長さんがお願いをして製作者がつくっていただいたものであります。おつくりいただいた方は、多摩市にお住まいの陶芸作家で白石　斉先生という方でございます。この陶壁画を製作依頼するに際して市の方からは、庁舎のシンボルとなる市民に日野市の歴史を思い起こさせるような陶壁画の創作が依頼をされたわけでありまして、その趣旨に沿って市内にございます由緒ある地名４０３カ所を選んで、それらを大字小字名を明朝体、ゴシック体、隷書体で特殊なれんが――つまりタイルに焼き込み、これを壁面に組み合わせて陶壁画としたものでございます。大変私も日野の古い歴史や地名等については、いろいろな方からお聞きすることはありますが、あの壁にございますさまざまな珍しい地名を見て、日野の歴史、いにしえに思いをはせることもできるわけであります。

この地名を私も全部は見てないんですが、いろいろ読んでみますとおもしろい名前がたくさんございます。「にしだいすけ」、おもしろい名前では「びんへつとざん」とか、それから、「てんのうめん」「たけのした」と「あぶらめん」「つちぶちしょう」「やまね」「うちこし」それから「くろどんだい」それから、かたかなでは「ママウエ」とか「チョウマンピラ」――これは議会で一度聞いたことがあります。こうした珍しい名前がたくさん出てくるわけであります。いろいろ製作者の方に――私は前、日野青年会議所の方がアメリカのお子さんたちと国際交流を図る中で、一緒に共同製作した「友情の鳥」という同じようにタイルを鳥状のスチール製の枠に張りつけるそうした事業にたまたま参加する機会がございました。そのときに白石先生にお会いしたものですから、この陶壁画のことを聞いたことがございます。もう何年か前のことになりますが。そのとき白石先生は、平安時代から日野市が市制を施行するまで、文献に出てくるものはほとんど全部網羅をしてある、読み方が二つあるものについては両方掲げ、

また、多摩川の流れが変わって町名が入れかわったりしたような場合には、そういうものが歴史の中にあれば、それも載せてあるというようなことで、当時市役所にいらっしゃいました大変日野の歴史に詳しい森久保忠雄先生だと思いますが、入念な精査を、また、詳細な御調査をなさって完成を見た、ということをお聞きをいたしました。

大変苦労をなさって、しかも発注者の意図に沿って私はみごとに完成をしたものだと思いますが、こうした芸術作品の前に――前から私不思議に思っていたんですが、まず市の写真という大きなパネルが前に置いてあります。また、組合の掲示板がございます。また、互助会の掲示板があります。そのほか庁舎の案内板。また、バス路線の地図も置いてあるようであります。必要に迫られて置くということであれば、私もそうやかましく言うことはないかと思いますが、特段そこになければならないものを、あえてこうした市がわざわざある意図を持って、その意図に沿って製作してくださいということで完成を見たものの前に、無神経に並べておくというのは、庁舎を管理なさっている市長さんとして、私はどのような感覚をお持ちなのか大変不思議に思ったわけであります。早い話が市民会館のどんちょうが完成をいたしております。市民会館の中に大変きれいなものが小ホールにも大ホールにも２枚あるわけですが、そのどんちょうの前に何か勝手に物を持ってきまして、物置のように絶えず物を置いていたら、大抵の方は、それはどけなさい、おかしいですよ。ここは物を置く場所じゃありませんとおっしゃるはずです。私は、壁にたまたまその作品がございますから、そうおっしゃる方はいままでいらっしゃったのかどうかわかりませんが、しかし、簡単に言えばそういうことだと思うんです。少しは何か数が減ったような気もいたしますが――お金は１円もかからないんです。予算も１円も要らないこうした文化的な芸術作品について、やはりそれを日野市民で市役所にお見えになった方にちゃんと見ていただく。そして、製作者の意図が伝わる。また、発注した側の日野市の意図も、同時に市民の方にも伝わるというような思いやりがあって私は当然ではないかと思うんですが、どういうわけかまだ残存の置き物がございます。私がそのように思うのは思い過ぎなのか、考え過ぎなのか、市長のお考えをお聞きかせいただきたいと思います。

○議長（高橋通夫君）　古賀俊昭君の質問についての答弁を求めます。市長。

○市長（森田喜美男君）　庁舎をつくる際に、階段部分を縦に仕切る。そういう壁面が生ずるわけであります。そこに古い文献にあります日野市の大字、小字、その他の地名をなるべく後世に残そう、ということで、陶壁画と言われるアイデアが実現できたわけであります。

御質問は、せっかくそういう過去の市民生活から生まれた貴重な文化的地名のいいものをつくっているのに、前につい立てを置いたりして、つまり大事にしてないじゃないかとこういうことだと思います。私も前に立てるものは、これは全く臨時的なもので、常時恒常的に置くというふうには考えてみませんでしたが、だんだんそういう壁面を、また、市民の方の庁舎に来られる方に必要な、あるいはお見せをしたいそういう材料といいますか、また、展示場というような形をつくっておるわけであります。これは、壁面が少ないという理由が一つあると思いますが、せっかくの地名が、いわゆる文化的にあしらっておる陶壁画が隠れてしまわないようにしなきゃならない、というふうに思っておるところでございます。

申すまでもなく、日野市域の過去の、いま埋蔵文化財等の形でも出土品がたくさんありますように、縄文時代から恵まれております水と緑を生活の基盤として、日野市が今日の姿に発展してきたということは間違いのない事実でありますので、また「緑と文化の市民都市」というふうな町づくりの考え方は、恐らく全市民が合意のできるそういうテーマだと思っておりますので、極力そのことを推進いたしますとともに、せっかくつくっております。あるいは収集しております文化財を、大切にしていかなきゃならない。それが指摘されておるところの基本姿勢だと思っておりますので、できるだけそういういまのような妨げの存在を指摘されることのないようにやってまいりたいと思います。

○議長（高橋通夫君）　古賀俊昭君。

○１８番（古賀俊昭君）　私先ほど申し上げませんでしたが、あそこでよく展示会が行われているんです。しかも、それは庁舎管理規則にのっとった庶務課の許可を得たものではない――いわゆる職員組合が任意に好き勝手に行ういろいろな展示物が、よくぐるりとあの周りを取り囲んで並べられるわけです。（「そんなことはないです。ちゃんと手続はやっています」と呼ぶ者あり）もし手続きを――いま市長は手続きをしてやっておりますといえば、さらに私は無神経だと思うんです。あれだけ大きな壁に描かれた作品について、それぞれに意味があり、それぞれにやはり製作者が見ていただきたい意図が込められるし、どれを欠いても、やはり作品の全体像というのは失われると思うんです。それがやはり芸術であり、文化であろうと思うんです、そうした理解を持つことが。しかし、適当にある時期はそれをふさいでしまってもいいというような感覚で許可をされるというのは、文化都市を目指す市長のお考えとしては、ちょっと私は理解ができないんです。先ほど申しましたようにれんが一つ一つタイルに、先ほど

お話の中に申しましたように、ほとんどすべての日野の地名は入っているということでありました。ですから、仮にれんが１枚でも隠れれば、日野の歴史が一つ隠されたことになるわけです。あれは全体として初めて、全体を見て初めて一つの私は意味を持つ芸術作品として価値があると思うんです。ですから、ときどき、いまでも恒常的に置かれているものもありますし、時にはぐるりと囲んで、全く見えなくなるようなやり方で許可をされるというのは、ちょっといただけないのではないかと思います。

先ほど言いましたように、市長がその気になれば、これは予算が何千万とか何億というものじゃないんです。すぐにできることです。しかも、たとえば私たちが小さな絵、たとえば市でもいろいろ有名な画家の方の絵画を買っておりますが、その絵の前に物を置けば、だれでもこれはひとりででもやっぱりどけて、その絵画がちゃんと観賞できるようにしようと思うんです。ところが、あの作品は余りにも大きいために、ついそのことを忘れてしまうんじゃないかと私は思います。全体として初めて意味を持つ。全体を見て意味を持つものですし、隠されているものがあるとすれば、それをたまたま探して、その地名を見つけようと思って訪れた方からすれば、大変これは観賞の機会を奪ったということにもなってしまうわけです。この市役所ができましたときに「日野市庁舎」というパンフレットが出ているんですが、その中にも最初のページの方に、ちゃんと１番目に市民ホールの壁として、何も置いてない壁がちゃんと見える写真が出ています。こういうものが市役所のロビーにありますよということが、ちゃんと市が発行しているものにも書いてあるんですが、来てみたらいろんなものが前に置いてあるというのでは、お粗末ではなかろうかと思うんですが、あの周りをきれいに、十分に作品が観賞できるようになさるおつもりはございませんか。もう一度確認させていただきます。いかがでしょうか。

○議長（高橋通夫君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　できればしたいというふうにお答えをしたわけであります。

○議長（高橋通夫君）　古賀俊昭君。

○１８番（古賀俊昭君）　できるだけやりたいということで、市長は少しまた努力をされるのかなあと思いますが、何せあそこには組合の掲示板というのが立っております。別に組合は、あそこに無理をして掲示板を置く必要も私はないのではなかろうかと思うんですが、小菊委員長が文化行政に対して協力をするお気持ちがあれば、市長とともにその撤去に同意され

るかもわかりません。とにかくせっかくの作品でありますから、また、文化都市をつくる、目指すという市長の言葉がいつも日野市の広報には出ております。市民は毎回それを見ているわけです。やはり文化ということは、そうした面で細かい配慮ができることも、むしろそうしたことが一番私は大切なことではなかろうかと思います。早くあの作品がいつでも全部が見られるように、あの周りをきれいに、余分な掲示物等は取っていただいて、そうした作品本来の目的が達せられるように努力をお願いしたいと思います。

最後に、私はいつもよく「赤旗」のことを引用いたしますが、社会党の機関紙「社会新報」の6月4日号に、作曲家の芥川也寸志さんのインタビュー記事が出ておりました。その中で芥川氏は「文化政策は政治の根本」と語っているのです。私は「社会新報」もいいこと書いてあるなあと思っていたわけです。市長も「赤旗」はよく読んでいらっしゃるようですが、「社会新報」にもこうした記事が出ております。私から芥川氏の言葉を御披露してこの質問を終わります。

○議長（高橋通夫君）　これをもって2の2. 市庁舎ホールの芸術作品、陶壁画を通して、革新・森田市長の文化政策に対する姿勢を問う、に関する質問を終わります。

次に、一般質問2の3. この夏・革新・森田市長がソ連を訪問した真の目的は何か、についての通告質問者、古賀俊昭君の質問を許します。

○18番（古賀俊昭君）　最後の一般質問を行います。

まず質問に入る前に、一つだけ確認をしておきたいことがあります。それは、今回森田市長が、日ソ親善協会が主催をする不戦の誓い代表団に加わってソ連を訪問されたわけであります。私は、市長さんだけが行かれるのかなあと思っておりました。よくいろいろ聞いてみますと、お2人の随行が行っていらっしゃったわけであります。8月8日から8月23日まで10日間、市長と行動をともにしておられます。お1人は長谷川秘書課長、もう1人は清掃部の土方一志事業課の職員の方であります。秘書課にちょっと――市長以外のお2人の方も私費で行かれたということでありましたので、市長と同じようにあこがれのソ連に行くために貯金をせっせとされたのかなあと思っておりました。そうしましたら、たまたま一緒に3人がなったんだということを、ある職員の方がおっしゃるんです。偶然に3人が一緒になったと。不思議なこともあるもので、まあ、しかし3人御無事にお帰りになりました。私は、ここで夏休みをとって――9.5日有給の夏休みの年次有給休暇等は日野市はありますので、そうしたものをお使いになって行かれたのかなあと思っておりましたら、さにあらず、私費で海外旅行されるお2人の市長随行の職員の方は、有給の職免としてソ連訪問団に参加をしておられるわけであります。つまり観光や――特別な市の公用ではなく、あくまで自分の意思に基づいて、自分の費用を使って行く海外旅行が、いかなる理由で有給職免扱いということになったのか。

かつてこうした例は、日野市のいままで海外に御出張なさったり、お出かけになった職員の方のケースを見てみますと、お医者さんが学会に行かれるのでそういう扱いになったケースはあるようでありますが、全く純粋に私用で海外に行かれるのに、職務を免じて夏休みの休暇とは別に、給与は減額をしない措置をして行っておられる。これは、許可をされたのは市長であります。市長は、有給職免規定の市長が認めた特別の場合というものを発動なさったのだろうと思いますが、特別の理由というのがソ連旅行には果たしてあるのだろうかと私は思いますが、他の海外旅行には一切こうした扱いは行われていない。たまたま一緒になったほかのお2人の方は、何か特別な理由で有給職免の、つまり給与を払って仕事はしなくてもいいという扱いになっている。なぜこうした扱いをどのような理由でおやりになったのか。まず質問を行う前に参考のためにお聞きをしておきます

○議長（高橋通夫君）　古賀俊昭君の質問についての答弁を求めます。総務部長。

○総務部長（伊藤正吉君）　お答えしたいと思います。

2名の有給職免の件でございますけれども、この件につきましては去る6月10日、日ソ親善協会の会長さんでございます赤城宗徳先生から「不戦の誓い代表団派遣についての要請」と、こういう文書をちょうだいしております。この趣旨は、日本国憲法の前文に示された精神を基調として、隣国ソ連国民との不戦を誓うため、日本の国民の平和の意思を伝えるため、ソ連における第2次大戦の戦跡を訪ね、ソ連国民の平和についての考えを知る。不戦・非核・軍縮についてのシンポジウムを開く。レニングラード。こういうことで、趣旨がこういう内容で不戦の誓い代表団派遣についての要請がございました。その下に日程が組まれておりました。それで、費用も書いてございます。それで、この代表団の派遣の職員については、職務専念義務の免除方をよろしくお願い申し上げますという形で添え書きがしてございます。こういうことで超党派の代表団でもございますので、いわゆる日野市の職務の専念義務の特例に関する条例の第2条の「市規則で定める場合」ということで、規則では「その他特別な事由がある場合」というものを適用いたしまして職免扱いにしたと。こういう内容でございます。（「市長補足し

ろよ」「補足ありますか」と呼ぶ者あり）

○議長（高橋通夫君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　補足というのもおかしいんですが、私は、そういうことを正確に承知したということではなかったんですが、編成の中に私、それから、秘書課長には、僕も私費で行くが私費で行こうではないか、うまく機会が合えば一緒に行こうという程度のことは言いました。それから、もう一人の土方君。これに対しては全く編成のときに初顔合わせをしたということでありまして、特別連絡を持ったわけではありません。私の想像では――私の想像といいますか、日野市には職員の海外旅行をする際に貸し付け制度があります。その貸し付け制度を適用する際は――これ５０万円でありますが、職免にし報告をする、とそういう内容になっております。したがいまして、それが利用されたんではなかろうかというふうには思っております。そこまで私もつぶさではございませんでしたが、海外研修には、これまで市の職員が職免で毎年数名行っております。そういう職員研修の適用があったものとこのように思っております。

○議長（高橋通夫君）　古賀俊昭君。

○１８番（古賀俊昭君）　私いろいろ担当課に聞いたんですが、ちょっと違うんです。過去にこの四、五年海外旅行なさった方のリストも見たんですけれども、そういう扱いなさっているケースはないんです。市長は、いまおっしゃっていることはちょっと事実と異なります。それから、これは「研修」とおっしゃいましたが、海外研修の場合の貸し付けというのは互助会の制度だと思うんですが、その場合には必ず有給職免になるという規定はどこにもないわけです。特別な理由がある場合ということで規則の中に、市長が認めた場合には幾らでも拡大解釈できるようになっているんです。市長が認めたから有給職免で行かれたわけです。よくわからないと市長はいまおっしゃっていますが、人事の管理が非常にお粗末だと思います。しかし、行ってこられたのは間違いないわけで、別に私はうらやむわけじゃありませんが、１６日間ソ連に行く、職場を離れると。別に強制されて行ったわけでもありませんし、公務の出張でもないわけです。夏休みが別に9.5日あると。２５.５日もうほとんどこの夏は市役所にいらっしゃらないわけです。やはり職免扱いにする場合には、きちんとした既定の条例規則がありますから、余り自分の意の都合がいいように曲解をして適用なさらない方が私はいいと思います。後で市長自身過去の海外旅行の方の一覧をごらんになってください。これございますが。今回が

日野市政始まって以来初めてのことであります。

そこで、一つだけ確認をしておきますが、このお２人の方については市費は――日野市の税金は１円も使われていないのかどうか。イエスかノーか簡単で結構ですからお答えをお願いしたいと思います。

○議長（高橋通夫君）　総務部長。

○総務部長（伊藤正吉君）　全額私の費用で行っています。

○議長（高橋通夫君）　古賀俊昭君。

○１８番（古賀俊昭君）　３７万5,０００円、１６日間にしては格安であります。ソ連のいわゆるプロパガンダといいますか、そうした意味合いもあると思いますから、大変安く上がっているようであります。赤城宗徳さんという方は親ソ派代議士として大変有名な方で、石田博英さんと同じくソ連には大変近い方であります。こういう方がおやりになったということで、レフチェンコの証言等にも名前が出たかもわかりませんが、そういう方だということをちょっと申し添えておきます。

市長は「不戦の誓い」ということで行かれたと思うんですが、日本はソ連と戦争をした覚えはないんです。戦わない誓いをすると。一度戦ったから二度と戦わないように誓いましょうというんだったらわかります。しかし、日本はソ連と戦争した覚えはない。ソ連が一方的に昭和２０年の８月の９日に宣戦を布告しました。当時は日ソ間には中立条約が翌年の２１年４月まで有効で存在していました。明らかな世界史に書き残さなければならない条約違反であります。この条約違反には共同責任者がいます。日本に戦争を仕掛けたら北方領土をくれてやるという約束を、チャーチルやルーズベルトがしたわけであります。それを根拠に北方領土に攻めてきました。日ソ間に残る唯一の未解決の問題は北方領土の返還ということで、領土問題であります。この領土問題が解決しなければ平和条約は当然結ばれません。しかも、日本が戦争終結いたしましたサンフランシスコ平和条約には共産国であるソ連は加わっておりません。チェコやポーランドも加盟していないわけであります。ですから、北方領土の問題の解決のために――たまたま市長はソ連に行かれたのですから、不戦の誓いをするということも大変おかしなことだと思います。けんかした覚えがないのに、けんかしない約束をする。仕掛けてきたのは向こうだということであります。大変長い間滞在をしておられましたが、私は当然自治体の長でもある市長が、日ソ間に残っております最大の課題である北方領土のことについて、真に平和を

求めるというお気持ちがあるならば、こうした国際的な不法行為が放置されることは、世界の平和を願う国民の願いに逆行することでもありますから、一言そのことを私はおっしゃる機会があってもよかったのではないかと思います。そうしたお話をなさったかどうか。不戦の誓いというのも大変おかしな内容ですが、北方領土についてのお話をされたことがあるかどうか。１６日間、いつでも結構です。お答えをいただきたいと思います。

○議長（高橋通夫君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　私費で関心は海外へ行くことについて持つわけでありますが、そのことを一々議会にまた報告しなきゃならんというのもちょっとどうかと思いますけれども、問われたことでありますからお答えをしておきたいと思います。

私は、昨年は東京都の、北京市との友好協定関係の自治体の長として訪中団に参加いたしました。数年前に、やはりこれは三多摩日中友好協会、これの団体で中国に参りました。若いときに同じ中国の北方――当時満州と言われていた時代に、あちらに、つまり中国に約１０年ほど生活をし仕事をして、そして……（「時間じゃないか」と呼ぶ者あり）

○議長（高橋通夫君）　市長、時間なんで簡単にお願いします。

○市長（森田喜美男君）　いや、これを順序を言わなければ回答にならないと思って…（笑声）つまりアジアという地域につきましては、自分の何分の１かの生涯に深いかかわりを持っていましたので強い関心を持っております。そうして、たとえば黒竜江――黒竜江というのはソ連の国境になる川でありますけれども、その対岸にはソ連のシベリアがある。よく向こう岸を眺めたものであります。今回は、その川向こうから満州側を眺める、こういう機会がありまして、大変感慨に思ったところでございます。

国際間の紛争ということは、われわれが最も好まない。なぜ仲よくやっていかないのか不思議に思ったり、そのための努力はぜひしなければならないということをかねがね思うわけであります。それで、紛争の形で未解決の問題として、たとえば北方領土の問題もありますし、沖縄に駐在をしております米軍の基地の問題もあります。こういう問題が、やっぱり双方で譲るという精神がなくては紛争は解決しないわけでありますから、日本はちょうど間に立ってその役割りを果たすにきわめて重要な地位を占めております。ソ連の本当の広い国土の中の本当の一部分の都市を歩いたにすぎませんが、ソ連の国民の意気込みもある程度接触することができました。

そういう意味で、北方領土の問題も、たまたま旅行団の中のシンポジウムの際には沖縄の喜屋武眞栄さんもいらっしゃいましたので、特に強調されておりました。つまり……（「議長、時間じゃないの」と呼ぶ者あり。その他発言する者あり）沖縄の米軍基地をぜひ沖縄の島民のために返してほしい、それとあわせて北方領土を日本人のために返してほしいと、こういう批評でありまして、私も感銘をいたしました。シンポジウムにそのような話題が出され、私も各地の不戦の誓いという、各都市の大きな住民との交流集会があったわけでありますが、日野市の「核兵器廃絶平和都市宣言」をやっておる、このことを文書で持ってまいっておりましたので、努めてそのことの呼びかけをする機会を得たわけであります。かなり一つの世界観を現実に見て、大変参考になったというふうに思っております。

以上です。（「時間ですよ」と呼ぶ者あり）

○議長（高橋通夫君）　古賀俊昭君。

○１８番（古賀俊昭君）　これで終わりますが……（発言する者あり）第２次世界大戦で領土をふやしたのはソ連１国なんです。そうした不法な行為を今日なお続けて……（「議長、時間だよ。打ち切りだよ」「議長、時間だ」「ルールを守れ」と呼ぶ者あり、その他発言する者あり）いま安保条約に基づいて、条約に基づいて駐留をしている米軍と、不法占拠している北方領土のソ連を同格に言われましたけれども、それはとんでもない間違いだと思います。（発言する者あり）とにかくソ連を訪問をされたということで、市長にはそれなりの成果があったかもわかりませんが、私にはとうてい理解できないソ連訪問であった。しかも、随行の問題等も含めてでございます。

以上で一般質問を終わります。

○議長（高橋通夫君）　これをもって２の3.　この夏・革新・森田市長がソ連を訪問した真の目的は何か、に関する質問を終わります。

お諮りいたします。議事の都合により暫時休憩いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（高橋通夫君）　御異議ないものと認めます。よって暫時休憩いたします。

（「続行」と呼ぶ者あり）

午後２時４４分休憩

午後３時１８分再開

○議長（高橋通夫君）　休憩前に引き続き会議を開きます。（「議長、議事進行」と呼ぶ者あり）飯山　茂君。

○１５番（飯山　茂君）　先ほど古賀議員と市長とのやりとりの中で、「時間ではないでしょうか」ということでしたが、議長は「時間ですよ」ということだけですが、議長としては、少なくともお互いにやりとりをしているんですから、時間は恐らくやりとりしている方はわからないと思います。ここで「あと２分ですよ」とか、「あと１分ですよ」と、やっぱり私は教えるのが当然だと思うんです。そういうことで、局長に聞きますが、古賀議員に対する時間が何時から何時までなのか、その辺をお伝えいただきたいと思うんです。

○議長（高橋通夫君）　議会事務局長。

○議会事務局長（岩沢代吉君）　それではただいまの御質問に対してお答えいたします。１時９分から２時３９分までの間でございます。

以上でございます。（「議長」と呼ぶ者あり）

○議長（高橋通夫君）　飯山　茂君。

○１５番（飯山　茂君）　いまの時間が、じゃあ何分オーバーしたんですか。

○議長（高橋通夫君）　議会事務局長。

○議会事務局長（岩沢代吉君）　ただいまの時間は与えられた時間が　制限時間がただいま申し上げました時間でございまして、終了時間が４４分でございます。したがいまして、超過５分ということでございます。

以上でございます。（「議長」と呼ぶ者あり）

○議長（高橋通夫君）　飯山　茂君。

○１５番（飯山　茂君）　いま局長が説明したように５分の超過と。私、これは古賀議員と市長との問題じゃないと思うんです。議長の判断だと思うんです。この辺をやはりルールですから、はっきりとしていただきたい。そして、議運に、開いていただいて――これは私の見解ですから勝手ですから。ただ議長の采配ですから、その辺は議長の判断を私はもう少し明確にしていただきたいと思うんです。（「よし」「了解」「異議なし」と呼ぶ者あり、その他発言する者あり）

○議長（高橋通夫君）　今後時間は厳守します。（「ただ座っているだけが議長じゃな

いよ」と呼ぶ者あり、その他発言する者あり）飯山　茂君。

○１５番（飯山　茂君）　じゃあ、その５分を経過したというのをどういうふうに判断されていますか。（「議長の責任ですよ」と呼ぶ者あり）

○議長（高橋通夫君）　これは、市長が発言中だったら一応市長にもお話ししたんだけれども……（発言する者あり）市長に言いましたよ。（「議長」と呼ぶ者あり）飯山　茂君。

○１５番（飯山　茂君）　議長。市長にお話をしました。残り時間が何分ですよと、なぜ伝えないんですか。ですから、古賀議員も市長もお互いに話し合っているときは時間なんかわからないんです。持ち時間があと何分ですよと。それで、その時間が来たら議事打ち切りですよと。これでいいんですよ。それ、なぜそういうことをしないんですか。（「質問者は、あと２分だと言ったよ」「議長」と呼ぶ者あり）

○議長（高橋通夫君）　飯山　茂君。

○１５番（飯山　茂君）　たとえば事務局はこんなにいらっしゃるんでしょう。それで、しかも紙をちゃんと、時間何時から何時までと渡すんでしょう。何の作業をしているんですか。じゃあ。それに対して議長はどういうことをしているんですか。事務局もこんなにいらっしゃるんですよ。一生懸命やっているんですよ。（「議長どんなふうに考えているのかなあ」と呼ぶ者あり）

○議長（高橋通夫君）　市長が発言中だったりしたのでその点を、発言を終えるまでということで思っていたわけですが、今後気をつけますので御了承願います。（「議事進行」「議長」と呼ぶ者あり）名古屋史郎君。

○２１番（名古屋史郎君）　今後気をつけますって、５分もオーバーして、先般も何か議会のルール云々ということで大変な時間を費したわけですから、議運を開いてということもあるんで、やはりそれ取り上げないと――このまま進めていく気ですか、議長は。（「大変だぞ」「後でやればいい」と呼ぶ者あり）若干休憩したらどうですか。（「後でやったら、議会終わった後」と呼ぶ者あり）

○議長（高橋通夫君）　議長としましては、きょうの日程でまだ２人ほど残っておりますので、これを終えてから後で議運を改めて開いていただきたいと思います。（「議長」と呼ぶ者あり）　飯山　茂君。

○１５番（飯山　茂君）　改めてとおっしゃいますが、やはりこれをはっきりして。議

運もそう長いことかかるわけじゃないと思いますよ。そんなに時間が長くかかるわけじゃないんですよ、議運に。もっていてその5分の時間のことなんですから。（「休憩」と呼ぶ者あり）その辺をひとつお諮りいただきたいんですよ。（発言する者あり）

○議長（高橋通夫君）　お諮りいたします。議事の都合により暫時休憩いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（高橋通夫君）　御異議ないものと認めます。よって暫時休憩いたします。

午後3時24分休憩

午後4時46分再開

○議長（高橋通夫君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

お諮りいたします。議事の都合によりあらかじめ会議時間の延長をいたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（高橋通夫君）　御異議ないものと認めます。よって会議時間を延長することに決しました。

お諮りいたします。議事の都合により暫時休憩いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（高橋通夫君）　御異議ないものと認めます。よって暫時休憩いたします。

午後4時47分休憩

後、本会議を開くに至らなかった

9月19日　木曜日　（第5日）

昭和60年
第3回定例会

日野市議会会議録　（第24号）

9月19日　木曜日　（第5日）

出席議員（28名）

1番	橋本文子君	2番	福島敏雄君
3番	小俣昭光君	5番	谷　長一君
6番	古谷太郎君	7番	馬場繁夫君
8番	馬場弘融君	9番	高橋徳次君
10番	旗野行雄君	11番	一ノ瀬　隆君
12番	板垣正男君	13番	鈴木美奈子君
14番	川嶋　博君	15番	飯山　茂君
16番	夏井明男君	17番	黒川重憲君
18番	古賀俊昭君	19番	市川資信君
20番	藤林理一郎君	21番	名古屋史郎君
22番	竹ノ上武俊君	23番	米沢照男君
24番	中山基昭君	25番	大柄　保君
26番	秦　正一君	27番	奥住芳雄君
28番	石坂勝雄君	30番	高橋通夫君

欠席議員　（なし）

欠員

4番　29番

説明のため会議に出席した者の職氏名

市長	森田喜美男君		
助役	赤松行雄君	収入役	加藤一郎君
企画財政部長	前田雅夫君	総務部長	伊藤正吉君
市民部長	佐藤智春君	生活環境部長	坂本金雄君
清掃部長	藤浪竜徳君	都市整備部長	結城邦夫君
建設部長	中村亮助君	福祉部長	高野隆君
水道部長	永原照雄君	病院事務長	大貫松雄君
教育長	長沢三郎君	教育次長	小山哲夫君

会議に出席した議会事務局職員の職氏名

局長	岩沢代吉君	次長	馬場守君
書記	田中正美君	書記	土方留春君
書記	谷野省三君	書記	串田平和君
書記	佐々木茂晴君		

速記委託先　住所　東京都立川市曙町一丁目10の3

立川速記者養成所　所長　関根福次

速記者　保木シゲル君

速記者　浜田文子君

議事日程

昭和60年9月19日（木）

午前10時開議

日程第1　一般質問

（動議）

追加日程第1　高橋議長辞職勧告決議

本日の会議に付した事件

追加日程第1

午後4時３５分開議

○議長（高橋通夫君）　本日の会議を開きます。

ただいまの出席議員２８名であります。

お諮りいたします。議事の都合により、あらかじめ会議時間の延長をいたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（高橋通夫君）　御異議ないものと認めます。よって、会議時間を延長することに決しました。

お諮りいたします。議事の都合により暫時休憩いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（高橋通夫君）　御異議ないものと認めます。よって、暫時休憩いたします。

午後4時３６分休憩

午後7時５３分再開

○副議長（米沢照男君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

ただいま高橋議長辞職勧告決議が提出されました。本件については高橋通夫君の一身上に関する事件であると認められますから、地方自治法第１１７条の規定により高橋通夫君は除斥となりますので、副議長が議長を務めます。特段の御協力をお願いいたします。

ただいま奥住芳雄君から高橋議長辞職勧告決議の動議が提出され、所定の賛成者がありますので動議は成立いたしました。

お諮りいたします。この際、本動議を日程に追加し、先議いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし　と呼ぶ者あり）

○副議長（米沢照男君）　御異議ないものと認めます。よってこの際本動議を日程に追加し、先議することに決しました。

高橋議長辞職勧告決議の件を議題といたします。

提案者から提案理由の説明を求めます。奥住芳雄君。

〔２７番議員登壇〕

○２７番（奥住芳雄君）　ただいま議長から御指名がございましたので、提案理由の説明をさせていただきたいと思います。

今回、このような方法で私が高橋議長に辞職を勧告する提案者になったことは、まことに忍びがたい思いがあるのであります。去る８月、高橋議長も奥さんを亡くしたことを考えますと、お気の毒に思いますが、これもお許しを願いたいと思うわけでございます。

昨年の３月私たちの反対する中で、高橋議長が就任されたわけでございますが、以来、たびたびにわたり、議会運営に非常に不手際を来たしたわけでございます。議員の皆様方は、私が申し上げるまでもなく、おわかりのことと存じます。例を挙げて申し上げるまでもございませんが、議長は、日野市議会の代表であります。取りまとめ役でもあり、そして議会運営は、会議規則、代表者会議の申し合わせ、議会運営委員会の決定等に従って行われるわけでございます。しかるに高橋議長においては、会議規則を無視したり、場当たり主義の運営が多く、皆さんに大変迷惑をかけて、その都度、今度は気をつけます、と頭を下げているのであります。またすぐ同じことの繰り返しであります。言うなれば、議会の品位を著しく傷つけるものであります。そのために、議会のおくれが非常に目立つ場面が多いわけでございます。特に６月議会また今議会等に、この不手際な運営が目立っております。今後の日野市議会のスムーズな運営を図るため、また議会の権威を守るため、あえて高橋議長に辞任を勧告するものであります。どうか議員の皆様方の全員の御協力をお願いいたしまして、提案の理由とさせていただきます。

○副議長（米沢照男君）　これより質疑に入ります。竹ノ上武俊君。

○２２番（竹ノ上武俊君）　１件だけ質問させていただきます。

ただいま奥住議員より緊急動議が提案されました。これは辞職勧告ということになっております。そのほか不信任動議などもあるかと思うんですけれども、不信任ではなくて、なぜ辞職勧告という形をされたか、その根拠についてお聞かせいただきたいと思います。

○副議長（米沢照男君）　奥住芳雄君。

○２７番（奥住芳雄君）　それではお答えをいたします。

冒頭に申し上げたとおり、本当に私たちも高橋議長のこういうふうにいろんな意味で全く辞職をしてくれ、と申すのも忍びがたいと申し上げたわけでございますが、さらに不信任ということだと非常になおきつい問題であります。全くいろいろな中で先ほど申し上げたとおり、何回もおわびしてもまた忘れてしまうかわかっていないのか、同じことの繰り返しである、そう

いう中で辞職を勧告するという意味の、ぜひ本人に一度やめてほしい、こういう意味で勧告の決議を提案した、こういうことでございます。

○副議長（米沢照男君）　竹ノ上武俊君。

○２２番（竹ノ上武俊君）　ただいまのお答えでは余りはっきりしないと申しますか、不満足でありますけれど、これで質疑は終わらせていただきます。

○副議長（米沢照男君）　川嶋　博君。

○１４番（川嶋　博君）　ただいまの奥住議員からの辞職勧告決議案について不手際ということがここに要旨として書かれておりますが、高橋議長としては人柄であり、陳謝をされて、昨日の一般質問も行ってきました。そういう意味で、議会としても陳謝をされたので、この大きな辞職勧告というほどに当てはまらないということを思いますが、この点について、奥住議員はどのようなお考えでいるか。お答えを願いたいと思います。

○副議長（米沢照男君）　奥住芳雄君。

○２７番（奥住芳雄君）　お答えをいたします。

最前から申し上げたとおり、私よりか皆さんの方が特によくおわかりであると申し上げたわけでございます。いろいろ人事のことでございます。余り立ち入って提案者の私が申し上げたくないということで、思っております。そんな中で、昨日の議会の不手際というか、５分間の延長等につきましても、非常に私も議会ルールがある以上、当然議長の計らいによって、これを早い機会にとめて時間の厳守等を図ってほしかった、とこういうことでございます。そのおわびということでございますが、昨日もすぐおわびを議長はしたわけでございますが、その中で、さらに議事進行が出まして、その程度では済まされないというようなことにも相なっております。私は、以前より何回となく高橋議長にも、けしからんということを申し上げております。その中で、その程度のおわびでは私は済まされないという見地から、辞職勧告というふうにお願いをしたわけでございます。

○副議長（米沢照男君）　川嶋　博君。

○１４番（川嶋　博　）　ただいまの奥住議員の言葉の中にありましたように、我が市民クラブの飯山議員から議事進行が出ました。これについては、その一般質問の中の５分間の時間をただすために議長に申し上げたのであって、それが辞職勧告に及ぶほどの内容ではない、と私たちは判断しております。この点については、再度お答えを願いたいと思います。

○副議長（米沢照男君）　奥住芳雄君。

○２７番（奥住芳雄君）　お答えをいたします。ただいま川嶋議員の再度にわたる質問でございますが、それは見解がいろいろございます。さらにその中で、名古屋議員からも強い議事進行がございました。それで、私たちも最前申し上げたとおり、非常にけしからん、何回言っても何回頭下げりゃいいんだ、ただこれだけでは済まない。今回は特にこういう意味で御提案申し上げた、こういうことでございます。

○副議長（米沢照男君）　川嶋　博君。

○１４番（川嶋　博君）　私はこの高橋議長の人柄を重要視しております。それでそのときの陳謝の中にもありますように議会運営を正常にもっていこうという努力もされていることも認めております。そういうことで私についてはこの勧告決議案については反対をする、という意見を申し上げてこれで終わります。

○副議長（米沢照男君）　ほかに御質疑はありませんか。なければこれをもって質疑を終結いたします。

お諮りいたします。ただいま議題となっております高橋議長の辞職勧告決議は当人の除斥事件でありますが、特に高橋通夫君に弁明の機会を与えることに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（米沢照男君）　御異議ないものと認めます。よって高橋通夫君に弁明の機会を与えることに決しました。

高橋通夫君の除斥を解きます。それでは高橋通夫君御登壇願います。

〔議長登壇〕

○議長（高橋通夫君）　弁明の機会を与えていただきましてありがとうございます。

私は、議長就任以来議会の運営につきましては、議員各位の多大な御協力をいただきましたことをこの席から厚く御礼申し上げます。

私は、議長就任以来、私なりに誠心誠意を持って、議会の運営に全力を尽してきたつもりであります。今回、昭和６０年第3回日野市議会定例会の会期中の昭和６０年９月１８日一般質問の行われた本会議場において、持ち時間の少なくなった古賀俊昭君が、森田市長に質問したとき、議長は森田市長に対し、時間のないため簡単に答弁されるよう通告しました。そのとき市長は、言うべきことは言わせてほしい意味のことを言われ、答弁を続けられました。一方議

長は、古賀俊昭君に対し持ち時間のないことを通告しました。しかし、古賀俊昭君は、最後のまとめのため発言を続けられ間もなく同君の一般質問は終了いたしました。市長の答弁、古賀俊昭君の発言もあった時点ではやむを得なかったことと私は思うのであります。したがいまして、質問者の持ち時間を５分超過させただけ等の理由で高橋通夫議長辞職勧告決議に対しては、私は強く反対するものであります。しかし、申し合わせた持ち時間１時間３０分を５分オーバーさせたことについては深く反省しております。今後は再びこのような誤りのないことに努力することをお誓いいたしまして、弁明といたします。

○副議長（米沢照男君）　高橋通夫君の退席を求めます。

〔議長退席〕

○副議長（米沢照男君）　これより討論に入ります。原案反対者の発言を求めます。

竹ノ上武俊君。

〔２２番議員登壇〕

○２２番（竹ノ上武俊君）　共産党市議会議員団を代表いたしまして、緊急動議に反対の立場から発言を申し上げます。

私も本来このような問題で討論をするということは、はなはだ好まないものがあります。同じ議会人として、例えば市民として法律行為に反した場合であるとか、議長である場合には議会の発言の自由を抑えて一言も議員に発言をさせないような横暴なことがあった場合とか、そういうときには、堂々と討論もしたい気持ちでございます。本来、議長というものは、中立公正でなければならないと思います。かつまた民主的な議会運営をしなければいけないというふうに思う次第であります。高橋通夫議長の場合はどうであったか、この点を若干述べてみたいと思います。今回、この緊急動議が出るに至った発端は、はっきりいたしております。これは、一般質問の持ち時間１時間３０分を５分間オーバーをしてしまった、この議事進行のあり方について、特段、革新クラブの名古屋議員よりきつい議事進行の発言があり、そこから始まったわけでございます。そして、議会運営委員会でいろいろとその調停のための話し合いなどもなされてまいっております。確かに日野市議会の会議規則では、一般質問の持ち時間は１時間３０分、質疑応答、答弁を含めてということになっております。こういう市議会の会議規則のその条項の点からだけ見ると、５分間オーバーということは、規則に反するということは明らかでございます。しかし、もともと日野市議会の会議規則ができたいきさつがございます。

昭和５２年１０月２０日に、この規則は実施されたものでございます。この会議規則をつくるに当たっては、全会派から代表者が出て、慎重なる意見交換をしてでき上がってきたものでございます。当時、私ども日本共産党日野市議会議員団は、一般質問について、時間制限をするのはよくない、１時間半では不十分である。こういうことを強く主張してまいりました。しかし、当時の議会では、これを強行してこの会議規則が実施された、といういきさつがあります。この項目についてでございます。その際の意見交換の際に、共産党が１時間半に反対した際、討議の中で確認されたという記録などはないかもしれません。しかし、話し合いの中で、一般質問というのは、１時間半と会議規則では決める。しかし、若干のオーバーなどがあった場合は、議長の裁量でも柔軟な態度がとれるんだ、というようなことなどが話し合われていたことは、代表者の皆さんが記憶にあると思います。一般質問の５分間のオーバーという点について、会議規則からオーバーはしているとはいえ、この数分間という時間については、議長権限のうちで柔軟なる議事進行をしていいというふうにも解釈ができます。それは、例えば日野市議会会議規則第５６条には、同一議題については、２回しか質問をしてはいけない、ということが定められております。しかし、議員の皆さんが御承知のように、同一議題どころか、小さな項目についても日野市議会は、議長の裁量によって、５回でも６回でも再質問が許されてきているのでございます。このように、会議規則に決まっていても、議長の裁量の権限というのは、認められております。会議規則第６２条による一般質問の持ち時間１時間３０分このことは確かに規定をされております。しかし、第１６３条、会議規則の最終項目におきまして、会議規則の疑義に関することについては、議長が判断をして決定していいということもまた明記されているのでございます。このようなことを考えてみますと、今回、高橋議長が、議長席より陳謝をされました。私は、この程度の時間オーバーの問題については、例えば会議規則１５９条の陳謝によってこのことを明らかにし、そして、その後の議事運営については、議長に先ほど弁明をされましたような立場で、努力をしていただく、そういう形で解決していけるのではないかというふうに考える次第でございます。あるいはまた、さらに必要であれば議運委員会は開かれておりましたので、議運委員会の結論までは至りませんでしたけれども、陳謝ということでこの件は処理したらどうかということを議運では取りまとめの提案として一応出されていたわけでございます。こういうことからも、この程度の処理で、今後の議会運営はスムーズにやっていくことができるのではないか、こう確信をしているものでございます。もちろん高橋

議長が、あの一般質問の時間に市長にも確かに我々に聞こえる形で時間が過ぎているということを発言をされました。しかし、これも会議録にちゃんと残るような形でやっていただくとか、古賀議員が、再質問を最後に行った際、その発言は時間オーバーだから認めないというようなことをちゃんと会議録に残るような形で議事進行をしていただく、そうされればもちろん問題はなかったことは当然でございます。そういう点の努力不足については、議長の今の弁明でもはっきりと自覚をされ、陳謝をされている次第でございますので、こういうことが代表者会議、あるいは議運の席で確認をされていけば、スムーズな議会運営は今後とも保たれるものと私は信じる次第でございます。したがいまして、これらのことを考えるにつけ、今回、緊急動議として辞職勧告をするというようなことは私はすべきではない、そういうふうに考える次第でございます。また、提案理由の中で奥住議員は、たびたびいろいろなことがあったと申されております。たびたび過去もございます。これは高橋議長だけではなく、たびたびという点で、数が多い少ないはございましょうけれども、日野市議会の歴史では、いろいろの議長の行道がありました。あるいは不信任動議が出たこともございます。しかし、それらはその都度、代表者会議、または議運などで話し合いをして、解決をしてきているわけでございます。ですから、たびたびいろいろあったというようなことで、辞職勧告をするということは、行き過ぎではないか、と私は考える次第です。なおまた、日野市議会会議規則には、第１４８条におきまして、議会の品位を保たなければいけない、ということが明記されております。議長も全議員もこの議会の品位を保つ、このために努力をしなければならないことは当然でございます。しかし、この品位という問題については、私はこういう席で討論をするような問題ではなく、全議員がみずから襟を正して品位を保つために努力をする、このことが大切であって、他を批判することは、その次ではないかというふうに考える次第です。私ども共産党市議団が、高橋通夫議長を議長として支持してきたのは、一言この点について触れておきます。それは高橋通夫議長が、政党間の問題については中立を保つことを表明をされ、また、市民本位の民主的な議会運営をするということを表明をされ、また、そのために一貫して誠意を持って努力をしてきておられる、そういうことを評価しているからこそ、今まで支持してきている次第でございます。以上、簡単ではございますが、辞職勧告決議というこの緊急動議に、反対する立場を表明した次第でございます。

○副議長（米沢照男君）　次に原案賛成者の発言を求めます。名古屋史郎君。

〔２１番議員登壇〕

○２１番（名古屋史郎君）　私は、高橋議長辞職勧告決議案に賛成する討論を行う前に、一言申し上げておきたいと思います。

私は、高橋議長とは古い議員仲間であり、温厚篤実な高橋さんに、今も敬愛の気持ちを持っております。個人の情からしては、まことに忍びがたい気持ちで、本席に立っていることを、申し上げておきます。

そもそも議長職は言うまでもなく公職であり、議長職は公人であります。議長の権限、そして議長の技量は、市民の期待が多くかけられているわけであります。そういう立場から、私は、公人としての高橋議長の対外活動については、今、おくとして、当議会内でのことについての運営の不手際を二、三点申し上げてこの勧告決議案に賛成の立場を明らかにしたいと思います。

今、竹ノ上議員は、お互を批判することは品位をみずからが汚すものだ、というような意味の発言をされました。私は、言論人としては、まことにふがいない考え方だと思います。まず私が申し上げたいのは、先ほど竹ノ上議員がいろいろ言われておりますが、私は、まず申し上げたいのは、本議会の冒頭、２日ばかりいわゆる議事が空転をした時期がございました。そして、議長が、橋本議員に対して、通告という形のことが行われました。私は、この議長通告ということに至ったまでの経過のことについては、今触れようとは思いません。私が第一に申し上げたいのは、この議長通告を議場で一議員にするという珍しいといいますか、余りない例のことが行われた際に、当事者である橋本議員が、しきりに発言を求めておりました。こういう珍しいことを行う際には、私は慎重の上にも慎重を期さなければいけないと考えます。しかるに、議長は、当事者の発言を求めている姿を、声を目の当たりにしながら、その当事者の発言を十分に保障しないで議事を進行いたしました。裁判でも、当事者の意向は聞いてもらえるはずです。まして言論の府である議会で、当事者が話をしたい、先ほど高橋議長も弁明の機会が与えられたごとく、当事者が何か聞いてほしいと言っているのを、抹殺するような姿勢は、私は議会の民主主義を守る、そういう立場から、到底容認できないものであります。

次に、先ほど提案理由の説明にもありましたように、代表者会議、あるいは議運などのすべて議長のもとで行われる諸会議の決定事項なりが十分に議員同士に浸透していない、そういうことでいろいろな不手際がこれまでもありました。先ほどこれまでのことを言うというのはけしからん、というようなお話もありましたが、やはり私は、冒頭申し上げたように、公人

としての議会の最高の運営の責任者としては、この問題は済んだではないか、あの問題は済んだではないかという締めくくり方では、論評といいますか、批判できないと思います。いろいろの不手際がこれまであったということは、これは重大な問題だと思います。今申し上げましたように、全員協議会の中で、つい先般もある代表者の質問といいますか、そういう形におわびをするというような形もありました。こういうことからしても、私は議長としてはまことに不適格だ、こういうふうに感ずるわけであります。

続いてこの１８日ですか、一般質問の時間の問題についても触れられております。共産党の方は、議会ルールを守れということをしきりにこれまでも言われました。これは当然のことです。一般質問の持ち時間が１時間半に決まったのは、含みがあるんだ、しかもその取り扱いについては不十分だったけれど誤ったじゃないか、だからいいんだ、こういう形には私は到底賛成できません。最低のルールを守らない、たとえ１分でも２分でもそこで切らなければそれでは２分くらいはいいだろう。３分くらいはいいだろう、５分ぐらいはいいだろうという運営がなされたんでは、ほかのこともそれにならった形になっていく、そういう点から、私は最低のルールは守らなければいけない。そういう点で大変な不手際だ、こういうふうに感じているわけであります。これも理由の一つであります。

次に、大変申し上げにくいことですけれども、これもあえて言わなければならないと思います。この日野市議会で高橋議長就任以来、議場の中で異様な音が発せられます。たびたび発せられます。いわゆる机なり、いすはそうでもないですが、たたかれます、こんな議会は私はないと思います。その議会の竹ノ上氏はいろいろな条文を持ち出されますが、私は、日野の会議規則の１２３条、あるいは地方自治法の１０４条、品位は守らなければいけない。秩序は保持しなければいけないと書いてあります。この秩序という点で、私は高橋議長になってから、本会議場でのあの異様な音、激しい音、この発せられることについて、もうこれ以上言うのは恥ずかしいような、悲しいような気持ちです。これは、私は議長の職務を十分果たしていない、議場の秩序を守らなければいけない。あんな日本じゅうの議会に聞こえないような音が聞かれるというのは、私は議長がしっかりと目をあけていれば起こらない音であります。全くこのことを言うこと自体が私は恥ずかしいような気持ちがいたしますが、こういうようなことで職場の秩序、品位、全く不規則な音が出されることに対しても全く制止をできない。もちろんそういう音を出す者の方が間違っていると思います、私は。しかし、その音を出す人は相当な気持

ちで出していると思います。これを一向に受けつけない、そういうような議事さばき、これでは全く議会の品位、いわゆる秩序が保たれないと思います。

以上二、三点申し上げましたように、私は、冒頭申し上げましたように、公人としての責任者としての高橋通夫君は、議長として全くふさわしくない、こういうことで、奥住議員の提案に全面的に賛成をするものであります。心ある議員の皆さんは、ぜひ議会の民主主義を守る、市民の生活を守る、こういう立場に立って御英断のあられんことを、心からお祈りをいたしまして、賛成討論といたします。

○副議長（米沢照男君）　次に原案反対者の発言を求めます。なければ原案賛成者の発言を求めます。黒川重憲君。

〔１７番議員登壇〕

○１７番（黒川重憲君）　昭和５３年４月１５日、議員高橋通夫君に対し、反省と謝罪及び副議長辞任を求める動議が提出をされました。そして、また本日、再び議長として辞職勧告決議が出されましたことは、まことに遺憾に耐えません。私情を捨てて日野市議会の議会運営の秩序と権威を回復せんがために、勧告決議に賛成をするものであります。代表者会議での議会運営の不手際、まずさ、各会派との折衝、あるいは議会運営委員会との連絡不徹底、議長不慣れのためとのおわびも、何回となく代表者会議で行われました。また、議長が大声を上げて代表者と渡り合うこともたびたびでございました。また、今、名古屋議員からお話がありましたとおり、議長席での居眠り、議員席から机をたたかれたり、あるいは事務局員に注意をされたり、ほぼ毎度のことのように居眠りをされておる、歴代議長にはなかったことではないでしょうか。また、このことは市民には何らの説明の余地はないと思われます。このようなこともございました。寝るなという議員のやじに、みんなも寝ているじゃないか、こういうことを言ったこともございました。

本年６月の定例会に、同じく高橋議長の辞職勧告決議が、代表者会に提出をされました。これは議案として上程はされませんでしたけれども、その最終日に１２時になっても議場に来なかった。トイレに入っており流会になったことは、皆さんの記憶に新しいことと思います。

さらに、今９月定例会におきまして、代表者会議の冒頭から審議はストップをいたしました。市職員の不慮の死を遂げたこの痛ましい事件、全協の問題もございました。また、一般質問の予定時間の延長のこともございました。議長室での奇声を発しての異様な行為、既に私たちは

寛容と慈悲の気持ちは全く限界に達しているのであります。もしも、これ以上この職にとどまるならば、高橋通夫氏の長い議員歴に汚点を残すことは、明白であろうと思います。以上をもって動議に賛成をいたします。

○副議長（米沢照男君）　続いて原案賛成者の発言を求めます。箕野行雄君。

〔１０番議員登壇〕

○１０番（箕野行雄君）　新政会を代表いたしまして、決議案に賛成の立場から意見を申し上げたいと思います。

個人的には、私は別に高橋議員に対して、何の恨みもないし、感情も持っておるわけではございません。むしろ長年の議会人としての政治活動に対して、深い敬意を払うものであります。つい最近、ある代議士と話し合う機会があったわけでありますけれども、そのときに、こういうお話がございました。若さというのは、政治家として一番の魅力であり、選挙にも非常に強いんだ、こういうこともあるにもかかわらず、お年寄りが長年、議会選挙の難関をくぐり抜けて議会活動を続けるということは、非常に大変なことだと、本当に私も感心し、尊敬しなければならないと思っている、とこういうようなお話がございました。全く私もそのとおりだと思うわけであります。しかしながら公人としては、また考えは別であります。名古屋議員、あるいは黒川議員から具体的なことについてはお話がございましたから、私は申し上げるつもりはございません。最近の議長のあり方を見ておりますと、果たして議長として適任であるか、その職責を果たせるかどうか、大いに疑問に思うものであります。議長は申し上げるまでもなく、外に対しては議会を代表し、議会内では議会のスムースな運営を図る、これがその職責であります。高橋議長が、議長の職を今後続けられた場合、果たして市議会がスムースな運営が図られるか、大いに疑問に思うわけであります。ますます混乱を続けるばかりではないか、と思うわけでございます。

以上のような意味におきまして、この決議案に賛成するものであります。賢明なる皆さんの御賛成をいただいてこの決議案が可決され、日野市議会の名誉のためにも、今後のスムースな運営のためにも、高橋議員が賢明なる進退をされることを心から希望しまして、意見を終わります。

○副議長（米沢照男君）　これをもって討論を終結いたします。

これより高橋議長辞職勧告決議を採決いたします。この採決は無記名投票をもって行います。

（「議事進行」と呼ぶ者あり）古谷太郎君。

○６番（古谷太郎君）　我々日野市議会自由民主党所属議員は退席をいたしたい。よって我々が退席するまでこの採決を待っていただきたい、そのことを申し上げます。以上です。

〔６番議員、１８番議員退席〕

○副議長（米沢照男君）　議場の閉鎖を命じます。

〔議場閉鎖〕

○副議長　米沢照男君）　ただいまの出席議員数は２５名であります。

お諮りいたします。会議規則第３１条第２項の規定により立会人に谷　長一君と市川資信君を指名いたしたいと思いますが、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（米沢照男君）　御異議ないものと認めます。よって立会人に谷　長一君と市川資信君を指名いたします。

投票用紙を配付いたします。

〔投票用紙配付〕

○副議長（米沢照男君）　投票用紙の配付漏れはございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり）〕

○副議長（米沢照男君）　配付漏れなしと認めます。

投票箱を改めさせます。

〔投票箱点検〕

○副議長（米沢照男君）　異状なしと認めます。

念のため申し上げます。本件を可とする諸君は賛成と、否とする諸君は反対と記入願います。

なお、重ねて申し上げます。投票中賛否を表明しない投票及び賛否の明らかでない投票は、会議規則第７３条第２項の規定により否とみなします。

点呼に応じて順次投票をお願いいたします。

点呼を命じます。

○議会事務局次長（馬場　守君）　点呼いたします。（「議事進行」と呼ぶ者あり）

○副議長（米沢照男君）　福島敏雄君。

○２番（福島敏雄君）　今の議長の発言で御説明がありましたけれども、勉強不足でございまして、もう一度最後のところ読んでいただけますか。

○副議長（米沢照男君）　念のため申し上げます。本件を可とする諸君は賛成と、否とする諸君は反対と記入願います。

なお、重ねて申し上げます。投票中賛否を表明しない投票及び賛否の明らかでない投票は、会議規則第７３条第２項の規定により否とみなします。福島敏雄君。

○２番（福島敏雄君）　理由は述べませんけれども、この席を退席をさせていただきたいと思います。（「議事進行」と呼ぶ者あり）

○副議長（米沢照男君）　竹ノ上武俊君。

○２２番（竹ノ上武俊君）　議場閉鎖をした後のただいまの申し入れでございますので、これは退席はできないものと思いますので、議長の御見解をお示しいただきたいと思います。

○副議長（米沢照男君）　ただいまの発言ですけれども、既に御承知のように議場を閉鎖されておりますので、退場は認められませんので、御了承ください。

それでは点呼を命じます。

○議会事務局次長（馬場　守君）　それでは点呼いたします。

１番	橋本文子 議員〔投票〕	２番	福島敏雄 議員〔投票〕
３番	小俣昭光 議員〔投票〕	５番	谷　長一 議員〔投票〕
７番	馬場繁夫 議員〔投票〕	８番	馬場弘融 議員〔投票〕
９番	高橋徳次 議員〔投票〕	１０番	旗野行雄 議員〔投票〕
１１番	一ノ瀬　隆 議員〔投票〕	１２番	板垣正男 議員〔投票〕
１３番	鈴木美奈子 議員〔投票〕	１４番	川嶋　博 議員〔投票〕
１５番	飯山　茂 議員〔投票〕	１６番	夏井明男 議員〔投票〕
１７番	黒川重憲 議員〔投票〕	１９番	市川資信 議員〔投票〕
２０番	藤林理一郎 議員〔投票〕	２１番	名古屋史郎 議員〔投票〕
２２番	竹ノ上武俊 議員〔投票〕	２３番	米沢照男 議員〔投票〕
２４番	中山基昭 議員〔投票〕	２５番	大柄　保 議員〔投票〕
２６番	秦　正一 議員〔投票〕	２７番	奥住芳雄 議員〔投票〕
２８番	石坂勝雄 議員〔投票〕		

以上です。

○副議長（米沢照男君）　投票漏れはございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（米沢照男君）　投票漏れなしと認めます。投票を終了いたします。

議場の閉鎖を解きます。

〔議場開鎖〕

○副議長（米沢照男君）　これより開票を行います。

谷　長一君、市川資信君の立会いを願います。

〔開　票〕

○副議長（米沢照男君）　投票の結果を事務局長をして報告いたさせます。

○議会事務局長（岩沢代吉君）　それではただいまの投票の結果を報告いたします。

投票総数　２４票

賛　成　１４票

反　対　９票

棄　権　１

以上でございます。

高橋通夫君の除斥を解きます。

ここで議長を交代いたします。御協力ありがとうございました。

〔副議長退席、議長着席〕

（退席する者あり）

午後８時５３分定足数に達せず延会

９月20日　金曜日　（第６日）

昭和６０年
第３回定例会　日野市議会会議録　（第25号）

９月２０日　金曜日　（第６日）

出席議員　（２７名）

１番	橋本文子君	２番	福島敏雄君
３番	小俣昭光君	５番	谷　長一君
６番	古谷太郎君	７番	馬場繁夫君
８番	馬場弘融君	９番	高橋徳次君
１０番	旗野行雄君	１１番	一ノ瀬　隆君
１２番	板垣正男君	１３番	鈴木美奈子君
１４番	川嶋　博君	１５番	飯山　茂君
１６番	夏井明男君	１７番	黒川重憲君
１８番	古賀俊昭君	１９番	市川資信君
２０番	藤林理一郎君	２１番	名古屋史郎君
２２番	竹ノ上武俊君	２３番	米沢照男君
２４番	中山基昭君	２５番	大柄　保君
２６番	秦　正一君	２７番	奥住芳雄君
２８番	石坂勝雄君		

欠席議員　（１名）

３０番　高橋通夫君

欠員

４番　２９番

説明のため会議に出席した者の職氏名

市長	森田喜美男君		
助役	赤松行雄君	収入役	加藤一郎君
企画財政部長	前田雅夫君	総務部長	伊藤正吉君
市民部長	佐藤智春君	生活環境部長	坂本金雄君
清掃部長	藤浪竜徳君	都市整備部長	結城邦夫君
建設部長	中村亮助君	福祉部長	高野隆君
水道部長	永原照雄君	病院事務長	大貫松雄君
教育長	長沢三郎君	教育次長	小山哲夫君

会議に出席した議会事務局職員の職氏名

局長	岩沢代吉君	次長	馬場守君
書記	田中正美君	書記	土方留春君
書記	谷野省三君	書記	串田平和君
書記	佐々木茂晴君		

速記委託先　住所　東京都立川市曙町一丁目１０の３

立川速記者養成所　所長　関根福次

速記者　小野口純子君

議事日程　昭和６０年９月２０日（金）

午前１０時開議

日程第１　一般質問

本日の会議に付した事件

なし

午後３時３３分開議

○副議長（米沢照男君）　本日の会議を開きます。

ただいまの出席議員２６名であります。

本日、議長所用のため、副議長が議長を努めます。特段の御協力をお願いいたします。

お諮りいたします。本日の会議はこの程度にとどめ、延会いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。（「議事進行」と呼ぶ者あり）

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（米沢照男君）　御異議ないものと認めます。よって本日はこれにて延会することに決しました。（「御異議ございませんかというときに、議事進行が出ているじゃないか。こんなむちゃくちゃな進行があるか」と呼ぶ者あり）古谷太郎君。

○６番（古谷太郎君）　ただいま議長の方から、高橋議長が所用のために、副議長を頼まれておられた、こういうお話がありました。

先ほど、私、高橋さんの家に電話いたしました。そうしましたら、ずっと前から、きょうは用事があるので、副議長さんに２０日の議事はお願いしてありますんで、というお話がございました。

それならば、もう高橋議長さんは、きょうは御出席にならないということは、初めからわかっているわけであります。当然、午前１０時から副議長が議事を進行するのが筋だと思いますが、何ゆえに午後４時近くまで放置されていたか、この議事の進行状況について、御説明をお願いいたしたい。

○副議長（米沢照男君）　お答えをいたします。

きょう１０時から代表者会議が開かれました。昨日の高橋議長に対する決議、それを受けて代表者会議を開いて、きょうを含めて、今後の議事日程、議会運営について、御相談をいたしました。

その結果、日程を予定どおり消化しながら、決議に対する高橋議長の対応については、それはそれとして、並行して進行させたらどうかという意見と、決議を受けて、それに対する高橋議長の対応がはっきりしないと、きちっとけじめをつけなければ、議会を開会できない、こういう意見が対立して、先ほどまで断続的に代表者会議が開かれたわけですけれども、なお意見の調整がつかないと、こういうことで、２４日に持ち越された、こういう経過であります。

なお、きょう高橋議長が所用のため欠席するということは、既に四、五日前に私に、口頭ですけれども、伝えられておりました。したがって、そのことも代表者会議では明らかにしてきております。（「了解」と呼ぶ者あり）

本日の未了日程は、２４日の日程といたします。

本日はこれにて延会いたします。

午後3時３８分延会

９月24日　火曜日　（第７日）

昭和６０年
第３回定例会

日野市議会会議録　（第26号）

９月２４日　火曜日（第７日）

出席議員（２７名）

１番	橋本文子君	２番	福島敏雄君
３番	小俣昭光君	５番	谷　長一君
６番	古谷太郎君	７番	馬場繁夫君
８番	馬場弘融君	９番	高橋徳次君
１０番	簇野行雄君	１１番	一ノ瀬　隆君
１２番	板垣正男君	１３番	鈴木美奈子君
１４番	川嶋　博君	１５番	飯山　茂君
１６番	夏井明男君	１７番	黒川重憲君
１８番	古賀俊昭君	１９番	市川資信君
２０番	藤林理一郎君	２１番	名古屋史郎君
２２番	竹ノ上武俊君	２３番	米沢照男君
２４番	中山基昭君	２５番	大柄　保君
２６番	秦　正一君	２７番	奥住芳雄君
２８番	石坂勝雄君		

欠席議員（１名）

３０番　高橋通夫君

欠　員

４番　　２９番

説明のため会議に出席した者の職氏名

市長	森田喜美男君		
助役	赤松行雄君	収入役	加藤一郎君
企画財政部長	前田雅夫君	総務部長	伊藤正吉君
市民部長	佐藤智春君	生活環境部長	坂本金雄君
清掃部長	藤浪竜徳君	都市整備部長	結城邦夫君
建設部長	中村亮助君	福祉部長	高野隆君
水道部長	永原照雄君	病院事務長	大貫松雄君
教育長	長沢三郎君	教育次長	小山哲夫君

会議に出席した議会事務局職員の職氏名

局長	岩沢代吉君	次長	馬場守君
書記	田中正美君	書記	土方留春君
書記	谷野省三君	書記	串田平和君
書記	佐々木茂晴君		

速記委託先　住所　東京都立川市曙町一丁目１０の３

立川速記者養成所　所長　関根福次

速記者　田辺雅子君

議事日程　昭和６０年９月２４日（火）

午前10時開議

日程第1　一般質問

本日の会議に付した事件

なし

午後３時３７分開議

○副議長（米沢照男君）　本日の会議を開きます。

ただいまの出席議員２７名であります。

本日、高橋議長より、病気療養のため７日間の欠席をいたしたい、との届け出が診断書を付して副議長に提出をされました。したがいまして、本席、副議長が議長席につきますので、よろしく御協力をお願いいたします。

お諮りいたします。本日の会議は……（「議長」と呼ぶ者あり）市川資信君。

○１９番（市川資信君）　１点質問さしていただきたいと思うんですが、ただいま副議長より、高橋議長より診断書が出されて、本日から１週間欠席するとのことでございました。先般、２０日の議会におきまして、高橋議長の、いわゆる決議案に基づく種々やりとり、そして、本日も朝から代表者の方々には精力的に議会運営の正常化を期するために、努力を重ねてはまいったんですが、本日も、こういった時間を空白の時間で経過したわけです。そして、私がお聞きしたいのは、先般、副議長から申されました２１、２２、２３の３日間を、その携わる者は精力的にこの収拾に向かって努力する、ということも代表者を通してるる私どもも説明を受けておりますが、いま少し具体的に２１、２２、２３日のとられた措置、行動についてお話を承りたいと存じます。

○副議長（米沢照男君）　お答えをいたします。

すでにそれぞれの会派代表から、それぞれに御報告があったかと思いますけれども、あえてこの場で答弁求められましたので、お答えをしておきます。

２１日の日に、早速私は高橋議長と連絡をとるべく、５回ほど午前、午後、夜にわたって電話を入れましたけれども、連絡がつきませんでした。翌２２日に、ようやく連絡がつきまして、２０日の１日にわたる代表者会議の経過、そして、各会派の意向等をそのままお伝えをいたしました。そして、議長として、しかるべき対応をしていただかなければなりません、ということでお伝えをいたしました。その結果として、けさ御存じのような欠席届と診断書が私のもとに届けられました。以上であります。

なお、この診断書並びに欠席届の提出は、高橋議長として２０日の代表者会議の空気、そして、各会派の意向に対応して提出されたもの、と私は理解いたしております。

以上です。（「議長」と呼ぶ者あり）市川資信君。

○１９番（市川資信君）　いま詳細に副議長から御説明いただきましたが、私は、代表者よりの医師の診断書なるものと欠席届を拝見させていただきました。その診断書を見ますと、病名に低血圧症兼目まいというんでしょうか。「右の者、上記傷病により向こう１週間の安静を要する」と、こう書いてあるわけであります。私が控室において同僚議員から種々お聞きしたり、また、私も近所でございますので、いろいろと聞きますと、高橋議員は２１日、２２日、元気で活躍されているところも見ております。なおかつ２３日においては、多摩のいわゆる小島善太郎画伯の記念館の祝典にも出て、ごあいさつまでされておるということを聞いております。これは、副議長、わからなければ事務局長でも結構だと思うんですが、こういった議会が大変混乱しておるときに、本日、議長宅に私どもの議員が電話したところが、不在である、ということもお聞きしました。少なくとも、公務の中において欠席されている議長が、不在だということなんですけれども、局長は、少なくとも議長の所在を確認されていると思うんでございますが、その有無についてまず局長よりお答えいただきたいと思います。

○副議長（米沢照男君）　議会事務局長。

○議会事務局長（岩沢代吉君）　ただいまの件につきまして御報告いたします。

私の方では、ただいま御発言の中にございましたように、２３日の件につきましては、正式に私の方に文書が参っておりません。したがいまして、私の方の日程にものっておりません。こういうふうな状況でございます。

それからまた、所在の確認でございますけれども、私の方では極力議長の確認はしておりますけれども、お嫁さんのお電話の応答等につきましても、非常に「わかりません」というふうな回答が多うございまして、きょうは息子さんをしまして電話に出ていただいたと。こういうようなことで、きょうのお電話は、息子さんから「４時ころか５時にはお電話のできることになろうから、それまで悪いけれどもお待ちいただきたい」と、こういうようなことでございます。

以上でございます。（「議長」と呼ぶ者あり）

○副議長（米沢照男君）　市川資信君。

○１９番（市川資信君）　いま局長よりお話を承りましたけれども、少なくとも、これは局長、副議長名をもって、この会期中には議長がいかなるところに、いかなる所在で要件で出張しようと、出向しようとも、その連絡先確認が十分とれるような今後対策といいますか、

そういう方向をお願いしておきます。

それで、もう１点お聞きしたいんでございますけれども、本日、この診断書によれば「低血圧、目まい」という中で、先ほどちょっとお聞きしますと、これが副議長のお宅に本人からお届けされたということをお聞きしたんですが、それは間違いないでしょうか。副議長にお尋ねいたします。

○副議長（米沢照男君）　息子さんが運転されて、議長が同乗して、直接私の自宅へ参りました。

以上です。（「議長」と呼ぶ者あり）市川資信君。

○１９番（市川資信君）　どうか、いま何点か議長の、最も重要な日野市議会の長い間の混乱と申しますか、こういった中で、最も収拾に責任を持って携わらなければならない本人が行方もわからない。そして、高橋さんの元気なことは私どもは常日ごろ皆さんも御存じのとおりでありまして、この２１、２２、２３、いずれも元気なお姿をそれぞれの目で確認されている人が、大ぜいいるわけでありまして、なかなかこの診断書を私どもはそのとおりうのみにするということができないわけであります。したがいまして、この混乱が長引く事態を、一日も早く収拾するために、特段の一層の御努力をお願いして、私の質問は終わります。

○副議長（米沢照男君）　御意見として承っておきます。

お諮りいたします。本日の会議はこの程度にとどめ延会いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（米沢照男君）　御異議ないものと認めます。よって本日はこれにて延会することに決しました。

本日の未了日程は、あすの日程といたします。

本日はこれにて延会いたします。

午後３時４７分延会

9月25日　水曜日　（第8日）

昭和60年
第3回定例会

日野市議会会議録　（第27号）

9月25日　水曜日（第8日）

出席議員　（27名）

1番	橋本文子君	2番	福島敏雄君
3番	小俣昭光君	5番	谷　長一君
6番	古谷太郎君	7番	馬場繁夫君
8番	馬場弘融君	9番	高橋徳次君
10番	簇野行雄君	11番	一ノ瀬　隆君
12番	板垣正男君	13番	鈴木美奈子君
14番	川嶋　博君	15番	飯山　茂君
16番	夏井明男君	17番	黒川重憲君
18番	古賀俊昭君	19番	市川資信君
20番	藤林理一郎君	21番	名古屋史郎君
22番	竹ノ上武俊君	23番	米沢照男君
24番	中山基昭君	25番	大柄　保君
26番	秦　正一君	27番	奥住芳雄君
28番	石坂勝雄君		

欠席議員　（1名）

30番　高橋通夫君

欠　員

4番　29番

説明のため会議に出席した者の職氏名

市長	森田喜美男君		
助役	赤松行雄君	収入役	加藤一郎君
企画財政部長	前田雅夫君	総務部長	伊藤正吉君
市民部長	佐藤智春君	生活環境部長	坂本金雄君
清掃部長	藤浪竜徳君	都市整備部長	結城邦夫君
建設部長	中村亮助君	福祉部長	高野隆君
水道部長	永原照雄君	病院事務長	大貫松雄君
教育長	長沢三郎君	教育次長	小山哲夫君

会議に出席した議会事務局職員の職氏名

局長	岩沢代吉君	次長	馬場守君
書記	田中正美君	書記	土方留春君
書記	谷野省三君	書記	串田平和君
書記	佐々木茂晴君		

速記委託先　住所　東京都立川市曙町一丁目１０の3

立川速記者養成所　所長　関根福次

速記者　小野口純子君

議事日程　昭和６０年9月２５日(水)

午前１０時開議

日程第1　一般質問

追加日程第1　会期の延長

本日の会議に付した事件

追加日程第1

午後4時２１分開議

○副議長(米沢照男君)　本日の会議を開きます。

ただいまの出席議員２７名であります。

お諮りいたします。この際、会期の延長の件を日程に追加し、先議いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長(米沢照男君)　御異議ないものと認めます。よって、この際、会期の延長の件を日程に追加し、先議することに決しました。

会期の延長の件を議題といたします。

議会運営委員長の報告を求めます。

〔議会運営委員長登壇〕

○議会運営委員長(中山基昭君)　去る１８日の議事の進行におけます、突発的な状況以来、全議員の皆さんに大変御心配をおかけし、その努力をいただいてまいりました。しかし、大変多くの時間が経過をし、当初の会期、日程での議事の消化が、困難な状況にございます。

先ほど、2時５０分より、代表者会議での協議、あるいは経過を踏まえまして、議会運営委員会におきまして、当初、御確認をいただいてまいりました会期、日程等を、次のように変更することを確認をしてまいりました。

変更日程等につきましては、お手元の配付されております、予定の再度の変更表をひとつ御参照いただいてまいりたいというふうに思います。

明日２６日から１０月の2日までを一般質問の日程に充当してまいりたいと思います。１０月の3日、4日を、それぞれの常任委員会、１０月7日を特別委員会、１０月9日を最終日といたしまして、審査報告、議案の上程、請願の上程等を、予定をしてまいりたいというふうに思います。

なお、一般会計、特別会計の両決算の特別委員会等につきましては、これを前例とすることなく、閉会中の委員会において審議を行うことにいたしたいというふうに思います。

以上、大変雑駁でございますが、よろしく御審議と御確認をお願いをいたしまして、報告にかえさせていただきます。

以上でございます。

○副議長（米沢照男君）　ただいまの議会運営委員長の報告のとおり、会期を延長するに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（米沢照男君）　御異議ないものと認めます。よって会期は１０月９日まで、１日間延長することに決しました。

お諮りいたします。本日の会議はこの程度にとどめ、延会いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（米沢照男君）　御異議ないものと認めます。よって本日はこれにて延会することに決しました。

本日の未了日程は、あすの日程といたします。

本日はこれにて延会いたします。

午後４時２５分延会

９月26日　木曜日　（第９日）

昭和６０年
第３回定例会

日野市議会会議録（第28号）

９月２６日　木曜日　（第９日）

出席議員　（２７名）

１番	橋本文子君	２番	福島敏雄君
３番	小俣昭光君	５番	谷　長一君
６番	古谷太郎君	７番	馬場繁夫君
８番	馬場弘融君	９番	高橋徳次君
１０番	旗野行雄君	１１番	一ノ瀬　隆君
１２番	板垣正男君	１３番	鈴木美奈子君
１４番	川嶋　博君	１５番	飯山　茂君
１６番	夏井明男君	１７番	黒川重憲君
１８番	古賀俊昭君	１９番	市川資信君
２０番	藤林理一郎君	２１番	名古屋史郎君
２２番	竹ノ上武俊君	２３番	米沢照男君
２４番	中山基昭君	２５番	大柄　保君
２６番	秦　正一君	２７番	奥住芳雄君
２８番	石坂勝雄君		

欠席議員　（１名）

３０番　高橋通夫君

欠員

４番　２９番

説明のため会議に出席した者の職氏名

市長	森田喜美男君		
助役	赤松行雄君	収入役	加藤一郎君
企画財政部長	前田雅夫君	総務部長	伊藤正吉君
市民部長	佐藤智春君	生活環境部長	坂本金雄君
清掃部長	藤浪竜徳君	都市整備部長	結城邦夫君
建設部長	中村亮助君	福祉部長	高野隆君
水道部長	永原照雄君	病院事務長	大貫松夫君
教育長	長沢三郎君	教育次長	小山哲夫君
病院長	三田盛一君		

会議に出席した議会事務局職員の職氏名

局長	岩沢代吉君	次長	馬場守君
書記	田中正美君	書記	土方留春君
書記	谷野省三君	書記	串田平和君
書記	佐々木茂晴君		

速記委託先　住所　東京都立川市曙町一丁目10の3

立川速記者養成所　所長　関根福次

速記者　小野口純子君

議事日程

昭和60年9月26日(木)

午前10時開議

日程第1　一般質問

本日の会議に付した事件　日程第1

午前10時7分開議

○副議長（米沢照男君）　おはようございます。

高橋議長病欠のため、副議長が議長席に着きますので、よろしく御協力をお願いいたします。

本日の会議を開きます。

ただいまの出席議員22名であります。

これより日程第1、一般質問を行います。3の1、市民会館故奈沢館長の諫止を生かせについての通告質問者、古谷太郎君の質問を許します。

〔6番議員登壇〕

○6番（古谷太郎君）　私は、9月4日、10時に、都市整備部長の結城さんに用がありまして、お会いする約束で、市役所へ参りました。そうして、結城さんは都市計画課長と一緒に、私のところへおいでになられました。私の質問に、大変たくさんの資料をそろえて、あっという間、5分くらいで、私の疑問が解けました。

11時に、私は、奈沢館長さんに会う約束をしていたのであります。余り結城さんの説明が早かったので、私は、予定よりも40分ぐらい早く、市民会館の事務所の方へ参りました。

お客さん、恐らく工事関係のお客さんだと思うんですが、館長は、その方と打ち合わせをされておりました。私が入っていきましたら、「先生早いですね」と言うから、「そのとおり早いんです。館内でもぶらぶらしています」と、こう言って表へ出ましたら、追ってまいりました。御案内いたしますと。いや、君、今、仕事をやっているようじゃないか。11時の約束だから、11時になったら事務所へ行くからと。

ところが、そのとき、私は館内に入りまして、びっくりしたことが一つある。電気関係でしょう、修理の、工場か会社の方がおられまして、いろいろと舞台の近くの電気関係を修理しておられました。私、一番驚いたのは、あの暑い9月4日に、冷房がどこにも入っていないのであります。修理の場所だけ電気がついている。

私は、薄明かりの中をぶらぶらと館内を歩いた。暑くて、とてもいられない。それから外へ出ました、20分ほど中におりまして。そしてまた、事務所の方へ参りましたら、宮本君が御案内しましょうかと言うから、もう暑くて中はだめだと。

しかし、なぜ、職員の人や修理の人がたくさん働いているのに、冷房を入れないのか。経費の節減であります。はあと思いました。奈沢館長という人は、そこまで考えながら仕事をし

ているのかなと思いました。

それから、私は、事務所の手前の方の応接といいますか、机に座っておりましたら、東京舞台というんですか、の方と２人、それから谷さんといいます、職員がおられまして、そのときもまだ奈沢館長さんは、僕が１０時２０分ごろ行ったときの方と、話をしておられた。明るい感じよりも、真剣な感じでありました。

それから、私は、谷君、もうちょっと涼しいとこないかねと言ったら、ありますと。それで、なにか廊下の隅の方の、何ですかね、舞台の方へ入る、正面を入って、こっちの廊下の隅に部屋があるんです、気がつかなかったですけれど。そこへ入って、その部屋だけ、小さい部屋です、冷房を入れてもらいました。

打ち合わせというのは、実は２２日に、飛田東山という人が創案しました東山流の新日本舞踊を、市民の皆さんに見せたいという御希望がありましたので、その舞台の打ち合わせに行ったわけです。打ち合わせは、１時間ほどで終わりました。１２時５分前ぐらいでした。

私は、館長さんに一応お礼に、事務所の方へ参りました。館長さんはおられました。どういうことですかと言うから、今、申し上げましたように、新日本舞踊の新しい舞踊、大和心を、市民の多くの人に見ていただこうというお話がありましたので、９月２２日の日曜日にそれを公演するということなんです。１８日には舞台けいこをやりますので、１日貸していただくようにお願いしたということを申し上げた。そのときが、奈沢さんとの別れでした。

実は、私は、昭和５７年３月に市会議員になりました。一番、市政の中で難しいのは、地方税制なんです。だから、私がやっていた当時とは全く違っておりますし、市民税課長さんに御説明を求めるために、市役所へ参りました。そのときの課長が奈沢課長さんでした。いろいろと疑問の点を申し上げた。そうしたら、余りよく存じてないんじゃないかなという感じを受けたのですが、奈沢さんは「わかりました。よく調べて御返事申し上げます」こういうことです。

次の日に、加藤部長さんですか、市民部長さんと奈沢さんとが、また来られまして、非常に明快な、しかも非常に丁寧な説明をしてくださいました。私は、初めてそのときあの人に会ったんです。

それから、君はいつ市役所へ入ったと聞いたんです。そうしたら、昭和４７年に入りましたと言いました。君は、だけどどこから来た。随分、年はもう４０過ぎているんだろうと言ったら、そうです、４０になってから市役所へ来たんですと。普通では、これ、採用されないんです。何か、前、専門職でもあったのかと言ったら、「ええ。私は日本一の図書館行政、社会教育を行っている、日野市の図書館長さんの御指導を受けて、東京都の職員として、蒲田でしたか、太田区の方の図書館の職員をしておりました。一生懸命やってまいりまして、前川さんという館長さんから、日野は来年中央図書館をつくる。君、手伝ってくれないかと言われて参りました」と。

「ほう、君はだって市民税課長じゃないか。」「はい、私は税金のことはよくわかりませんが、仕事ですから一生懸命やらせていただきたいと思っています。難しいですね、先生」と言うから、「難しいさ、税金ぐらい難しいものはない。大体、主税局、あるいは市民税課なんていうのは、２０年以上の税務事務を担当した人じゃなきゃできない。何で君は市民税課なんかへ来ているんだ」「命令です」と。

「はあ、君は市長に言わないのか、そういうことを」と聞きましたら、「森田市長さんから、初めは秘書課に来いと言われたけれども、すぐということじゃなくて、企画課にしばらくいました。それから秘書係長になりました。それから秘書課長になって、一生懸命お仕えした」と言っておられました。

そうしたら、突然、何かよくわからない、忘れましたけれども、今で言うと健康課でしょうね、保健課か健康課みたいなとこへ移されたんです。「それで君は市長に言わなかったのか」「申し上げた。そして、今、今度は市民税課に来ています」と。大変だなと言ったんです。

なぜ大変かといいますと、奈沢君は誠実であります。誠実なんです。いいかげんなことができない。できないから、大変なんです。でも、あの人は３年間、目を輝かして、市民税という、市税という難しい仕事をやってきたのであります。私は、昭和５９年に、奈沢君が市民会館担当として企画財政へ移ったことを知りました。よかったなと思いました。

市長は、たくさんのことを、奈沢さんから聞いているはずであります。あの人は、本当に、まれにみる人です。考え方は、きっといろいろな考えをお持ちでしょうが、あのくらい誠実な人、職員というのは、まず、能力は別にして、いないだろうと思います。

ところが、私が９月５日の朝、朝刊を開きましたら、ここにもありますけれど、私が会って３時間もたたぬうちに、奈沢さんはこの世を去っているのであります。しかも、新聞には自殺と書いてあります。みんな、朝日も自殺、東京も自殺、読売も自殺、一体なぜなんて、読売は書いてありますが、これ、きっと市長もお読みになっただろうと思う。

私は、ここであえて、奈沢君が市長に何を言ったかを言うつもりはありません。私もたくさんのことを、進言を得ました。同じように、あの人は率直に、市長に、物を申し上げているはずであります。

そこで、ぜひお願いしたいのは、奈沢君が日野に来られて１０年、御自分の意に沿わない仕事を、誠実に、完璧に続けてきたこの１０年間に、市長に進言された事柄について、ぜひひとつ、今後の市政の中で生かしていただきたい。そのことで御質問申し上げたわけであります。

私の言っていることが間違いならば、市長は、古谷君の言っていることは間違っているとおっしゃっていただいて結構ですが、市長に、この点、奈沢君の市長への進言について、今後の市政に生かしていただけるかどうか、御回答をお願いしたいと思います。

○副議長（米沢照男君）　古谷太郎君の質問についての答弁を求めます。市長。

○市長（森田喜美男君）　大切な市の職員であり、言われるとおり誠実な性格の幹部職員の１人、奈沢館長を失いましたことは、まことに私も残念、かつ本人に対しても同情にたえない気持ちを抱いております。

新聞報道等で、自殺というふうに扱われたわけでありますが、その後も、いろいろ状況調査をつないでみましても、自殺という結論は、私どももまだ確認し得ておりません。したがいまして、公務中の事故災害であるという気持ちが、払拭できないところであります。

今、質問者から言われております、職員の適正な配置、あるいは任務の遂行ということにつきまして、いろいろと考えたり、教えられたりするところも、ないわけではございません。

職員たるものは、私は、まず地方公務員としてのプロであってほしい。業務の遂行は、もちろん十分な能力を備えなければなりませんが、それに先立って、自治体の市民に対するサービスの心構えがしっかりした、そういう職員こそ、職員を養成する大きな眼目であるというふうに考えておりまして、奈沢君は、まさにそれに該当できる職員だったというふうに思っております。

特に、職務上、あるいは接触します個人的な意味も含めて、特別な進言ということは、言葉としてはなかったわけでありますけれど、本人の気持ち、つまり一生懸命に仕事は遂行しなきゃなりませんし、あわせてきちょうめん、それから生まじめということが、なお職務遂行に、何といいますか、荷が重い、というふうに感じた面があったかもしれないとは思っております。

しかし、それを克服することが、また一歩成長の手段でもございますので、私は、職員の適

正配置はもちろんでございますけれど、しかし、幹部職員は一応何でもこなせるということも、また大切だと思っております。なるべく、図書館出身でございますから、文化行政に近い方向に、いずれは大きな責任を持って活躍をしてくれる人であったわけでありますので、その意味におきまして、大変残念に思うわけであります。

また、質問者の御指摘のことにつきましても、今後、十分、職員、皆さんとの関係におきまして、心しながら、仕事が伸び伸びとできる、また、責任を果たすことが、職務の中の一番大切なことであるということを理解する、そのような職員を指導し、また、勉強もしてもらいたい、このように願っておるところでございます。

以上でございます。

○副議長（米沢照男君）　古谷太郎君。

○６番（古谷太郎君）　ぜひひとつ、職員の本当の能力を生かすように、また、職員からの進言、あるいは決裁書類等も、早くイエスかノーかを決めてあげて、事務がスムースに進むようにやってもらいたいと思う。

その次に、ちょっと聞きたいんだけれど、助役になりますか　実は、先ほど申し上げたとおり、４日の日は、館内はむんむんとしていました。それを、奈沢君は屋上に出たことは間違いないんです、あのむんむんした館内を通り抜けて。ですから、屋上へ出たときには、目がくらむんじゃなかろうかと思う。ような気がしたんで、私は自殺というのは、そうかなと思って。

ただ、思い当たる節も、ちょっとないことはないんですけれども、今、市長からそのような、自殺じゃなくて過失じゃなかろうかと、こういうようなことですが、あれから助役の方で、総務部長でもいいんですけれども、随分もう長い時間たちました。日野警察署の方へも、藤本君ですか、職員課長が時々行っているようですが、どのような経過になっているんですか。

私は、これ、奈沢君の名誉のためにも、やはりはっきりしていただきたいと思うんで、助役から、その後の経過を説明してもらいたい。

○副議長（米沢照男君）　助役。

○助役（赤松行雄君）　それでは、私の方からお答え申し上げます。

９月１７日、全員協議会がございまして、その後の経過につきましては、全員協議会の中で御報告申し上げておるわけでございますけれども、古谷先生、ちょうど１７日の全協には御出席いただかなかった、というふうな御事情があるようでございますので、それも含めてお答え

申し上げるわけでございます。

非常に、１人で杢沢館長は、館の責任を、本庁舎ですと、各フロアーごとに防火管理なり、あるいは冷房面につきましても、それぞれフロアーごとに責任者が違っておるわけでございますけれども、一つの建物の全部を、防火管理者だとか、あるいは冷暖房の全館的な管理というふうなことで、大分神経といいますか、細かい気を使っておるようでございます。

そういうふうな面で、屋上へ出て目がくらむというふうなことよりは、屋上そのものが非常に、３階の屋上そのものが、浅川とか多摩川の合流点から吹き上げてくる気流との関係で、非常に吸い込まれるというふうな状況の配置にあるようでございます。また、地勢にあるようでございます。

昭和５６年に、大きな台風が来ました。そのときは、実践女子大との校舎との配置、それから新庁舎の配置から、ふいごのような風が吹く、こういうふうな状況がございますので、我々の方としても、１７日の全員協議会では、３階に参りまして、消防の査察というふうな面での、いろいろの指導が、何回も市民会館にはございましたので、３階へ参りましたのは、そういう消防面での、要するにどう査察に対応するか、あるいは消火活動等をどう持っていけばいいかというふうなことを、大分気にされておったという面から、３階に行ったんではないだろうかと。

それで、３階の塀といいますか、立ちあがりが、ひざぐらいしかございません。そこから手をついて、いろいろと見たという面において、吸い込まれたんじゃないだろうかと、こういうふうなこと等も、全協に御報告申し上げました。

それから、亡くなるという面では、自殺という場合には、大概履物を脱ぐんだと、こういうふうな状況。それから、実際に仕事をしておりましたデスクにおきましても、そのままの仕事をしていた。要するに整理整頓していない、仕事をそのまま続けておった、乱雑な執務態勢のままの机の上だったと、こういうふうな状況。遺書もあるわけじゃございませんので、我々の方としては、全協の中で、どうしても事故で亡くなったんじゃないだろうか、あるいは、誤って、消防の査察などに対応するという意味の点検に行って、気流に吸い込まれたんじゃないだろうかと。この気流関係につきましては、生活環境部長も、吸い込まれるということについては、体験しているところでございます。

そういうふうな経過を、御報告申し上げたわけでございますけれども、その後、警察につきましては、職員課長等を通じて、そういう面についての、警察についての報告をしておるわけでございます。市の方の考え方としては、どうしても事故死だと。あるいは、奥様の、日常の主人の生活態度、あるいは９月４日前、最近の生活の態度等からいって、どうしても自殺とは考えられない、こういうふうなことを、警察に報告しておるわけでございます。

以上が、大体、９月４日におきました現場での状況を、９月１７日に、全協に御報告申し上げたわけでございます。それらのことを警察に、要するに市の考え方として、報告しておるわけでございます。

以上でございます。

○副議長（米沢照男君）　古谷太郎君。

○６番（古谷太郎君）　私がお聞きしているのは、恐らく事故死ではなかろうかということで、これは事故死であるか、自殺であるか、あるいは過失であるか、いろんな、最後の判定というのは、きっと警察だろうと思うんですが、そこで、警察の方ではどのように考えて、どのようになっているのか、総務部長に、そのことをここではっきり教えてもらいたい。

いつまでも、何だかわからないということで経過すれば、これは杢沢君もこの新聞のとおり、自殺ということで終わってしまうんではなかろうかという、非常に心配がございます。

総務部長から、職員課長から報告があっただろうと思うし、もし、まだ済んでなきゃ、助役が警察へ行って、よく御説明申し上げて、結論を早く出してもらわなきゃまずいわけです。総務部長、どうですか。もう１回お願いします。

○副議長（米沢照男君）　総務部長。

○総務部長（伊藤正吉君）　故杢沢館長さんの件でございますけれども、これにつきましては、先ほど、市長、助役等から申し上げましたとおり、事故死の可能性が非常に大きいわけでございます。

警察の方につきましては、今、職員課が窓口になりまして、警察署長、あるいは警備の関係の課長と、協議をしておる段階でございます。その段階が、今、進行中でございますので、もうしばらく時間をいただきたいと思います。

以上です。

○副議長（米沢照男君）　古谷太郎君。

○６番（古谷太郎君）　余り詳しく、細かく聞くことも、まだ経過折衝中だということ

ですから。

まあ市としては、事故死ということで認定している。警察は、自殺ということで一応判断を、まず下している、こういうことですね。これは非常に大きい差があるわけで、ひとつ、奈沢君の名誉についても、ぜひ明確にしてもらいたい。

特に、ちょっとお聞きしたいんですが、これ、事実かどうかわかりませんが、奈沢君が屋上から落ちたときに、見ていた方がおられたというお話がございますが、その方から事情をお聞きになっているかどうか。その点はどうですか。助役に、もう一度、お聞きしたい。これ、非常に大事な点じゃないかと思う。

○副議長（米沢照男君）　総務部長。

○総務部長（伊藤正吉君）　その辺につきましては、担当の部課の方で接触されていると思いますけれども、事故の直後、私どもの方で、庶務課の係員が市民会館の屋上に行ったわけでございますけれども、その際に、屋上と壁との高さが、３０センチぐらいしかないと。こういうことでございますので、そこに、転落を防止しよう、そういうことで、手の跡があったと。こういうことからも、やはり事故死という線が大きいわけでございます。

そういうことで、私どもの方では、直接見た人については、接触しておりません。

○副議長（米沢照男君）　古谷太郎君。

○６番（古谷太郎君）　わかりました。

申し上げておきますけれども、これは私が直接お聞きしたんじゃないんですが、奈沢館長が落ちる初めから終わりまで、目撃されていた方がいるかに聞いております。その方は、日野自動車の職員でいらっしゃる、こういうふうな話でございますが、これは私が聞いたことですけれど、非常に大切なことで、よく、今後のことに参考にしてもらいたい。

これで、３の１を終わります。余り深くお聞きするのもあれですから。ただ、市では事故死というふうに考え、警察やマスコミは自殺と考えているという、現時点では、それ以上は進んでいないということだけ確認して、質問を終わります。

○副議長（米沢照男君）　これをもって３の１、市民会館故奈沢館長の諫止を生かせに関する質問を終わります。

３の２、働く悦びと誇りを持てる職場を職員に与えよについての通告質問者、古谷太郎君の質問を許します。

○６番（古谷太郎君）　これは、福島敏雄君も次に書いてありますが、こういう本が出ております。私は、家へ帰って、この本「住むことが悦びであり誇りである町を」　そして市長は、この本について、大きな抱負を述べておられます。

私は、この本をつくるもう一つ前に、働くことが悦びであり、誇りである日野市役所の職場をつくろう、ということをやってほしかったのであります。

大体、ここの部長の席に座りますと、優秀なんです、この辺のみんな。ですが、１年たつとぼおっとして、目が濁んでいるんです。２年たつと、もうみんな下を向いている。ぼおっとしている。仕事が進んで、もっと生き生きとするんです。教育長さんも、このごろ、もう、ちょっとくたびれたような顔をしている。これは、顔が変わってくるんです。これはよくないんです。働くことの悦びと誇りを、だんだんと失っていくわけです。

奈沢君のような人は、めったにいない。普通は、自分でいろいろと考えて、よくやろう、市民のために働こう、おれは課長になったんだ、係長になった、どんな職場で、平でもいいんですけれど、職場に配置されれば、一生懸命市民のために働こう、市長のために働こうと、夢中でやるんです。

ところが、半年、１年たつと、どうやっていいかわかんなくなる。これは、市長自身がよく御存じのはずです。市長さんのところへ、いろいろと御相談に行く。進言する。何を言っても、むだになってしまうのであります。

かつて前川さんという方が、企画財政部長をしておられました。私のところへ来まして、市長から長期計画、中期、長期の市の計画を、財政と仕事の面でつくれと言われて、御相談に来られたことがあります。それを、つくったんです。３年、まず３年計画で、５年間の見通しというもの。つくって、市長さんのとこへ持っていきましたら、「こんなものを、おまえ、だれがやれと言った」と言われたと、私に言われました。

というのは、つくるときに御相談にいらした。当時、東京都にもローリングの３年の計画が、我々に示されておりました。１年以上もかかって、一生懸命つくった。つくったのを報告に上がったら、だれがつくれと言ったと言われました。本当に困りました。申しわけありませんと、わびに参りました。

そうしましたら、今度は都市整備部長の方ですか、なにか動いている。前川さんは図書館が専門なんです。これじゃ、いられなくなるなと思ったら、案の定、１年もたたぬうちですか、

私の家へごあいさつに参りました。市役所をやめましたと。君どうするんだ、飯が食えぬだろうと、冷やかすわけじゃないんですけれど、本気で私はお聞きしました。「いや、滋賀県の方にお世話になるようになりました。今度は図書館なんです」と言って、喜んでおられた。私は、ここにいる部長の方々にも、同じようなことが行われる。だから目がだんだんとたるんでくる。これはもう、本当にいけないんです。

私は、ぜひ、こういう本をつくる前に、今申し上げたように、働くことが悦びであり、誇りである日野市役所の職場をつくるにはどうしたらいいかということを、まずつくって、その次にこれをつくるならわかる。お願いしたいと思うんですが、先日、たまたま私は多摩平市所へ参りました。そうしたら、松本君が所長になっていました。松本松夫君です。これは優秀な人なんです。あの人は、たしか３０幾つかで、庶務課長になられた。実に優秀なんです。

それで、とても一生懸命働いていました。松本君、何やっているんだと聞きました。そうしたら、いわゆる事務の電算化というんですか、それで、名簿の整理だね、自分で先頭に立ってやっている。毎日、午後8時前には帰りませんと言いました。夢中でやっています。

私は、びっくりしました。松本松夫君のような、もう２０年も、２０数年も、５年も市役所の課長として働いた方が、多摩平市所は、まあ支所長は課長さんかもしれませんが、実質的には係長みたいなもんです。だから、松本君が先頭に立たなきゃ、きっとできないのかもしれないけれども、一生懸命やっている。これも、市長のためになり、市民のためになるからやっている。やるんです。

いや、私は市長ににらまれているから、本庁には帰れないんです。こう言いました。うん、事実そのようです。でも、一生懸命働いている。やはり自分の名誉も――自分が、おれは市の職員だ、だから働くんだ、こういう気持ちなんです。しかも、その整理のためには、人員がふえているわけじゃないようです。私は、これは、別に松本君だけの問題を言っているわけじゃないんですけれども、同じようなケースがたくさんある。

一ノ瀬君も御存じだろうが、大谷君なんかは、何だか知らないけれど、半年でまた別の課長に移っている。半年、三度も職場が移る人もいる。これでは、幾ら一生懸命やろうと思っても、仕事が覚えられないうちに動いちゃうんですから。これは困るんですよ。どうかひとつ、私がお願いしたいのは、働くことが悦びである、また、誇りである職場ということについて、市長はどのようにしようと思っているのか。町の方はここに出ていますから、ひとつ、市長さんのお考えをお聞かせ願いたい。

○副議長（米沢照男君）　古谷太郎君の質問についての答弁を求めます。市長。

○市長（森田喜美男君）　市長の職に就任いたしましてから、１２年余を経過しております。そして、ほんの２０年余の前、町時代であった、その当時の行政と、それから、高度成長の中、しかも人口が急増し、いろいろな行政事務のふえた、その今日でありますが、私は、その間の半分を、庁内においてはひとりの指導者として、あるいは市民に対しては、住民サービスのかなめの役目として、やってまいりました。今、質問をしておられる古谷さんが、かつて町長であり、市長でおられた、その当時の職員も、今日の幹部の中に多数おるわけであります。

私は、今、古谷さんの言われたような、市長のために働くと。これ、言い方は、市長のためということは、とりもなおさず、また市民のためということにも、当然なるわけでありますけれど、私は、市民に真正面に向いて、各部局、組織、そうして、市長のためというふうな意識は、あえて必要ではない。市民のために、正しい、まじめな行政が展開できるならば、とりもなおさずそれが市長の評価にはね返るものである、こういう理念に立って、職員の指導をやってまいっております。

いろいろな職員意識ということもありましょうし、組合活動の側から見た職務の考え方もあるでありましょうけれど、一致できるのは、これは市民のために、市民に向かって、そうして職務を遂行するというところに、その一致点があるわけでありますから、私心を差し挟まず、まじめに市民に向いて行政の執務をやっていく、サービスをやっていく、ということに尽きると思っております。

それを、私的な感情なり、何なりが、あるいは差し挟まれて、不純なものがもし起こるとすれば、それは、私は当を得ていないと。私の指導能力の欠陥、欠如もあるかもしれませんが、しかし、やる仕事は、これは全く一致できるわけであります。日野市職員になりましたからには、もちろんその職場に誇りを持ち、また、日々を喜々として、目を輝かせて仕事をする、こうあるべきであります。大部分は、そうなっておると思っております。

これからもまた、努力をしてまいるつもりであります。

○副議長（米沢照男君）　古谷太郎君。

○６番（古谷太郎君）　ひとつ、働く悦びを持てるような職場を、どうやったらできる

か、その調査報告書が、一日も我々の手元に早く配られることを期待して、質問を終わります。

○副議長（米沢照男君）　これをもって３の２、働く悦びと誇りを持てる職場を職員に与えよに関する質問を終わります。

３の３、東京都立三多摩美術館は、文化都市を目指す、日野市に誘致せよについての通告質問者、古谷太郎君の質問を許します。

○６番（古谷太郎君）　この問題は、ふるさと東京をつくるということで、鈴木知事の３カ年計画の中にのっておるのであります。

はっきり言いますと、美術館を二つつくるんです、新しく。今、白金にあります。展示する場所としては、上野に東京都立美術館がありますが、あれは展覧会の場所であります。展示されているのは、今、白金にあるだけでありますけれども、荒川、江戸川方面に１カ所、葛飾ですか、いわゆる東の面に１カ所、それから三多摩に１カ所、都立の美術館をつくる。こういうことが発表されております。

先日、小島先生が亡くなられたんですが、その前に、小島先生が、御自分の絵を陳列しようという、日野市に寄付したいというようなお話があったと聞いておりますが、今、どういう事情か知りませんが、青梅につくられて、寄贈されておる。青梅市に。

三多摩美術館、都立、これ、私は、多摩丘陵の一角につくられれば、例えば百草園の中とか、あるいは動物園の反対側の、いわゆる保存緑地、あの辺にできるとかいうことは、非常に、都民のためにもいいんじゃないか。特にモノレールがやがて通るようになる。

ところが、新聞を見ますと、他の市では、東京都に誘致運動を起こしているようであります。日野市では、なぜ誘致運動をしないのか、この点、市長に、まずお聞きしたいと思います。

○副議長（米沢照男君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　東京都のマイタウン構想、あるいは中期計画におきまして、大きい市民施設と申しましょうか、シティ・ホールの移転が始まり、丸の内を、国際会議場のことを中心といたしまして、大きな事業計画が、多摩地域にも想定をされている、構想があるということは、存じております。

日野市に、今、提言の、美術館の誘致ということについても、用地があればということで、特にこのたびの御質問の御指摘に伴って、頭をめぐらせておるところでございます。

専ら、立川の基地跡地に大きな公園ができましたら、あすこに多摩共通の文化や、あるいはその他、生活関連施設ができる、こういうことも一応聞いておるわけでありますけれど、文化施設は、点在することによって、また一つの大きい意味を持つということもありますので、日野市にもあわせ誘致できる運動を可能ならしめる、そういう用地のことを考えてみました。

そこで、今、日野市が確保できる、あるいは東京都に確保をお願いできる場所といいますのは、国有地の、つまり蚕糸跡地、あるいは淡水跡地、そのあたりが中心に考えられるわけであります。

一応、蚕糸跡地には、あとの残地約３ヘクタール余。今日までのところでは、市民体育館を設ける、こういうことで、絵もできておるわけでありますし、また、国にもそういうような願いを出しております。

淡水跡地は、これはあの地域の区画整理の中で、ちょっと位置を変えますけれど、将来の中学校予定地ということに、一応内定をいたしております。

しかし、これから、どれだけ人口の移動ということが日野市に影響してくるかと。区画整理をやっていますから、当然、農地は宅地化され、そこには住宅ができて、人口がふえる、こういう傾向にあることは間違いないわけでありますけれど、蚕糸の跡地の、しかも残っておるところ、それから淡水跡というのは、もう一遍考え直してみる必要がある、こう思います。

美術館の予定地として考えますならば、やはりモノレールが通り、また、甲州街道にも近い、多摩川にも近い、そういう意味では、蚕糸跡地ということが考えられます。その際に、では体育館をどこに持っていくかということになりますので、体育館は、これを淡水跡に持っていくと。

では、淡水跡に予定した中学校はどうするか、ということになるわけでありますが、四小と、それから万願寺区画整理の中に予定をしております小学校予定地は、距離も比較的近いわけでありますから、これらを一つに考えた場合には、今言いましたような大きい文化――美術館等を含めた、そういう構想が成り立つと思います。

もう一つ、その本にも出ておりますが、日野市は動物園もございますし、それから川があり、水系があり、丘陵地がある。また、緑も多い。交通も、都心から便利である、というようなこともあわせまして、自然保護センターの、いろいろな自然保護団体の、それらが一緒に共同できるような――一緒に事務所を開くことのできるような、そのような自然保護センターの誘致ということも、もう既に一つの案として、描いておるところであります。

蚕糸跡地の、今の緑地指定の部分を、東と西を置きかえまして、美術館の予定地を考え、かつまた自然保護センターも、同じような環境の中で、日野市に迎えることができる、そういうような可能性は、用地の面では推測が可能でありますので、これから、御提言のことも引っ下げまして、日野市内の将来の大きい構想の中に描いてみることが大切だ、このように考えております。

議会とも御協議を申し上げたいと思います。

○副議長（米沢照男君）　古谷太郎君。

○６番（古谷太郎君）　十分、いろいろとお考えになっておられるようですが、きょうの私の質問は、一番大事な点は、奈沢館長さんの御冥福を祈り、奈沢館長さんが見ているであろう日野市役所、日野市民を、市役所の職員が働きやすいような、誇りを持てるような職場をつくっていただきたいと、恐らく奈沢館長さんは、天国でじっと見詰めてくださっていると思います。草葉の陰から、きっと、よりよい日野市、職場を祈っていると思います。

私どもは――私は生きておりますから、亡くなった館長の御冥福を祈るとともに、奈沢さんの祈りが、市役所の中で、職場で実現することを強く要望いたしまして、質問を終わります。

○副議長（米沢照男君）　これをもって３の３、東京都立三多摩美術館は、文化都市を目指す、日野市に誘致せよに関する質問を終わります。

４の１、住むことが悦びであり、誇りである町を創ろうについての通告質問者、福島敏雄君の質問を許します。

〔２番議員登壇〕

○２番（福島敏雄君）　それでは、質問をさせていただきたいと思います。

通常ですと、古谷議員さんは、恐らく時間いっぱい使われるであろうということで、午後には大勢の傍聴者を用意、声だけはかけておきましたけれども、残念でありますけれども、始めさせていただきたいと思います。

表題は、住むことが悦びであり、誇りである町をと。先ほど、古谷議員さんの話がございました。それが、日野市行政調査報告書のタイトルでございまして、このタイトルに基づきます報告書に沿った町をつくろう、こういう観点で質問をさせていただきますので、御答弁をよろしくお願いいたします。

６月の定例会終了後だったと思いますけれども、これからの日野市の進路を研究をいたしました、日野市行政調査研究会の報告書でございます。これが、私の手元にまいりました。

この報告書を、執筆をした委員の皆様方は、皆さん方も御存じのとおりでございますけれども、会長が、谷　重雄先生――都立大学名誉教授。日野市都市計画審議会の委員長もされておられます。副会長が、柴田徳衛先生――東京経済大学教授。私は、正確にはわかりませんけれど、元東京都の重要な仕事をされていた、こういう方だそうでございます。小委員長は、ＮＨＫチーフディレクター加藤さん、こういう方で、あと、委員が、高橋さんという東京大学教授。菊竹さん――先生、建築家。山住先生――都立大学教授。それから榎本先生――劇作家。品田先生――自然史研究会代表。それから堀越先生――日本女子大学助手。それに森田喜美男市長、の方々でございます。

報告書は、３部からできていると思います。

一つが、序文というところがございます。この序文は「世界に開かれた日野へ」、こういうタイトルで、今、町づくりに何が必要かと、こういう問題提起であります。

次に、総論が、六つの視点から示されておりまして、その内容といたしましては、いろいろの角度から提言がされておりますけれども、都市と暮らしが大きく変わり始めている、こういう大きな流れをとらえての提言でございます。

その提言を受けまして、各論は、町づくりへの課題、こういうふうになりまして、そこでも三つに分けておりまして、一つは、魅力的な都市環境の創造のためにということで、７項目。それから、新しい日野のシンボルということで、３項目。三つ目が、計画の可能性と今後の課題、こういうことで２項目の提言がありまして、それが、この報告書の姿でございます。

質問に入ります前に、大変恐縮ではございますけれども、私が目を通した範囲で、若干私なりにこの報告書を読んだ感想を申し上げますので、しばらくお聞きをいただきたい、こういうふうに思います。

まず、序文の、世界に開かれた日野へ、こういうところで私が理解をいたしましたことは、先ほど来、論議もあるわけですけれども、日本の都市が高度成長時代に、地方から都市へ激しく人口が移動していた時代から、人口の安定化への極限に入ってきている。

経済の低成長が定着した今、日本人が今考えていることは、社会的に上昇するということよりも、ゆとりとか、心の豊かさに目を向け始めており、そのことが町づくりの理念の中にも、変化の兆しを見え始めている、こういう書き出しでございまして、そのために、これからの町

づくりで考えるべきことを、三つ挙げておりますので、紹介をさせていただきたいと思います。

一つは、量から質への転換、こういうことを言っております。これは、日本の社会の安定化が進行し、市民の定住意識が高まるにつれて、市民は改めて我が町を振り返り、その町らしい魅力とは何か、その町に固有な生活文化とは何か、を問い始めている。それは、単なる住みよい町から、住むことが悦びであり、誇りである町への、市民の期待への変化でありますと、こうしております。

こうした変化は、一足先に、既に安定期に入った地方都市から始まっております、とも述べております。

シンボルとアイデンティティを核とした地域づくりは、既に全国各地に、数多くの先進例が見られます。こういうことで、特にワインの生産を基軸に、丘の上の町立ワイン工場と、町立レストランをシンボル施設とし、道路から屋根の色までワインカラーに染め上げてしまった、北海道の池田町のような町、さらには、若者の多数集まるイベントを中心に、地域の活性化を図る掛川市、さらには、歴史的な遺産としての堀り割りの再生等、現代的意義づけによるシンボルの創造を図る、福岡県柳川市のようなところがあるわけであります。——こういうふうにしております。したがって、これからは、量より質を考えた町づくりが必要であろう、こういう考え方であります。

そして、２番目が、開かれた町づくりを目指すことであります、こういうふうに書き出されております。現代の都市を支え、都市の活力を生み出しているのは、そこに在住する市民だけでなく、その町に仕事を持つ人、あるいは買い物、通学、観光、教養、娯楽のために訪れる人々の役割を忘れて、現代都市を語ることはできないと、こういうふうにしております。都市が、新しい安定期に入った今、もう一度都市の原点に立ち返って、町づくりを考えるべき時期に来ている、これが、２点目の提言であります。

第３点目は、ちょっと学者先生ですから、言い回しが難しいんですけれども、時間的にも空間的にも、連続性を重視することであります。人口急増の時代には、目前の状況を解決することが、行政の中心課題となり、生活や文化の時間的、空間的連続性など、考えている余裕は、なかったわけであります。その町固有の文化や環境を創造し、育てていくためには、親から子、子から孫へと、生活文化の継承が不可欠であります。その意味で、新しい町づくりには、こうした時間的、空間的な連続性を確保する仕組みを重視することが必要である、としております。

私なりに理解すれば、日野の歴史を正確に受けとめ、現在までの文化、芸能、風俗を後世に伝えていく必要がある、こういうような意味ではなかろうか、というふうに考えるわけであります。

以上述べた三つの町づくりの考え方を、日野市に当てはめるならば、ようやく激動期を脱し、安定期に向かう兆しが見え始めたという段階であり、加えて、激しい都市化の波を直接かぶった影響は、現在でも深刻に残っている。こうした中で、２１世紀を展望しつつ、現在、何から手をつけるかを見きわめるのは、極めて困難な命題とも言える、こうしております。しかし、あえて困難に立ち向かうことなくして、これからの町づくりを考えることは不可能であると、序文では締めくくっております。

私は、これからの町づくりの基本的な考え方として述べられた、三つの内容に共鳴すると同時に、この理念に沿った町づくりを展開しなければならない、というふうに考えるものでございます。

そして、この報告書は、序文に続きまして、要するに序文を受けてといいますか、六つの視点から、考え方を、総論という形で提起をしておりますので、これも簡単に紹介をさせていただきたいと思います。

一つは、定住化傾向の定着とライフスタイルの変化、こういうふうに題しまして、柴田徳衛先生が執筆をしておりますが、簡単に要旨をまとめてみますと、１９７９年、１９８４年の２回にわたる日野市の市民意識調査結果を見ても、日野市に住んでよかった、これからも住み続けたいという人が、年々ふえ続けていると。こうした定着が、地域における、要するに盆踊り、お祭りなどを盛んにしてきた一方、新しいライフスタイルとしては、各種サークル活動が活発になってきている。市主催の文化祭、スポーツ大会、さらには、何となく市場的雰囲気の濃い産業祭なども、参加者が多く、活気にあふれている。さらに、主婦層を中心にＰＴＡ、趣味のつき合い、ボランティア活動などの場を通じて、交流の輪が広がってきている。

こうした状況の中で、地方自治体は、活動の場を提供する努力がさらに必要であるし、新しいコミュニティーを模策していく必要がある、こういうふうに提言をしておりますし、さらに、日野市はメカトロニクスの発祥の地であり、東京西部に出現したハイテクゾーンの一翼を担う拠点となっている、こういうふうに位置づけをしております。

東京都立工科短大が、地域産業との交流に積極的に乗り出して、４年制大学への昇格を宣言

するなど、新しく出現したハイテクゾーンが、従来の東京に対抗するだけの求心力を持つ、強力な地域になるだろうと、予見をしております。

そして、そのために日野市が考えておかなければならないということの、四つばかり、先生は提言をしております。

一つは、快適な都市環境。適度な都市空間が確保され、自然環境と建築物が適度に混在する、そして人間がリフレッシュできる町、質の高い商店街のある町等の町づくりが要求されている。夢物語のようなところがあるかもしれませんけれども、これは、序文を受けての、総論のところでございますので、理念として受けとめていただきたいと思います。

２番目が、高度の文化性であります。これには、文化施設と文化活動が、同時になければならない。

三つ目が、知的要求を満たすと同時に、自己再生の場になる生涯教育の機関が必要である。

四つ目が、関連をいたしますけれども、生涯教育を含めた、教育訓練の場の確保が必要であると、こういうふうにしておるのが、総論の１でございます。

総論の２では、都市のアイデンティティの創造ということで、ＮＨＫチーフディレクター加藤先生が提言をしております。企画財政部長に、アイデンティティとは何ぞやと聞きましたら、主体性だと、こういうふうにお答えをいただきました。私は、さらにわかりやすく、私なりの解釈をつけ加えるとすれば、個性のあるとか、こんなようにつけ加えた方がわかりやすいのかな、というふうに思いました。

要するに、主体性のある、個性のある町をつくっていく、こういうふうに私は理解をしておりますが、教養の高い馬場弘融議員は首を振っておりますので、後ほど、機会があれば、さらに解説をいただければありがたい。それで、そういう理解をしておるところでございます。

執筆者は、日野市でシンボルにできる可能性のあるものとして、一つは、緑と清流に象徴される自然的、風土的な環境資産の保護と創造。都市のアイデンティティということで、要するに主体性のあるといいますか、そういったようなことで、あるいは、よその町に誇れるというようなものを、シンボルとして考えていくならば、緑と清流を象徴とする部分で、一つ考えるべきだろうと。

それから、２番目には、エレクトロニクス産業と、地域を結ぶ情報ネットワーク。具体的には、余り細かく書かれておりませんので、説明ができませんけれども、こういうこと。

三つ目が、これも、やや夢の感じがするかもしれませんけれども、緑の木立に囲まれた野外劇場と、そこから駅や町の中心部、あるいは公園へと延びる緑道、緑の道である。こういうものが日野にできれば、日野のシンボルと。主体性のある町、誇れる町、こういうふうになるだろうと。それには、こういうシンボルが考えられるだろう、こういう提言であります。

総論の３番目が、榎本滋民氏という劇作家の先生が書かれた、コミュニティの縦横ということであります。筆者の意見を、簡単に、これまたまとめてみますと、コミュニティーには横の連帯、共同ばかりでなく、縦の連帯、共同もあるはずである。横とは空間、縦とは時間のことであり、ここでは時間、すなわち、史跡、名勝、建造物、民俗芸能の育成、保存の重要性を指摘しているわけであります。

そして、榎本先生は、あと、各論の中の新しい日野市のシンボルというところで、具体的な提言をしておりまして、一つは、生活伝承館、それは、日野らしい、多摩らしい、武蔵野らしい民家をつくりまして、見学するだけではなくて、そこで実際に生活のできる、こういった建造物、これがいいのではないか。

さらに、二つ目は、オープンシアター、一言で言えば、日野のお祭り広場、こういうものを具体的に提言をしております。

総論の４番目は、堀越先生、日本女子大学助手の先生が、高齢化社会と新しい福祉のあり方と題して、総論で述べております。

この項では、後ほど橋本文子議員が、この中で、恐らく触れられる内容だと思いますので、簡単に触れますけれども、日本の６５歳以上の人口比率が、１９８３年が9.8％、２０００年が１５.６％、２０２０年には２１.８％に達する、こういう推定をして、筆者は、日野市老人意識調査結果をもとに、さらに総論の中で、具体的な提言をしております。

一つが、保健活動の充実と保健医療、リハビリテーション、生活援助サービスのシステム化。

二つ目が、ケア・ハウスづくり、これは、介護、ショートステイ、ディケアセンターの併設。さらには、きめ細かい相談所、相談システムの確立、こういう、２番目に、そういう提言であります。

三つ目が、安心して介助サービスが受けられる体制づくり。

４番目が、小規模住宅の建設であります。この中では、さらにどこを使ったらいいかということで、なるほどと思いましたけれども、これからは、学校の教室があいてくるだろうと。学

校の空き教室の利用なども考えて、高齢化の進展する中で、小規模住宅の建設、こういったようなことも考えていったらどうか、というような意味のことがありました。

一番共鳴をいたしましたのは、５番でございました。行政の姿勢としての要望をしております。この中では、福祉事務所、保健所、社会課、健康課、市立病院が集まり、今後の社会サービスのあり方、政策目標の討論と確認を初めとし、サービス実施について横の連携をとり、全体的ビジョンをもって業務に当たることが求められている、としているわけでございます。ときどきの一般質問で、この種の発言をさせていただいております関係上、一番関心を持って、この５番目の提言を読んだ次第でございます。

総論の５番目が、建築家の菊竹先生が、都市の三つのネットワークということで、日野市で考えるべき三つのネットワークを提言しております。

一つは、交通のネットワークでございます。これは、菊竹先生は、自動車と電車との乗りかえ、一般道路と高速道路の乗りかえ、さらに一般道路と電車、あるいは、これからできますモノレールとの乗りかえについて、もっと意図的に建設を取り上げていく必要がある。こういう、交通のネットワークをもう少し考えろということでございます。

さらには、ショッピングのネットワークを考えろ。これは簡単に言いますけれども、商業の活性化というようなことを考える立場で、商業通りを意図的に誘導する計画の必要性、こういったようなものを、ショッピングのネットワークの課題の中で、指摘をしております。おもしろいなと思いましたのは、最後に、グリーン・ネットワークの必要性ということでございます。これには、イロハニホまであるわけですけれども、一つは、浅川、多摩川沿いの緑地指定。これは、浅川の両岸、多摩川の日野の分、ここのところを緑地に指定をすると。そして、例えば、その両岸に桜でも植えたらどうなのか。非常に、何というんですか、これがタイトルにありますように、住むことが悦びである、あるいは、誇りの持てる町、こういったようなところに通用するのかな、こういうふうに考えるわけであります。

二つ目が、同じような発想で、中央高速道路の両岸の緑化、これを指定して、その両サイドに、例えばイチョウでも植えたらどうなるか。日野市を通過する方々も、日野市というものについて、非常に好印象を持つでありましょうし、日野市民も、誇りの持てる町だと思うに違いない、こういうような意味のことであります。

さらには、中央線沿線の緑化。立川から入ってきまして、中央線、この両サイドを同じような形で緑化をし、というような発想であります。

次には、既に進められておりますけれども、学校や公共施設の緑化、生活道路の緑化、こういったようなことを、総論の５番目では、挙げておられます。

総論の６番目では、これが最後ですけれども、魅力的な環境装置としての水流というふうに題しまして、谷　重雄先生、会長さんが書かれております。いろいろ書かれておりますけれども、一つは、やはり河川、用水路の再生、活用。さらには、湧き水の復活を目指す地下水の涵養というんですか、こういったようなこと。さらに加えて、堤防のサイクリングロードとか、いろいろ具体的にも話されておりますけれども、以上が、序文を受けて、日野市がこういった観点から考えていくべきだという総論が、６項目ございます。今、紹介をさせていただいたわけであります。

この後、各論がかなりあるわけですけれども、正直言って、時間的にまだ読んでいないということで、割愛をさせていただきたいと思うわけです。

私は、こうした多くの先生方によって示された、日野の将来像について、ここに出されたわけですから、今度は、質の高い町、開かれた町、そして連帯感、触れ合い、過去の文化を大事にする町、こういった町を総称して、悦びと誇りの持てる町をつくろう、こういう提言だと思いますので、今度は、行政と議会がこの報告書を有効に活用していく番だなというふうに考えるわけであります。

したがいまして、この報告書は、これから行政はどのような形で、具体的な政策につなげていくのか、こういう観点で、お聞きをしてまいりたいと思います。

具体的な質問に入ります前に、第１点は、実は、日野市行政調査研究会報告書、５２年に、第１回の提言がなされております。先生は、ほとんど同じ方でございます。５２年の第１次行政調査報告書、生活環境保全都市への提言というのがございまして、これがありますので、これに関連して、お聞きをしたいと思います。

この提言は、総論という分野で５項目。それから、日野市創造のための手法ということで、都市計画、区画整理、市内交通体系の確立、下水道施設、施設計画と建設、自然環境保全、それから文化財保護、農業、廃棄物処理、財政というところで、この第１次提言の方は、具体的な提言がなされているわけであります。

したがいまして、質問の１番目は、この提言の内容は、提言が報告されてから、どのような

形、あるいはステップで行政に生かされてきたのか、その辺のところを、１点目にお聞きをしてまいりたいと思います。

それから２番目が、この提言の内容に対しまして、前の第１次提言に対しまして、現在、どの程度到達しているか、達成度としては、行政としてどのくらい評価するか。

私は、この提言の内容で、かなり進んだもの、既に手のついたもの、あるいは、若干おくれているものという、三つの分類ぐらいに分けられると思いますけれども、そういった評価をするわけですけれども、全体としては、かなりこれに沿った行政が展開されているというふうに、私自身も考えるわけですけれども、できれば、この第１次提言、それから実践、そして達成度というのから見て、第２次提言、それだけではないんでしょうけれど、時代の流れが変わったということで、この第２次提言がされたんだと思いますけれども、この第２次提言の必要性というか、必然性といいますか、第１次提言からの流れの中で説明していただければ、大変、第２次提言がわかりやすいと思いますので、質問をさせていただきます。

続いて、大きな２番目でありますけれども、市側の見解をお聞きしたいんですけれども、第２次提言で、初めの質問とも関連するんですけれども、この提言を、具体的にこれからどう使っていこうとしているのか、ということでございます。

これは、私も、先ほど、ちょっと時間を使って紹介させていただいたのは、非常に夢のある、これから考えていくべき提言だ、というふうに理解をいたしましたので、これを具体的な政策に、少しずつでも近づけていくということが必要だという観点で、それでは、この第２次提言は、どういうふうな形で、これからの政策に結びつけていくのか、どういうふうにお考えになっているのか、それをお聞きしたいと思います。

それと関連するわけですけれども、２番目の質問で、たしか昭和５８年だったと思いますけれども、第２次基本構想というのもあるわけでございます。この第２次提言と基本構想の中身では、かなり違うわけでございまして、本質は違わないと思いますけれども、やるべきこととというのは同じような感じもいたしますけれども、第２次基本構想と、第２次提言、これはどんなような関係に位置づけていくのか、ということです。これを教えていただきたい。

それから、質問の３点目でございます。質問の３点目は、計画の可能性と今後の課題ということに関連して、お尋ねをさせていただきます。

第２次提言の最後に、計画の可能性と今後の課題について、という各論であります。柴田徳

衛先生が、二つの角度から問題を提起しておりまして、一つは、市民の要求にこたえるためのこういった提言が、実際に市の財政から考えて、できるのかどうかという立場で、一つ提言をしております。

二つ目の提言として、可能性の今後の課題として、新しい都市に対応する行政の課題。では、実際こういう提言をして、財政もいいとした場合、果たして何が障害になるであろうか、ということについて提言をしておりますので、その二つの角度から質問をさせていただきたいと思います。

初めに、市民の要求にこたえるための市財政という中では、三つほど挙げております。

一つが、日野市の市税収入を中心とする財政力指数は、昭和５４年の0.９６から、５８年度1.１１４と毎年増加をしており、世間的には富裕団体と呼ばれるに至っている。これが１点目。

２点目は、歳入中に占める市税の比重も、市民１人当たりの市税の額も、ともに全国的に見て、極めて高い。

３番目、人件費、扶助費、公債費の３項目を合わせた、いわゆる義務的経費は、類似団体に対し、１人当たり金額で３分の１ほど低いし、歳出合計に占める比重も、２０％ほど低くなっている。それだけ市財政は、積極的に新しい事業を増大させる余裕がある、と分析をしております。

そして、まとめといたしまして、こうした財政力を十二分に活用し、職員の協力を得、余力ある地方債を利用しながら、市政の新しい段階での事業を次々と打ち出していくこと、それがまた、さらに市の新しい発展を招き、市の財政力を増すことを強調したい、こういうふうに結んでおります。

したがって、質問でございますけれども、そういった財政――柴田徳衛先生はどういうお考えの方か、よくわかりませんけれど、そういうまとめであります。

そして、こういったことを受けまして、財政は大丈夫だ、こういうふうに私はこの提言を読むわけですけれども、そしたことで、住むことが悦びであり、誇りである町を実現させるために、財政計画と整合させた、これに沿った形の実施計画をつくる必要性が、私はあると思うんでありますけれども、これについて、市側の見解を、まず１点お聞きをしたいと思います。

さらにお聞きをしたいわけでありますが、柴田先生は、新しい土地に対応する行政の課題、こういう中で、行財政改革の方向という項があるわけですけれども、ここでかなり詳しく述べ

ておりますので、ここでは、若干抜粋しながら読ませていただきたいと思います。

現在、行政が厳しい指弾を受ける原因として、時代の変換期に際して、これに適切に対応できないでいる点が挙げられよう。これはいつの時代でも起きており、特に時代の変革期には、行政が社会的ニーズに適合できなくなって、社会の変動を明確に把握しないままに推移していけば、行政上のニーズを的確につかむことが不可能になり、発生している事態に対して、有効、適切なサービスを実施するのが難しくなるからである。こうした事態は、自治体行政の担当者が、変化する社会に対応していく努力に欠けていれば、当然あることであって、自治体職員の能力が問われることになる。これは、少数のトップ層がいかに努力をしても、職員全体が努力を払わない限り、今日の複雑な社会に対応する行政においては、問題の解決が困難である。民間企業においては、事の良否は別にして、対外的にも、企業内においても、常に競争にさらされているために、時代の変革について情報を収集し、事態を把握して、創意を生み出すことが、事実上強制されている。日時の積み重ねのうちに、その情報量において、また、社会的な各種の技術において、その感覚において、行政との間に次第にギャップを生じるようになる。ここに至って、行政が社会に適応するのが困難になると、往々にして、極めて閉鎖的な態度に出がちである。それは、基本的に、行政は競争関係にないために、他に対して扉を閉ざすことも可能だからである。閉鎖的態度に陥る限り、能力のレベルが極端に落ちて、社会的にも取り残されることになる。こうなっては、住民の信託を受けて行政運営に当たることは不可能になり、住民の要請にこたえられないばかりか、自治そのものも失わせてしまう。そこで、現在の行財政改革の具体策を考えるに当たって、次のような理念を改めて確認しておく必要がある。

一つ、地方自治の重要性を確認する。

二つ、自治体がその運営に当たって一層市民意識を吸収していくために、開かれた状態をさらに進める。

三、高度の技術を市の職員が備えなければ、市民意識の吸収、これによる効果的な行政の成果を得ることが難しいことを確認することであります。

真の自治を確立していくには、高度の知識に裏打ちされた、冷厳な観察と、燃えるような住民の基本的人権確立の決意である。そして、その具体策としては、まず第1に、能力の開発である。苦痛に満ちた努力を必要とするだけに、効果が上がるまでに実行することがなかなかに困難である。しかしながら、厳しい競争にさらされている企業において、また、現実の社会生

活において、住民の大部分はこれをクリアーしながら、変動期を乗り切ろうとしている。少なくともこの程度には努力をしなければならない。

直ちに役立つ方法として、企業との交換研修も、相当の効果を挙げよう。また、住民の中から専門家を選んで、定期的に意見交換を兼ねた研修をすることも、効果があろう。迂遠ではあっても、基本的には市町村研修所のあり方を含めて、内部研修の態勢について、全面的に検討して、制度を確立する必要がある、と、こういうふうに、ちょっと長くなりましたが、結んでおります。

私も、今、職員の方々が仕事をしていない、あるいは能力がないということは、そういうふうには考えておりませんで、やはりこれからの新しい町づくり、こういうものに立ち向かうためには、いろいろそれぞれが知恵を出し合って、あるいは勉強し合う、あるいは専門家の話を聞くということも、非常に必要だなと、これを読んで感じたわけでございます。

そのことは、予算委員会なり、決算委員会なりでも、私もその必要性を、今までも要望してきたわけでございますけれども、今、柴田徳衛先生の具体的な能力開発について、幾つか具体的な提言がなされておりますけれども、こういった具体的な研修のあり方について、市側はどのような見解を持たれるか、最後にお聞きをいたしまして、あとは答弁をいただきたいと思います。

○副議長（米沢照男君）　福島敏雄君の質問についての答弁を求めます。企画財政部長。

○企画財政部長（前田雅夫君）　お答えをいたします。

まず、第1点目の、この提言の内容はどのような形で、あるいは、どんなステップで行政に生かされてきたかということでございます。

これは、第1次報告でございますけれども、これは、前回等の議会にも、市民の意識調査の結果の行政への反映ということで、御質問もあったわけでございますが、その中でお答えもいたしましたけれども、こういう報告書がやはり出ますと、まず、主管部課におきまして、内容の検討を十分行い、さらに、これに関係いたしますところの市議会の提言、あるいは、市民の要望を踏まえまして、財政状況を考慮いたしまして、内部計画であります公共施設3ヶ年計画に、反映をさせるというものでございます。

さらには、これらを踏まえまして、予算編成に際して留意しながら、事業化をしてきたわけでございます。

2番目の、この提言の内容に対する達成度をどう評価しているのか、それから、できれば第1次提言実践、達成度、第2次提言の必要性について説明を、ということでございますが、第1次報告書、第2次報告書をごらんになっていただければわかりますけれども、第1次報告書の目次を、まず見ていただくとわかりますが、第1次報告書は、具体的な提言といたしまして、日野市創造のための手法が書かれております。

具体的には、都市計画、区画整理から続きまして、農業、財政まで12項目にわたりまして、記述されておるわけでございます。これらの中の具体的な項目の実現度というものを見ますと、農業、市内交通体系の確立等を除けば、かなり市政に反映をしているのではないか、というふうに考えております。農業、市内交通の関係が皆無という意味ではございませんが、そのように理解をしております。

それから、第1次報告書の柱は、どちらかといいますと、物が中心に書かれておりまして、第2次報告書は、序文の中でも書かれておりますように、市民の心、ゆとりとか、あるいは豊かさを求めるようになりまして、量から質へと市民意識が転換をし、町づくりの理念も、変化の兆しが見え始めていると述べられております。そして、今後の日野市は、シンボルと、それから先ほども出ましたアイデンティティの町づくりが必要ではないかといわれております。

すなわち、第2次報告書は、第2次基本構想を受けまして、本市の今後の進むべきイメージ、理念といいますか、こういったものを明らかにしたものでございます。

3番目の、第2次提言の具体的な展開方法をどう考えているか、今後の政策にどういう形で結びつけていくのか、ということでございますが、この点につきましては、今、述べましたように、第2次報告書は、本市における今後の進むべき理念に力点が置かれて、まず、おります。

この理念につきましては、同感するものでございますけれども、この理念を実現するために、具体的な提言、各論が書かれておるわけでございます。この点については、この報告書の中でも、いわゆる執筆者の分析が明記してありますように、この委員会の委員さんの総意というような形でのとりまとめまでいってない段階でございます。十分庁内で検討いたしまして、今後、行政に反映をしていきたいというふうに考えております。

それから、第4点目の、第2次基本構想と、今回の第2次提言との関係はどうなっているか、ということでございますが、これは、当然のことでございますけれども、第2次基本構想を踏まえまして、第2次提言をいただいたわけでございます。基本構想の2ページでございますけ

れども、目標とする都市像ということで、三つ掲げてございます。

参考までに、これを読み上げますと、第1は、遠い昔から引き継がれてきた多摩丘陵の緑や、多摩川、浅川など、現存する自然環境を守り、さらに積極的に緑化や環境浄化を進め、健康な生活と健全な社会環境をつくる、緑と清流と太陽の都市であると。

第2は、日野市の伝統と文化的風土、市民生活に深く根差した、生気あふれる教育、文化、スポーツ活動を進める、文化と潤いの都市である。

第3には、市民のだれもが大切にされ、お互いに相互信頼のうちに、市民による市政を展開し、日野市を我が町ふるさととして築く人間尊重、自治参加、連帯の都市である、というふうにうたっております。まさにこの都市像と整合するというふうに、理解をしております。

次が、5番目の、これら第2次報告の実現でございますけれども、いわゆる実施計画等を作成する必要があるんではないか、ということでございますが、もちろん提言もそうでございますけれども、その他の状況を踏まえますと、できるだけ早く中期なり、実施計画を作成したいというふうに、私ども、今、考えている次第でございます。

以上でございます。

最後の問題につきましては、総務部長の方からお答えをいたします。

○副議長（米沢照男君）　総務部長。

○総務部長（伊藤正吉君）　能力開発のための研修を今後どう進めるべきか、こういうようなお尋ねでございます。

日野市といたしましては、日野市の職員の研修の規程を設けまして、必ず職員は研修を受けなければいけないんだと。それから、研修サイドでは、その機会を与えなければいけないんだと、こういうことで、義務づけをしてございます。

たまたま、ここに、59年度の研修の結果が出ておりますけれども、市職員が、少なくとも2回の研修を受けている、こういう実績が出ております。

それから、市町村研修所のあり方、こういうことでございますけれども、都下41市町村の研修の担当部課長がございます、研修所3次会が41市の市町村長に対しまして、今後の研修はどういうふうにあるべきかということで、お尋ねした結果が出ております。その第1点で、一番多いのは、61年度以降の研修のあり方については、公務員としての使命感、責任感の涵養を目指す研修。

2点目に多いのが、職務の高度化、専門家に対応する研修を行うべきだ、こういうような提言をいただいております。

そういう意味合いにおきまして、市町村研修所におきましては、61年度以降については、この研修方針を打ち出していく、こういうことでございます。日野市といたしましても、やはり独自の研修をしておるわけでございます。いろいろな角度から研修をしております。まずは、日野市では、自前の研修ということを、一応前提に考えております。と申しますのは、各部課長さんに講師になっていただいて、その研修制にフォローしていただく、あるいは研修をしていただく、こういう方式をとっております。

これも、これからはいろいろな専門分野の研修も出てまいります。そういうことの中で、これからもなお一層、現在の研修担当は相当努力しているわけでございますけれども、これからの研修といたしましては、民間企業の感覚を養う、人材育成をする研修、こういうことに、なお一層取り組んでまいりたいと思います。

以上でございます。

○副議長（米沢照男君）　福島敏雄君。

○2番（福島敏雄君）　それでは再質問は、大きな3項目目の、計画の可能性と今後の課題という中で、財政と整合させた計画、さらには職員の能力開発というところを、話をいたしましたので、ここに絞って再質問をさせていただきたいと思います。

今、総務部長の方から、職員の能力開発について、答弁をいただきました。日野市では、研修を受けなければならない、あるいは義務づけていく、市職員は、年2回ほどの研修は行っている、ということ。さらに、日野市の場合は、自前の教育、研修ということで、部課長さん方がさらに独自にやっている。そして、先ほどの問題提起の中にありました市町村研修所のあり方については、61年をめどに、研修の内容についても検討は加えられ、新しい時代に即した研修内容に変えられつつある、こういう答弁だったと思います。私は、そのことは大変結構でありますので、ちょっと違った観点で質問をしたいと思います。

総務部長にお尋ねをしたいのは、私は、それぞれの市町村研修所なり、あるいは日野市がやる研修の中で、いろいろやられることは必要だと思いますけれども、例えば、具体的な内容でお聞きをいたしますけれども、ここに、住むことが悦びであり、誇りである町をという、研修の内容としては、非常におもしろい題材があるわけですけれども、これを、例えば、この中の

先生をお呼びして、職員に対して、層別に、実際にこのテーマで研修をされることを考えているかどうか、それをお聞きをいたします。自前の研修という中で。

○副議長（米沢照男君）　総務部長。

○総務部長（伊藤正吉君）　研修につきましては、いろいろ課題等を持ち寄りまして、そこでお互いに切磋琢磨していく研修もございます。それから、講義方式の研修もあるわけでございます。

講義方式の研修につきましては、有名人、あるいは詩人とか、その他各界で活躍されております講師をお呼びしまして、職員の希望を募りまして、講義方式の研修をしていると。研修の終わった段階では、いろいろその講義についての質疑応答、そういったものも踏まえてやっておりますので、こういう形で、今、ここに出ております先生等も、過去には呼んでいろいろお話を聞いた例もございますので、これらにつきましては、職員の担当部課の方に、61年度については、これから計画するわけでございますので、その辺については、日程の中に追加していきたいと、かように考えております。

○副議長（米沢照男君）　福島敏雄君。

○2番（福島敏雄君）　最後の段階で、日程の中に追加していきたいと考えておるということですから、それに期待をしたいわけですけれども、ぜひ、何というんですか、新しいという感覚というか、ここに、ですから先ほど、ずっと、柴田先生の話を書いた論文を、全部読ませてもらったんですけれども、これからは、やはり市の職員が非常に優秀な人が多いわけですから、この庁内だけでいろいろな研修をされても、必ずしも市民との感覚に合っていない部分もありますよ。

したがって、市の専門家を呼んで講師にしたり、あるいは、市町村研修所の内容を変えたり、こういったような具体的な提言があるというのは、やはり今までの研修では、これからの、要するに世の中の移り変わり、市民の要望する町づくり、あるいは、いろいろ、既に安定期に入った地方都市で進められているような政策、そして、悦びと誇りのある町づくりを、質の高い、そういった町をつくっていくには、実際の担当者である職員の皆さん方に、そういった考え方をもっと持ってもらう必要がなければ、この提言は生かされないんですよと、しっかり言ってしまえば。こういうふうに、柴田先生はおっしゃっているんじゃないかと。

これは、私は、市の職員に対して、非常に失礼な言い方を、あるいはしていると受け取られ

るかもしれませんけれども、そうじゃなくて、期待するからこそ、この提言を生かしていくという形で、町をつくっていくと。これには、どうしても１人１人の職員がその気になった気持ちが必要だと。それ以外には、これを行政で生かしていくのは非常に難しい、というふうに判断をいたしますので、その研修内容、特にこの辺については、立ち入ってお聞きをするわけでございます。

したがって、先ほど総務部長の方から、こういう内容について、今度は研修の中に、６１年度以降入れていく検討をしていきたい、入れていきたい、こういう御発言がありましたので、これだけじゃ、私はないと思うんです。

要するに、これからの研修の中で、職員はどういうものを最低限身につけていくかと。これは、もちろん議員も同じことだと思う。職員のことを言って、議員は何をやっているんだ、こういう職員の方からのあれもあるかもしれませんけれども、やはり実際に立案をしていただく、あるいは政策を立てていただくということに対して、実作業を進めていただくのは、職員であります。

したがって、そういう方々に市民の熱い目が注がれている、期待を持って見ているということでございまして、ぜひ、そういった形での考え方、研修、特にこの中では、民間との相互人事交流というようなことも、具体的な提言として、ここではうたわれておるわけでございますけれども、その辺については、では、研修の内容はわかりましたけれども、民間との相互交流とか、市内に住む専門家を講師に呼んで研修をするとか、こういったようなことについては、どうお考えになるか、お聞きをしたいと思います。

○副議長（米沢照男君）　総務部長。

○総務部長（伊藤正吉君）　民間との交換研修、その他についての御提言があるわけでございます。これらにつきましても、過去には職員がデパートに行って、接客を研修している、こういうふうな実例もあるわけでございますけれども、そういうふうな実例を踏まえまして、これからも職員の能力の開発のために、いろいろな提言を踏まえて、いろいろな形で研修制度をつくっていきたい、かように考えております。

○副議長（米沢照男君）　福島敏雄君。

○２番（福島敏雄君）　総務部長の言葉じりをとらえてお話しするわけじゃありませんけれども、私は、今の、デパートとの交換、人事交流、これは、人の応対をよくするという意

味での発想の中で、必要なことだということで、具体的にとられた内容だと思うんですけれども、今、日野市の窓口、職員の窓口の応対について、私は非常にいいというふうに考えておりますので、職員を、あえて応対業務をよくしなきゃいけないというための研修などは、今、必要ないというふうに考えます。

要するに、これからどういう町づくりをしていかなければいけないか、そのために専門家がどういう提言をしている、あるいは、よその町では、似たような町では、どういうような町づくりが進められているか、そういったようなものは、頭の中に少しずつでも入っている。これは、職員の皆さんは机の上にかなり本がありまして、いろんな本を自主的に読まれておりますから、あるいはそういった研修は、必要ないかもしれませんけれども、やはり総合的に、そういった接客というようなことから、一歩もう上に進んで、むしろこれからの町づくりにみんなが意欲を持ってもらう。そのために必要な知識、こういったようなものを研修の中に、ぜひ折り込んでいただきたいという要望を申し上げて、この質問は終わります。

次に、企画財政部長にお尋ねをいたすわけでありますけれども、提言をもとに、財政計画と整合させた計画をつくるか、ということにつきましては、中期計画なり、実施計画なりをつくっていきたい、こういうことがございます。

私は、先ほど、柴田先生の内容をそのままお話ししたんですけれど、日野市の財政ということについて、企画財政部長は、柴田先生が分析した内容を、そのとおりだと思われるか、あるいは、あの柴田先生の分析ではここがおかしいんじゃないか、というようなところがあるかどうか、そこのところを、１回、見解を賜っておきたいと思います。

○副議長（米沢照男君）　企画財政部長。

○企画財政部長（前田雅夫君）　お答えいたします。

非常に難しい御質問でございますけれども、要は、柴田先生の提言が正しいかどうか、ということになるわけでございますが、やはりポイントは、今後の社会なり、経済の動向だというふうに、私は考えております。

今、国際情勢、かなり経済的に厳しい中に、日本が置かれているわけでございます。特殊な分野におきましては、さらに成長するでしょうし、あるいは、物によりましては、かなり後退をするというふうな、経済見通しがあるわけでございます。

総じて、今の安定成長のままでいけば、私は、柴田先生の言うとおりではないかなと。若干、

消極的に将来の経済の見通しを見ますと、いま少し安全運転を、安全的な財政運営をした方がいいんではないかなと、そういう感じを持っているわけでございます。

○副議長（米沢照男君）　福島敏雄君。

○２番（福島敏雄君）　よくわかりました。

確かに、まだ余力ある地方債を有効に活用して、というような部分などは、日ごろの議員の皆さん方の提言とも若干違う部分もありますし、私なりにも、私が判断しても、それをうのみにしていいかどうかということは、疑問があったわけですけれども、それはそれといたしまして、今、答弁をいただいたわけですが、財政計画と整合させた中期計画なり、実施計画につきましては、昭和５７年初当選以来の議会で、要望をしてきた経過があるわけでございます。

なぜ、これだけこだわるかということになりますと、やはり限られた財政の中で、市民要望は幾つもある。そして、現在、第２次基本構想、それを受けての、この地方行政調査会の報告、さらにこうした町づくりも考えていくべきだという提言もある。

これをいろいろ、さらに細かい分野でいけば、それぞれの区画整理のあり方だとか、下水道の計画だとか、いろいろあるわけでありまして、それらを、何というんですか、集大成をして、優先順位を決めて、それで財政の裏づけを考えて、どれからやっていくか。それぞれのテーマを、優先順位に近いものから、積極的に職員は研究、調査していくという、仕事の段取りの必要性も考えますと、やはり大まかな計画といいますか、具体的な計画、これが、ぜひ必要じゃないのかなという感じがするわけです。

先ほど、古谷議員さんの、都立美術館の説明、答弁の中に、農林省の跡地の反対側のところに、体育館とか、プールとかいうあれで、それで済むのかなと思いましたらば、それは、先ほどの市長答弁ですと、むしろそこに都立美術館なり、自然保護センターといいますか、そういったようなものをあれして、体育館は淡水区の跡地なども考えていいんじゃないか、というような話もございました。（「思いつきだよ。無責任だ」と呼ぶ者あり）

いや、それは思いつきとは言いませんけれども、やはり、何といいますか、体育館は南平にも体育館があるわけでありますし、私どもがいろいろ計画の必要性を、計画が必要だと訴える一つの根拠は、例えば体育館でしたらば、浅川の向こうの方の人がうんと使える。それから、浅川北といいますか、こちらの方が使える。距離的に考えても、体育館はそういう形で使える。

あるいは、福祉センターにしてみても、湯沢にあり、高幡にあり、それから日野本町にあり

という状況で、したがって、市内から見ますと、市民要望から言えば、こちらの方にも欲しいよ、というのがあるわけでして、それでしたらば、福祉センターなら幾つ日野に必要なのかという討議を、今、していく必要がある。そうなると、その一つ一つについては、どこから一番初めにやっていこうかと。

私、難しく年次計画とか、実施計画とかいうのは、市民要望で、今、具体的に言った、福祉センターなら福祉センターの配置計画、これをどうする。では、配置計画ができたら、それの建築計画をどうする、このことを言っているにすぎないわけです。

例えば、児童館にしてもそうであります。今、５番目の児童館の建設が、実施設計が始まろうとしている。では、日野市には、あと幾つ児童館が必要なんですか。市民は要望しているか。では、あと二つだとすれば、あと二つ。どことどこか。こういうふうに決めて、それは財政的に見れば、いろんな計画との整合の中で、ゾーンにはなるかもしれないけれど、３年以内、あるいは５年以内とか、こうなれば、請願が出されないと思うんです。請願が出されそうになったら、この計画は、この地域に何年以内をめどにしてつくる計画になっています、こういうようなことが、私も議員として、ぜひ、あれば、それぞれの地域に行って、要望が出た場合には、それはこういうことになっていますので、ぜひ全体的な市の計画の中で御理解を賜りたい、という話もできるわけですけれども、まあ、難しいことを言っているわけじゃないんです。

このことについて、前回、昨年の今ごろだったと思いますけれども、昨年の春でしたか、企画財政部長は、ハードなものについては――昨年の春ですね――年内にやります。ハードな計画については。こういうのを、私の一般質問に答えて、言われた経過があるわけですけれども、それで、きょう聞いてみますと、中期計画なり、実施計画は考えていきますと。

確かに、わからないではないと思います。企画財政部の企画課というようなところの人材が非常に少ないという感じは、わからないではないですけれども、私は、それにしても、少し長過ぎるし、そのことは必要であるというお答えが、いただいていながら、これからやっていきますということについて、大変私は、この辺については、確かに残念だというふうに感じておりますので、全体を含めまして、今のやりとりなり、いろいろな、もろもろの、私の今の見解なりを含めて、できれば最後に市長の方から、総括的にお答えをいただければ、ありがたいと思います。

○副議長（米沢照男君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　私どもが、直接庁内に立てこもって、行政をやっておりますと、（「だからだめなんだよ。こっちへ出ろ」と呼ぶ者あり）　もっと聞いてください。――とかく、視野が非常に狭まりがちである。ですから、私はなるべく外に出て、そうして市民の意見も聞きながら、いわゆる住民参加、あるいは市民の意見を尊重する自治の行政を、実践をしたいということを、絶えず念願をいたしております。

2回にわたりまして、つまり、第1次の石油ショック直後のころに行いました、この先生方による日野市に対します、一つの、外から見た診断、あるいは処方という形での、今後の政策的展望であります。

ちょうど、価値感と申しましょうか、なにか高度成長の初期には、大量生産、大量消費、大きいことがいいことだとか、ごみを大量に出す方向にのみ、なにか生活の追求があったわけでありますけれど、それがある程度満ちてまいりますと、今度は心の豊かさといいますか、あるいは、自然や歴史文化を大切にしよう、こういう意識に転換をしてきた。そういう経過から、また第2次の調査会を、1年余をかけてやっていただいたわけであります。

つまり、日野市に住まない、外の方々の日野市を見ての、日野の特徴でありますとか、あるいは日野の進むべき道でありますとかいう方が、むしろ、しかもそれに学者的な、資料から判断をされる、そういうことを取り入れました場合に、大いに役立っておる、こう思っております。

したがいまして、ほとんど、距離を離してみるならば、地方自治体の住民の価値感の変化、日野市の特に優れた特徴を生かしながら、その方向にほぼ正確にたどってまいったと、このように言えるかと思っております。

それで、政策を遂行するのは、これはまさに行政のまた仕事でなければなりませんし、その政策を具体的に展開するのは、これは行政マンである市の職員に、同じく課せられるわけであります。

したがって、その政策立案能力、あるいは、その政策を実施する能力、このことを職員には特に勉強をしてもらわなければならないわけでありまして、努めてそのような研修のこと、あるいは訓練のこと、それから日常の勤務そのものがそういう経験を積む、判断能力をつける、こういうことになっておるわけであります。

また、一方に、確かにきちんとした年次計画がある、財政的裏づけもそれに伴っている、と

いうことの可能な面と、いつか申し上げたと思っておりますが、先ほどまた、たまたまそのことに触れたわけでありますけれど、とにかく将来の政策のために、用地が必要である。しかも、残されておる国有地を、ぜひ日野市の、それこそアイデンティティにおいて、確保していかなきゃならない、このようになるわけであります。では、それを確保するにはどういう財政的な手法がとり得るかということに、悩みをいつも持つわけであります。

今、たまたま美術館の話で、桑園跡地を云々ということを、一つの考えとして申し上げましたのは、都立の美術館は、これは都の財政においてやってもらえるわけでありますから、しかもその場所を日野市に提供できる場所があるとするならば、大変考慮すべき一つの手法である、こう思っております。

体育館のことも、まさに今までの計画があるわけでありますから、しかし、両方とにかく、桑園跡地、あるいは淡水跡地、それに加えて程久保の緑地、これらは、いずれ日野市で確保していかなきゃなりません。その際に、都の計画、都の施策、都の財政、それらもあわせて考えるということは、むしろ重要なことだと、こう思っております。

特に、当面着手いたします基盤整備の下水道事業、区画整理事業、これは、ぜひ実施してまいらなければならない性質のものであります。それらといかに整合させていくかというところに、今日の発展途上にあります日野市の大きな問題、これも取り組む課題というふうに考えておるわけでありまして、児童館とか、あるいは図書館とか、そういう具体的な、財政を消費しない範囲の施設につきましては、これは可能だと思っておりますけれど、大きな事業というものは、やはりなかなか決めがたい。そういうことで、模索をしたり、悩んだりしておるというのが現状であります。

幸いに、人口急増期は、日野市は相当、何といいますか、十分な対応もいたしながら経由いたしましたし、これからこそ、まさに将来展望を持って、しかも余り細かいことにとらわれない、と言ったら語弊があるかもしれませんが、大きな技を、棒を使いながら、しかも地域地域の具体的な課題も処理しながら、このようにやっていかなきゃならない。そういう恵まれた条件を、非常に具備しておる我々の日野市でありますので、なにかそれを早々と、これはこの程度ならましだというふうに決めつけないで、可能性をゆとりあるものとして残していきたい。むしろ、我々の仕事は、そういうことではないかと、このように思っております。

自治体は、私は悠久だと思っております。多摩川や浅川も、まさに悠久の自然の素材であり

ますから、これを緑と清流の日野市の素材をこそ、最大限に生かしていく。そこに健康な、健全な地域社会をつくっていくということにこそ、日野市の将来、あるいは市民の目指すところがあり得ると思っておりますので、十分御理解をいただきながら、また、御指導もお願いをしたい、このように思っております。

以上です。

○副議長（米沢照男君）　福島敏雄君。

○２番（福島敏雄君）　誤解があってはいけませんので、私は、今の行政なり、あるいは進め方について、批判的に物を言っているわけじゃないわけでして、これからの町をどうしていくかという観点で、さらによい町を考える必要のために、いろいろ努力をしていくべきだ、こういう観点での、終始発言をさせていただきましたので、そういう御理解を賜っておきたいと思います。

以上で終わります。

○副議長（米沢照男君）　これをもって４の１、住むことが悦びであり、誇りである町を創ろうに関する質問を終わります。

お諮りいたします。議事の都合により暫時休憩いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（米沢照男君）　御異議ないものと認めます。よって暫時休憩いたします。

午後　0時２１分休憩

午後　1時３５分再開

○副議長（米沢照男君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問５の１、地方行革大綱と日野市行財政調査会についての通告質問者、名古屋史郎君の質問を許します。

〔２１番議員登壇〕

○２１番（名古屋史郎君）　それでは、地方行革大綱と日野市行政調査会についてと題して、質問いたします。

政治や行政の仕組みを変えて、国民や市民のために行政を行う、そういう意味での行政改革、これは広く一般の市民、国民の、今や要望であります。行政改革ということは、今、世論といってもいいくらいな状況にあると思います。

私は、冒頭申し上げておきますが、こういう意味で、地方自治体が独自で行う、いわゆる主体的に行う行政改革については、大賛成であるということを、最初にはっきりと申し上げておきたいと思います。

ところで、自治省は本年の１月に、地方公共団体における行政改革推進の方針、いわゆる行政、地方行革大綱ということの策定をしなさい、という通達を出しました。

この通達というのは、具体的に何項目か挙げてどういう機関をつくりなさい、大綱を策定したら、いつまで報告をしなさい、それから、つくったものは大綱という名称をつけなさい、非常に具体的であります。

そして、このことについては、先般の行政報告の中で、古賀議員と市長とのやりとりも伺っておりました。古賀議員の質問の要旨は、大変立派な指導に従って、早く日野市も行政改革の大綱を、自治省の指導に従って、早くつくりなさい、こういうような質問だったと思います。それに対して、自治省の指示というのは、ことしの８月までに各地方自治体はつくって、報告をしなさいということなんですが、大変おくれているので、日野市も急ぎなさい、という質問の要旨だったと思います。

最近の、９月２４日のサンケイ新聞によりますと、地方行革大綱づくり進まずと、大きな見出しが出ておりまして、３６都府県が、いまだにその指示に従わないといいますか、まだ作成していない。政府主導にブレーキと、大きな見出しがついております。

先ほど、私、申し上げましたように、行政改革というものは、市長も先般言ってられたように、自主的にその自治体が行う、こういう形が望ましいわけですけれども、先ほど申し上げましたように、大変この通達というのは具体的で、非常に、制裁措置はとらないとしていますが、大変事細かに指示したものであります。

それに対して、現在では３６都道府県が、まだできていない。大綱の作成が大幅におくれているのは、いろいろな理由があるというふうに報じられておりますが、私は、押しつけられた行政改革という形に対しての、反発といいますか、そういったものも、日本の中にはあるんじゃないか。この三多摩の中にも、後で申し上げたいと思いますが、三鷹市などは、行革は、おれたちの自分の力でやってきたし、これからもやるんだと。ですから、いわゆる自治省のそういう人たちには従わない、ということが明確に発表されて、新聞報道なにかにもなっておりま

す。

そこで、日野市の場合に、行財政調査会というものが、７月２３日にこしらえられたという報告がありました。これに対して、質問に対しての、たしか答弁だったと思いますが、市長は、この行財政調査会、日野市のです、今回つくったのは、いわゆる自治省の通達に従ってつくったものではない。自主的、主体的な姿勢で、２１世紀を展望した、市民ニーズにこたえるマスタープランをつくりたい、こういうふうな言葉の表現でありました。

さらに、具体的な応答の中では、大綱という名前は使うかどうかはわからない、こういう具体的な答弁もしております。しかし、通達の方は、大綱という名前を使いなさい、こういうふうに細かい指導がされているわけです。

そこで、私が伺いたいのは、行政報告の答弁の中にも、名称については、あるいは時期についても、言われるとおりの時期になるかどうかはわからない、そういったような答弁が行われておりました。さらに、いわゆる行財政調査会の性格といいますか、そういったことについても、これも答弁であったと思うんですが、多数決で決めるような会ではない、こんなふうな答弁をされているように聞きました。

これらの答弁、一連して聞いておりますと、さすがに革新市長だと。私は自治省の押しつけに屈することなく、２１世紀を展望した、いわゆる市民ニーズを踏まえたところの、真の自主的な行政改革をやるんだ、こういう姿勢が伺えまして、大変胸のすく思いがしたわけであります。

先ほど申し上げましたように、三鷹市は、皆さんも御承知のように、職場では一切たばこが吸えません。開庁以来だそうです。たばこを吸える、吸えないということについての是非は別として、下水道の普及率も大変なものであります。三鷹市は、自信を持って、もう一昔も二昔も前から、いわゆる行政改革というものに取り組んでいる。こういう自信で、先ほど申し上げたような新聞報道になっていると思います。

いわゆる押しつけでなく、私は先ほどから何回も申し上げているように、自主的な行政改革は全く賛成であります。それを、いわゆる政府の言う、押しつけの形の中には、１００兆円にも及ぶ国家財政の危機が、いかにも地方自治体の側にのみ責任があるような形の主張、こういうことには、到底私は承服できません。

そういう観点から、これから伺いたいのは、先ほど申し上げたとおり、行政調査会、今度つ

くられた、たまたま８月ということに合わせたかのごとく、７月２３日に設置された調査会、これについては、先ほどから言っているように、決して押しつけられたものに合わせる考えは全くないんだということなんですが、伺いたいのは、私は、先ほどから申し上げているように、いずれにしても、形はどうあれ、名前はどうあれ、いわゆる自治省の指導に、これからこしらえるもの、あるいは時期はどうあれ、自治省の指導では、設置段階でもひな形がありまして、設置したことについての報告、いつ設置したか、どんな人間が入っているか、第１回の会議はどんなことを決めたかというような書式、何というんですか、個票と称しているようですが、それまで用意されているようです。これは、行財政調査会の設置についての報告を求めるものであります。

さらに、いわゆる大綱という名前のついたものを報告する際には、それに倍する書類が用意されているんじゃないかと思います。そういったものが、こちらの気持ちは別にして、自治省から押しつけられてくるんじゃないか、という心配をしているわけです。

その際に、先ほどから、市の態度はよくわかっております。しかし、その際に、民主的な審議会といいますか、諮問機関の議を経たと称して、どういう形のものを、押しつけられた場合にお出しになるのか、全くそんな個票なんというものは関知しないし、書式にもとらわれないし、時期にもとらわれないし、全く自治省のそれとは別のものなのですということが、ずっと言い切れるんでしょうか、ということを伺いたいわけです。

指導、助言というような形で、サンケイ新聞にも出ております。通達をまた出し直すんだ、指導のとおりに出しなさいという通達を出すんだということを、自治省は言っているようです。こういうことについて、どういうふうな対処をされるのかということを伺いたいわけです。

いわゆる、行財政調査会という議を経たんだということで、一本答申かどうか、そこの内容については、また後で伺いたいんですが、とにかく、行財政調査会の意見を聞きましたという形で策定されたものを、全然報告をしないのか。するとすれば、これが民主的な議を経てできた、日野市の行政改革マスタープランでありますというふうに、発表しなさいということにもなっていますし、その辺が、どんなふうに考えていらっしゃるかということを聞きたいわけです。

何らかの形でそれが出されれば、これは民主的な手続を経たんですということで、いわゆるにしきの御旗になるんではないか、そういう立場で心配をして聞くわけですが、まず１点、そ

の点について、従来の市長の考え方や応答は、先ほどから何回も申し上げております。仮にということでなく、自治省は、提出を催促するというそうですから、これにどんなふうに対応されるのかということを、まず1点伺いたいと思います。

それから、お答えによって伺っていきたいと思います。

○副議長（米沢照男君）　名古屋史郎君の質問についての答弁を求めます。企画財政部長。

○企画財政部長（前田雅夫君）　お答えをいたします。

まず、行財政調査会の設置の理由でございますが、これは前から御質問なり、市長の答弁の中で言われておるように、日野市がこれから大きな行財政需要を抱えている。その行財政需要を計画的に消化するには、どうしてもここで現在の市の行財政の見直しをしなきゃいけないというということで、市独自でスタートしたというものでございます。

今、名古屋議員さんの質問は、日野市は独自で行財政調査会、いわゆる行財政改革を進めていくと。それはそれでいい。それにかかわる問題として、東京都の方から、状況の報告等の要望があればどうする、ということでございますけれども、私ども、基本的には、前から言っているように、日野市独自の行財政調査会をスタートし、行財政改革を進めるということで、やっているわけでございますので、仮に東京都の方から、市の事務事業の内容についての調査なり、報告の依頼があれば、その段階でやはり対応せざるを得ないというふうに考えております。

○副議長（米沢照男君）　名古屋史郎君。

○２１番（名古屋史郎君）　今のお答えですが、私の伺っているのは、自治省は、先ほど申し上げたように、大変事細かく具体的に時期なり、期間なり、そういったもの、それから構成についてまで、設置までの段階ではこんなふうな書式で、それから策定したものはこんなふうな書式でという書式まで、ひな形まで添えて、想定問答までおつけになって、東京都段階ですか、日野段階までですか、おろしてきているわけです。

今のお言葉ですと、独自に日野でやったものだと。基本的には独自なものなんだとおっしゃっていて、東京都から求められれば云々というのは、どういうことですか。いわゆる自治省の求める、大綱という名のついた、いわゆる大綱ですね、これを、大綱という名前は使うかどうかわからないと市長はおっしゃっていましたが、大綱に似たものですね、何かできたものを報告するというんですか、このことについて報告しなさいということがあれば、日野と東京

都の関係ですから報告しますと、こういうことなんですか。

私の聞いているのは、今、盛んに言われている、いわゆる大綱というもの、それに類するものができ上がった段階のものをお出しになるんですか、というふうに聞いているわけです、単純に。

○副議長（米沢照男君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　この間も、お答えをいたしております。我々の地方行革は、市民に向かったものであって、国に向かったものではないということは、一番堅持したいと思っております。

今、行財政調査会という諮問機関の発足をし、それぞれの見識のある方々に議論をしていただく、こういうことでありまして、一方の、国なり、あるいは都を通じて、書類をもって回答を求められる、こういうことも事実あるわけでありますから、答える——もう既に該当のできるものは、記入をして通知をしても、一向差し支えないと思っております。市民に対しても、もちろん内容を明らかにしていくということでありますから、全く事務的に考える問題だと、こう思っております。

○副議長（米沢照男君）　名古屋史郎君。

○２１番（名古屋史郎君）　大変抽象的なお答えなんで、わかりにくいんですが、市民に向かってつくられるものであるというのは、もちろん大変同感です。

私は、ここで申し上げたいのは、市長の権限というのは大変大きいといいますか、強大なものがあると思います。この市長の意向が、行財政調査会の設置になり、そしてその、いわゆる報告というものが、今のお答えでは明確に私はわからないんですけれども、事柄によっては報告をすると。求めているのものは書式、それから、いわゆる報告を求める内容というものは、画一的に、形式的に、項目的にきちっとおりてくるわけですから、その全部について答えるんじゃないというお答えだと、いわゆる大綱というものは、求めに応じてつくるんじゃないんだ、あったものについてだけ報告するんだということですから、出されるんだなあという気もしますし、その辺が大変、先ほど申し上げましたように、市民のため、２１世紀を目指してということと、押しつけの自治省の指導に屈服したような形という、そこのあたりが、私には十分まだ理解はできませんけれども、いずれにしても、市長の意思ということが、大変国の押しつけということに抵抗するといいますか、そういう形があるんで、大変大事なことだと思います。

市長の意思が。

その辺で、私、行財政調査会について、もうちょっと伺いたいと思いますが、日野市の場合、つくられた行財政調査会は、いわゆる条例設置でありません。ですから、委員会ではないわけです。地方自治法の１７４条の専門委員なわけです。したがって、いつだかの答弁の中にあったように、この会が会を開いて、みんなが集まって研究、討議することもあるんでしょうけれども、本来、要綱で設置された専門委員は、１人１人の専門委員に、それぞれのことが諮問されているわけで、いわゆる独人制ですから、議決機関といいますか、一本答申ということがある場合もあるでしょうけれども、独人制ですから、要するに、このことについて私はこう思う、この委員はこう思う、そういう性質の会だと思いますが、それについては間違いがないかどうかです。

なにか会の方では、一本答申をしたいとか、いや、それに反対だとかいった論議がされているとか聞きましたけれど、そのあたり、この会の性格です。要綱に基づいたものですから、いわゆる独人制の専門委員だ、条例による委員会設置ではないというあたり、はっきりとさせたいので、その辺についてお答えをいただきたいと思います。

さらに、具体的に、そういう会ですから、例えばあの顔ぶれを見ますと、市の職員組合の代表も入っております。自分たちの賃金、退職金、そういったものについて、それなりの意見を持っていると思います。座長なり、会長なりが考えていられるような、いわゆる一本答申という形が、あれば、それはあるんでしょうけれども、いわゆる会議の進行によっては、労使交渉で、当然了解をされたものでなければ、決められないような事項が、必ず意見の違いということで出てくるんじゃないかという気がいたします。

先ほどの、一番最初の質問に合わせるように、いわゆる一本答申ということが、あり得る会なのかどうかということです。あの顔ぶれからしますと、各階層の、しかも立派な人たち、２１世紀を目指した行政のあり方について考えていただけるような方々ですから、それぞれの意見が出ると思うんです。それについて、いわゆるばらばら答申といいますか、こんな意見もあった、あんな意見もあったということで、結構なんだという、諮問された方の方のお気持ちを伺っておきたいと思います。

○副議長（米沢照男君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　行財政調査会は、条例設置ではないわけであります。したがいまして、一定の期間に、市長が諮問をしたことに対して、検討をいただき、答申を寄せられる、こういう性格であります。よく言われる、市長の私的諮問機関であります。

したがいまして、いろいろな見識はおありだと思いますが、そこが特別交渉の場であったり、あるいは、利害の調整の場であったりというようなことではないわけであります。恐らく崇高な理念に立って、市民に十分理解され、説得力のある、また、我々もそれを尊重して、行財政改革の今後に臨む、そういう内容になるものと、期待をいたしております。

また、あわせて、一本答申であるとか、そんなことの論議は、私の聞く範囲では全くまだないわけであります。それぞれの見識のある方々の、市民に対して、あるいは地方自治体という立場において、一致できる、そういう内容が示されるものだというふうに、期待をいたしております。独人制とか、そういうまた特別の性格でもありません。委員さんとお呼びをいたしております。座長さんというふうに、また、まとめ役も内部で決められております。そういうことで進行をしていただく。来年の予算に反映すべきものは、中間答申としてお示しいただく。また、将来展望にあるべき姿は、年度末に最終答申をいただく、こういう考えで論議をお願いをしておると。こういうことであります。

それから、国に対する回答云々でありますが、該当すべきものがあれば、もちろん記入可能でありますから、返信をすることもできると思いますし、また、該当しないものは返信はできない、回答が書けない、こういうことでよろしいと思っております。

○副議長（米沢照男君）　名古屋史郎君。

○２１番（名古屋史郎君）　委員会といいますか、会の性格ですけれども、委員さんとお呼びしているとかいうことでありますけれども、自治法のそれからすると、企画財政部長に伺いたいんですが、いわゆる要綱で設置しているわけですから、委員会という性格がつけられないんじゃないかと思いますが、その辺はどうなんですか。

やはり１３８条のそれと、大変違うわけですね、１７４条とは。その辺、なにか独人制だとかいうことも承知しないとかいう御返事ですけれども、はっきりとここにあるわけです。１７４条、普通地方公共団体は常設または臨時の専門委員を置くことができるという、これに依拠したのか、それとも１３８条の、いわゆる委員及び付属機関の設置、いわゆる付属機関であるんだと。これは、委員会その他置くことができることになっていますね。

私は、今の御返事だと、ちょっとそこのところが明確じゃないんで、伺っておきたいと思う

んですけれど。何に基づいて、どこに基づいたんですか。

○副議長（米沢照男君）　企画財政部長。

○企画財政部長（前田雅夫君）　お答えをいたします。

まず、調査会の根拠でございますけれども、これは今ちょっと私、自治法上の根拠の条文が見当たらないんですが、私が今記憶している範囲内で申し上げますと、市長は必要に応じて条例もしくは規則、要綱で委員会等の設置ができる、こういうことになっております。

これは、条例で設置をするということになりますと、公的な市長の諮問機関ということになるわけでございますけれども、規則、及び要綱によります設置といいますのは、通常、市長の私的諮問機関ということで、呼んでいるわけでございます。

したがって、この調査会は、今、議員さんがおっしゃいました専門委員的な性格ではなくて、一つの会をなしたものだというふうに、理解をしております。

○副議長（米沢照男君）　名古屋史郎君。

○２１番（名古屋史郎君）　会をなしたものであるというその根拠が、１３８条で、委員会であろうと、私的諮問機関であろうと、何でもできるんだというような解釈は、私はおかしいと思います。要綱で、条例で、自治省の見解でも出ています。条例でつくるのが望ましいけれども、というようなことです。ですから、要綱でつくった場合は、これは性格は、自治省が求めるものよりも、何ていうんですか、低いものといっちゃおかしいんですが、薄いものというふうになると、私は解釈します。

委員会の性格云々していても仕方のないことで、先ほどから市長の答弁、あるいは企画財政部長の答弁を聞いていると、報告できるものは、項目については報告をするといったようなことで、その辺は、大綱というものをひな形どおりつくって出すのかということについてのお答えには、なっているような、なっていないような感じがいたします。

私が質問に立ったのは、市の立場、住民の立場に立った行政改革が行われるようにと願ってのことでありまして、本当の意味の、いわゆる地方自治体の減量化といいますか、行政を圧縮する、あるいは切り捨てていくといったようなことじゃなくて、高齢化社会におけるこれからの自治体のあり方、そういったものの課題が提起されて、積極的な、いわゆる独自の地方自治体の行政改革が進められるようにということを心から願って、押しつけに屈することなく、立派なものをつくられるようにという願いからの質問でありますので、その点をよく考慮して、

これからの運営といいますか、諮問といいますか、答申といいますか、そういう際にも、そのお気持ちをお忘れなく進めていただきたい。このことを心からお願いをいたして、質問を終わりたいと思います。

ありがとうございました。

○副議長（米沢照男君）　これをもって５の１、地方行革大綱と日野市行財政調査会についてに関する質問を終わります。

６の１、日野市立病院を考えるについての通告質問者、簇野行雄君の質問を許します。

〔１０番議員登壇〕

○１０番（簇野行雄君）　では、通告に従いまして、日野市立病院を考えるというタイトルで、一般質問をさせていただきます。

課題に入る前に、一言申し上げたいんですけれども、実は、私の一般質問は、たしか最初の日程では、１９日の予定でありました。御存じのような事情で、きょうは２６日ですから、約１週間延ばされたわけであります。私もそうだし、皆さんもそうだと思うんですけれども、日程に合わせて作業を進め、準備を進めるわけであります。非常に、日程が狂うとタイミングが合わなくなって、質問が、どうもだらけた質問になる心配があるわけでありますが、その辺、ぜひ御容赦願いたいと思います。

市立病院につきましては、よく南部地区に総合病院というようなことが、議会で論議されております。たしか、ここの一般質問でも、竹ノ上議員がこのことについて質問を出しておられるようであります。いろいろ調べてみますと、確かに交通事情もあるし、立地的な条件もあります。非常に、南部地区、浅川以南の地域の利用者が少ないというような統計も、出ております。

事務報告に、この診療圏調査というタイトルで、統計が出ておるわけでございます。年度末、約１０日にわたって、外来について調査をするわけでありますけれども、市外の方が約２０％、南部地区、つまり平山、南平、あるいはそれ以東について、約、５９年度の事務報告でみますと、１８％という数字が出ております。ずっと、幾年か前のをたどってみますと、十五、六％から、その程度の数字が出ております。ほかの地区を見ますと、多摩平だけで、約２４％を占めておるわけでございます。南部地区には、ほかに総合病院も全然ないという事情もありますが、こういうような状況になっております。

その問題は別にしまして、一体、市立病院の今の経営状態はどうなっているのか、あるいは、医療水準はどうなっているのかと、私、かねがね調べてみたいなと思っておったわけであります。

また、これは常識の問題ですけれども、民間病院の対比という問題もございます。よく、税務署で、毎年高額所得番付というのを出しますが、医師が常に上位を占めております。俗な言葉でいえば、医者はもうかるんだというようなことが言われておりますし、また、そのことはそんなに間違いはない事実だと思います。

御存じのとおり、自由診療はとにかく今の医療は大体保険医療でありますので、どこが安い、どこが高い——医療費がです——ということは、ないわけであります。では、どうして市立病院だけ、言わば他会計からの補助なりを、相当に多額の補助を受けなければやっていけないんだか、その辺、どうなのかなという疑問もあるわけであります。

公立病院なるがゆえに、不採算部門を抱えているからそうなるんだということなら、事情はうなずけるわけでありますが、必ずしもそうではないわけであります。

では、大体、経常費で市立病院の他会計からの繰り入れなりはどうなっているのか、ちょっと調べてみました。これは６０年予算についてですが、一般会計の補助金が約３億2,４００万。都の補助金が9,９００万、約１億です。それから、他会計負担金というのがあります。これが、１億1,８８６万。それから一般会計から、資本出資があります。これが、約9,０５０万です。計６億3,３５８万3,０００円、これが、いわゆるよそから市立病院の会計に入っておるわけであります。それだけやりくりが足りないということが言えるわけであります。

他会計の負担金というのは、内容を調べてみますと、いろいろありますけれども、高度医療増高費とか、企業債の利息とか、あるいは国から出ている特別交付税算入分があります。あるいは、指定救急病院の増高経費の負担というようなことがあります。ある程度、これは、公立病院がゆえに抱えている、負担部門についての補助だと言えないこともありませんけれども、全部が全部そうだとは言えないわけであります。

この６億3,３００万何がしの内訳を見てみますと、うち、国の補助金が3,３００万、さっき申し上げましたように、都の補助金が9,９８７万、計１億3,３００万。差し引き市の持ち出しが、約５億という勘定になるわけであります。

他市の例を見てみますと、大体市立の同様な一般病院の場合、医業収益、あるいは経常収益

の、これは医業収益についてだと思いますけれど、その６％から８％が他会計からの繰入金だというような数字も、出ております。日野の市立病院の場合には、非常に他会計からの繰入金が多いということが、言えるわけであります。

たまたま、最近、私、自治省の財政局の準公営企業室というところから出しました、公立病院比較経営診断書というのが出ているんであって、これが非常に好評で、いろいろの病院で利用されているんだという新聞を読みまして、ひとつ、これで調べてみようかなということで、それに基づきまして、ちょっとおこがましいんですが、病院の経営診断というようなことを、やってみたわけです。

どういうことかといいますと、これは、一つは経営診断表というものがあります。それから、状況変動指数、これが第２です。それから、医療指数診断表と、この三つの表があるわけであります。私、計算機片手に、幾晩かかかりまして、表をつくってみたわけです。

第１の、現況指標ですか、これは、今、大体病院事業の経営が、効率的に行われているか、あるいは収支の均衡が保たれているか、こういう観点から分析するものであります。

第２の、状況変動指数につきましては、経営状況がどのような傾向にあるか、あるいは、経営収支の改善の努力がなされているかどうか、という視点からの診断表であります。

第３の医療指標は、医療施設が住民に信頼される程度確保されているか、あるいは、医療体制が整っているか、こういうことについての指標であるわけであります。

順序、お手元に配付しました資料もありますので、それをごらんになりながらお聞きいただきたいと思います。

いま一つつけ加えておきますと、地方公営企業法という法律があるわけであります。公立病院は、準公営企業法ということになっておりまして、この中の一部の条文が適用されるわけでありますが、その中に、これは１７条の２ですが、経費負担の原則という条文がございます。ちょっと読んでみますと、次に掲げる地方公営企業の経費で、政令に定めるものは、地方公共団体の一般会計、または他の特別会計において出資、長期の貸し付け、負担金の支出その他の方法により負担するものとする、と。

次に、１、その性質上、当該地方公営企業の経営に伴う収入をもって充てるのが適当でない経費、例えば、採算部門については、当該企業の収入をもって充てることができないと、こう病院については言えるかと思います。

また、当該地方公営企業の性質上、能率的な経営を行っても、なおその経営に伴う収入のみをもって充てることが、客観的に困難であると認められる経費、こうなっております。

地方公営企業の特別会計においては、前項の規定により地方公共団体の一般会計、または他の特別会計において負担するものを除き、今の申し上げました２項を除き、当該地方公営企業の経営に伴う収入をもって充てなければならないと、こういうのが１７条の備考であります。

つまり、特別なものを除いては、例えば、市立病院でもそうですが、そこで得られる収入をもって経費に充てなさいと、こういう、ざっくばらんに言えば、規定であります。

本論に入りますけれども、経営状況がどうなっているのであろうか。まず、職員数から入ってみたいと思います。

５８年度につきましては、皆さんのお手元にある経営指標をごらんになっていただきたいと思いますけれども、ナンバー１４に書いてありますけれども、職員数ですか、これはちょっと失礼しました。こういうことになっております。―― ５８年の患者１００人当たりの職員数が、日野では５９.６人という数字が出ておりますけれども、これは、全国に公営病院、公立病院が８００数十あるわけですが、その平均が６３.４人と出ております。また、他の、市立のベッド数が１００から２００床の病院については、約８０程度だといいますから、そんなに職員自体は多過ぎるということは言えないと思います。

次に、これは失礼しました。今のが１６です。

それから１７が、看護婦数について、日野では、患者１００人当たりですが、３５.９人。全国平均が３８.６人。これも、そんなに悪い数値ではないわけであります。

医師数について申し上げますと、同じく日野で9.９人。これが、ほぼ同じようなスケールの病院で、6.4人、あるいは5.何人という数字が出ておりますけれども、多少多いかなという感じ、程度であると思います。

ほかに、職員数について見ますと、２４番ですか、医師１人１日当たり患者数、お医者さんが１人１日でどのぐらいの患者を診ているかという数字であります。ちなみに、患者は、入院患者数に換算するわけでありまして、外来は、入院患者の0.4を掛けて、数字を出すわけでございます。日野が、その数値が１４.５人。全国平均が１６.１２ですから、１割ぐらい診る患者数が少ないかなという感じになります。

次に、看護婦１日１人当たり患者数はどのぐらいかといいますと、日野が2.8人、全国平均

が2.6人ということになっております。結論から言いますと、職員数においては、ほぼ平均ではないか。そんなに多くも少なくもない、ほぼ全国的な水準に近いんではないかということが、言えるわけでございます。

次に、収入源を見てみますと、これは表の４番に、医師１日１人当たり診療収入という欄がございます。日野は、甲表適用病院でありますので、甲表欄ですが、これが診療収入が日野では、医師１人当たり１９万何がしという数字でありますけれども、これが、全国平均が２０４.６という数字ですから、多少低いかなという感じになります。（「話がさっぱりわからない」と呼ぶ者あり）わかりませんか。（「わかるわかる」と呼ぶ者あり）

次に、同じく看護婦が、１日大体どのぐらい収入を確保しているだろうかという数字であります。日野が３万6,６００円。全国平均で３万8,０００円という数値が出ております。この数字は、ほぼ、そんなに全国のレベルから見て、低い数字ではないかと思われます。

次に、収入に伴うといいますか、支出面を見ております。これは、その表の１０番で、患者１日１人当たり医師給与費という欄があります。これが、１人１日当たり1,６００円ですか、日野が1,５００円ですから、これもそう、どうこう問題にする数値ではないわけであります。

１１番の、同じく看護婦１人１日当たり給与費4,３００円、日野の場合。全国平均が3,２００円ですから、これはかなり高い数値といえるわけであります。

同じく、医師と看護婦を除いた職員の給与費はどうかと、これを計算してみました。日野が３万円、あ、3,０００円です、１日１人当たりですから。全国平均が2,４００円。かなり高い数値を示しているわけであります。ほかに薬品費、経費、あるいは資本費がありますけれども、薬品費については、むしろ全国平均よりも低い数値を示しております。全国平均が、患者１人１日当たり4,２００円です、全国平均が。日野が3,３００円ですから、薬品については、そんなに多く患者に出していない、こういう数値であります。

次に、給与費指数、これはどういう数値かと申しますと、多少、病院の規模によって、給与の水準が違うわけであります。平均年齢を加味しまして、類似病院との比較をしたものであります。どういうふうに分類しますかというと、入院ベッド数に応じて、区別して比較したものであります。１００床以上３００床、あるいは３００床から５００床、あるいは５００床以上の病院とか、こういうふうに分類しまして、給与費を見てみたわけであります。

その給与費について、日野は非常に高いという数字が出ております。全国に８６８公立病院

があるそうでありますけれども、そのうちの高い方、つまり８６８のうちの８４４という数値が出ておりますから、極端に高いということが言われるわけであります。

ちなみに、これ５９年度の数値を見ます、給与費について。８６８病院のうちの最低、つまり８６８のうちの８６８という数値が出ております。全国の公立病院の一番給与費が高い、給与水準が高い、こういう計算が出ているわけであります。これは、結論から申し上げますと、日野の病院で――最初に戻りまして、経常収支比率というのがありますけれども、これは、いわゆる一般会計で申しますと、財政力指数にほぼ見合う数値といっていいかと思いますけれども、これが５８年度１００.３という数値が出ておりますから、ほぼ問題ないわけであります。

というのは、これはもちろん当然問題がないわけでありまして、他会計からの、冒頭申し上げましたとおり、支出、負担金、あるいは補助金が多いから、こういうことになるわけであります。

一番、病院について経営を診断する基準となるのが、医業収支比率というのがあります。つまり、医療収入と医療支出がどうバランスがとれているかという数値であります。医療支出の、どのぐらいのパーセンテージを医療収入、つまり患者からいただく金で賄えるか、こういう数値であるわけであります。

これが、５８年度が７５.９％、約医療収入で、医療支出の４分の３きり賄えない、４分の１は赤字だ、こういう数値であります。これが全国平均でどの程度のランクにいるかと申し上げますと、これは、８６０幾つの病院のうちの８１２番目だと、こういう数字が出ております。

最初から順を追って申し上げますと、今のは医業収支比率、流動比率、これは、流動負債と流動資産との比率ですから、別に問題にすることはないわけであります。医師１日当たり診療収入、これは、先ほど申し上げたと思います。

次に、ずっと診療収入の欄がありますけれども、入院患者１人１日当たり診療収入が、全国平均よりも多少落ちるかなという感じであります。検査技師、年間１人当たり検査収入、あるいはエックス線についても、水準よりも多少少ないという指標が出ております。

先ほど申しましたが、患者１人１日当たり医師給与費は、ほぼ公立病院の平均だという数字であります。看護婦の、同じく給与費、患者１人１日当たり、これが非常に高いんです。８８１病院のうちの７８５番目、こういう数値が出ておりました。

それから、１２番目の、患者１人１日当たり職員給与費、看護婦と医師を除く職員の給与費

が、大体どの程度かなということであります。これも、８７２番目の７３４番目と、こういう数字であります。

経費、あるいは資本費については、別に問題がないようであります。

ずっと順を追っていきまして、平均年齢ですが、平均年齢は、職員のです、３７.９歳、全国平均が３５歳ですから、多少高いかなという感じであります。

設備投資効率、あるいは病床利用率、どのぐらい空きベッドがあるかなという数字ですが、病床利用率は７７.６％。これは、余りいい数字ではありません。全国平均が約９割、９０％と申しますから、大体いつも１割ぐらいきり空きがないというのが、全国平均だそうですが、７７.６％というと、大分空きが多いなという感じであります。

次に、外来入院患者比率。これは、あの市立病院は非常に入院ベッド数が少ないという関係もありますけれども、入院患者数に比べて、外来患者が非常に多いようであります。平均在院日数、これについても別に問題ありません。医師１人１日当たり患者数、これは、先ほど申し上げましたとおり、さほど問題に、多少少ないかなという感じで、そんなに問題にするほどの数値ではないと思います。

看護婦１日１人当たり患者数、これが2.８人という数字でありますけれども、これも、人数的に申しますと、それほど多くない数値であります。

次の、職員給与費対医業収益比率、これは７７.２％。問題は、この辺にあるわけでありまして、医業収支比率が１００％超すには、人件費が大体５０％内外の水準でないと、数値でないと、医業収支比率は１００％にいかないというのが、一般の病院の状況であります。７７.２％、これはさきの給与費指数と同じで、全国の８６６病院中８３６番目と、こういう悪い数値が出ております。

資本費対医業収益比率、これについては問題ありません。

次の、薬品使用効率、これは、要するに薬品を幾らで買って、幾らで患者へ渡すかという数値でありますが、約、参考までに申し上げますと、１２８.４％、２８％の利益を見ている、こういうことであります。

あと、不良債務比率、あるいは企業債元利償還金対料金収入比率、医師負担率については、別に問題ない数字であります。

以上、大体経営指標について申し上げましたけれども、これが表別に、評点が、皆さんにお

配りした表にも出ておると思いますけれども、合計しますと、マイナス３４.２という数値が出てくるわけであります。この数値は、全国平均でどのぐらいの経営的には水準にあるか、こういうことですけれども、８６０幾つの病院のうちの、正確に申しますと６７９番目という数字が出ています。余りよくない。ＡＢＣＤのランクをつけると、Ａクラスだと。経営は、非常に欠陥もあるし、危機状態である、こういうことが言えるわけであります。

それでは、さっき、最初申し上げました経営状況の変化のぐあいです、それがどうなっているか。これを、５７年度と５８年度の対比について、調べてみたのがあるわけです。

余り詳しく申し上げると、お聞き苦しいかと思うんで、簡単に申し上げますけれども、皆さんのお手元の表にも、順位と評点が出ていると思います。それだけ申し上げますと、経常収支比率が６０１位から７５０位の間だということで、多少マイナス点が出ておりますから、５７年よりも５８年度の方が、この比率が悪くなっている、こういうことです。最後に評点という欄がありますが、このマイナスというのは、状況が悪くなっているということをあらわしているわけです。

医業収支比率についても、多少、５７年が７８.５、５８年が７５.９ですから、2.6％だけマイナスだと。これもマイナスの評価、こういうことが言えるわけであります。

主なところだけ申し上げますと、診療収入は、医師１人１日当たりについても、５８年度の方が悪くなっている。看護婦についても、同じくです。これは給料には関係ありません。

患者１人１日当たり医師給与費、あるいは看護婦給与費については、多少改善されているようであります。

職員給与費についても、５８年度の方が、５７年度よりも多少よくなっております。

給与費指数、これは、先ほど５９年のことを申し上げましたけれども、５７、８年対比でも、相当状況は悪くなっている、こう申し上げていいかと思います。

病床利用率についても、多少落ちております。

ほかは、当然、給与費指数が悪くなりますと、２６番の職員給与費対医業収支比率です、医業収入のうちに、医業支出のうちに占める職員給与費の割合、これは、当然指数が悪くなってきます。

ほかについては、さほど申し上げることはありませんけれども、改善されたとするプラス点が6、マイナス点が１９ということで、マイナス１３ですから、経営状況は年を追って悪くなっている、こういうことが言えるわけであります。

次に、では３番目の医療水準はどうかなというのが、医療指標であります。５７、８、９年について調べたんですけれども、各数値をです、５８年について申し上げます。お手元にありますけれども、これは医療水準が、医療施設がどの程度整備されているだろうかと。あるいは、医療体制がどうだろうかと。いわゆる医療関係のハード面、ソフト面について、どの程度の、他の公立病院と比べて、位置にあるんだろうかと、こういうような指標であります。

大体あすこの、日野市立病院の施設の面積は、全国の他の公立病院に比べてどうだろうか、こういうのが、患者１００人当たり施設面積です。１００人当たり5.３平米、これは８６０何病院のうちの７５１番目だそうですから、非常に悪い、評点はマイナス２だ、こういうことが言えるわけです。

２の、同じく機械備品類はどの程度なのか。これは、プラス２ですから、水準よりもかなりいい、整っている、こういうことが言えると思います。

固定資産については、別に問題なし。

これは差額ベッドですが、私、ちょっとこの辺については判断できかねるわけですけれども、延べ入院患者数の差額分の差額ベッド、少数ですから、差額ベッドが多いほどいいというような数値のようでありますけれども、これについても、まあまあの水準だということが言えます。

次に、患者１人当たり駐車台数、これは言うまでもありません。非常に駐車場が少ない。ほぼ最低に近い数字だと言えます。

入院患者１人当たり手術件数、手術件数が、これは多いほどいいという数値ですが、これはどういう関係ですかというと失礼ですが、手術件数は平均以上よりもずっと、年間８４５件、非常にいい数値のようであります。これは、医師の研究研修費対医業収益のうちのどのぐらいを研修に使っているか、こういう数値でありますけれども、これは余り先生方の研究研修費には出していない、こういうことが言えます。

診療科目については、御存じのとおり、一応の科目はそろっておりまして、まずまず、あるいは水準以上であるというようなことが言えます。

特殊診療については、まずまず。これも、そう問題にする数値ではありません。

看護学院については、これは当然ないわけでして、どうこう言える事柄ではありません。

指定病院については、どの程度指定されるか、救急病院とか、どこどこの指定とかだという

んですが、これは、数は一応９ですから、まずハイレベルだということが言えます。

救急告示については、ＡＢＣＤランクのうちのＢですから、これはいい水準だと。

基準看護は、特２類ですから、これは非常にいいという数値です。

専門外来実施は、これはプラス１という評点。

剖検率、これは院内で死亡した患者のうちのどの程度解剖を実施されているかという数字ですが、これについては、別に解剖はしていないそうですから、何とも言えません。

合計、プラス、マイナスを差し引いてみますと、プラス１２という数値が出ております。

ですから、医療水準については、医療施設、あるいは医療体制について、平均よりもややいいかなというところに、日野市立病院は位置している、こういうことが言えるわけであります。

大ざっぱですが、一応経営指標について申し上げましたけれど、要点を申し上げますと、非常に人件費が高い。これは、さっき申し上げましたように、医業支出のうちの人件費の割合というのは、たしか７７％でしたか、非常に高いということ、それから給与費指数が、５９年においては全国一高いということです。

そういうことからいって、市立病院の問題点は、給与水準が高過ぎる。それがために医療費の収支がアンバランスだ、こういうのが事実だと思います。全国公立病院のほぼ４０％が、医業収支比率が１００以上です。４割の数字は、大体赤字を出していない、これは一般会計に頼っていないということです。というような、全国的な状況であります。

市立病院の１００ベッドから３００ベッドのみについて調査してみますと、医業収支比率は、半分以上の病院が、医業収支比率が１００以上というような通知も出ています。ですから、やりようによっては、医業比率がとんとんにいく、収支比率が１００以上、医業収入と支出、収支のバランスがとれるんではないかと。現にとっているところもあるわけですから。いろいろ地理的、あるいは社会的条件が違いますから、必ずしもこれは一律には言えないわけですけれども、平均的に言うと、そういうことになるかと思います。

以上、私の、自治省の公立病院企画経営診断表についての、結果について申し上げたわけですが、実は、この診断表をつくるにつきまして、いろいろ、ここに地方公営企業年鑑という年鑑があるわけですが、これに一応貸借対照表から、損益計算書、ずっといろいろの指数が出ておりまして、これを参考に指数を算出したわけですけれども、資料が足りませんので、たびたび市立病院の事務室へ行って、参考資料をもらってきたわけですけれども、事務室でも、答弁

資料としてということもありますけれども、独自に診断表を作成しました。落合次長、あるいは他の職員の協力で、５７、８、９年度について、資料を作成してあったわけですが、私の作成した資料と突き合わせて、ほぼ、そんなに狂いはなかったわけですが、非常に、さすが専門家だけあって、よくできております。皆さんにお配りしたのは、これは実は落合次長がつくった表でございます。そのことを一言申し上げておきます。

きょうはお忙しいところ、院長、どうもありがとうございました。

以上、申し上げたように、私の判断ではなっておりますけれども、これは別に院長の責任でもありませんし、長年の経過がこういうような結果になっているかと思いますが、一応これについてどのような御意見か、経営状況、あるいは医療条件について、御意見なりがありましたら、また、これからどのように対処していくおつもりなのか、その辺の御意見がございましたら、お聞かせ願いたいと存じます。

○副議長（米沢照男君）　　旗野行雄君の質問についての答弁を求めます。病院長。

○病院長（三田盛一君）　　日野市立病院の三田でございます。

ただいまの議員のいろいろ、非常に細かいデータをお示しいただきまして、伺っておりまして、大変歯ぎしりをするような思いであります。当方でも、今の議員さんの御報告のようなデータを分析をいたしました。分析をいたしまして、それをそれなりに結論をつけてみました。

今、議員さんのおっしゃっているように、大体全国８９９病院。その中で、残念ながら当院は、その後半に入っている。要するに平均値以下、すべての面に平均値以下だという、数値上の問題は出ております。

ただ、非常に、しかもその病院が、どうしてそういう数値、平均値以下であるかということの分析を、これは病院なりにいたしておりますけれども、これはいろいろ細かい問題がございまして、例えば、一つ一つの病床利用率の問題にいたしましても、それから、医師１人当たりの患者の診療数にいたしましても、これはあくまでも数字の問題でございまして、実質の問題と、少し、本音と違うところもあるんではないかというようなことが、私どもの感覚としてはございます。

一番、総合的に見ますことは、当院は、先ほど御指摘のありましたように、医療中心型の病院という表現になります。

医療中心型の病院というのはどういうことかと申しますと、先ほどの御説明のとおりでござ

いまして、設備面、あるいは人的な面では、数の上ではそう遜色はない。しかし、トータルの面で、一番大きなマイナスになっているのは、施設の面積の問題に、どうやら行き当たるようでございます。

そうしますと、例えば、私どもの市立病院は、御承知のように１６２床の病院でございますが、その１６２床を１００％実際に利用できないという実情がございます。これは、御承知のように、いろいろと積み重ねてきたという過去の歴史もございまして、非常に能率的にいかない。使い勝手が悪い。それから、デッド・スペースができてしまう。

それに加えて、最近の医療の一つの傾向でございますが、多くの最新式の医療機械が、どんどん投入されることになります。その医療機械を置くべきスペースがない。そのために、大切なベッドの空間を利用するというような、一つの、大変、余り表向き言えないような現実があるということが、一つございます。そのために、先ほどのベッド利用率にいたしましても、他の自治体病院では９０％以上のベッド利用率、回転をしているにもかかわらず、当院では８０％弱というような数値を、ずっと維持せざるを得ないというような面がございます。

それからさらに、もう一つの因子は、最近は、これは５８年でございますが、最近は比較的重傷患者を取り扱う傾向が、非常にふえております。そのために、一部屋を、２人入るべき部屋を１人で使わなければならない。そこに、ずっと慢性的にマイナス１のベッドがあらわれる、出てくるというような現実の問題がいろいろございまして、ベッド利用率を取り上げてみましても、そういう問題が出てまいります。

そういうことで、総体的に見れば、確かに今の議員さんのおっしゃるとおりな病院の体質でございますけれども、現実の問題は、またそれなりに、これは考えなければならない問題があろうかと思います。

まず第１は、人のやる気といいますか、医療に対する意識づけが、どうやら非常に慢性化していたというようなことがございますので、少し意識づけに力を入れなければならないだろうというところから、昭和５９年、あるいはことし、今年度の６０年からは、これは市当局の御理解もいただきながら、医師、あるいは看護婦をどんどん外へ出して、外のいろいろな医療レベル、医療水準、そういうものを十分吸収するように、現在、行っております。日野市立病院一病院のみの自己満足に陥らないようにというようなことを、現在、まず第一の課題として、しております。

それから、次の問題は、病院の限られたスペースではあっても、生活環境をよくする。これは、患者さんを収容する以上は、健康人を収容する以上に、非常に大切な問題ではないかということで、現在、環境整備にできるだけ努力をしているというのが、手近な問題でございます。

今後、この病院をどうするかということでございますが、これはもう御承知のように、市立病院ですので、日野市の住民にすべての医療を還元するということが、第一原則になることは言うまでもないことでございますが、医療の質の向上を図らなければ、何ら市立病院としての意味がないであろう、というような点を考えまして、大変、今年度もＣＴというものを導入するということに、決定をしていただいて、１１月１日からこれを稼働するべく、今、準備中でございます。

このＣＴそのものも、公立病院にとってみれば、はっきり申しますと、大変立ちおくれた状況だと、私は思っておりますが、しかし、それを今さら云々すべき事柄ではなくて、一つでも武器を入れて、病院の質の向上、医療のレベルの向上を図るというところに、今、全力投球中でございます。

今後、私どもの病院として、もうＣＴについてはこれから稼働する、次に考えるべきことは、私どもは、今のところ人工透析の問題、あるいは、光凝固による網膜剝離を速やかに解除するというようなことを、第２番目の課題として考えております。いずれはリニアック、Ｒ・Ｉです、放射性同位元素を使ったがんの治療、というような問題にまでは進んでまいりたいと考えておりますが、いかんせん残念ながらスペースの問題で、大変に苦慮をしております。

それと同時に、デッド・スペースのある病院の建て方を、もう少し改善するように努力をしたい。現在は、そんなところでございます。

以上です。

○副議長（米沢照男君）　　旗野行雄君。

○１０番（旗野行雄君）　　院長の御説明、御答弁を聞いて、ある程度事情なり、これからの運営方針なりについては、理解はできるわけであります。非常に、与えられた条件というのは、厳しいこともわかっております。

よく、企業は人なりということを言われます。病院についても、同じことが言えると思います。与えられた条件の中で、ひとつこれからも、院長先生に頑張っていただきたい。そして市民の期待にこたえていただきたい、このことをお願いしておきます。

いま一つ、重ねてお伺いしたいんですけれども、公立病院というのは、基本的にどういう性格なものになるのかということです。他の市中の病院と同じ性格でいいのか、あるいは、地域の中核病院と、さっき院長の話にもありましたように、これからは医療も高度化して、機械を一つ買うにも巨額なお金が要る、こういう事情もありますので、その辺なりは、院長、どうお考えか、１点、念のためにお伺いしておきます。

○副議長（米沢照男君）　病院長。

○病院長（三田盛一君）　ただいまの御質問に対して、的確に御返事ができるかどうかわかりませんが、先ほどの議員さんの御説明の中に、外来入院の患者の比率というのがございまして、日野市立病院は、外来患者が非常に多いんだという御指摘がございました。これは、まさにそのとおりでございます。少なくとも、現在まではそうです。

これは、はっきり申しますと、市内の各医師会のドクターと、診療内容が競合するというようなのを、端的な言い方をしますと、そういうことになります。

市立病院は、市内の医師会のドクター方と、我々は競合することは何ら非常にないんだと。御指摘のとおり、中核病院、この言葉を使うには、市立病院の現状では大変おこがましくて、とても中核病院ということを、まだまだ申せる段階ではございませんけれども、少なくとも医師会の方々と競合するような診療内容をすべきではない。

そうしますと、どうしても高度医療をやるか、あるいは、先ほど来お話のあるような、不採算医療部門に、もっと重点的な力を入れるか、というような問題に、当然公立病院としては相なってくるんではないか。

ただ、しかし、そこだけに終始しておりますと、広いすそ野の一般の患者さん方に対して、非常に層が薄くなる可能性がございます。その辺の兼ね合いが大変難しいかと思いますけれども、ただ、国の病院にいたしましても、厚生省の方針も、全国３００幾つある国立療養所、国立病院ですら、今はそれぞれの病院の機能づけを持たせて、特殊病院化を図る。そして、それぞれの地域、あるいはそれぞれの分野での専門病院を図ろうというような時期でございます。

公立病院は、国の病院と同じ肩を並べる必要は毛頭ございませんけれども、先ほど御指摘のような、地域の中核病院という一つの自意識は持つべきであろうし、また、自信を持った一つの方向に進まなければならない。これは、これからの医療のあり方が、非常に分化していく世の中でございますので、１人のドクターがＡからＸまで、全部を診るということは、広く浅く

診ることは、一見よさそうでいながら、大変そこに危険が伴う。

だから国では、その辺を考慮いたしまして、現在、家庭医制度というようなことが、一つ問題として投げかけられておりますが、これは、これから先どういうふうに変わっていくか、まだまだ見る必要はございますけれども、家庭医制度、あるいはプライマリーのケアの専門医というような方向に進みつつあるというのが現状でございます。

重ねて申しますと、日野市立病院も含めた公立病院というのは、御指摘のように、地域でのよりどころになる病院にならなければならない、かように思っております。

○副議長（米沢照男君）　簇野行雄君。

○１０番（簇野行雄君）　どうもありがとうございました。

病院事務長、就任早々で、まだ失礼ながらふなれかと思いますけれども、いま少し具体的に、何か答弁なり、説明することがありましたら、お願いしたいと思います。

○副議長（米沢照男君）　病院事務長。

○病院事務長（大貫松雄君）　質問者のお話の内容は、もっともだと思います。

ということは、私どもは三多摩島しょの公立病院の事務長会議という会議をもっております。その中の資料、今、議員さんのおっしゃった内容と同じものを、一応資料として検討しているわけでございます。そういうことで、市立病院が置かれています位置も、そういう内容と同じでございます。

ということで、具体的にお話を申し上げますと、例えば、経営指数ですけれども、これは当院で、経営診断の表から位置づけをしてもらったものでございますけれども、例えば、成熟型、安定型、これは病院ですけれども、要奮起型とか、発展途上型とか、８段階に分けますと、この市立病院の場合には、要奮起型というふうなものになろうかと思います。これは、要奮起型というのは、ちょっと努力をすると安定型ということで、位置づけてございます。

それから、先ほど院長もおっしゃっていましたように、医療面の中でも、例えば堅実経営型、これはＡグループといっていますけれども、それから調和、これがＢです。それから、医療中心型、これがＣでございます。それから低水準型、これはＤでございますけれども、そうしますと、市立病院はＣ型、医療中心型ということです。

ですから、これからはやはり外来ばかり、１日当たり約５００人の方を診てございますけれども、やはりこれからは入院の患者の数をもっと確保した方が、経営としてはよろしいかと。

以上でございます。

○副議長（米沢照男君）　　旗野行雄君。

○１０番（旗野行雄君）　　一番の、市立病院の経営的には、問題点は、給与費が高い、こういうことであります。病院職員のうち医師については、特別の給与表があるわけでありますけれども、その他については、市職員の給与と同じわけであります。

それで、ほかの公立病院と比べて、経営状態が非常に悪いというのは、日野市立病院ばかりでなく、日野市全体を通じて、給与水準が高過ぎる。たまたま公立病院なるがゆえに、企業体なるがゆえに、収支の分析ができるから、こういう結果が出るんだと。こういうことで、市の一般職員については、こういう分析はできないわけであります。

しかしながら、企業として、経営的に見た場合には、どう見ても市の職員の給与水準は高過ぎる。経営的には、これは財政が豊かで、税金がたくさん入ってくるから、美濃部都政の二の舞を演ずることはないかと思うけれども、経営的に見ると、市立病院と同じ状況が言えるんではないか、こういうふうに、私、判断しておるし、それがほぼ間違いないと思うわけです。

それと、市の行政の最高の責任者として、市長、将来の市立病院のあり方、あるいは現況についてどう判断されるか、一言市長の答弁をお願いしたいと思います。

○副議長（米沢照男君）　　市長。

○市長（森田喜美男君）　　いろいろの指標を用いた、経営面からの比較ということも、確かに意義はあると思っております。そういう意味で、御指摘の点は大変参考になりました。

結論として言われております、職員の給与が高いからということも、一つの理由にはなるかもしれませんが、私は、これまでも申しておりますとおり、能率的な仕事、少数で、そうしてしかも能率がよくて、高給与であるということは、社会の状態には望ましいことでありますから、そういう観点から、今後の行政改革は取り組む必要がある、このように考えております。

低くて、能率の悪い人を数多く持つということは、経営としては、余り好ましい姿ではないかもしれません。これは、日野市のことを言っているわけでは、もちろんありません。

もう一方、大切な視点があると、私は思っております。確かに日野の市立病院は、いろいろ波を、曲折を経てきている。しかも、本来日野市民、地域住民に、医療と、まあ医療サービスの面で、大きい役割を果たしてまいりました。

ただ、地域医療機関との競合の問題でありますとか、医師会主導型の病院に対するいろいろ

な意見もあったわけでありまして、これが病院の正しい発展にかなりの影響を及ぼした、こう言えるかと思います。

しかし、そういう状況は、ようやく脱却できましたので、これから地域医師会の中でも、市立病院は公的病院として、指導的役割とあわせて、協力的な関係を打ち立てまして、そうして日野市民に医療サービスをして、公私にあわせて責任が持てる、こういうことにつくるべきだと思います。

そうして、今まで一般会計からの繰り出しでありますとか、補助金、あるいはいろいろな形で援助もしておるわけでありますけれど、市立病院の存在によって、日野市民が非常に喜んでいるということも言えるわけでありますから、単なる経営のみが病院の使命ではない。両々相まって、バランスをとりながら、立派な病院として成長を図っていく。

今後の医療機器等の導入につきましても、あるいは、もっと先に来る大きな建てかえの問題につきましても、緻密な計画は、内部的に、意識的に持たなければなりませんし、経営意欲の面も、病院長を中心として指導しながら、いい方向をたどっていきたいと思っております。

一番残念なのは、現状の状況では、起債を求めることができない。これは、やはり給与の関係にある面も、あるようであります。したがいまして、起債が悠々と、余裕をもってやられて、長期な展望のもとに病院のまた新しい整備を行っていく。こういうことに、なお基本的な努力が要する、このようなことも感じておるところであります。

今後、いろいろな御指導、御意見もいただきながら、せっかく持っておる市立病院でありますから、これを荷物にしないで、立派な行政組織の一翼を担ってやっていけるように、やっていきたいと思います。

○副議長（米沢照男君）　　旗野行雄君。

○１０番（旗野行雄君）　　なにか市長の答弁を聞いておりますと、経営ばかりが病院の目標ではない、こういうこと、発言がありましたけれど、私は、そんなことを言っているわけじゃないんです。経営も、さっきの中小地方公営企業法ではありませんけれども、経営もちゃんと収支の水準をとれなければならぬ、医療水準も高度でなければならぬと、だからその三つの指標を申し上げたわけであります。その辺、誤解のないようにお願いしたい。

ということと、能率がよくて高給与を払えれば、これはもちろんそれにこしたことはないんでありますけれども、さっき申し上げましたように、給与費指数の数字が、全国の８００数十

ある病院のうちの最低であるということは、これは事実であります。給与費が高いから、それだけ高いけれども、また、日野市立病院の職員が日本一高能率なら、それもうなずけるわけです。果たしてどうかというと、そんな保証はないわけであります。その辺だけ反論しておきます。

ここで一般質問を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

○副議長（米沢照男君）　これをもって６の１、日野市立病院を考えるに関する質問を終わります。

お諮りいたします。議事の都合により暫時休憩いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（米沢照男君）　御異議ないものと認めます。よって暫時休憩いたします。

午後３時２２分休憩

午後３時５２分再開

○副議長（米沢照男君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問７の１、環境整備についての通告質問者、藤林理一郎君の質問を許します。

〔２０番議員登壇〕

○２０番（藤林理一郎君）　今、議長さんの方からお許しいただきました環境整備についての問題について、一般質問させていただきます。

我が国のめまぐるしい発展とともに、ときどきの要請に、なかなかうまくいかないような状態の時節でございます。民主主義でありながら、発展に大きな役割を果たしながら、今日に至っておる現在でございます。

最近においては、経済の高度成長、または低成長に移り変わり、なっていく中で、高齢化社会の役割も来るような現在でございます。資源と、それからエネルギー制約しながら、我が国の社会、経済、または経験したことのない新しい局面に迎えようとしている社会、経済の環境でございます。国民の変化などに伴いながら、行政も新たな転換期を迎えるようになっている現状でございます。

最近、各方面で、地方の時代という言葉が、しばしば言われてはおりますけれども、現在、その制約されている中で、内容的に必ずしも一律ではございません。

というのは、いろいろな問題を、地方議会では抱えられて、そのことについて解決するのが精いっぱいの時代じゃなかろうかと、私は考えております。我が国の進むべき方向といたしましては、政治、経済、文化、その他の社会全般にわたっての多様化への流れが重視されておられるように思うわけでございます。

今や、地方自治に基づき、その地域の特性を生かしながら、豊かな、住みよい、魅力ある地域社会実現へと、期待を込めて行政を行っている現状でございます。

しかしながら、一方では、ここ数年来、経済情勢、行政を行う立場にある、各地方自治体におきましては、しかしながら、一方では、ここ数年来の経済情勢の中で、財政危機として、地方を通じての行政の、財政の再建が行われようとしている現在でございます。厳しい中ではございますけれども、財政環境の中で、地方時代を確立させるためには、いろいろな手当があろうかと思います。その中で、地方自治体及びその関係者に課せられた使命は、極めて重大であろうかと思います。財政にとらわれなく、住民に対して、意義なく多様化する地方自治の社会の行政政策を展開しつつあるのが、しばしばであろうかと思います。

各地での環境整備等について、その地域の取りまとめ役として、自治会長、もしくは町内会長等の組織の中で、よく話し合いを重ねて、地域の活動を行ってまいっておるわけでございます。

昭和５８年度ごろだと、私は記憶しておりますけれども、東町地域の環境整備についての請願、陳情が行われております。２・２・１１道路についてのことでございます。その地域の中から、請願の内容といたしましては、環境整備が第一番に行ってほしいという陳情、請願が出されております。そういうような中から、私は、この問題について、一言申し上げさせていただきたい、このように考えて、質問をさせていただいたわけでございます。

道路が広くなる、または車が激しく通る、そうなってくると、その地域の人たちにしてみれば、非常に迷惑がかかる。排気ガス等に悩まされる。これも、私たちはやむを得ないんじゃないかと。今、日野橋のところを見てみますと、防災課の方からも考えてみますと、何かあったときに、あの日野橋の渋滞の中で、どのような問題が起こってくるかということを考えますと、やはり一日も早く、２・２・１１の問題になっている道路、早く工事の着工をしていただき、一日も早く完成を望んでおるところでございます。

その中で、東町の環境整備について、どのように市が考えているのか、それが私のきょうの

質問の一つでございます。

ここに、陳情書が出ておりますけれども、これを少し、理事者側の手元の方にもあろうかと思いますけれども、これを読み上げさせていただきますと、要望事項として、市当局は東町地域の全面的な整備の経過を、どのように考えているのかお伺いいたしますと、このような文句で、５目について出ております。

こういうような中から、市当局はこれについて、または橋かけ、ことし、なにか話を聞いてみますと、立日橋の足台というんですか、六つがかかるそうでございますけれども、その六つの中から三つをつくるそうでございます。その三つをつくる工事に対して、ダンプ、大型車が出入りをすることになろうかと思います。その出入り口がどちらの方から入り、どちらの方向に出て、その工事の完成に向かっておやりになるのか、それを私は１点お聞きさせていただきたいと思います。

次に申し上げさせていただくのは、日野台一丁目の小笠原製作所跡地の問題でございますけれども、地元の議員さんたちがいろいろとこの件について、２９名の議員さんたちが一生懸命におやりになっていただいたことだと思います。

ただし、最近はこの問題に触れることなく、私は、６月の一般質問の中でお聞きしておりますけれども、地元の議員さんもおる関係上、この中でひとつ、この問題がどのように解決をなされたのか、聞きたいということが１点でございます。

その地域の人たちに聞いてみますと、東洋建設さんがその土地を持っているそうでございますけれども、東洋建設さんの直接の話ではございません建設、地域住民の方たちの方から聞いたお話でございますけれども、その話によりますと、なにか４階、５階のものが、３階、４階というふうに、一段下げたと。１階を下げたということを聞いておりますけれども、そして、下げた理由については、社員寮にするんだということが一つと、それから、教育的なセンターづくりの場所としてつくるということも、聞いております。

そういうようなことを聞いておる中で、私、質問させていただいたわけでございますから、これについての回答を１点お願いいたしたいと思います。

次に、新町二丁目でございますけれども、これ、私の方から説明させていただきますと、日野駅から日野坂信号、２０号線とバイパスに分かれておりますサンシャイン花沢マンションの場所でございますけれども、擁壁のところどころに穴があいております。その穴のあいている

一番最終の場所でございますけれども、そのところからいつも水が、朝晩、ときによっては昼、水が流れているということでございます。

これは、ときどき私、通りがかりの住民の方たちから、これはなぜ擁壁のところから水が流れているのか、汚水じゃないのか、というようなことを、ときどき耳にしております。これについて、再三にわたりまして、私、公害防災課の方にお願いをしておりますけれども、その理由については、流れ出る理由については何の、回答はいただいておりますけれども、どのようになって擁壁のところから水が出るのか、わからないんだということで、回答が終わっておるわけでございます。それについて、関係している方にお尋ねいたすわけでございます。

次に、２０号線から大坂上、交番前の国道でございますけれども、そのところに、いそぬま商店がございますけれども、いそぬま商店さんの前の、昔あれは用水だったと思います。その用水のところが、雨が降ると非常に水がたまり、大坂上中学、高校に通う子供さんたちがそこを通らずして、国道を通っているわけでございます。

そのような危険なところでございますから、これも再三にわたって、私、建設省にもお話をし、そして理事者側の方にも、話を再三伝えております。だけれども、これについても回答は、なかなか難しい、ということでおります。そのような中から、理事者側の方に質問するわけでございます。

もう１点は、もと東光寺街道でございますけれども、日野台二丁目から東光寺に下る、今、緑橋といってバイパスを越えまして、中央高速を越え、東光寺、栄町五丁目になるわけでございますけれども、この道路について、曲がりくねった道路でございます。これが、何らかの話で、直線コースに、そして道幅が１６メーターぐらいの幅になるんじゃないか、このようなことも私は聞いております。聞いておりますけれども、これは間接的でございますので、担当の理事者側の方から答弁をいただけたらよろしいんじゃないか、ということでございます。

これについての５点でございます。よろしくお願いします。

○副議長（米沢照男君）　藤林理一郎君の質問についての答弁を求めます。都市整備部長。

○都市整備部長（結城邦夫君）　それでは、私の方から御質問にお答えを申し上げます。

まず、１点目の、東町の整備についてでございますが、御指摘のように、２・２・１０号線

が事業の認可をとって、現在、都の方で用地買収に入っているところでございます。１１月からは立日橋の一部橋脚部分の橋をかけるというように、現在、工事の方は計画に沿って進められているところでございます。これに伴いまして、東町の地域の環境が変わってくるということで、地域の住民の方々がその点、危惧をされまして、私どもの方にいろいろと御相談があったところでございます。

この東町の地域につきましては、東町の地域の整備、環境整備検討会というものを昨年の５月につくりまして、その後、再三にわたり地域の住民方とのいろいろお話し合いを重ねてきているところでございます。

御指摘のように、６月１４日に要望書が提出されてございます。これについて、７月１７日に地元の方に出向きまして、その内容についてお答えをしてきたところでございます。地域については、当面、工事も２・２・１０号線、あるいは仲田緑地から２・２・１１号線というような工事が、ここで行われてまいりますので、それに伴いまして、当面の対策としてどう対応するかということについて、お話をしてございます。

まず、１点として、生活道路、これを確保してほしいという点がございます。特に、堤防沿いに道路を、器材等の搬入のための道路として、とりあえず工事道路として堤防を使っていただき、工事が完了した後、これを生活道路に切りかえてもらいたいという要望がございます。これについては、東京都の方と横の連絡をとり、国の方に、その旨をお願いをしておる段階でございます。

それ以外の道路については、必要なところについては検討をするということで、建設部と協議を行っている段階でございます。

それ以外の都市ガスの導入、あるいは広場の設置というような問題につきましても、今後、十分検討を重ねていこうということで、お話は進めておる段階でございます。

工事のための車両の通行はどうなるかという点については、先ほども申し上げましたように、当面は現在の道路を利用して、資材等を搬入すると。ただ、建設省の方の了解がとれ次第、堤防道路等については、東京都の方で、工事道路として手を入れていくということで、先ほどもお話ししましたように、東京都、建設省の方と、今、協議を行っている段階でございます。

それから、２点目の、小笠原機械の跡のマンションの問題でございますが、御指摘のとおり、東洋建設株式会社が、５９年２月１日に、この地に５階建て、一部４階建てのマンションを建

設するということが、話が持ち上がりました。それ以降、地域の住民の方々と東洋建設との間で、日照の確保の問題、あるいはプライバシー、電波障害というような点についての問題点を、話し合ってきておったところでございますが、現在まで、特にこの点についての解決がされなかったわけでございます。

そこで、東洋建設では、計画を再検討いたしまして、階数を１階下げまして、４階建て、それと一部３階建てとして、北側の日照を確保するということで、変更計画を地元の方に説明を行ったところでございます。

その計画によりますと、従来、マンション計画であったわけでございますが、これを変更いたしまして、同社の社員のための研修所と社員寮に切りかえたいという内容になっております。この点については、８月２７日に地元の説明会が会社側によって行われました。９月２０日に住民との協定が成立したというふうに聞いております。

近々、これに基づきまして、市の方に、指導要綱に基づきます事前協議がなされるという段階でございますので、事前協議が出てまいりましたら、その中で、必要に応じて指導はしていきたい、というふうに考えておる段階でございます。

それから、５点目の点でございます。日野台二丁目から、都道２・２・１１号線のところまででございますが、ここを２・２・９号線という道路計画が、現在あるわけでございます。この道路計画につきましては、３６年当時に都市計画決定されて、現在に至っておるものでございますが、延長で６６０メートル、幅員は１６メーターでございます。

これは、本年の予算をいただきまして、事業化に向けての現況測量に入ることで、地元説明を６月２７日に実施いたしたところでございます。これに基づきまして、近々、現況測量に入ってまいりたいというふうに考えているわけでございます。

来年度以降につきましては、２・２・９号線に対します権利者、あるいは地域住民の説明なり理解と要望に基づきまして、事業化に入ってまいりたいというふうに考えているところでございます。

以上でございます。（「それから２０号線の」と呼ぶ者あり）

○副議長（米沢照男君）　藤林理一郎君。

○２０番（藤林理一郎君）　私、もう一度言いましょうか。

国道２０号線のところで、大坂上交番の前のいそぬま商店さんのところの用水のところが、

道路の方、国道の方が高くなって、用水のところが低くなっているものですが、雨が降ると、それが水浸しになる。だから、そこを、歩道でありながら人間が通れない。だから国道を通っている。だから、危険だからその用水にふたをかけたものを高くするとか、そういうような歩道の、本当の歩道的なものにするのか、それを私は聞いているわけです。できるか、できないか。

国道と差が、大体３０センチぐらいの差が、現場を見ていただいてもわかるとおり、あるわけです。用水の方が低くなって、道路の方が高いわけです。雨が降ると、全部歩道が、用水にふたをかけたところの歩道になっているわけです。それが水浸し、川のようになって人間が歩けない。だから、国道を通る。通るために、危険だからそれを道路と同じように、歩道として高くできないのかどうか、ということを申し上げているわけです。（「通告をしているの」と呼ぶ者あり）ええ、してますよ。

○副議長（米沢照男君）　都市整備部長。

○都市整備部長（結城邦夫君）　私の方から、お答えできる範囲内でお答え申し上げます。

２０号線につきまして、そのような状況になっているということは、私どもの方で、まだ把握しておらないところでございます。事実そういう状況があるとするならば、直ちに相武国道の方に伝えまして、その対応を図っていただく、その手続をしたいというふうに考えます。

以上でございます。

○２０番（藤林理一郎君）　それからもう１点、サンシャインマンションの擁壁の最終のところから、穴があいて、水抜きの穴だと思います。その穴のところから水が絶えず出てくるということです。それ、再三にわたって、私は、話を理事者側の方に申し上げてあるわけですが、出てくる水が何の水かわからないということになっているわけなんですが。

○副議長（米沢照男君）　生活環境部長。

○生活環境部長（坂本金雄君）　お答えします。御質問の中にございましたように、公害防災課が再三再四にわたって調査したんだけれども、原因がわからないということでございますので、それ以上のお答えは申しかねます。

○副議長（米沢照男君）　藤林理一郎君。

○２０番（藤林理一郎君）　小笠原さんの、日野台一丁目です、この件については、地

域の住民の方と話し合いを行い、そして市当局で指導するということでございますから、これはひとつ、精力的に住民のサイドに立って、できるだけいい方向に指導していただきますように、要望しておきます。この件については、終わらせていただきます。

次の、サンシャインの新町二丁目、花沢マンションの件でございますけれども、擁壁のところから絶えず水が出ている。これが、今、生活環境部長が再三にわたり調査はしておるけれども、原因がわからない、という答弁でございますけれども、これはできるだけ、ひとつ、１回市長さんもこの件について見ていただいて、そして市長さんの方からも、花沢マンションの方に申し入れをさせていただきたい。地域の住民の方の要望でございますから、これは市長さんに責任を持って、次のときには回答いただくように、ぜひお願いをいたしたいと思います。

そして、国道２０号線のことについての、今、結城部長さんですか、建設省と十分に話し合いをし、そしてその結果をまたしていただくという回答でございますから、これはそのようにさせていただいて結構だと思います。即答は、これの件については無理だと思います。

次に、昔、東光寺街道といったところでございますけれども、２・２・９号線、この件については、先ほど結城部長からお話がございましたけれども、これは、いずれやるということを、いつごろこの工事にかかるんですか。それを、できるなら、わかっているなら、ひとつお教え願いたいと思います。

○副議長（米沢照男君）　都市整備部長。

○都市整備部長（結城邦夫君）　２・２・９号線の工事をいつやるかという点について、お答え申し上げます。

先ほど申し上げましたように、現況測量を年度内に実施いたすことで、現在進めておるところでございますが、着工につきましては、現在の測量が完了した後で、事業の認可をとらなければなりません。事業の認可をとるためには、地元住民の方々の積極的な理解、要望というものが必要になってまいります。

したがいまして、認可をとる前提として、そういう対住民関係の整理を行っていかなきゃならないという点がございます。したがいまして、いつやるということについては、現在、明確には申し上げられない状況にあります。

以上でございます。

○副議長（米沢照男君）　藤林理一郎君。

○２０番（藤林理一郎君）　　そうしますと、東光寺街道２・２・９号線は、今の段階では未定だということですね。はっきりと、認可もとらなきゃいけないし、その認可をとる日にちもなかなか難しいということ、そういうことですね。

○副議長（米沢照男君）　　市長。

○市長（森田喜美男君）　　今の質問の、もう一つ前の、水が漏れておるということにつきましては、私有地であるか、公有地であるか、このあたりを明らかにした上で、判断をするべき問題だと、このように思っております。

それから、今の２・２・９号線、日野台二丁目と、それから東光寺を南北につなぐ、現在、これまでは農道であった部分があるわけであります。それで、日野市の都市計画、いわゆる市道として、南の方へ行きますと、一番橋の関係の２・２・５というのがあります。

それから、北の方に、東光寺農地の真ん中を通っております２・２・９になるわけでありまして、２・２・５は既に１０年も前から取り組んでおりますのに、いまだに道路として実態があらわれてこない。つまり、いかに住民の方との協議が、骨の折れる状態にあるかということの一つの例でありまして、毎年ようやくようやく話がつきそうだと言いながら、なかなか現実になってまいりません。私も、このことにつきまして絶えず督励もするし、私がいつでも出向くというふうにやっておるとこであります。

２・２・９につきましても、ことしの予算で、資料として測量をし、将来計画を持つ、そういう資料としては用意をしておきたいということで、間もなく測量に入ることにしております。説明会をした結果では、１人が頑強に、今のところ同意できないということだそうでありますが、努力はしなきゃなりません。

そういうことでありまして、東光寺につきまして、私は、いずれは地元の、現在、農業をやっておられます方々の自発的な総意によって、農地をすぐ宅地化するという意味ではなくても、一定の将来の宅地化的な都市整備の素案は持っていなきゃならないと、このように思っております。

したがいまして、非常に大きな事業になってまいりますし、その道路だけでも、用地買収をしたり工事をしたりするという早急にかかる、こういうことであります。したがって、なかなか財政的に、今、いつ幾日というふうに取り組みがたい。まず、２・２・５よりとにかく完成をさせようというふうに思っておりますので、まず仕事はそういう順序だということで、御理解をお願いしておきます。

○副議長（米沢照男君）　　藤林理一郎君。

○２０番（藤林理一郎君）　　２・２・９号線については、市長さんの方では、地元の方たちとのなかなか話し合いがスムーズにいかないような話でございますけれども、できるだけ地元の議員さん、また、地元の有志の方たちと、話し合いを十分に行っていただきまして、一日も早く完成をし、あれを完成すると、路線バスがつながってくる可能性が十分あるようにも聞いておりますので、できるだけ早く完成をしていただきますように、お願いをいたしまして、私の質問を終わります。

どうもありがとうございました。

○副議長（米沢照男君）　　これをもって７の１、環境整備に関する質問を終わります。

本日の日程はすべて終わりました。

本日はこれにて散会いたします。

午後４時２９分散会

9月27日　金曜日　（第10日）

昭和６０年
第３回定例会

日野市議会会議録　（第29号）

９月２７日　金曜日（第１０日）

出　席　議　員（２５名）

１番	橋　本　文　子　君	２番	福　島　敏　雄　君
３番	小　俣　昭　光　君	５番	谷　　長　一　君
７番	馬　場　繁　夫　君	８番	馬　場　弘　融　君
１０番	旗　野　行　雄　君	１１番	一ノ瀬　　隆　君
１２番	板　垣　正　男　君	１３番	鈴　木　美奈子　君
１４番	川　嶋　　博　君	１５番	飯　山　　茂　君
１６番	夏　井　明　男　君	１７番	黒　川　重　憲　君
１８番	古　賀　俊　昭　君	１９番	市　川　資　信　君
２０番	藤　林　理一郎　君	２１番	名古屋　史　郎　君
２２番	竹ノ上　武　俊　君	２３番	米　沢　照　男　君
２４番	中　山　基　昭　君	２５番	大　柄　　保　君
２６番	秦　　正　一　君	２７番	奥　住　芳　雄　君
２８番	石　坂　勝　雄　君		

欠　席　議　員　（３名）

６番	古　谷　太　郎　君	９番	高　橋　徳　次　君
３０番	高　橋　通　夫　君		

欠　　員　４番　２９番

説明のため会議に出席した者の職氏名

市長	森田喜美男君		
助役	赤松行雄君	収入役	加藤一郎君
企画財政部長	前田雅夫君	総務部長	伊藤正吉君
市民部長	佐藤智春君	生活環境部長	坂本金雄君
清掃部長	藤浪竜徳君	都市整備部長	結城邦夫君
建設部長	中村亮助君	福祉部長	高野隆君
水道部長	永原照雄君	病院事務長	大貫松雄君
教育長	長沢三郎君	教育次長	小山哲夫君

会議に出席した議会事務局職員の職氏名

局長	岩沢代吉君	次長	馬場守君
書記	田中正美君	書記	土方留春君
書記	谷野省三君	書記	串田平和君
書記	佐々木茂晴君		

速記委託先　住所　東京都立川市曙町一丁目１０の３

立川速記者養成所　所長　関根福次

速記者　田辺稚子君

議事日程

昭和６０年９月２７日（金）

午前１０時開議

日程第１　一般質問

本日の会議に付した事件

日程第１

午前１０時１０分開議

○副議長（米沢照男君）　本日の会議を開きます。

ただいまの出席議員１６名であります。

これより日程第１、一般質問を行います。

８の１、七生地域の総合病院建設その後の展望について問うについての通告質問者、竹ノ上武俊君の質問を許します。

〔２２番議員登壇〕

○２２番（竹ノ上武俊君）　議長のお許しを得ましたので一般質問を行います。

最初に七生地域の総合病院建設その後の展望について質問を行いたいと思います。このテーマについては何回も取り上げてきた次第でございます。七生地域という呼び方がいいかどうかいろいろの呼び方がございますが、本日は七生地域ということで呼ばせていただきたいと思います。

七生地域には、以前から指摘されておりますように総合病院がございません。その上さらに程久保地域には個人の、いわゆる医院もないという状況がここ数年続いているわけでございます。もともと日野市、あるいは三多摩でいいますと南多摩地域、ここは人口対比でのベッド数がきわめて少ないという地域として、全都的にも重要な医療改善を要望されている地域となっているわけであります。市議会におきましても何回も指摘されましたように、市民意識としても、総合病院の施設を要望している状態は現在も変わっておりません。また、日野市にある総合病院である日野市立病院 ── この地域に行く交通の点を考えましても、たびたび改善方の要望などをしておりますけれども、いまだにこの点の改善が見られません。したがいまして、市立病院に七生地域から行くという方も依然としてふえない状態にあるわけでございます。こういう状況で七生地域の方が総合病院に行く場合は京王線を用いて八王子、また、バスなどを乗りかえまして多摩市、あるいは府中市、あるいはまた立川市、こういう地域に行くというケースが多く見られております。以上のようなことから、現時点においても、何としても七生地域に総合的な医療施設が建設されることが望まれているわけでございます。そのような住民要望の立場から具体的な点で一、二質問させていただきたいと思います。

第１点は、医王病院の誘致ということが言われてまいりましたが、これが消滅をしたということでございます。この詳細な経過についてお聞かせいただきたいと思います。医王病院の前

にも、そのほかいろいろの病院から日野市への進出が言われておりました。また、民主的な医療総合病院として５００床ということで進出計画がうわさされたこともございます。これも強い住民の要望がありましたが、土地の買収その他で挫折したというふうに聞いております。この病院の場合には、建設計画といい資金計画といい十分にあったけれども、土地買収などでさまざまな障害が日野市内部に起こって、この計画が達成できなかったというふうに聞いております。強く住民が総合医療施設を望んでいるところでございますので、今後とも市がこういう点で強力な促進の努力をされる必要があると思います。１番目に質問いたしました医王病院ができなかった理由というのは経営上の問題なのか。住民の建設に対するいろいろの要望との一致が見られなかったことなのか。その辺についてお聞かせをいただきたいと思います。

第２点は、そういう経過から考えまして、日野市の今後の七生地域への総合的な医療設備、こういうものについての計画、努力、それらのことについてお考えがあればお聞かせをいただきたいと思う次第でございます。

第３点は、七生地域の先ほど指摘しました程久保地域ここらについての医療設備については、何か市として考えていることがあればお聞かせいただきたいと思います。また、そのほかに南平地域についても、ダイクマのスーパー進出反対の運動がございます。このダイクマを予定されている地域に、診療所などをつくったらどうだという ── また住民の動きもあるというふうに聞いております。先般も一般質問で、私この点も指摘だけいたした次第でございますけれども、これらの地域に中規模の医病施設というものを誘致するということも、また、七生地域の医療施設の改善という点で大きな役割りを果たすことができるのではないかというふうにも考えます。交通の便もいい場所でございますので、それらも含めまして七生地域全域の中規模・小規模の医療施設の改善ということについて、市はどういうふうに考えておられるかお聞かせをいただきたいと思います。

第４点は、市立病院へのバスの便をよくするということでございます。これらについて真剣に考えていただきたいと思います。市として具体的な考えがあるかどうかお聞かせをいただきたいと思います。

以上４点について回答をお願いいたします。

○副議長（米沢照男君）　竹ノ上武俊君の質問についての答弁を求めます。　企画財政部長。

○企画財政部長（前田雅夫君）　お答えをいたします。

まず第１点目の医王病院の計画の、いわゆる撤退の理由は何かということでございますけれども、私ども病院から聞いたところによりますと、当初計画をスタートさせまして、話がまとまるまでかなりの時間を要したというようなことがございまして、この病院の本体でございます医療法人慈恵会 ── 病院といたしましては府中に医王病院があるわけでございますが、この辺の経営上の問題から挫折をしたというふうに聞いております。

次が、七生地域への病院の誘致の努力でございますけれども、現在医王病院が計画いたしました ── 南平二丁目でございますけれども、これを、用地は約１万平方メートルございます。当初医王病院は１２０ベッドの内科、外科、整形外科を予定していたわけでございまして、そのはんちゅうであれば地元の了解が得られるんではないかということで、いま誘致の努力をしているわけでございます。

ちょっと前後いたしましたけれども、医王病院が進出する法的な手続がどこまでいったかということをちょっと御説明申し上げますと、当地域は都市計画法上第１種住居専用地域でございます。したがって、病院をつくる場合には建築確認の以前に、特定行政庁である都知事の許可を必要とするわけでございます。許可は一応取ったわけでございます。その次の確認の申請という段階になるわけでございますが、確認を ── 建築許可を取った段階で撤退をしたということになるわけでございます。

それから、３番目の程久保地域、あるいはダイクマの跡地への病院という問題がございますが、ちょっとこの辺については急な御質問でございまして、私ども考え方がまとまっておりません。ひとつ検討さしていただきたいというふうに考えております。

次が、第４番目の市立病院の足の問題でございますけれども、これは、日野駅から市役所・市立病院を経由いたしまして、豊田北口に結ぶ路線を設定いたしまして、市が1,９００万円、３カ年負担をするということで設定し、努力をしたわけでございますけれども、確かにこの路線だけでは、いわゆる南北の足の確保ということには不十分でございます。今年度バス検討委員会も発足をしておるわけでございます。その中で十分検討いたしたいというふうに考えております。

以上でございます。

○副議長（米沢照男君）　竹ノ上武俊君。

○２２番（竹ノ上武俊君）　それでは若干の再質問をさせていただきます。

第１点目に質問いたしました医王病院の撤退、この最大の理由は経営上の問題であるというふうに御回答がありました。そういう点から見ますと、今後もあの程度の規模の病院ということになると、やはり経営状態 ── 現在の医療行政という点から考えますと、いずれの医療法人その他病院関係者も同じ理由というものを持っているというふうに思います。そういう点で、今後総合病院を誘致するという点になりますと、自治体としてのさまざまな便宜を図った上での誘致ということを努力しなければ、なかなか誘致が成功しないのではないか。こういうことが考えられると思います。そういう点で、企画財政部長なり市長なり特段の努力が必要と思いますけれども、そういうことも含めて、今後誘致の運動努力というものをされていくかどうかお答えいただきたいと思います。市民は強くそのことを望んでいるというふうに思うわけでございます。

次に第３点目質問をした件でございます。急な質問ということで御回答がありました。しかし、急な質問ということではなく、七生地域に総合病院がない現在、これと関連して各地域の実態を市は当然考えるべきであります。いままでも種々こういう質疑を一般質問等を通じて行ってきておりますので、このような質問を聞いて、急な質問であるというような受けとめ方をされるということは、はなはだ心外でございます。今後の勉強と努力を期待する次第でございます。この点について、もし市長に御回答をするような点があれば、一言お願いをいたしたいと思います。

以上、再質問を申し上げます。

○副議長（米沢照男君）　再質問についての答弁を求めます。企画財政部長。

○企画財政部長（前田雅夫君）　お答えをいたします。

第２点目につきましては市長の方から御答弁申し上げます。第１点目の、医王病院が撤退した理由が経営上の理由であると。そうなりますと、さらに誘致するといいましてもなかなかむずかしいんではないかと。市がかなりの何らかの援助をしなければいけないんじゃないかという御質問でございますけれども、現在東京都におきまして、多摩地域の医療のあり方ということで検討をしております。すでに「東京都病院構想懇談会報告書」というのが昨年の１０月１５日に出ております。この報告書を見ますと、多摩地域の、特に南部地域につきましては、いわゆる第２次医療施設が不足しているんではないかという結論を出しております。さらには、日

野市南部地域の医療施設の調査の結果からも、いわゆる通常の何ていいますか病院。いわゆる第２次医療施設が不足しているという、そういう結論も出ているわけでございます。当初医王病院が進出するという理由も、いわゆるベッド数の絶対数が、やはりこの地域は不足しているということから出ているわけでございます。医王病院の撤退の理由は、１２０ベッドの南平二丁目の病院の経営の見通しというよりは、府中にございます病院自体の内部の問題ということでございますので、私ども、まず民間によるところの病院の誘致に努力をしたいというふうに現時点では考えている次第でございます。

○副議長（米沢照男君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　日野市の総括して南部方面に医療施設が希薄であると。こういう状況になっておりますことについては、できるだけの努力をしたいという関心を持っております。医王病院の予定しました跡地につきましては、いま一、二引き合わせ中の医療機関の状況があります。これをもうしばらく見定めていきたいということが一つであります。それから、聞くところによりますとという状況でありますけれども、その他にも ── 別の場所でありますが、医療施設を誘致するための条件づくりがされておる状況も聞いております。交通の便を図って、なるべく市民病院を使いよくするという努力も必要でありますので、いま運行しておりますバスを何とか京王線の駅につなぐような、そのような延長をすることも一つの病院の通院のみならず、その他を含めて利便が増すことでありますので、そのことも積極的な努力をいたしたいと考えております。

いま医療の供給と需要の関係の事情が多少変わりつつある時代でありますので、誘致という言葉まではまだ使う段階ではありませんが、できるだけ仕事をしよくするような、そのような援助をしながらこのことを的確に進めていきたいと、このように考えております。もうしばらく状況を見守っておきたいということもありますので、いずれ御報告のできるときをなるべく近くできれば幸いだとこう思っております。

○副議長（米沢照男君）　竹ノ上武俊君。

○２２番（竹ノ上武俊君）　それでは最後に一言御要望申し上げまして、この件についての質問は終わりたいと思います。

いま市長の方の答弁で、一、二具体的な動きもあるというお答えでございました。この点に大きな希望を一つは持ちたいと思います。ぜひそれらについて努力をしていただきたいと思う次第

です。

現在、日野市の医療の状態については、すでにいろいろの統計も出ております。健康状態の一つの指標になる死亡率の問題がたとえばあります。この死亡率の問題を見ますと、日野市はずっと全都的平均では死亡率が低い地域になっておりました。しかし、最近の統計を見てみますと、たとえば３０歳以上の３大成人病における死亡率 ── 悪性新生物、心疾患、脳血管疾患、こういうものの統計がございます。市部の２６市の平均が３０歳以上1,０００人に対して何人の死亡率かという数字が出ております。平均が4.9でございます。日野市も4.9というふうになっております。参考までに区部の方は6.1でございます。人口全体の死亡率という点では三多摩２６市の平均が4.1。日野市は昭和５７年で依然として3.7で低いと。こういう傾向でございます。日野市も、これから高齢者の人口比率が高まる状態にあります。そういう点などが今後の病院の配置 ── こういう点で私は、真剣に考えなければいけない傾向を示しているのではないかというふうに考えるわけでございます。また、急患についての扱いも、総合病院がないために、先ほど述べました地域に運ばれております。そういう点では、やはり死亡率ということにも関係がしてくるわけでございます。七生地域から都心部、あるいは関連市への運送といいますか、交通が非常に渋滞する場合などもございます。そういう点などを考えると、どうしても七生地域に総合病院の施設があるということは、今後とも変わらないものであるというふうに考える次第であります。

また、第１次医療施設の問題では、先ほど指摘しました程久保地域、ここが見通しがない状態にありますので、この点については何回も要望しておりますけれども、今後とも誘致方ひとつ努力をしていただく。誘致ができない場合には、市長がお答えになりましたバスの便について相当真剣に考えていただきたい。こういうふうに思う次第でございます。

先ほど企画財政部長が、三多摩地域の医療施設についてのいろいろの見解を述べられました。今後の考え方としては、医療施設については三多摩地域について指摘されているのは、都心依存型を改めて、地域の自立型へ持っていけというのが大方の医療関係者、科学者、専門家の御意見でございます。地域自立型というのは、地域に完全な総合病院、保健衛生施設、そういうものを独立してつくるという、こういう考え方でございます。この考え方は今後とも高まっていくと思いますので、そういう専門家の意見 ── これを尊重してがんばってもらいたいと思う次第でございます。そういう方々の意見として、やはり日野市には第２次医療施設の適正配置、

第３次医療施設の必要性ということも強調されている向きは現在とも変わっていないわけでございますので、そういう立場から小さないわゆる町医者といいますか、お医者さん。そして、中型の施設、あるいは総合病院。こういうことを検討していただきたいと思う次第です。

また、専門家の意見によりますと、大病院入院型から在宅医療型と言われる、いわゆる地域医療。こういう考え方も最近は強調されております。そういう意味では生活保健センターなど建設をして医療の専門家、地域のボランティア、地域住民、こういうものの連携による健康管理ということがもちろん必要でございます。そういう方向の建設整備もぜひ促進していただくことを重ねてお願いを申し上げまして終わりといたします。

○副議長（米沢照男君）　これをもって８の１、七生地域の総合病院建設その後の展望について問うに関する質問を終わります。

８の２、日野市と多摩市間の交通改善（バス便など）について問うについての通告質問者、竹ノ上武俊君の質問を許します。

○２２番（竹ノ上武俊君）　それでは続きまして８の２、日野市と多摩市間の交通改善について質問したいと思います。主としてバス便のことに関する質問でございます。１番目の質問とも若干の関連があるわけでございます。

私ども、先日桜ヶ丘駅等におきまして、多摩市に来る日野市の住民がどの程度あるかという調査を若干だけ行いました。その結果は、程久保地域、高幡台団地、梅ケ丘、日本信販、百草団地、こういう地域の方々が多数桜ケ丘駅、そして、なおまた永山駅、多摩センター、こういう地域にバスで出かけていることが明らかになったわけでございます。その内容は、第１はお勤めが多いわけであります。第２は買い物でございます。第３番目が医療関係。そして、４番目は通学やスポーツなどということになっております。そのような現状がございます。実態といたしまして、いま日野市から多摩に行くには京王線を利用する方法がございます。もう一つは、最近開通いたしました多摩センターへの京王のバス便があるわけです。しかし、これだけで不十分なことは明らかでございます。以上のような現況に立ちまして具体的な質問を行いたいと思います。

第１点は、いままで私がこういう問題を取り上げてまいりました。市として京王バス等への交渉など、さらなる努力をされているかどうか。その経過についてお聞かせをいただきたいと思います。

第２点は、高幡不動から桜ケ丘駅行きバスの件でございます。このバス便の前後の時間延長について、住民も京王と交渉いたしております。市として、その後何か努力をされたかどうか。そして、今後努力されるおつもりがあるかどうかお聞かせいただきたいと思います。

第３点は永山でございます。これは、路線はいろいろつくっていただいて結構でございます。新設をしてもらいたいという要求でございます。この点について市の考え方を問いたいと思います。高幡不動始発でもよろしいし、あるいはいまあるバス路線の変化をつけた増発、いろんな形が考えられると思うわけでございます。これらについてひとつ考えていただきたい。市側の考え方を問いたいと思います。

第４点は、多摩センター駅のバス便の改善でございます。現在も程久保地域そのほかの方が、これらを利用して多摩市に向かっておられます。あるいはまた豊田駅に向かっておられます。しかし、このバス停が多摩動物園付近まで延びておりません。あるいはまた、高幡不動駅まで交流がございません。これらの点についてもう少し改善をしていただけないかという要望が強いわけでございます。これらについてむずかしい問題もあろうかと思いますけれども、今後改善していただきたいわけですが、市としてはいかがであるか御回答をいただきたいと思います。

最後に第５番目といたしまして、先ほど市長、企画財政部長からも答弁がございました。市内循環バスの改善を急いでもらいたいということでございます。答申が出るまでということでございました。しかし、答申が出ることを促進させるためにも、市側の積極的なお考えを聞きたい。こういうふうに思います。具体的には市役所、市民会館から高幡不動間の問題が何らかの具体的な進展ができないのか。この点についてお伺いをしたい次第でございます。なおまた、多摩市に　会堂というのが古くからございます。ここは収容人員五、六百人でございます。ここの催し物を見てみますと、多摩市と日野市の住民が利用しての催し物も多数現在行われております。ところで、最近日野の市民会館が開館となりました。今度市民会館のまた催し物を見てみますと、これらに来ていただく観客ということがいろいろの動きが出ております。催し物を見てみますと、日野市民だけではなく、多摩市、あるいは八王子の一部地域、そのほか近辺にもこの催し物の宣伝が行われているようでございます。それらの点を考えてみますと、ますます一層市民会館を中心とした ── 具体的には多摩市でございますけれども、バス便の必要などが出てくると思われるわけでございます。

第１問で申し上げました永山方面にある大きな総合病院がございます。こういう点でのバス

の交通の便を図るということが、いま申し上げました第３点とも関連をしまして、総合的に見まして必要性が出てくる。こういうふうに考えるわけでございますので、そういう点から見ました最後に市内循環バス、特に市庁舎、市民会館、これを中心とする改善方について質問を申し上げたいと思います。

以上です。

○副議長（米沢照男君）　竹ノ上武俊君の質問についての答弁を求めます。企画財政部長。

○企画財政部長（前田雅夫君）　お答えをいたします。

まず１点目は、市として市内の路線バスの問題につきまして、京王帝都にどのような交渉をしているかということでございます。市内のバス交通につきましては、いま議員さんが指摘した地域の問題、それから、あと一つ多くは旭が丘のバス路線の問題があるわけでございます。さらには系統の延長ということがあるわけですが、これらにつきまして、私みずから京王等にも場合によっては過去出向きまして、協議を進めているわけでございます。なかなか京王の事情もございまして、成果としては上がってないという状況でございます。

２番目の、高幡不動から桜ケ丘へのバス路線の時間の延長でございますけれども、この点についても要望をしておる次第でございますけれども、やはり京王といたしましては運転手等の労働条件の問題、それから、経営上の問題がございまして、なかなか進展をしないという状況でございます。

３番目の、高幡不動駅から永山駅の件でございますけれども、この件については、どういう経路を得て運行したらいいのか。なかなかちょっといまの時点で思いつかないわけでございますけれども、高幡から百草の駅まで一つの線がつながり、また、百草の駅から桜ケ丘への路線がある。桜ケ丘から永山という三つの系統で現在結ばれているわけでございますけれども、これらの系統が一つになればさらにいいわけでございますし、ほかにさらにいいバス路線が設定できるかどうか検討してみたいというふうに考えております。

４番目は、豊田駅から平山を経由いたしまして、中央大学・多摩センターに通ずる路線の ── 通称中大線と称しているわけでございますけれども、これが程久保から何ていいますか、動物園駅の方に一部路線の変更ができないかというような要望でございますけれども、この辺につきましても、ちょっと私ども京王帝都に相談してみたいというふうに考えております。

５番目のバス検討委員会の問題でございますけれども、現在発足いたしまして２回目の審議をしたわけでございます。内容といたしましては、今後のあり方といたしましては市内のバス路線の見直しの問題。それから、さらには循環バスの問題。それから、さらには折衷的といいますか、実現可能な当面やれる何か問題があるかどうか。そんなような形でまとめてもらいたいというふうには考えております。できるだけ早急に答申を出してもらいたいというふうに努力をしている次第でございます。

以上でございます。

○副議長（米沢照男君）　　竹ノ上武俊君。

○２２番（竹ノ上武俊君）　　それでは要望を申し上げましてこの件の質問を終わります。

多摩市と日野市との交通改善という点を要望したわけでございます。もとよりたとえば商業の発展という点で考えますと、日野市の商業の発展を中心にわれわれ考えなければいけない立場にございます。しかし、いま東京都などが計画をしているモノレールの路線。この性格などを広くよい点で考えなければいけない点もあると思います。そういう点では日野市・多摩市は相互に交通を便利にすることによって、相お互いに発展をしていく。こういう新しい考え方が私は起こるのではないかというふうに考えるわけでございます。

いま日野市の商業は八王子と立川、あるいは新宿方面に取られている。こういうふうに言われております。しかし、これから多摩市の人口増の動き、こういうものの性格。そして日野市の日野市としての古い町の歴史。あるいはいろいろの動物園や歴史的なものが存在をしている。こういう観光的な値打ち。こういうものをいろいろ考えますと、モノレールが建設されるのを待つことなく、多摩市と日野市の交通の改善を行う。これは、私は新しい考え方として検討に値するのではないかと思うわけでございます。

具体的に申し上げますと、２番目に質問をいたしました桜ケ丘駅の点がございます。ここは新しく百貨店などもできてまいります。そういう関係で私は人の動きが活発になるのではないかというふうに考えるわけです。そういうことも加味していただきまして、京王帝都との交渉は、ひとつしっかりやっていただきたいと思います。また、先ほど申し上げました永山・多摩センター、そして、日野市。これを結ぶ路線については、いろいろ道筋を考えなければいけない職旨の部長の答弁がございました。たとえば多摩市と日野市をめぐる大きな循環路線、こういうことも考えていいのではないかというふうに思うわけでございます。そのようなこともひとつ京王帝都の方に提起をしていただきまして、ひとつ今後交渉を進めていただきたいと思います。

また、市民会館のバス便のことがございます。故奈沢館長ともいろいろお話し合いをしたことがございます。奈沢館長も種々努力されていたようでございます。しかし、現在のところ、たとえば市の行事が市民会館で行われる。みんな車で来ているところにもってきて、閉会してからその場で「市が準備したバスに乗る方はございませんか」このような努力をされたようでございます。そういうことでは結局準備したバスに乗る人員が少ないということになるわけです、いきなりですから。そういうことで利用者が少ないという判断をされたとは思いませんけれども、そういうことのくらいの構えでは、なかなか京王との関係でもバス便の増発ということができないのではないかと思う次第です。いろいろのひとつ市の側も資料をつくっていただいて、利用者もあるんだということで京王と交渉をされることが必要だというふうに思います。また、市内循環バスについては、市が単独で出すという考え方も依然として残されているわけでございますので、そういう点も加味したひとつ努力をお願いを申し上げまして、８の２の質問を終わらせていただきます。

○副議長（米沢照男君）　　これをもって８の２、日野市と多摩市間の交通改善（バス便など）について問うに関する質問を終わります。

８の３、程久保川清流化促進についての通告質問者、竹ノ上武俊君の質問を許します。

○２２番（竹ノ上武俊君）　　程久保川の清流化促進についてと題しまして一般質問をさせていただきます。

程久保川をめぐる一般質問もしばしば行わせていただきました。重ねて本日また御要望したいと思います。

住民の要望等も反映されまして、先般程久保川旧河川敷利用計画なるものが日野市から提出をされております。大変夢のあるりっぱな計画であるというふうに判断している次第でございます。しかし、この計画が完成をする時点ということになりますと、具体的には展望としてどうかという不安な点もございます。そして、程久保川の現状を見ますと少し清流が取り戻された。また、東京都と日野市のいろいろの努力によりまして、水のはんらん等については改善が大きく前進をしたという点はございます。がしかし、清流という点。あるいは緑や花をふやす

という点では、現状はまだ不満足な状態にございます。そして、この程久保川を、私どもの精神的な糧ともして生きていきたい程久保川流域の住民から見ますと、その水の流れというものがいささか心細いという点があるわけでございます。これから日野市が努力して、下水道計画が大いに進んでいくものと見られます。そして、程久保川沿いについては、この計画が全市的にも大きく一定のスピードをもって解決をしていくという見通しもあるわけです。そうなりますと、現在程久保川流域のわき水というものが大変少なくなっております。そこへもってきて、さまざまな排水が ― 下水道ができることは大変いいことでございますけれども、なくなるということによりまして、程久保川の水がついには枯れてしまうのではないか。こういうことも現実にあるわけでございます。したがいまして、程久保川の旧河川敷を利用した計画ができるころ、逆に水の流れはなくなってしまう。コンクリートのかたまりになってしまうという、そういう危険もございます。したがいまして、私ども日野市民としては、町づくりを進めるに当たっては、そういう点も長期的に考えて計画を進めるということが非常に大切であると感じまして、重ねて今回この一般質問を行った次第でございます。そこで、具体的な点二、三質問をさせていただきたいと思います。

第１点でございます。程久保川の旧河川敷利用計画をつくるに当たっての市の考え方を最初に聞きたいと思います。これは、町づくりの理念、あるいは哲学という点で、どのような点に大きな意図を持ってつくられるものであるか。この点をお伺いしたいと思います。そして、全体の計画は資料をいただいておりますので、私が指摘する場所についての説明をしていただきたいと思います。それは、第１は高幡不動駅周辺の計画でございます。ここがいま区画整理の計画も一部地域で進もうといたしております。それらの計画を見ますと、緑が不足しているのではないかという私は考えを持っております。高幡不動尊という自然の地域がある。それがあるからこの地域は市街地として有効な地域である。緑地を生み出すのは大変困難だという考えをしばしば市側から聞かされているわけでございます。ところが、今度の程久保川の計画によりますと、駅付近の程久保川を利用して、くつろぎの広場とか水の道という計画が提起されております。これらは高幡不動駅周辺の緑を守るという観点ではどういうふうになっているのか。簡単で結構ですけれども御説明をいただきたい。こういうふうに思うわけでございます。

それから、次は計画に余り出ておりませんけれども、七生支所の付近の程久保川がございます。ここには七生公会堂がありまして、大変に活発に利用されております。いわば七生地域における文化的な場所であるわけでございます。しかし、あの公会堂に入っていくあたりの川は現在ではきれいな状態でございません。また、魚もすんでいない状態にございます。ここについては何か考えることはないのかどうか、この点でございます。

この件についての最後は、程久保の上流地域について花の広場、それから、花の道というのがございますので、これらについて簡単に御説明をいただきたいと思う次第でございます。

第２番目の質問でございます。これは、程久保川の水質の改善でございます。程久保川も以前に比べますと、三沢中のちょっと下のところまでフナなどが上ってくる状態にはなっております。しかし、それから上にはまだ上っていないわけでございます。もう少し上流まで水質をよくするため、ささやかでも結構ですけれども、具体的な努力を何か考えていただきたい。お考えがあるかどうかと質問をいたします。また、あわせてもし調査されているとすれば、程久保川の魚類、鳥類、植物などを、幾らか多くなってきているのかどうか御回答いただきたいと思います。

第３番目は、この河川敷利用計画の進め方でございます。何としても、やはり市民参加で進めるべきであるというふうに考えるわけです。そうしてこそ本当に緑と清流、そして、生活との調和。ただコンクリートで固めていくということではなく、本当に市民に潤いを与えるような計画が充実していくというふうに考えます。これからでも市民の意見が反映できるものと思いますので、この計画を進めていく上で市民参加については何か考えているのか。考えていないとすれば、ぜひ考えていただきたいので、この点について質問をいたします。

以上お答えをいただきたいと思います。

○副議長（米沢照男君）　竹ノ上武俊君の質問についての答弁を求めます。都市整備部長。

○都市整備部長（結城邦夫君）　それではただいま御質問の程久保川の清流化促進につきましての御質問についてお答えを申し上げます。

まず１点目の、程久保川の旧河川敷の計画についての市の方の考え方と理念という点でございますが、程久保川が東京都によりまして改修をなされました。それに伴いまして旧河川敷ができたわけでございます。この面積といたしましては、１万6,０６０平米の旧河川敷がございます。この点については、東京都の方で現在この旧河川敷についての調査が行われております。その調査が行われた後に市の方に譲渡をされるということで、いま市と東京都で協議が行われ

ているところでございます。

この河川敷を、市の方としては程久保川の周辺の緑道、あるいは公園というネットワークの位置づけを、すでに計画をしてございます「日野市緑のマスタープラン」において位置づけております。それに基づいて旧河川敷の利用計画、すなわちこの基本計画が今回策定を行ったわけでございます。緑のマスタープランにも明確に示してございますように、程久保川の周辺については緑化を図っていく。緑の多い散策路をあわせて形成していくということで、周辺の住民の方々、あるいは動物園に来られる方々が、そこを散策しながら楽しめるような道路にしていきたい。あるいは公園にしていきたいということが日野市の基本的な考え方でございます。少なくともこういうものを利用しながら緑をふやしていくということが大きなねらいでございます。

この中で御指摘の3点でございますけれども、まず1点の高幡不動の駅周辺でございますが、区画整理をここで実施するようにいま計画中でございますが、近々認可を取り事業化に入っていくことになっております。その中で、駅前の現在たんぼになっているところを区画街路、あるいはモノレールを通るための街路をさらに拡幅するというようなことで、緑が一部削られるところも出てまいりますが、しかし、全体の町づくりの中で街路を緑化していくというような方法で、少なくとも区画整理の中でも緑化の方向で進めていきたいというふうに考えているわけでございます。現在程久保川の沿いに緑が一部残っておりますが、これらにつきましては、区画整理に入っているところはそこはございませんが、程久保川の利用計画の中で、その樹林をできるだけ残していくと。したがいまして、旧河川敷以外の民地におきましても、この計画に一部取り組んでおるところでございます。将来そういった点は、その土地につきましては民地でございますので、買収という形で進めざるを得ませんが、当面は旧河川敷を利用しながら整備を図っていく。区画整理と一体となって高幡不動駅周辺を整備をしていくという考え方でございます。七生支所の周辺につきましても、これは区画整理外でございますが、旧河川敷としては、ここのところはございません。したがいまして、この基本計画以外で、やはり整備する必要があるところはやっていくという方向で検討せざるを得ないと思います。それから、一番上流の方の花の道の周辺でございますが、ここにつきましては、現在のモノレール計画上では駅ができる付近でございます。したがいまして、駅周辺の広場をつくると同時に一部公園化を図っていきたいと。そこに植樹をし、あるいは季節の花を植えていって散策路をつくるとい

う考え方でございます。

大きな2点目の、程久保川の水質の改善の点でございます。現在、程久保川に入っております水というのは、ほとんどが家庭雑排水が主でございます。したがいまして、下水道計画が今後急速にこちらの地域にも延びていくわけでございますが、家庭雑排水はすべて処理場の方に持っていって処理をするとなりますと、家庭雑排水は程久保川には一切入らなくなります。したがいまして、清流がある場合には、それが本当にきれいな流れになるわけでございますが、残念ながら程久保川につきましては非常にこの流域が浅くて、流水等の水量もだんだん減ってきているのが状況でございます。したがいまして、今後の対策としては、やはりここに流れをどう生かしていくかということを考えていかなきゃならないわけでございますが、現状では、やはり家庭の雑排水というものが大量に入っている関係で、水質をこれ以上改善するということはなかなか困難でございます。できるだけ早く下水道計画を進めまして、家庭の雑排水を入らないような方法で検討せざるを得ないというふうに考えます。魚類等の調査については、私どもの方では直接行っておりません。

それから、3番目の、この計画等を進めるに当たりまして市民の参加をという点でございます。市民の参加につきましては、私ども具体的な計画を練る場合には、地元等にも十分お話をした上で進めていっております。したがいまして、今後程久保川の地域の整備に当たりましては、当然、説明会等も行いながら御協力を得ていく、その中で市民の参考にしていきたい、というふうに考えます。

以上でございます。

○副議長（米沢照男君）　　建設部長。

○建設部長（中村亮助君）　　それでは私の方から、さらに関連をいたしまして、第3点の御質問でございました水質改善の関係でお答えを申し上げたいと思います。

具体的な方策があればお聞きしたいということでございましたので、まず一つは、具体的には下水道が完備するまで程久保川に排水を求めております一般家庭等の排水の関係につきましては、浄化の関係でございますけれども、まず一つ具体的には、さらに一段と清流フィルターの奨励を求めていきたいと。それによって流水の浄化をできるだけ図りたいというふうには考えております。

それから、もう一つは御質問の中にもございましたように、延長3,060メートル。これが

東京都の管理ということで１級河川に指定をされまして、昨年度で全部工事が完了いたしておりますけれども、特に夏場の中では河川の中に、中流から下流にかけまして夏草が生い茂るというふうな現況もございますし、そういう中で流水を阻害し、そしてまた、河床に土砂が堆積しているということで、さらに、これもまた流水の阻害をするというふうな現状もございますので、これらの環境の悪化を招いている点につきましては、私どもの方の立場からも、さらに河川管理者である東京都の方にしゅんせつ、あるいは除草の要請をしていきたいというふうに考えております。

それから、程久保川に生息しております鳥類あるいは魚類の関係につきましては、いま都市整備部長の方からもお答えがございましたけれども、私の方も特に調査はいたしておりませんけれども、ただ、毎年秋の緑化月間の行事の一環として、１１月の末に日曜日を利用しまして自然観察会を行っております。自然観察会というのは浅川の鳥類を見ようというのが主体でございまして、毎年やっておりまして、昨年の例などを見ますと参加者も大変多くて、しかも、都心からわずかに３０分くらいで来られる地域の中で、鳥類の生息というものが大変多種類の中で見られるという現況がございます。そういう中で、特に冬場のカモ類などがたくさん種類も来ておるようでございます。そういう例からいきますと、やはり至近な距離でございますので、かなり程久保川にも冬場の憩いの場を求めて鳥類も飛来してきているということは言えるんではないかと思います。

以上でございます。

○副議長（米沢照男君）　竹ノ上武俊君。

○２２番（竹ノ上武俊君）　簡単に再質問いたしたいと思います。

一つは、程久保川の水量が減っていくという問題についての解決策についてでございます。今後いろいろ考えるというような答弁でございました。たとえば第１番に必要なのは、私は、わき水を調査して、それを保存をしておくということが大切ではないかと思います。小さな川である湯沢川を例にとりましても、百草台小のところ、その下、さらに、梅ケ丘のところと三ケ所わき水がいまでもかれずに流れ込んでおります。程久保川についても数カ所は発見しておりますが、湯沢川などに比べると大きい川でございますのでさらに多いと思うわけでございます。こういうわき水を守るには、もちろん開発を許さないということが必要になります。したがいまして、そういう点からの緑を保存するという努力が大変に重要ではないかと思います。

そういう観点から水を残す守るという努力についてお願いをしたいと思いますので、これらの点についても一言お答えをいただきたいと思う次第です。

また、もう一つは三多摩各地でいま試みられているやり方でございます。それは、下水道処理場の３次処理水と申しますか、きれいになった水などを流してでも川を守ろうということがされております。そして、そういう水でも最近水質がよくなりましたので、いろいろの魚類がすむことができる状態にもなっているわけであります。これらのことも含め、あるいはさらに必要な場合は水道の水そのものも何らかの利用の仕方、あるいは地下水は厳しい点はありますけれども、そういうことまでしてでも、私は程久保地域の水の流れというのは守るべきではないか。こういうふうに考えている次第であります。そういう点についてお考えがあれば一言お答えをいただきたいと思います。

もう１点は市民参加の考え方でございます。もちろん住民の説明会は必要だと思います。大いにやっていただきたいと思います。それだけではなく、私はもっと積極的にこういう夢のある美しい計画ができているわけでございますので、こういうことを住民が知って、さらに積極的な意味でここはこういうふうにしたいというような、そういう意味のもっと積極的な住民参加ということを考えておりますので、そういった観点でひとつ広げてもらいたいと思うわけです。たとえば川沿いの地主さんに対して説明をするというだけでなく、近所の自治会その他の団体、あるいは自然保護団体、そういったものなどにも呼びかけて、より積極的な市民参加ということが望ましいのではないか。そうすれば、この計画はより一層正しい意味で調和のとれた形で進んでいくのではないかと思いますので、そういう点まで考えていただけるかどうか。この点再質問いたします。

○副議長（米沢照男君）　再質問についての答弁を求めます。都市整備部長。

○都市整備部長（結城邦夫君）　それではただいま再質問についてお答えを申し上げます。

まず程久保川の水量。確かにこれは、将来下水道が完備いたしますと減ってまいります。この対策といたしましては、先ほど申し上げましたがいろいろな方法が考えられるという点を申し上げたわけでございますが、まず御指摘のように湧水を保存すると。これは確かに重要な仕事であろうというふうに考えます。そのためには、やはり周辺の開発行為というものを抑え、現在の緑地を守る面からも、できるだけ緑を保全をしていく。この政策が非常に大事であろう

というふうに考えております。動物園周辺の樹林地、あるいは反対側の樹林地につきましても調整区域に入るわけでございまして、ここの開発については私どもいろいろ開発業者の方からお話がございますけれども、すべてこれをお断りをしてございます。したがいまして、今後もこの方針は貫ぬくつもりでございます。そのようにしまして緑を守り、湧水を保全をしていく考えでございます。

それから、２点目の３次処理水の利用でございます。これは、東京都におきましても多摩川上流処理場の処理水を３次処理いたしまして、東村山の野火止用水までポンプで送水をして、野火止用水を復活をした実績がございます。程久保川に処理水を持っていくためには、現在浅川の処理場の３次処理水 ── 将来３次処理が行われる段階で考えるということになろうかと思いますが、そのためには、約処理場から多摩動物公園付近まで約４キロ程度の管を埋設しなければなりません。あと処理場の中に送水のためのポンプ施設も設けるという施設が必要になってまいります。こういう点につきましては ── 程久保川が１級河川で東京都の管理になっております。その水を確保するという点から、東京都が行うのが順当であろうというふうに考えますが、日野市としても何らかの協力をしながら、水量を確保するという点で東京都とも今後話し合いを続けていきたいというふうに考えます。そのほかの水道水、あるいは地下水というのは非常に問題がございまして、これはむしろ不可能であるというふうに考えざるを得ません。

それから３点目の住民参加の点でございますが、私ども積極的に周辺の住民、あるいは地主さん方と今後話し合いる続けながら、緑の散策路をつくるということで御協力をいただくことになるわけでございますが、それ以外の周辺の住民の方々、あるいは自然を守る会とか、いろいろな団体等につきましても御意見があれば、そういった点はどしどし吸収していって、よりよい散策路をつくっていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○副議長（米沢照男君）　竹ノ上武俊君。

○２２番（竹ノ上武俊君）　ありがとうございました。

三次処理水の利用というお話もございました。たとえ４キロであれ５キロメートルであれ、程久保地域の自然、あるいは住環境、さまざまな公共施設、これらを守るためには一大決心をして、ひとつ東京都にも要望をされ程久保の水を守っていただきたい。こういうふうに考える次第でございます。なおまた、川が狭いということがございますけれども、すでに多摩川、浅

川はもとより、大栗川、乞田川すべて釣りができる状態になっているわけであります。できれば釣り堀の１カ所くらい ── 計画に入っておりませんけれども、子供たちの夢もかなうような場所も、できるものなら追加して今後計画を促進をしていただきたい。このように申し上げまして質問を終わります。

○副議長（米沢照男君）　これをもって８の３、程久保川の清流化促進に関する質問を終わります。

８の４、市職員がさらに一層生き生きと、市民サービスを充実させるためにと問うについての通告質問者、竹ノ上武俊君の質問を許します。

○２２番（竹ノ上武俊君）　それでは４番目の市職員のことについての一般質問を行います。

市職員のあり方につきましては、私は一般質問で何回も要望をいたしてまいっております。また、市長以下非常に努力をされておりますので、ことさらまた再度この問題を取り上げる必要はないかとも思いました。しかし、（「ゴマをする」と呼ぶ者あり）２点ほど立場を改めまして、やはり一層真剣に考えなければいけない点がある。こういうふうに気づきまして、今回この問題を取り上げた次第でございます。

市の職員が生き生きと市民サービスをしていく。職場で働いていく。このためには日本の政治・社会をめぐる環境がよくならなければいけない点は申すまでもありません。私は、この点についての論点がまだまだ不十分ではないかと思いまして、今回第１点はそういう立場から質問をしていきたいと思うわけでございます。

いま民間の産業に対しても合理化が、機械化その他によりまして相当に進行をいたしてまいりました。いわゆる資本家本位の合理化でございます。このために大企業、中企業、零細企業に至るまで、さまざまな労働強化の質的な変化が起こってまいっております。本日は時間がありませんので、この点はまたいずれかの機会に送りたいと思います。そういう中で一つの例として、いま全国的に大企業の中でも大工場の中でも、自殺者が絶えない状況になってきているわけであります。自殺の原因は、もちろん病気という理由もありますし、いろいろあります。しかし私は、いまの資本家的な人間性を尊重しない合理化のあり方、このひずみから労働者の中にいろいろ心のひずみが出てきている。このことも指摘しておかなければいけないと思う次第でございます。

さて地方自治体に対してはどうでしょうか。皆さんも御承知のように、去る２４日の閣議では行革大綱が閣議決定をなされました。それより以前、地方行革大綱が都道府県、市町村、各自治体に、いわゆる押しつけという形で出てきているわけでございます。この件についてはほかの議員も取り上げられております。しかし、地方行政大綱 ── この策定状況については、先日も論議がございましたように多くの都道府県で未提出。こういうところがあります。これは、一般のマスコミも指摘しておりますくらいに、国と地方間の矛盾が大変強まっていることを示しているわけであります。　ところが、これに対して先ほど申し上げました行革大綱は、追い打ちをかけるようにスピードをもって一段とテンポを早めて、いわゆる中曾根型行革ということで政府側の立場からはずみをつけようとしたものでございます。こういう政治情勢を見ますと、地方自治体に対する地方行革のいわゆる押しつけ、これはますます一層強まっていくというふうに思うわけでございます。

森田市長がしばしば言われているように、地方自治体の行政改革もちろん必要であります。私ども共産党も、そういう点ではむだを省いた効率的な民主的な行政のあり方というものをたびたび強調し、日野市に対しても問題提起もしてまいったわけでございます。しかし、それらは地方自治法・憲法の趣旨から言って、政府のさしがねで行うものでないことは当然の問題でございます。（「表現が悪い」と呼ぶ者あり）したがいまして、いま政府自治省などが行っている地方自治体への締めつけ、押しつけというものには、もちろん根本から私は反対をするものでございます。ところが、これらの地方行革大綱などを通じての自治体へのいろいろの攻撃というものは、私は、市長以下の市職員幹部、一般職員にまでさまざまな影響を及ぼしているのではないかと思います。ですから、私がいま申し上げましたような立場で、市の職員が地方行革に対して対決をして市民サービスを守っていく。そういう立場に立たなければ、市民と政府の板挟みになって、やはり伸び伸びとした仕事ができないという私は事態になっていくのではないかと思う次第でございます。そういう立場から二、三の質問をさせていただきたいと思います。

第１点は、職場においていま行われている地方行革大綱。これらをめぐる学習あるいは討論。こういうものがどういうふうに行われているのかお聞かせいただきたいと思います。いままで話題になりました小機構審議会的なものもできてきております。しかし、それには一部の職員が参加するだけではないかと思われます。全体の職員がいまの地方行革のあり方というものについ

て、私は自由に討論をして、公務員として正しい立場でがんばっていかなければいけないと思うわけでありますので、何らかの形でこういう問題を職員が真剣に考えていかなければいけない。また、自由に意見も出していけるような場がなければいけないと思うわけです。このことは、もちろん労働組合という場でも行われるべきであり、行われているに違いないと推察はいたしております。しかし、市という立場でやはり考えるべきではないか。そのことをどういうふうにお考えなのかお聞かせいただきたいと思う次第です。

第２点は、第１点とも関連をいたしておりますけれども、民主的な行政改革は当然必要でございます。これを職員参加で行うに当たって、どういう手だてをとろうとされているのか ── いままでとってきておられるのか。もし具体的な考えがあれば、その点についてお考えを聞かせていただきたい。

第３点は、市民に対するサービス改善の問題でございます。いま地方自治体に対して、仕事をさせない。人減らしを無理に行わせようとする政府の動きがございます。それらが影響されて私は日野市でも大変困った事態も起こっていると思われます。それは、たとえば福祉の場における障害者の諸施設、あるいはさまざまな出先機関。こういうところに正規の職員が置けないという事態がだんだんと話にのぼってきております。

ところが、地方自治体をじかに住民が感じる場所はどこか。それこそ出先機関であり、福祉の施設などでございます。私が思うには、たとえば湯沢会館を例にとってみたいと思います。

湯沢会館に窓口があります。ここの管理を職員と嘱託などによって行っております。この方々が市民と直接接触をされているわけです。ここの職員の方が日野市の行政に精通をし、そして、市民サービスについてよく勉強をして市民と接触をしていれば、日野市という自治体、日野市の行政のあり方に対する住民の理解というのは大きく変化していく場であります。このような場所は日野市内に何十カ所もあるわけであります。そういう点から、たとえば湯沢会館の窓口にこそ最もすぐれた職員を、正規の職員を派遣してすべての時間住民と接触をしてもらう。そういうことこそ大事だと思うわけであります。あるいはまた、１例を挙げるだけでございますけれども、湯沢会館におふろがございます。お年寄りの人たちが毎週１回楽しんでおられます。しかし、これもいわゆる政府型行政改革というような発想が以前からあるからではないかと思います。お湯をわかす時間が週１回だけに限定されている。こういうことがもし予算的に許されるならば、大いにボイラーをたいていお湯をわかして週２回にするとか、住民が望むと

きにはそういうものができるようにするとか。そういうことによってお年寄りの人たちの、また楽しみもふえていくわけであります。そういうことが現状では私は実現不可能な状態になっている。こういうふうに考えるわけです。ですから、福祉の施設その他出先機関こそ優秀な職員を派遣しなければいけない。しかし、現状ではどっちかというと委託の傾向、あるいは体がちょっと病弱である職員とか、いろいろな形で人事配置が行われている例もあるわけであります。（「ちょっと言い過ぎじゃないか」と呼ぶ者あり、その他発言する者あり）言い過ぎた点もあるかと思いますが、これは私の個人的な感想ですけれども、優秀な職員が配備されていると思います。しかし、より一層こういう現場にこそ優秀な職員を配置する。こういうことが自治体を守る道であるというふうに考えるわけです。そういう点で、このようなことを地方行革大綱などとの関連でいかに闘い、改善をしていく気持ちが市にはあるかという点で質問をする次第でございます。

第４点は、研修のことでございます。職員研修が行われていると思います。私どもも行政調査視察ということで各市町村を回るわけでございます。中には大変ユニークな研修が行われているところもあります。本日私が質問したい点は、いまの地方行革大綱をめぐる点についての市の職員の学習。そういう点での研修を強めていただきたい。これらのことについてお答えいただきたいと思います。

以上、時間の点がございますので、４点にしぼりまして質問をいたしました。簡潔な御答弁をお願いしたいと思います。

○副議長（米沢照男君）　竹ノ上武俊君の質問についての答弁を求めます。竹ノ上武俊君の質問時間は４１分までですので、勘案して簡潔わかりやすく答弁願いたいと思います。市長。

○市長（森田喜美男君）　私が行革の理念についてのみお答えをし、その他の分は担当の方から答えるようにいたしたいと思います。

行革の声は、なかなか今日かまびすしいわけであります。これは、本来日常的にやるべきものであり、われわれも日常的にこれまでやってまいっておりますから、しりをたたかれるというようなことは考えていないところであります。したがいまして、行う行革は絶えず市民に向かって行うと。また、自治体の経営において――昨日も述べましたとおり、発展途上のわが日野市であります。なすべき仕事まさに山積いたしております。建設面のハードの仕事、あるいは求められる福祉や教育のソフトな仕事、たくさん仕事があるわけであります。したがいまして、一定のまた税収という財源によって行う事業でありますので、絶えず一番重要な点に焦点を当てて、そして、仕事をやっていくということになるのが単年度の事業計画ということであります。別の言葉で言えばスクラップ・エンド・ビルドという、ある部分は終わった仕事、あるいはもう他にゆだねるべき仕事。あるいはこれから本当に真正面に金をかけて取り組んでいく仕事。これの仕分けをしてまいらなければなりません。そういう意味におきまして、スクラップ・エンド・ビルドのこの精神を旺盛に機能させることによりまして、そこにまた職員参加の理解度を高めました実践をしていくというふうに考えております。したがいまして、言われるところのことに同感の部分もありますし、またもう少し理解を共通させなければならない部分もあると。このように考えております。一層の御支援御鞭撻をいただくことによりまして、大きな事業を達成したいと願っておりますので、よろしくお願いをいたします。（「あれば一言、時間がありませんので一言でお願いします」と呼ぶ者あり）

○副議長（米沢照男君）　助役。

○助役（赤松行雄君）　時間がございませんので私の方から補足申し上げていきたいと思います。１点、２点、３点とあるわけでございますけれども、日野市の職場の中で、行革の学習だとか討論、あるいは今後の民主的な行革の推進と、こういうことにつきましては、現在８月の５日から行革の調査会というものが設定されておるわけでございますけれども、その答申を受けての受け皿推進体としましては、日野市の行革の推進本部というものが、今後大体２４名くらいの部課長、あるいは４役構成ということで推進の母体になるわけでございます。これを中心にしまして日野市の、要するに民主的といいますか、日野市の実態に即応した自主的な行革というものを練り上げていくというふうな考え方でございます。この間におきまして、それぞれ１人１人の推進母体となります職員とのコネクションだとか、討論だとかというものを積み重ねていくと。こういうことになろうかと思います。

それから、市民サービスでございますけれども、やはり行革との関係もございますけれども、だんだん職員というものが若い構成になってまいりますので、いろいろと御迷惑をかけている面もあろうかと思いますけれども、それぞれの職員の、市民の方と直接関係を持つ施設につきましても、おっしゃるとおり若い人の派遣というふうなこと等もだんだん可能になってまいりますし、そういうふうな努力も積み重ねてまいりたいと思います。

4点目の学習につきましても、さっき1～2点で申し上げました形の中で、研修の中に取り入れて実施してまいりたいとこう思うわけでございます。

以上でございます。

○副議長（米沢照男君）　竹ノ上武俊君。

○22番（竹ノ上武俊君）　いろいろ努力する旨の御答弁をいただきましてありがとうございます。本日は1時間くらいで終わる予定でございましたが、持ち時間いっぱいになってしまいました。最後に一言要望を申し上げておきたいと思います。

何としても市の職員が生き生きと仕事をしていくという根本は、私は、憲法を市政、そして、暮らしに生かすと。この精神ではないかと思うわけでございます。ですから、そういう意味では、いま中曽根内閣が行っている地方行革大綱は、あらゆる面から見てそれを侵すものでございます。ですから、日野市の職員は市長以下、地方行革大綱のねらう中身をよく見抜いていただいて、市民の暮らしを守る立場からひとつ市民サービスに努めていただきたいと思います。ですから、研修をするにしても、政府が行おうとしている、いわゆる括弧つきの行政改革について勉強すると、これでは足りないわけでございます。自治体を守る。そして、市民生活と市民サービスを守るという観点での、やはり研修ということを、私は日野市においては十二分に行う必要があるのではないかと思いますので、そういう点で、ひとつ幹部職員の皆様の努力をお願いする次第でございます。日野市役所におきましても、たとえばここの数年間で数名の自殺者などがあります。もちろん個人の理由によるものでございます。しかし私は地方公務員の皆さんがサラ金等に関係をするとかいうようなことがあってはならない。やっぱり日野市にあっては市役所の職員は模範的な労働者でなければならないというふうに思います。ですから、そのためには市役所の中においても、生きがいとか仕事とか人生とかいうことが伸び伸びと話し合いができる。お互いに相談もできる。のみ屋に行かなければ悩み事が話せないというようなことではなくて、生き生きとした職場。こういう市役所をつくっていただくことを皆さんにお願いをし、また、私ども住民も協力努力することをお約束いたしまして、本日の一般質問を終わります。

○副議長（米沢照男君）　これをもって8の4、市職員がさらに一層生き生きと、市民サービスを充実させるためにと問うに関する質問を終わります。

お諮りいたします。議事の都合により暫時休憩いたしたいと思いますが、これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（米沢照男君）　御異議ないものと認めます。よって暫時休憩いたします。

午前11時39分休憩

午後　1時　6分再開

○副議長（米沢照男君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問9の1、「住むことが悦びであり誇りである町」をつくるために、高齢化社会と新しい福祉のあり方について問うについての通告質問者、橋本文子君の質問を許します。

〔1番議員登壇〕

○1番（橋本文子君）　議長のお許しをちょうだいいたしましたので、それでは早速1番の質問に入っていきたいと思います。

「住むことが悦びであり誇りである町を」という報告書が出されまして、福島議員の方からも大変全体にわたって詳しい質問が行われたわけですが、私は、この中で特に福祉という点について質問をしていきたいと思います。

まず1点目は、生活援助サービスのシステム化についてということでお伺いをしていくわけですけれども、9月の15日の敬老の日の前に――10日の日でしたけれども、日野市では敬老大会が行われました。午前中と午後、ほぼ満杯の高齢者の方々が集まられて、大変楽しい雰囲気で会場いっぱいに笑い声が満ち満ちて、本当に有意義な会だったと思います。市民会館のいすの座り心地のよさもありまして、皆さんも大変表情豊かで、私もその会場におりましたけれども、よかったなあというふうに思いました。でも、よくよく考えてみますと、敬老大会は年間通してたった1日だけなんです。あとの364日については、日々の日常の暮らしの中に、果たしてお年寄りに生きる喜びがあるのかどうか、ということを考えてみたときに、やはり私はひっかかるものがあるように思います。

戦後40年間を経過したいま、かつて人生50年と言われたものが、いまでは80年という時代を迎えました。ですから、高齢者がどんどんふえるわけです。老人福祉のあり方が、いま在宅の方向へと向けられていて、その転換が迫られていることも事実としてあるわけです。財政的に困難なこともありますので、安上がり福祉をねらったと、政治的な意味での反対論もありますけれども、いまの現状を考えてみますと、やはりさまざまな理由があって老人福祉問題

は転換期があっても不思議ではないというふうに一方では私は考えています。

そこで、一番大切なのはお年寄り自身のお気持ちやら願い、それらをどんなふうにくみ上げていったらよいのか。どうすれば一番喜んでいただけるのか。施設についてはどんなふうに考えておられるんだろうか。さまざまな思いを持ちながら、私たち自身も年老いたときに安心して、しかも喜びのある暮らしができるような日野市をつくっていきたいというふうに思います。そして、多くのお年寄りに伺ってみますと、やはり生まれ育った地域を離れたくないというのが大抵の方から伺えるわけです。老人ホームへ行くよりも、そのまま家庭に住んでいたいんだ。しかし、その一方では５８年度の統計によりますと、１人暮らしのお年寄りが２６９名いらっしゃるわけです。家で暮らしていたいといっても、地域を離れたくないといっても、実際に高齢化したお年寄りがたった１人で住んでいくというのは、いろんな意味で不安が残されてしまいます。そして、いま施設か在宅かという二者択一的な考え方で人々が老人問題に切り込んでいるようですけれども、それについても、そう簡単に割り切れるものではないというのが私の考えです。

先ほども少し竹ノ上議員の方からも触れておられましたけれども、日野市民の健康状況を死因別に見ますと、いわゆる３大成人病と言われるガン、脳血管疾患、心臓病の割合が高いという点が、この一応報告書では指摘されています。ちなみに１９７０年の全国平均では５４.７％というのが、これが全国の平均ですけれども、日野市の場合は６１.１％。１９８０年の全国平均を見ますと６２.３％に比べて、日野市の場合は６８.８％ということで、やはり全国に比べると高いという数字が出ています。また、高齢化率という点から比べていきますと、全国に比べて全体的にはやや低いということなんですけれども、町丁別に見ますと昨年度の場合日野台四丁目、ここが６５歳以上のお年寄りが１７.９％です。

それから、豊田の四丁目に行きますとやはり12.1％。３番目が南平一丁目の10.4％ということで、かなり高齢化の進んだ地区も部分的には見られるわけです。年取ったとき一番心配なのは、1人暮らしになって病気になったときということではないでしょうか。ですから、この報告書でも将来に向けて周到な準備をする必要があろうという指摘が行われています。ちなみに全国の寝たきり老人が４８万人いると言われている中で、そのうち特別養護老人ホームには１１万人。病院に入っておられる方が１０万人。家庭で寝たきりの方が２７万人というのがいまの日本の実態でございます。

そこで、この報告書の４６ページを見るわけですけれども、４６ページのところにサービス

のシステム化ということが指摘されております。あらゆる意味で暮らしや、あるいは病気になったときの意味も含めて、あらゆる角度からサービスをどう徹底させたらいいのか。それをシステ化する必要があるであろうということが指摘されているのだというふうに私は読み取りました。そこで、この点についてどのような具体的な策を考えておられるのか、第１点お伺いをしたいと思います。それが第１点目でございます。

それから、「日野市老人実態意識調査」によりますと「もしあなたが病気や寝たきりになった場合、介護してくださる方はいますか」という質問に対しまして、一般のお年寄りでは80.2％までの方は、一応家族とか親戚の人、あるいは友人知人が何とかやってくれるというふうに答えておられますけれども、１人暮らしの老人の場合はぐっとその率が下がりまして６０.２％になるわけです。ですから４０％の方は寝たきりになった場合、介護してもらえないんだという答えを出されているわけです。

いま厚生省では老人福祉に対しましては在宅の方向へと、先ほど申し上げましたように転換が図られ始めています。施設がいいのか家庭がいいのかと聞かれれば、当然だれでも家庭と迷わずに答えられるはずです。しかし、それが必ずしもすべてのお年寄りに許されない。家庭にいたいと思っても１人暮らしではどうにもならない。そういう実態の中で１人暮らし、あるいは２人暮らしの老人がふえてきたいま、幸せな老後の保障というのはどういう形で行っていったらいいのか。ホームなどは、これまで大抵山の中とかへんぴなところにつくられていました。それが常識だというふうに思われてきたわけです。しかし、その地域で暮らしたい ── 高齢者の定住意向というんですか、その定住意向を満たすためには、またどんな施策が考えられているのか。私はぜひとも２点目にお伺いをしたいと思います。老人ホームとか、それは病院とか、あるいは家庭を有機的にとらえる中で別々に考えないで、それぞれの個別にどう対応できるのか、その辺が伺えれば私は大変ありがたいと思います。それが２点目でございます。

さらに、３点目といたしまして、１人暮らしや高齢者同士の、先ほども申しました ── たった２人で暮らすと。お年寄りだけで暮らすというその人たちの生活の手助けを、市のホームヘルパーとか家政婦協会によって介助サービスが行われているわけですけれども、まだまだ十分ではないと。一生懸命なさっているんですけれども、十分ではないというのも実態ではないかと思います。よりよい介助サービスの体制づくり、また、サービスの質の向上。この辺について今後の施策をお伺いいたしたいと思います。それにはヘルパーさんの数なんかも、いまの人

数でいいのかどうかお伺いをしたいと思います。これにつきましては、日野市では身の回りのことが全くできないお年寄りが、いま一体何人いらっしゃるんだろうか。それから、それに対してホームヘルパーさんがお世話をしているはずですが、何人でどう対応しておられるのか。改めてここでお伺いをする中で、いい方向を見つけていきたいというふうに考えます。

それから、４点目の質問といたしまして、１人暮らしのお年寄りが安心して住める小規模住宅というんでしょうか。それも、集合住宅の建設が私はやはり早急に望まれるというふうに思っています。これについての計画はありますかということで４点目にお伺いをいたします。持ち家のある方は、またそれなりの対応の仕方もあると思いますけれども、持ち家のない場合に、食事のサービスとか介助サービス等、いろんな角度からどんな施策を考えていただけるのか。それは、今後に対して私は期待をするものですから、ぜひお伺いをしたいと思います。

それから、最後にそれらを答えていただいた後に、今後の行政の姿勢といいますか、今後のあり方についてお伺いをしたいと思うわけですけれども、いまここに「婦人新聞」というのがあります。９月の２５日号ですから、ついおとといのものですけれども、福祉のあり方として、基本が二つ挙げられています。その第１は、福祉を求めるその人の個人としての存在、個別性の尊重である。介護や費用負担の責任を家庭に負わせることによって当事者が抑圧されるようなことがあってはならないし、家族のない１人暮らしの高齢者や障害者も、どんな状態でも地域であたりまえのこととして、ともに生きられるのでなければならないということが第１点。それから、第２点目には、そのために、その人の暮らしの場である地域・生活圏で医療、リハビリテーション、介護サービス、居住の場がネットワークされていることである。その地点から病院、とりわけ公的病院、保健サービスの現状、非常勤職化されているホームヘルプ制度、大規模施設としてしか建てられないままでの特養ホーム、それらは、いま見直す時期ではないかというふうなことで、二つの指摘がこの新聞ではされていますけれども、５点目の質問に対しては、今後の日野市の行政の姿勢を、ぜひともこれは市長の方からお伺いできればと思います。

以上、５点についてまずお答えをちょうだいしたいと思います。

○副議長（米沢照男君）　橋本文子君の質問についての答弁を求めます。福祉部長。

○福祉部長（高野　隆君）　お答えいたします。御設問の「住むことが悦びであり、誇りである町」をつくるためにということでの、高齢化社会へ向けての福祉施策のあり方についてということでございますけれども、御質問に何点かありました中で、多少前後するかもしれませんがお答えをしていきたいと思います。

広報「ひの」９月１日号に、市長の署名論文「高齢者の社会参加を積極的に迎えよう」ということで掲載されております中でも、日野市の老人憲章では、老人を理解し、老人の生きがいがある日常を保障する内容を決めている。その中でも、特に地域の自治体としては、日野市民自治学園、あるいはことぶき学園、また、かしの木学級、また、自然に親しみながら健康増進のための老人農園、また、宿泊施設としてのかしの木荘、また、福祉的労働の場を提供するための日野市の高齢者事業団と、このようなものについての展開、その中での老人に対する生きがい、あるいは仕事を求める対応、このようなことを日野市としてはいろいろと考えて現在までやってきたわけでございます。

その中で、地域社会に老人が定着したいという御希望のあるということは、今回の出されました「日野市行政調査報告書」の中でも、約９０％以上の方がそのような意向を持っておられると。こういうように拝見しております。こういう中で私どもといたしましては、いずれ来るべき高齢化社会 ── 現在日野市では、地域的なまばらなものはございますけれども、総体的にはまだ６５歳以上の方が６％台。いずれかは１割を超すであろうと。こういう状況の中で、高齢者のための福祉サービスそのものをどのように展開するかということについては、日ごろからいろいろと考えてきているところでございます。

高齢者のための日常生活援助ということにつきましては、目的別に援助サービスが実施されているわけでございますけれども、その中では老人家庭奉仕員の派遣事業、老人の福祉電話、また、老人入浴サービス、また、自動火災報知機の設置等いろいろとやっております。このような福祉サービスをやっているわけでございますけれども、市民サイドから見た場合には、非常に高齢者関係の事業の窓口化の１本化がおくれているとか、あるいは対応が非常に不都合だと。このようなことも言われてきておるわけでございます。そういう状況の中で、住民ニーズの多様化に対応する行政施策の内部的な調整と。こういうようなことについても、今後とも十分に考えて生活援助サービスが順調にいくように、また、関連事業に係る窓口の１本化等についても、十分に検討しながら今後検討してまいりたいと。こういうぐあいに考えているところでございます。

２番目の御質問にありました１人暮らし老人に対する今後の定住志向をどのように満たすかと。こういうことでございますけれども、これについては、日野市では現在いろいろと施策を

行ってきている中では就労対策、また、生きがい対策等がございますけれども、今後寝たきりになった場合に、さらに安心して生活ができるような在宅サービス。これの方向での施策の展開が、ますます重要になってきているというぐあいに考えているところでございます。そのためには、先ほど御指摘のありましたようなホームヘルプサービス、このようなものをさらに充実させていくということについても重要なことだと考えておりますし、さらに、家庭で介護できなくなった方の、老人ホームへの収容が可能なような施策も今後とも考えていく必要があるだろうと。これについては特養老人ホームの設置、あるいは枠の拡大。現在、枠が狭いために待機しておられる方が四、五十名おられるという状況でございますので、これについてはさらに枠を広げる努力を進める。また、日野市にも特養老人ホームの誘致等について真剣に考えていくということがますます必要になってきております。また、それをキーステーションとしての福祉サービスの展開。こういうことによって、近くの方に利便を与えると。そういうようなことも必要だと。また、衣食住という中での食の確保。これは、給食サービスというようなものも必要だと思っておりますし、これについても早急に対応していきたいというぐあいに考えているところでございます。

また、３番目の、今後ホームヘルパーをふやす必要があるんじゃないかと。こういうような御質問でございますけれども、現在ホームヘルパーは６名。そのうち３名が老人、３名が心身障害者。その方向へ向けてホームヘルプサービスを展開しているわけでございますが、そのほかにも家政婦会等に委託をした家政婦の派遣事業。これも、所得制限を撤廃する中での事業として展開をしているわけでございます。現在、寝たきり、または介護の必要な方が３００名前後というぐあいに私ども考えておりますけれども、そういう方に対して十分かと言われますと、決して十分ではなかろうかと。これは、現在急速に迫ってくる高齢化の波を対応しているわけでございますので、まだまだ不十分な点がたくさんあると。緒についたばかりでございますけれども、今後ホームヘルプサービスについては、さらに量質ともに内容改善をしていく必要があるというぐあいに考えております。

４番目の、１人暮らし老人が安心して住める小規模住宅の建設についてはどうかと。この御質問につきましても、もうすでにいろいろと考えてきておりますけれども、確かに１人暮らし老人、あるいは老人の方が民間アパートの所有者から嫌われると。こういう状況については私どもも存じておりますし、それが家族関係が不安定だとか、あるいは火災事故が起きやすいと

か、家賃の支払いが不安だとか、あるいは非衛生だとか、自閉的で非協力的だとか、いろんな事情で嫌われていると。こういうようなことも調査の中で出てきておりますし、その解決策としては、身元保証を市がやるか、あるいは民間アパートを一括して借り上げてやるか、あるいは軽費老人ホームのＢ型をつくるか、また、市営住宅を建設するかと。こういうような問題についても、やはりいろいろの方法があろうかと思っております。御指摘のように小規模住宅 ── これはいろんな対応の仕方があるわけですけれども、当面民間アパートの一括借り上げ等を十分に考えながら、その中で条件としては公衆浴場に近い、または、交通の便のいいところ、近くにマーケットや公共施設があるところ等を、場所の制約もございますけれども、そういうところで考えていく必要があろうかと、こういうぐあいに考えておるところでございます。今後これについても十分に検討を進めて、１人暮らし老人が安心して生活できるような小規模住宅については検討していきたいと、こういうぐあいに考えているところでございます。

○副議長（米沢照男君）　　橋本文子君。

○１番（橋本文子君）　　市長には後でお答えいただきましょう。

いまおっしゃった中で、いろいろ将来に向けて考えておられることが話されました。窓口を１本化 ── これは、前に私は福祉の問題、特に高齢者問題ということではなくて、福祉関係をすべてその人のところに行けば ── あなたの問題についてはどこに行けばやっていただますよというふうな、いわゆるあちこち ── 何ていうんでしょう。

おろおろしないで１人窓口を設けておけば、大変市民にとってはありがたいサービスになるんじゃないかというふうに御指摘をし、お願いをしておいたと思うんですけれども、窓口の１本化と、いまも部長おっしゃいました。これは、早急にぜひやっていただきたいことだというふうに思いながら伺ってきたわけですけれども、家政婦の派遣事業と、それから、ヘルパーさんの介助ですか。これは３００人のお年寄り、寝たきり、あるいは身の回りのことができない方に対して6人の方でやるということは、つまり１人が５０人めんどうる見るということになります。

たとえば、日本の例でそういうのがあればいいんですが、スウェーデンのマルメ市という市のことをちょっとお話したいと思うんですが、マルメ市は人口が２３万人いるんです。そのうち身の回りのことができないお年寄りが1,４００名いらっしゃいます。ホームヘルパーさんが何と４００人もおられるわけです。それにプラス、ホームヘルパーリーダーというのがさらに１３名おられまして、いろいろ御指導をしていらっしゃいます。つまり１人が担当なさるのが

せいぜい3.5人ということになるんです。それに比べてもう大変１０倍以上の方をめんどう見なければいけないというのが ── これは日野市だけではないと思うんですけれども、とても行き届いたサービスができるとは思えないというふうに私は考えます。さらに、マルメ市の場合で見ていきますと、大体ヘルパーさん週に３０時間労働ということで、月給が２０万円程度。そして、たとえば家族にそういう寝たきりの人が出て、だれかが世話をしなければいけない。仕事をやめて家族の世話をしましょうといった場合には、その方に対してもヘルパーさんと同じだけの２０万円というのが支給をされるというふうなことで、仕事をやめて家族のめんどうを見るから、とてもそんなことは暮らしが成り立たないから困るといういまの日本、あるいは日野市もその例外ではないわけですが ── やり方ではとてもお年寄りが将来安心して住める状況ではないだろうというふうに私は思います。ですから、こういう先進国ですか ── 先進国のやっていらっしゃる内容について少し研究をしてほしいなあというふうに考えています。

それから、その辺それは要望としてお話ししておきたいんですけれども、一つ質問をさらに続けたいのは、たとえば特養ホームにしても、大きなホームをつくって、そこにたくさんのお年寄りを、いわゆる収容するというふうな感じで入っていただいて、健康なときはいいんだけれども、病気になったら、そこでさえ追い出されてしまうというのがいまの現状です。ですから、私が思うのは、地域で暮らしたいとか、余りいままで住んでいた所から遠く離れたくないというお年寄りに対しては、やはり小学校区ほどに小さなホームが、それもそんなにしっかりしたホームでなくていいと思うんです。だれでも気楽に出入りできて、地域の人が気楽に訪ねられて、しかも、家にも簡単に帰ったり入ったりというふうな気楽なホームが小学校区ほどにできるというのが、私はこれからの社会のニーズに対してはあたりまえではないかと思います。明治の初めに小学校がつくられたときには、本当にやっぱりそのくらいの小刻みでないと、子供たちを教育するのには大変だというので、子供たちの対策がいまの小学校という形で出ているんですけれども、お年寄りについても、もうそろそろそういう考え方が出てきてもいいんではないかと私は思います。ですから、入ったら入りっぱなしになるホームではなくて、何日かホームで暮らしたら、また家族のいる人は家庭に戻って何日か暮らしてみる。あるいは夏休みとか冬休み等、家に戻って、また、後はホームに戻って暮らす。かなり自由の出入りにできるホームというんでしょうか。そういうアットホーム的な小さなものが小刻みにできるというのが、いわゆる地域ぐるみでみんなで暮らしていくんだ。みんなでともに生きていくんだという

考え方を満たすためには、それが一番いいんじゃないかというふうに思うんですけれども、そういうふうなことを考えてみようというお気持ちがあるかどうか。１点再質問としてお伺いをしていきたいと思います。

それから、たとえばまた外国の例で大変恐縮なんですけれども、ヘルパーさんのセンターというのがスウェーデンあたりではつくられているそうです。そして、そのセンターには、いつでも１人暮らしのお年寄りがベルを押せばつながるようになっていて、そのベルの、たとえば９回ベルが鳴らされてヘルパーさんがすっ飛んでいく。そのうちの９８回はトイレに行きたいのだけれどもよろしくと。これが地域に小刻みにできたセンターだからできるんだというふうに思います。もっと他の２回は、じゃあどういう要望かといいますと、今夜テレビがおもしろいのがありそうなんで、この番組が終わったら寝かせにきてくださいとか、全くひとりで動けない方も、１人で暮らせるような状況がマルメ市というところではつくられているそうです。ですから、寝たきりの場合を例にとりますと、朝ヘルパーさんが出向きます。3.5人ですからそれが簡単にできるわけですけれども、まず、行けば窓をあけて空気の入れかえをする。それから、ベッドから起こしてあげる。好みの服に着せかえてあげる。それから、車いすに乗せてあげて、トイレの世話をしたり、あるいは朝食の準備をする。そして、またお昼に来ますねという形で一たん帰られる。その間にヘルパーさんは３人のところを回られるわけですけれども、また昼になれば再びヘルパーさんが１人暮らしの ── 車いすで１人で暮らしていらっしゃるお年寄りを訪ねて、今度は車いすを押して散歩にお連れする。あるいは、そのセンターにはレストランだとか散髪のできる施設だとか、それからまた、娯楽のできる部屋だとか、いろんなものがつくられていて、そこでしばらく遊ぶこともできると。また、それが終われば家にお連れして夕食の世話をし、また着がえのお手伝いをしてベッドに寝かせてあげる。こういうふうなシステムが実際にできているんです。マルメ市は２３万人ですけれども、本当にやる気になれば日野でもできるんじゃないかというふうに思います。ですから、先ほどの小刻みに小さなホームをちょこちょこ、そして、地域の方がいつでも出入りできる。そして、家にも行ったり戻ったりできるというふうなホームについて考えていくお気持ちがあるかどうか。いろいろお話しましたけれども、そういう観点からもう一度そこのところをお答え願いたいと思います。

○副議長（米沢照男君）　　福祉部長。

○福祉部長（高野　隆君）　　ただいまの御質問のような施策の展開ということは、本

当に望ましい状況かもしれませんが、現在日野市にはまだ特養ホームはございませんし、今後どのようなホームをつくっていこうかと。この辺のところも今後考えていかなきゃならない問題だろうと考えております。これは、そう大きなものをつくってということではなくて、小さいながらも、やはりアットホーム的なものをつくっていきたいと思っておりますし、小学区ごとにということになりますと ── 現在、至誠老人ホームでデイ・ホームサービスですね、御老人の。これは、活動が鈍くなってきつつある御老人。そういっちゃなんですけれども、痴呆性になりかかってきておられるような御老人の活性化を目指して、至誠の方でやっているサービスでございますけれども、こういうようなものも今後市にはたくさん必要になってくるだろうということも、われわれ内部ではいろいろ論議しておりますし、これは、ポストの数ほど保育園というような時代から、さらに今度は御老人のためにたくさん施設をというような時代にだんだんなってくるわけですけれども、これは、日野に限らず日本全域やはり急速に高齢化してきている中で、早急には実現しない問題ではなかろうか。しかしながら、先進例もございますし、すでに都内でも中野区ではケア付住宅の検討に入ってきている。すでに５０年から老人アパートをつくった中で１０年経過した中では、すでにケア付住宅、生活相談員を設置する中でそのような問題を処理していると。このようなところも出てきている状況でございますので、そのようなことも先進例としていろいろ参考にしながら、今後の向かうべき方向は、やはり地域ごとに御老人が生活しやすいようなシステムをつくっていくと。こういうようなことも必要だろうと。こういうぐあいに考えております。

また、ホームヘルパーセンターというようなものも ── これは他国の例でございますけれども、まだまだ日野としてはほど遠い問題ではないかと思いますが、今後このような問題、果たして民間でやるのか、あるいは公私の協力の中でやるのか。あるいはどのくらいの数のものをどこへ設置するかというような問題についても、さらにネットワークの問題もございますでしょうし、今後の検討課題だというぐあいに考えております。

○副議長（米沢照男君）　　橋本文子君。

○１番（橋本文子君）　　福祉部長も大変将来に向けて明るい施策を持っておられるということで、中野区などの例も引かれてお答えをいただきました。ありがとうございました。

他国の例をそう急に取り入れられないとおっしゃる部長のお話もわからないわけではないんですが、そういう言い方していると、いつまでたっても本当にできないだろうと思うわけです。

やる気になれば私は日本の中でも ── やってしまえば簡単にできるんじゃないかと逆に思っています。そのうちそのうちというんじゃあ、なかなかむずかしいというふうに思いますので、ぜひこれまでの部長のお答えにあわせて、さらに市長の方から、今後日野市の中のお年寄りの福祉問題、行政の姿勢としてどんなふうにお考えを持っていらっしゃるのか。全体を大きくつかんだ上で、さらに具体的にこういうことを考えているということがおありになれば、それも含めて御答弁をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

○副議長（米沢照男君）　　市長。

○市長（森田喜美男君）　　高齢化社会に突き進む今日の状況でありますが、狭い意味での高齢者行政、それはまた、その中の ── 長寿の時代ではありますけれども、自立可能な老人をなるべく多く生活されるような、そういう大きな施策こそまず第一義的であるべきではなかろうかとこう思います。つまり健康と生きがいを提供すると。社会参加を積極的に迎えようというのはそういう分野であります。また一方に自立の不可能な老人層が社会には実存するわけでありますから、その方々にも、もちろん生きがいや健康ということの働きかけはしなければなりませんが、現実に独居老人 ── １人暮らしの方、あるいは寝たきりの方、あるいは痴呆の方、いろいろの段階がまた少数であってもあるわけであります。したがいまして、それぞれに適切なサービスシステムが確立できるということが望ましいわけでありますが、日本の場合、社会福祉を大きく重点としたということでもありませんので、特に新しい老人を迎える社会としては、まだ制度も幼稚かもしれませんし、また、施策に現実的な確立ができてないということもあるわけであります。自治体の地域行政といたしまして、これはまた一番切実な仕事 ── 行政の分野でもありますので、適切にこれから対応をしていかなければならないとこう考えております。そこで、基本的なもとになる理念といたしましては、老人憲章というふうなことを定めまして、それに照らして具体的な施策をどういう形で展開をしていくかということが、システム化に相当するものだと思っております。

具体的に住宅の問題、それから、食事の問題、あるいは生活介護の問題、また、療養を要する場合の問題、いろいろケースがあるわけであります。また、それがダブるケースももちろん考えられるわけであります。きわめて単純ではないということであります。したがって、なるべく行き届いたことが最終的には望ましいわけでありますから、それに向けていろいろと努力をするということに努めるのが、これが老人行政の基本姿勢だと思っております。住宅に当た

りましてはホームの提供、それが老人ホームでありましたり、あるいは老人アパートでありましたり、これらは自治体によりまして、最近民間アパートの借り上げ等で早速やっているところもありますので、そういうことも考えてみたいと思います。それから、日野市内に老人ホームが少ないわけですが、市内にありますホームに先般高齢者のお祝いに上がりました際に――もうすでに経験積んでおられますので、なお時代の要請に沿って拡張でありますとか、あるいはもう一つ社会福祉法人として事業を始めていただけませんでしょうかということを当たってみましたところ、近いうちにそのようなことを考えておるというふうにも言われておりましたので、ぜひそういうふうな――すでに施設の経営者である方にも努力をしていただきたいと、このように思います。可能な方法をひとつぜひ探していこうということです。それから、食事のことも、これまた切実なことでありますし、また、毎日のことでもありますので、１日１食給食する程度の事業を始めようということで、いま対象者、これの状況を把握することが第一でありますので、そのようなことを主管課には求めておるわけであります。

ホームヘルパーの数をふやすということは、きわめて早速にやれることでもありますので、正規職員によるホームヘルパーということは、現状ちょっとむずかしい面もありますから、何か別の方法も考えて――つまり手が行き届くということで検討してみたいと、こう思っております。

おおむね以上のようなことでございますが、これからの高齢化社会迎えまして、今回の「行政調査報告書」にも、この執筆を担当していただいた方が、新しい時代の老人福祉行政ということに対して研究をしておられますので、ぜひお力もおかりしたいと思っております。「生活こそ健康の基礎である」と、このように書かれておりました。私は、これは「健康こそ生活の基礎」かということじゃなかろうかと思っていましたけれども、やはり「生活こそ健康の基礎である」という方が、この人の指摘されている強い趣旨ではなかろうかとこう思っておりますので、そのような考え方に立って今後も努力をしたいと、このように思っております。

○副議長（米沢照男君）　　橋本文子君。

○１番（橋本文子君）　　どうもありがとうございました。

住宅等は民間アパートの借り上げ等、あるいはまた、いますでにやっていらっしゃる経営者に対して、社会福祉法人の形で民間活力を生かすということになるんでしょうか。そういう形にしろ、まずは第１歩始めなければ、いきなり市でつくるというのも大変でしょうから、一つずつやっていけばいつかはできるということで、私はこの住宅の問題も大変いい御答弁をいた

だいたと思っています。それから、お食事についても１日１食からでもとにかくやりたいとおっしゃっていますので、対象者が１日でも早くつかめて、いち早くこれが実施できればというふうに希望いたします。またヘルパーの増員についても、いまの制度ではむずかしいかもしれないけれども、何らかの形でふやす方法を考えたいということでございますので、私も本当にそうしていただきたいと思います。

堀越栄子さんという方の書かれた文章をちょっと読んでみますと「日野市にとって必要なことは、高齢化社会を迎えるに当たって全市民の生活政策目標を確立し、地方自治体の主体性を持つことであろう」「主体性を持つことであろう」という、ここのところを私は大変いい言葉だというふうに思いました。それから、「自立に支えられた共生」「共生に支えられた自立」つまりこれの読み取り方として、自立可能な老人とか、自立不可能な老人とかいうとらえ方ではなくて、自立ということは、つまり支える人がいればそれは自立なんです。ひとりで何かができることが自立ではなくて、１人のお年寄りがいて、１人の寝たきりの人がいて、その方を支えて生きていくことができる形がとれればそれが自立なんです。だから、たった１人では自立できない方も、２人でなら自立できるということがあります。そして、周りで支えれば自立ができると。だから、そういうことが「自立に支えられた共生、共生に支えられた自立」という言葉の表現になっているんだろうと思います。そして、これが一番大事な理念ではないかというふうに思います。この理念に基づいた社会サービスが今後日野市の中で行われるならば、私たちも安心して年老いていくことができるんじゃないかというふうに思いました。

どうも本当にありがとうございました。今後の施策に期待をいたしましてこの質問を終わらせていただきます。

○副議長（米沢照男君）　　これをもって９の１、「住むことが悦びであり誇りである町」をつくるために、高齢化社会と新しい福祉のあり方について問うに関する質問を終わります。

９の２、中国残留孤児及びその家族の受け入れ対策について問うについての通告質問者、橋本文子君の質問を許します。

○１番（橋本文子君）　　それでは第２の質問に移らせていただきます。

９月９日の「読売」「毎日」の両紙には「中国孤児２班来日」あるいはまた「残留孤児８次調査団第２班が来日」などの見出しで、肉親のぬくもりを求めて中国民航機で来日した遼寧省

組の４５人が成田空港に着き、宿舎の国立青少年センターに落ちついた記事が載っていました。この方々は、すでに肉親に会えて４０年間の空白を一挙に取り戻された方、また、求める肉親に最後まで会うことができずに、さびしい思いをされた方、それぞれ喜憂こもごもの思いを抱きながら一たんは中国に帰られました。

そもそも日露戦争の勝利の代償として残された多くの人的経済的な損失を埋めるために取り組んだのが満州の植民地経営でした。これは、国民には知らされないで、国策に携わっている本当に一部の人たちがやったことでしたけれども、ロシアと日本が中国を戦場にして争ったという矛盾。そして、中国に権益を求めたことの矛盾。そして、その権益を守ろうとして日本が満州の植民地政策を強化し、中国侵略の過ちを犯してしまったということは、本当に日本の恥部として後世に語り継がれていかなければならないでしょうし、その結果、多くの残留孤児が生み出されてしまったということは、私たちはずっとこの思いを忘れてはいけないと思います。幼少のころ両親とともに故郷を離れて海を渡った人、そして、現地で生まれた人。それぞれが敗戦のどさくさの中で悲しい肉親との別れを強いられた人々が、つまり中国残留孤児と呼ばれている人たちです。

そこで、お尋ねをするわけですけれども、最近日野市にも、このような中国残留孤児の方が、また、その御家族が次々と定住されるようになったとお伺いしていますけれども、現在何家族日野市にいらっしゃるのですか。それが第１点。また、それらの方々の生活は、どのような保障がされているのでしょうか。これが第２点。そして、お子さんの学校の入学については、希望どおりに受け入れられているのでしょうか。まずこの３点についてお尋ねをしていきたいと思います。それから、もう一つ、まだ日本語が十分できない方々については、特にお子さんたちの日本語の教育は、どのようになっているのか。この点についても４点目としてお伺いをしていきたいと思います。よろしくお願いします。

○副議長（米沢照男君）　　橋本文子君の質問についての答弁を求めます。福祉部長。

○福祉部長（高野　隆君）　　中国残留孤児及びその家族の状況についての御質問がございました。現在日野市には５世帯１２人の家族が中国から帰国者として在住していると。私は、その後ふえるという話も聞いておりますけれども、現状そういう形で把握しております。市としては、全世帯の方に対する生活のめんどう見てきておりますし、法の中での生活の保障を現在しております。しかしながら、現状中国からの帰国者の方は言葉の問題、あるいは生活

習慣の問題、社会の仕組みの違い等、いろいろ日常生活を営む上では困難があるということでございます。

学校の問題については教育委員会の方からお答えいたします。

○副議長（米沢照男君）　　教育長。

○教育長（長沢三郎君）　　では３点目と４点目についてお答え申し上げます。

中国から引き揚げてきている孤児の中で、現在小中学校に在籍する学齢児の状況でございますけれども、現在日野市の小中学校で引き受けております数は５名。近くもう１名ふえるということを聞いております。内訳は、小学校が１名で、中学校が４名と。こういうことで近々ふえる１名も中学校学齢児ということになっております。

確かに中国から引き揚げてこられているので、その中で比較的自由に日本語を話せる子供さんというのは、２人は一応日常会話には困らない程度の一応教育を受けているわけなんですけれども、残りのお子さんは全く日本語は理解できないという状況でございまして、いま東京都の方では、同じ同一校に６名以上のそういう引き揚げた中国の学齢児がいる場合には、１週間に１０時間の時間講師の措置をとるというような内容の一つの基準があるわけでございますけれども、現在のように日野の状況で、小中合わせて５名と。近々ふえて６名という状況の中では、これは同一校６名以上という枠の中に入りませんので、東京都に対しましては、講師時数の派遣、これについて強力に折衝を続けております。それから、なお日野市の場合、都との話し合いの中で、現在定数外で再雇用の嘱託員ということで、６名ほどの元先生の方が日野市の方に来ているわけでございますけれども、この嘱託員の先生方の協力を求める中で、一応生活指導の一環ということも含めまして、それらの該当児を抱えている学校の方に派遣いたしまして、引き揚げてきております学齢児の対応に当たっていると。こんな状況でございます。

○副議長（米沢照男君）　　橋本文子君。

○１番（橋本文子君）　　先ほど、まず部長の御答弁の中で、５家族ということでしたが、私の把握した範囲では６家族ではないかというふうに思うんですが、平山に２家族いらっしゃいませんか……。それと、中学生の数、教育長の方のお答えの中で、三沢中が５名、それから、七生がいて、あと八王子の夜間中学に行っていて、三沢台小学校がいまして、あと中学校２人。これがどこの中学校かちょっとわかりません。新井に住んでいる方です ── というので、お子さんが１０名。ちょっと私の把握している中では１０名いらっしゃると思うんですが、

数は、いずれどんどんふえてくる中でなかなか把握もしにくいんじゃないかと思うので、それはいいとしまして……。

たとえば教育長の時間講師、都の方では６名一つの学校に集まれば講師を派遣しましょうということで、それに対して強力に折衝を行っているというお話ですが、私は、もう都が都でそういうことならば、むしろ市が独自に、その子供たち―― 学校が終わった時間帯を利用して、たとえばいままでもボランティアでやってくださっている方があるんです。だからそういう方方に何らかの財政的な面からの手当をしていただく中で、気心のわかった方たちに、中国語と日本語の両方わかる方がめんどう見ていらっしゃるようですから、その辺を何とか日野市独自にやっていただけないかなということを１点思います。それは再質問として後でお答えいただきたいと思いますが……。

それから、生活のめんどうは見ていると。確かに生保という形で一定のお金を差し上げれば、それなりに暮らしは成り立つわけですけれども、やはり中国で体を使って本当に働くことに喜びを持ちながら生活をしてこられたという方が、ただじっとしていてお金をいただくというのは、むしろ苦痛であるというふうな話も出ているわけです。むしろ、何か働く場を見つけていただいて、それが職員としてどうこうということでなくても、たとえば市の何らかの形でかかわる仕事があるならば、そこへ優先的に職場を保障していただくというふうな形で、御本人が働ける体を持っている方は、御本人が自分の体で働いて得たもので生活をしていくという。つまり本当の意味での自立した生計を立てていくという方向で考えていただかないと、ただ生保で何とかすれば、それは大丈夫だということにはならないんじゃないかというふうに思います。

ですから、先ほどの講師の問題、それに、財政的な面での何らかの手当はできないだろうかということを１点と、それから、仕事の保障は何とかできないかという、その２点について再質問を行っていきたいと思います。

○副議長（米沢照男君）　　再質問についての答弁を求めます。教育長。

○教育長（長沢三郎君）　　お答え申し上げます。

いま現在教育委員会の方で把握しております状況の中では三沢中学に４名。これは、新井団地並びに落川の方にお住まいになっていて、現在学区域が三沢中学ということで、三沢中学に４人そういうような形で孤児の方が集中してお集まりになっていると。その兄弟の方で１人、やはり学区域が八小になっておりますので、第八小学校の方にお１人。現在そういう面で引き

揚げ者ということで措置されております方につきましては５名でございまして、近々１人さらにふえるということを聞いております。

それで、それらの方々に対しまして、確かに福祉事務所の担当のケースワーカーの方とか、いろいろ対応してくださっているわけですけれども、学校の生活になれるという面も含めましての教育的の措置ということになりますと、どうしても教育関係者がその中に当たっていかなくてはなりませんので、先ほど申し上げましたように、６名ほど東京都の方から再雇用の嘱託員という形で、日野の方に配置されている先生もございますので、日本語が全く話せないというお子さんについては、極力これは一対一の対応というものが必要な場面が非常に多いので、そういう線を極力活用しながら対応している、というのが現状でございます。

○副議長（米沢照男君）　　福祉部長。

○福祉部長（高野　隆君）　　就労あっせんにつきましては、私どもはちょっと福祉サイドからやるということはかなり困難でございますので、できるだけ御本人の自力でできるような努力を何とかできないだろうかということで、言葉の問題の解消については、いろいろと担当者が苦労しているようでございますが、この問題がかなり大きな障害になりまして就労がなかなか困難だと。雇用につきましては教育委員会といろいろ協力をしながら、協議をしながら現在進めている、という状況でございます。

○副議長（米沢照男君）　　橋本文子君。

○１番（橋本文子君）　　中学生その他については、嘱託員６名でいま対応してくださっているということなので、一対一の日本語の御指導していただきながら、なおかつ普通の学校の皆さんと一緒に中学生生活、小学生生活ができているということでしたら、今後来られる方に対しても、ずっと引き続いてその方式できちっとやっていただきたいなと、大変いい対応していただいていると思います。つい先般、なかなか中学に入れなかった方が、どうしようかって来られていましたけれども、それもいつでしたか、この議会が始まる２日か３日くらい前に「解決しました。ありがとうございました」と来られていましたので、多分ほぼ満たされているんではないかと思います。ただ、１家族多分まだ把握されてないんじゃないかなと思うのは、平山にお姉さんがいらっしゃる方が、その妹さんが帰られたということで、平山に落ちつかれているはずなんですけれども、この方にも１５歳のお子さんがいらっしゃいまして、俊子さんておっしゃいましたか、まだ七生中学へ行っていらっしゃるかというふうに伺ったりして

いたんですが、その辺は教育長まだ把握していらっしゃいませんか。

○副議長（米沢照男君）　　教育長。

○教育長（長沢三郎君）　　お答え申し上げます。呂さんという方で、これお姉さんの方ですが、さきに引き揚げてこられまして、この方のお子さんは、平山から新井の方へ住居が変わられたということで、先ほど申し上げましたように、三沢中学の方に措置がされております。その後、妹さんの方ですか、先ほど橋本議員さんの方からお話がありました、同じく呂さんという方なんですけれども、１５歳の女の方ですけれども、この方が平山中学校の区域に転居してこられたということで、いま、なるべく御家族の希望、あるいは御本人の希望も通して、ただ学区域が平山中学だから平山中学に機械的に措置をするのがいいのか、場合によれば、先ほどお話がありました ── 非常に近い形での、お姉さんが三沢中学の方で措置をされている。非常にその方と友だち関係というか、仲のいい間柄ということなので、できればそうやって同じ中学の方が、逆に日本になれていくのにプラスになるのか、その辺の問題も通しながらいま対応しているという状況で、平山の方に近々入られる ── この方につきましても、いま申し上げましたような形ですぐ措置ができるように、教科書その他の手配等も全部進んでおります。

○副議長（米沢照男君）　　橋本文子君。

○１番（橋本文子君）　　どうもお答えありがとうございました。

今後まだ２０人くらいは日野市に来たいとおっしゃっておられる。もうすでにここにいらっしゃる方々の御家族なり、あるいはまた、そのお孫さん等が来られる予定になっている、というふうな話も伺っておりますので、これまでと同じように、あるいはそれ以上にちゃんと対応していただく中で ── この方たちは自分で好んでそういう立場に置かれたわけじゃなくて、仕方なくそういう中国残留孤児という呼ばれ方で、差別的な立場に置かれてしまった方々が、少なくとも日本に帰って悲しい思いやつらい思いをなさらないように、精力的に対応していただきたいと思います。本当に御答弁ありがとうございました。要望をしてこの質問を終わらせていただきます。

○副議長（米沢照男君）　　これをもって９の２、中国残留孤児及びその家族の受け入れ対策について問うに関する質問を終わります。

９の３、寝たきり障害者の入浴サービスは申請主義なのか、また回数についての基準はどのようになっているのかについての通告質問者、橋本文子君の質問を許します。

○１番（橋本文子君）　　この質問のとおりでございます。私たち日本人は、とりわけおふろというのは大好きな国民のようです。夏に暑いといえば、おふろに入ってさっぱりしてほっとし、あるいはまた、冬に寒いといっては温まって、寝床に幸わせな気持ちでつくことができるというふうなことで、毎日ふろに入りたいというのがほとんどの日本人の思いではないでしょうか。そういう中で、寝たきりの障害者の方にとって、自分でひとりでふろにも入れないという方たちが、たまにサービスをしていただく入浴をどんなに楽しみにしていらっしゃるか。ですから、その回数が、たとえば同じ寝たきりの障害者同士で、ある人が１週間に２回入れていただき、ある人は１週間に１回しか入れない。あるいは２カ月に２日しか入れないなんていうふうなことが少し耳に入ると、もう大変それは怒られます。あたりまえなことだと思います。そして、ここに「申請主義なのか」と書いたのは、やはりこういう制度がありますよと、最初から紹介をしていただくのじゃないような形の方も中にはあるようなので、ずいぶん半年も知らないでふろにも入らなかったというふうなお怒りもちょうだいしたりするものですから、申請主義なのかどうかということを１点質問に取り上げさしていただきました。そしてまた、その回数についても、どんなふうな基準になってそれが回数が決められているのか。この二つについてずばりお答えをいただければありがたいと思います。よろしくお願いいたします。

○副議長（米沢照男君）　　橋本文子君の質問についての答弁を求めます。福祉部長。

○福祉部長（高野　隆君）　　ただいまの御質問の寝たきり老人、障害者の入浴サービスはどうなっているかということでございますが、まず入浴サービスは申請主義でございます。これは、福祉の場合にはそういうような方法をとっておりますが、これは、福祉事務所の窓口に１回申し込んでいただければ、あとは毎回申し込む必要はないということで、そのまま名簿に登載されると、順次入浴サービスが受けられるという仕組みになっております。しかしながら、この入浴サービスは立川の至誠老人ホームに委託をしてやっております。このサービスを受けておりますのは、立川市と、国立市と、国分寺市、武蔵村山市と日野市の５市でございます。この共同事業としてやっております。立川にあるということで、立川市に対する共同委託ということでございます。最近の傾向は、各市とも利用度が高くなりつつある、その結果、各市とも１人当たりの利用回数が減少してくると。結局受け入れる器は同じでございますので、その器を各市で奪い合うような結果になってくる、こういうのが状況でございます。その中でも日野市の利用状況は５市中最高でありまして、昭和５９年度は４４４人の方が利用されまし

た。ちなみに申し上げますと、立川市が４３５人、国分寺市が１７６人、国立市が１３３人、武蔵村山市が８６人ということで、合計は1,２７４人ということで１００％の利用と。日野市は全体の３４.９％ということになっております。しかしながら、各市の利用状況の増加傾向ということと、本市においても、また寝たきり老人の新たな登録者がふえておりますので、それまで比較的早く順番が回ってきておりましたけれども、このような理由で最近は１カ月に１遍程度という状況になってきておるということでございます。この制度が発足した当時には、週に１回は必ず入浴できた、ということでもございましたので、最近は、こうした経験者からいたしますと、大変不満があるということだと思います。私どもとしましては、今後これを、さらに枠を広げる、あるいは何とかして別なところで受け入れてもらうような方法も、やはり考えるとかそういうことを考えないと、いまのままではとても利用者の御希望には応じきれないと、こういう状況でございます。

○副議長（米沢照男君）　　橋本文子君。

○１番（橋本文子君）　　日野市の場合は、他市に比べればかなり利用状況はいいというお話ですが、１カ月に１遍なんていうのは、本当に寝たきりの方は、特におふろだけが楽しみで生きているんだ、とおっしゃる方もあるくらいで、それが、たった１カ月に１遍というのは、皮膚の分泌の状況から見ても、これは大変不衛生だなと。それは、ふけば幾らか違うでしょうけれども、やはり入浴できるということがすべての障害者にとって大事なことだと思いますし、いま、今後さらに何か枠を広げる方法を考えたいとおっしゃってくださいましたので、ぜひそれは精力的にやっていただきたいと要望しておきます。

それと、申請主義ということですが、つまり全然知るところがなければ申請することもできないというのが、そうなると実態になってくるわけですけれども、たとえばワーカーの方が、こういうサービスがありますよ、入浴サービスあるんですがお受けになりませんか、というふうなお進めはしないんでしょうか。これ１点お伺いしたいんですが……。

○副議長（米沢照男君）　　福祉部長。

○福祉部長（高野　隆君）　　もちろん、それぞれの担当者は、必要な方にはそのようなことを申し上げていると思いますけれども、全般的に日野市の場合にＰＲ不足ということを盛んに言われておりますし、今後福祉のサービスを、もっとＰＲするということに重点を置いてやっていきたい、その努力を現在しているところでございます。福祉施策をもっと細かにしたものを市として出していくとか、こういうような点については、いま現在検討し努力をしているところでございます。

○副議長（米沢照男君）　　橋本文子君。

○１番（橋本文子君）　　今後はさらにＰＲを強めていきたいとおっしゃっていますし、ワーカーの方も、こういう制度ありますよと。言わないんじゃなくて、やっぱり言ってくださっているんだろうと。そこを信頼いたしまして――ただ、半年もおふろに入れなかったという方にも出会ったりすると、どうなっているのかなあって疑問を感じたりしたものですから、こういう質問させていただいたわけですが、いま部長のおっしゃったようにやっていただきたいと思います。どうもありがとうございました。これでこの３番目の質問は終わります。

○副議長（米沢照男君）　　これをもって９の３、寝たきり障害者の入浴サービスは申請主義なのか、また回数についての基準はどのようになっているのかに関する質問を終わります。

９の４、６０年度１０月に行われる日野市職員募集についての通告質問者、橋本文子君の質問を許します。

○１番（橋本文子君）　　４番目の質問早速に行ってまいります。

日本に定住しておられる外国人は大変たくさんおられます。そして「統計日野」によりますと、５８年度に日野市に在住の外国人の方は４２４名ということです。このうち朝鮮・韓国の人が２７４人で一番多くなっています。２番目が中国人の６３名です。３番目はアメリカ人の３３名。あとイギリス、カナダ、ドイツ、スペインということで１けたで、以上が４２４名の内訳なんですけれども、これらの方々の指紋押捺の問題につきましては、３月の定例会におきましていろいろ質問を行ってまいりました。そのときに多少触れておきましたけれども、公務員としての採用について、何とかならないかということで質問をさせていただく中で、多少それについては具体的な御答弁もいただいているわけですけれども、今回は、そこにしぼってもっと具体的にお答えをちょうだいしたいと思って、この質問をさせていただきます。

日本に定住している外国人といいましても、たとえば韓国との関係で取り決められている協定永住という形、あるいはまた第１２６号がらみの特例永住、その他一般永住と。いろんな形の方々がいらっしゃるわけですけれども、ここでは現在日本に在住していて、今後も引き続き在住し続ける意思を持つ外国籍住民について、日野市の職員として国籍の制限なく採用をして

いただきたいということを第１点目の質問といたします。あえて、引き続き永住し続ける意思を持つ外国籍住民と限定させていただきましたので、いい御答弁がちょうだいできるように期待をいたします。

そして、第２点目といたしましては、市の広報及び市の職員の募集要綱等に、外国籍住民の方も応募できるんだということを決めていただく中で、はっきりと書いていただきたいというのが２点目の質問でございます。これは、時間もそんなにありませんので、市長の方から御答弁をちょうだいできればと思います。よろしくお願いいたします。

○副議長（米沢照男君）　　橋本文子君の質問についての答弁を求めます。市長。

○市長（森田喜美男君）　　指紋押捺のことにかかわりまして、これは人道的見地ということがその根底にあるわけでありました。それから、職員を採用するかしないかということは、これはもう人道的とかいうこととは別次元のことであると思っております。そこで、私が先般答えましたのは、いままで特に意識を持って長期に永住する外国人なるがゆえに排除したということもなかったと思うし、これからもそういう考えは特別ないと。しかし、国籍は構いませんというふうな募集の要綱に付するような仕方もしないと、こういうことであります。

○副議長（米沢照男君）　　橋本文子君。

○１番（橋本文子君）　　これまでも差別なく受け入れる態勢はあったというふうに、しっかりといま受けとめました。ここに１９７５年のずいぶん古い物です。１０年前ですが、たとえば阪南８市 ── 大阪の南です。「阪南８市今秋から実施」ということで、「市職員の国籍制限徹廃」こういう記事が出ています。

それからもう一つ（「行政の内容についてか」と呼ぶ者あり）「県下地方公務員に在日韓国人も採用」ということで、兵庫福祉増進協が研修会で指摘をされているというふうな記事も出ています。それから、１９８０年３月１日の新聞ですけれども、「大阪府職員採用」という見出しで「１８市が門戸を開く、実った民団の働きかけ」という記事があるわけですけれども、５年前の３月１日に大阪の１８市では、もうすでに門戸が開かれて、たくさんの応募者があり、就職をされる方も出てきたというふうな記事が ── これは７５年と８０年のものですけれども、もう１０年前からこんなふうな問題がすでに提起され、しかも、それが実りとなって記事になっているわけです。ですから、一般的に、たとえば東京あたりではできないんじゃないかって知らない方が ── いま市長は、制限をしたことないということで御答弁いただいたんで、大変うれしいと思うんですが、そのわりに皆さん応募できないんじゃないかというふうに一般的には思われているようなところがあります。私は、採用に当たってはどこまでも職種について限定をしないで、あらゆる職種について採用をお願いしたいというふうに思うわけです。

これは、１９８５年４月１２日の新聞ですけれども、かなりの市で、たとえば公務員採用ということで、事務、一般技術、医療技術、技能、労務、教員と、六つの職種に分けてありまして、たとえば事務関係でもかなりの市でこれが、採用が行われている実態が出ています。残念ながら東京にはなくて、大阪方面、あるいは京都方面、兵庫県方面なんですけれども、本当に枠をしないで、この職種だけですよということじゃなくて、あらゆる職種に差別なく、もう本当に日本に生まれ育って ── 私は、そういう言い方をしたくないんですけれども、あえてこの際わかりいいように言わせていただくんですけれども、一緒に本人たちは日本でしか暮らすところがないわけです。日本で生まれた場合には、本当に朝鮮が国籍だとか、韓国が国籍だの、あるいは中国が国籍だのって言われても、御当人たちは全くその国に行ったこともなければ知らないという方がほとんどで、だから、住んでいる日本で公務員で採用しないよと言われたら、大変な差別だと思うわけです。だから、市長が大変いい、いま御答弁をしてくださったので、私は、あらゆる職種に多くの外国人の方々も応募くださる中で、対等に採点がなされて市の職員として堂々と働いていける方がふえることを望んでこの質問を終わらせていただきたいと思います。

どうもありがとうございました。

○副議長（米沢照男君）　　これをもって９の４、６０年度１０月に行われる日野市職員募集に関する質問を終わります。

一般質問１０の１、市営火葬場の問題についての通告質問者、飯山茂君より取り下げの申し出がありますので、これを取り下げます。

１１の１、地震、水害における斜面災害防止、安全避難対策等における防災計画の現状と今後の課題についての通告質問者、馬場繁夫君の質問を許します。

〔７番議員登壇〕

○７番（馬場繁夫君）　　それでは通告に従いまして一般質問をさせていただきます。

メキシコで１９日午前７時１８分、マグニチュード7.8の大地震が発生し、メキシコ市で震度５を記録いたしました。２５日までに国立メキシコ自治大学工学研究所の調査で、建物の被

害はビル倒壊４５０棟、修理を必要なもの約7,０００棟にのぼるとされております。地震発生のメカニズムは、海洋性のフィリピン海プレートが日本列島を乗せたユーラシアプレートにもぐり込み、近い将来巨大地震の発生が予想される駿河湾沖の東海地震と同じタイプとされております。

日本における地震予知研究が、国の事業として本格的にスタートしたのは新潟地震の翌年、昭和４０年４月からであります。５３年１月の伊豆大島近海地震では、体積ひずみ計が急激な変化を示し、放射性同位元素のラドン濃度にも明瞭な変化が認められるなど、地震の前兆現象をとらえることができましたが、日本海中部地震（マグニチュード7.７）秋田県西部地震等も、特定観測地域に指定されておりましたが、２４時間常時観測体制がなく地震を予知することができませんでした。現在のところ、予知可能な地震はマグニチュード８クラスの大型海洋型地震で、しかも観測網が整備されている東海地域に発生するものだけに限られております。日本列島とその近辺では、死者１万人を超えるような被害を生み出す可能性のあるマグニチュード７程度の地震が、いつどこで起きても不思議はないと言われております。

東京都防災会議地震部会の報告によりますと、被害想定の前提といたしましては、乾燥した冬の夕方で風速は６メートルの北風が吹く中で、相模湾の海底を震源とした東海大地震マグニチュード6.９の地震が発生した場合を想定しております。この前提をもとにして東京都全域の被害想定は、死傷者が約１１万6,000人、罹災者は約４３４万人と推定されております。さらに、木造建築物は全壊が約６万4,０００棟、半壊が約１７万７００棟にも及び、地震火災による焼失面積は約２万6,０００平方キロメートルにも及び、焼失棟数は６２万棟を超えると考えております。さらに、地震に強いとされております鉄筋鉄骨の建物は、多摩地域の調査によりますと、鉄筋コンクリート造りで約4,０００棟、鉄骨の建物で約3.７００棟のうち約１０％が中規模の破壊されると結果が出ております。

昭和５３年６月に発生いたしました宮城県沖地震はマグニチュード7.4、震度５の強震でありました。地震震源地に近い宮城県では死者２７名、負傷者１万９６２名倒壊破損等の住宅被害が１７万6,１１３棟、ほか都市機能施設に多大の被害をもたらし、被害総額は約2,６８７億円余りとされております。宮城県における死者の原因を見ますと、屋外におきまして道路等を歩行中、あるいは遊戯中にブロック塀、門柱等による原因とされているものが１７名、６３％を占めております。そのほとんどは１０歳以下もしくは６１歳以上の老人が多く、死者数の約

７０％を占めておるとされております。八王子市では、宮城県沖地震を教訓に５５年より５カ年計画で市内の通学路、災害どきの避難場所に通ずる幹線道路沿いのブロック塀などの実態調査を続け、市内１万３６６カ所の調査のうち、５4.６％倒壊の恐れがあり、そのうち7.２％が特に危険な状態で、直ちに大改修をする必要があると報告されております。

そこで、第１点の質問といたしまして、５７年の第４回定例会におきまして、防災対策につきましての一般質問を行いまして、その後、避難道路、通学路のブロック塀の調査、対策の推進状況はどのような状況に進展されておりますかお聞きいたします。

第２点目といたしまして、狭隘道路は災害や避難活動、防火活動といった人的空間の最低条件の道路幅４メートル ── 安全性の最低条件の道路幅を確保することは当然のことと考えますが、５７年の第２回定例会のその後の進捗状況をお聞きいたします。さらに、日野市の消防署より、管理課へ要望事項の中に、狭隘道路のうち、道路の角切りをすれば消防車両が消火活動等に利用できる場所もあり、早急に対策を講じていただきたいという要望書が出ておりますけれども、それについてどのような取り扱いになりますか。お考えをお聞きいたします。

過去の大震災で地割れや陥没が起こり、水や砂が地上に吹き出してきたという液状化の兆候がはっきりとしている記録は、東京地方では安政の東海地震、それから、安政の江戸地震、東京地震、それに関東大地震の四つとされております。三多摩地域におきましては人口が少なかったせいか地震の地盤災害の記録が残っておらず、被害の様相はつかめていない状況であります。そこで、液状化予測の調査は５８年３月東京都におきまして「東海地震が東京に与える影響に関する基礎調査報告書」では、平山一丁目と六丁目に液状化の可能性の大きい地点が見出されたと報告されております。さらに、５８年３月の報告と、６０年５月、東京都防災会議における「多摩地域における地震被害の想定に関する報告書」におきましても、浅川が多摩川に合流する地点で広い沖積低地が存在しているが、一般にれき層が地表近くまでにあり、特に不安定な地盤とは言いがたいが、れき層の上部には砂分の多い層が２ないし３メートルの厚さで堆積しているので注意を要すると報告されております。

３点目の質問といたしまして、このように液状化現象が起こりやすい地域についてどう把握され、また対策をとられるお考えをお持ちになっておるかお聞きいたします。

地震どきの場合と降雨どきでは、がけ・擁壁の崩壊機構は異なるとされております。地震どきでは震動、震動加速度により土塊、石塊などがばらばらになって崩れ落ちる現象であります。

降雨どきにおいては、土中の含水量の増大が土の強度の低下を引き起こすことによる滑りの現象であります。外力は異なるにしても、降雨どきに崩壊する危険度の高いがけ・擁壁は、一般的にも地震どきにおいても総体的に危険度は高いと考えられております。がけ・擁壁に関する指導要領によりますと、区部の被害件数のうち、盛土自然崖を問わず勾配が急であることが原因と区分されているものが５５％を占めております。崩壊した擁壁の構造欠陥といたしましては、不完全な石積み構造で高さが高く、勾配が急なもの、及び水抜き穴が不良などが取り上げられております。全国的に見ましても傾斜３０度以上で、がけ崩れの危険カ所は７万2,２５８カ所とされ、被害を受けそうな家屋は約１１０万戸、住民は約７５０万人にも上るとされております。

国際航業の地質海洋事業部から出されました都市防災調査の方法と実際の中で、斜面災害危険度分類図によりますと、南平二丁目の新南平台団地、程久保４００番地台の高幡台団地地域は、危険度Ｂランクに指定されております。また、その周辺におきましても、危険度Ｃランクに指定されております。また、この地域は集中的な危険地域ともされております。

東京都防災会議による「多摩地域における地震被害の想定に関する報告書」によりますと、三多摩を１辺５００メートルのメッシュ内に含まれた危険ながけ・擁壁の個所数を数え、メッシュ内に含まれている危険ながけ・擁壁の頻度分布図により危険度を推定しました結果によりますと、危険度０～５の６ランク中、日野市の多摩丘陵地域は危険度最高の５ランクは２メッシュ、危険度４ランクは１０メッシュ、危険度３ランクは１１メッシュとなっており、南部の多摩丘陵北斜面の地域であり、民間の宅地造成でもあり、危険個所密度が高い地域とされております。さらに、判別解析で危険と判定されたがけは９４件中４７件にも及び、危険と判定されました擁壁が２１９件中７３件、３3.3％ともされております。特に南部地域の丘陵地帯に集中されております。

ここで質問４点目といたしましては、判別解析で危険と判定されておりますがけ４７件につきまして、日野市ではどのような把握をされ、また対策を考えているかお聞きいたします。さらに、危険とされていますがけ・擁壁をどのくらい把握されているかお聞きいたします。

質問５点目としまして、危険とされていますがけ、擁壁７３件中、特に平山苑、平山七生台団地の京王研修センター北側地域。それから、南平二丁目の南平台団地北側地域、多摩動物園周辺地域等の危険とされている地域の現状と安全対策はどのようになっておりますかお聞きいたします。

それと、第６点目といたしましては、以上の危険個所について、過去調査された経緯がありますのか、また、ありましたら調査された状況を教えてください。

まずその６点についてお願いいたします。

○副議長（米沢照男君）　馬場繁夫君の質問についての答弁を求めます。生活環境部長。

○生活環境部長（坂本金雄君）　お答えいたします。

第１点目のブロック塀の調査の件でございますが、５７年の第４回定例会におきまして同じ馬場議員さんから質問をいただきました。そのときのお答えと同じお答えになりますが、建築基準法の施行令第６２条によりますと、ブロック塀の中の鉄筋は、それぞれ縦横８０センチを間隔にして入れなければならないという規定がございます。ブロックの高さは１辺が２０センチ、横幅が４０センチでございますので、２枚ごとに１本の鉄筋、それから、４枚ごとに横の鉄筋が入っていなければ、この施行令に違反することになります。宮城県地震につきましては、ブロック塀による被害が大変多く発生をいたしましたけれども、倒壊したブロック塀につきましては、この施行令どおりの鉄筋が入っていなかった例が非常に多かったわけでございます。また、この施行令どおりの鉄筋が入っておりまして、土台がしっかりしなかったものは、上が崩れることなくばっさり倒れまして、これもやはり被害を大きくした一つの原因になっております。

したがいまして、縦横８０センチの鉄筋と根入れが十分なブロック塀、そして、高さが３メートル以内という規定を建築主の方に遵守をしていただく。こういうことになります。すでにでき上がっているブロック塀につきましては、規定どおりの鉄筋が入っているかどうかを確めなければならないわけですが、八王子市においては、その調査をすでに行っております。日野市におきましては、鉄筋が規定どおりに入っているかどうか── シワーサーチという機械がございまして、磁石を使いました機械で、ブロック塀に当てますと磁石が反応いたしまして針が振れるような機械ですけれども、この機械を各自治会単位に貸出しをしております。この機械によって鉄筋が規定どおり入っているかどうかを見ていただく。こういうことになっております。

それから、液状化の問題でございますけれども、水を含んだ砂が一時的に非常に濃い濁った液に変わる現象が液状化と言われております。この液状化の現象を起こしました砂は、普通支

持力が著しく低下をいたします。御質問の中にもございました３９年の新潟地震の折に、直方体の鉄筋コンクリートの集合住宅がころころころがっている写真がまだ記憶にございますけれども、あれは液状化の災害を起こした一つの例でございまして、砂地に多く発生をし、さらに水分を多く含んでいるような土地柄に発生をいたします。「多摩地域における地震被害の想定に関する報告書」東京都防災会議が出された報告書を見ましても、そういうことが書かれてありまして、市内で２カ所ほど危険地域があると。こういう指摘がございます。この指摘は、１辺が５００メートルのメッシュに黒く塗りつぶした表現でございますので、何丁目何番地のどこというように細かい特定ができておりませんけれども、今後行政がやるべきこととして、この防災会議の液状化現象が起きやすい地域を正しく把握すると、こういうことは必要でございます。したがいまして、防災会議等も連携をとりまして、詳しいデータの収集に努め、また、新潟などの各地の被害例を参考といたしまして、正確な状況の把握に努めてまいります。なお、その情報を正確な把握に努めた後、その付近の方に、液状化現象が起こりやすい地域がどうかということをお知らせするかどうかについては、いたずらに不安感をあおるようなことになってもいけませんし、消防委員会などの御意見も十分参考にいたしまして、間違いのない判断をしてまいりたいと思います。

それから、がけ・擁壁などの件でございますけれども、一定規模以上の造成工事につきましては、日野市は都市計画課が窓口となりまして、東京都がその許可を行っています。宅地造成規制法を施行以前の造成地であっても、危険個所と見られるがけ地等につきましては勧告を行えることになっております。その場合に、都市計画課の窓口を通しまして都に要請をしてまいります。

以上でございます。

○副議長（米沢照男君）　答弁漏れ、狭隘道路について。道路の角切り問題で消防署から要望書か何か来ているんですか。生活環境部長。

○生活環境部長（坂本金雄君）　先ほどの御質問では管理課の方にそういう要望が消防署から出されているという御質問でしたので、私は答弁を差し控えたんでございますけれども、具体的にその場所がどこであるか。そういうことがはっきりいたしますれば、関係部署と協議をいたしまして検討を加えたいと思います。

○副議長（米沢照男君）　馬場繁夫君。

○７番（馬場繁夫君）　第１点のブロック塀等の調査の件でございますけれども、いま部長の答弁によりますと、５７年の当時とまるで進展がないというのが現状であります。昭和５３年の９月に、宮城県沖の地震の調査ということで議会から７名、事務局２名現地調査に行っておりまして、その報告書も出されております。非常に議会のそのような状況も踏まえて、本来ならもう少し進展をしていただいても結構だと思うんですけれども、なかなか現実的には進展してない状況があります。特に、今回の地震の東京都の想定の中におきましても、今回日野市の中で倒壊件数として推定されておる件数は、ブロック塀が1,８１１カ所、石の塀が７４１カ所、倒壊する危険性があるというふうに調査報告がされております。そして、そのうち死者が２名、重傷者が４名出ると推定されております。小中学校の通学路におきまして小学生が中学生が通学しているときに、そのような地震が起きた場合は、これ以上の被害が出ることが十分考えられます。また、八王子市では５３年の被害状況に踏まえ、すでに５５年から５年間を調査いたしまして、そのうちの５４.６％が倒壊の恐れがあると。そのうちの7.２％が特に危険な状況であるというような報告結果も出ているわけです。日野市におきましても、もう少し早くそれの調査をいたしまして、危険が極力少なくなるような対策をとっていただきたいと思います。

それから、狭隘道路につきましても、土地を買収して本来は広くしていただきたいと思うんですけれども、いま、一部の角切りを広くすることによって、緊急事態が発生した場合、消防車両等が進入し消火活動ができるということでありますので、何とか一部の角切りであれば予算的にもそれほど大きな金額もかかりませんので、これにつきましては早急に対策を考えていただきたいと思います。

それと、液状化現象につきましては非常にむずかしい問題もありますし、先ほど部長の答弁がありましたように、正しく情報を把握した上で、地域の市民の皆さんにお知らせするかしないかという問題ありますけれども、やはりこれは正しく情報を把握した上で、東京都の防災課とよく相談した上に、やはり地域の方にその実態をよく教えてあげていただき、建築物を建てる場合においては、その対策も十分とれるような方策をぜひともやっていただきたいと思います。

それから、斜面またはがけ等の諸問題におきましては、非常に日野市におきましても一番危険な場所でありますし、最近のいろんな報告によりますと、たとえば多摩ニュータウンの造成

地で総合的な調査が行われました。それによりますと、造成部と既存地盤との境界面では新たな震波が発生することによって、造成の内部で反射を繰り返すために、造成部では他の部分よりも長く震動が続くとされております。地震の強度につきましては、切り土とも盛り土とも大した差がないということでございますけれども、地震の揺れる継続時間は約２倍近くまでも達しているとされております。

そのような状況でありますので、造成地につきましては非常に局部的に危険が伴い、がけとか造成地が破壊し大きな被害が予想されることは間違いありませんので、これにつきましては、もう少し具体的に市といたしましても東京都の調査事項を踏まえた上で、十分調査をして正しくまず把握をして地域別に安全な対策を講じられるようにしていただきたいと思いますけれども、それについてもできましたら御答弁のほどひとつよろしくお願いいたします。

○副議長（米沢照男君）　　再質問についての答弁を求めます。生活環境部長。

○生活環境部長（坂本金雄君）　　東京都防災会議が出されました「多摩地区における被害想定に関する報告書」本誌は大変分厚いものでございまして、まだすべてに検討を改えたわけではございません。概報について目を加えた程度でございますので、これから本誌につきましてもすべて目を通しまして、詳細かつ具体的な対策について市の方針を決めてまいりたいと思います。

○副議長（米沢照男君）　　馬場繁夫君。

○７番（馬場繁夫君）　　どうも南平二丁目付近の宅地造成におきましては、非常に造成法が施行される前の工事でありますし、今回１０号通りですか――１０号通り、１３号通りを市で舗装していただいたときに、U字溝が従来は目地がはがれておりました。そこから水が浸透することにより、市民の皆様は大変心配しておりまして、その一部を今度舗装のときに修理していただきまして大変喜ばれておりますけれども、やはりがけ地・造成地につきましては個人で修理するのは大変に負担もかかりますし、なかなか金額的にもできるはんちゅうでありませんので、十分調査して危険と思われる場所が指定されたならば、貸し付け助成の方法により、早急に工事ができるような対策も十分とっていただきたいち思います。また、非常に豪雨が来た場合は地震と同様に危険地域でもありますので、たとえば何ミリぐらいの雨が降ったならば、その地域は危険な地域なので、どっかの地域地区センターなり小中学校に避難するというような、その辺の一つの基準もあわせて検討してつくっていただきたいと思います。いまま

でに大きな造成地に被害がなかったのは不幸中の幸いでありまして、今後気象状況も非常にいままでのような気象状況とは変わってきております。いつ何どき雨量が予想をはるかに超えた場合も出ることも十分考えられますので、いまからその対策も十分考えていただきたいと思いますので、ひとつよろしくお願いいたします。

災害どきに周辺に保護するものがいないケースが多いと考えられる１人暮らしの老人、障害者の安全保護は防災都市づくりを行う上できわめて重要な課題の一つであります。使用中の火の始末については、宮城県沖地震復興対策室調査等の結果によりますと、市民全体の９０％以上の人が処理をしているのに対して、１人暮らしの老人では、火の始末の割合がきわめて低いと報告されております。これによって２次災害の危険性を大きく含んでおることになります。

世田谷のケーブル火災で１０日間にわたり電話が不通になったときに、地域で１人暮らしの老人の多くが家族とも連絡もとれずに取り残された実態が、都立大学都市研究センター等の調査で明らかにされました。それによりますと、対象者のうち８３％が電話を持ち、そのうち６５％が電話不通で非常に困ったと不安感を訴えておりました。老人たちが電話が不通の間に受けた援助といたしましては、私的援助があった人は２９％、公共機関の援助活動を受けた人は２２％とされております。これでは、いざというときに避難や安全対策が受けられない状況等が十分考えられるわけであります。大きな災害発生のときは、子供とか近所の人にも被害を受けることがありますので、これ以上の老人が取り残されてしまう危険性が高いとも指摘されております。特に１人暮らしの老人や障害者など、防災弱者に対して早急に対策を構じる必要があろうかと思います。

質問７点目といたしまして、１人暮らし老人や障害者の対策はどうされておりますか。お聞きいたします。

質問８点目といたしまして、目の不自由な人に、防災の知識や心得、避難場所等に関する点字防災読本を配布する考えがあるのかお聞きいたします。

宮城県沖地震における病院・診療所などに、被害は建築物自体よりも設備や医療機器等の破壊が著しいとされております。仙台市医師会所属私的医療機関の被害状況によりますと、建物及び附帯設備に被害を受けたもの６９.５％の３４６施設であります。特に修理を要するものは１１２施設に及んでおります。ガスの停止は長期間にわたり、消毒、給食不能となり、多大の影響を受け、この被害に対してプロパン器具の購入、加工不要食品の確保等で対処し、外科系

医療機関では煮沸消毒が不可能な状況となり、薬物消毒で急場をしのんだとされております。休診状況は翌日から１４.１％の５０医療機関が１日から７日間の休診を余儀なくされております。地震による負傷者数は3,１４１名で、負傷者の原因は外科、整形外科に属するものが74.6％、1,８１６名に及び、地震当日に1,６８７名、５3.7％が受診されております。

死傷者予測値によりますと、三多摩では死者1,６５８人、負傷者１万5,３９７人とされており、地域的には八王子、町田、日野、多摩、稲城市などに集中的に被害が発生する危険が高いとされております。日野市の死者数は６１名、負傷者数は５５７名と推定されております。医療活動は医師会の協力のもとに行わなければならないかなりの部分は、市立病院で行わざるを得ない状況になることは、宮城県沖地震の状況からも予測されておりますが、市立病院の防災対策についてお伺いいたします。

質問９、建物及び附帯設備は、震度５の地震に十分耐える状況であるか。また、入院患者の安全確保は十分できるのかお聞きいたします。

質問１０、さらに、医薬品類等により火災の発生する対策は十分行われているのかお聞きいたします。

質問１１、さらに、食料品、飲料水等の確保。さらに、電気、ガスの確保は十分対応できる状態にありますのかお聞きいたします。

質問１２、それから、入院患者、避難対策は安全に確保できる計画になっておりますのかお聞きいたします。

質問１３、さらに、災害より負傷者の受け入れは十分対応できる状況なのかについてもお聞きいたします。

５８年東京都防災会議地震部会で、各消防署の協力を得てアンケート調査を実施し、その調査結果の発表によりますと、警戒宣言が出た場合の行動は「老人や子供を避難させる、６２％」「自分も避難する、３３％」「会社から自宅に電話をする、６０％」「食料など買いに行く、５３％」「預金を引き出す、２５％」と、パニック行動を起こしやすい状況になっておると言われております。

都政モニター５００人を対象に防災の日の直後アンケート調査によりますと、警戒宣言が出た場合の対応措置を知っているかどうかとの問いに対して「余り知らない」「全く知らない」と答えた人が合わせて５8.8％にのぼり、ほぼ３人に２人が対策を知らない結果が出ております。

さらに、都内1,３２６カ所で一斉にサイレンを流したほか、消防車合計６１８台もサイレンを鳴らしました。ところが、モニターアンケートでは５２％の人がこのサイレンを聞かなかったと答えておりました。また、アンケートによりますと、都のＰＲは不足であり、宣言発令どきに都民がとるべき対応措置を、各家庭、職場に配布してほしいという声も出ているそうであります。

ここで質問いたします。質問１４、日野市地域防災計画では、警戒宣言が発せられた場合の社会的混乱を防止するために防災無線の充実、広報車の整備、情報連絡体制の整備を図るとされておりますが、どのような計画をされておりますのか。特に、警戒宣言の対応とＰＲについてお伺いいたします。さらに、市内のがけ崩れなどの危険地域、地盤の弱いところなど、災害危険地域等を図で示し、災害発生どきの注意をイラストで説明したり、警戒宣言の内容を明記した防災読本をまとめて市民に配布することが必要であろうと思いますので、お考えをお聞きいたします。

質問１５、防災無線がほぼ完備されてきた状況の中では、災害どきに情報不足から防災活動が出おくれたりパニックが起きないよう、さらに災害どきの情報だけでなく、行政放送や時報などの放送も行い、市内全域にカバーする防災行政無線を設置する時期に来ているんではないかと考えますが、どのようなお考えを持っているかお聞きいたします。

すでに、もう多摩市、狛江市、立川市、昭島市等でも、すでに防災行政無線が設置されていると聞き及んでおります。また、防災行政無線施設が設置されたとしても、聴覚障害者には聞こえない。そこで、災害発生どきに防災行政無線から流れる電波をキャッチして、フラッシュまたは振動を起こす小型バイブレーターを設置し、聴覚障害者でも災害を知ることができる受信装置を、防災行政無線と併行して設置することはできないだろうかお聞きいたします。

通常であれば、すぐに来て消火活動をしたり、けが人を運んでくれる消防隊も、大地震のように広い地域にまたがり災害が発生した場合は、十分な活動が行われないことは十分予測されるのであります。地震から身を守り、被害を最小限に抑えるためには、市民１人１人が自衛意識を持つとともに、地域の人々が町ぐるみで協力し合える自主防災組織による防災活動が必要とされることは周知のとおりであります。市民自主防災組織は、東京都が５６年「防災市民組織の充実強化に関する報告書」を発表して以来、自分たちの町は自分たちで守ろうと、自主防災組織が進められており、区部の組織率が平均９０％に近い状態であるのに対して、三多摩で

は平均組織率が３０％と大変低いのであります。組織率１００％が青梅市、福生市、狛江市の３市であり、結成がゼロ市は日野市を含み７市あります。質問としましては、自主防衛組織についてどのような型で検討され、結成はいつごろになるか状況をお聞きいたします。

以上についてお願いいたします。

○副議長（米沢照男君）　　生活環境部長。

○生活環境部長（坂本金雄君）　　お答えが多少前後いたすかと思いますが、私の方から先にお答えさしていただきます。

最初に、医療救急体制でございますけれども、災害時の行政側の役割り、それから、一度に広い範囲に災害が発生することも十分予測できます。そういう場合に行政側がすべての地点で活動に当たることは非常にむずかしい面がございます。そこで、地元でもって応急的な処置をとることも非常に大事な部門になるわけですが、医捺体制につきましては、日野市地域防災計画にもございますように、医師会の協力を得まして、医師、看護婦、それから、事務職、そういった方々を一つの班に編成いたしまして用意してございます。対策本部を通じまして、それらの班に出動命令が下せるようになっております。

それから、災害情報ですが、東海型の地震の発生が予想される場合には、東京都より、まず無線電話でもって日野市に情報が入ってまいります。その直後にファクシミリを通しまして詳細な図面などもつけたものが送られてまいります。そうしますと、日野市から消防、警察署に連絡をいたし、それから、各消防団にも連絡をいたします。で、消防・警察・消防団が一体となりまして付近の住民の方たちに災害の情報を、広報車などを通じまして流すわけです。市は、その間連絡調整に当たることを主たる仕事といたしますので、直接の広報活動にはタッチいたしませんけれども、その間に非常配備体制などを整えて災害に対応する態勢をつくり出します。現在、無線機につきましては、６０年度で８０局体制が一応完成をいたします。来年度以降につきましては、同報無線なども検討をしてまいりたいと思っております。

さらに、自主防災組織でございますけれども、自主の名のとおり、これが各地域からおのずと盛り上がってきた組織でなければ余り意味がない。こういう立場から、私どもはいままで積極的にこの問題にタッチをいたしませんでした。各自治会の組織を調べてまいりますと、南平あるいは日野台の自治会に防災部というような部がございます。防犯部という部は、大体どこの自治会にも置いてございますけれども、防災部という部が置いてございます。こういう部が

置いてあることこそ本当の自主防災組織であって、行政側が手をかければかけるほど、それは自主から遠ざかっていくような気がいたすわけです。しかし、まず応急的な態勢は地元で自分たちの手でやってもらうと。こういうたてまえからこの必要も出てくるわけでございまして、おくればせながら本年度の消防委員会に、自主防災組織についての考えを取りまとめていただいております。これは、毎年１年間で終わる予定を少し延ばしまして、２年間で自主防災組織についての考えをまとめていただく。こういうことで消防委員会にお願いをしてございます。

あと、市立病院、医療体制、障害者、それから、水の問題などにつきましては、日野市地域防災計画の中で、それぞれ各部に割り当ててございますので答弁をいたします。

○副議長（米沢照男君）　　病院事務長。

○病院事務長（大貫松雄君）　　それでは、９点目の市立病院の防災対策という御質問にお答えいたします。

まず薬品の確保でございますけれども、これは、現在十分確保をしてございます。それから、入院患者の避難の訓練でございますけれども、これは、年２回実施してございます。これは、消防署の方の立ち会いで行っておりまして、入院されている方も歩ける人は１階までおりていただくというふうな訓練でございます。消防署の講評も良好ということでございます。それから、食糧、水、電気等の対策でございますけれども、まず食糧でございます。入院患者を対象とした病状に即した品物を数日分備蓄してございます。これは、熱しなくて水のみでできるものでございます。それから、飲料水は、耐震の構造の９０トン槽を院内に設置してございます。それから、電気でございますけれども、ある程度の手術ができる非常用のディーゼル発電機、これを設置してございます。それから、負傷者に対して対策でございますけれども、災害の差によりますけれども、たとえば強度の場合には現状の診療棟が大分老朽化してございます。そういう中で市立病院がその時点の全面的な対応ということは、現時点では非常に危惧するところでございますけれども、その差によっては市立病院でも十分行えます。そういうことで医療、それから、防災関係の機関の具体的な面の協議が今後必要と考えられます。

以上でございます。

○副議長（米沢照男君）　　福祉部長。

○福祉部長（高野　隆君）　　１人暮らし老人及び障害者の防災対策についての対応ということでございますが、防災計画の中の一部としての取り組みということで、具体的な今後

の計画の中で検討すべき内容だというぐあいに考えておるところでございます。

○副議長（米沢照男君）　　馬場繁夫君。

○７番（馬場繁夫君）　　老人とか障害者の方が安心して生活できるように、十分その対策は考えていただきたいと思います。特に震度５の地震が発生した場合は、重い家具も移動したり倒れるということもあるとされております。さらに、たんすとか細長い家具、テレビも倒れると。また、冷蔵庫、ピアノ等も倒れることがあると。棚の上のものはほとんどすべて落ちてしまうというのが震度５度というふうにされております。特に老人の方とか障害者の方は、そういうような家屋内での家具の倒壊等によりましてけがをすることも十分考えられますので、十分その対策もまた苦慮していただきたいと思います。夏井議員が前に、たんすガードを設置したらどうかというふうな提案もされたこともありますので、さらにその辺の推進もあわせてよろしくお願いいたします。

特に、先ほども述べましたように、災害が地震が発生した場合、火の始末に対しても一般の方は９０％が火の元栓を締めると。ところが、１人暮らしの老人になりますと、なかなか手が回らないというような実態が報告されておりますけれども、今後、都市ガスとかＬＰガスの遮断装置が最近いろいろと開発されておりますので、１人暮らしの老人につきましては、ある程度の震度４とか５の地震が発生しましたら、自動的にガスが遮断され、火が消えるというような部分を十分福祉事務所では検討していただきたいと思います。特に、防災ケアとか老人に非常に行き届かない面が多くありますし、また、災害の後の老人の防災ケアにつきましては、ほとんど対策もないのが実情となっていることと思いますので、これも総合的に前向きな検討をしていただきたいと思います。

病院につきましても、患者を治療する側にある病院が、災害でその対策がとれないということになった場合は大変に不安感も増長しますし、その辺につきましては十分検討していただきまして、危険があるところにつきましては対策もとっていただきたいと思います。さらに、現状の病院の施設では、なかなか耐震もしにくい部分もあるというふうに聞き及んでおります。今後、市の行政におきましても、他の総合病院を誘致するのか、それとも日野市の総合病院を、さらに新しく建てかえて本格的な高度医療も含んだものにしていくのか。十分その辺について近い将来結論を出していく時期が来ているんではないかと思いますので、市長の英断を期待をしているところでございます。

それから、自主防災組織でございますけれども、先ほど部長から答弁がありましたように、市民の皆様の方から盛り上がった組織が、当然そういう組織が一番重要でありますけれども、なかなか現状におきましてはそれにまだむずかしい部分もありますので、まず危険な地域と予測される地域におきましては、市民の皆さんにその事実をお知らせした上で、まず行政の方からそういうような市民防災組織ができるような助成をしていく、援助をしていく。また、いろんな面で地域の皆様に応援をしていきながら、それがどんどん盛り上がって、大きな自主防災組織にしていくということが重要ではないかと思います。だから消極的じゃなく、もう少し積極的にその問題を取り上げていただきたいと思います。特に南平、平山地域の丘陵地帯で危険のあるところにつきましては、その辺につき十分にやっていただきたいと思います。

最後に、総括的に市長に、東海地震が想定した場合、または豪雨による災害等を含んだ日野市地域防災計画の現状と今後の課題というか推移について答弁お願いいたします。

○副議長（米沢照男君）　　市長。

○市長（森田喜美男君）　　災害のことを考えますと、なかなか十分な対応ということがいか困難だということを思いめぐらすわけであります。ただし、日野市は都市計画の手法におきましても、ふだんの行政の中で、災害に強い町を期するという意味で行政指導等に特に力点を置いておると、こういう状況であります。それで、災害時の水でありますとか、あるいは食糧でありますとか、医療体制でありますとか、そのほか一応防災計画ということで計画としては持ち得ておりますし、年々それを改訂いたしまして、より役立つ体制をつくろうということで年々努力をいたしておるところであります。

東京都の都市計画当局から、みずからの調査で災害診断という資料もときどきいただきますし、また、具体的な消防庁を中心とする――われわれの市では消防署でありますが、この関係からも専門的な体制づくりに努力をされるにあわせて具体的な――いま質問の中にありましたような災害時に対しますブロック塀でありますとか、擁壁でありますとか、あるいは土壌の状況でありますとか、いろいろ指摘もあるわけでありますが、それを私有財産の場合、その該当者にお知らせをするということをするのが、果たして適切であるかどうか。

このあたりにまだ結論を持ち得ておりません。一般的に万年塀等が経験上災害の要因になるということも言われておりますので、これに対しましては自分で安全度を調べていただく――そのような備品をお貸しをできる。こういう状態はつくっておるわけであります。防災行政をより緻密にするため

には、やはり具体的な課題を日常的に住民の方々に理解をしていただき、有事の際の対応を考えていただくということが重要だと思っておりますので、努めて訓練等の際に地域の関心を求めておるところであります。

自主防災組織ということにつきましては、私は日ごろ考えますのに、防災という用語は、あるいは防災という仕事は、これは行政側の仕事であると。住民の方に防災ということを余り強調して、そして、危険を冒されるようなことがあっては、かえって適切でない。むしろ住民の方には避難という形で、いかに生命を守るかということにのみ、まず一段階は集中していただくと。これが行政側から考える自主防災であるべきではなかろうかとこう思っております。したがいまして、避難ということにつきまして十分意識を高めますとともに、また、避難路等の日常的な認識を持っていただく。避難場所というのを公共施設の学校等を中心といたします広場を持つ、あるいは建物のある場所を指定いたしておりますが、これは災害時の、つまり行政側が給食でありますとか、あるいは応急医療でありますとか、そういう避難場所としていっとき生活をする場所だということでありまして、そこに災害時にすぐ駆けつけるということでは、かえって判断を誤ることもあろうと思いますので、そのことも強調しておるところでございます。ふだんの心構えこそ大切でありますので、行政といたしまして、日常的な町づくりの安全な都市づくりへの努力と、それから、住民の方々の判断に必要なそういう条件と、また、情報を提供していくと。こういうふうに考えたいと思っております。なお、日々今後も努力をし、いろんな体制の整備を行っていきたいというふうに考えておるところでございます。

○副議長（米沢照男君）　　馬場繁夫君。

○７番（馬場繁夫君）　　いまの市長の答弁によりますと、自主防災組織と―住民の側は避難することが一番優先していただきたいというようなお話でありますので、特に避難する場合の避難通路に関して、特にブロック塀とか非常に危険がありますので、それについて市長がそのようなお考えであるんであれば、もう少し具体的に、かつ積極的に住民の側がブロック塀等を調査するところじゃなくて、行政の方が主体的にその問題を取り組んで、危険なブロック塀等がある場合は、その持ち主の方にお知らせをして直していただく。また、どうしても資金的にむずかしい場合にあれば貸し付けをする。何らかの対策を考えていって、初めて市長のいうような趣旨になろうかと思いますので、その辺につきまして十分考慮してやっていただきたいと思います。

現在、警戒宣言に伴う対策の処置というような形で出ておりますし、日野市の地域防災計画に基づきました実施計画、並びに整備計画をもう少し明確にいたしまして、場合によれば５年とか３年の計画の中で、それを具体的に単年度の予算をどういうふうにつぎ込みながら行っていくか。また、特に人命の安全確保という部分に最重点を置きながらやっていただきたいと。その辺については非常に不明確な部分がありますので、それを今後早急に実施計画、または整備計画をもとにしたものを早急につくっていただきたいと。こういうことを強く要望いたしまして質問を終わらしていただきます。

○副議長（米沢照男君）　　これをもって１１の１、地震、水害における斜面災害防止、安全避難対策等における防災計画の現状と今後の課題に関する質問を終わります。

お諮りいたします。議事の都合により暫時休憩いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（米沢照男君）　　御異議ないものと認めます。よって暫時休憩いたします。

午後３時３７分休憩

午後４時　３分再開

○副議長（米沢照男君）　　休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問１２の１、ワンルーム、マンション等への対応についての通告質問者、馬場弘融君の質問を許します。

〔８番議員登壇〕

○８番（馬場弘融君）　　議長のお許しをいただきましたので、通告に従いまして質問をいたします。大変お疲れだと思いますけれども、もうしばらくおつき合いをいただきたいと思います。

最近、八王子市や町田市など近隣各市でも問題になっておりますワンルーム・マンションへの市の対応について伺いますが、この地図で説明をいたしますと……（図示）場所は中央線の日野の駅の北東部でありまして、駅から歩いて３分ほどの日野本町の一画、面積約１１０坪という小さな敷地に、３階建て３５室の、いわゆるワンルーム・マンションの建築が予定をされております。この地域は中央線のすぐ横でありまして、住宅が密集している。道路は狭く不十分でもある。公園などの公共スペースもない。こういった関係から去る５７年の１２月、地元

の自治会長以下約２００名の方々から、市街地整備の請願が提出をされております。本議会でも、その請願の趣旨を了とし、昭和５８年６月に採択をしている。こうした経緯がある地域であります。ですから、地元では、この狭い敷地にワンルーム・マンションが建設をされたら、さらに住環境の悪化を来すのではないかという心配を強めており、反対運動へと盛り上がっている状況でございます。日野市としても、地域における良好な近隣関係の保持を図り、もって市内の健全な生活環境の維持向上に資するため、「住みよい町づくり指導要綱」さらには、昭和５９年の７月以来「日野市単身者共同住宅等建築物の建設に関する指導指針」なるものを設け、いわゆるワンルーム・マンションに対する一応の規制を考えているようでありますが、今回のように現状でも良好とは言えない生活環境の中に、ワンルーム・マンションを建設しようとする計画に対し、市としてはどのような指導をし対処をしていく考えなのか。まず大づかみに第１点として伺いたいと思います。

次に、このワンルーム・マンションの計画には、さらに大きな問題点がひそんでおります。すなわち、このマンションをつくる業者は、６年前 ── 昭和５３年から５４年にかけまして、このマンションの用地を含む約2,２００平米を開発し、あわせて１３戸の土地つき２階建て住宅として販売をしている経緯があります。ちょっとこの資料をごらんいただきたいんですが…（図示）そのときの１３戸分の販売をするという広告であります。いまここで黄色く囲ってありますのが今回問題になっておりますマンションの敷地になっているわけであります。さらにもう１個の資料をお見せしますと ── これもちょっと遠いからおわかりいただけないと思うんですけれども、真上から見た図面ですけれども、１３戸ありまして、こちら側が３戸分が現在の問題になっているマンションの敷地になっております。このうち１３戸分のうちの１０戸については計画どおり売却をされたと。しかしながら、どういうわけかこちらの ── 道路側はここになります。（図示）こちら側は中央線ですが、道路側の３戸だけは更地のまま現在にまで残されているわけであります。そして、先ほど来申し上げておりますように、この３戸分のところが今回のワンルーム・マンション建設用地になっていると。

そこで、問題点の第１でありますけれども、この売り主 ── １３戸を当初売ろうとした売り主が、１０戸の購入者に対して、この敷地には建築基準法第６９条に基づく建築協定が結ばれますよということを明記したこういう物件説明書 ── 家を買うときに物件説明書というのがありますけれども、この物件説明書にちゃんと建築協定が結ばれますよということを書いている。

さらに、建築協定書の案文 ── こういった案文でつくりますよという業者名が入った ── 判こはないんですが、業者名が入った協定案も手渡しているわけであります。

その協定案によりますと、この中につくる建築物は２階までしか建てられません。さらに、共同住宅を建ててはいけません。こういう案文なんです。つまり、当時この１０軒をお買いになった方々 ── いまでもお住みですけれども ── は、この地域には一番道路方の３戸も含めて３階以上のものは建たんなと。あるいは、共同住宅は建たないなということを、文書の約束はないんですけれども、そういう資料をもとに、そういう想定のもとにお買いになっているわけです。そういう事実があります。業者にしてみれば、そういう建築協定をつくるというお話はしたけれども、市には正式には届けをしなかった。だからそういう建築協定はないんだと。もともとないんだという言い分で、ですから、いまここに３階建ての共同住宅をつくっても何ら法律違反ではない。こういうのが業者の言い分であります。

問題の第２点。第２点はこの広告でありますけれども、１３棟のうち１０戸だけを売って、残り３戸は売らなかったというわけですが、道路側の３戸は、実は１０戸を買われた何軒かの方が、ここを欲しいといって買いに行っているんです。ところが、だれも、もうすでに売約済みですよということを言われているわけです。ですから、一番初めにお買いになったのはこの辺に住まわれた方です。初めから売約済みになっていたと。で、売約済みになっていたそれぞれの名義が現在どうなっているかということなんです。この開発をした業者・会社の名前が一つ。社長の名前が１軒。社長の奥さんの名前が１軒。つまり初めから１３戸を公募しますよという広告を出しておきながら、公募したのは実は１０戸であって、残り３戸分についてはリザーブしておいたと。こういうことがわかっているわけであります。これらを当該業者によりますかなり違法性が高いと思われるいきさつを考えますと、このワンルーム・マンション計画に対する住民の反発もなるほどなという感じがするところであります。

そこで、質問の第２点といたしましては、この計画の確認申請の受理については、慎重にも慎重な配慮が必要かと思いますけれども、現在市としてはどのように対応し、今後どのように指導をしていくおつもりか。具体的に伺いたいと思います。

さて、以上でワンルーム・マンションの件は離れまして次の問題に移りますけれども、３点目としては、これとは別に、さきに問題になりました小笠原機械等もそうでありますが、いわゆる用途地域が準工地域の中に工業とは全く関係のない高層マンションがどんどん建てられる。

こういう状況が最近見えております。これについて、現在請願の審査中でもございます日野警察のわき、下町下河原地区の５階建て６３戸の高層マンション。この場合も全く同様でありまして、準工業地域になっております。もともと工場があったところの跡地にマンションをつくろうという、こういう計画であります。こういった準工地域であって、しかも道路も狭く公共用地もないこういった敷地。さらには、下町下河原地区の場合には、この地域が万願寺区画整理の第２期の区域に入っているというようなことも考えますと、市が今後良好な町づくりのために都市計画を進める際に、不都合が起こるかもしれない。こういうことも考えられる。

そこで、第３点目としては、いま申し上げた具体例を踏まえて、準工地域に工業とは全く関係のないこういった高層マンションが次々に建築をされていくということに疑問を感じていないだろうか。そして、市は、これらに対して現在どのような対応を考えているのか。また、どういう対応が可能なのかということを伺いたいと思います。

以上、３点お願いいたします。

○副議長（米沢照男君）　馬場弘融君の質問についての答弁を求めます。都市整備部長。

○都市整備部長（結城邦夫君）　それではただいまの３点につきまして私からお答えを申し上げます。

まず１点目のワンルーム・マンションの建設に当たって市の指導の内容でございますが、市といたしましては「日野市住みよいまちづくり指導要綱」を５３年の１１月に制定いたしまして、開発行為等の事業施行に当たっては、これに基づきまして行政指導を行っているところでございます。この中におきまして、最近建設されてまいります特に多くなってまいりました単身者用の共同住宅の建築物等につきましては、いろいろと地域で問題を醸し出しているところでございます。近隣の住民の方々にいろいろな不安を与え、かつ紛争が発生しているような状況でございます。これらの紛争につきましては、建物が関係法令に適合するものでありましても、住環境をめぐる社会的な問題として具体的な紛争が起きてきているというのが現状でございます。

単身者用の共同住宅等の建築物を建設するに当たりましては、紛争が発生しない ― 発生してからでは問題の解決が非常にむずかしくなってまいります。そこで、市では環境をめぐります諸問題に適切に対処するためには、昭和５９年の６月の１１日に御指摘のような「日野市単

身者用共同住宅等建築物の建設に関する指導指針」を定めまして、同年の７月の１日から施行をしてきておるところでございます。この指導指針は指導要綱を補完するものでございまして、その内容につきましては、建築主あるいは所有者等の責務、建設計画に当たっての建物構造の基準。そのほかに、建築後におきます管理の基準が定められておるところでございます。

したがいまして、これらの事業の建設等を行う事前に、要綱に基づきます事前協議におきましては、周辺住民にその計画内容を周知徹底させるために、指導要綱の２０条に基づきます標識設置について強力に指導を行っているところでございます。御指摘がございました件につきましては、当時の事業者でございます ― 現在の土地の所有者となっているタイトー建設株式会社に対しまして、９月の５日と昨日２６日に会社を呼びまして、いま問題になっております土地の販売時におきます建築協定等の問題について、誠意をもって解決するよう要請したところでございます。したがいまして、この問題が解決するまで事前協議等は受け付けないというような私どもの考え方でございます。

それと、準工業地域の最近高層マンションが非常に多くの要請が出てきて、建築させてほしいというようなことで申請が出てきております。これらの準工業等につきましては、土地の効率面からいきまして、工場跡地を民間デベロッパーで開発をするというために、買収するケースが非常に多くなってきております。市といたしましては指導は行っているところでございますが、法的にこれを阻止するという決定的なものはございません。そのように伴いまして、その対応については市の方としても、非常に苦慮をしているところでございます。都市計画上の観点から見れば、基本的には、その用途地域指定の趣旨からいきまして軽工業、あるいは工場等の立地が望ましいわけでございます。しかしながら、現実にはこれらの準工業地域は住工混在の傾向が非常に強くなってきているという一面もあるわけでございまして、市といたしまして、指導要綱に基づきまして工場地域について、または準工業地域につきましては、特に住宅等の開発を規制して純化を努めているところでございます。しかし、それ以外の地域 ― 用途地域につきましては指導は、特に工業地域、準工業地域につきましては、その指導が大変むずかしいという事情があるわけでございまして、これらの地域につきましては、今後の区画整理事業、あるいは地区計画制度の導入を図って対応をしていかざるを得ないであろうというふうに考えております。したがいまして、今後につきましては、これらの制度を導入するというほかに、用途地域の見直しも行っていく必要があろうということで検討をしているところでござ

います。

以上でございます。

○副議長（米沢照男君）　馬場弘融君。

○８番（馬場弘融君）　１点目、２点目のワンルーム・マンションについては、ともかく地元の方々との十分な話し合いが済まなければ事前協議には応じないというふうなお答えでありましたけれども、それももちろんそのとおりお願いをしたいわけでありますが、私もちょっと申し上げました建築協定のことなんです。実は、たまたまここに持ってきておりますけれども「日野市住みよいまちづくり指導要綱」これがつくられたのが５３年の１１月１日からなんです。問題の最初の開発行為が行われたのが、それより以前なんです。ということは「住みよいまちづくり指導要綱」の前の「日野市開発行為指導基準」というのがありましたが、それによっているわけです。この「まちづくり指導要綱」に基づいてもしいれば、この１８条の中に「建築基準法に基づく建築協定が施行されるよう必要な措置を講じなければならない」となっているんです。つまり一定規模の開発行為の場合には、必ず建築協定がつくられるように指導をしなさいよというふうに要綱に決められています。ところが、残念ながら以前の―― この要綱の前身といいますか「日野市開発行為指導基準」によれば、建築協定が結ばれるように努力をしなさいというふうな条文になっているんです。恐らくそういう関係で、当初準備までされ案文までつくられた建築協定が、市の強力な指導ができないでつくられなかった経緯があるのではないかというふうに思うんです。それにしても、前の指導基準に基づくとしても、市は建築協定が結ばれるように努力をしなさいというふうな規定があるわけです。ですから、それを受けまして、結局地元の住民の方々一番反発を感じているのはそこなんです。当初２階建てしかつくりませんよ。共同住宅はつくりませんよという案文まで見せながら、それをなかったことにして、全く違うものを今度つくろうとしていると。それに反発をしているわけなんで、それを問題を原点に返して―― 当初の建築協定がないわけですから、正式には。これをまた一番初めのように戻して、つくるような指導をすると。つくらせるような指導をするということはできないんでしょうか。これをお尋ねしたいと思います。

○副議長（米沢照男君）　都市整備部長。

○都市整備部長（結城邦夫君）　お答え申し上げます。

建築協定につきましては、御指摘のようにこの開発行為に当たりましては、以前の基準に基

づきまして指導を行ったところでございまして、義務づけるということはどきなかったわけでございます。そういうことで、指導を市といたしまして当時行ったわけでございまして、タイトー建設いろいろこの点について協議いたしまして、案文までも指導を行ったわけでございます。しかしながら、最終的に案文ができ上がりまして、市の方にそれを提出をする段階におきまして、建築協定の申請という形で文書が市の方に提出されるわけでございますが、市の方はそれを受けまして、東京都の西部建築指導事務社長の承認を受けるという運びになって、この協定が成立する運びになるわけでございますが、タイトー建設の方からはその申請書が市の方に提出はされなかった。これをまた強制する手段も当時はなかったわけでございます。したがいまして、出されないままに協定が締結されないまま現在に至っているというのが実情でございます。

したがいまして、この協定を前に戻して協定を結ぶということについてどうかという御質問でございますが、当時にさかのぼって協定を締結するということは非常にむずかしいかと思います。しかし、現段階でそういった問題があるならば、いまの時点で改めてまた協定を結び直すということは、これは可能かと思います。そのような指導もこれからは行う必要があるということで、そういった点についてもタイトーの方とは協議を行っております。

以上でございます。

○副議長（米沢照男君）　馬場弘融君。

○８番（馬場弘融君）　よくわかりました。いずれにいたしましても、八王子市のめじろ台の、やはりワンルーム・マンションの例をちょっと調べてもらったんですけれども、これは、市が早く確認申請書を受理してしまったために、その後から反対運動とかいろんな問題が出てきて、市が少し許可を延ばしたんです。裁判になりまして、結局和解をしたんですが、市が負けるといいますか、業者の言い分を聞くような形で解決をしておりまして、めじろ台の場合には、この１０月にはでき上がるそうです。そういうことがありますので、先ほども部長の答弁にもございましたけれども、確認申請の受理については慎重にも慎重にしてほしいと。協議に入る前の段階ですね―― その辺のところを十分お調べになった上でやっていただきたいと。そういう御配慮をいただきたいというふうに思います。

以上でこの質問を終わります。

○副議長（米沢照男君）　これをもって１２の１、ワンルーム・マンション等への対応に関する質問を終わります。

１２の２、東町地域の環境整備についての通告質問者、馬場弘融君の質問を許します。

○８番（馬場弘融君）　昨日、藤林議員から同様の質問があり、ダブる点も多いと思いますが、通告をしておりましたので、よろしくおつき合いをいただきたいと思います。

東町地域の環境整備につきましては、私もこれまで3回一般質問で取り上げてまいりました。排水樋門新設の際、仲田小学校新設の際、そして、２・２・１０の具体化に伴いと、以上３回であります。今回は、立日橋の工事がいよいよこの１１月より開始され、多数の工事用の車両が東町地域を通過する。このことへの地元住民の不満を踏まえて質問をいたします。

以前から申し上げておりますが、立日橋並びに２・２・１０号線は、日野市民全体の立場からすれば南北の通過道路として非常に有効だと思います。しかしながら、地元東町に限ればほとんど益なく、むしろ環境悪化の恐れが大であります。ですから、これまでも再三にわたって市長、あるいは議会あての要望書が地元からは提出をされております。最近のものでは、ことしの６月、東町の自治会から市長に提出をされた「東町地域の環境整備に関する要望書」でありますが、今回の質問は、この要望書の内容をもとに、かつ、最初に申し上げました立日橋工事用車両の通過への対応。これについても伺いたいと思います。

要望書による具体的な要望事項は次の５点であります。1.　生活道路の整備と交通安全対策をしていただきたい。2.　下水道の整備を急いでください。3.　都市ガスの導入を広げてください。4.　地区センター、広場などの公共用地を確保してください。5.　東町地域の面的整備を進めてください。以上５点でありますが、これら要望に対し市は現在どのような対応を考えているのか第１点として伺いたいと思います。

次に、第２点として、立日橋の工事用の車両が１２月から１月にかけて１日当たり８０台通過をするという都の計画でありますが、これらの通過については、住民並びに児童の交通安全の上からも、何とかいまの都道の予定地 ── あの細い道を往復をさせるのではなくて、あちらから入って堤防の方へ抜けていくというふうな形で、堤防上の道を使っていただくような働きかけを都にしていただきたいというふうに思うけれども、その可能性を伺いたいと思います。

それから、第３点としては、ただいま申し上げた工事用に使用が可能であろうと思われる立日橋上下の堤防上の道については、工事が終了した暁には、市に移管をして地元住民の利用できる生活道路としていただきたい。さらに、堤防上の工事道路、これをもう少し市の努力で延ばしますと、地元の非常に少ない道路事情を好転させることができるのではないかというふうに考えるわけでございますが、これについては市はどのように考えておられるか。あるいは可能性があるかどうか。

以上３点を質問いたします。よろしくお願いします。

○副議長（米沢照男君）　馬場弘融君の質問についての答弁を求めます。都市整備部長。

○都市整備部長（結城邦夫君）　それではただいまの東町の地域の環境整備につきましてお答えを申し上げます。

まず、地元から要望が出ております５点についてお答えを申し上げます。まず１点の生活道路の整備と交通安全対策につきましては、多摩川の堤防沿いに生活道路を新設するということは、道路事業としては非常にむずかしゅうございます。用地の買収等もございまして、また、家屋の移転が相当あるということから大変むずかしいというふうに判断をしております。しかし、２点目の問題とちょっと重複いたしますが、立日橋を東京都で施行するに当たりまして、堤防沿いに道路、いわゆる資材などの搬入、あるいは迂回路という形で堤防道路をつくるということで、現在話を進めているところでございますが、この堤防道路ができました段階では、これを将来の生活道路とするということは可能になってこようかと思います。そういうことで、生活道路の点につきましては、東京都と打ち合わせながら、そういった面で進めていきたいというふうに考えております。

それと、２点目の下水道の整備につきましては、神明上の都市下水路の建設にあわせまして、東町の地域の雨水と家庭雑排水を可能な範囲内において、この都市下水路に接続をいたしたいと考えております。やはり高さの関係からいきまして、全部の地域を都市下水路に導入するということは技術的に無理がございますので、可能な範囲内に限ってということでお答えをしております。

それから、３番目の都市ガスの導入につきましては、東京ガスの方と打ち合わせをすでに行っております。現在の段階では一部の道路にガス管が埋設がされておりますので、これを延長することによってガスの導入が可能である。ただし、これは費用がかかりまして、メートル当たり約３万円程度の負担が出てくることになっております。それが了解していただけるようであれば、東京ガスの方ではやるということでございます。

それから、４点目では児童公園、あるいは広場の点についてでございますが、現在自治会で

土地を借り受けまして、地域の広場として利用しているところがございますが、この点については市の方で現在仲田緑地の工事を進めておるところでございまして、６１年度末、６２年からは仲田緑地が供用の開始になることでいま工事を進めておりますので、そういう面で、できるだけ広場あるいは公園としては、仲田緑地の公園をお使いいただきたいというふうにお話をしてございます。また、地区センターにつきましては、現在市の市域内で５０館あるわけでございまして、全体計画では５５館ということで整備を進めておる段階でございます。

したがいまして、現在ここにございます地区センターにつきましては、耐用年数との関係もあるわけでございまして、現在のこの耐用年数は建築後３０年というふうに踏んでおります。したがいまして、これを経過した段階で、また建てかえ等を行っていくということになろうかと思います。そういうお答えをしております。

それから、面的整備につきましては区画整理事業ということになろうかと思いますが、この点については地域の権利者、あるいは居住しておる住民の方々の理解が必要になってまいります。そういう面で、まず地域の中で区画整理をやるということであるならば、検討委員会を設置してほしいと。その検討委員会の中で十分将来の市街化予想図等も検討した上で、そのほかに当然市の方も入ってまいりますが ── 検討した上で区画整理事業の方向に向かって進めていくというようなことでお答えはしてございます。

それから、２点目の工事用道路でございますが、先ほどちょっと触れましたが、堤防上に現在道路として使用されておらない部分がございます。これを日野橋から立日橋の間を堤防上を整備することによりまして、道路として工事用の資材搬入等が行われるわけでございます。ただ、堤防上を使うということになりますと、建設省の京浜工事事務所の許可が必要になってまいります。したがいまして、現在東京都と市の方で協議をしながら、京浜工事事務所に道路としての築造をお願いしたいという要望をしております。将来これが堤防道路として、工事搬入等が行われた後、道路として残るわけでございますが、その場合には、今度は市がこれを認定いたしまして、地域の生活道路とすると。道路の管理を引き継ぐということで検討を行っております。その辺を明確にしないと、また、京浜工事事務所の方でも許可をしないというところがございます。その点は東京都と十分詰めながら進めておる段階でございます。

それから、これらのこの道路をさらに延長をすると。この延長というのは、恐らく四谷の方向だと思いますが、その辺については今後の ── この道路ができた段階で、そういった点につ

いても地域の状況を見て十分検討しなきゃならないというふうに考えます。

以上でございます。

○副議長（米沢照男君）　馬場弘融君。

○８番（馬場弘融君）　いずれにしても、立日橋あるいは２・２・１０といった大きな都市計画道路。こういうものができる。日野を通過する。こういう工事が行われるときは一つの大きなチャンスだと思うんです。こういうときに、その道路だけをつくるんじゃなくて、その周りも一緒に整備をしていこうという、そういう積極的な近隣の住環境の良化に向けての行政をぜひやっていただきたいことを要望申し上げまして、この質問を終わります。

○副議長（米沢照男君）　これをもって１２の２、東町地域の環境整備に関する質問を終わります。

１２の３、第五小学校改築への見通しについての通告質問者、馬場弘融君の質問を許します。

○８番（馬場弘融君）　今回は非常に一般質問がダブるところが多いわけでございますが、後ほどこの問題は鈴木議員が取り上げているようでございますので、私は簡単に触れたいと思います。

第五小学校の改築の見通しについて伺います。昭和３４年、多摩平団地入居と同時に開校された第五小学校は、従来の学校建築の様式をがらりと変えたＨ型構造とするなど、当初はユニークな小学校として近隣の各市の評価も高い学校でありました。しかし、そのうち児童数の急激な増加に伴い、増築に増築を重ねた結果、迷路のように入り組んだ構造となり、教育効果並びに児童の安全面からも問題の多い建物になっております。さらに加えて、予想よりも老朽化がひどく、雨漏り、漏電、あるいは校舎の破損など良好な教育環境というにはほど遠い状況であります。地元のＰＴＡからは、昭和５２年に続いてさらに昭和５９年にも、校舎の全面改修を求める請願が提出をされ、いずれの請願も全会一致採択となっております。特に、昨年採択をされた請願５９－９号の文教委員会での審議を振り返ってみますと、議会も理事者側も、現地調査を踏まえた上で請願者の指摘を全面的に認めているところであります。

問題点は、建築以来まだ２５年しか経過をしていないということで、鉄筋校舎の耐用年数６０年を経過していないことなど、国庫補助の見通しがつかないということに集約をされております。しかしながら、教育委員会からは、即時全面改築には問題が残るとはいえ、都の調査を頼むなど抜本的解決に向け努力を払う旨の見解が示されておりました。加えて森田市長から

も、場合によっては市の自己財源の活用も含めて結論を出したいとの、かなり前向きの発言がありました。多摩平地区は、今後児童数の増加傾向も見られますし、本年２月５日号の「全国市議会旬報」これによれば、国の今年度の文教予算においても、小中学校の新築はピークを越えたから全般的には下がっているが、市町村からの要望が強い小中学校の鉄筋校舎など、老朽施設に対する大規模改修費補助については、地域制限を外し大幅増額をされていることなどを考慮すれば、市長、教育委員会が努力をすれば何とか国庫補助の見通しも開けるのではないかと思います。昨年１２月の第４回定例会では、この件についての橋本議員の質問に対し、企画財政部長は、国庫補助の見通しは暗いという答弁をいたしておりますが、ことしに入って教育委員会並び市側では、どのような努力をされてきたのか。そして、現在のところ大改修の見通しはあるのか。この辺を伺いたいと思います。よろしくお願いします。

○副議長（米沢照男君）　　馬場弘融君の質問についての答弁を求めます。教育長。

○教育長（長沢三郎君）　　第五小学校の改築への見通しについて答弁さしていただきます。

市長の方も文教施策の重点事項として第五小学校の改築という問題を取り上げておりますし、教育委員会の方も５月以降精力的に対都、あるいは対文部省、防衛庁、これらとの折衝を続けている状況でございます。６月の１３日には、東京都の施設部の関係職員５名ほどが日野市の方に参りまして、第五小学校の現地調査、これを行っております。現在文部省関係につきましては、第五小学校が教育機能面で不適切な建築であるという認定が得られるかどうかと、いま御質問の中にもありましたように、非常に管理上、あるいは指導上困難な学校であるということは東京都の施設部の方も認めている状況でございまして、教育機能の不適格建築としての認定が得られるかどうか、それを中心に折衝中でございます。都の施設部の方では、公団施行された当時の建築図面、これら等も全部整備した上で都教委の方へ提出してほしいと。そのような面での要請も教育委員会の方に来ているような状況でございます。それから、なお防衛庁関係につきましては、基地周辺の騒音対策事業としての改築が認められるかどうかと。こういう点について折衝を進めております。

ただ同校の ── 五小の全面改築という問題につきましては、いま馬場議員さんの方からお話のありました大規模改修による国庫補助、これとはちょっと性格が違っておりまして、現在の校舎を大規模に改修すると ── 現在建っている中で。この場合につきましては、確かに地域制

限が徹廃されまして、日野市の場合には７分の２の国庫補助を受けられるような状況になりまして、七生中学等にはその適用を受けながら対応してきたわけでございますけれども、五小の問題については全面的にあの校舎を取り払って、新しく新設校舎をつくり上げるというような内容の問題でございまして、国の国庫補助が認定されるかどうかというところでのつばぜり合いと言いますか、きわめて内容的には困難を伴っているという、そういう面も出ております。

いずれにいたしましても、第五小学校の問題については長い間の懸案でもございますし、いつまでもぐずぐずさしておくわけにいきませんので、今議会終了後も精力的に、さらに東京都との折衝を詰めまして、何とか本年度中にはこの見通しがはっきりさせられるような方向、そういう方向に持っていかれるように全力を尽くしたい。このように考えております。

○副議長（米沢照男君）　　馬場弘融君。

○８番（馬場弘融君）　　市長にちょっとお伺いをしたいんですが、昨年の文教委員会のときに、先ほどもちょっと申し上げましたが、市の自己財源の活用も含めて結論を出していきたいというふうな発言があったわけです。この辺も踏まえて、いま教育長からかなり積極的にやっているというお話がありましたけれども、市長はどのようにお考えでしょうか。

○副議長（米沢照男君）　　市長。

○市長（森田喜美男君）　　ただいま教育長がお答えしておりますとおり、いろいろな面からその実現を図るための詰めをやっておる、こういうような状況にあります。自己財源云々ということはもちろんでありまして、仮に補助が得られましても自己財源が主体性を持つということには相違はありませんので、あわせて実現のために一層の努力をしていこうと、このように考えております。

○副議長（米沢照男君）　　馬場弘融君。

○８番（馬場弘融君）　　先ほど来申し上げましたように、多摩平地区は他の地区と違って児童数の増加傾向があります。さらに、地元父母からの長期にわたる切なる要望があるわけでございます。どうか子供たちによりよい教育環境を与えるべく、市並びに教育委員会の一層の努力をお願いをしてこの件を終わります。

○副議長（米沢照男君）　　これをもって１２の３、第五小学校改築への見通しに関する質問を終わります。

お諮りいたします。議事の都合によりあらかじめ会議時間の延長をいたしたいと思いますが、

これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（米沢照男君）　御異議ないものと認めます。よって会議時間を延長することに決しました。

１２の４、恒久平和に対し、自治体は何をすべきかについての通告質問者、馬場弘融君の質問を許します。

○８番（馬場弘融君）　森田市長は、昨年の中国訪問に続きまして、ことしの８月にはソ連も訪問されるなど、かなり国際性を身につけられたのではないかと思います。また、反核平和宣言都市として、姉妹都市レッドランズ市への反核呼びかけをしたり、その方法については適切を欠く嫌いはあるにしても、世界平和への意欲については高く評価できるところであります。私事で恐縮でございますが、私も父親を戦争で亡くしておりまして、戦争遺児としての体験と戦争に対するある種の厳しい思い入れを持っております。主義主張は異なる点が多いわけでありますが、世界の恒久平和への願いは市長も私も共通をしていると思います。第２次世界大戦以来４０年という大きな節目を越えた日本でありますが、この間戦争に巻き込まれることなく平和を享受できたのは、戦後の日本人が過去の経験を生かし、政治を含め賢明な判断選択をしてきた結果だと思います。もちろん日本が戦後国際的に実に恵まれた環境に置かれていた。こういう事実も忘れてはならないところであります。４０年間の平和を維持し、最近では世界のトップレベルの繁栄を謳歌している日本でありますけれども、このところ世上は先行きに対する何となしの不安感を抱かせるところであります。

私は現実主義者でありますから、この地球上から戦争がなくなるなどとは決して思っておりません。しかし、戦争をなくすことは不可能としても、戦争を少しずつ先送りすることは可能だし、４０年間続けてきた日本の平和を、今後５０年、６０年と続けていくことこそわれわれの最大の務めだと考えております。平和や国際交流の問題は、国がやればよいという考え方もありましょう。しかし、いまや日本、そして世界のありようは国家の枠を越えたところでコントロールする必要がありそうであります。本当ならば自立をした市民の連帯を求めたいところでありますが、民主主義的な経験の浅い日本では、とてもイギリスやアメリカのようにはいかない。まずワンステップとして、地方自治体が独自に国家の枠を離れて世界平和への行動を起こし、市民を巻き込む努力をすべき時かと考えます。

そこで、私の心にある今後の日本、あるいは世界への不安感をもとに今回の質問に取り上げた次第であります。質問に入る前に、日本民族の持つ根本的な欠点。それと、不安を抱かせる日本及び世界の現状を前提として九つ私なりに申し上げておきたいと思います。

前提の第１、日本が歴史的に、あるいは地理的に孤立していることからくる日本民族の外交的なうぶさであります。国家の創世期に騎馬民族による征服があったかどうか、これは別ですけれども、日本は外国からの侵略の経験は全く持っておりません。元寇という例はありますが、あれは侵略には値しません。さらに、外国との折衝経験も乏しく、すべての問題を国内的な観点から考える、いわば日本中心の天動説的考え方が余りにも多く目立ちます。たとえばヨーロッパの歴史はお互いの国同士が征服をしたりされたりの連続でありますし、人種的には日本人とほとんど同種だと思われるお隣朝鮮民族も、ヨーロッパと同じように被征服の長い歴史を持っていますから、国際政治については実に厳しい目を持っております。これに比べると、国際政治に対する日本人の甘さ、楽天主義が非常に目立つところであります。

二つほど例を申し上げます。昭和５７年１月号の「地方自治通信」これは、革新自治体を支持する方々の雑誌であります。この１月号でして、終わりの方に森田市長も名刺広告を出している、そういう雑誌であります。この中で「新春座談会」というのがありまして、「いま平和問題を語る」というテーマでお話がされている。討論者は美濃部さん、飛鳥田さん、それからもう１人は元武蔵野の市長であった後藤喜八郎さんですか、この３人の方が対談をしているんです。その中で美濃部さんも後藤さんもこういうことを言っているんです。「フランスではミッテランが登場し── ちょうどミッテランさんが登場したころなんでしょう ── ギリシャにも革新政府が登場した。地域核戦争への不安から、ヨーロッパ全土に反核運動が生まれているのに、原爆の国日本にその運動が余り起こっていない」── 当時はそうであったんでしょう、いまは起こっていますが。こういうふうな主張を述べている。つまりお２人、美濃部さん、後藤さんの主張というのは、ミッテラン社会党政権になれば、反核市民運動がますます広がるだろうし、そういった行動にこたえてくれるだろう。こういうことをわりと簡単にこういう場で言っているんです。

しかるに、十分御承知だと思いますけれども、フランスの社会党政権・ミッテラン政権は、核兵器を持ち続けております。ムルロワ環礁では、いまだに核実験が行われようとしております。さらに、中性子爆弾の開発までしているというお話があります。さらに申し上げますと、

この７月の１０日、グリンピースという環境保護団体の核実験抗議船が何者かによって破壊をされた。これが何者かということがわかったんです。つまりミッテラン政権の諜報機関がやったんです。フランスのスパイがやったわけです。さらに申し上げますと、これに対するフランスの世論をちょっと「中央公論」持ってきてみたんですけれども、フランスの国立東洋語学校の先生をしておられる北山さんという方が、ニジロセンシの事件を書いているんですが、この中で「フランスでは、アメリカ、ソ連から自立をした独自の核抑止力政策がすでに幅広いコンセンサスを形成しているんだ」と。「したがって、フランスの核実験の妨害を公言していたグリーンピースのニジロセンシ号を爆破したこと自体に対する道義的責任の追及の声はほとんど聞かれず、非難は『なぜとじったか』ということに集中した」と。これがフランスの論調なんです。

ところが、日本のＮＨＫにしても「朝日新聞」にしても、こういうことは一切書きません。そうじゃない。実体のフランスというのは、ちゃんと自分の国の自前の核兵器を持ってよろしいというコンセンサスができている。このことがどうして日本の、要するに社会党の方々にはおわかりがいただけないのかということを私は思うんです。余りにも自分中心、日本の国中心の考え方だなあというふうに申し上げます。

余り一方ばっかりを言いますと片手落ちですから、私ちゃんと両方言います。戦争前、戦争中の「八紘一宇」という思想がありました。これは、まさにいまと根っこのところでは同じなんです。余りにも自分の国を中心にして考えています。仲間内だけで通用する議論です。国際政治の厳しい現状を全く考えないで、日本という隔離された社会でのみ許される議論として通用します。方向は全く両方に違うんですけれども、両方ともある面では高踏的であり、ある面では幼児的であるという点で非常に似ているんです。この「八紘一宇」の思想と、たとえば今でも社会党の方々が唱えておられる「非武装中立防衛論」この辺の考え方は、まさにこれを世界に出しますと両方とも違う意味で物笑いにされると。そういうところであります。二つの例を申し上げました。

前提の第２。外から見て日本民族のこわさがあります。どういう点がこわいかというと、まず第一には、いざという場合に非常に画一的になるんです。画一的になりまして、画一的なある方向に行くことに対するチェック機能が働かないという性質があります。たとえばアメリカの議会なんかの場合は、かなり大統領が強い力を持っているんですけれども、ある面では横紙

破りと言われるくらいアメリカの上院というのは強いんです。ちゃんとチェックをしているんです。ところが、日本という国は、これまでの歴史を見る限りある方向へなだれを打ち始めますと、それに対するチェック機能が全くなくなる。画一性が非常に激しいということです。

そして、２番目として、２番目のこわさは、あるところまで非常に穏やかにがまんをしているんです。突如としてとんでもない方向へ、とても想像がつかない方向へ大暴発する。そういう恐れがある。（「議会もそうだ、議会も」「言っている人もそうだろう」「そうだよみんな」「承知して言っているんだからいいんだよ」「もっとしゃべれ早く」と呼ぶ者あり）（笑声）「清水の舞台から飛びおりる」という言葉があります。これは、下に何があるかわからない。結果がどうなるかわからんけれども、もうここ一番やるっかないだろうという姿勢です。これがかなり典型的なわが日本民族のあり方ではないかというふうに気がするんです。

以上は、大体私なりに考えました日本民族の国際社会における欠陥だと思うんです。

前提の３番目に入りますが、これ以降は、そうした欠陥をもとに、そうした欠陥を持っている日本人が、これから対処をしていかなければならない日本の状況、世界の状況はどうかという前提に入ります。前提３、バランス・オブ・パワーによる平和は非常にもろいということなんです。これまでも４０年間平和であったわけです、日本の周りは。本当に長い平和というのは、ある一つの国が非常に強くて、しかも、ほかの国々と全く力の差があって、しかも、その大きな国が自分の力を自制する、セーブすることを知っているときにのみ存在するという――これは、歴史の格言とは言いませんけれども、哲理なんです。余り詳しく言っていると時間がなくなるんで簡単に申し上げますけれども、古くは「パックス・ロマーナ」という言葉があります。あの強大なローマ帝国による平和です。ローマに対抗するものがなかったんです。だから平和だった――「パックス・ロマーナ」。アジアでは「パックス・チャイナ」とか「パックス・シニカ」という言葉があるんですが、中国という国が圧倒的に強かった。ほかの国がいかに何をしようとも歯が立たなかったということ。しかも、中国は外に余り侵略をしませんでした。そういうことでアジアでは「パックス・チャイナ」ということで平和が続いた。最近のヨーロッパでは「パックス・ブリタニカ」――大英帝国による平和。そして、第２次世界大戦後、つい最近までは「パックス・アメリカーナ」であったわけです。

かなり前から、アメリカとソ連と軍事力というのは拮抗しているなんていう話がありましたけれども、あれはうそで、戦後ずうっとアメリカが圧倒的に強かったです。力があったんです。

兵力もあった。核兵器もあったんです。ところが、例のカーター大統領の時代に、ほとんどソ連は軍事的にアメリカに追いついた。あるいは、ある面では抜いたかもしれない ── そういう段階に来ています。つまり戦後初めて、ここ数年になって本当の意味の「パックス・アメリカーナ」から「バランス・オブ・パワー」の不安定な時代に入ってきている。そういう世界が情勢になっている。不安定な情勢にあるということなんです。

さらに、これで日本の例で申し上げますと、日清戦争を日本が始めたとき。これは、清国の船の数・トン数と日本の軍艦のトン数がほとんど拮抗したときなんです。あれから五、六年前には、日本の船はまだ数も少なくて対抗する力もなかった。ある国と拮抗するようになりますと戦争の可能性があるということなんです。日本はそうでした。日露戦争のスタートも全く同じです。あれ以上待っていますとロシアのバルチック艦隊が来るとか、あるいは満鉄 ── いまは満鉄といいますけれども、シベリアからの鉄道がもっと整備をされて、輸送がどんどん出てくるだろうと。いまやっておかなければというんで日露戦争はスタートしている。こういう面があるんです。ですから、力が拮抗しているときというのは非常に危ない。これが歴史が示す事実であります。これは前提の3。

前提の4。いま申し上げたように、現在の世界というのは、アメリカとイギリスを中心とするアングロサクソン対ロシアの対立が基本であります。ですが、日本は過去の歴史を踏まえますと、アングロサクソン民族と協調しているときに大きな過りはしていません。日英同盟と私は日米安保というものを対比して考えたいんです。日英同盟というのは ── 西暦でいいますが１９０２年から１９２１年まで。日露戦争が始まるちょっと前から大正１１年、ワシントン軍縮会議までです。２０年間。この間の日英同盟の時代の日本というのは、要するにアングロサクソンが持っている非常にすぐれた情報がどんどん入ってきています。そういう関係で自己本位の、自己中心的な過りをしないで済んだんです。

次に、日米安保がすでに３５年になっています ── １９５１年からですから、この間、何だかんだいろんな議論はありますけれども日本は平和でした。これは評価していいと思うんです。ところが、最近「諸君」という雑誌を読んだんです。「デンジャー・フロム・ジャパン」といって、セオドラ・ホワイトというアメリカの有名な歴史家といいますか、評論家なんですが、前にピューリツア賞なんかをもらっている代表的なアメリカの知性と言われている人です。それがかなりどぎつい日本に対する批判の文章を書いております。もちろん貿易戦争に始まるこ

とでございますけれども、かなりひどい。これだけの人が、何でこれだけのひどいことを日本に対して言わなければいけないのか ── というようなことを言うようになってきている。アメリカの上院もそうです。いまレーガン大統領が非常に努力をしておりますけれども、議会が保護貿易主義をとろうとしております。そういう関係で、いま非常に日米安保の安定をした時期が、日本が貿易で余り強くなったものですからおかしくなってきている。アメリカの反感を買い始めている。この辺が第４としての不安な点であります。

それから前提の５。この辺から少し予言者じみてまいりますが、明治維新４０年と戦後４０年。これをやはり同じように私は対比して考えたいと思うんです。明治維新以来の４０年というのは、明治３８年に日露戦争が終わっています。日露戦争ごろまでの日本というのは、当時は帝国主義の時代ですから侵略をしました。それはそれとしても、それは悪いという話は別としても、若い国家として非常に健全なあり方をしていました。一つの例を申し上げますと、与謝野晶子の「君死にたもうことなかれ」という反戦の歌。あれは日露戦争の最中につくられた歌です。ところが、どういうわけか日露戦争の勝利の後、日本は過った方向へ歩み始めます。明治維新４０年のころの状況と、いまの日本の状況というのを重ね合わせますと、非常によく似ているなという感じがするんです。私は、同じになるとは申し上げませんけれどもよく似ているんです。どういう点が似ているかというと、日露戦争が終わって軍事的に日本は世界の一流国に入りました。

いま貿易戦争と言われています ── 戦後４０年で。初めは繊維貿易の戦争でした。いまコンピューターから何から、あらゆるものについての貿易戦争が行われている。かなりの分野で成功しています。これは、日露戦争の勝利以上に匹適をするんじゃないかと思うんです。経済的にいま世界の一等国に入ってきました。

日露戦争から、かつて世界の一等国になった日本。ところが、それから後 ── いつか福島議員の質問にもありましたけれども、日本という国のアイデンティティーがどこか行っちゃったんです。自分はどこへ行けばいいんでしょうかというふうになってしまった。それまでの日本は、西ヨーロッパの国々に追いつけという目標があったわけです。目標がなくなった日本がどうなったかというと、いっとき大正デモクラシーといいまして非常に社会主義思想が華やかになったり、一方では軍備がどんどん増強されたり乖離の激しい状況があったんですけれども、その後一つのきっかけとして、関東大震災ですか ── 先ほど話が出ましたけれども、あの辺をきっかけとして、かなり国民全体が右寄りの思想になってしまうんです。それを認めるような

思想になっていく。そういうときに、これも先ほど申し上げましたけれども「八紘一宇」というふうな過った先祖返りの思想が出てくるんです。

私は、いまの日本を考えますと、これから日本はどうすればいいんだろう。世界の中でどういうふうに伍していけばいいんだろう。あるいはリードしていけばいいんだろう。ほとんどの人がわからないと思うんです。こういうときに、少なくとも明治維新の４０年後の日本人は、こういう間違いをしていたぞということをきちっと把握しておく必要があると。それを踏まえてやっていかなければいけない。そういういま多少危い時期に来ているからということを第５の前提として申し上げました。

それから、次の前提ですけれども、第６ですか。戦後の世界で枠組みを決めたヤルタ会談というのがありました。ヤルタ会談で今日の世界の体制は決まったんで、ヤルタ体制と呼ばれるわけですけれども、この体制をつくったルーズベルト、あるいはチャーチルは、この体制についてこういうことを言っているんです。「ヤルタ体制は５０年も保てばいいでしょう」と、こういうことを言っている。５０年くらいの平和を確保できれば上々でしょうということをお２人とも言っているんです。いま４０年です。あと１０年たつと５０年になります。その５０年が近づきつつある。それが前提の、いま６番目でしたか。

７番目。先ほどもちょっと言いましたけれども、関東大震災が６０年周期とか６５年周期とか言われていますが、６０年周期ならもう完全にそのサイクルに入っています。６５年周期ですと、前の地震が１９２３年ですから、１９８８年 ── あと３年後ということになります。大正１２年の関東大震災ですか。これは、当時の世界情勢というのはロシア革命の影響を受けて、かなり革命的な雰囲気が、そういう社会主義思想といいますか、革命思想がかなり華やかであった時代です。先ほども申し上げましたけれども、大正デモクラシーの時代であったものが、あの大地震を境にちょっと変わっちゃうんです、雰囲気が。これは、三浦朱門さんという人の文章にあるんですが、つまり「つい先ごろまで軍人を見て税金どろぼうとののしった人が、震災を通じて軍を頼もしいと思ったのである。社会主義者や朝鮮人の虐殺に関しては直接の下手人だけが責めを負うべきではなく、程度の差こそあれ体制も全国民もそれなりに責任があると言えよう」こういう厳しい見方をしなければだめなんです。だれかだけが悪くて私たち庶民はみんないいのよというのは一番いけない考え方なんです。みんなが悪くなっちゃうんです。そういうことがこういう大災害の後というのはあるんです。その大災害の周期にいまの日本は入

ってきている。

もうこれ以上申し上げませんが、このような初めに申し上げた三つの日本人が持っている欠陥と、それらを踏まえて、日本人が日本という巨大な国をこれから動かしていこう。世界の中で新しい道へ踏み込んでいこうとする中で大変不安を感じるんです。前のように間違いをしないだろうかという不安を感じるんです。

そこで初めて地方自治体が出てくるんですが、私は、明治維新以後４０年のころに、地方自治制度がいまのように日本に確立されておれば恐らく ── 歴史にもしもということは言ってはいけないというんですが、あの戦争の事態は多少は違った形になったんではなかろうかという気がするんです。いまわれわれは、一応形としてはりっぱな地方自治組織を持っています。りっぱな地方自治体を持っています。ですから、これからは国家だけにすべてを任すのではなくて、そういったいまの日本の現状が不安な状況にあるということを踏まえれば、自治体こそが市民の連帯の一つの先駆けとして、これからの日本を間違った方向へ導いていかないような行動をすべきではないかと。そういう平和に対する行動をすべきではないかと。そういう気がするわけであります。

そういったお話を踏まえて、まず第１点として、市長が、いま私が申し上げた点を踏まえて、自治体がいま世界平和に向けて大きくステップを踏み出す時期だと思うけれども、市長は、このことについてどのように感じるかお考えを伺いたい。これが第１点であります。

それから、第２点、第３点、第４点、あと三つはちょっと細かい問題を伺いますけれども、自治体が、じゃあできることといえば、姉妹都市の交流とか子供たちの交流。そういうことになると思うんですけれども、ぜひ姉妹都市だけとは言いません。学生たちのアジアの国 ── 近くの国との交流をぜひ始めてほしいと思うんです。子供の時代に朝鮮の民族と知り合う。中国の民族と知り合う。アジアのほかの民族と知り合う。こういうことは非常に大きな経験をその子供に与えます。将来を左右します。わが日本の将来も左右すると思うんです。そういう点で、そういうことをぜひ考えてはどうだろうかと。まず姉妹都市があるわけでありますけれども、それにはこだわりません。若い人たちの、特にアジアを中心とした交流ということを自治体単独でできなければ、共同で持回りでというような形でもできないだろうか。それは２点目。

第３点目。留学生の問題なんです。日本というのは、外務省の調べですと留学生が非常に少ないんです。日本に呼ぶ留学生が非常に少ない。約日本に来ている留学生はいま１万2,０００

人くらいです。これが、ドイツやイギリスでは約５万人と言われています。フランスでは１１万人。アメリカでは何と３０万人もいると言われています。世界の一等国になろうとする日本が、わずか１万2,０００人という留学生は余りに少ないと思うんです。大来佐武郎さんあたりは、これが国家だけではとてもやっていけないと。地方自治体とか、あるいは地方にある大学、そういうものが率先をしてよその留学生を日本に招聘してほしいということを言っているんです。そういう点で、特にアジアからの留学生を招聘するような制度、あるいはそういうシステムを、日野市単独でできなければ、先ほども申し上げたように多摩の市長会でもいいです。そういうものぜひつくっていただきたい。そうすれば、これまでのいろんな弊害も克服をできるのではないかというふうに気がいたします。これが３点目です。

最後に４点目として、これは、先般の東京都知事が主催をした首都圏サミットに少しヒントを得たものでありますけれども、国家は国際連合というものが曲がりなりにもあります。ですから、都市にもそれに類する連合体といいますか、協議をする場があってもいいだろう。そういうものを都市の会議 ── 中小都市会議でもいいし、都市の連合でもいい。そういうものをぜひ市長は市長会等で提言をしていただきたい。

以上、初めの第１点は大きな問題。２、３、４は細かい問題を半分提言を含めてお伺いをいたしました。市長のお答えをお願いします。

○副議長（米沢照男君）　　馬場弘融君の質問についての答弁を求めます。市長。

○市長（森田喜美男君）　　最初の大きな問題とおっしゃるところの部分につきましては、議会の皆さんと一緒に承って勉強材料にさしていただきたいと思います。

それから、日本が国際社会で外の民族、一つの国として平和の中で繁栄し存続するためには、やはり外に対して貢献をし、外からの、また信用と、そして敬意を持たれるということでなければならないだろうと思います。したがいまして、いま具体的な提案としての海外との交流の手段。自治体としてできる ── 若い人たちを海外に派遣をし、あるいは海外から迎えるということは非常に有益な事業だというふうに思っております。教育委員会の予算に、古い制度として、今日疑問を持ちながら残っております奨学金の制度があります。これは、制度としてできた当時は非常に有効な価値を持ったと思うんでありますが、今日の貨幣の価値といいますか、お金の価値といいますか ── すっかり様相を変えまして、アルバイトで１日働けばほとんどだれでも得られる程度の額になっております。私は、この制度を変更をして、そうして、たとえ

ば日野市の子弟を海外に派遣をする。あるいは海外から迎えるというふうな仕組み変更していったらいかがだろうかと思っております。そういうことをあわせ考えまして、御提言には賛成できるとこのように思っております。

○副議長（米沢照男君）　　馬場弘融君。

○８番（馬場弘融君）　　遅くなった議会でございますので、なるだけ場内をわかそうと思いまして、かなり余計なことを言いましたけれども、私は、これだけはぜひ市長にわかってほしいんですが、感じていること ── いまの日本の置かれている状況に対する不安感というのは私本当に強く持っているんです。いまもし方向を間違えると、また恐ろしい方向へ日本という民族は行っちゃうんじゃないかなという気がしてならないんです。そういう点で、私は戦後の民主主義がいま問われる段階に来ている。自治体のあり方が問われる段階に来ている。そういう認識を私強めているんです。ですから、多少大ぶろしきを広げて、日野市議会でこんなことをやる必要ないだろうというふうなお考えの人も十分ありますけれども……（「そんなことないよ」「自民党大会でもやってくれ」と呼ぶ者あり）いやいや。（笑声）私はそういうことを根本では感じていますんで、ただかっこうづけで国際的な交流をしておけばいいんだというふうなことでとらえてほしくないんですね、市長は。根本的な問題として、平和の問題というのは本当にこわいんです。簡単に口で言うように反核平和と騒いでいれば平和が来るというものではないんです。

自民党の一部にも確かによくない考え方はあるんです。ただし、私はやっぱり社会党の考え方も世界の現実に即して見ればよくないと思うんです。そういうものを冷静に見る目、冷静に見る人がもう少し日本にふえてこなければいけないだろうと思うんです。それは、確かに非武装中立で世の中全部渡っていければこんないいことないです。核兵器反対で、これで全部済めばこんないいことはない。確かにそうは済まないでしょう。現実に何だかんだ言いながら核兵器があり、その核兵器があることによって政治が行われているという現実を見るならば、それを無視して、そんなものは切っちゃえということは言えないはずです。そういう確かにつらいけれども、そういうものをきちっと現実を踏まえて一歩一歩対処する。そういう現実的な対処というものが、特に私は革新政党並びに革新政党の上に立つ市長に強く申し上げておきたいところなんです。

というのは、自由民主党の政治に対するあれこれの批判はありますが、先ほども私質問の中

で申し上げましたように、何だかんだ言われながら、戦後４０年日本は平和な中に過ごすことができたわけです。（「アメリカがあったからだ」と呼ぶ者あり）それはアメリカがあったせいかもしれない。環境があったからかもしれない。しかし、もしそうでなかったらばということを考えますと、私は、いままでの自由民主党の政治が悪かったとは言えないんです。いいところばっかりだったとは言いません。少なくともいまの支持率と同じように五十数％の支持は与えられていいだろうというふうに私は感じております。そういう点で ── 最後になりますけれども、ともかく国というものが、特に日本の場合、あるとき大変恐ろしい作用を発してきた。であるから、国が日本の場合そういうふうに恐ろしいことにならないように、健全な自治体としての日野市がこれからも機能をして、これからもずっと長く私たちの子供の代までも、ああ日本はずっと平和でよかったなと言えるようでありたい。そのためには、いまこそ地方自治体のこの問題に対する対応が問われている。そういう時期ではないかということを強く申し上げて私の質問を終わります。

○副議長（米沢照男君）　　これをもって１２の４、恒久平和に対し、自治体は何をなすべきかに関する質問を終わります。

本日の日程はすべて終わりました。

本日はこれにて散会いたします。

午後５時２５分散会

９月30日　月曜日　（第11日）

昭和６０年
第３回定例会　　日野市議会会議録（第30号）

９月３０日　月曜日（第１１日）

出席議員（２７名）

１番	橋本文子君	２番	福島敏雄君
３番	小俣昭光君	５番	谷　長一君
６番	古谷太郎君	７番	馬場繁夫君
８番	馬場弘融君	９番	高橋徳次君
１０番	旗野行雄君	１１番	一ノ瀬　隆君
１２番	板垣正男君	１３番	鈴木美奈子君
１４番	川嶋　博君	１５番	飯山　茂君
１６番	夏井明男君	１７番	黒川重憲君
１８番	古賀俊昭君	１９番	市川資信君
２０番	藤林理一郎君	２１番	名古屋史郎君
２２番	竹ノ上武俊君	２３番	米沢照男君
２４番	中山基昭君	２５番	大柄　保君
２６番	秦　正一君	２７番	奥住芳雄君
２８番	石坂勝雄君		

欠席議員（１名）

３０番　高橋通夫君

欠員

４番　２９番

説明のため会議に出席した者の職氏名

市長	森田喜美男君		
助役	赤松行雄君	収入役	加藤一郎君
企画財政部長	前田雅夫君	総務部長	伊藤正吉君
市民部長	佐藤智春君	生活環境部長	坂本金雄君
清掃部長	藤浪竜徳君	都市整備部長	結城邦夫君
建設部長	中村亮助君	福祉部長	高野隆君
水道部長	永原照雄君	病院事務長	大貫松雄君
教育次長	小山哲夫君		

会議に出席した議会事務局職員の職氏名

局長	岩沢代吉君	次長	馬場守君
書記	田中正美君	書記	土方留春君
書記	谷野省三君	書記	串田平和君
書記	佐々木茂晴君		

速記委託先　住所　東京都立川市曙町一丁目10の3

立川速記者養成所　所長　関根福次

速記者　保木シゲル君

議事日程　昭和60年9月30日(月)

午前10時開議

日程第1　一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1

午前10時11分開議

○副議長(米沢照男君)　おはようございます。

本日の会議を開きます。

ただいまの出席議員21名であります。

これより日程第1、一般質問を行います。

13の1、航空機の騒音対策として防音工事の拡大と旭が丘二丁目地域の交通公害についての通告質問者、秦　正一君の質問を許します。

〔26番議員登壇〕

○26番(秦　正一君)　通告に従いまして一般質問を行います。

航空機の騒音対策として防音工事の拡大、それから旭が丘二丁目の交通の問題について質問いたします。

横田基地からの発着の軍用機が最近、特に大型化されて、騒音も、より激しくなってきております。特に夏の期間は南風のために日野の方に向かって離陸します。その関係で騒音も一段と激しくなっております。

防衛施設周辺の生活環境の整備に関する法律が、昭和49年に法律第101号で公布されています。その時点で、85ホンが80ホンまで下がった形で防音工事をするようになりまして、日野市では旭が丘を中心とする地域が該当されたわけです。面積といたしまして140ヘクタール、対象戸数といたしましては2,700戸、4人家族で1部屋、5人家族以上は2部屋というふうになされております。その後、市としてもいろいろと努力され折衝されて、施設庁にも働きかけて、また市民の方も国会議員等を通して活動を展開し、その結果といたしまして騒音の基準値が80ホンから75ホンに下がったわけです。

したがって防音工事の範囲が拡大されて、日野台五丁目とか四丁目、多摩平三丁目、西平山、平山、各地域が75ホンの線引きの中に入ったわけです。一応の成果は上がったわけです。ただ、一方、言えることは、防音工事をしたことによって大型機がより頻繁に遠慮なく飛行して騒音もより激しくなってきていると、そのようなことも懸念されるわけです。飛行回数の少ない日もありますが、早朝から深夜まで及ぶこともあります。

一部屋防音工事、また2部屋防音工事をしたからといって、必ずしも、その部屋に電話機はついてない場合もあります。飛行中は、ほとんど、騒音で相手の話は聞こえません。もちろん

テレビの音も一時的には聴取できないわけです。そこで、ものすごい大きな飛行機、その名称は、私はわかりませんが、離着陸するときに、特に離陸するときに、騒音の基準値が以前に比較して、かなり変わってきているんではないかというふうに思いますが、例えば、以前７５ホンの地点が８０ホン近くに上がってきているんではないか、というけうに思いますが、その点についてお伺いします。最近の測定値がございましたら教えてください。

次に、４人家族の家庭でも１部屋ということで、生活は必ずしもその１部屋で生活しているわけではございません。２部屋、３部屋、部屋を持っております。そういう中で生活しております。したがいまして、防音工事も今後さらに拡大されていく必要があるんではないかと、このように思うわけです。また、今後の防音工事の部屋数の増加というんですか、拡大、こういった面についてわかったら教えてください。

また、今まで防音工事を希望して実施した数も教えていただきたいと思います。

また、この工事を日野市の零細業者が担当しているかどうか、これに携わっているかどうか、また何社ぐらい、この工事に携わっているか、その数も教えていただきたいと思います。

それから、借家の場合の防音工事は、家主が借家人の同意を得て、家主が工事の申請書を市を通して施設庁で行うということで── そこでお伺いしたいんですが、長山市営住宅に入居している方は２年ほど前、防音工事を希望している方もいたわけです。家主である市長の方でどういう取り扱いをしているか、一部の方は同意していなかったということも聞いておりますが、市の決裁が下されていなかったのかどうか、前者はどのような理由で防音工事が実施されなかったのかどうか、お伺いしたいと思います。

次に、大きな２点目といたしまして旭が丘二丁目地域の交通量の増加に伴う交通問題を取り上げてみたいと思います。平山橋から京王線のこ線橋を通って、それから浅川を渡って南北に交通の便がよくなりました。したがって相模原や町田、または柚木の方ですか、その方面からの車輌がこ線橋を渡たり、浅川の橋を渡って豊田街道の方へ来て、それから富士電機の西側の塀に沿って旭が丘二丁目を北に抜けて、北八王子工業団地、また昭島の方向へ向かう車輌がふえてきております。特に朝と晩が多いようなので、これは恐らく通勤者が利用されているんではないか、もちろん昼間の間にも輸送の車とか業者の車、こういったものも目につきます。時には大型車輌も通り、オートバイも猛スピードで通過します。３０キロの交通標識も無視されているのが多いようです。本来、この道路は区画整理事業でつくられた生活道路なので、通過

道路ではないわけです。道路のつくりも歩道はなく、舗装も部分的に薄い部分が多いわけで、トラックが通ると、かなり振動が激しいわけです。交通安全の面からも心配であり、また不安が伴う感じです。

富士電機の塀を通って、最初の信号から入って突き当たりまで６カ所の十字路がございます。そこを横断する自動車、自転車、歩行者等が一たん停止を誤ると、かなりの事故にもなりかねません。もっとも、今まで何回か事故も起きております。これもスピードを出し過ぎて急停車できないで間に合わずに事故につながっていく、というケースだと思います。

そこで、何らかの交通安全対策を考える必要があるんではないかと、このように思うわけでございます。これは、すべてドライバーのモラルにかかっているわけですが、その点についての考えがありましたらお聞かせ願いたいと思います。

日野市全般に言えることですが、メーン道路が交通渋滞しているために車輌がどうしても裏通りに入る、また信号機の多い道路を避けて少ない近道をした、裏道に入る、という車輌がふえてきております。そのためにかなりの振動とか騒音、それから排ガス等の交通公害の問題も起きていると思います。また交通事故とか、そういったものもふえてきていると思います。このように市全般に言えることですが、せんだって市の方から出された「住むことが悦びであり、誇りである町を」の行政調査報告書の中で生活環境の評価として騒音、振動、それから空気の汚れ、交通安全でのプラス、マイナスの記されている印がございました。その中を見ますと、騒音とか振動については、かなり高い不満が記されております。もっとも、生活環境に対しての具体的、的確な評価と方策が、まだ明確に記されておりませんが、この調査報告は少し、きれいごと過ぎるんじゃないかというふうにも感じられます。もっと現実を直視して現実に沿った、この現在の状況を把握し、その上に立っての評価というのか、方策、そういったものが必要じゃないかというふうにも思います。そういった面から一応、市としても市内の主な道路の、そのようなところに対しての交通量の実態をつかんで、それに対しての安全対策を強化する必要があるんではないか、というふうに思います。

その点で、お伺いしますが、とりあえず、二丁目の、この道路については交通量の調査を、まず、お願いしたいと、このように思います。

それから、道路に対しての交通標識ですね、これも一応チェックしてもらいたいと思います。それからスピード制限は３０キロになっております。また、大型車の進入も禁止されているよ

うですが、さらに交通事故の多発地帯とか、また交通事故があった場所だというふうな、そのような交通標識を、その場所に対しては掲げるということも必要じゃないかと思います。で、ドライバーの注意を喚起すると、このように思います。

それから、この道路の補修工事、また、できれば片側だけでも歩道をつくって、車輌通行の道にマッチした道路をつくるかどうか、また、安全対策にふさわしい道路にすべきではないかというふうにも考えられます。そういった面の市の考えがありましたらお聞かせ願いたいと思います。

以上、簡単に質問いたしました。的確な答弁をお願いしたいと思います。

○副議長（米沢照男君）　秦　正一君の質問に対しての答弁を求めます。生活環境部長。

○生活環境部長（坂本金雄君）　生活環境部長お答えいたします。

初めに航空機騒音の関係でございますが、最近の測定値についてという御質問にお答えさせていただきます。

公害防災課では、毎年、環境週間にあわせまして、旭が丘の地区センターを拠点にいたしまして航空機騒音の測定を行っております。最近３年間、５８、５９、６０年にかけて３年間のデータについて、お答えをしてまいります。測定の日数は、いずれも３５日間、行いました。飛んできた回数は、５８年度は1,２６６回でございます。１日平均３６機ということになります。５９年度は1,１１４回、１日平均３1.8機になります。それから６０年度は1,１０６回、１日平均３1.6機になります。これらの航空機の騒音につきましては「WECPNL」という単位がございます。これは航空機騒音を評価する方法として、１日の騒音パワーの総量をもとにいたしました単位でございます。測定器にあらわれました１機ごとの騒音レベルの平均値をもとにいたしまして、同じ大きさの騒音でも昼間より静かな夜間の方がうるさく感じる、こういうことから１日に飛んだ機数に騒音の発生時間帯による重みづけをいたしまして、騒音レベルを求めているものでございます。で、５８年度は、この「WECPNL」── 以下「W」と略させていただきますけれども、７8.1Wでございます。それから５９年度が７7.9Wでございます。６０年度につきましては７8.2Wでございます。したがいまして、この３年間を見ますと飛んできた回数につきましても、それから「WECPNL」につきましても、ほぼ横ばいの数値が出ております。

それから、２番目の工事の拡大についてお答えいたします。御質問の中にもございましたよ

うに、本市では８０Wの地域と７５Wの地域が分かれておりまして、８０Wの地域につきましては昭和５６年度から、それから７５Wの地域につきましては５９年度から、住宅の防音工事を行っております。その際、４人家族までは１部屋、５人以上につきましては２部屋となっております。ただし、85Wの地域を持ちます昭島、福生、立川、瑞穂、こういった自治体におきましては、昭和５４年度から５部屋を限度として家族数プラス１の部屋の防音工事を行っておりまして、現在までに約2,０００軒の世帯の工事が終わっております。防衛庁の意向としましては、今後８５Wの地域の見通しがつきますると、この８５の地域を拡大するとともに、８０Wの地域の防音工事の拡大をも検討すると、こういう返事がまいっております。で、日野市内につきましても６０年度中に防衛庁と協力関係を結びまして、この地域の測定をいたしまして、地域の拡大の資料といたすことになっております。

それから御質問の３点目、現在までの工事の数でございますけれども、本年の３月３１日現在で８０Wの地区、私どもでは対象戸数を約3,３００戸と把握しておりますけれども、このうち2,２３１戸から申し出がございました。そのうち工事を完了した戸数が1,５７１戸でございますので、残りが６６０戸となります。この残りの６６０戸のうち７０戸を今年度中に工事を完成いたします。さらに７５W地区の世帯の戸数を4,８００戸と把握しておりますけれども、このうち1,３６０戸の方から工事の申し出がございまして、現在までに工事を完了した戸数が３０２戸ございます。したがいまして残りが1,０５８戸ございますけれども、このうち９１２戸を６０年末までに完成をする、こういう計画ができております。

したがいまして、来年３月３１日までに８０Wの方につきましては４9.7％、７５Wの方につきましては２5.3％の工事が完了することになっております。この残された数につきましては、今後、今までのようなベースでまいりますと、およそ３年ぐらいかかるんではないかと、こういう見通しを持っておりますけれども、工事の範囲の拡大、それから工事そのものの拡大につきましては、今回の御質問を契機に、さらに防衛施設庁との折衝を強めてまいりたいと思っております。

さらに御質問の４点目でございますが、工事に携わっている業者の数をという御質問でございますが、現在、市内の業者のうちで１８社が工事に携わっております。

内部には、いろいろ細かい要件があると思いますけれども、一応、私どもが把握しております要件は日野市の指名参加業者となっている業者、さらに日野市建設協和会の会員となってい

る業者、この二つの条件を満たしている業者へ防衛施設庁の方から発注があるようでございます。

それから４番目の借家人の問題でございますけれども、防音工事の申し込みにつきましては住まわれている方、ただし、借家人につきましては、その家主さんの承諾を必要とするということが一般的な申し出の条件でございます。

それから大きい２番目の交通問題の振動・騒音の測定でございますけれども、旭が丘二丁目の道路につきましては、私どもは調査をしておりません。甲州街道など主要街道については、毎年、調査をしておりますけれども、この二丁目近辺につきましては、調査ができておりません。ただし御質問にもございましたように、最近、平山橋の整備、それから京王線との立体交差等によりまして、交通量が増加していることが事実でございますので、今年度中に、この地域の測定をいたします。

以上、私どもの方からお答えいたしました。

○副議長（米沢照男君）　建設部長。

○建設部長（中村亮助君）　建設部長でございます。

それでは最初の方から、旭が丘二丁目地域の交通公害、特に交通安全対策の問題につきまして関連がございますので、お答え申し上げたいと思います。

ただいま生活環境部長の方からお答えがございました点と、多少ダブるかもしれませんけれども、まず、旭が丘二丁目の交通量の実態と、交通安全対策の問題でございます。これにつきましては、具体的には旭が丘１５号線という路線が御質問の中にもございましたように、富士電機の南に、北側からさらに国道２０号線の方に通じます都道１・３・２号線に沿いまして、いわゆる南北の道路がある、これが旭が丘１５号線と呼ばれている道路でございます。

で、交通量の実態につきましては、先日、私の方で若干、調査をいたしました。９月の２７日の金曜日に朝と夕方を調査をしてみました。その結果をまず、お答え申し上げますと、南の方から北側に通過する車輌というのは、朝晩とも多いという傾向が出ております。時間帯では朝７時から８時半までの１時間半の時間帯でございますけれども、南の方から北側の方に通過する車輌が乗用車で６４台、それから大型トラックで１２台ございました。それから逆に北側から富士電機寄りの方に、南の方に通過する車輌というのは、小型乗用車で５８台、トラックで４台ございました。その他、途中から入り込む車輌等もございまして、この旭が丘１５号線

の通過車輌につきましては、この１時間半の時間帯で調査した結果では、総体的には２０８台ほどの通過車輌がございました。

それから、さらに同じ日の午後４時半から６時までの時間帯で調査をした結果によりますと、やはり南側から北側の方に通過する車輌というのが一番多いわけでございまして、これが乗用車で６７台、トラックで９台ございました。逆に北側から南側の方に通過する車輌が小型の場合で５３台、トラックで２台ございました。この時間帯では、総体的には２２０台の車輌が何らかの形で、この旭が丘１５号線の道路を通過しているというような実態が明らかになったわけでございます。

これに対します交通安全対策の問題でございますけれども、御質問の中にもございましたように、一般的に市内全体で言えるわけですけれども、幹線道路の混雑、特に国道２０号線の朝晩のラッシュ、これらの関係を含めまして、それを避けるために沿線の支線に入ってくる車輌というものが、かなり多いわけでございます。そういう面で、その支線の沿線にお住まいの住民の方については、いろんな問題が発生しているような実態があるわけでございますけれども、御存じのように、年々、交通事情が、免許証の人口の増大、あるいは車の需要の増大、それから、また、さらには貨物輸送の増大というような条件が重なりまして、年々、車輌がふえていくというふうな実態でございます。

それにつきましては、交通安全の対策上の問題から交通管理者であります日野警察の方も、いろいろ、規制の問題につきましては具体的にそれぞれのケースを踏まえながら対策を立てているわけでございますけれども、この旭が丘１５号線の関係だけにつきまして具体的に申し上げますと、まず、この道路だけを、１本の道路だけを規制していくというふうなことは、なかなか難しい面がございます。関連道路がございますので、そういう面では、やはり、かなり面的な規制というものが必要になってくるのではないかというふうに考えられるわけでございまして、今後さらに、この道路につきましては、実際には速度制限３０キロという規制が行われているわけですけれども、それらの規制の関係につきましては、やはり、たまには取り締まりをするような形の中でドライバーに啓蒙をしていくというふうな機会も必要じゃないか、というふうに考えられますので、スピード規制の取り締まり、いわゆるネズミ取り作戦というようなものも実施をしていただいて、ドライバーへの注意を促すよう日野警察の方にも要請をしていきたいというふうに思っております。

それから、道路の問題でございますけれども、御質問の旭が丘１５号線につきましては、幅員８メーターの道路でございますけれども、いわゆる歩道がないわけです。準歩道として白線が引いてあるだけでございますので、歩行者の安全対策という面からは、まだ不備な点がございます。

そういう点につきましては、今後、やはりガードレールの設置などについては考慮していかなければならない点があろうというふうに考えております。

それから、なお、舗装の問題につきましても、車の通行によりまして路面の影響が振動につながるということもございますので、舗装の打ちかえ等につきましては、悪いものについては今後、計画的に取り組んでいきたいというふうに思っております。

なお、さらに、特に事故や騒音につながる車の速度規制につきましては安全協会の組織などもございます。そういう組織なども通じまして各職域などにつきましても、交通ルールを守っていただけるような啓蒙活動をさらに促進していかなければならないというふうに思います。

先日も、交通安全週間に先立ちまして、交通安全市民の集いを開催をしたわけでございますけれども、そういう機会などにも訴えながら、なお、さらに交通安全の対策を立てていきたいというふうに思います。

以上でございます。

○副議長（米沢照男君）　　総務部長。

○総務部長（伊藤正吉君）　　総務部長でございます。

御質問の長山市営住宅の防音工事の件についてのお答えでございます。

先ほども生活環境部長の方からも報告がございましたように８０Ｗの場合、到達度が４９.７％と、こういうような到達度ということで御報告がございました。

それから世帯数につきましては４人以下が１室、それから５人以上が２室と、こういうふうな区分けで、補助が対象の部屋数になっているわけでございますけれども、御存じのように長山市営住宅の間取りは３ＤＫでございます。そういう意味でその中の１室―― １室の場合に、効果の面、あるいは施工の面で非常に無理があるんではないか、こういうふうなことも考えられます。それから、それが無理だというようなことになりますと、いわゆる全面改修、このような事態も生じてまいります。

こういうことで、この辺につきましては予算面等の問題もございます。それから、市営住宅

につきましては一定基準の収入基準をもとにしまして、一般の市民からの抽せんによりまして入居しているわけでございます。そういたしますと、先ほど申し上げたような改修等になりますと、家賃等の値上げにも響いていく、こういう形もございますし、また入居者の経費の負担にもなるんではないかという考えの中で、今、すぐに取り組めないのが実情でございます。

以上でございます。

○副議長（米沢照男君）　　秦　正一君。

○２６番（秦　正一君）　　ただいま、部長の方から答弁をいただきまして、航空機の騒音ですが、私の耳からは、あんまり、感度が悪いのかどうか、大分、以前よりはWの数値ですね、飛行機の騒音ですね、あれが高く感じるんですよね。先ほどの部長の答弁だと、５８年度が７８.１Ｗ、それから５９年度が７７.９、若干、下がっているわけですよね。それから６０年度が７８.２、これは５８年度よりコンマ１高くなっておりますが、最近の飛行機が前よりも、すごい大きな飛行機なんです。ですから、この数値が、ちょっと私も信頼というんですか、このまま受け止められないんですよね。部長の答弁で、その測定値を教えていただいて、これを信用しなきゃならんかもしれないけれども、私自身が感ずる騒音は、もっと何か、ひどいような、高いような感じがするわけです。これを今さら、ここで、あれしてもしょうがないし、いずれにしても市民といたしましても、航空機が、飛行機が飛ばないのが一番いいんですけれども、そうもいかないんで、できれば、なるべく騒音を低くして、要するに人間に与える騒音の量を少しでも少なくしていこう、減らしていこうという真意から言っているわけです。

正常なときは、いいですけれども、人間、感情の動物ですから、いろいろな精神状態があるわけです。常日ごろ、正常な、いい状態ばかりじゃなくて、精神的に、何というんですか、めいっている場合もあるだろうし、おもしろくない場合もあるだろうし、いろんなそういう場合がありますから、この飛行機の騒音によって、非常に何というんですか、体の精神状態を本当に攪乱するかのような状態も場合によっては起きるわけです。そういった面から何とか防音工事を１部屋だけじゃなくて、２部屋、３部屋、どんどんやってほしいということを希望しております。そういった面で、市で直接やるわけじゃないでしょうけれども、関係方面に、さらに働きかけてもらいたい、ということを要望しておきます。

それから長山市営住宅の場合に、今、総務部長の方からお話がありまして、一応、いろんなそういう状態があるならばやむを得ないにしても、入居している方は、そのことは恐らく知ら

ないんじゃないかと思います。そういった面で、ある程度、希望されている方とか、心配される方に対しては、ある程度の説明が必要じゃないか、このように思います。

それから道路については、早速、調査いただきましてありがとうございました。質問する前に既に交通量の測定もしてくださったということは、私自身も、この点については非常に感謝しております。ありがとうございました。

で、実際に、最近は特にその点が、さっき言ったように交通量が激しくなり、それに対する交通安全対策も非常に心配になるわけです。将来の日野の── 部長の答弁だと、道路の補修とか、いろんなそういう面のことの構想もあるようですが、とりあえず、交通標識を完全な、ドライバーに目につくようにして、極力、スピード制限にしても、また、一時停止にしても、そういった面を遵守するような形の交通標識をお願いしたい、このように思います。幾らも金は、かからないでできると思います。今まで何回か、子供さんが自転車に乗ってぶつかっております。車に当たっております。それで大きなけが、死亡事故まで至っておりませんが、かなりの事故をしております。そういうことで、今後さらに交通安全の面において考えてほしいと思います。ただ、これは市長のすぐわきなんですよね。市長自身が、またこのことをとやかく言うのも、余りよくないでしょうから、日野市全般として、このことについて考えてほしいということを要望して質問を終わります。

○副議長（米沢照男君）　これをもって１３の１、航空機の騒音対策として防音工事の拡大と旭が丘二丁目地域の交通公害に関する質問を終わります。

１４の１、総合科学館（プラネタリウム館）実現についての通告質問者、小俣昭光君の質問を許します。

〔３番議員登壇〕

○３番（小俣昭光君）　議長のお許しをいただきまして一般質問をさせていただきます。

総合科学館プラネタリウム実現についての質問をさせていただきますが、ことしは夜空を眺める人たち、天体望遠鏡をのぞく人たちが多く見られ、星への関心の高さがあらわれています。

来年はハレーすい星の大接近の年で、ことしの１２月には光度６等級になります。来年の初めには３等級から４等級になり、日の出、日没どきには肉眼でも見られるようになります。ハレーすい星は７６年周期で前回は1,９１０年に来ております。このときはハレーすい星のしっぽで地球が交差するということで、すい星の毒ガスが地球を包む、このようになるのではないか、ということで大騒ぎになりました。今日では子供まで、すい星の正体は氷や砂粒などの固まりで大きな雪だるまのようなもので、ハレーすい星は海王星の軌道よりはるか遠いところから太陽の距離まで近づいてくることは、多くの人たちに知られています。太陽に近づくにつれて、氷が熱でガスになり、これが尾を引くわけですが、本体はわずか直径１０キロメートルぐらいです。尾の長さは、1,９１０年のときには太陽と地球の距離にも等しい１億4,０００万キロにも達したそうであります。今、多くの人たちが、このハレーすい星に関心を持ち、天体全体に関心を高めています。残念ながら私たちの上空の夜空は空気の汚れや照明などで星が見えにくく、私たちの子供のころと比べると、星数は半分もないのではないかと思われます。

そこで、日野市で空いっぱいの星空を子供たちに、さらに天体観測等による天文知識の普及や向上も図るために、宇宙や科学など、一層、関心も高まり教育の充実のあるプラネタリウムの建設計画があるかをお聞かせいただきたいと思います。

なお、プラネタリウムの建設については５６年度第３回定例会に共産党の板垣議員が質問しています。その後の経過を、どうなっているのかお聞かせいただきたいと思います。

○副議長（米沢照男君）　小俣昭光君の質問についての答弁を求めます。企画財政部長。

○企画財政部長（前田雅夫君）　企画財政部長お答えいたします。

ただいま、科学館、すなわち、その中にプラネタリウム館の建設についてどうかということでございますけれども、都内の建設の状況を、まず申し上げますと、現在、民間公立を含めまして１３館ございます。そのうち民間が３館ございます。都立が１館、区立が７館、それから市及び町立が２館でございます。合計１３館になります。

さらに、どういう形でこれらのものを整備しているかということを申し上げますと、教育センターの併設が６館、文化及び科学センターということで設置しているのが３館、独立が１館でございます。この独立といいますのは羽村町の施設でございます。今、都内の状況はそういうわけでございますが、５６年の板垣議員さんの質問の中でもお答えをいたしましたけれども、御質問の趣旨なり要望の内容については、もちろん同感でございますけれども、現在すぐに、この施設をつくるということにつきましては、なかなか無理ではなかろうか、少し時間をいただきまして計画検討をいたしたい、というふうにお答えしたわけでございます。現時点におきましても、そういう考えでいるわけでございます。今後、十分検討し、実現に努力してまいりたい。そういう気持ちでは同じでございます。

○副議長（米沢照男君）　　小俣昭光君。

○３番（小俣昭光君）　　５６年の板垣議員の質問のときにも、速記録を読みますと、もうすぐにでも実現できるような（笑声）まさに来年の予算に盛り込むかどうかという質問までされております。それから、既に４年間たってきております。そういう点で――また、それと、もう一つは、その中でも児童館に併設とかということまで、かなり詳しくやられておりますので、そういう点では、いま少し真剣に考えていただきたいというように思います。

で、私たちは、この問題で、共産党市議団、この８月に北海道の北見市を行政視察してまいりました。視察内容は、福祉行政とプラネタリウム館を視察してきました。他の自治体を参考にして日野市の行政に反映させるために私は今回、このプラネタリウムと、そしてもう１問の福祉行政について質問させていただいているわけであります。

北見市のプラネタリウム館のある北網圏北見文化センターの概要を、ちょっと御紹介したいと思います。この文化センターの中には、科学館、博物館、美術館、視聴覚センターの四つの複合施設として建設され、総事業費２７億円、市民会館に匹敵するぐらいの金額になっております。建築工事期間約２年で、開館が５９年１１月と、ちょうど１年前にでき上がった立派な施設でありました。

科学館については、科学技術の発達がめざましい今日、未来に向かって、青少年の科学する心、創造する心を養う場として機能するため展示物は、従来の見る、聞く、受けるの受け身型から、さわれる、加わる、語るの積極体験型に重点を置いて配置されております。また講座室や実験室、工作室等の利用も行われております。で、私たちも、ここで実際にすべて体験してきたわけではありませんけれども、幾つかを経験してきております。この中にプラネタリウムもつくられているわけであります。科学館の中には今の技術――最先端の技術と言われているものが幾つか展示されております。航空機のエンジンの部分、あるいはＹＳ１１のプロペラなど、リニアモーターカーなども展示され、そして実際に動く、そのような内容になっております。それとか、自動車の仕組みということで幾つかのメーカーの自動車が展示され、そして、ただ置いてあるだけではなく、その自動車は中の方まで、エンジンのところまで、あるいはタイヤなども半分に切断され、子供たちにも十分理解ができるように、そのような内容になっております。

そして、このプラネタリウムのあるドームには――このドームは直径１５メートル、北海道

には函館と二つありますが、函館に次いで二番目の大きなプラネタリウムとなっております。プラネタリウムの投影機、これが、これだけで約１億円と言われております。このプラネタリウムの中には１７０のいすを占め、そしてプラネタリウムを見ないときには講演などもできるように、その投影機を床下に下げて講演などに支障のないような施設ともなっております。また、宇宙劇場とも言えるような全天全周の映画の組み合わせなども私たちも見せてもらいましたが、すごい迫力のあるものでありました。このようなものが科学館の一つとなっているわけであります。

あと、博物館については今日の文化の基礎を築いた先達の生活を初め、郷土の自然、歴史等を振り返り未来を想像する場とすることになる、これらのものが展示されております。日野でも郷土博物館が建設されようとしておりますが、やはり北見でも洞窟生活をしていた資料などが発見され、あるいは北見が海の時代に栄えたと言われているデルモスチールスという恐竜みたいな模型が展示されております。

それと、もう一つは屯田兵で有名なことでありますので、その家屋なども、そのときの家族の情勢なども展示されておりました。

美術館については、郷土にゆかりのある美術作品が、ちょうど展示されておりましたが、これは素人というんですか、北見市周辺の美術愛好家の人たちが展示されておりましたが、それこそ、プロの人がかいているような立派なものも相当、展示されております。このような展示室もあります。

そして視聴覚センターについては学校教育及び社会教育における映画、ＶＴＲの視聴覚機材の利用及び機材、ソフトの貸し出しや使い方の問題なども広域視聴覚ライブラリーとともに連帯をとり、教養と豊かな情操教育をはぐくむサービスを行っております。

このように自然科学や人文科学、芸術と、分野の異なる展示物を一つの屋根におさめ、新しい、これは試みと言われております。絵画を愛し宇宙の営みに好奇心を持つ子供たちを育てることが求められております。文化センターには科学館を訪れた子供が美術を鑑賞し、昆虫標本を調べに来た子供が先端技術にも触れる、そんな２０世紀の子供を育てることが夢だとされております。

このように北見市ではプラネタリウム館は四つの複合施設として市民から利用されております。日野市内に自動車産業や電気、コンピューターや繊維産業など、幅広い市民や児童などに

関心が高い展示物ができるような、このような展示する科学館など複合機能の施設をぜひ実現したいので、再度お答えいただきたいと思います。また、市長にもこの問題について、どのようなお考えか、お聞かせいただきたいと思います。

○副議長（米沢照男君）　再質問についての答弁を求めます。市長。

○市長（森田喜美男君）　議会の議員の皆さんは、あちこちに視察に行かれる機会があって、いろいろ勉強され、その抱負を、また、議場で反映したいという、大変いい、ひとつのサイクルだと思ってお伺いしております。

私どもの日野市をふるさとといたします、特に未来のために地域が育てる青少年に、文化あるいは科学の基礎的な認識を身につけさせる、こういうことの重要な意義は極めて大きいと思っております。そこで自然保護センターでありますとか、あるいは科学センターでありますとか、具体的には今、言われるようなプラネタリウムの問題とか、いろいろと夢は多くあるわけであります。

何といいましても、先に立つのが用地の問題であります。そこで、いつも国有地の、これを受け取って何を事業として組むかという課題、あるいは緑地の保全、また市内に取得できる将来の公共事業のための場所を確保しておくということを、いろいろと考えるわけであります。今日を担当する私どもといたしまして、将来に対して誤りのない、あのときにこうしておけばよかったということにならないような、そういう大変慎重なほどになる、ならざるを得ないわけでありますけれども、そういう考えでおりますことをまず申し上げておきたいと思います。

確かに５６年当時、あるいは私の、育つ子供に夢をという、そういう大きな課題の中で、具体的なプラネタリウムの設置というふうなことも既に申し上げておるわけであります。言いわけを言うつもりはないんですが、市内を見渡しまして、やっぱり高い場所であり、また環境の整った場所というふうに市内を見渡してみますと、私は「多摩テック」の敷地が一番いいんではないかというふうなことを考えまして、「多摩テック」の経営者に、ひとつ交通関係の遊覧施設といいますか、そういうことではありますが、なお、夢を子供に、より広げるためにプラネタリウムの設置をということを責任者の方に申し出ましたところ、検討させていただきます、ということでございました。たまたま、例の、場内で事故があったことがあるわけでありまして、あのことが、かなり、あそこの企業にはショックだったようでありまして、そのことがちょっと、とんざしております。しかし検討中であることは、まだそのとおりでありますので、

これは他力本願ということのみならず、あの事業の繁栄のためにも私は、そういう科学的な、子供に夢を与える、そういう範囲に仕事を広げていただく、ということも大いに有意義だと思っておりますので、今後も求めていきたいと、このように思っております。

それから、他力本願ばかりでいいわけはありませんから、やはり、そういう場所を確保していこう、用地を確保していこうということを、そのほかのことも含めて考えなければなりません。やっぱり、スポーツのグラウンドをつくるには河川敷の活用がもっとほしいと思っておりますし、それから丘陵地の自然地を活用するような、そういうことも考えたいと思っております。

ハレーすい星に間に合わせるということは、なかなか具体的に難しいと思っておりますけれども、この庁舎の屋上に天体望遠鏡を設置してくれという、そういう御意見もございます。これは、その関係のマニアの方から言われております。そういうことも含めまして、子供の科学館、あるいは児童館というのをどのように、これから考えるべきかということもあわせまして、お知恵をお借りしながら御提案のことにつきましても、その具体性を、なお進めるための努力をこれからしたいと、このようにお答えをしておきたいと思います。

○副議長（米沢照男君）　小俣昭光君。

○３番（小俣昭光君）　多摩テックにお願いするという線と、庁内にもつくっていくという、多摩テックだけではなく庁内でも検討してみたいということですので、ぜひ検討していただきたい。その中で、私たちも、この文化センターの館長とお話ししたときに、こういう事業をやる場合には、若い人たちを抜てきしていただいて、プロジェクトチームなりつくっていただく、そして、そういう人たちの発想を生かしていく、これが大事なんだというようなことを言われておりました。プロジェクトチームをつくるには、そういう方法がいいじゃないですか、ということまで私たちは提言されてきたわけであります。ぜひ、そういう若い人たちの一一特に先ほど言われました天体に関心のある人を、そういうチームに入れていただきまして、それで検討していただきたいと要望して、この問題を終わらせていただきます。

○副議長（米沢照男君）　これをもって１４の１、総合科学館（プラネタリウム館）実現に関する質問を終わります。

１４の２、老人、母子家庭の医療費無料化についての通告質問者、小俣昭光君の質問を許します。

○３番（小俣昭光君）　　１４の２、老人、母子家庭の医療費無料化について質問をさせていただきます。

中曽根内閣のもとで日本の社会保障は、今、大きな政治転換という流れの中で、激しい攻撃の矢面に際限なく立たされています。日本は、かってない豊かな国になったとか言われて社会保障の受け持つ範囲が縮少されるなど、臨調の社会保障攻撃に基づくものであります。

今、日本には直接社会保障を必要としている人々が、深刻な悩みを抱えながら確実にふえているのであります。６５歳以上の老人は総人口の１０％を占めようとしております。障害者は１０年間で５０％もふえ、病人は昭和２８年以来、最高を記録しております。これは国民８人に１人という状態であります。母子世帯も６０万を超えており、生活保護受給者も約７７万世帯と、人口では１４７万人で、毎年、少しずつではありますが、ふえ続けております。それにもかかわらず生活保護費に対する補助金の１０％カットを初め、医療費の有料化、年金給付額の抑制や施設費の有料化と高額化、児童手当や児童扶養手当の引き締めなど、最も社会保障を必要とする人々を窮地に追い詰めております。

ここで、革新都政時代に実現した、そして全国に広がった老人医療の無料化が、どのように実現してきたか、高齢者の運動を少し御紹介したいと思います。自主的、自覚的な運動として高齢者たちがみずからの要求を、解決を目指し始めたのは昭和４０年に結成された東京文京区の「老後の保障を確立する会」だと言われております。この会は全日自労、生活と健康を守る会、区労協、老人クラブ、新日本婦人の会、母親大会連絡会などが１年がかりで町内会ごとに誘い合って準備されました。父母会がまとめ上げて、区議会の要請項目は、一つとしては、老齢福祉年金の所得制限、他の法律との併給禁止の撤廃、６０歳以上に最低１万円の支給、二つ目としては、ふろつきの老人福祉センター、区立老人ホームの建設、三つ目としては老人専門病院の建設、老人健康手帳による月１回の無料健康診査、四つ目としては低家賃住宅の建設、都営住宅１階の老人優先割り当て、５番目としては区立保養所利用料の老人無料化、区役所出張所会議室の１週間１回の解放、公衆浴場や理髪、交通の料金割引などを要求しておりました。この「老後の保障を確立する会」に並行して、九つの病院、診療所を拠点にした活動も行われております。この二つの運動が結合して1,９７１年に―― 昭和４６年でありますが、文京老齢福祉保障推進協議会が発足しました。老後保障運動の芽生えと言えるこの時期、その後の運動の基本的な性格がここでつくられたと言われております。

その第１は、どんな政治や行政、貧困や疾病にも耐え続けてきた高齢者たちが、当面する命と暮らしの危機を解決しようとしてみずから立ち上がって結集したことであります。

第２は自分たちの要求実現のために身近な人々から地域への合意を広げながら、町づくりとして自治体に向かって運動が集約されてきたことであります。

第３は、同じ願いを持つ個人や団体など、協力し合って活動を進めてきた東京、文京区における先駆的な運動の土台には１９６０年、昭和３５年以降の高度経済成長政策によって、高齢者の生活と地域の破壊が急速に進められていたことであり、労働者の使い捨てとしての定年制の広がり、生活に見合わない年金、失業の増大、再雇用の際の低賃金と権利性の希薄、疾病の拡大、家族と世代間の孤立、住宅問題などが都市から農村へも広がったと言われております。これらの実態を高齢者要求としてまとめ、高齢者運動を指導させた文京老齢保障推進協議会は、革新都政の実現を準備し発展させながら、２年の間、交流、学習、討論会を経て、１９７１年、昭和４６年に東京都老後保障推進協議会を創設する原動力となりました。この間に区政における老人福祉充実とともに、１９６７年から１２年間にわたって、民主団体、労働組合、婦人団体の連帯した運動によって革新都政の重要な老後保障政策として、老人医療費の公費負担、老人専門病院の建設、敬老乗車証、特別養護老人ホーム建設など、文京老齢保障推進協議会の要求のすべてにわたって施策が実現されてきております。

こういう運動の中で、老人福祉に予算を使うのは枯れ木に水をやるようなものだ、と言った大蔵官僚の放言や、都議会で堂々と述べる自民党議員、これらに象徴されて高齢であることを理由にした政府の攻撃が、貧困者に孤立を、高齢者と家族の生活や地域に拡大される中で、多くの民主団体、労働組合、研究者などに支えられて運動が前進してきたのであります。これは単に老人医療の有料化といったものではなく健康保険、公的医療などを含む国民的な医療保障制度の解体、権利としての医療体制の変質、再編成と拡大するものとして健康保険本人の１０割給付の復活と結びつけて、老人医療の１０割公費負担実現への地域要求を再組織して、今こそ、この決意のあらわれとして老人医療無料制度を発祥させた、現在も堅持している岩手県沢内村では命の埠を建設してきております。

このような運動の中で老人医療が実現してきたわけでありますが、主として今の老人医療の有料化に対して無料化実現にどう取り組むか、お聞かせいただきたいと思います。

また、母子家庭の医療費無料化については、どのようなお考えがあるのか、お聞かせいただ

きたいと思います。

○副議長（米沢照男君）　　小俣昭光君の質問についての答弁を求めます。福祉部長。

○福祉部長（高野　隆君）　　福祉部長でございます。

ただいまの老人、母子家庭の医療の問題についてお答えしたいと思います。

老人医療の無料化につきましては、本格的に高齢化社会を迎えつつあります我が国において、地域保健医療対策の充実強化ということで重要な問題であると考えております。今日の高齢者の多くが、やはり何らかの健康上の障害があるということで、日野市老人意識実態調査によりましても、７０歳代の後半では約４０％を超える方々が通院ないし入院をしているということでございます。また、本来の地方自治体での責務としては市民の健康、福祉を保持するということでの地方自治法第２条での中で規定されておりますように、老人の健康施策ということは重要な問題であるということで考えております。その中で、先ほど御指摘になりましたように老人医療の無料化は昭和４４年の秋田県で実施されて以来、全国的に広がりまして、５３年に国の実施ということでの公費負担が実施されてきたわけであります。その後、昭和５８年２月に老健法が実施されまして、一部負担制度が導入されて、現在来たということでございます。しかしながら医療費の公費負担制度だけでは高齢者の医療対策としては不十分だということで、保健対策としての在宅寝たきり老人訪問看護、またホームヘルパー制度、地域保健協議会運営事業等も実施されてきたわけでございます。

老人保健事業としましては、現在、健康手帳の交付、健康教育、健康相談、健康診査、機能訓練、訪問看護等が行われてきておりますし、また各地では保健センター等が建設されてきております。今後、地域保健体制への整備ということも重要な問題だと考えている次第でございます。

日野市といたしましても老健法の実施以来、健康管理手当の１万円の増額ということもあわせまして、訪問看護事業の実施、また、その他の保健事業の一層の充実を図ってきているわけでございます。

現在、最近の情報といたしましては、厚生省が老健法の実施３年後を見直しということで、去る８月２１日に厚生省は、月４００円の外来手数料を1,０００円、それから月３００円の入院料を５００円ということでの改定案を次の通常国会に提出するということで新聞報道されているわけでございます。

こういうような事態の中で、今後、日野市の老人に対する医療費の負担というのは、ますますふえてくるということは考えられるわけでございますので、保健制度の強化とあわせて、この医療費の問題は再検討をする必要がある。特に健康管理手当の見直し等も含めて今後の老人医療の無料化に向けての施策といいますか、その辺のところについては重大な関心を持ちながら検討する必要があるというぐあいに考えているところでございます。

また、御質問のありました母子医療の無料化についてでございますけれども、日野市において行われました昭和５６年の母子、父子世帯の実態調査によりますと、約２０％が何らかの病気を持っている、ということでございます。また、その他には住宅問題についての要望、また検診に対する要望等も強くあらわれております。

現在、全国での公費負担の実施状況というのは、４１府県で実施されているということは聞いておるところでございますけれども、その内容につきましては、所得制限の内容、あるいは実施の方法等、まちまちでございます。改めて我々としましては、数年前に実施されています母子家庭の実態調査、父子家庭の実態調査を改めてもう一度確認をして、施策の方向等は今後、考えていく必要があるということでおります。現在、日野市の母子世帯は６０年７月１日現在で母子扶養手当受給者が４８７世帯ということでございますので、推定では、かなりの母子世帯がおいでになる、こういうことでございます。約1,０００世帯近くになるんじゃないかというぐあいに考えておりますが、その方々の問題、その問題につきましては、医療の問題とあわせて、やはりその他の問題も含めて考えていく必要がある、そのように考えております。

○副議長（米沢照男君）　　小俣昭光君。

○３番（小俣昭光君）　　母子家庭の医療費の無料化の問題について、今、部長が言われましたように、かなりの人たちがその問題で悩んできております。特に収入制限がありますので母子扶養手当が実際に、その制限ぎりぎりの人たちに対しては、非常に生活が圧迫されている、このように訴えてきております。そういう点でも医療費の母子家庭の無料化の問題については、ぜひ実現させていただきたいと思います。

私たちも── 先ほどの北見市での福祉行政、このときにも老人の医療費は無料化を実現させ、今も実施し、そして、母子家庭についても医療費を義務教育の終わるまで── これは所得制限がありますが、実施している。そして６歳未満児については所得制限なしで無料化を実施している、このようなことを聞いてまいりました。

ですから、この三多摩でも幾つかの市で行われているところもありますが、ぜひ、日野市で

母子家庭の医療費の無料化を実現させていただきたいと思います。また、高齢者の老人医療の無料化については、今、部長が言われました健康管理手当の問題も含めて検討していきたい、ということでございます。多くの老人の人たちが、病気で通院でいられる間は、まだ何とかなる、ですが、一たん入院した場合には、とても支払い切れない、このようなことを訴えております。

そこで中野区では、これらに対して、高齢者の入院に関するアンケートの調査をこの６０年の７月に実施して、報告書が出されてきております。これを見ましても中野区では二度によって老人の医療の無料化を提案する、そして、それが自民党など多数によって否決される、こういう中で、こういう調査活動を重視いたしまして、そして幅広く市民に訴えていく、このようなことからいろんな調査活動をやっております。ぜひ、日野市でも、実際に入院したお年寄りの人たちがどのくらいお金がかかっているのか、あるいは収入がどうなのかということも再度調査して、そして明らかにしていただきたい。そういう中で多くの市民の理解を得て老人の医療費の無料化が実現できる運びとなると思います。決して老人の人たちだけが福祉の恩恵をあずかるということではなく、市民の深い理解のもとでこれが実現できるよう調査をしていただきたいと思います。

簡単ですが、この問題については、この調査の概要について説明させていただきたいと思います。

この調査目的としては先ほど言いました高齢者区民の入院の実態と意向を把握し、今後の福祉、医療施設検討の基礎資料とする、これが目的であります。で、調査対象は老人保健法による医療の老人の受給資格、あるいは東京都の医療助成への福祉の受給資格者で、基準看護でない医療機関に入院して付き添い看護料を請求した人ということが対象であります。

この調査方法は、区役所総合窓口において付き添い看護料を請求に来庁した方にアンケート用紙を交付し、郵送で回収する方法をとっております。調査期間は６０年の４月１０日から６月の１０日であります。回収結果は── 調査票配付数は１７３枚、そして調査票回収数は112枚、回収率が６４.７％となっております。調査対象者の年齢と性別なども調査されております。

男の人が 25人、22.3%、女性が87人で 77.7 %が入院されております。入院された方は何歳で入院されたかということも質問されております。６５歳から６９歳は5.3 %、６人が入院されております。７０歳から７４歳は１６人で１４.３%、７５歳から７９歳が２２人で１９.６%、

８０歳以上が６８人、６０.７%、女性が７８%の入院、そして８０歳以上の人が６１%を占める状態となっております。そして子供等の同居者はどうなっているのかということも家族構成が調査されております。１人暮らしが１２.５%、子供、孫と同居が３８.４%、子供だけと同居３０.３%、老人だけの世帯１０.７%、どれにも当てはまらないというのが８%となっております。ここでも子供等の同居者は７０%を超えております。

住居の状況はどうかというものもあります。ここでは１戸建てで持ち家が８２.１%、分譲マンション、これが3.6 %、このようになっております。ここでは自家保有率は８６%となっております。

収入の状況も出ております。月額がどのくらいなのかということで出してあります。仕事や年金などで１カ月の総収入はお年寄り夫婦２人あわせるとどのくらいか、１人の場合はどうなのかというのが問い合わせになっております。ここで５万円未満３４.９%、５万円から１０万円未満が１４.６%、１０万から１５万未満が２２.３%、１５万から２０万未満が１１.６%、20万から３０万未満8.7 %、３０万円以上というのが7.8 %、無回答もありました。ここでは、先ほど医療の必要性が言われていた月額５万円未満の人たちが３５%を占めております。

このようになっておりますが、あと、入院した理由については── 自宅療養でなく入院された理由はなぜですか、というような問いがあります。三つ以内で選んでくださいということになっております。１が充実した治療が受けられるから、４６.４%、医師に指示されたから、５５.３%、住宅事情が悪く、部屋が足りないから、0.9 %、自宅で看護する人がいないから、４５.５%、入院の方が費用がかからないから、1.8 %、交通事情などで通院が難しいから7.1 %、その他が１０.７%あります。これは三つ選んでおりますので── 入院の理由を三つ、その中で選んでおりますのでこういうパーセントになっております。ここでは医師の指示が５５%を占めております。そして入院先はどこなのかという問いについては、医療診療所というのが9.8 %、一般病院７４.１%、老人専門病院が１６.１%。ここで一般病院に７４%が入院している。入院先は主治医に相談してというのが５２%になっております。どのくらいの期間入院をしているか── １日から１４日というのが0.9 %、１５日から１カ月未満というのが2.7 %、１カ月から３カ月未満が１６.１%、３カ月から６カ月未満が１１.６%、６カ月から１年未満１８.７%、１年以上が４９.１%となっております。ここでも１年以上入院している方が４９%と5割近くを占めており、最も多くなっております。次いで６カ月から１年未満が１９%とな

っており、この二つをあわせると7割となります。今回の調査対象で付き添い看護人をつけなければならないという重看護老人であるから長期の入院を余儀なくされていることがここでも推定されております。

付き添い看護料以外の費用をあわせると１カ月におよそ、どのくらいになりますかという問いについては、5,０００円未満1.8％、5,０００円から３万円未満が１1.9％、３万円から５万円未満１5.6％、５万円から１０万未満２0.2％、１０万以上２０万未満が２3.8％、２０万から３０万未満が１9.3％、３０万以上が7.3％。現行制度で６５歳以上の人は入院医療費は、入院した２カ月間は一部負担金として日額３００円支払えば医療は無料となっておりますが、しかし、実際には入院してどのくらいの費用を負担しているかを聞いたわけであります。これについては付き添い看護料が、本人たてかえというのがあとでほぼ戻ってまいりますが、１０万円から２０万円を負担している人が２４％となってきております。２０万から３０万円が１９％となっておりますので１０万円以上払っている人が５０％を超えております。このような付き添い看護料というのは非常に高い費用となっております。

そして、差額ベッドはどうかというのもあります。差額ベッドでは６３％に当たる人が差額ベッド料を支払ったと回答しております。

そのほかに、おむつ代もあります。これは５９％がおむつ代を負担しております。付き添い看護を要する重看護老人が今回の対象であったわけですから、調査の対象であるわけですから、おむつ代も必要とした人が多いのも当然でありますが、月額１万円が５９％、２万円までが３２％、ですからこのように９０％以上の人が１万円から２万円のおむつ代まで払っているわけであります。

このように中野区では細かい調査をして、そして、この調査の結果を広く区民に知らせて、そして老人医療の無料化を再度実現させるために一生懸命がんばってきております。

この日野市でも、どうかこのような調査をして、そして老人の医療費無料化の実現、そして母子家庭の医療無料化の制度実現のために全力を挙げていただきたいと思います。多くの市民の人たちに理解されるよう、この運動もさらに発展させて老人医療の無料化、あるいは母子家庭の医療の無料化実現のために、私たち共産党市議団もその先頭に立って奮闘する、そういうことの決意をあらわしまして、この問題、積極的な取り組みをお願いいたしまして質問とさせていただきます。

○副議長（米沢照男君）　これをもって１４の２、老人、母子家庭の医療費無料化に関する質問を終わります。

お諮りいたします。議事の都合により暫時休憩いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（米沢照男君）　御異議ないものと認めます。よって暫時休憩いたします。

午前１１時４５分休憩

午後　１　時４６分再開

○副議長（米沢照男君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問１５の１、「日の丸」「君が代」で国の不当な介入を許すなについての通告質問者、一ノ瀬　隆君の質問を許します。

〔１１番議員登壇〕

○１１番（一ノ瀬　隆君）　この日野市議会で、今まで国旗を掲揚せよ、国歌斉唱の指導を実施せよなどの発言だけが目立っていたように感じていましたので、ここで日の丸の掲揚、君が代の斉唱に反対する立場の強力な存在を明確にするために、この質問を取り上げました。

文部省は今月の５日、教育委員会に対し、国旗と国歌の適切な取り扱いの徹底を求めた通知を出しました。文部省が、日の丸と君が代のことで、都道府県に通知を出したのは、初めてのことだということです。適切な取り扱いの徹底、甚だ持って回った言い方ですが、実は入学式や卒業式での国旗掲揚、国歌斉唱を徹底させよ、という意味なのであります。日の丸や君が代が国旗、国歌であるという法的根拠はなく、文部省が勝手に決めているだけであります。したがって、その後ろめたさから、このような持って回った言い方をせざるを得なかったのだろうと思います。

文部省は、ことしの４月末に全国のすべての公立小学校、中学校、高校、３万8,８４２校を対象とした総合調査を行い、この中で今春の卒業式、入学式での日の丸掲揚、君が代斉唱について回答を求めました。この結果、初めて都道府県政令指定都市別の状況が明らかになりました。わずかな県で、君が代、日の丸双方とも１００％実施のところもありますが、君が代をほとんど歌っていない京都、ゼロの沖縄もあります。この調査は自民党が強く迫る国旗掲揚、国歌斉唱の徹底運動と呼応した形で、このため文部省は実施率の低い地域に対して徹底するよう

に求めたのが９月５日の通知なのであります。

私たち社会党は、この通知が、小学校、中学、高校に君が代斉唱と日の丸掲揚を義務づけようとするものであると事態を重視し、反対の立場を明らかにしました。日本社会党は１０月５日に、中曽根首相のやりたいほうだいにストップをかけようと首都全党員一斉街頭宣伝を行うことにしています。

防衛費のＧＮＰ１％枠突破阻止、靖国神社公式参拝糾弾、国民総スパイ法糾弾、核をなくせと中曽根首相のやりたいほうだいにストップをかけるため、石橋委員長を先頭に街頭宣伝を取り組みますが、今回の君が代、日の丸の文部省通知は、この軍事大国化路線、靖国神社公式参拝などとともに戦前―― 戦争前、戦前回帰を一層強くするものとして広く批判の声が上がっています。

先日の古賀議員の質問、５分超過し議長辞職勧告のきっかけをつくった質問の一つ前の質問だったと思いますが、この質問の参考にもしていただきました社会新報に「君が代」「日の丸」に関した記事が載っていました。毎号のように載っていましたが、一つだけ紹介しておきます。

９月１３日付社会新報で、評論家の茶本繁正さんは言っています。

「何にも言えず靖国の　宮のきざはしひれ伏せば　熱い涙がこみあげる　そうだ感謝のその気持ち　揃う揃う気持ちが国護る」―― 戦時色の強まった１９４１年にヒットした「そうだその意気」という歌の１節だ。閣僚の靖国公式参拝は、もう一度この歌の斉唱を国民に期待したいのであろう。「スパイ法」を立案した自民党の議員は「次は有事立法だ」と公言している。戦前の日本は国民精神総動員を経て、国家総動員体制を敷いた。今、靖国公式参拝とともに学校では「君が代」が強制され、一方で有事立法の研究が進行している。いつか来た道と同じではないか。

９月２５日号の婦人新聞には、評論家の梶谷善久さんが次のように言っています。

中曽根首相の言う“戦後の総決算”の正体がはっきりと見えてきた。戦後４０年間、せっかく積み上げてきた平和と民主主義ををを“ご破算”にして、軍国主義とファシズムの戦前路線へ逆戻りをさせようとの魂胆は隠しようもない。防衛費をＧＮＰの１％枠内に抑える歯止めの撤廃は一応見送りとなったが、その突破は時間の問題である。国民の目、耳、口をふさぐ国家機密法は継続審議とし、自民党タカ派はその制定にやっきの努力を続けている。この８月１５日は、中曽根首相が閣僚を従えて靖国神社に公式参拝をやってのけた。そして９月５

日、「公立学校は日の丸を掲げよ、君が代を斉唱せよ」との文部省通達が全国の都道府県に出された。この日の丸強制だけでも、私は政府自民党を許せない。日の丸とは何か。出征兵士が腹に巻くために、父が、母が、妻が涙とともに武運長久と墨書―― 墨書きした旗だ。その下で天皇陛下万歳ととなえて、多くのアジア人、アメリカ人、イギリス人を殺した旗だ。原地住民を狩り集め、再び生きて還ることのない戦地へ送るトラックに立てた旗だ。「国旗を掲げ、国歌を歌うのは世界的な常識です。文部省が通知を出すのも、教育の国際化をはかる以上当然のこと」と曽野綾子氏は言う。君のため、国のため命を捧げる若者をつくり出そうとする政策への迎合論である。日の丸の下で、日本の若者と外国の若者が殺し合う事態を断じて再現させてはならない。

以上が「日の丸掲げて何をさせる気か」と題された一文でした。

９月１２日の毎日新聞の「みんなの広場」に「討論―― 日の丸、君が代」というのがありました。この中で特に私の共鳴したものですが、６７才の人はこう言っています。

しかし、日の丸を国旗、君が代を国歌とする法的根拠はどこにもない。これは文部省も認めている。日本人はこれに対し自然な形でこれを了承しているが、一方、日の丸、君が代は戦前、軍国主義教育に悪用され、中国をはじめ、アジア諸国では侵略戦争につながるシンボルとして受け止められている。日本ではただ一つ、太平洋戦争中に戦場となり、多くの犠牲者を出した沖縄県が今回の調査で最も実施率が低い結果となったのは、このためであろう。このような不幸な過去を持っている日の丸、君が代を文部省が一律に、急速に行政指導という形で強制するのは、またもや国家主義復活の危惧を感ずる。

４８才の女性のものに「民主国家らしいものつくれぬか」の見出しで、こんなものもありました。

先進国である、新興国である国家は皆、国旗や国家を敬愛させる教育を行っている。しかし、私の小学校時代、日の丸と君が代は日本のシンボルではなく、天皇のシンボルだったような気がする。だから敗戦後、天皇が人間宣言されてから日の丸、君が代を遠ざけたのではないか。「日本は戦争を放棄し、新しい国に生まれ変わった。日の丸は掲揚せず、君が代を歌うこともありません」と朝礼で校長先生の言葉があった後、私たち小学生は泣きながら焼け落ちた学校のがれきを拾い集めた。数年たち、日の丸の掲揚を許された日、懐かしさに涙して掲揚した。でも、民主主義になじんだ私の心に、日の丸はなじまなかった。私は戦前の日本

より、今の民主日本が大好きだ。世界中で一番好きな国である。決して国家をないがしろに考えていない。民主的国旗と国家を選定する日を待ち望んでいる。

１９８３年、第１回定例会に古賀議員が一般質問で「日の丸」を取り上げています。その中で１３００年前にさかのぼった日の丸のルーツと歴史が語られていました。古賀議員の勤勉さに改めて敬意を表するところですが、私が考えるに、最も大切な重要な時期である太平洋戦争の戦前、戦中の日の丸の歴史が何故か欠落しておりました。先ほど引用した新聞記事などで、戦前戦中の日の丸の役目は語られていると思います。この時期は私は小学生でした。子供ながらそのことを体験しています。天皇のシンボル、軍国日本のシンボル、侵略戦争につながるシンボルだったのです。

日の丸の小旗を持った多くの人々に送られ、天皇陛下のためにと何人もの人が出征していきました。戦争に駆り出されていったのです。そして、その中の何割かの人が遺骨となって無言で帰ってきました。名誉の戦死で町葬が営まれました。「あゝ悲しいかな、有山　亮謹んで申す」という、時の日野町長のとむらいの言葉を何度聞いたことか、はっきり記憶に残っています。

私は、戦争中に出された東京全音楽出版社発行の大日本軍歌集というのを持っています。ボロボロになりましたが大事にとってあります。軍歌の中に日の丸がやたらと出てくることからも、古賀議員が語らなかった戦争中の日の丸の歴史、戦争と日の丸が、いかに深い関係だったかがわかると思います。日の丸は日章旗とも呼ばれていました。

日の丸行進曲の１番と４番の詩を朗読させていただきます。

母の背中にちさい手で、　振ったあの日の日の丸の、遠いほのかな思い出が、胸に燃えたつ愛国の、血潮の中にまだ残る ――これが１番です。

４番は、

去年の秋をつわものは、召しに出されて日の丸を、敵の城頭高々と、一番乗りにうち立てた、手柄はためく勝ち戦。

続けます。日の丸よりももっともっと許せないのが国歌としての君が代です。古賀議員が日の丸のルーツを述べられましたので、君が代のルーツを調べてみようかと思いました。知識もなく探究心も弱い私ですので、ほんのちょっとだけでやめました。ささやかな私の蔵書の中から、何年ぶりかで岩波書店の「日本古典文学大系」を取り出し、その第８巻の古今和歌集を見

ました。

古今和歌集巻第７の「がのうた」の最初に載っていました。題しらず、読人しらずで……。「わがきみは千世にやちよにさざれいしのいはほとなりてこけのむすまで」とあります。佐伯梅友氏の校注によりますと、賀のうたとは祝いの歌であり、祝いの歌として君が代の原型は載っているのでした。

『「わがきみ」の「きみ」は広く用いる言葉であって、天皇を指すとは限らない』とあります。

『「千代にやちよに」は限りない年数を意味する。「さゞれいしのいはほとなりてこけのむすまで」は、小石が成長して大きな岩となって、それにコケが生えるまで。限りない年数を目に見えるようにあらわそうとした言い方』と記されていました。「わがきみは」が「君が代は」に、いつどうしてなったかは私は知りません。しかし、両者に共通する「君」が大きな問題を持っているのであります。古典文学大系の校注にはわざわざ「天皇を指すとは限らない」とありますが、戦前戦中のそれは明らかに天皇であったのであります。

私は、日野町立日野国民学校豊田分教場で、それをはっきり植えつけられました。この日本は、この世の中は、アラヒト神、天皇のもの、この土地もこの建物もすべて天皇陛下のものである。陛下の御慈悲でこれを使わしていただいているのだと……。天皇陛下という言葉も、そのままでは使えず、その頭に「恐れ多くも」とか「かしこくも」をかぶせなければいけなかった。天皇陛下といえば、どこの場所でも直立不動にならなければならなかった。豊田分教場では毎朝、１３５度右に向いて、天皇のいる宮城に向かって最敬礼をしなければならなかった。弁当を食べる前には「天皇陛下の赤子です」などと毎日、唱えなければならなかった。

１９４５年８月以降、だんだんと真実がわかってきました。「現人神」は国語辞典にも出ていました。「人の姿となってこの世に現われた神」とあります。天皇の「人間宣言」とか言って、神から人間になったように言っていますが、もともと人間だったのを神だ、神様だと国民をだましていたのでした。国民をだます一つの有力な武器に使われていたものを、それ以降も何で使わなければならないのでしょうか。どうしても国歌がほしいというのならば、ほかにつくればいいと思うのです。

９月５日の、日の丸・君が代徹底通知を伝える６日付朝日新聞は、日教組の中小路書記長の話を載せていました。

今回の文部省通知は、学習指導要領の「国旗掲揚と国歌斉唱が望ましい」とした内容を大

きく踏み越え掲揚と斉唱を義務づけようとするもので重大だ。調査結果の数値はいずれも高いが、「日の丸」掲揚や「君が代」斉唱が教職員の十分な意志統一がないまま、校長、教委や一部父母の意見のみで強行されている背景がある。教育への不当な国の介入であり、強制、義務化に対しては各職場での反対闘争を強化する。

日教組書記長はこう話していました。中小路書記長が言うように、残念ながら調査結果の数値は高くなっています。

日野市の場合も聞くところによると、日の丸の方は大分高いようですが、書記長の言うように日野市でも教職員の十分な意思統一がないまま校長などの意見で強行されているということがあるのでしょうか。

この辺から質問していきたいと考えますが、まず９月６日付新聞に報じられた日の丸掲揚、君が代斉唱状況に対する日野市の状況をお知らせいただきたいと思います。朝日新聞には昭和５９年度卒業式の状況が都道府県別の一覧表になってパーセンテージによって示されていました。これに対応した数字を含めて、日野市の状況を、まず教えてください。さらに入学式の状況もあわせてお知らせください。それを聞いた上で次の質問を続けることにします。

○副議長（米沢照男君）　　一ノ瀬　隆君の質問についての答弁を求めます。教育次長。

○教育次長（小山哲夫君）　　教育次長からお答えをいたします。本来ですと教育長からお答えをすべき予定でございましたけれども、本日、病気のために欠席をいたしておりますので、教育長にかわりまして私からお答えをいたします。

９月５日付で文部省の初等中等教育局長が各都道府県の教育長、並びに指定都市の教育長に対しましての、いわゆる通達に基づく日野市の９月６日以降の状況ということでございますけれども、９月６日以降の――大変、申しわけございませんけれども、まだ間もない時期でございますので、国旗の掲揚、あるいは国歌の斉唱につきましての数字は、つかんでおりませんけれども、５９年度の卒業式、並びに６０年度の入学式の状況につきまして、御参考までにお答えをさせてもらいたいと思います。（「それがほしいんです」と呼ぶ者あり）はい、わかりました。

それではお答えいたします。

まず、国旗の掲揚についてでございますけれども、昭和５９年度の卒業式の、まず小学校で

ございますけれども、小学校につきましては式場の中に国旗を掲揚した学校が１７校ございます。それから式場外、つまり式場の入口とか、あるいは正門の前とか、そういう式場外に掲げました学校が小学校の場合１９校でございます。国旗を掲揚しない学校は一つもございません。

それから中学校の場合につきましては、卒業式の場合は式場の中に６校、式場の外に６校、国旗の掲揚をしない学校はございません。

それから、６０年度の入学式におきます国旗の掲揚でございますけれども、小学校の場合につきましては式場の中に１６校、式場の外に１６校、掲揚しなかった学校が２校ございます。

中学校につきましては、式場の中に掲げた学校が６校、それから式場の外に掲げた学校が６校でございます。入学式に対しまして、中学校に関しましては国旗を掲揚しなかった学校は一つもございません。

それから、次の国歌でございますけれども、昭和５９年度の卒業式の状況から申し上げますと、小学校につきましては国歌を斉唱した学校が８校でございます。それから国歌を演奏した学校は、小学校でございますけれども２校ございます。それから、国歌を演奏も斉唱もしなかった学校が小学校の場合は１０校ございます。

中学校につきましては、斉唱した学校は１校もございません。演奏した学校が１校、したがって斉唱も演奏もしなかった学校が７校ということでございます。

それから、次の昭和６０年度の入学式におきます国歌の斉唱問題でございますけれども、小学校につきましては１校斉唱しております。演奏がゼロ。したがいまして演奏も斉唱もしなかった小学校が１９校ということでございます。

それから中学校につきましての国歌でございますけれども、斉唱がゼロ、演奏ゼロ、したがって斉唱、演奏ともに８校とも行っておりません。

以上が状況でございます。

○副議長（米沢照男君）　　一ノ瀬　隆君。

○１１番（一ノ瀬　隆君）　　９月６日の朝日新聞の日の丸掲揚、君が代斉唱の状況をパーセンテージで示されたこの表に対応する日野市のものをとお願いをしたのでありますけれども、数字だけでパーセンテージは答えていただけませんでしたので、私が計算して判断したいと思います。

日の丸掲揚の小学校の場合、全国平均が９２.５％、東京都が９３.１％、これに対し日野市の

小学校は１００％ということです。日の丸での中学校の状況は全国平均が９１.２％、東京都が９２.４％、これに対し日野市の中学校は１００％となっているということです。

君が代斉唱の小学校の全国平均は７２.８％、東京都は６９.１％、これに対応する日野市の小学校の君が代斉唱の実施は４０％ということだと思います。君が代斉唱の中学校の場合は、全国平均６８％、東京都は６１.７％に対し、日野市は０％だというところです。この表は君が代の場合、斉唱と書いてありますので演奏は入らないと判断して、このように把握しました。

全国的な傾向として君が代より日の丸掲揚の方が、かなり高くなっていますが、日野の場合それがさらに顕著になっていることがわかります。

ここで質問をさせていただきます。

質問１、日野市では小学校、中学校の日の丸が非常に高い数値を示しています。これについて、教育委員会が強い指導を行ったからか、校長の意見が強行されたのか、教職員の十分な意思統一がされての上か、それ以外だったら何によって、このような状況になったと把握しているか。――これが質問１です。

質問２として、日野市の小学校、中学校では、君が代は全国平均や東京都全体の場合より低い数字にはなっていますが、幾つかの学校が斉唱、ないしは演奏を行っているようです。これは、教育委員会が強い指導を行ったからか、校長の意見で強行されたのか、教職員の十分な意思統一がなされた上でか、それとも、これ以外に何か歌われることになった、演奏されることになった理由、経過はあるのか。――これが質問２です。

続けて質問３です。

９月６日の新聞によれば「国旗掲揚と君が代斉唱が望ましい」としたのを、さらに進め、より積極的に徹底を図ったとありますが、都の教育委員会を通じて図られた徹底、図られた徹底とはどんなものだったか。また、これを受け、市の教育委員会は、いかに対処したかをお聞かせいただきたいと考えます。

４番目の質問として、地元の教職員組合は、日の丸の強制には反対し、君が代斉唱については言語道断であり絶対に反対である態度を決めていると聞きますが、この態度に対して教育委員会は、今後いかに臨んでいくかをお聞かせいただきたいと思います。

５番目として、最後に具体的な質問を一つだけ……。

教職員の意思統一がないまま強行しないでほしいということを校長に対して、教育委員会として指導できるでしょうか。

以上、５問を質問をいたします。

○副議長（米沢照男君）　再質問についての答弁を求めます。教育次長。

○教育次長（小山哲夫君）　それでは、私の方から再質問に対しましてお答えをいたします。

第１点目の日の丸の掲揚が非常に日野市の場合ですと、小中学校は率が高いという問題、それに対して教育委員会として強い指導をしたのか、あるいは校長の指導が強かったのか。そして２番目の質問につきましては、国歌につきましては比較的少ないけれども、それはどういうわけなのか、こういう意味の御質問だと思います。

で、国旗並びに国歌の斉唱につきましては、これは、いわゆる学校教育現場で国旗並びに国歌が正式に位置づけられたのは、昭和３３年の、いわゆる学習指導要領の改定の際でございます。そのときには国旗、それらが「君が代」という名称で呼ばれたと思うんです。そしてそれが昭和５２年に学習指導要領が改正されまして、３３年の当時に使われておりました「君が代」が「国歌」というふうに変わっています。

この学習指導要領は、どういうことかと申しますと、学校教育法の、小学校の場合ですと施行規則２５条に書いてございます。小学校の場合には５４条第２項に明記されておりますけれども、全国におきます市町村立の小中学校、あるいは高等学校におきますところの学習の指導基準となる文部大臣が別に定める規則によるものとするということで、各市町村ともに共通の学習指導要領というものを文部省の指示に従って使っておるところでございます。その学習指導要領の中に、こう書いてございます。これは小中学校ともに共通でございますけれども、先ほど一ノ瀬議員さんからもお話がございましたとおり、「国民の祝日において儀式等を行う場合におきましては、その祝日の意義を児童に対しまして理解をせしめるとともに、国歌を斉唱し国旗を掲揚することが望ましい」という指導がございます。

また、君が代につきましては各学年を通して児童の発達段階に応じて、音楽等の特別活動におきまして指導することが望ましいという、こういうふうな規定がございます。それを受けて、各都道府県共通でございますけれども、取り扱いにつきましては学習指導要領に根拠を置きながら、国旗の掲揚並びに国歌の斉唱を指導しているというのが現状であります。したがいまして、日野市だけがとりたてて、教育委員会の指導の中で国歌の斉唱が少なかったり、あるいは

国旗の掲揚が多かったりということではございません。そういう指導要領という、ひとつの、文部大臣が定めました基準に従って指導しているわけでございます。そういうふうに、ひとつ、御理解を賜りたいと思います。

それから教職員組合等に対しましても、いわゆる反対運動がございます。いろいろと、これにつきましては思惑があるかと思いますけれども、やはり文部大臣が定めました学習指導要領というものは、全国共通の指導要領という形の中の基準でございますので、今後、ともども、それらにつきましては教職員組合の方に対しまして、教育委員会あるいは校長を通しまして、よく話し合いをし、理解を求めながら、そのような指導を行ってまいりたいというふうに考えておるところでございます。

それから、いわゆる都の教育委員会を通じて図られた指導の問題がどうなっているかということでございますけれども、これにつきましては先ほど申し上げましたとおり、学習指導要領の中に国旗並びに国歌の斉唱問題につきましては、うたわれているわけでございますけれども、一部、先ほど御指摘がございましたとおり、京都あるいは沖縄等におきましては、この指導要領に従わないというところがございます。そういうことを踏まえて学習指導要領の中にうたわれている事項について、どの程度、全国において行われておるかということを去る８月２８日だと記憶していますけれども、文部省の方で全国都道府県を通しまして市町村の実態調査を明らかにしたわけでございます。その結果、先ほど一ノ瀬議員さんがおっしゃっていましたとおり、国旗につきましては大体、都道府県の市町村の公立小中学校におきましては、大体９０％、高等学校につきましては８０％。それから国歌につきましては小中学校が大体８０％、高等学校が５０％というほぼ全国的に、大方、行われているわけでございますけれども、一部、国旗の掲揚、あるいは国歌の斉唱が行われてない市町村もございますので、そういう意味を踏まえまして調査結果を踏まえて９月４日の日に各都道府県の教育委員を通しまして、いわゆる特別教育活動におきまして趣旨の徹底が必ずしも図られてない、そういう意味におきまして、その学習指導要領にのっとって、そのような指導をするのが望ましいという、そういう通知を都道府県の教育委員会を通しまして市町村の教育委員会は受けております。

したがって教育委員会は、どのような指導をなさっているかという御質問でございますけれども、毎月、教育委員会の場合ですと定例の校長会、あるいは教頭会を開いておりますけれども、９月の校長会並びに教頭会におきましては、教育長よりその旨を校長並びに教頭に対しまして

お伝えをし、今後の指導をお願いするということで一応、指導しておるのが現状でございます。

それから教職員の意思統一がなされないまま強行するのはどうかという、そういうことでございますけれども、先ほども、ちょっと、質問の中でお答えしましたとおり、やはり学校教育法施行規則の中で文部大臣が定めたひとつの基準でございます。それを各都道府県市町村ともに統一した形の中で指導しておりますので、教職員組合等に対しましても、その点をぜひ御理解いただき、共通の理解のもとに今後とも指導してまいりたいというふうに考えておるところでございます。

○副議長（米沢照男君）　一ノ瀬　隆君。

○１１番（一ノ瀬　隆君）　教育長の御病気で、突如、教育次長にお答えいただいたところでございます。

要するに学習指導要領の名を借りて、不当な国からの圧力に負けた、あるいは国の指導に忠実な教育委員会、ないしは校長の強行が、かくならしめたということだと判断いたします。もちろん私は教職員組合の方針に賛成であります。教育への不当な国の介入である「日の丸・君が代」の強制には、市の教育委員会もできる限り反発していただきたいと思います。困難な状況は認めながらも努力していただきたい。そして教職員の意思統一がないまま強行しないよう、校長に対しても十分指導していただきたいと考えます。

たびたび新聞の記事を引用して恐縮ですが、９月６日の朝日新聞に都立大学の山住正巳教授の意見が載っていました。「国家意識より人類考えよう」の見出しでの意見でしたが、一部を紹介いたしますと、

文部省の調査結果は日の丸、君が代とも私の予想をはるかに上回っている。この高い数字のウラに各学校の先生たちの悩みや無念の思い、大変な議論と、それを押し切った校長の職務命令がある。数字を見てもう一つわかるのは、先生たちが子供の立場に立って、自主的に教育の実践を進めているところは、どこも低いということだ。逆に愛知や高知を除いた四国など管理体制が強い県は高い。この調査をもとに文部省の圧力は強まるだろうが、議論の多い日の丸、君が代を強制することだけはやめてほしい、国旗、国歌は国際的な常識という人もいるが、核や飢餓、緑の問題など、一国の意識より地球的規模で人類全体を考えるべき時代ではないのか。

この意見を読んだとき私がそれまで考えてきたことと一致し、ほっとしました。日の丸、君が代がよく言われるのは日本という国の意識が強過ぎるのではないか。アフリカの飢餓の問題も日本国内の問題と同じように真剣に考えている人が多くなっていると思います。メキシコの大地震だって、よその国だからと決して無関心では、いられないはずです。

各分野で国際化が進んでいます。巨人ファンだったら他のチームの日本人選手よりもクロマティやカムストックに期待するはずです。趙治勲や林海峰は日本囲碁界に君臨しています。山住教授も言うように一国の意識より地球全体、人類全体を考えるときです。このときに前科のある日の丸や君が代に執拗にこだわるのは全く理解できません。

去る８月の１０日から１１日、八王子の高尾山薬王院で２４時間平和会議が開かれ、「緑と平和」をテーマに夜を徹した話し合いが行われました。世界連邦建設同盟本部の主催によるものです。世界連邦建設同盟をごく身近に感じたところです。この同盟の八王子支部も武蔵野支部、三鷹支部、青梅支部なども世界平和を目指して活発に活動しております。この同盟の目的は、世界の恒久平和を実現し人類の福祉を増進するために世界連邦を建設することであります。この崇高な理想を実現するために努力することこそ必要であると山住教授は言っているように思います。日本という国を必要以上に意識することはないと言っていると思います。世界連邦が実現しても、日本国という一種の自治組織が残りますが、その中に東京都という自治体、日野市という自治体が分権、自治権を持って存在することになります。そう考えたとき、世界連邦が実現しない今でも日本国と東京都と日野市の三つが同じように存在し、それぞれが住民の福祉の向上のための政治が行われていると考えていいと思うのです。日本国だけを突出して考えたくないのであります。

中曽根総理と鈴木都知事、そして我が森田市長を比較して、だれが偉いなどと言えないのではないか。強いて言えば１２年間、日野市の発展に貢献され、四たび、日野市民に信任された森田市長が一番偉いのだと私は思います。

並列に並べた日本、東京、日野の三つのうち、私の最も愛するものはどれかを考えました。かつて、この演壇で――きょうはお見えになっておりませんけれども、古谷太郎議員が言われたことですが、「この日野市で生まれ日野市で育ち、この日野以外に逃げていく所がないんですよ」という言葉に共鳴を感じました。立場の違いからか、あんまり共鳴することはないんですが、このことは記憶に残っています。日本国よりも東京都よりも、断然日野市です、日野市

をだれにも負けず愛します。日野市民を愛します、といっても非国民とは言われないと思います。

実は、この私をして、日野市民を大事にしないという意味のビラを書いた人がいるのです。そのビラをここに持っています。茶色い文字で印刷した「市民通信」というビラです。このビラの一番初めに、こう書かれているのです。『かって、社会党日野支部委員長は、こう言った、「市民より党の方が大事だ」と、本末転倒である……』私は、もう３年以上も社会党の日野総支部委員長をやっていますので、これは私を指すに違いないと考えました。愛する日野市、そこに住む日野市民より党の方が大事だなどと言ったことは一度もありません。その比較自体が意図的で全く意味がないようにも思えるのです。

このように誤解されるような、似通ったことも一切、口にしたことはありません。全くのでたらめを多数印刷して各戸に配布することは、ふんまんやるかたなく、この文章を書いた人に電話しました。

まず、日野支部委員長とは私であることを確認しました。その人の言うのに、議会控室で○○議員にそれを言ったでしょうと言う。ということは、その人は○○議員からそれを聞いたということになるわけです。私は、どこででも、だれに対してでもそんなことは一切、言ったことは断じてないのであります。

私は日野市民の選挙によって選ばれている身であります。比較的にではあったにせよ、市民を大事にしないやつだと言われては、ただごとではありません。これは悪意に満ち満ちた、いわれなき中傷ということができないでしょうか。仮に、全く仮定ですが、それを私が控室で言ったとしても、どうでしょう、本会議や委員会で言ったのならいいとしても、控室で言ったことを各戸に配布するビラに書くなんていただけないと思います。控室で冗談も言えない。君子、危うきに近よらず……。私は危ういところは避けるようにしています。私の愛する日野市の中に、こんなでたらめなビラが配布されるなんて許せない、と正義のためにあえて発言させてもらいました。

さて、日の丸、君が代に戻ります。

要するに私の言いたいことは、日の丸、君が代なんて言わないで、どうしても旗や歌が必要であるのなら、分権、自治の意識高らかに日野市の旗と日野市歌を重視すればいいのではないかと言いたいのであります。

日の丸も君が代も法的根拠はないのでありますが、市の旗にそのまま使用される市章は1963年１１月３日制定され、日野市歌は１９８３年１月１日制定され、ともに日野市例規集に載せら滅ています。ましてや、日野市内の小学校も中学校もすべて日野市立であります。日野市立の小中学校の卒業式や入学式に、日野市の旗や歌はどのように扱われているか、日の丸や君が代よりはるかにいいと思いますが、どうでしょうか。教育次長に伺います。

さらに小中学校の卒業式、入学式だけでなく、市のあらゆる行事に日の丸、君が代より市の旗、市の歌を優先させる考えについてどうでしょうか、市長に伺います。

教育次長と市長のお答えをいただいて、この質問を終わります。

○副議長（米沢照男君）　答弁を求めます。教育次長。

○教育次長（小山哲夫君）　日野市の市旗、それから市歌の問題が御質問に出ました。これにつきましては、市歌並びに市旗の制定と同時に、各小中学校の校長会、あるいは教頭会、あるいは生活指導主任会を通しまして、市歌並びに市旗につきましては掲揚するようにという指導をいたしております。したがいまして、今後ともそのような形の中で徹底を図ってまいりたいというふうに考えておるところでございます。

○副議長（米沢照男君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　どこの国でも、ひとつの国の統合の象徴として旗や歌が存在するということは、本来は望ましいことでなければならないと思います。ただ、我が国の国歌と言われる君が代、あるいは国旗と言われる日の丸、これは、ごく短かい――特に第2次世界大戦で結論としては侵略を象徴する、そういう機会に使われたという、大変、後ろめたい思い出があるわけであります。したがって国民のすべてが国旗と認め、あるいは国歌と尊敬をするというところに至ってないという残念さがあるように思います。

私も、かつてお答えをしたことがあると思いますが、海外にある国の出先である公館、あるいは公海上を航海している船舶、それらのところは、やはり、これは日本の象徴として日本に帰属の象徴として必要だと思いますが、国内でみだりに国旗等を、特に商社や、いかがわしいところまで国歌を、国旗を、あたかも企業の繁栄や、あるいは営業のシンボルにするようなことは、私は適当でない、むしろ、もっと崇高に扱うべきではないだろうか。国民の一致が見られるまで時期を待つべきではないか、こういう考えを持っております。したがいまして日野市の、市が行います公式行事には日野市旗を優先をし、また日野市歌を優先をするという形で式

典等の、会場、あるいは式の次第を組んでおるところであります。なるべく、教育現場のことにつきましては意見を差し挟まないようにしたいとは思っておりますけれども、国家権力あるいは政府権力によって、その斉唱をし、あるいは掲揚の指導を強めるということは、私はまことに不適切な手段、つまり、ますます愛国心を疑わしめるようなことになりかねない、このように思いますので、ぜひ、そういうことが強要されて、しかも形のみで心の伴わない形で行われるということは避けてほしいというふうに思っております。

自治体は、これは国に、もちろん先立つものでもないし、また自治体の多数の結集によって国の形は形成されるもんでありますから、自治体という立場のそれぞれの自覚意識は、これは大切だと思いますので、私どもの市では努めて自治意識を高揚する、こういう手段でもってこの問題を取り扱いたいと、こう思っております。

以上です。

○副議長（米沢照男君）　これをもって１５の１、「日の丸」「君が代」で国の不当な介入を許すな、に関する質問を終わります。

１５の２、私道の整備をもっと真剣に考えよ、についての通告質問者、一ノ瀬　隆君の質問を許します。

○１１番（一ノ瀬　隆君）　かつて、斉野町長が「それよりも道路が舗装された方がいいだろう」と言ったことを聞きました。町長選挙に向けて自らへの支持の要請の言葉だったと思います。今から２８年も前のことです。

この当時は道路の舗装ということが町政の大きな課題の一つだったのだと思います。それが、今、道路のほとんどは舗装されています。舗装、整備されていない砂利道は決まって私道です。多くの市民に利用されながら砂利道になっている、いわゆる公道なみの私道なのです。市として私道を整備することは決してゆるがすことのできない問題であると考えます。都市整備のためには区画整理などがいいのですが、全市にわたって今すぐそれをやるわけにはいきません。現状のままでよりよく整備しなければならない地域があり、その場合、私道の問題に突き当たってくることが多いと考えます。道路が舗装されていることが近代都市の最低条件だとしたら、この条件を満足させるためには私道の舗装をどうしても考えなければなりません。

私の感じでは、今までの私道に対する市の態度は舗装してやる、整備してやる、といったものだったと思います。私道のうちでも整備の対象となるのは、公道から公道へ抜けているもの

ですから、その道路を利用するのは多くの特定されない市民であります。だからこそ公費で整備すると言えるのだと思います。

不特定多数の市民のための整備を、そこのごく限られた居住者、地主に押しつけているのが今までのやり方ではなかったでしょうか。それもそこの居住者や地主がすべて了解して「整備してください」とお願いしてやってもらうというのです。もちろん、それによって居住者もよくなるわけですが、市が大義名分としているその道路を使用する不特定多数の市民のためになることなのです。こう考えてみれば「舗装してください、お願いします」――そして、「すべて条件は満たしているな、それじゃ、その道路の整備をしてやろう」と市が言うのは、本末転倒だと思うのであります。

私の主張したいのは、こうです。本来の姿はこうだと思うんです。「あなたの前の道は私道ですが、多数の市民が通ります。砂利道ではよくないので市として舗装し整備したいので、ぜひ御協力をいただきたい。地主は頑固のようですが、市の担当が何度でも足を運んで了解してもらうように努力します」―― こんなような態度で臨むべきだと考えているところです。このように私道の整備をもっと真剣に考えていただきたいと思いまして、この質問を通告いたしました。

都市基盤の整備のために、市の発展のために私道の整備は、どうしても必要だという観点に立てば、例え幅が４ｍに足りなくてもいいではないか、公道並みと認めることができればいいではないかと考えるところです。完全に舗装されなくてもいい、簡易舗装でもいい、何とかしてほしいと切実な声を張り上げる市民もいます。

次に、私が関係した私道、最近、何とかしてくれと言ってきた私道などについて具体的な私道を挙げます。その私道の整備に向けての実情はどうか、今後の見通し、私の主張する抜本的努力を市としてやってもらえるかをそれぞれについてお答えいただければ幸いです。

この道を整備してほしいと、かねてから多くの方から何回も要望されていた私道の大物に、南平二丁目南平台の下の方の道があります。これが最近、整備に向けて工事が開始されています。非常に喜ばしいことで、これをきっかけに私道の整備の大きな前進を望むところです。

私の指摘する私道の第１点は日野本町四丁目１４番地と１５番地の境の道路、私道であります、かつて請願第５３－４９号で出されたもので実質的な通学路であります。社会党の反対を押し切って、不採択異議なしと簡易採決で不当に押し切られた、いわくつきのものです。執行

部に対してその後も、この私道整備のために努力してほしいと私は意見を言っておきましたが、その後の努力の経過いかん、をお聞きしておきます。

第２点は、大阪上二丁目の１２、１３、１４、１５、１６、１７番地 ――大阪上二丁目の12番地から１７番地にまたがる私道、柳町の西端で、大柄議員も努力されていた私道の大物だと思います。地主はオーケーしているのに、道幅が４メートルに１０センチ足りないとか、２０センチ足りないところがあってだめだとか聞いていますが、そのくらいは住民の切なる要望を入れて何とかしていいではないかと思うのです。どうしてもだめなら、そこを後回しにしてやることも考えられるではないか、いかがでしょうか。

第３点目は、大阪上四丁目の２０番地と１９番地の境の私道、大阪上駐在所の裏側に当たります。国道２０号線に抜ける既設の公道の幅が非常に狭いので、この私道が整備されると非常に便利になるものです。地主が東京都内とか、その折衝もぜひ市でやってほしいと思うのですが、いかがでしょうか。

第４点は、豊田四丁目３４番地の中にある小林医院の前の私道です。第一豊田荘の人たちなど豊田駅に行くのに非常に便利なものです。危険な公道を通らずに行けて近いのです。区画整理地内でもあり、簡易舗装でもいいので、ぜひ地主の了解をいただくための努力をお願いしたいと思いますが、どうでしょうか。

以上４点の具体的な私道についてお答えいただきながら、全般的な私道への今後の取り組みの姿勢をお示しいただきたいと思います。

○副議長（米沢照男君）　一ノ瀬　隆君の質問についての答弁を求めます。建設部長。

○建設部長（中村亮助君）　それでは、私道の整備につきまして具体的に四つの例を挙げまして御質問があったわけでございますけれども、順次、順を追いながら、これらの今まで抱えてきました私道の問題点も多少ございます。そういう点に触れながらお答えを申し上げていきたいと思います。

まず１番目の、日野本町四丁目１４番地と１５番地の間の私道でございますけれども、これは日野一中の通学路になっているという場所でございまして、一中のちょうど四ツ谷下の区画整理事業のちょうど境目でございます。かつて、確かに請願も出まして審査していただいた経過もございます。これにつきましては幅員が2.7メーターしかございませんので、まず市道になる条件というのはないというのが現状でございます。延長は５３メーターほどでございます

けれども、現在未舗装でございます。砂利道でございますので申請者の、あるいはまた、付近にお住まいの方たちの要求によりまして現物支給でございます砂利を支給いたしまして整備した経過はございますけれども、まだ未舗装でございます。いずれにいたしましても、これは、この土地の所有者が４名ほどいらっしゃいます。で、その地主さんの関係と地益権の問題がございますので、そちらの方の御了解が得られないとなかなか公道化、舗装という問題も手がつかないわけでございますので、その辺のところは今後の問題として調べていかなければならないんじゃないかと思います。補助金の交付要綱もございますので、これらの点については申請者からの申請に基づきまして整備する方法もあるということでございます。

２番目の、大阪上二丁目の関係でございますが、これは旧柳町の地域でございます。これもかつて、やはり請願という形で議会で審査をしていただいた経過がございます。この点の道路につきましても、３カ所ほど、やはり市道に合致しない条件のところがございます。つまり４メーターないところが３カ所ほどあるわけです。これらの認定基準の問題に欠陥がございまして、現在まで私道のままになっているという経緯でございます。そして、これらの関係につきましても、やはり関係の地主さんが７人ほどいらっしゃるわけです。で、そちらの方の了解という問題と、それから排水問題で何か地域的な問題もございまして、それらの地元の調整、こういった問題も過去にございまして、なかなか思うようにいかなかった経過がございます。

そういう点で、現在では市道認定という問題につきましては、例えば具体的に申し上げますと一部塀を引っ込ませていただいて４メーター確保すると、こういうふうなことになれば当然、市道としての認定条件にも当てはまってくるという前進的な考え方もございますし、現在のままでは、やはり、補助要綱に基づくところの、５９年の７月に改正をいたしました７５％の補助金交付要綱によるところの整備というような取り組みということも考えられるわけでございます。

それから３番目の、大阪上四丁目の２０番地と１９番地の境の私道でございますが、これにつきましては、幅員等につきましては十分、市道に合致するだけの基準がございます。したがって、これもやはり地主さんが２名いらっしゃるわけですけれども、市に移管したいというような御意思があれば、早速、市道への促進をしてみたいというふうに考えます。

それから最後の、豊田四丁目３４番地先の私道でございますが、これは公道から少し入りまして、幅員４メーターございますけれども、延長３４メーターの、いわゆる道路位置指定の道

路でございます。３７年の１月９日付で建築基準法に基づくところの位置指定がなされておりまして、いわゆる行きどまりの道路でございます。ところが、その道路を延長して南の方に行きますと、第一豊田荘から豊田の駅の方に行ける通路的なものがあるわけです。で、この位置指定の道路とつながっております、いわゆる通路というのは、道路敷きではございません。全く私の土地を便宜的に通行しているというようなものでございまして、そういう状況の道路でございまして、やはり、かつて、土地所有者が１人いらっしゃるわけですけれども、整備の話があったようでございますけれども、現在にまだ、その所持者の了解が得られないという形の中で整備がなされていないというようなのが現状でございます。

以上、四つの具体的な私道のこれまでの経過でございます。それから、なお、今後、私どもの方の私道としての整備の関係でございますけれども、これにつきましては、先ほども申し上げました補助金の交付要綱も４７年の１０月に制定したものが逐次改正されまして、現在７５％の補助要綱の中で決まっていますので、これらの最大限の活用という点もございますけれども、市道認定の条件として市の認定、廃止に関する取り扱い規定もございますれども、さらにこれをもう少し、私道の編入についてはもう少し検討して、細部にわたってできるだけ公道化できるような、そういう仕組みをつくっていこうということで、何年かにわたりまして内部的に検討してまいりました。現在、私道の公道への編入取扱要綱の案ができ上がっていますので、これらの点については、さらに市長決裁等を経まして、煮詰めまして、さらに私道の整備につきましては力を入れていきたいというふうに考えておる次第でございます。

以上です。

○副議長（米沢照男君）　一ノ瀬　隆君。

○１１番（一ノ瀬　隆君）　私道整備への一層の取り組みの強化を重ねてお願いしておきます。

ここで私道に関連して、日野台五丁目の１３、１４、１５番地と１６、１７、１８番地の間の道路についてお聞かせいただきたいと思います。公道か私道かと争っている松山２号線についてであります。形だけは整備されていても、ガスは通せない、下水道もだめだというのでは住民は不安であります。最近、裁判があったということですが、その状況を簡単にお聞かせください。そして、その状況を住民に知らせる機会もつくってほしいのですが、これをどう考えるかもお答えいただきたいと思います。お願いします。

○副議長（米沢照男君）　　再質問についての答弁を求めます。建設部長。

○建設部長（中村亮助君）　　建設部長、お答え申し上げます。

松山２号線の問題につきましては、過去何回か御質問もございました。現在、市が訴訟を受けまして抗争中でございます。結論から先に申し上げますと、ようやく、ここで結審をする段階に来ております。１１月の８日の日に最終の公判が開かれて、そこで結審をするという運びにまで至っております。したがって、これの結論を待ちながら結論に従った処理をしていかなければならないと思っております。

そういうことで、この問題につきましては２１年ごろからこの公道化をめぐってのいろんな問題から調停、そして公判というふうな形の中で争われてきたわけでございます。現在、１１回、和解が１１回というふうな会を重ねまして、今、申し上げましたように１１月の８日には結審がなされていくというふうな運びでございます。したがって、この結審がなされた後に、その機会が望まれるということで地元の御要望があれば、その結審の結果につきましては地元の方に御報告申し上げて、そしてまた、市道の今後の取り扱いについては結審の中に出てまいっておりますので、そのような報告をしながら対応していきたいというふうに思っております。

○副議長（米沢照男君）　　一ノ瀬　隆君。

○１１番（一ノ瀬　隆君）　　最後に、私道の整備について前向きな発言がありましたら、市長に一言お願いして終わりたいと思います。

○副議長（米沢照男君）　　市長。

○市長（森田喜美男君）　　私道の整備、並びに生活道路としてなるべく、不自由のないように努力をしたいという考えは常に持っておるわけであります。

そのために、その補助金整備要綱をだんだん公費の負担を多くし、私費の負担を少なくするということの一つも進めておるわけであります。それから、完全に条件を具備してみて、しかも、だれか所有権者の１人でも応諾されないために舗装が難しいというような際には、代執行でもして、そうして相手から訴えられてもいいじゃないか、つまり、そういう積極姿勢、つまりみんなの便利を図るのを個人の、特に不在地主等の異論のために事業ができないなんていうことは全くつまらんことですから、１歩、勇を鼓して、そして先に舗装してしまう、苦情があればその後で受けるということでもよろしいんじゃないかと思っております。ただ、私権の問題が一つありまして、つまり私有財産に公費を投入することのできないといいますか、そういうひとつの原則があるわけでありますから、結果、訴訟に負けたということでも、これは困るわけでありますので、努めて現実に沿いながらやってくわけでありまして、ようやく南平台の２本の道路などは私の指示は、とにかく早くやれ、問題が残っても後で処理不可能ではないではないか、というふうではありましたけれども、担当者は入念に事務処理を進めて、ようやく舗道を実施することができたと、こういうことでございます。市民生活優先ということが、やっぱり私は行政の本来のあるべき姿だと、こう思っておりますので、何か、その不在の方のトラブルで、現在、住まっておられる市民生活に阻害があるというふうなことは、これは、やり方次第では克服できる問題ではないかと、こう思っております。

松山２号につきましては、かなりいいところまでいっているわけですが、最終的に市は2,０００万円を限度として負担をする、相手方は3,０００万円出せ、この1,０００万円の攻防戦になりつつあります。しかしながら弁護士さんに聞くところによりますと、まだ3,０００万円払っても底地権が相手側の担保、抵当権で解除されないということでございますけれども、それじゃ困ることになりますから、もうしばらく、がんばってみようと、こういうことでございます。

○副議長（米沢照男君）　　これをもって１５の2、私道の整備をもっと真剣に考えよに関する質問を終わります。

１５の3、豊田駅北口の利便性を高めるためににについての通告質問者、一ノ瀬　隆君の質問を許します。

○１１番（一ノ瀬　隆君）　　引き続き質問を行わせていただきます。

今年４月から、関係市民には待望久しかった豊田駅多摩センター間のバス路線が開通しました。多くの市民から喜ばれていることと思います。

新しい平山橋ができ2・2・6号線が開通したら、直ちに豊田駅北口から多摩センターの方にバスを走らせてもらおう、と私ども社会党が関係市民に呼びかけ署名運動を行ったのは、1980年のことでした。開通が当時の予定より２年ぐらい遅れましたが、ついにことしからバスが走り出しました。自動車でよく行き交うバスには乗客がたくさん乗っています。

私の職場でこの話をしました。「今度、豊田駅北口から多摩ニュータウンの多摩センターまでバスが通るようになったので、便利になったよ」と……。ところが意外にも怒られてしまったのです。便利にはなったろうが、おれたちは大変、迷惑を受けているのだというのであります

す。それはこういうことでした。私の職場というのは、小西六という会社の八王子工場です。八王子工場の従業員の多数は、２台の自家用のバスで豊田駅から八王子市石川町の工場までピストン輸送されています。そのときの駅北口のバスへの発車場所、長い間、確保していた発車場所を多摩センター行きの定期バスに略奪されてしまったのです。悲しいことに場所を失った小西六の労働者は、スクランブル交差点を渡ったミツワ電器の前という、はるかかなたへと追いやられてしまったのでした。込んだ電車からおりて５分以上も歩き、信号で待たされてバスが行ってしまうと、また駅まで戻ってタクシーで行くというケースがよくあるとのことです。「市民のために喜ぶのもいいが同じ働く仲間のことも考え、何とかしてくれよ」と言われたのでした。選挙のとき応援もしてくれないのにと腹も立ちました。しかし働く仲間なのだと思い、この質問に取り上げた次第です。

中山議員の勤務する東芝を初め、幾つかの会社がバスで従業員を迎えているようです。これらの会社を全体的に調整し、場所と時間を考慮すれば私の働く仲間の不満は解消できるのではないでしょうか。うまく整理すればスクランブル交差点より南に８台分や１０台分のバス停は、できると思います。出勤時間のずれもあるようですし、時間の調整も含めてやれば、何とかなるように思います。もちろん、朝の一定時間、一般の駐車は全く禁止することになります。この調整を市でやってもらいたいというのが私の質問の第１です。ぜひ、考えてやってほしい。検討する気は、あるかないかを問いたいのであります。

次に、豊田駅北口のタクシーについて発言しておきたいと思います。

いつの時間にそうなるかを詳しく調べたことはないのですが、ある時間はタクシーがロータリーをぐるぐる回って、広場いっぱいに数多く駐車しています。一般の市民の駅への自動車による送り迎えも多くなっていますが、タクシーがいっぱいなのが支障を来たしています。これを何とか考えてほしい。市の指導によって少し離れた東方の土地でも確保できればいいと思うのだが、どうでしょうか。ロータリーを壊してしまうわまにはいかないでしょうから、広い範囲で考えていかざるを得ないと思いますが、どうでしょうか。

今春、建設委員会で酒田市に視察に行きました。酒田駅の前には「交通安全宣言都市」「暴力追放宣言都市」という二つの啓発塔が並んで立っていました。豊田駅北口には「核兵器廃絶・平和都市宣言」の啓発塔が立っています。市内、他にも何カ所か、これと同じものがあります。この豊田駅北口、私は、ここが日野市の表玄関だと思っていますが、この豊田駅北口に「健康

宣言都市」「交通安全宣言都市」も立てるべきだと思います。これは利便性を高めることは、必ずしも当たらないかもしれませんが、あえて加えました。

市長はみずからの提案を優先し、議会の決議は二の次にする、などと再び言わせないためにもそうしてほしい。議会で決議されれば、市長提案も小山議員や川島議員の提案も決して優劣はないはずです。平和は、もちろん最も大切なものであることには違いないと思いますが、健康も交通安全も、これより劣るとは、また言えないと思います。

次に視力障害者 ── 視覚障害者の立場からの豊田駅北口の利便性を高めるための発言をしたいと考えます。

四、五年前まで、豊田駅を利用する視力障害者から、駅に盲導鈴を取りつけてほしいという要望がありました。その要望を受け、実現のため、この一般質問でも取り上げたことがありました。わずかな費用しかかからない、こんな簡単な施策でも、なかなかやってもらえませんでした。私は国労 ── 国鉄労働組合、国労役員と一緒に直接国鉄に交渉し、やっと実現できました。数秒間隔でチャイムが鳴り、障害者に、ここが豊田駅の北口ですよと教えてあげるこの盲導鈴は、光の家などの視力障害者に大変喜ばれました。その後、一般乗降客から、あのチャイムは何だろう、何のために鳴るのだろう、と疑問がささやかれ、中には、これは何なのだと駅長室まで聞きに行ったという人もいるとのことです。

このチャイム、豊田駅北口の盲導鈴が最近鳴らなくなってしまいました。光の家などからは問い合わせ、復活の要望があったようですが、現在そのままになっています。私も盲導鈴が作動していないのを確認して、すぐ、豊田駅長にただしました、故障していることを明らかにし、早急な対処、修理とか取りかえを要望しました。通信の部署に見てもらったが、これは旅客の係だといって、たらい回しの様相で、こんな簡単なものが簡単に解決しないようです。市民である視力障害者を中心とした便利なこの小さな装置を復活させるために、市でも努力してほしいと考えます。

私は、この国鉄に対する要求と同時に、盲導鈴に対する一般市民、健常者の疑問を解消し障害者に対する理解を深めるために、盲導鈴の説明を付しておくことをお願いしておきました。疑問に思った方はチャイムを見上げると思いますから、そこえ張り紙をしておけばいい、「このチャイムは盲導鈴といいまして、目の見えない障害者に駅の入口を案内しているものです」といったものでいいと思います。このこともぜひ、市の方からもプッシュし、努力していただ

きたいと思います。

豊田駅北口の視力障害者対策について、もう一つ、つけ加えておきます。

五、六年前になると思います。森久保建設部長、小島土木課長のときでした。これらの部課長と一緒に豊田駅と光の家の間を視察しました。光の家の歩行担当者に聞きながら幾つかの問題点を確認しました。その後、市の担当部署の努力で多くの改善がなされました。点字ブロックは敷設され、自動車教習所の防護さくは増強され、電柱にぶつかっても大事に至らないような緩衝部材が巻きつけられました。歩道上の点数ブロックの延長で車道の横断歩道には点字リベットも打ちつけられました。この点字リベットが1カ所だけ、最も要望の強かったところが残され、いまだに打ち込まれていません。

光の家では点字リベットと呼んでいましたが、点字道路びょうと呼ぶのが正しいのかもしれません。豊田駅北口、京王ファミーユの本屋などの前からパークビルの方、都民銀行の方へ渡る横断歩道に、この点字道路にびょうを打ち込んでほしいというものです。ここは斜めの横断歩道ですので、ぜひほしい、必要なものだということです。ここに点字道路びょうがあるのとないのとでは障害者にとって大きな差なのだそうです。都の関係かもしれませんから即実現というわけにはいかないかもしれませんが、早期に実現できるよう努力をお願いします。

次に、視覚障害者誘導システムについて発言しておきます。

これは視力障害者が安全に歩行できる画期的なシステムです。日本電気株式会社と筑波大学が共同開発したもので、埼玉県上尾市の高崎線上尾駅東口に取り入れられているものです。既に上尾駅に、この視覚障害者誘導システムがスタートしてから、ちょうど2年たちましたので、日野市の関係者もよく御存じだとは思いますが、簡単に説明させていただきます。

視覚障害者誘導システムとは、「専用の白杖 ── 白いつえ、白杖が誘導路の磁気標識板の上に乗ると、つえの振動や音で知らせます。危険な場所などでは自動的に音声案内が流れ、警告や現在位置などを知らせます」というのですが、これだけでは理解しにくいと思います。

まず、歩道上に敷かれている点字ブロックにフエライトという磁性体を使います。そして、特別に考案された白いつえを使用するのです。つえには磁気センサー、電子回路、乾電池、バイブレターが組み込まれています。このつえが、従来の点字ブロックに相当する磁気標識体、フエライトに触れたときに、振動が手に感じたり音が聞こえたりしてわかるのです。それでフエライトの誘導路を歩行することができるわけです。今までの点字ブロックのように凹凸がなく、

表面は平らでいいので安全で歩きやすくなるというものです。この誘導路に使うフエライトという磁性体は、産業廃棄物で捨て場に困っているものを使えばいいのだそうです。道路の、特に危険なところや特定な場所には、フエライトの下にアンテナを置き、音声での案内装置につなぐことによってスピーカーで道案内がされる仕組みになっています。

１９８３年９月２４日の日本経済新聞に、この上尾の視覚障害者誘導システムのことが載っていました。「声で道案内」の見出しの記事ですが、少しだけ読んでみます。

「階段です。この階段をおりると、バス乗り場１番と２番があります。１番乗り場は○○経由××行き……」白いつえで点字ブロックに触れると、こんな道案内の声が聞こえてくる。目の不自由な人のための誘導システムが２３日、埼玉県上尾市の国鉄上尾駅前にお目見えした。日本電気と筑波大学が新技術開発事業団の委託を受けて、産業廃棄物として処理に困っているフエライトを使って開発した。国鉄の駅には車いす用の改札口や道路点字時刻表や運賃表などは1部あるが、視覚障害者のために声で道案内するのは初めて。評判は上々で、福祉の町づくりに、と他の自治体も注目している。 ── 中略 ── 上尾駅を利用している目の不自由なある上尾市民は「点字ブロックだけでは不安だし歩きにくい。声の道案内が普及すれば、大変、助かる」と話している。 ── また中略いたしまして ── この方式が普及すると「目の不自由な人は点字でなく音声を頼りに歩ける町づくりもできる」と関係者は期待しておる。 ── とあります。

幾らフエライトが産業廃棄物でも、音声案内装置など、そう簡単に据えつけられることはできないでしょうが、ぜひ日野市でも実現の方向で検討していただきたいと思います。そして、それには視力障害者対策の最も必要である豊田駅北口を、まず第一に考えていただきたいと考え、この質問を組み入れました。

豊田駅北口の利便性を高めるものとして、一般市民も障害者も一致して、これを何とかしてほしいというものに放置自転車がありますが、これについては多くの方が発言していますので遠慮いたしまして、以上６点についてお答えください。

１点目は、追い出されたバス停を戻してもらいたい。２点目は、駅前広場を埋め尽くすタクシーは何とかならないか。３点目、宣言都市の啓発塔を立てられないのか。４点目、盲導鈴は市は関知しないか。５点目、横断歩道の点字リベットの埋設は、すぐできるか。６点目、視覚障害者誘導システムをどう考えるか。

６点を繰り返しました。

以上です。

○副議長（米沢照男君）　一ノ瀬　隆君の質問についての答弁を求めます。企画財政部長。

○企画財政部長（前田雅夫君）　企画財政部長、第１点目につきまして御答弁申し上げます。

都市計画道路２、２、６号線が、特に平山地域でございますけれども完成をいたしまして、本年の４月から豊田北口から平山を経由いたしまして、中大、多摩センターの方に開通をした、というものでございます。

で、この路線の設定に当たりまして昨年の夏から京王帝都が中心になりまして、東京都の南多摩建設事務所の管理課の指導のもとにバスの発着の地元対策を進めたわけでございます。地元の商店街の基本的な意見を伺いますと、商業振興、それから交通混雑の緩和、こういう点から考えますと、できるだけバスの発着の地点を駅から離してもらいたい、というのが最初の要望であったそうでございます。それを中心にいたしまして地元と交渉し、あるいは京王帝都は地元の要望を聞く形で、どこか適当な場所があるかどうか現地を物色したようでございます。結果といたしましては、地元要望のとおりにはいきませんで、一応、バスの降車についてはロータリーでおりる、乗車については、つるやの時計店の前で乗車をするというふうな、そういうことになったわけでございます。

今、御質問がありましたように、八王子工場の企業のバスが、その乗車地点で従業員の送り迎えをしていたわけでございます。この辺の問題につきましては、東京都の方から、京王帝都が直接会社の方に伺いまして、きちんと話をつけるように、ということで話し合いを了解を得ているというふうに私ども伺っております。御承知のように豊田の駅の北口の道路管理者は東京都でございまして、東京都がその辺の細かい指導をしたというわけでございます。

それでは路線バスと、いわゆる白ナンバーとの優先の問題でございますけれども……。

○副議長（米沢照男）　部長、答弁中ですが、一ノ瀬　陸君の質問時間は１７分までですので、時間を念頭に置きながら、ひとつ、簡潔に答弁をお願いします。

○企画財政部長（前田雅夫君）　はい、わかりました。

この問題につきましては京王帝都がそういう形で解決をしたということでございまして、全体的な問題につきましては南建の方に善処方、要望をいたしたいというふうに考えております。

それから２番目の、タクシーの問題でございますけれども、これは非常に、やはり難しい問題でございまして、乗車の件につきましては東京陸運局の方が所管するわけでございますし、また許可に当たっては道路管理者の意向も聞くわけでございますので、東京陸運局の方にこの辺の問題につきまして照会をしてみたいというふうに考えております。

私の方からは以上でございます。

○副議長（米沢照男君）　建設部長。

○建設部長（中村亮助君）　建設部長、それでは３点目の御質問にお答え申し上げます。

昨年の１２月に、議会が交通安全宣言都市の議決をなさっているわけでございますけれども、これらの関連につきましては、御存じのように去る６月の補正予算で市内の歩道橋がございます。横断歩道橋でございます。これが６カ所ございますんで、そちらの方に横断幕をつくるということで議会の方で予算を認めていただきまして、安全都市宣言の横断幕は作成する予定になっております。

お尋ねの件につきましては、豊田の駅の北口の前に啓発塔を立てられないかというお尋ねでございますけれども、これはやはり、東京都の道路敷でございますので、立てる問題につきましては都の占用許可の問題も必要になってまいりますし、また予算の確保の問題もございますので、横断幕は早速実施をいたしますけれども、この場所への啓発塔の建設につきましては、検討課題にさせていただきたいというふうに存じます。

○副議長（米沢照男君）　あとの答弁は……。建設部長。

○建設部長（中村亮助君）　それでは私の方から……。

全体的にこの地域そのものが東京都の道路管理区域でございますので、そういう面で的確なお答えができるかどうか大変心配でございますけれども、４点目の盲導鈴の問題等につきましても、今、御質問の中に経過が御報告されておりますように、国鉄側に対する要望の中で実現されたという経過があるようでございます。そういう経過を踏まえますと、やはり国鉄側に積極的に、これらの点についても補修などについては今後、要望をしていかなければならない問題だろうというふうに考えます。

それから５点目の、いわゆる横断歩道に必要な点字道路びょう、これもやはり都の道路管理敷の中に必要だというふうな御指摘でございますので、南建等に早速に、この点については実現できるような方向で要望していかなければならないというふうに思います。

それから最後の、視覚障害者の誘導システムでございますけれども、上尾市の例を挙げて御指摘があったわけでございますけれども、その設置場所、あるいは具体的な方法、活用などにつきましては、今後の、やはり調査が必要だろうと思います。また、設置する場所については、例えば東京都が絡んでくるとか、あるいは国鉄が関連してくるとかいう問題もございますので、それらの関係者との調整なども必要だろうと思います。そういう点も踏まえながら、今後、やはり調査、検討をさせていただきたいというふうに思います。

○副議長（米沢照男君）　一ノ瀬　隆君。

○１１番（一ノ瀬　隆君）　ありがとうございました。

最後に建設部長からお答えいただきました視覚障害者誘導システムについては、いずれまた取り上げることになると思います。今回はこれで終わらせていただきます。ありがとうございました。

○副議長（米沢照男君）　これをもって１５の３、豊田駅北口の利便性を高めるために関する質問を終わります。

お諮りいたします。議事の都合により暫時休憩いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（米沢照男君）　御異議ないものと認めます。よって暫時休憩いたします。

午後３時１２分休憩

午後３時４２分再開

○副議長（米沢照男君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問１６の１、都市下水路神明上地区外排水工事を早期に実施し低地の水害を解消せよについての通告質問者、谷　長一君の質問を許します。

〔５番議員登壇〕

○５番（谷　長一君）　それでは通告に従いまして質問をさせていただきます。

第１点といたしまして、まず最初に都市下水路神明上地区外排水工事を早期に実施し、低地の水害を解消せよということで質問させていただきます。

この都市下水路は主として日野市では、土地区画整理区域内の地域におきまして、その地内の雨水排水を目的としてつくられているというふうに私は考えております。それで、ただいま

日野市で計画され、さらにはもう実行されました多摩平、西平山それから神明上土地区画整理等の中を見ますると、これらの工事が施工されておるわけです。下水道施行条例等を見てみましても、この下水道管の分担、管渠の埋設の分担とか、さらには市街地、または区画整理区域内における雨水排除を目的とした下水道の設置等も一部に見られるわけであります。

そこで日野市の神明上の現状というのを見てみますると、これらの都市下水路、さらには低地にある河川等の川、これは日野農業用水です、――　等の排水施設等が、まだできていないというのが現状であり、下水道河川等を見ても、全く私は情けないという以外に言葉はないと思うのであります。それらを考えてみますると、下水道、農業用水等の排水施設を早く整備してもらい、この神明上に関連する道路の破壊、さらには冠水、それから低地の床下浸水や、または道路の冠水等も排除してもらいたい、というのが私の願いであります。そのような観点に立ちまして私は質問をさせていただくわけであります。

それで、この前の８月１４日と８月２１日の集中豪雨、このときに――７月ですか、これはちょっと、１４日と２１日というのは確実に覚えていますけれども、月は、ちょっと間違っておるかもわかりませんけれども、その点は、また建設、または都市整備部長の方から訂正していただければ、それで結構だと思います。それで、そのときに、この２・２・３と、これは場所からいいますと藤本歯医者さんのそばの信号、さらには神明地区センターの前のマンホールこの両方のマンホールが壊れて道路が破壊された、ということもあるわけです。

これらを見てみますると、いかに地区外排水というのが大切であるかということがわかると同時に、また、この都市下水路の先が行きどまっているわけです。これらの不完全な都市下水路を早く整備しなければならないということが言われるわけです。そのようにしまして、市の予算を投入してある都市下水路ですから、その下水路ができないために今のような被害をこうむるということは行政上、大きな欠陥といっても差し支えないんじゃないかと思うわけであります。それらのことを考えてみますと、一刻も早くつくらなきゃならないということは、百も承知だと思っております。これらの河川を積極的に整備するということは、とりもなおさず、より――この前、福島議員が通告質問のときに言われました喜びと誇りを持って住むことのできる日野市をつくる上にも大切であるということは言を待たないわけであります。

幸い、この地域、神明上雨水排水を目的とした都市下水路は、ただいま申し上げましたようにあと少しで完備するわけでありますけれども、ただ残念なことながら、今川崎街道のところ

まで下水管が入っているわけですけれども、その先の整備がなされていないわけです。そこでこの浸水の被害が常習的に発生している地域もあるわけです。これらの地域の水害をなくすためにも緊急に整備を実施する必要があるのではないかと考えます。これらを考慮していきますと、当然、私が次に質問をする神明上都市下水路は、現在、川崎街道の下でストップしているわけです。その先の延長工事はいつになるのかということが第１点に言えるわけです。

その次には、日野農業用水と甲州街道の間に個人の住宅があるわけです。この住宅を、宅地をやはり買収をしていかないと、この都市下水路の建設はできないわけです。そこで、その土地の買収等はこれからどのように進めていくのか、または本当に日野市が買収を ── 早期に買収をする気持ちがあるかどうかということもお聞きしたいわけです。

また、これらを考えてみますると、第３点になるわけですけれども、むだをなくするために２・２・１０の都道工事とあわせて下水管の埋設工事を私は、すべきだと思うんです。そうすれば非常に経費の節減もできる、財政上の運営をする上にも効果満点じゃないかと思うんで、そのあたりにつきましても、どのようにお考えになっているかということをお伺いしたいんです。

それから、さらには今議会の質問に答えられた部長さんが ── ２・２・１０の立日橋の橋脚は、本年に間もなく３期は工事にかかるわけですよね、そうしますと昨年、それからまた、ことしにかけて東京都が買収しました２・２・１１の用地の買収ができると同時に、やはり甲州街道と、それから日野用水の間の住宅地は、なおさら買収をしておかなければならないんではないかと思うんです。

それで、この２・２・１１の道路の用地の買収ができたら、待っていましたとばかりに、この都市下水路の整備ということにかかれば非常に効率的な運営ができるんじゃないかと私は思うわけです。それらの点につきまして、やはり部長さんの考えはもちろんでありますけれども、神明上の地区外排水をいかに早くできるようにし、下水路を完成させるかということにつきまして、市長にも考えは持っていらっしやるでしょうから、後でよろしいですからお伺いいたします。

以上です。

○副議長（米沢照男君）　谷　長一君の質問についての答弁を求めます。都市整備部長。

○都市整備部長（結城邦夫君）　都市整備部長でございます。それでは、ただいま御質問の神明上都市下水路の４点の御質問についてお答え申し上げます。

まず、１点目でございますが、川崎街道以下の都市下水路は、まだ完備しておらないが、いつできるのかという御質問でございます。神明上都市下水路は４８年に都市計画の決定をとりまして、５１年、５２年、５３年の３カ年に４８４メーターを神明上区画整理事業とあわせまして施行を行ったものでございます。その後５６年に東町に日野排水樋管を設置いたしまして、この地域の、一部浸水地域の解消を図ったものでございます。これも将来は、この樋管が神明都市下水路の排水樋管になるわけでございます。まだ施行しておらない延長が、あと９１２メータあるわけでございます。本年度は、この９１２メーターの全線についての実施計画を今、策定中でございまして、６１年に事業の認可を取りまして、２・２・１０号線の用地は、現在、東京都において買収を行っておりますが、この用地があき次第、占用位置を確定いたしまして街築に先駆けて神明上の都市下水路を施行する予定になっております。完成の予定といたしましては、６４年度末には完成をいたしたいというふうに考えております。したがいまして、３点目の２・２・１０号線と並行して都市下水路を施行されたいという御質問にも触れたわけでございますが、道路築造より先に、先行して実施をするというふうに考えております。

それから２点目の甲州街道２０号線と日野用水の間に個人の住宅がございます。で、この間は約６０メーターございまして、現在は道路がなく、すべて宅地になっております。ここは２・２・１０号線の道路計画の用地となっておりまして、この地主さんと既に３年ほど前にもお話をしてございますが、道路、あるいは都市下水路を施行する段階には協力をしていただけるというお約束もしてございます。したがいまして、２・２・１０号線の東京都の工事を行うと同時に、その工事にあわせまして、ここの用地買収も検討を現在、行っているところでございます。ただ、これを道路用地で買収するか、あるいは都市下水路用地として事前に買収をするか、その辺は、まだ庁内において調整を行っているところでございます。

４点目の、２・２・１０号線の用地買収完了と同時に都市下水路の施行をという御質問でございますが、当然、私ども、ただいま申し上げましたように２・２・１０号線の工事が行われる前に、先に先行的に都市下水路を埋設して完備していきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○副議長（米沢照男君）　市長。

○市　長（森田喜美男君）　神明上都市下水路の地区外部分につきましては随分、予定した年次が延び延びになっておるわけであります。ある意味では地域問題の解決にならず、あ

るいは御迷惑をかけておるということになるわけであります。それでこのことは前の市長当時からの非常に大きな懸案でございまして、かっては現道の中にゆがんでいても通していこうという、そういうことを考えた時期もございました。

それから２・２・１０号線が最近、東京都がようやく事業化されることになりましたし、あわせて橋がかかる、立日橋がかかる、あるいはモノレール計画がかなり現実的に構想されるというふうに状況が進みました。そして今、いわゆる２・２・１０予定路の用地が東京都において買収交渉を持って進みつつありますので、それの用地が確保されて、その間こそ道路になる前に管渠を埋めていくということが、ひとつの具体的な機会ということで近づいてまいったように思います。今の川崎街道から水路に向かって１００メートル余でしょうか、それから直角に曲がって甲州街道を経て２・２・１０の路線に入る、こういう計画でございます。なるべく早く事業化を見通しまして、実現のための準備を進めなければならないと思っております。今、実施設計を進めておるということでございます。

それから甲州街道に直角に左折いたします用地は確かに溝呂木さんと、もう１軒の地主がおいでございます。この方々にもまた迷惑をかけておるということになっておりまして、できうべきは、家屋の移動も伴うわけでありますが、先行取得をして、そして ── つまり、おうちの建てかえ計画があるにもかかわらず補償問題が解決しないものですから、家の行き先にもまだ、あるいは建てかえ計画にも御迷惑をかけておると、こういう状況でございます。多少、私有地の側にも問題があるかもしれませんが、それらのことが応諾をしていただける時期が来次第、ひとつ、用地の確保をして、そうして住宅も補償をし、管渠にいたしましても、あるいは２・２・１０の延長にいたしましても可能な状態をつくり出しておくということが大切だというふうに思っております。このことにつきましても早急に、また具体的な交渉を生かしていきたいと、このように思っております。

つまり甲州街道以北につきましては御承知のとおり樋管も設けておりますし、それから一部の堤防から流します ── 堤防付近も工事を終えておりますので、できるだけ早く東京都と協議をしながら、事業化の過ちのない順序を想定いたしまして取り組んでいきたいと、このように思っております。

○副議長（米沢照男君）　　谷　長一君。

○５番（谷　長一）　　ただいまの部長と市長の答弁を聞いておりますと、認可等はこれ

からであり、６３年までには完成するということであります。それで結局、甲州街道と日野用水との間は６０メートルということでありますけれども、この６０メートルの間に ── 現在、市長が、私有地にも問題があるかもしれないということを言っておられるわけです。そこでやはり、先行取得をしてということも申されておった関係上、そうなるとどうしても個人住宅との交渉には早く入らなければ、とてもその問題は６３年度末までの完成は見込めないんじゃないかと思うわけです。これから認可を取るにいたしましても早いにこしたことはありませんので、ぜひとも個人の住宅の土地を先行取得しまして、道路工事前に管渠を埋めていただきまして経費の節減を図るとともに、神明上都市下水路の完成を早期にしていただきまして低地の水害を解消していただくよう要望して、この質問を終わります。

○副議長（米沢照男君）　　これをもって１６の１、都市下水路神明上地区外排水工事を早期に実施し低地の水害を解消せよに関する質問を終わります。

１６の２、オリエント時計周辺道路水路整備について再度問うについての通告質問者、谷長一君の質問を許します。

○５番（谷　長一君）　　それでは第２点目の、オリエント時計周辺道路と水路の整備について前に質問いたしましたけれども、再度、質問をさせていただきます。

このオリエント時計周辺の道路と、同じく水路の整備につきましては、オリエント周辺の住民の方から請願が出されたことがあるわけです。そのときに紹介議員としまして共産党の小俣議員、それと私も署名して出したわけであります。

それから工場内の土地の測量等ができまして、昭和５８年の１２月に私がオリエント時計周辺の道路、並びに水路につきまして、どのように今後、整備なさるのかということで質問をされていただいた経緯があるわけであります。

これは、さかのぼってみますと、非常に古いときからこの話が持ち上がっているわけです。オリエント時計の書類等を見ますると、昭和４０年代ということになっておりまして、随分前からこのような話が出ているなということに私は気づいたということであります。そこで結局道路拡張に伴う施設工事の計画表が日野市役所管理課に示されたのは、５９年の１０月２５日に出されたのが私の手元にあるわけですね。それからいきますと、今回、オリエント時計と、それから周辺住民の間での話し合いがなされた、その報告書によりますと、敷地周辺の水路、道路についての住民との協議の件ということで、周囲の住民の方々とオリエントの役員、それ

から部長、課長等との話し合いが、６０年の８月の３０日午後３時からなされているわけなんです。それらを見まするとと、前回の道路拡張に伴う施設工事計画というのと、少し違っているような、相違しているような点も見受けられるわけであります。そこで昭和６０年５月末に、オリエント時計が道路の拡張、並びに水路を整備するということで、その計画表が出されていまして、工事の邪魔になるもの等がたくさんあるわけです。または植栽されているもの、さらには埋設の管、それから建物等……。これを見まするとオリエントが実施するということで計画表によって提出されたものが、昭和６０年５月末、さらには昭和６１年３月末、それから昭和６１年１２月末ということで出されているわけなんです。

そこでオリエント時計周辺の道路、並びに水路の整備について一体 ── オリエント時計より提出された整備計画というのは、今、行ってみまするとと、実際に遅れているわけなんです。どうしてこのように遅れたかという理由です。

それから、あと一つは、これに伴って、やはりこれとは関連があるわけですけれども、オリエントの東側に日野の農業用水があるわけです。これは通称大川といっているんですけれども、そこにせきがあるわけなんです。それで、オリエントの工場内の排水が、この周辺の ── 住宅がいっぱい張りついておりますけれども、その住宅を通して流れて佐藤さんという宅の裏へ流れて集まっていくんですね。それで、その用水等もあわせて整備してもらわないと、また、片方がよくなれば片方に影響が出る、悪影響を及ぼすというようになるわけです。それらの点につきましても、ひとつお答えを願いたいと思います。

それから、オリエント時計周辺の道路、並びに水路の整備について私が見ますと、北側は比較的、楽にということはありませんけれども、早く工事にかかれるんじゃないかと思うわけです。これはどうしてかといいますと、もう東京電力が電柱等の移転を行って、もう既に完了したようです。そこで北側と東側に分けて、工事を２期に分けてやれば非常に周辺の住民は助かるんじゃないかと思いますんで、それらの点につきまして、東側と北側というふうに分けて、ひとつ答弁をしていただきたいと思います。

東側につきましては、やはり８月３０日に話し合いがなされたのを見まするとと、やはり個人の宅地に踏み込んで測量等もしなければならないというふうになっているわけなんです。それですから市の方でも東側の道路並びに水路の拡張については慎重にしていかないと、暗礁に乗り上げる恐れも出てくるのじゃないか、ということに相なるわけです。これはどうしてかと申

しますと、オリエントで水路のために３１０坪、それから道路のために２２０坪というのを出すわけですけれども、この間のオリエントの答弁を見ますと ── 付近住民との話し合いの答弁等を聞いておったということと、あと一つは、これを見ますと答弁は、「市の指導によって水路のつけかえ部分が３１０坪で、この分が1.７３メートルの水路になる、さらに2.2メートルの道路をつくるために２２０坪の土地を寄付することになる」というふうになっているわけです。さらには、これは「市が窓口となって大蔵省の管理になっているので、勝手に使用できない、しかし、どう使用するのか前に測量させてほしい」ということでその測量の事務所までも紹介するということをオリエントが言っているわけなんです。そのようなことを考えてみまするとと、非常に、やはり東側の整備について大変じゃないかと思いますので、その点も配慮しまして２点目のオリエント時計周辺の道路と水路の整備について、東側と北側に分けて、ひとつ、答弁をしていただきたいと思います。

以上です。

○副議長（米沢照男君）　　谷　長一君の質問についての答弁を求めます。建設部長。

○建設部長（中村亮助君）　　それではお答えいたします。

御質問が２点あったわけでございますけれども、まず第１点目のオリエント時計内の敷地に存しました水路と道路のつけかえ問題でございます。この問題につきましては再三、御質問もいただいておりますし、長年の経過を経ておりますけれども、ようやく前回の６月の一般質問の中でもお答え申し上げましたように、特に東側の境界の関係も全部終わりまして、オリエントさんの方も誠意を持ってこの問題に取り組んでいらっしゃいます。そういう中で、オリエントさんの方も用地を提供するために、現在、敷地内にございます建物が幾つか障害になるものがあるので、それらの移転計画も立てまして、御質問の中にもございましたように何年かの間にやろうと、こういうふうな話があったようでございます。

で、東側と北側に分けまして早く促進しろということでございますけれども、オリエントさんの方のそういう準備、用地提供の準備ができ次第着工をして早く解決できるように指導していきたいというふうに思っております。

既に北側につきましては、オリエントさんの方は水路のつけかえ作業を行うために業者の決定をいたしておるようでございます。着々、準備は進んでおるわけですけれども、一部、メッキ工場の関係の建物が２棟ございまして、その建物が、どうしてもいろんな配管等の関係で他

へ移せないというふうなこともございまして、そのかわりに４メーターの道路になる、いわゆる御質問の中にもございまして、８月の３０日にオリエントさんと地元で協議をした報告書の内容の中にもございますように、２２０坪ほどの、さらに用地をオリエントさんの方で用意しまして、東側と北側に現在の道路を拡幅して、少なくとも建築基準法で定められております４メーター以上の道路をつけかえるというような計画が基本になっております。

それから先に申し上げましたように、水路の関係につきましても、かつての水田地帯でございましたので、その水路をつけかえておるわけです。当時、昭和１０年ごろにこの工場ができましたときに一応の処理がなされておったようでございますけれども、財産的な、事務的な処理も今日まで滞ってきておりますので、今回、長年の懸案でございますので、ぜひ、ひとつ整理したいということで、私どもの方も取り組んでおります。そういう関係の中で準備のでき次第、逐次、整備をしていくということで進めていきたいと思っております。

それから２点目の、さらに周辺の ── 具体的には、通称大川の水門から南側の方のオリエントさんの方にずっと入ってきますと、小さい昔の、かつての水路がございます。かんがい用水路だったんだろうと思うんですけれども、機能的には現在は、付近の家庭の雑排水の排水路になっておる現状でございます。これにつきましても南広間地６号線という道路に面した水路でございますので、この水路の改良計画も含めまして、南広場間地６号線の整備につきましては、現在、測量も終りまして公共用地の確定作業も行いまして、近々、業者を決定した上で工事に入れる段階に来ております。そういうことで、約１８０メーター、３００の側溝を整備しまして、環境整備をしていきたいというふうに思っております。

○副議長（米沢照男君）　　谷　長一君。

○５番（谷　長一君）　　ただいまの部長の答弁を伺っておりますと、このオリエント周辺の道路の整備というのは、オリエント時計におきましても長年の財産処理に関して懸案であったということで、非常に協力的であるように私は考えているわけです。

そこで、確かに用地の提供等も時間はかかったけれども、今になりますと割合にスムースにいっているんじゃないかということであり、さらには北側につきましては既に業者に依頼してあるということで、私は本当に、この答弁につきましては満足しております。それで、このような、オリエント時計としても長年の懸案である財産処理ができるということになりますと、やはり日野市に対しても好意的になり、さらには周辺道路の整備に対しても協力的になるということであるということを考えると同時に、川崎街道に北側が出るような道路の延長というのは、いかがなものでしょうか。そのあたりにつきましても、わかる可能な範囲内において部長さんからお答えをいただければ、非常に幸いであると考えております。

○副議長（米沢照男君）　　再質問についての答弁を求めます。建設部長。

○建設部長（中村亮助君）　　建設部長、お答えいたします。

今のお尋ねの問題につきましては、８月３０日に行われましたオリエントと地元との協議の中で、一つの課題に提供されたようです。現況につきましては確かに狭いわけでございまして、あの辺の地域の開発という問題につきましても今日まで聞いておりません。したがって、地域の生活道路の整備という点から取り組む問題であろうと思います。現況等につきましては、やはり測量など現況を把握した上で可能かどうかは検討させていただきたいと思いますけれども、課題にさせていただきたいと思います。

○副議長（米沢照男君）　　これをもって１６の２、オリエント時計周辺道路、水路整備について再度問うに関する質問を終わります。

１６の３、神明地区に地区センターを建設していただきたいについての通告質問者、谷　長一君の質問を許します。

○５番（谷　長一君）　　ただいま議長が申し上げました神明地区に地区センターを建設していただきたいということで質問をさせていただきます。

この神明上地区に地区センターを建ててくださいというようなことは、もう再三再四にわたって飽きるほど聞いたわけでありますけれども、また飽きないでひとつ、真剣に質問をいたしますのでお答えを願いたいということを前置きしまして、よろしくお願いいたします。

この地区センターを建てる建設条例等を見まするると、「市民、及び市民の各種団体の社会福祉活動を推進し、あわせて教養向上等の諸活動の場として、これを設置する」ということになっておるわけであります。そこで、この神明上地区というのを見まするると、世帯にしましても非常に多くの世帯がここに集中し、しかも日野市の中心地として、将来、繁栄をきわめる場所である、というふうに私は考えております。これらのことを考えてみまするると、どうしても市民が教養等を向上して諸活動を行う場として、当然、地区センターが必要になってくるのではないかと考えております。神明地区センターも神明四丁目にありますけれども、これは崖下でありまして、非常に利用する場合、上と下と ── 道路さえ、通路さえあれば本当に、すぐ何十

メーターか下でよろしいんですけれども、崖下であるがために使えないというようなことになるわけなんです。そういうことを考えてみまするとと、この東神明地区にどうしても地区センターをつくっていただきたいということをお願いするわけなんです。

そこで過去に、先ほど申しましたように議会には請願がなされ、さらには多くの議員が、この神明地区に地区センターを建てていただきたいというようなことに相なってきたわけでありますけれども、どうして神明上地域に地区センターができないのか。請願が採択をされている、または用地等の問題が解決すれば ── 通告質問のときにも聞いておりますと、建てるといっておるわけですね。が、しかし、今まで一向に建てられる気配がないわけですね。

そこで私は、どうして建設されないかという点につきまして、これは第１点としてお伺いいたすわけであります。それから今議会にも請願が出されるんじゃないかと思うんですね。そういうことを考えてみまするとと、請願は何回出しても、これは請願であって、議会側と行政とは違うような気がするわけですけれども、やはり請願を採択した以上は、行政も議会とともに歩調をあわせていかなければならないんじゃないかと私は考えているので、本当に、市におきまして神明上に地区センターが建てられないというならば、私は、建てられないということでいいと思うんです。中途半端に、蛇の生殺しみたいに、今度は建てられるとか、あんまり将来に夢を持たせない方が、かえっていいじゃないかと思うんです。それで、そのことを考えてみまするとと、用地を見れば、また幾らでもあるわけなんです。近いところでは中央公園の南側に、今、緑化センターというんですか、プレハブの建物が建っているわけです。そのところには３,０００平米の土地が１・３・１の向こうから持ってきたやつもあるわけですよね。そうなると ── 交換なんです、持ってきたというのは……。それで緑化センターのところにも土地が３,０００平米あるわけです。本当に建てる気になれば建てられないわけはないと思うんです。が、しかし、また、これは、万博へ行きましても、よく皆さんも行かれたと思うんですけれども、テーマというのは、やはり、「水と緑と人と科学」ということになっておるんですね。そういうのを考えてみまするとと、何も日野市が緑と清流ですか、そういうことを言っているだけじゃないんですね。そういうような観点に立って考えてみると、どうしてもあそこに建っている、あれは苗か何かを育てる場所にするんですか、その土地が今、荒れておりますけれども、本当にやるならばやるように、それを荒れさせておかないで、やはり苗圃なら苗圃としてこれを使うんだと、それをまだまだ見せていただければいいわけなんです。が、しかし、今、見ますと、

やはり石ころだらけになっておって放置されているわけなんですね。そのようなところを見まするとと、やはり、この上にも地区センターを建てる場所があるんじゃないかと私は考えていて、ここで神明上地区に地区センターを建ててください、ということをお願いするわけなんです。そこで通告をされておりますので、これらの点につきまして、１点と２点は生活環境部長で結構です。それから３点目につきまして、緑化センター、プレハブが建っている周辺については、市長の、つくるならつくる、だめならだめ、という答えを私はいただきたいと思うんです。何も私は体裁のいい答えは、いらない……。

以上です。

○副議長（米沢照男君）　谷　長一君の質問についての答弁を求めます。生活環境部長。

○生活環境部長（坂本金雄君）　生活環境部長お答え申し上げます。

神明上一帯の地区センターの建設要望につきましては、既に５８年の３月に高山自治会から１２５名の署名をつけまして請願が出されました。それが同年６月に採択されてございます。そのほかにも本会議の場におきまして議員各位から、この地区センターの建設についての一般質問も受けているわけでございます。

そういう情勢の中にあって、なぜ今まで地区センターが建たなかったかと、こういう御質問でございますけれども、格好な土地がなかったと、この一言に尽きるかと思います。で、地区センターの実現を見ないままに市役所の１０１の会議室を使用公開をして、定期的に自治会の会合などにも使われている実績がございます。それから執行側といたしましては、現在、地区広場になっております例の横穴古墳の上に地区センターを建てるべく検討したこともございますけれども、これも種々の事情から実現ができておりません。しかしながら、この地区一帯の地区センターの必要性は、御質問の谷議員と同じように私どもも認めておるところでございます。

そこで、ただいまの質問の中にもございました第２点の、具体的な土地を取り上げての御提言でございますけれども、中央公園に隣接いたしております約３,０００平米の細長い土地、これは聞くところによりますと苗圃にすると、そういう使用目的がはっきり決まっておりますので、この場所への地区センターの建設は大変に難しい、このようにお答えさせていただきます。

いずれにいたしましても今後ともこの地区の地区センターの建設につきましては、請願者側からの情報なども今後は積極的に提供していただきまして、その情報について検討させていた

だく、こういう形になろうかと思います。

○副議長（米沢照男君）　　谷　長一君

○５番（谷　長一君）　　ただいま部長が答弁されました苗圃のところは、難しい点につきましてもう１回、今度は市長の方から答弁をお願いいたします。

○副議長（米沢照男君）　　市長。

○市長（森田喜美男君）　　神明上、今の神明町、神明でありますが、これは区画整理を行い、庁舎が建ち、市民会館が開館し、また中央公園もここに位置しておるという、市全体から見ると極めて公共施設の豊かな土地であります。ただ、それを広域的な地域の市民生活のことから見ますと、地区センターがほしいという御意見も理解できるわけであります。（「みんな旭が丘に……」と呼ぶ者あり）今、旭が丘云々の話がありましたが、区画整理で、旭が丘には地区センター用地も３館分をちゃんと用意してあった、こういう区画整理自身の、やっぱり努力があったということも言えるかと思います。残念ながら、この、神明上地区センターにはそれらの要素が、今になってみれば欠けていた、こういうことになるわけであります。

そこで、この鉄道より以南になりますか、高山地域の保留地を市が買いましたので、これは横穴古墳の上になるわけでありますけれども、ここに建てようということで決意をしておりましたが、実施段階に当たりまして、非常に遺跡の保護の上で上物をつくるということは難しいということにぶつかってしまいまして、大変残念な結果でございます。

それで私に今、質問されているのは、この中央公園の南側に当たります買い足しをいたしました3,０００平方メートル、これは公園用地として拡大をした部分でもあるわけでありまして、これこそ、この土地の利用の考えは緑化センター、つまり苗圃をつくろうということであります。既に公園用地として指定の中に入る手続も終えておりますし、公園用地でありますからその他の用の建物は、これは絶対不可能という結論でございます。今まで市民会館のために、建設会社の事務所なども、いっとき、短期間、許したこともございますけれども、今、その後の、つまり荒れ地と言われております、つまり砕石まで入れておるわけでありますけれども、これは、きれいに今度、土を入れかえまして今回の予算に３百数十万円をお願いをしているわけでございますが、ここに黒土、いい土を入れかえまして、これからいわゆる苗圃として実生の植物、あるいは幼い状態の植物を育てて、これを広く市民にお配りをしたり公共用地の植栽に当てるということで、もう用途が確定をいたしておりますので、ここの部分の多目的利用は、こ

れは不可能ということでございます。

そこで結論として、それじゃ全く、だめじゃないかということでは、まことに議会の努力に対しても申しわけないわけでございますので、後日、今どうこうというわけにはまいりませんけれども、何か新都市の土地でも探したりしたいということは努力目標として言わなければならないと思っております。強いて使っていただきますならば、児童館の建物もございます。これらは、夜分、何か解放して使える方法はないだろうかということも考えられますので、そのあたりをひとつ、これから努力してみようと思っております。

以上です。

○副議長（米沢照男君）　　谷　長一君。

○５番（谷　長一君）　　ただいま部長の答弁を伺っておりますと、やはり神明上地区には、どうしても地区センターを建てなければならないという必要性は感じているということですから、それらの点にも一部期待をせざるを得ないと思います。

さらにはまた、市長の答弁を伺いますと、児童館等を使用できるように考慮もなさるやにも聞き取れるわけです。その点につきましても期待をします。それから、やはり地区センターということになりますと ── 私も神明上の自治会の会員なんです。それでやはり、どうしても地域全体観の上に立って建てるということになると、前に部長の説明ですと、半径３００メートルというようなことを言っておりましたけれども、どうしても必要というのは生じてきているわけなんです。ただいま市長が申されましたように公社の土地、さらには児童館、それから部長が申されました必要性ということは、もう行政側でもよくおわかりになっていることのようですから、それらのただいまの答弁に期待しまして、ぜひ、この神明上地区に地区センターを建てていただきたいということをお願いしつつ、この質問を終わります。

以上です。

○副議長（米沢照男君）　　これをもって１６の３、神明地区に地区センターを建設していただきたいに関する質問を終わります。

本日の日程はすべて終わりました。

本日はこれにて散会いたします。

午後４時４０分散会

10月1日　火曜日　（第12日）

昭和６０年
第３回定例会

日野市議会会議録　（第31号）

１０月１日　火曜日　（第１２日）

出席議員　（２７名）

１番	橋本文子君	２番	福島敏雄君
３番	小俣昭光君	５番	谷　長一君
６番	古谷太郎君	７番	馬場繁夫君
８番	馬場弘融君	９番	高橋徳次君
１０番	旗野行雄君	１１番	一ノ瀬　隆君
１２番	板垣正男君	１３番	鈴木美奈子君
１４番	川嶋　博君	１５番	飯山　茂君
１６番	夏井明男君	１７番	黒川重憲君
１８番	古賀俊昭君	１９番	市川資信君
２０番	藤林理一郎君	２１番	名古屋史郎君
２２番	竹ノ上武俊君	２３番	米沢照男君
２４番	中山基昭君	２５番	大柄　保君
２６番	秦　正一君	２７番	奥住芳雄君
２８番	石坂勝雄君		

欠席議員　（１名）

３０番　高橋通夫君

欠員

４番　２９番

説明のため会議に出席した者の職氏名

市長	森田喜美男君		
助役	赤松行雄君	収入役	加藤一郎君
企画財政部長	前田雅夫君	総務部長	伊藤正吉君
市民部長	佐藤智春君	生活環境部長	坂本金雄君
清掃部長	藤浪竜徳君	都市整備部長	結城邦夫君
建設部長	中村亮助君	福祉部長	高野隆君
水道部長	永原照雄君	病院事務長	大貫松雄君
教育次長	小山哲夫君		

会議に出席した議会事務局職員の職氏名

局長	岩沢代吉君	次長	馬場守君
書記	田中正美君	書記	土方留春君
書記	谷野省三君	書記	串田平和君
書記	佐々木茂晴君		

速記委託先　住所　東京都立川市曙町一丁目１０の３

立川速記者養成所　所長　関根福次

速記者　小野口純子君

議事日程

昭和６０年１０月１日（火）

午前１０時開議

日程第１　一般質問

本日の会議に付した事件

日程第１

午後１時５２分開議

○副議長（米沢照男君）　本日の会議を開きます。

ただいまの出席議員２４名であります。

これより日程第１、一般質問を行います。１７の１、被爆４０周年をむかえ、平和を次の世代に伝えるために問うについての通告質問者、鈴木美奈子君の質問を許します。

〔１３番議員登壇〕

○１３番（鈴木美奈子君）　議長より発言のお許しが出ましたので、これから一般質問に入らせていただきます。

被爆４０周年をむかえ、平和を次の世代に伝えるためにというタイトルで、質問させていただきます。

ことしは、第２次世界大戦が終了して４０周年、そして、広島、長崎に原爆が投下されて、４０周年にもなります。この意義ある戦後の節目の年として、ことしの夏は、特に多くの方々が、ことしの夏についてはひとしお感慨深い夏を送られたのではないかというふうに思います。

日本が、ドイツ、イタリアとともに、侵略戦争を開始したことで始まりました第２次世界大戦は、さまざまな苦しみを世界の人々にも負わせましたし、世界では5,０００万人の死傷者を出し、この日本でも３１０万人、そして、広島、長崎では、人類史上初めての原爆の投下があったわけでございます。

６日の広島では、直接被爆者が３１万人から３２万人、そして、広島にいた軍人の方たちも、４万人以上が被爆し、また、肉親の救援などで広島に入った人たちも、約３万7,０００人の人々が被爆しております。

９日の長崎では、２７万人から２８万人の人が被爆し、そのほかにも朝鮮被爆者の方が、１万にも達している。こういう、本当に４０年たった今でも、死亡者が続いている、こういうときだと思います。

被爆者の方たちが、原爆は、人間として死ぬことも、人間らしく生きることも許されませんということで、核兵器は、もともと全滅だけを目的とした凶器の兵器であり、人間として認めることのできない、絶対悪の兵器ですと言い、広島、長崎から既に４０年、被爆者は高齢化し、被爆者援護法の制定を早くつくってもらわなければ私たちの命が先になくなってしまう、こういうふうに痛切に述べられているわけです。

しかし、こういう中で、中曽根首相の内閣ができてから、本当に、一層露骨に政治の反動化が進んでいることを、私は身近にも感じるわけです。中曽根さんが首相になりましたすぐにも、もうアメリカに飛んで行き、レーガン大統領と会い、ロン、ヤスと、こう呼び会う、そして不沈空母発言、運命共同体発言など、最近では国家機密法の、この制定のことなども出されているわけでございます。

さらには、アメリカの有事の際には、自衛隊もアメリカの核戦争に参戦させる、こういう体制なども具体化しております。

先日、私は驚いたことに、９月２３日ですけれども、私の多摩平団地の住んでおりますポストに、自衛隊の東京地方連絡部多摩募集案内所というところで、自衛隊関係の募集のチラシが配られました。このチラシには、いろいろと自衛隊のたくさんの募集の内容が書いてあるわけですけれども、東京都の防衛協会、東京都の自衛隊父兄会、隊友会東京都連、こういう名前も連ねてあるわけですけれども、私は、議会の一般質問の中でも、日野市の公営掲示板に、自衛隊の募集をやめるようにという、抗議質問をやりました。

ところが、この質問が終わった直後から、どういうわけか、多摩平団地の、公団がつくっております掲示板には、自衛隊のポスターが非常にたくさん張られるようになっているわけです。そのことが目についている中で、今度はそれぞれのポストに、自衛隊募集のこのチラシが入ってくるのを見まして、私は本当に、今の中曽根さんの強気の政治姿勢が、こうした行動にあらわれているのではないかということで、男の子を持つ母親の議員としても、大変そら恐ろしい、寒けを感じる、そういう思いをしております。現憲法の全文、また、第９条はどうなっているのか、このことを、本当に今の政治を見ると、憲法がどんどん空文化されているように、感じるわけです。

しかし、そういう中で、一方、反核平和の高まり、核兵器廃絶の課題が、具体的な形で世界政治の日程にも上り始めております。昨年の原水禁の、１９８４年の世界大会で、満場一致採択されました東京宣言、そして、昨年の暮れに発表されました日本共産党とソ連共産党の共同声明、これは、人類を核戦争の脅威から完全に解放するために、現実的な展望を持つものとして、迎えられております。

さらに、ことしの２月、日本原水協も入りまして、１２カ国の代表、この代表が、日本から世界の人々に呼びかけました、核兵器全面禁止と廃絶のための広島・長崎アピール、これは、

今、世界の８３カ国の代表からも賛同が寄せられ、この署名が日本を初め、世界の各地でも、今、署名運動が広がっております。

それでは、日本ではどうでしょうか。非核平和都市、これを宣言する自治体が、次々とふえてきております。ことしの１月１日、５県２００市２１２町村などだった、こういう宣言都市が、今では、ことしのちょうど８月９日現在ですけれども、６０７自治体となって、核兵器全面禁止、廃絶非核三原則を守る、これを位置づけた自治体、これは革新だけではないんです。保守の自治体も、革新の自治体も、一緒になってこのことを宣言する、こういう自治体がふえております。このことについて、私は、本当に政府、並びに中曽根首相はどういう思いを持って、これを見ているのかということを思います。

私たちは、ここに新しい、明るい展望を持って、再び戦争のない平和を、次の世代に残していかなければならない、これは生きている者の、本当に次の世代に伝えていく、この任務だというふうに思います。

日野市でも、平和への取り組みが進められておりますけれども、いろいろと先進市を見ますと、もっともっと私は力を入れていいのではないかというふうに思います。

ことしの夏、市から１００万円の補助金が出されまして、市民が２４人参加したというふうに聞いております。このことによって、ことしの夏は、市民の間にも大きな反響を呼び、来年は私も広島、長崎へという、こういう声が出ております。少しでも市民の間に、こうした平和への思い、そして再び戦争をなくそうという、こういう思いが広がることを、私は大変結構だと思います。これからの市の運動が発展していくためにも、どういうふうにしたらいいのかということで、質問させていただきます。

６点、質問いたしますけれども、１問目といたしましては、平和を次の世代に伝えるために、日野市としてはどういうことを考えているのか。これが１点目でございます。

２点目は、戦争、空襲の体験記、また、広島、長崎の原爆資料の収集です。ことしは、ことしだけではなくて、今までも広島、長崎からの原爆展が、いろんな団体で行われておりましたけれども、私は、市としてこういう写真をきちっと購入し、市としていろんな原爆展をやるべきじゃないかというふうに思います。

そういう意味で、原爆に関する、これは広島、長崎だけでなくて、いろんなところに散らばっていらっしゃる被爆者の方々からも、これは資料として収集できるわけだと思います。また、

戦争や空襲の体験、こういうものを文集として、市としても後世に伝えるのも必要ではないかと思いますので、こういう点についてどうお考えであるかを、お聞かせいただきたいと思います。

それから、三つ目は、常設の資料館の設置でございます。前にも質問いたしましたときには、少し、ほかの郷土資料館だったと思いますが、その一角にというお話もございましたけれども、やはりいつも原爆に関するいろんな写真展などが、それぞれの団体がいろんなところでやっているわけです。私は、これも結構だと思いますけれども、きちっと市が常設の、後世に伝えるための資料館をつくって、ここで平和の問題、そしてまた戦争中に私たちの母や父たちが使った、そういうものなども設置して、展示する、こういうことも必要ではないかと思いますので、3点目の質問でございます。

4点目は、市内の被爆者への援助と、政府に対しての被爆者援護法の制定、このことをぜひ呼びかけていただきたいと思います。

市内の被爆者の、また数は、被爆者の方々が、本人から、私は被爆者ですということを、なかなか口に出しにくい、そういう中で、実態をつかむことは難しいかもしれませんけれども、私は被爆者ですよということで、みずから私どもにも語りかける、そういう方もいらっしゃいますので、こういう人たちをまず中心にしながら、本当に被爆者の方たちがどういう思いで暮らしているのか、そして健康の面、住宅の面、差別の面、こういうことでどうなのかということで、ぜひ援助を差し伸べていただきたいと思います。

そしてまた、政府に対しては、被爆者の援護法の制定を急がなければ、本当に今、年齢が60歳以上の方たちが多いわけです。もう80近い方もいらっしゃるわけですから、政府に対し、もっと積極的に被爆者援護法の制定を呼びかける、このことが必要ではないかというふうに思います。

それから五つ目、これが、非常に難しいことですけれども、私は、やればできるのではないかというふうに思います。条例を設置し、上空を飛ぶ飛行機の核の積載のチェックを行うこと。これは、かつて横浜市、それから船では神戸市、こういうところでやっております。私、後でこのことについて触れたいと思いますけれども、これは、やれば自治体でもできる仕事でございますので、このことをぜひやっていただきたいと思います。

6番目には、平和予算の増額でございます。ほかの自治体など調べますと、非常に多い予算

が組まれておりますが、日野市はまだまだ少ない。そういう中で、図書館などに行きますと、原爆に関する本や、また戦争、こういうものに関する本もたくさんありますけれども、またフィルムも足りないと思います。そういう点では、もっとたくさんの平和予算をつけることが必要ではないかと思いますので、61年度の予算では、もっと、他市に負けないような平和予算を組んでいただきたいと思います。

その点を、まず6点だけ、最初に質問させていただきます。

○副議長（米沢照男君）　鈴木美奈子君の質問についての答弁を求めます。総務部長。

○総務部長（伊藤正吉君）　第1点目から、順次お答えしてまいりたいと思います。

日野市におきましては、57年の10月8日に、日野市の核兵器廃絶平和都市宣言を可決以来、市内の11カ所に、今、宣言塔を建てております。そういうことで、これをカレンダー的に申し上げますと、58年の8月でございますけれども、広島県の府中町ですか、ここで非核都市宣言の輪を広げようという組織づくりの準備会に入っております。

それから、同年同月でございますけれども、全国の革新市長会において、核兵器廃絶平和都市宣言を各自治体で行うように、呼びかけを行っております。

それから、その呼びかけの当時に、共同提案をしようということで、これにも参画をしているわけでございます。

58年の10月19日でございますけれども、非核宣言都市の連絡協議会の発足準備会が開かれました。

59年の8月には、非核宣言都市連絡協議会の結成総会に参加しておるわけでございます。

それで、ことしの8月の3日から4日にかけまして、第2回の非核宣言都市連絡協議会総会に出席をしております。

ただいま、非核宣言都市の増加等につきまして、いろいろ資料のお答えがございました。都下では、26市中、この宣言、あるいは議会で決議している、こういうことがございます。26市中13市が宣言をしております。それから、4市議会が決議を行っている、こういう実態でございます。

ただいま、8月の3日、4日につきまして、第2回非核宣言都市の連絡協議会がございました。その中で、今後の活動としまして、9項目の目標を掲げております。

一つは、これ順次紹介したいと思いますけれど、ポイントだけ御説明を申し上げたいと思い

ますが、非核都市宣言の輪を全国的に広げること、あるいは、議会総会決議表明を、国連事務総長及び核保有５カ国に送付する、あるいは、各団体に平和予算の計上を呼びかける、あるいは、非核都市宣言の輪を世界に拡大するため、協議会から自治体間の国際連帯を呼びかける、あるいは、各自治体に対し、住民の平和運動に対する啓発活動を呼びかける、等々の活動目標を進めておるわけでございます。

そういう意味合いにおきまして、これからもこの声明書を読みまして、６点目にわたると思いますけれども、平和予算のやはり予算化も、順次この大会等の趣旨にのっとりまして増額していきたい、かように考えておるところでございます。

それから、２点目の、戦争、空襲の体験記や、広島、長崎の原爆資料の収集の御質問でございますけれども、ことし被爆４０周年を迎えまして、日野市でも戦争体験集、こういうもので、６月の定例会で御決定をいただきました。その後、広報等に掲載いたしまして、呼びかけたわけでございますけれども、７９名の応募がございました。これらを、今、校正の段階でございますけれども、来月中にはこれが印刷されまして、皆さんのお手元にお配りできるのではないかと思います。

それから、広島、長崎の原爆資料の写真の件につきましても、平和予算での絡みでございますけれども、これらについても検討してまいりたい、かように考えます。

それから一つ飛びまして、市内の被爆者の援護と生命に対し、被爆者援護法制定の件でございます。それから、条例等の関連もございますけれども、これにつきましては、今申し上げた、非核都市宣言自治体連絡協議会の団体の協議事項として取り上げていただくようなきっかけをつくってまいりたい、かように考えております。

６点目の、平和予算の増額につきましては、ただいま非核宣言連絡協議会等の目標等も踏まえまして、これから新年度につきまして、予算の増額等について、これから検討してまいりたい、かように考えております。

以上でございます。

○副議長（米沢照男君）　鈴木美奈子君。

○１３番（鈴木美奈子君）　今の総務部長のお答えですと、私は非常に、非核宣言都市を行った日野市として、もうちょっと頑張って、いろんな点で平和の取り組みをしていただきたいというふうに思います。

府中町のことにつきましては、府中町のいろんな団体と一緒になって、これをやることは結構ですけれども、日野市の自治体の中で、それではどういうふうにしたらいいのかという、もっと具体的なものがあっていいのではないかというふうに思います。具体的になったのは、戦争の資料、このことだけですけれども、私は、一つ目からまず再質問していきたいと思いますが、平和の問題を次の世代に語り継いでいくのは、やはり私は、若い方たちだと思うんです。

特に、今、広島、長崎への就学旅行、これが多くなってきております。私は、これは別に偏向教育だとは思わないんです。二度と戦争を起こしたくないという、こういう思いがあれば、いろいろと学習を積み重ねる中で、みんなの討論の末、それでは広島に行ってこようということになれば、京都、そして広島、こういうところで続けていっても、私はいいのではないかというふうに思います。

５８年の５月に、市立の第四中学校で、京都と、それから広島に行ってきた中学生の３年生の方がいらっしゃいますけれども、このとき、平和公園の前の原爆慰霊碑の前に立って、原爆投下の時刻、８時１５分に黙禱し、そして生徒実行委員長が慰霊の言葉を読み上げ、そしてクラスごとに慰霊碑の前に整列して献花を行い、花束をささげて、そして峠　三吉の墓標が読み上げられる。私も、この峠　三吉の墓標というのは、毎年夏になりますと広げて読みますけれども――その後、「青い空」、この歌を合唱し、そして被爆者の方々からいろいろお話を聞く。そして、８時１５分の広島全市に響く平和のチャイムを聞いて、そして平和への心、こういうものを学んで、そして帰ってくる。

私は、これは決して偏向教育とか、共産党を支持する方も、自民党を支持する方も、みんな同じ思いだと思うんです。そういう意味で、別に私は広島を訪れる、このことは構わないんじゃないかというふうに思います。

ことしも、私は長崎に行ってまいりましたけれども、広島も長崎も、いろんな石碑が建っていて、その石碑にはいつも折りヅルがいっぱいぶら下がっているんです。そして、その折りヅルには、それぞれの学校の名前が書いてある。そういう中で、本当に広島の旅から、改めて平和というものを大切に胸に刻んで帰京する。そして、声のないあなた方が、僕たちに何を語りかけているのか、そして、何を願っているのか、その心をしっかりと胸に刻んで帰京する。

こういうことで、そして平和を愛する青年になる。過ちは二度と繰り返さない、安らかに眠ってくださいという、こういう私は言葉を残す若い人たちの、本当に次の世代、ぜひ期待した

いというふうに思うわけです。

今度、大坂上中学校も行くということをお聞きしておりますけれども、強制はできないわけです。本当にその学校で行くということになったら、私は、行ってもいいんじゃないかというふうに思います。

そういう点と、それから、小学生では、江東区にあります第五福龍丸、こういうところの見学なども、やはり３番目に被爆した日本としては、こういう福龍丸の見学、こういうものも必要なのではないかと思いますけれども、きょう、教育長がいらっしゃいませんけれども、これについて、各学校で、広島、長崎、それは十分討論して、学習をして、その上で、もし行くことになればいいんではないか、というふうに思いますけれども、教育委員会の見解をぜひお聞かせいただきたいと思います。難しいかもしれませんけれども。

それから２番目の、戦争体験の問題では、やりますということなんですけれども、長崎、広島の原爆資料を、長崎市から借りてきたらどうかという、そういう市民の声もあります。そして、ぜひここで、日野市で、その展示をやってほしい、こういう声もあります。私も、広島は５回ほど行きましたけれども、長崎、ことし初めて平和資料館の中に入りまして、本当に何回見ても、胸のつぶれるような思いで、涙なくては、私、特に涙もろいもんですから、涙なくては見られないような、本当に戦争はいやだなあということを、実感として感じるわけです。

ですから、これを絶対に次の世代に伝えなければならない、そういう意味では、朝日新聞社だと思います、きょう、ちょっと本を置いてきたんですけれども、朝日新聞社が主催しまして、広島と長崎市から、両方の市からいろんな資料を借りて、これは写真だけでなくて、いろんな品物も同時ですけれども、展覧会をやって、たくさんの方たちが入っております。こういうものが、展示、お借りするのは無理かもしれません。それから、傷んでしまうという、そういう無理かもしれませんけれども、日野市が府中町の、非核宣言都市を行った自治体に呼びかける。一番最初から参加している自治体としては、私は、これくらいのことをやってもいいんじゃないかというふうに思いますので、その点をもう１点お尋ねいたします。

それから３番目の、常設の資料館の設置については、具体的な回答がなかったので、これは後でまた市長の方からお尋ねしたいと思います。

それから４番目に、市内の被爆者への援助の問題ですけれども、本当に被爆者の方たちの苦しみ、これは、お話を聞かなければわからないことですけれども、ことし４０年ぶりに広島を

訪れた、日野市の市民の方からお話を聞く機会がありましたけれども、今まで広島に行きたいと思ったけれども、行く気持ちになれなかったけれども、ことしは被爆４０年ということなんで、初めて帰ってきましたということを聞きました。

そして、４０年というこの歳月の中で、小学校のとき３００人いた１年生が、今生き残っているのは、たった７人だというんです。そして、久しぶりに会ったので、同窓会を開いてもらって、３０人くらい集まったけれども、そこでずっとみんなで語り明かして、そして、中島小学校という、中心のところですけれども、そこで、小学校４３名で写真を撮ったその中で、７名しか今生存し　いない。語部として、もっともっと被爆の実態を伝えなければならないけれども、やはり傷跡がまだ深く残っていて、それを表に出す、そういうことができない、そういう人が多いというふうに言われました。ですから、私は、ぜひそういう立場では、被爆者の方々が、今、口に出して言えない、そのことをぜひ市の方でやっていただきたいと思います。

これは、日野市の被爆者の方たちの声ですけれども、被団協という団体がありますけれども、その団体の方たちもたくさん、いろいろ声を上げているんです。その中で、国に対して言っている言葉の中で、戦争犠牲は等しく国民が受忍せよと答えた方々に、過激といわれても被爆させたい気がします。そうでないと、この苦しみがわかってもらえない。これは、東京に今住んでいらっしゃる４７歳の方、広島で1.3キロのところに住んでいた方です。

それから、神奈川県の５３歳の女の方、戦時下のことで被爆はいたしかたないと、天皇の言葉に、怒りに似た気持ち。こういうふうに述べております。

それから、岩手県の男の方で６９歳、８月６日、首相が広島養護老人ホームで、病は気からという被爆者への発言で、二度閃光を受けた悲しさ。こういうふうにおっしゃっています。

そして、まだ援護法を制定しない国は、被爆者が老齢化して、やがてこの世から消えるのを待っているとしか思えない、こういうふうにおっしゃっているんです。だから私は、ぜひそういう立場で、被爆者の援護法の制定を急ぐ必要があると思うんです。もう、ことし４０年です。次々と本当に亡くなっている、そういう方たちが多い中では、ぜひ日野市としても被爆者制定の呼びかけを、ぜひやっていただきたいと思いますが、この点についても、最後に市長の方からお尋ねしたいと思います。

それから、５番目の、条例を制定し、上空を飛ぶ飛行機の核積載、これも全然回答がなかったわけですけれども、横浜市で、昭和５２年の１２月７日、当時の飛鳥田一雄横浜市長でした

けれども、これは、横浜市の上空を飛行する航空機に起因する障害から市民生活を守るための条例、こういうことで条例がつくられました。７条までつくられて、残念ながらこれが撤回されてしまったわけです。

このことが非常に残念ですけれども、でも、こういうことを条例として、４条の中では、横浜市の上空を飛行しようとする航空機は、飛行予定時、飛行予定経路、その他規則で定める事項を市長に通報しなければならない。通報した事項を変更したときも同様とする。

そして、適用除外があるわけです。適用除外は、国もしくは地方公共団体またはこれらの依頼に基づくものの使用する航空機が、救助、捜索、及び消防、並びに犯罪の捜査、交通の取り締まり等のために飛行する、こういうときなどは、適用除外、四つありますけれども。こういうことで、目的は、この条例は横浜市の上空を飛行する航空機による騒音、その他の障害の防止について必要な事項を定めることにより、市民生活の安全を確保するとともに、良好な生活環境を保全することを目的とする。こういうふうに言われているわけです。

先般の質問の中にも、日野市の上空を飛ぶ飛行機の数、５８年が1,２６６回、５９年が1,１１４回、６０年が1,１０６回、３５日間で、１日平均３６機、私も多摩平ですので、ちょっと外れますけれども、本当に毎日毎日すごい騒音で、朝に夕にヘリコプターと航空機の騒音が激しいわけです。ですから、航空機の騒音から市民生活を守るための条例、これを制定できるわけです。この、私は提案については、きちっとした反論、これに対してできないということに対しては、できるということがあるわけですので、提案しているわけです。

そして、これは空のことで、もう一つは海のことです。これは神戸方式といわれまして、核を積んだ戦艦が入ってきた場合には拒否するということで、これも横浜方式ということで、非常に今、これは全国的に港のある自治体では、このことを次々とやろうということで、横浜方式のこのことが、今、続けられております。

横浜も非常に早い時期に、１９７５年に核兵器積載艦艇の神戸港入港拒否に関する決議を、1975年の3月18日に行いまして、この港に核兵器が持ち込まれることがあるとすれば、港湾機能の阻害はもとより市民の不安と混乱は、想像に――ということで、核兵器を積載した艦艇の神戸港の入港を一切拒否する、こういうことで、これが決議された後、特に1975年の決議以降、アメリカの艦船はばったり入港しない。それまでは、たくさん入っておりました。７１年から74年の9月まで１３隻も入っていたわけですけれども、７５年の3月１８日からは、もう核を積載した入港を拒否した後では、全然入ってこないということで、神戸方式、これについては中曽根首相の言葉があるわけです。

参議院の予算委員会で、共産党の立木　洋議員の質問の中で、国会議事録がありますけれども、中曽根康弘君ということで「これは地方自治の本旨に基づいて神戸の市長及び市議会がとっておる一つのやり方でありまして、それはそれとして、我々はよく理解しているところであります」。

そしてまた次に、ほかのところでまた、中曽根康弘君ということで「自治体は自治体の固有の自治権がございますから、法律の範囲内において行うことについては、我々もできるだけ協力するのが筋であると思いますが」というふうになっているわけです。

ですから、中曽根首相もこれを認めているということで、自治体の固有のこととしてできるということを、ちゃんと言っているわけですから、私は、横田、厚木、この両基地に、森田喜美男市長の名において、それができるんではないかというふうに思いますので、このことについても、市長の方から御答弁をお願いしたいと思います。

最後の、６番目の平和予算の問題ですけれども、平和予算が、日野はちょっと少ないと思うんです、ほかの自治体から比べまして。中野区、川崎です、中野区も非常に力入れておりますけれども、川崎などでも、市民が自由に利用できる平和資料コーナーを設置したり、また、平和展の開催だとか、平和推進事業の補助要綱に基づく核兵器の禁止や、非核三原則をテーマとする民間団体のイベントへの補助金の支給、そして、これはことしですけれども、約2,０００万円の予算が計上されております。中野区も同じだと思います。非常に力を入れている自治体ですけれども。

これが一方、武蔵野のようになりますと、革新自治体から保守の自治体になったとたんに、すごい金額の削減が行われて、あっという間に補助金がカットされたわけです。そういう意味もありますので、私は本当に予算、これはいろいろとお金大変だと思いますけれども、平和予算については、６１年度、もっと積極的に組み上げていただきたいと思います。

そういう点で、１点だけ、一番最初の方だけ教育次長の方から答弁いただきまして、後は市長の方から御答弁いただきたいと思います。

○副議長（米沢照男君）　教育次長。

○教育次長（小山哲夫君）　第１点目の、小中学校におきますところの修学旅行に際しまして、被爆地であります長崎、あるいは広島の原爆地を訪れるようにできないかどうかとい

いう、御提言でございます。

これらの修学旅行につきましては、質問者からもお話がございましたとおり、各小中学校に、自主的に判断するということで、修学旅行を実施しているところでございます。中学校につきましては、御承知のとおり、奈良、あるいは京都方面、小学校につきましては日光方面という形の中で、従来実施をしてきております。

御提言の、広島、長崎となりますと、当然距離も長くなってまいります。当然のことながらそれに伴う鉄道賃、旅費その他負担もふえてまいります。日野市からも若干の負担金の補助をしておりますけれども、父兄負担ということに大分まちます。

それから、宿泊施設の問題もございます。あるいは、交通上等の問題も出てまいると思います。そういうことでございますので、いろいろと学校の方の判断ということでございますので、教育委員会の方としては、強制的にああしろ、こうしろということの差し出がましいことは、言えませんけれども、ただいまありました御提言につきましては、校長会その他修学旅行に際しましての関係機関に対しまして、できれば御提言ということで、伝えたいと思っています。

以上でございます。

○副議長（米沢照男君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　平和という、大きい課題に対しまして、それぞれ各国努力していくには間違いないわけでありますが、その認識の整合できない状況があることから、不安が常に去らない。国の権力、国家権力という立場から、核戦略を持つということの庶民的感覚では理解できない、そういう対立が、現実にあるわけであります。

しかし、各国国民、庶民の感覚からいたしますと、一たび今日の原爆が戦争の形で炸裂すれば、これは地球上の人類のすべてを滅ぼしてしまうというぐらいの威力があることは、よくわかっているわけですから、それを核戦略のバランスという形で、それが抑制機能として働いている、こういうふうに言われております。

一方の、ごく自然な発想で、戦争をなくそう、あるいは原爆が炸裂するようなことは、絶対あってはならないという、権力を持たない側の庶民、市民、そのような運動が、今日いろんな形で各国に生まれておる。それが何とか手をつなごうとしている。こういう状況が、戦略の主張する側に大きな反省となっていくことが、最も望ましい状況にある、こう思っております。

自治体がどれだけの権能があるか、力があるかということは、まさに疑問ではありますけれど、しかしやらなければ、市民の意識も満たされないということだと思っておりますので、できるだけのことはいたしたい。こういう努力を、手をつなぐことによって、国際間にもまた広げることによって大きな力になることが、一つのまた有力な手段だというふうに思うわけであります。

特に、我が国は、広島、長崎という被爆を経験をした唯一の国でもありますし、どれだけ声を大きくしても、大き過ぎるということはないわけでありますから、いろいろな形で核兵器に反対をし、そして戦争を阻止する、そういう運動が大きくなればなるほど望ましいということは、もうだれでも理解できるところだと思っております。

日野市は、比較的そのことに早く意識と意欲を持ったということが、平和宣言の根拠でもあったと思いますし、また、市民にも深く理解をされているというふうに思っております。

一自治体で、なすべき限界ということも、なかなか大きな力にはなりかねますので、やはり広く同じ立場の自治体、また、それを国際的にも広げるということが、私は一つの重要な手段である、このように考えております。

特に、ことしは広島、長崎両市においても、これまで国民に対する祈願の求めと申しましょうか、そういう立場はあったわけでありますが、両市は当事市であるために、核兵器反対、あるいは平和都市宣言ということもなし得なかったといいましょうか、そういうことでありましたが、ことしはそれが一歩進められて、両市だと思っておりますけれど、広島では、はっきりと平和都市宣言が議決されたというふうに聞いております。

たまたま、広島市に近い府中町が、特に原爆被災の範囲にあるということで、また、広島市とは多少違う立場から、自治体間に呼びかけがあったわけでありまして、私どもはそれに早速参加をした、こういうことであります。それが、３年目ぐらいになるわけでありますけれど、だんだん状況が発展いたしまして、今日の宣言都市が６００数十というふうに数えられるまでになりました。

また、府中町だけがこの運動の、原点ではありますけれど、協議会を組織しました後は、もっと持ち回りで会長市等を決めていこうということが、また、ことし協議されたわけでありますが、我々のよく知っておる市が、それぞれ会長とか、副会長とか、そういう役割についております。今後、革新市長会での呼びかけということも、私どもは考えてはおりましたけれど、やはり、これは、そういう保守とか革新とかという思想、信条を越えて、全国民的願いという

ことであるためには、一方側の運動にとどめないで、いつでも参加し、また、手が握りやすいという状況をつくるべきであるということで、そういう方向に進みつつあるというふうに承知しております。（「反核運動が対立していますよ」と呼ぶ者あり）

それで、御質問の、日野市の行政の範囲で取り組んでおることは、既に回答で申し上げております。ことしは、戦争の思い出の体験記録集を発刊いたすことにいたしております。

また、資料収集ということでありますが、これも可能な範囲はやっていきたいと思っておりますけれど、原爆の資料そのものは、やはり何といっても被災地に一番集中しておるわけでありますから、広島なり、長崎なりに児童生徒の旅行を、出向いて、そうしてしっかりした印象を若いときに植えつけておくということは、有意義だというふうに思うわけであります。

それから、資料館の常設ということにつきましても、博物館ができます際には、ある部分の余席をこのような、つまり日野市内で収集できるものをむしろ展示することが有意義ではないだろうか、というふうに思います。といいますのは、戦争中のいろいろな、まだ残されたものもあるわけであります。そういうことをやはり郷土の資料として、育つ子供たちによく意味を教えておくということは、重要だと思います。

それから、国の被爆援護法の制定でありますが、これはいつでも国会で問題にもされながら、なぜ制定までいかないのか、ちょっと我々の理解のできないところでありますが、当日野市におきましても、そのような議会での決議はなされたというふうに承知をいたしております。なお議会と一緒に、そういう運動の、国への要望を進めていくということは、できないことではないというふうに思います。

それから、核搭載の恐れのある航空機を、条例を定めてチェックしたらどうかという、こういう御提案でありますが、非常に難しいと私は思います。たまたま横田に基地を持つ米軍は、安保条約の取り決めの上に、超法規の形で、日本の法律を超えた形で、地位協定、あるいは基地の提供ということが定められております。

それで、港を持つ、特に政令都市、横浜とか神戸の場合、これは多分、港湾に対しまして、一定の自治体としての権能を持っていると思います。船舶の出入、その他国家権力に合わせて、自治体の権限があるんではないかと思います。そのことがあれば、まさに具体的な可能性が生まれるわけでありますが、空を飛ぶものを、これをなかなかチェックをするといいましても、つまり存在しないということの、申告を受け取るというようなこと以外にないと思いますが、

その存在しないという申告を、どういうふうに自治体が受け取ることができるかということになると、全く権能は持ち得ない。つまり、日野市の上空に日野市の市権が及んでいるというふうには、自治体ではちょっとあり得ないように思います。

しかし、そういう趣旨は大変わかるんですけれど、つまり具体的に機能する方法は大変難しい、こう言わざるを得ないと思います。

その他、平和予算のことにつきましては、今後いろいろな観点から、有効な方法、方途をとりまして、予算を年々つけ足していくということは、可能だというふうに思っております。

小中学校に平和の本という、非常にわかりのいい本を、図書室に5冊ずつ配っておりますが、やはり私は、図書ないしは視聴覚を通じてという、そういう子供に植えつける印象は大切だと思いますので、そういう側にむしろ力点を置くべきではなかろうか、こういうふうに考えておるところでございます。

なかなか具体的な効果が、目の前につかみ得ないという事柄がありますだけに、これからもまだ一層の努力を要すると思っておるわけであります。

以上です。

○副議長（米沢照男君）　鈴木美奈子君。

○１３番（鈴木美奈子君）　それでは、終わりにしたいと思いますけれども、難しい質問もあったかもしれませんけれども、すぐにできる質問もあったと思うんです。

５番目の、条例の制定の問題は、本当に安保条約がある中では、非常に難しいことかもしれませんけれども、やはり非核都市宣言を行った自治体として、政府に向かって声を出していくことも、私は必要ではないかというふうに思うんです。

毎年、府中町で集まっていろいろと審議される、そういうところでも、ぜひ議会の中でこういうことがあったということで、少しでも声を出していただければ、力になるんではないかと思うんです。６００を超える自治体が、非核宣言都市を宣言しているわけですから、ぜひそういう方向でお願いしたいと思います。

それから、ことしは１００万の補正予算で２４人、私は自費で行ってまいりましたので、お断りしておきますけれども、来年は、私、もっとたくさんの市民が行こうかっていうふうになると思うんです。行った方たちがどういうアンケートを、作文を書いたかわかりませんけれども、多分いろいろの思いを込めて文章を出したと思いますけれども、私は、もっと来年度のこ

ういう予算をふやしていただきたいというふうに思います。

本当に、今、政治のもとでは、先ほど行いましたように、国家機密法の制定だとか、学校への君が代、それから日の丸の押しつけだとか、それから憲法違反の靖国神社への公式参拝だとか、本当に次から次へとまあよくやるなあという思いで、中曽根さんやってくださるんですけれども、来年度の、６１年度の概算要求でも、老人医療費の自己負担の強化だとか、国立大学の授業料の引き上げだとか、本当に福祉、教育、こういうものを削って軍事費をふやす。これが、本当に今もう１％の枠を削る、これは削るどこじゃなくて、もうこれが撤廃されるのが時間の問題ではないかというふうに思います。

新聞によっても、世論調査では６割近い人が、国民総生産の１％の枠を守れ、こういうふうに言っておりますけれども、本当に歯どめなき軍事への道を進んでいるなというのを、実感として感じるわけです。ぜひ私は、核兵器廃絶へのこの運動、ぜひ日野の革新自治体としても広げていただいて、もう私たちの暮らしを守るには、これしかないんだということで、子供たちへ核兵器廃絶、平和を守る、この運動を一層広げていただくように要望いたしまして、この質問を終わります。

○副議長（米沢照男君）　これをもって１７の１、被爆４０周年をむかえ、平和を次の世代に伝えるために問うに関する質問を終わります。

１７の２、第五小学校の改築促進についての通告質問者、鈴木美奈子君の質問を許します。

○１３番（鈴木美奈子君）　続きまして、第五小学校の改築促進について質問いたします。

５２年の第１回と、５２年の３回の議会で、第五小学校の施設と総点検の改善をということで質問させていただきまして、かなりの点で改善されておりますけれども、やはり第五小学校というのは、抜本的に改善しない限り、この問題は解決しないし、そして、その後も何回も議会に請願が出され、そして採択される。

先般の質問の中でも、回答も出ておりますけれども、私は、前回の文教委員会の中でも、都の施設部関係の方が視察にいらっしゃるということを、前にお聞きしておりましたけれども、６月１３日ということで、非常に遅かったなというふうな思いをするわけです。もっと早く来ていただいて、もっと早くこの運動が展開していったらよかったなというふうに思いますけれども、先般回答が出ておりますが、ぜひもっと早く、どういうふうにしたら第五小学校の改築

がきちんとできるのか、その点だけお尋ねしたいと思います。

○副議長（米沢照男君）　鈴木美奈子君の質問についての答弁を求めます。教育次長。

○教育次長（小山哲夫君）　お答えいたします。御質問者の方の回答理事者は教育長というふうになっていますけれども、教育長も本日、療養のため引き続き休んでおりますので、私からお答えをさせていただきます。

第五小学校の改築問題につきましては、先般、馬場弘融議員からの御質問の中で、教育長、並びに理事者の方からお答えがあったとおりでございます、開校当初は、全部オープンシステムということで、非常に教育関係者に関心を持った学校でございましたけれども、先ほど御質問ありましたとおり、その後、非常に児童数もふえてまいりまして、大規模校のために部分的改修を行いましたけれども、抜本的な改修に至らなかったということでございます。

今後、第五小学校につきましては――ほかの小学校の場合は児童数が減ってきておりますけれども、第五小学校につきましては特殊事情がございまして、６２年度以降も児童がふえていくという、そういう推計をされるとこでございます。そういった意味におきまして、現状の建物ではとても運営できないという、管理、運営上の問題がございます。

そういうことで、現在、教育委員会といたしましても、理事者側といたしましても、緊急な解決課題という形の中で、いろいろと検討をしているところでございます。

先ほど御指摘のありましたとおり、これにつきましては、相当の財源を必要とするところでございます。そういった意味で、防衛庁、あるいは文部省方面に対しまして、ぜひひとつ補助金等を確保するということで、精力的に折衝をしているところでございます。

６月１３日に、東京都の施設部の方に来ていただきまして、現状を視察していただき、また、いろいろと図面等も渡しまして、いろいろと補助金の確保に向けて努力をしております。

また、防衛庁の方の改築につきましても、ぜひひとつ補助金をもらえるかどうかということで、折衝をいたしております。

ただ、第五小学校の場合は、例のとおり鉄筋コンクリートという建物でございます。建築してから割合日数もたっておりません。そういうことで、いろいろと補助金につきましては、必ずしも楽観を許しませんけれども、第五小学校の窮状というものを、文部省、あるいは防衛庁の方に訴えまして、何とかひとつ補助金等の確保に向けて、さらに一層の努力を重ねたいと思っております。

近々のうちに、それらの補助金等の問題につきましての回答が得られるかと思いますので、それらの結果を踏まえまして、理事者側、並びに財政当局の方に対しまして、篤と御相談申し上げまして、これの解決に向かって、なお一層の努力を重ねてまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○副議長（米沢照男君）　鈴木美奈子君。

○１３番（鈴木美奈子君）　第五小学校の問題では、私も、高校のときに議会全体であの大きな動きとなって、高校の建設が進められましたけれども、同じように、第五小学校というのは、開校したときは非常にすばらしい学校だということが、現在では迷路のような学校ということで、１年生が入っても、自分の教室に戻ってこられないという、そんなような状況の中では、ぜひ一日も早く、議会ぐるみこの運動に取り組んでいただいて、第五小学校、全市的な立場で皆さんと一緒に、議会も市も進めていただきたいということを要望いたしまして、第五小学校の質問を終わります。

○副議長（米沢照男君）　これをもって１７の２、第五小学校の改築促進に関する質問を終わります。

１８の１、日野台１－２－２７番地先の公道整備について市の考え方を問うについての通告質問者、川嶋　博君の質問を許します。

〔１４番議員登壇〕

○１４番（川嶋　博君）　それでは、通告質問に従いまして、日野台１－２－２７番地先の公道整備について市の考え方を問う、これの一般質問をさせていただきます。

私が一般質問をするこの番地には、現状から見ますと、公道でありながら、非常に生活の面から見て、不便な地域でございます。この場所は、電通のマンションを建てた、北側から入る公道が、電通によって拡幅されて、整備されております。

また、日野坂の方から上がってくる、南側からは入る道路については、民間業者の開発によって、セットバックされて道が整備されております。

この中間の道路が、昔のまま、そのままになっております。非常に公図から見ますと、公図と現状とは食い違いあり、非常に生活が不便な道路でございます。そこに、近隣に住んでいる方々は、都市計画税もきちんと納税義務を果たしていながら、非常に生活の面、排水の面でも

苦労しております。

森田市長については、住みよい町づくりに努力をする、このようなこともありますが、現状では昔そのまま、非常に不便な生活をしております。この点について、市みずから日野台一丁目、この地域についての予算をどのくらい投資したかを、答弁していただきたいと思います。

また、現状の不便な道路は、行政側としてどのような考えでいるか、お聞かせ願いたいと思います。

三つ目、今後この道路について、市はいつごろ改善するか、その計画を教えていただきたいと思います。

以上３点、お伺いいたします。

○副議長（米沢照男君）　川嶋　博君の質問についての答弁を求めます。建設部長。

○建設部長（中村亮助君）　お答え申し上げます。

３点御質問があったわけでございますけれども、お尋ねになりました道路は、市道でございまして、かつてはあの地域は、恐らく畑作地であったわけですから、開発の前は畑作地で、いわゆる農道だった道路だろうと思います。

そういう中で、現況と境界の査定の結果の状況が合わないという、現実的な問題がございます。　ちろん所有権を主張する根拠となる境界の問題につきましては、それぞれの当事者間の理解による合意が条件となるわけでございますので、まず境界確定をしなければ、現状がどうなっているかということは、よくわかりません。

そういう意味で、この道路につきましても、市道の小構１２号線という名称がついている道路でございますけれども、本年の３月に関係住民の申請がございまして、境界確定の申請に基づきまして、東京都の境界確定課の方で、境界の確定がなされております。

しかし、これが現在問題になっております、私有地を使用しているというふうな状況もございまして、まだ全面的にこの道路そのものの境界が確定をしたわけじゃございません。一部確定がなされているということでございます。確定の結果を見ましても、さっき申し上げましたように、公図上と現況の道路敷きとの関係で、多少ずれがございますので、そういう関係で、確定線上に、やはり民地の進入条件もありまして、そしてその中に工作物などがあるというふうな現況がございますので、そういう阻害条件を排除していかなきゃならないということでございますので、そういう阻害条件を排除していかなきゃならないということでございますので、

そういう阻害条件を排除していかなきゃならないということでございますので、やはり境界確定の結果を尊重しながら、お互いの権利者の間で十分御理解をいただきながら、確定をしていく。その中に、やはり市の方も行政指導をしていくような形の中で、解決をせざるを得ないんじゃないかなというふうに思います。

予算の投資額等につきましては、ちょっと明確にはお答えできないわけですけれども、やはりそういう中で、いろいろ市道の問題につきましては、特に古い道路につきましては、いろんな権利者関係の問題がたくさん、ふくそうしてくるところがございます。そういう問題を一つ一つ解決していかなきゃならないわけですから、それには、やはり組織上の問題、あるいは予算の投資の問題、いろいろあろうかと思いますけれども、具体的な事例が発生し次第、一つ一つやはり解決をしていく。地道な解決をしていきたいというふうには思っております。

そしてまた、この道路の例でお答え申し上げますと、そういう中で、関係権利者の同意が得られれば、改良計画を立てまして、しかるべき幅員を持った市道に改良をしていきたいというふうに思います。

○副議長（米沢照男君）　　川嶋　博君。

○１４番（川嶋　博君）　　ただいまの建設部長の答弁の中にありましたけれど、それでは、市が道路を買収してでも拡張して整備をするか、こういう点が、答弁がありませんけれど、日野市は２６市中１８番目という公道の舗装率で、半分以下でございます。

また、行政としても、こういう道路が日野台一丁目だけじゃなくて、市内各所にもこういう問題点を抱えた、不便な道路があると思います。これについて、行政側も努力が足りないんじゃないか、このように私は思います。このような道路について、積極的に市民の生活を最優先した、排水を含んだ道路をつくっていかなければいけないと思います。

その点について、市はこれについて他力本願じゃなくて、市みずから改善する、または積極性がある考えがあるか、再度質問をいたします。

○副議長（米沢照男君）　　建設部長。

○建設部長（中村亮助君）　　お答えいたします。

御指摘のように、そのとおりだと思います。私どもの方も、鋭意努力はいたしております。先ほどもお答え申し上げました中にもございましたけれども、やはり境界確定の作業そのものも、最近の傾向として、都道府県から市町村に移管するというふうな、移行的な問題もございます

ございますので、それらの関係を考えますと、やはり組織の充実という面と、あるいはまた、いつも御指摘をいただくわけですけれども、道路財源の見返りに対する事業、騒音の事業というふうな推進も、当然考えるわけでございます。

私どもの方は、できるだけ解決の方向で、最前の努力をしていきたいということを、お答え申し上げます。

○副議長（米沢照男君）　　川嶋　博君。

○１４番（川嶋　博君）　　ただいまの建設部長の考えでは、前向きに取り組むということを理解いたしまして、この問題について質問を終わりたいと思います。

○副議長（米沢照男君）　　これをもって１８の１、日野台１－２－２７番地先の公道整備について市の考え方を問うに関する質問を終わります。

１８の２、市民に不便を掛けている豊田駅北口自転車置場建設は何時完成するか問うについての通告質問者、川嶋　博君の質問を許します。

○１４番（川嶋　博君）　　豊田駅北口の自転車置き場につきましては、前回も引き続き質問でございます。

その後、どのような努力によってこの問題が解決に向かっているか、市の考えをお伺いしたいと思います。

○副議長（米沢照男君）　　川嶋　博君の質問についての答弁を求めます。建設部長。

○建設部長（中村亮助君）　　お答え申し上げます。

お尋ねの問題につきましては、去る６月１８日の一般質問の中でも、御質問があったわけでございます。その後、私どもの方も、何とか突破口を開きまして、特に北口、旭が丘方面からの自転車利用の市民の方の駐輪場の整備につきましては、いろいろ苦慮をいたしておったわけでございます。

幸い、従来から作業いたしておりました国鉄用地がございます。この国鉄用地の関係につきましては、従来７７平米しかございませんでした。それを１９８.９６平米ほどふやしていただくということで、既に国鉄側に申請を出しまして、一日も早く拡張した用地が借りられるような手続をとってございます。直接書面をもちまして、国鉄の本社の方にも出向きまして、依頼をいたしております。近々、許可があり次第、整備をしていきたいというふうに思っております。

後ほど御審議をいただきます今回の９月補正の中でも、これに関連いたしましたところの、６００万の補正予算の御承認をお願いしてございます。

そういう中で、さらに都営住宅の建設に絡みますところの、周辺の外構工事、つまり周辺の道路整備という中に関連をいたしまして、さらにこのスペースもお借りする。そして、この道路ができ上がり次第、市の方に移管をされるわけですけれども、そのスペースを利用しまして、約４００台の有料のパーキングポスト、高幡不動駅で試みました、非常に効果がある駐輪場の整備をまずしたいということで、近々これに着手の予定でございまして、国鉄用地側の関係につきましては、既に設計もでき上がっておりまして、国鉄の用地の申請の許可待ちという段階まできております。

もう一つは、東豊田方面からの進入車、つまり自転車を御利用なさる駅までの住民の方につきましては、民地の一部買収をしたいということで、既にこれも交渉を開始しております。２３８平米でございますけれども、台数にいたしますと、約４００台の収容ができる予定になっておりまして、場所は、多摩平の下水道処理場の付近でございます。この民地を買収するということで、既に市長決済もいただいておりまして、交渉に入っております。これらの整備につきましても、当初予算でお認めいただきました予算の範囲内で、十分整備ができる範囲内でございますので、この整備をいたしていきたいというふうに思います。

もう一つは、多摩平の第七公園の、改良をいたしまして、一部駐輪場の整備をしたいということで、これも２００台ほどの収容計画を立てまして、現在、設計に入っている段階でございます。でき次第、これも整備をしていきたいということで、当面、今申し上げたような整備計画を立てまして、毎回御指摘をいただいております。特に豊田北口の駐輪場の整備につきましては、一部解決をしていきたいというふうに思います。（「できちゃったよ、川嶋さん」と呼ぶ者あり）

○副議長（米沢照男君）　川嶋　博君。

○１４番（川嶋　博君）　ただいまの建設部長の答弁の中に、国鉄に伺う、または東京都にも行って話し合う、また予算化もする、このように努力の効果がうかがいすることができます。

現状、市民側の立場からいきますと、あすこ、豊田駅の北口に、都営住宅のとこには、あれだけの広い土地があり、また、草が生えていて、現状では車を置くこともできないし、取り締

まりが先行していく。このように、市民的感情から見ますと、一日も早くこの駐車場をつくっていただいて、また、駅周辺の整備をし、住みよい町づくりに努力していただきたいと思います。

これをもちまして、第２問目の、市民に不便を掛けている豊田駅北口自転車置場建設は何時完成するか問うを終わります。

○副議長（米沢照男君）　これをもって１８の２、市民に不便を掛けている豊田駅北口自転車置場建設は何時完成するか問うに関する質問を終わります。

１８の３、自然の緑と親水公園について問うについての通告質問者、川嶋　博君の質問を許します。

○１４番（川嶋　博君）　ただいまの、自然と緑と親水公園についての質問でございます。

私たちの生活する上で、緑や清い水の流れがいかに大切かということが、市民の方々からも言われております。これについて、窓口に尋ねてみました。

緑につきましては、いろいろ公園緑地がございます。公園につきましては、多摩平第一公園、それから旭が丘、中央公園、駒形公園、日野中央公園、神明上の、役所の前でございます。これを含めまして、８万8,０００平米でございます。

緑地につきましては、都市緑地として、東光寺の第一緑地から神明上第十一緑地まで合わせますと、６万6,０００平米でございます。

また、児童公園、近隣公園、都市緑地として、３１万9,０００平米がございます。

また、現在買収改築中の公園は、御承知のように仲田緑地、相当大きな金額でございます。３６億円を投資しまして、３万9,３７５平米でございます。これには、５９年度から３カ年計画で、６億8,０００万を投じまして、今、公園の改築中でございます。

そのほかには、北川原公園、これも１万4,０００平米がございます。このように、緑を守るために、行政側も努力をしている、このように私は評価をいたします。

また、清流について、窓口に問い合わせいたしました。清流の中には、親水公園や用水事業という大別がございますが、まず、親水につきましては、黒川公園が整備事業に上がっております。日野市が掲げている緑と清流を取り戻し、安らぎと潤いのある町づくりを進めていくため、公園を含む６ヘクタールの段丘の８カ所からわき出る清水を有効的に活用して、流水延長

６００メートルの小川や池を造成し、既設の水路を改修整備し、市民が安心して水と緑に親しみ、遊ぶことができる親水コミュニティーの場を確保し、安全で快適な水辺空間を創出するために、公園緑政課と水路清流課が、総事業費約２億6,０００万円をかけて、昭和５８年から着手し、６１年完成で、今、努力をしております。

その他には、仲田緑地内には仲田公園を整合された形で、親水水路を５９年度で事業費8,２００万円をかけて完成しております。これは、建設委員会も視察をいたしまして、水路には魚がおりましたり、また、地域の住民の方々もえさを与えたり、親しみの場として、もう既に利用されております。

また、将来計画につきましては、黒川公園の６００メートルが完成した後に、市民プールまでの散策道をつくって、その中に水路を、黒川の流水を流す計画があるといっております。

また、用水事業につきましては、清流フィルターを、今窓口で、用水を利用する方々に、行政指導しております。公共の水域の流水の浄化をする条例がありますが、この条例の趣旨は、河川や用水路をきれいにするためにつくられたもので、家庭からの排水、家庭雑排水を側溝や用水などに流す場合に、ごみを取り除く装置を設置することが義務づけております。

排水処理の最終的解決には、公共下水の整備が重要でありますが、現在、下水道事業を進めておりますが、完成するには長い年月がかかります。しかし、下水道が完成するまで、何もせずに河川や用水路を、汚れることをそのままにしておくことはできない。清らかな美しい流れを取り戻すために、清流フィルターを設置しているとのことでございます。

特に、昭和６０年度からは、設置に対して強化しております。放流申請のときに、管理課、下水道課、区画整理課等で窓口になっております放流の許可を出す場合には、水路清流課で清流フィルターを買っていただいて、この領収書を許可証に出していただく、このようなことで、現在は、ことしの７月から９月までにはもう１３５個を販売をしている。去年は４０個ぐらいだったんですけれど、一応行政指導で清流フィルターを義務づけている、このように努力をしているとのことでございます。

また、用水の中の清掃につきましては、河川における一般的な土木行政的浄化対策は、大別して三つあるとのことでございます。河床の堆積汚泥の取り除き、流状の改善、それから各種の浄化設備の利用について、ということが行われております。このように、用水をきれいにする、水路清流課でも用水の改善に努力していることでございます。

また、用水を年間通水するにつきましては、夏の、４月１日から９月３０日までは農業用水として、用水組合で管理しておりますが、１０月１日から３月３１日までは水路清流課で、各用水組合に年間通水の業務委託をして、冬の用水需要期に用水路の浄化だとか、防火用水の確保のために、市内の幹線用水路を通水を行って委託業務を行っておると。用水路に、夏の半分につきましては水量を確保し、大雨等により増したときの浸水対策などを十分留意して、迅速的な樋門の水量調整を行っていると、このように窓口では言われております。

ことしの農業関係では、年々用水の水質がよくなって、農家の方々も天候にも恵まれ、豊年満作ということに、あちこちも声が聞かれております。

また、水路清流課ですか、行っている庁内の清流の展示会、小中学校生の作品が、用水からまた捕獲したエビだとかカニ、フナ、またはコイ、カメ、いろいろとこういう動物が、非常にきれいに飾って、展示されております。この、やはり用水の下の方でとったんではなくて、いろいろ担当者にお話を聞きましたら、やはりこれは上流の方でとれた魚類である、このように申しておりました。行政側としても、子供のころより用水を大切な心で、きれいにすると。行政の現在行っていることは、非常に私としてはよいことだと思います。

さらには、親水公園につきましても、ことしはＮＨＫのテレビでも、日本全国に黒川親水公園が放送されて、日本の国民の方々に紹介をされた、このように私は行政側とも立派だと思います。やはり限られた予算の中で、最大限の、こういう緑や清流について努力をしているということが、私が感じましたので、追及する点がございませんので、これで一般質問を終わりたいと思います。

○副議長（米沢照男君）　これをもって１８の3、自然の緑と親水公園について問うに関する質問を終わります。

一般質問１９の1、最近における航空機騒音の実態とその対策、１９の２、南平へのダイクマ出店にたいする市の態度、１９の3、地方「行革」にたいする市の対応について再び問うについて、私、米沢照男が通告しておりましたが、極めて残念でありますけれども、取り下げいたします。

本日の日程はすべて終わりました。

本日はこれにて散会いたします。

午後３時２４分散会

10月2日　水曜日　（第13日）

昭和60年
第3回定例会　日野市議会会議録　（第32号）

10月2日　水曜日（第13日）

出席議員（26名）

1番	橋本文子君	2番	福島敏雄君
3番	小俣昭光君	5番	谷　長一君
6番	古谷太郎君	7番	馬場繁夫君
8番	馬場弘融君	9番	高橋徳次君
10番	旗野行雄君	11番	一ノ瀬　隆君
12番	板垣正男君	13番	鈴木美奈子君
14番	川嶋　博君	15番	飯山　茂君
16番	夏井明男君	17番	黒川重憲君
18番	古賀俊昭君	19番	市川資信君
20番	藤林理一郎君	21番	名古屋史郎君
22番	竹ノ上武俊君	23番	米沢照男君
24番	中山基昭君	25番	大柄　保君
26番	秦　正一君	27番	奥住芳雄君

欠席議員（2名）

28番	石坂勝雄君	30番	高橋通夫君

欠員

4番　29番

説明のため会議に出席した者の職氏名

市長	森田喜美男君		
助役	赤松行雄君	収入役	加藤一郎君
企画財政部長	前田雅夫君	総務部長	伊藤正吉君
市民部長	佐藤智春君	生活環境部長	坂本金雄君
清掃部長	藤浪竜徳君	都市整備部長	結城邦夫君
建設部長	中村亮助君	福祉部長	高野隆君
水道部長	永原照雄君	病院事務長	大貫松夫君
教育次長	小山哲夫君		

会議に出席した議会事務局職員の職氏名

局長	岩沢代吉君	次長	馬場守君
書記	田中正美君	書記	土方留春君
書記	谷野省三君	書記	串田平和君
書記	佐々木茂晴君		

速記委託先　住所　東京都立川市曙町一丁目１０の３

立川速記者養成所　所長　関根福次

速記者　松波敏子君

議事日程　昭和６０年１０月２日（水）

午前１０時開議

日程第１　一般質問

（請願上程）

日程第２　請願第６０－１１号　（仮称）神明地区センター建設に関する請願

日程第３　請願第６０－１２号　静閑な住宅地の真中への駐車場建設反対に関する請願

日程第４　請願第６０－１３号　日野第二小学校校舎内の整備に関する請願

日程第５　請願第６０－１４号　循環バス市案に加え全市的循環バス実現を願う請願

本日の会議に付した事件

日程第１から第５まで

午後１時５分開議

○副議長（米沢照男君）　本日の会議を開きます。

ただいまの出席議員１８名であります。

これより日程第１、一般質問を行います。

２０の１、福祉政策の内容を一段と深化させよについての通告質問者、夏井明男君の質問を許します。

〔１６番議員登壇〕

○１６番（夏井明男君）　それでは、第１図の福祉政策の内容を一段と深化させよ、ということで質問させていただきます。

御承知のとおり、国のレベルにおきましては、６０年度予算では、国の補助率が５割を超える４１件の高率補助金が、一律１割カットされまして、総額2,７００億円前後が削減されております。で、その主な中味を見ますと、生活保護費の問題、また、保育所・養護施設などの運営費、老人ホームの運営費等々ございます。さらに６１年度の予算編成に当たりまして、地方への補助金の取り扱いについて、さまざまな意見が出ておりまして、骨格としておおよその話でございますけれども、ほぼ国のレベルにおきましても来年の基本的な姿勢が固まりつつあるわけであります。

例えば、学校事務、栄養職員への補助金や、いわゆる人件費補助金の廃止、児童保護費補助金などの補助率引き下げ、さらには公共事業補助金の交付基準の引き上げ等ございます。また、具体的な項目の中には、市民体育館の建設への補助金の廃止等、さまざまに地方におきまして影響受けるであろう内容のことが出ているわけであります。で、さらには国の財政もかなり逼迫しているという基本的な状況があるわけでありまして、国の収支の主な収入の、歳入の基本的な税の比率が七十二、三％前後と、いうことであとを国債等で賄っておる状況であります。

また御承知のとおり、国の５２兆二、三千億の中で約１０兆ほどが国債の利払い、利息払いと、いうことで実情があるわけであります。で、近い将来恐らく大型間接税の導入も図られる状況が、かなり緊迫して出てまいるんではないか、という状況にあります。御承知のとおり大型間接税の導入におきましては、るる国会でも議論がありましたけれども、累進課税の逆累進ということの欠点ですとか、さらには中小企業等への影響の問題ですとか、賃金の自主的な低下を招くとか、さまざまな問題があるわけでありますけれども、そういう中で、地方自治体と

して住民の生活と密接に結びついた運営が国と違いまして、実際にあるわけでございますから、このような国のレベルでの対応に対して、かなり説得力のある議論をしていただくためにも、自治体で抱えている福祉の内容は、どういう状況にあるのかということを、つぶさに把握をしていただいておくことが、国に対しての説得力のある反論になるであろう、というふうに思うわけであります。その意味で現在日野市の担当が、当局が市民の生活をどの程度具体的に把握をされて、対応されているのか、その現状と今後の取り組むべき課題、ということでお伺いをしたいわけであります。

一つには、大きなここで取り上げたねらいとしましては、生活保護を受けるまでには至らないけれども、それとあまりかわらない生活しかできない、いわゆるボーダーラインの層、さらには職業や収入が安定していないために、いつ貧困に陥るかわからないという不安定所得階層、このような方々に対して、どのような施策が行われているのか、こういうことを５９年度の事業報告書をもとに、お尋ねをしたいと思います。

私の質問用紙には、法外援護事業対象者、さらには生保対象者、年金の滞納者、国民健康保険の未納対象者等の分析をとおしてと、いうふうにお話をしてございますけれども、代表的な項目、思いつくままに羅列したわけですけれども、その点御承知願いたいと思います。

まず、納税関係からまいりますと、５９年度の事務報告書の９３ページには、滞納分ということで１億1,０００万ですか、の滞納分がある、ということです。人数的な把握は、ここからは出ておりませんけれども、その滞納処分の状況の中で、差し押さえ処分というものがあります。全体的には差し押さえがあったのが４９６件、公売処分に付されたのが３件、差し押えの解除が２２９件、未完納のものが２６４件であります。この中には、金が、金がと言うか、財産的な余裕があっても、という方もいらっしゃいますでしょうし、地域を移転したがために、という方もいらっしゃるでしょうが、この内容的には、どういうふうな状況であったのか、その辺の話が掌握している範囲であれば教えていただきたいと思います。

さらに、それに関連するんですが、税の執行停止ということで市都民税の1,１７１件に対して執行停止がなされておりますけれども、その辺の状況はどうであったのかと、いうことであります。

さらに、報告書の９６ページですけれども、国民健康保険事業が行われていますけれども、国保の滞納ということで、厚生省の指導にもなるべく反応ができるような方策を考えてほしい

と、いうことで具体的な話も伺っておりますけれども、日野市におきましては、どういう状況であるのか、すなわち国民健康保険の納められない場合の処置等も十分あるわけですけれども、その辺、財政的なゆとりがなくて納められない、という方もいらっしゃるわけですが、その辺の状況つかんでおられれば、その辺の話を承りたいと思います。ちなみに国保税の税収入状況の中の滞納分という欄がありますけれども、そこでは4,５３６件の件数が出ております。

さらに、国民年金の事業における話でございますけれども、来年以降から年金制度の大幅な改革が実施されていくわけですけれども、マスコミ等で報道されておりますように年金の支払いができない層がかなりふえてくるんではないか、というふうな議論もされておりますけれども、国民年金のこの事業の中で、そういうふうな予測がたっているのかどうか、さらには現状でどういうふうな状況が生まれているのか、年金の積み立てができない、特例もあるわけですけれども、それ以外で未納になっておる世帯が把握されていれば、お知らせ願いたいと思います。

さらに、事務報告書の２１８ページでございますけれども、ここには福祉事務所関係の民生委員関係の活動状況ということで、報告がございますけれども、その中でかなり高い数字を占めている相談としましては、生活費の問題というものが上げられております。生活保護の問題ですとか、生活費の具体的な問題ですとか、世帯更生資金の問題、援護資金の問題等数を含めますと大きい数字になってまいります。

さらに、生活保護の関係では、前にこれ以前私も聞きましたけれども、経済的な好況、不況ということに関係なく大体一定の水準ということの御答弁をいただいたわけですけれども、最近の現状はどうなっているのか、その辺の状況を把握されていれば、教えていただきたいと思います。

さらに、先ほど申し上げました生活保護費を受ける対象ではないけれども、というボーターライン層と言いますか、その辺の把握されている状況があれば教えていただきたいと思うわけであります。

さらに、生活保護の中で具体的に細かい問題の中で生活扶助、住宅扶助、教育扶助、医療扶助という欄がございますけれども、生活保護世帯の中でも住宅扶助については大丈夫であるとか、教育扶助までには対処しなくても大丈夫のレベルであるとか、という数字が事務報告書の２２１ページの中には具体的にその違いがでてきているわけですけれども、この辺どういうふ

うに把握をされてきているか、御感想があれば伺いたいと思います。

さらに、母子福祉関係。どうしても母子の御家庭は社会的に弱くならざるを得ない、という客観的な状況があるわけですけれども、その中でもやはり大きな相談事の内容としては、経済的な問題が多いわけであります。その中で生活援護ということで、母子福祉資金ということですけれども、相談回数が８７件になっております。で、婦人福祉資金の問題含めますと、107件であります。で、母子福祉関係の全体の相談内容が３７６件でございますけれども、その中で１０７件というのが生活の問題であります。

さらに、これは市立病院の関係でありますけれども、保険別の取り扱い患者数ということで年間の延べ数が出ておりますが、この中で、国保、社保、労災、生保、それから自費という欄がありますが、自費の欄がですね、入院で2,７１０件、外来で2,４９３件という表でありますが、この自費の2,７１０件の入院の内容はどういう内容であるのか、非常に興味をひくわけですけれども、その辺把握をされている状況があれば教えていただきたいと思います。

さらに、就学援助費の問題ですけれども、質問の用紙には私は書きませんでしたが、前に学校給食の費用が払えなくている方が、どのくらいいらっしゃるかと、いうことをたしか予算委員会でお尋ねしましたけれども、就学援助費という制度がございまして要保護、準要保護ということでございまして、その対策が立てられているわけですが、それを前提にしましても、給食費を督促される御家庭が何軒かあるわけですけれども、こういう御家庭に対してどういう、要するに単に失念をしてしまっている状況であるのかどうかと、いうことは担任の先生はよく御存じなわけですけれども、その辺就学援助費という制度がありながら、そういう状況があるということは、非常に私には不思議な現象であります。その点も、わかればお尋ねをしたいと思うわけであります。ちなみに、給食費の取り扱いの準要保護の生徒の給食費の取り扱い件数ですが、年間延べ数として、１万5,０６２件あったわけであります。

それから、非常にまたこれ細かくなると思いますが、例えば移動教室があります。移動教室もたしか経済的なゆとりのない方と言いますか、緊迫した方の子弟のための制度ということがあるわけですけれども、各中学校の２６４ページの表見ますと、中学校の生徒の方でも参加率が９４.３％という所もあります、１人、２人の問題ということで、確かに病気とか、そういうことであるんでしようけれども、やはり１人、２人、３人という方が、どういう状況で行けなかったのか、ということも、つぶさにやはり知っておく必要があるだろうと、いうふうに思

うわけであります。

今、制度的な問題としてお尋ねしましたが、このような方の層をどういうふうにつかまれているのか。例えば、年金を納めることはできないけれども、国保の方では国保税を納めていると、いう方もいらっしゃいますでしようし、その辺かなり個人的な差もあると思いますけれども、税金の方は納めることはできないけれども、国保の方は納めているとか、市の担当によってさまざまなデータが発表されておりますけれども、やはりそれだけではなくて、特に生保まではいかない段階の方の生活が、どういう状態であるのかと、いうことは既存の日野市で掌握されている資料によって十分わかるわけでありますから、その情報を丹念に積み重ねられていく将来的にはさまざまな問題あると思います。公務員の方の守秘義務の問題ですとか、プライバシーの問題ですとか、さまざまあると思いますけれども、将来的な大枠の制度としては、具体的な市民の方がどういう具体的な生活をされているのか、一つの値上げの問題起きた場合に、どういうふうにその家計に影響してくるのかと、いうことはやはり抽象的にはわかるわけでありますが、やはり市町村レベルの段階としては、具体的にそれを把握していく必要があるんではないか、というふうにつぶさに思うわけであります。これを少々生意気なことを申し上げますが、これは市長が前に反核運動、これからの一つの方向としては、戦争を起こさない、核戦争を廃絶していく運動が大きな流れであろうと、また、政治もそういうふうに進まなければいけないと、いうことをおっしゃったわけであります。私も全く賛成であります。その意味で一つ一つ新しい展開をされているわけですけれども、あともう一つは、やはりどれだけひとりひとりの国民の方、市民の方の生活を守るか、その人の生き方を守るか、ということをどこまで肉薄して迫って行くことができるかというのがもう一つの大きなものだろう、というふうに思うわけであります。これは市長に御答弁をいただきたいわけでありますが、基本的には戦争を起こさないという方法と、ひとり、ひとりの方を大切にしていく基本的な流れを、さらに一段と強めていく、ということが必要ではないか。これは市民の方だけではありませんで、市にお勤めの職員の方に対する市長の基本的な姿勢にも私は結びついてくるのではないかと思うわけであります。単に経済的な差がないとか、年齢が上であるとか、立場上指揮をとる権限が大きいか小さいかによって、言葉の口調が変わってもいけませんし、感情的なことがあっても私はいけないと思うわけであります。そういう点で市長の今後の基本的な考え方ということがありますれば、御答弁をいただきたいと思います。

以上お願いいたします。

○副議長（米沢照男君）　夏井明男君の質問についての答弁を求めます。市民部長。

○市民部長（佐藤智春君）　市民部長、お答えを申し上げます。

まず、最初に御質問のございました税関係、あるいは国保の関係、年金の関係につきましては、私の方からお答えをさしていただきたいと存じます。

まず税関係の滞納の関係でございますけれども、この関係につきましては、先ほど議員さんがおっしゃいましたように、５９年度の滞納繰越分の数値につきましてはそのとおりでございまして、私の方で内容的な分析のわかります範囲のことをお答え申し上げます。

まず、税関係の個人の分でございますけれども、御質問の内容でございます、いわゆる生活困窮者の内容ということでございますけれども、私どもの方で５９年度に執行停止をいたしました内容を申し上げますと、内容的にはいろいろあるわけでございますけれども、居所の不明というのがまず第一にございます。これにつきましては、２５４件ということでございます。それから財産がなしと、いうことで執行停止というのが２２５件、それから、生活困窮者でございます。生活困窮の方が９９件、それから会社が倒産いたしまして困っているという方が84件、このようなことで執行停止につきましては、全部で６６２件と、いうことでございます。金額にいたしますと2,８５８万4,０００円という数値が出ております。これが税関係の関係でございます。

次に、国保の関係でございますけれども、国保の関係につきましては、いわゆる滞納の中で、税と同じように、執行停止いたしましたが、財産なし、これは地方税法の１５条のあれなんですけれども財産なし、これが２５２件、これが金額にいたしまして、１４８万3,０００円ばかりになります。それから生活困窮、この方が３１７件でございます。２５１万5,０００円。それから、やはり住所不明というのが９０５件でございます。これが４５６万4,０００円という内容でございまして、総トータルで1,４７４件でございます。それからそのような状況でございます。これが国保税の関係でございます。

それから、次の国民年金の関係でございますけれども、国民年金につきましては、５９年度保険料の免除というものがございます。これにつきましては御承知かと思いますけれども、法定の免除と、それから申請によりますところの免除がございます。法定によりますところのいわゆる生保の関係でございますとか、このような関係につきましては、６０年度の３月末で

５７７件でございます。任意と申しますか。

それから、本人の申請に基づきまして、これは1年間の切りかえを行うわけでございますけれども、1年ごとに調査をさしていただいて、決定していく、という本人の申請免除というのが７２８件と、いうような内容でございまして、これが今私どもがつかんでおります実情でございます。

以上でございます。

○副議長（米沢照男君）　福祉部長。

○福祉部長（高野　隆君）　福祉部長でございます。

それでは、民生委員及び生活保護関係についての御質問がございましたので、それについてお答えしたいと思います。

まず、２１８ページの関係で民生委員の活動状況、生活の状況は、実際日野市民の状況はどうなっているかと、こういうことでございますけれども、確かに、ここで民生委員が活動しております状況が報告されておりますように、約３万件の相談を処理している、年間を通じまして処理している。その中には、いろいろなケースがございますけれども、生活保護あるいは生活保護のボーダーラインの所での問題が多い、ということは事実でございます。しかしながら、現在の生活保護は、私どもの福祉事務所では約６１５世帯、これが５９年度の概略の世帯数ですが、現在そのくらいの生活保護世帯を、私どもはお世話をしているわけですが、そういう状況の中で報告として聞いておりますのは、実際にその中で、アル中、あるいは精神病または母子関係、あるいは離婚に伴う母子関係、そういうようなものが、かなり件数としては最近はふえてきている。そして、受理件数年間で１３０件ぐらいの、３倍ぐらいの件数を、窓口では相談として受理をしている、こういう状況でございます。非常に社会的に複雑になってきておりますために、現実にアル中なり、あるいは精神病なりの対応がふえてきている、こういう中でのケースワーカーの仕事の内容というのは、かなり内容的には深いところまで立ち入らざるを得ない、また、そのためにほかの事務が停滞すると、こういうような状況を繰り返しておりまして、現在社会福祉事業法でいっている一定のケースワーカーの件数では、とても深い所まで御面倒見きれないと、こういう状況が現出している、という報告を聞いているところでございます。しかしながら、現実に法が定めるケースワーカーでやっておりますので、日夜兼行の中で実際には処理している、ということで実質的に福祉事務所のケースワーカーの残業時間は、

かなり多くなっていると、日中は訪問あるいは相談、帰って来てからも事務処理、こういうような状況で追われております。そういうところで、実際に男子職員では対応できないような母子家庭の生活指導の問題等にまで、かなりのところ、指導せざるを得ない、こういう生活習慣のところまでいろいろのところでのケースを取り扱っております。

御質問のその他のボーダーラインについての対応はどうなっているか、ということでございますけれども、日野市においては、その生活保護に該当しない方のための施策というのは、生活つなぎ資金の貸付事業、また準要保護家庭に対する入学祝金、また世帯更生資金の貸し付け制度、これは日社協でやっている事業でございますが、このような形での生活援助、このような形が実際行われております。

現在この生活困窮者に対する生活つなぎ資金、また、世帯更生資金、これは、もとはと言えば、公益質屋の代替えと、こういうような施策でございますけれども、このような制度の利用というのは、だんだん高まってきている。このような制度の見直しと、または改善というものも今後ますます必要になってくるんじゃないかと、こういう具合に考えております。

生活更生資金につきましては、就業、就学、医療、生活保護についての貸し出しを行っているわけでございますけれども、生活困窮者のための返還困難、こういうような点については、民生委員の保障という点では、かなり厳しい指示が都社協からございますので、なかなか民生委員としてもつらい立場に立たざるを得ない、こういう状況も多々感じられております。これにつきましては都社協に対して、いろいろと御注文なり、御意見なりを言っておるという状況でございます。

○副議長（米沢照男君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　基本的な、この福祉施策の考え方、あるいは施策の発展について、御質問をいただいておるわけであります。大きい見方をいたしますならば、中央、地方を問わず政治や行政の目的とするところは、国民、市民ひとり、ひとりの何人に対しても、不幸を少なくし、幸せを増大していく、ということにあると言えると思っております。私どもが担当しております地方自治の行政の範囲におきましても、少なくも市民のすべての人が、それぞれの事情はともかくとして、不幸やとりわけ貧困という状況で困っておられる方に手を差し伸べる、ということは福祉行政の大きい仕事でなければならないと思います。それでは、今具体的に貧困層あるいは苦労なり不幸の状態にあるそれらを知る手段として、行政が持ち得ている諸情報この中からもれなく的確な対策を図る、ということになると思っておりますが、できるだけのことは当然しなければなりません。とりわけ特に平和の問題、あるいは核戦争の廃絶の問題これは全人類、これは現在幸福であっても、あるいは幸福でない状況にあっても、すべて生命を絶つということに、そういう面的な生命をなくする、そういう、今日はそういう威力を持っておりますから、それに対する積極的な反対は、これは当然何人も意識の中にあると思っております。それを糾合して政治につくり上げていく、ということが必要だと思っております。

また、その一方に生存する人たちに喜びをつくり出す、そういうことがこの政治、行政の究極の目的だと言えると思いますので、そのように努めて努力をしてまいりたいと、こう考えます。相談件数が多いということは、要するに不幸の状態あるいは貧困の状態もなお存在するというふうに見るべきだと思いますので、一層それらに意を配っていかなければいけないと、このように感じておるところでございます。原則的には、このように思っております。

○副議長（米沢照男君）　夏井明男君。

○１６番（夏井明男君）　事務報告書の中の全般的に今ちょっとお尋ねしたわけですけれども、なぜこの問題を取り上げたかと言いますと、皆さん御承知のとおり、公営住宅に住んでいる姉さん、妹の兄弟が餓死をしたという報道がありました。原因についてはさまざまでありましたけれども、そういう事実が報道されました。また、北海道で電気代が払えなくて、電気をとめられて、ろうそくで生活している御家庭で、お母さんの仕事の留守の間に幼い兄弟がろうそくの転倒を原因として焼け死んだ、という報道がありました。やはり日野市において、こういうふうな人を１人でも出してはいけないと、いうふうに思うわけであります。実際に生活保護を担当されている方も、非常に親切に個々に相談を受けて、忍耐強くおやりになっていることも私は知っているわけですけれども、こういう不幸な方を１人でも出しちゃいけないということは大事なことだと思うんです。で、福祉のいろいろな制度等見ますと、いわゆる申請主義、いわゆる本人が困って、相談に行くという大体大枠の制度は、大体そういうふうな制度でできあがっておりますけれども、やはりゆりかごから墓場まで、という言葉がありますけれども、やはり一つの大きな政治の分野、行政の分野で大事なのは、憲法でも社会権を抽象的な権利でなく、具体的な権利として現実化さしていくんだという流れがあるわけですから、そういう枠から考えれば、そういう方を１人でも出してはいけないという工夫が必要だろうと、い

うふうに思うわけです。ですから生活をしていく中で、まず食べなければいけない、食べなければいけないけれども、病院にもかかれない人がいるかもしれません。そういう層のいろいろな幾重にも市の情報を大枠で駆使をされながら、さまざまな制度の枠の困難の中で、こういう方向を、やはり目指されなければいけないんではないか、というふうに思って、この問題を取り上げさしていただいたわけであります。

それで、これ、ちょっと私もぎょっとしたんですが、この間の馬場弘融議員の、一般質問の中で、９月２７日ですけれど、奨学金を変更して、その財源でと言いますか、そういうもので文化交流を図るようなものに回していきたいんだ、というふうな御答弁がありました。私は、２０年前に奨学金をいただきながら学生生活を送ったわけですが、市長の、その時の答弁ですと、昔と違って、今の学生の方は、手軽に、少し近所で、アルバイトをすれば、それ相当の収入を得られるという状況もある、一つの例として。ですから社会的な意義というか、そういうものは薄らいできているのではないか、というお話が私に言わせれば唐突的にあったわけですけれど、中にはアルバイト、学生時代ですからアルバイトを極力さけて勉強に専念をしたいと、という方いらっしゃると思うんです。それで実際に私もこの奨学金の問題については、申請のことでかかわったことあるんですが、非常に基準が厳しい、という現実があります。たしか、これ旗野議員が、予算か決算のときに、２回ぐらい取り上げられて質問されたことあるわけですが、実際に今利用率が少ないということがありましたけれども、それならば、国のレベルで育英資金ということが実際に行われております。しかし、親御さんとすれば、非常に教育費がかかってくるという現実があります。実際に事務報告書見ましても、中学の就学についてもそうですし、高校についてもそういうふうな実態があるわけです。ですから、本会議で市長が変更という言葉言われましたが、私、廃止だろうって受け取ったんですが、その中で基準を緩めるとか、さらには、いわゆる市の奨学金の制度は、お借りをするということじゃなくて、いただくという制度のようでありますが、そこを工夫をされて、育英資金のように後日、学生の方が社会人になられたときに返還する、というふうな制度にかえて適用してもいいんではないか、というふうな、もう少し細かい話に推論があるんではないか、と思うんですね。ですから、その辺の市長の判断の材料のためにも、やはり、さまざまな情報が、具体的に、それによってどういう方が奨学金受けられなくなるのか、また受けることができるのか、ということが、１人のためにも私は、そういうふうな必要性はあるだろう、というふうに思っているわけです。そ

の点市長の方で何か御答弁ございましたらお願いしたいと思います。

○副議長（米沢照男君）　再質問についての答弁を求めます。

○市長（森田喜美男君）　先日、他の方の答弁の中で、日野市で今制度として持っておりますこの奨学金制度、これに対して疑問を持っている、というふうにおっしゃられました。つまりこの制度がうまれた当時、もう２０年、２０年以上前のようでありますから、その金額が奨学的な趣旨に沿って、向学心に燃える人たちに非常に激励になった、ということは、これはもう間違いないことだと思います。今日、貨幣価値と言いましょうか、あるいはお金の価値、あるいはお金を得ることの手段、これが非常に変わってまいりました。その間に金額をもっとふやせばよかったのかもしれませんけれども、公金に依存して、そして１年、１年確かに申請に基づく、厳しい、何と言いましようか調査がある、というふうには思いますが、それにいたしましても一貫性がちょっと今日としてはどうなのか、今、育英制度ということを質問者も言われたわけであります。私もかえたいというのは、育英制度にかえればと、こういう趣旨でありまして、ある程度の基金をもって、そしていずれ返還をしてもらう、それを循環させる、ということが、今日のむしろ教育の場における責任の処理、というふうにも役立つんではなかろうかと、こう思っております。単年度主義で大学生に月額5,０００円、それから高校生に月額3,０００円、これを給付というよりも、全く給付なんですが、後追いの調査が一つもされていない。それがどのように生きたかということが、評価ができない、こういうちょっと不十分さもあるわけであります。私は教育委員会には、こういう予算こそ、何かもっと根拠のある、また今日に生きる、そういうことを考えてもらえないだろうか、ということをお願いをしております。特にその金額でありましたら、私はむしろ夏休みの市民プールの監視員でありますとか、あるいは渡し船の協力者になってくだされば、つまり登録をしておいて、そして日野市民を優先的に使う、そういった仕事を提供するということが、むしろ学生に対する生きた施策になるんではなかろうかと、こんなふうにも思います。そういう意味で、まだ不徹底でもありますし、それから、この育英制度にしますと、後の事務処理が非常にふくそうしてしまって、そのためにまた人員を要すると、こんなふうにも伺っております。そのあたりのところを整理いたしまして、生きた制度に改めたい、というのが先般申し上げた趣旨でございます。

○副議長（米沢照男君）　夏井明男君。

○１６番（夏井明男君）　この１問目のテーマは１人でも不幸な人を出してはいけない、

という気迫で社会権の何体的な権利として高めるために、一段と努力をしていただきたい、さまざまな問題があるでしょうけれども、そのようなものとして、制度としても考えていただきたい、ということで質問いたしました。

以上終わります。

○副議長（米沢照男君）　これをもって２０の１、福祉政策の内容を一段と深化させよ、に関する質問を終わります。

２０の２、差額ベットの実態と解消対策についての通告質問者、夏井明男君の質問を許します。

○１６番（夏井明男君）　つい８月ですけれども、６０歳代の壮年の方が近所の方ですけれども入院されまして、ある私立大学の病院へ入院いたしました。その奥さんが私に相談をするわけですが、今１日１万円の差額ベット代を払っています。で、もう１０日になります、という話なんですね、ほかに部屋がないんで、そこに今入っています、もっと安い差額ベットがとらない病院はないんでしょうか、というお話でありました。私も１日１万円ということですから、３０日では３０万ということで老人医療の保険の話ですとかというよりも、はるかに超えた深刻な話であります。それで、私も前に相談を受けた件数等見ましても、過去に１０件はありませんけれども、それに近い数字のものはありました。２件は老人病院の差額ベットの問題、また、ほかの問題であります。それで、皆様のところに、お手元に配付をさせていただきましたけれども、実は中心は国の問題だろうということで、厚生省の方からいただいた資料なんですが、それによりますと、昭和４９年の３月に厚生省の方で保険局長通知ということで入院料、室料、いわゆる差額ベットの問題ですが、差額徴収についてということで通知が出ております。その中で、各県知事あてですが、毎年７月１日現在で、その状況を調査し、当局に報告されたい、ということであります。で、一番新しい資料が皆様のお手元にございます５８年７月１日の資料であります。ここでは原則として、３人室以上の部屋については、差額ベットをなくせ、ということを再三言っているわけですが、そのデータが出ているわけであります。

１ページを見ていただきますと、今回３人室以上で差額徴収が完全に解消した県が新たに愛知、京都であります。ここに見られるとおり東京は入っておりません。

２ページのところでは、結局３人室以上の部屋のものをとってはいけないということがどのくらいの程度か、ということですが、国立病院、公立病院におきましては、ゼロであります。

日野市におきましても、３人室以上の部屋は差額代をとっていない、ということであります。一番問題になっておりますのは、学校法人であります。３人室以上の部屋で、とっている所は２４.２％あります。１人部屋、２人部屋の所で８３.２％という非常に高い数字が学校法人の場合に入っております。右の欄に三角して1.7とかありますが、これは減少を示しているわけですけれども、全体のベット数がふえておりまして、その中での減ですから、かなり努力をされていることはあるわけですけれども、実際には、もう２０年越し以上の話であります。

３ページ目に金額の階級別の差額徴収が出ているんですが、私が相談を受けた１万円という欄を見ましたら、パーセンテージとしては2.3％と非常に少いんですけれども、ベット数としては3,０５１件あります。それで具体的にちょっといろいろお聞きしましたけれども、そうすると、やはり病気の病状の関係でその病院が非常にいい、ということで御紹介を受ける。町の医院の方から、先生から御紹介受けたりする。実際にそこに行ったときに、ベットはありません、差額ベットだったらあります、ということでですね。やむなくそこへ、命にはかえられないと、いうことで入るわけであります。しかし、そういうふうなことをしてはいけませんよ、本人が、患者さんが希望すれば入れるようにするだけのスペースをとっておきなさいということで、４９年３月に局長通知が出ておるわけであります。特別室を希望しない保険患者に対して、常に差額徴収なしに収容できる病室が確保されるべきである、という原則に立ってできるだけ少くすべきであり、おのおのの保険医療機関の全ベット数のおおむね２０％を超えないように指導されたい、ということであります。さらに公的な性格を有する病院におきましては、その割合を１０％以下に改善しなさい、ということであります。そこで、これは１人部屋、２人部屋関係なくそうしなさい、ということでありますが、国のレベルにおきましても、先ほどの資料なんですが２ページにおきますと、やはり２割以上は、差額ベットを持っているということであります。国立においても、厚生省の１割にしなさいということになっていないわけであります。で、公立病院、この場合にはなんと４５.２％がそうであります。

そこで第１点としてお尋ねしたいのは、市立病院でも差額ベット、個室料ということで実際にあるわけですけれども、この実態はどうなっているのか、ということをお尋ねをしたいと思います。

それから、第２点目としましては、国の指導等がなかなか容易に浸透しないと、いう現象があるわけですが、特に私、今差額ベットのことお聞きしていますけれども、これは前日も小俣

議員からも質問ありましたけれども、医療外費用ということが非常にかかっているわけであります。お世話代ですとか、付き添い看護の、いわゆる東京都の言う慣行料金の、実態の料金とは違う差を個人が負担しているわけですけれども、そういう問題ですとか、非常に不鮮明な料金が請求されるトラブルが出ているわけですけれども、そこで市によりましては、これは三多摩の市ですけれども、例えば府中市、これは昭和５０年であります。それから、狛江昭和５３年、調布昭和５４年、清瀬が昭和５４年ということですが、それから八王子が昭和６０年ということで、各市によってそれぞれ対象も違いますし、条件も違うんですが、いわゆる差額ベットに対する対応策として市民の方に貸し付けをしております。そういうふうな制度を設けておりますけれども、日野市においては、その方面の対策は具体的にどうなっているのか、その辺の対応策を現状でかなり対応されている部分があると思いますけれども、その辺の対応策をお聞きしたいと思います。なければ、いわゆる差額ベットに対する制度がなければ、こういう制度も過渡的なものとして考える必要あるんではないかと思いますが、その点お伺いをしたいと思います。よろしくお願いします。

○副議長（米沢照男君）　　夏井明男君の質問についての答弁を求めます。病院事務長。

○病院事務長（大貫松雄君）　　はい、病院事務長でございます。

御質問の中の第１点目についてお答え申し上げます。市立病院の特室についての現状ということで、これ昭和４２年１０月に制定されました日野市立総合病院使用条例の第２条によりまして、特室料を定めております。料金は１日当たり１室1,０００から5,０００円の４段階でございまして、特定の病床は、全体の占める割合としては１９％、市立病院の場合には１９％でございます。

それから、この個室の利用状況は、ほぼ１００％でございまして、病状によって、例えば手術後等、病状によっては、医師の指示によって個室に入院する場合と、それから経済的理由、このものによっては、免除等の特例がございます。

それから、市立病院の場合には、個室に入院される場合は、本人の、家族等の個室の希望が強い場合のみで、あとは一般の病床ということでございまして、入院の手続きをする段階で、家族により理解をしていただいて、そして個室の入院ということで現在進めてございます。

以上でございます。

○副議長（米沢照男君）　　福祉部長。

○福祉部長（高野　隆君）　　福祉部長でございます。

差額ベットについての御質問でございますけれども、御承知のとおり差額ベットにつきましては、先ほども御質問の中にございましたように、たびたび厚生省ではこれに対する改善の指示を出しておりまして、これにつきまして４６年の先ほどの通達、また５６年の５月２９日は、さらに強く３人以上の差額ベットの解消についてということで、私立大学附属病院以外の病院については、速やかに解消と、それから私立大学病院については１年内に解消、またこれを実施しない場合には改善計画を出す、あるいは重症患者の看護及び重症者の収容の基準の承認を行わないと、こういう形でのかなり強い指導も行われておる中での、御提出になりました調査の結果によりますように、若干づつでも減ってきていると、こういう具合なことだろうと思います。

そのほかにも、先ほど御指摘になりましたように、お世話料ということで、老人病院においては一定のお世話料をとっている。これが最近は４万円から６万円ぐらい、とこういうような形で、何らかの形で、それは病院の医療外支出、というようなものが強要されてきておると、こういうことも朝日新聞等の報道によって明らかになっているところであります。そのような状況について、私どもといたしまして、この差額ベットを負担すると、こういう点については、かなり難しい。これは医療費としての対応ということではなかなか難しいと思います。しかしながら、先ほど、市によってはということで、何市かの実例が御報告されましたけれども、日野市といたしましても、今後、現在もそうですが、先ほどの生活つなぎ資金、これの中でも、最近かなり医療費、入院したので貸してほしいと、こういう形での御援助を申し上げている、また世帯更生資金でも医療というところがございますので、そういうような対応もしている、こういう状況もあります。今後この医療外支出についての対応をどのようにしていくか、ということについては、さらに今後具体的に検討してまいりたい、という具合に考えております。

○副議長（米沢照男君）　　夏井明男君。

○１６番（夏井明男君）　　ちょっと、今御答弁がなかったんですが、例えば、日野市において対応できる制度として、高額療養費貸付金条例というのがありますけれども、それで対応できないのかどうかということですね。

それから、今福祉部長おっしゃいました差額ベットを負担するということではなく、最終的な負担は、差額ベットを利用される方ですから、いわゆるお金を貸すということですね。です

から、ちょっとその辺福祉部長の御答弁ちょっと違うと思うんですけれどもね。ですから、府中でも、調布でも、実際にできたんだろうと思うんですね。ですから、差額ベットでどれだけえらい出費を出しているかという、これは差額ベットを中心にして今述べてますけれども例えば老人専門病院等でも、非常に私には理解ができない請求みたいなもの出ているわけですよ、今、典型的な差額ベットというの出してますが、そこで、今市の方として現在の制度の中で対応できるものあるのかどうかという点と、それから最終的には負担をするわけじゃありませんから、その辺貸し付け的なものとして、さまざまな条件をつけるわけですが、その中で、今一歩できるんじゃないかと思うんですが、どうでしようか。

○副議長（米沢照男君）　福祉部長。

○福祉部長（高野　隆君）　福祉部長でございます。老健法を担当する課として、高額医療に対しては、今後、高額医療に対する資金をつくる、これの検討をしていきたいと、こういうふうに思ってます。

国保については、その資金を持っておりますので、老健についてもやはりその辺のところは今後検討していくべきだろう。高額医療が５万9,０００円でございますか、現在それ以上は負担ということはございませんけれども、母子医療等の関連もございますし、総体的にその辺のところも考えていかなくちゃいけませんので、その辺のところにつきましては、やはり生活つなぎ資金、このようなものの活用が、今後やはり重要じゃないか、これについては、先ほどもお答えしましたように、現実に活用されておりますが、今後は、これについては改善をしていく、検討をしていくと、こういうことでもう少しそういう点で幅広く使っていただけるような検討も必要じゃないかと、こういうように考えております。

○副議長（米沢照男君）　夏井明男君。

○１６番（夏井明男君）　それでは、これは市長の御答弁結構ですけれども、要望しておきたいと思います。

まず一つは、この差額ベットを中心にした保険外医療費を実際どういうふうに負担をしてきているのか、ぜひ実態を調べていただきたい、ということであります。それによって具体的に市民の方が、どれほど出費をしているか、ということがわかるわけであります。ある資料によりますと、そういうふうな大きな出費をする場合に、自分の貯金を下ろすという方、さらには家族の方に面倒をかける、という方が大半であります。そういう事情を見ますと、また希望を

聞きますと、やはり経済的な負担が非常に大きかった、ということであります。せっかく、医療、さまざまな制度で、医療費等についての費用が安くなったとしても、実際に病院に入ってかかる費用が１日１万、２万というふうな金額が、私は非常に非常識な金額だと思いますけれども、それを請求されてくる、ということですから、国の制度がちっとも進まないからといって、放置するわけいかないと思います。その辺ぜひ実情を調べていただきたい、いうふうに思うわけであります。

第２点としましては、東京都市長会で、毎年都に対する予算要望いたしております。先ほど申し上げました厚生省局長通知の内容では各県に差額ベット等早く廃止するように努力してほしい、また、それに従わない場合には適切な処置をとってほしい、というふうなものになっておりますけれども、毎年出されます都の予算に対する要望事項の中に、ぜひこれを盛り込むような形をとっていただきたい、また、私ども公明党も、この問題は解消に向けて取り組んでいるわけですけれども、今後ともこの問題は大切な問題ですので、さまざまな方の御意見を伺いながら取り組んでいきたいことをお約束して、この質問終わりたいと思います。

○副議長（米沢照男君）　これをもって２０の２、差額ベットの実態と解消対策に関する質問を終わります。

２０の３、豪雨対策についての通告質問者、夏井明男君の質問を許します。

○１６番（夏井明男君）　この問題のきっかけは、去る７月の１４日、７月の２１日に大雨がございまして、私もその後何カ所か被害が出た状況の所を見させていただいたわけであります。また、担当の方にお聞きしますと、どちらの、７月の１４日でしたのか、７月21日でしたのかわかりませんが、１時間に５０ミリという降雨量の予測をしながら対応を進めているけれども、３０分に何ミリという計算はあまりしてない。今回の雨については、３０分で３７ミリ前後の雨が降ったために被害が出た、という話でありました。そこで第１点といたしましては、１時間５０ミリの降雨量を予測されて対応されているわけですけれども、今後ともこの姿勢の中で取り組む中で、前回のような雨があったときの対応としては、どうなのかということ、それが第１点であります。

あと具体的に、その被害状況の中にあった問題を次に取り上げさせていただきますと、これは谷議員も質問された問題かと思いますけれども、日野一小の前の、いわゆる日野用水が流れている所ですが、地番としましては、日野の2,７８７番付近ですが、７月のこの大雨が降った

ときに、用水がほぼ冠水に近い状態になりまして、その圧力で家庭から用水への排水路が逆流をして、個々の床下の所まで来た、という実態がありますが、この問題は将来的に解消する問題なのかどうか、いつごろめどにして計画をおたてになっているのかどうか、第１点であります。

それから、第２点としましては、多摩平の団地の問題でありますが、これは社会党の名古屋議員が、前から尽力をされている点でありますが、私の所と名古屋議員の所の２２９号棟の２３３号棟の前のいわゆる中央公園前の信号口であります。これは過日の大雨で大人のひざ上から大腿部近くまで水がつかりまして、車がエンストを起こした所であります。この地域は毎度ということなんですが、将来的にはどうなのか、解消策があれば、お尋ねをしたいと思います。

それから第３番目としましては、いわゆる吹上地区でございますけれども、東豊田四丁目14番先前の葵美容室と「まことや」という商店のある、その付近ですが、ここは周辺から見まして非常に低地でありまして、雨が降るとそこへ大体付近の雨水がたまるという場所でありますが、ここもかなり、床上までは来ませんでしたけれども、それに近い状態でありました。将来的にそこはどういうふうな形になるのかと、いうことであります。お尋ねいたします。

○副議長（米沢照男君）　夏井明男君の質問についての答弁を求めます。都市整備部長。

○都市整備部長（結城邦夫君）　都市整備部長でございます。

それでは、ただいまの御質問について私からお答え申し上げます。

まず１点目の１時間５０ミリの降雨に対応する雨水管の計画でございますが、現在の下水道法からいきまして、１時間５０ミリの降雨に耐える管の埋設ということで基準がございます。今までもこの基準にしたがいまして計画を進めてきておりましたし、今後もこの５０ミリを対象に計画を立て実施を行っていくことになろうかと思います。

それと、前回の７月１４日の集中豪雨のとき、このときは、１０分間で２４.５ミリの降雨があったわけでございます。近年まれにみる降雨の状況であったわけでございますが、これを１時間の値に換算して見直してみますと、１時間で１４７ミリというような異常な降雨であったわけでございます。それがしかも非常に短時間、１０分間の間で２４ミリという降雨であったために、既存の集水升で集水ができなかった、ということが大きな原因であったわけでございます。１時間５０ミリの降雨強度にしたがいまして、建設をいたしました黒川都市下水路、これはまだ管に余裕があったと、いうことが後ほどの調査で明らかになっております。したがいまして、いかに早く都市下水路あるいは雨水管に雨水を流し込むかということが非常に大事なことであるわけでございます。集水ますに降雨初期にごみ等が詰まらないように、常日ごろから道路等の清掃が必要であろう、というふうに考えているわけでございます。

それから、２点目の日野用水の一小付近の溢水でございますが、ここは神明上の区画整理事業によりまして、区画整理区域内の雨水につきましては、雨水管を各道路に布設をしてございます。しかし、この雨水管の流末でございますが、神明都市下水路を現在計画をして進めておるところでございますが、この都市下水路に流しこむことになっております。しかしながら前回の御説明申し上げましたように神明上の都市下水路は２・２・１０号線の関係で、まだ完全に築造が行われておらない段階でございます。２・２・１０の道路と合わせまして私どもでは整備を行っていくと、いうふうに考えております。

それから、多摩平団地の中の中央公園付近の溢水でございます。これにつきましても、布設管が1,０００ミリあるいはそれより細い管も入っておるわけでございますが、ここの既設管というものを抜本的に見直さなきゃならないということも、将来的には私どもとしては計画の中で考えていかなきゃならない、というふうに考えております。しかし、これを全部布設替えをすると、いうことはひどく膨大な費用にもなってまいりますので、今後吹上の方に流して行く管をいかにこちらの方に接合していくかと、いうことで対応していきたいと、いうふうに考えております。

それから、４点目の吹上地域の東豊田の実情でございます。これは２・２・５号線の道路の工事と合わせまして、雨水管を布設する計画でおります。したがいまして、２・２・５の道路工事と合わせまして実施をいたしますので、その節に吹上の地域の雨水管も整備を行っていきたい、かように考えております。

以上でございます。

○副議長（米沢照男君）　夏井明男君。

○１６番（夏井明男君）　一番最後の東豊田四丁目１４番先の問題ですけれども、一つ要望しておきたいと思いますが、この区画整理事業で、いわゆるあすこはがけっ縁でありますが、がけっ縁を支えて、まあ、その上に市道が走っているわけですけれども、ほとんどの部分が全部擁壁がきちっとでき上がっていますが、ある１カ所だけは擁壁がありませんで、その後

また続いてあるというふうな非常に、まあ、さまざまないきさつがあったんでしょうけども、見るからに奇異な感じのする場所があるわけですけれども、将来的にはぜひ、長期的に見ると非常に危ない、そこだけ擁壁がないということは、崩れる可能性があるわけですから、将来的には問題が出てくる場所であります。ぜひ検討して、対応策を立てていただければありがたいと思います。

以上で終わります。

○副議長（米沢照男君）　これをもって２０の３、豪雨対策に関する質問を終わります。

２０の４生活環境（多摩平団地周辺）整備についての通告質問者、夏井明男君の質問を許します。

○１６番（夏井明男君）　この問題を取り上げます一つのきっかけは、多摩平の三丁目４団地の北側ですが、南王運送の前の道路ですけれども、２２９号棟と２３０号棟の前で小学校２年生の男の子が、いわゆる、あの団地は高くなってますので、そこから坂を下って道路に出たところをひかれたわけであります。この問題は、多摩平団地は道路に出るときに多少勾配になってまして、坂が多いわけですけれども、特に小さなお子さんを持っている御家庭では、私の家もそうですけれども、非常に危ない状況が全体的にあるわけであります。小学校では婦人警官の方にお願いをして、自転車の乗り方とか、交通マナー等を教えていることでありますけれども、一つの自転車の事故防止対策として、自転車用の一時止まれの交通標識を、道路に書く標識ですが、あるわけですけれども、団地から坂へ出て来る所あたりにもつくっておくのも一つの方法ではないかと思うわけであります。直接的には市にかかる部分もありますし、公団にかかる部分もあるわけですが、一つこの辺の検討していただけないかと、いうことが一つであります。

それと前後いたしますが、市内の小学校の交通事故の実態はどういうふうな状況であるのか、最近の状況がわかればお知らせ願いたいと思うわけであります。

さらに、これに付随いたしますが、都道２３５号線、いわゆる豊田の北口の駅から真っすぐ上がっている道路ですが、多摩平支所付近から、いわゆる日野の郵便局の前まで道路が、あすこ石だたみの道路ですので、歩道が非常に傷んでおります。場所によっては３センチ以上の陥没がずっと続いているわけですけれども、御承知のとおり車道にあった自転車が歩道に来て走るという状況が、現在あるわけですけれども、見ていますと、その溝に入って倒れる自転車

もありますし、夜等になりますと、その陥没した所の境目に足を乗っけてくじくということもあるわけですが、直接的には東京都の問題ですけれども、東京都への働きを強められて、ぜひこの実態を把握されて対応していただければありがたいと思いますが、その点いかがなものであるかであります。

以上お尋ねいたします。

○副議長（米沢照男君）　夏井明男君の質問についての答弁を求めます。夏井明男君の質問時間は３６分まででありますので、時計をにらみながら要領よく御答弁願います。建設部長。

○建設部長（中村亮助君）　建設部長。それではただいま御質問のございました３点につきましてお答えいたします。

まず第１点目の問題でございますけれども、これは公団の敷地内から市道へ出る、いわゆるアプローチの問題だろうと思います。御存じのように市道と、それから公団用地そのものが段差がございまして、建物が建っている所の方が高いわけでございます。したがって建物のアプローチから市道へ出る場合には、多少の坂道といいますか、勾配がございます。そういう点で急に出てまいりますと、特に自転車等で出てまいりますと、急に自転車がブレーキをかけても止まらないと、いうふうなことで前を通行中の車に接触事故をする、というふうな大変問題があるだろうと思います。そういう点で、当然これは都市整備住宅公団の敷地内の問題でございますので、そういう点につきましては公団の方でしかるべき対策を立ててほしいとは思います。例えば、具体的に言いますと、アプローチの道路の所に、人が当然通れるようなスペースですけれども、何かひとつそういう、ポールみたいなものを立てて、物理的にそれを阻止する、というふうなことができるんじゃないかと思います。そういう点で今後公団側の当局に対しましての対策をお願いしてみたいと思います。

それから、２点目の交通事故の実態でございますけれども、これは本年の８月２０日現在でございます。本年の１月から８月２０日までの事故件数でございますけれども、日野市管内は３市でございますけれども、発生件数が５１件ございます。そのうち死亡事故が２件、重軽傷が１１件、軽傷者の事故が７８件でございます。こういう事故の実態の中で特に子供さんの間係につきましては、本市の管内では３６名ございます。多摩市、稲城市を合わせますと、ここの期間中７７名というのが事故件数の状況でございます。

それから、３点目の御質問でございますけれども、これは御質問の中にもございましたよう

に、いわゆる都道でございまして、都道の２３５号線、甲州街道から直接豊田の北口に向います所の豊田停車場線の歩道のへいばん舗装の問題だろうと思います。これにつきましては道路管理者でございます東京都の南多摩西部建設事務所の方に補修方を依頼をしたいと思います。当然これは歩行者の安全確保ということで補修をしていかないと、歩行者の危険もあるわけでございます。早期に応急的な施工ができるように、ぜひ、ひとつ手がけていただくように私の方からもお願いをしてみたいと思います。

以上でございます。

○副議長（米沢照男君）　夏井明男君。

○１６番（夏井明男君）　最後に教育長の方に御要望しておきたいんですが、小学校の自転車の扱い、乗り方ですとか、また、交通のマナーの教育等、婦人警官の方にお願いしてやっているそうでありますが、これひとつの思いつきですが、いわゆる大人の方で自動車に乗られる方々は免許というものがあります。具体的に一つの習慣がつきませんと免許証もらえないわけですけれども、それ以外のものについては、なかなかないということであります。自転車を乗る場合にも、非常にそういう教育をしていただいて、小学校の生徒たちに非常に、最高にいいマナーの子には、免許証じゃありませんけれども、それに似たようなもので評価をしてあげる、ということで、何か励みになるようなものをつくりまして、交通事故を自分から守るようなものを徹底的に体にしみ込ませるようなことも大事なんではないか。市とか区によりましては、交通ルールを守るための交通公園ですとか、いろいろあるわけですけれども、最終的には道路を出る瞬間に左右を見なさいと言っても、それが習慣化するかどうかということで、かなりそういう点ができますと、防止もできるんじゃないかということで、その辺交通事故に遭わないための教育の内容の中の充実ということで、いろいろ知恵をしぼられていると思いますけれども、ぜひ検討していただければ、交通事故も少くなるのではないか、ということで御要望しておきます。

以上で終わります。

○副議長（米沢照男君）　これをもって２０の４、生活環境（多摩平団地周辺）整備に関する質問を終わります。

お諮りいたします。議事の都合により暫時休憩いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（米沢照男君）　御異議ないものと認めます。よって暫時休憩いたします。

午後２時３１分休憩

午後３時５３分再開

○副議長（米沢照男君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問２１の１、(続)地域の小さな問題も積極的に取りあげる行政を推進せよについての通告質問者市川資信君の質問を許します。

〔１９番議員登壇〕

○１９番（市川資信君）　最後の一般質問、アンカーを務めさしていただきます。しばらくお疲れのことと存じますが御協力をお願いいたします。

去る６月の定例議会におきまして、２点目に、(続)地域の小さな問題も積極的に取りあげる行政を推進せよ、ということで質問させていただきましたが、時間が足りずにせっかく質問していながら回答いただけなかった面、あるいは今少しこの点はどうだっただろうかということについて、十分な納得ができませんでしたので、改めて本議会の通告質問にこの件を質問させていただきます。

まず、前回１問目に質問いたしました、高幡市営住宅付近一帯のいわゆる新井第二用水組合へのたれ流しの件につきまして、助役から私の質問に対して御答弁をいただきました。その中で、助役の答弁によりますと、調布の先の野川のたれ流しされている所へ昨年度建設省が礫間浄化槽というものを設置いたしまして、大変な効果を上げておると、いうことでございました。現在、実験的なものであるが、長い時間かけての御希望でありますけれども、解決に一歩進むんじゃないかと思う、このように御答弁をいただいたわけでございます。長年の懸案が解決できる見通しができたことは、担当者の御苦労とともに、その労をねぎらい、またお礼を申し上げる次第でございます。この付近は前回にも申しあげましたように市営住宅の、いわゆる既設の市営住宅プラス高層の市営住宅あるいは近年の住宅の密集化、また潤徳小学校、そして南平都立高校の仮設校舎がある、また、御存じのような、いろいろと議会でも問題になっておる福祉センター等がありまして、この付近の環境整備については、とりわけいろいろの面で待たれているわけでございます。この件につきまして御答弁の中で、それではこれはいつごろ着工し、いつごろ完工するのか、あるいはこの工事を始めるについて、新井第二用水組合のお話は始まっておるのかどうか、その成果等踏まえ、さらにこの礫間浄化槽というものができたときには、現在

のＢＯＤが大体幾つで、その最後に出るときのＢＯＤは一体、値はどのくらいの数値になっておるのか、わかりましたらお答えいただきたいと存じます。

２点目でございます。明星住宅の歩道拡幅計画の件でございます。この件につきましても、前回質問いたしましたが、納得できる御回答はいただけなかったわけでございます。前回は私が申し上げましたのは、例えば１０軒ある地主さんのうち９軒までが了解しました、どうぞ拡幅してください。ただ１軒が了解はするけれども、土地は提供するかわりに、こういった所をこういうふうにしてもらいたい、という所が１軒残った、これさえ解決できれば、この拡幅はすぐにも着工できます。その経過までは知っておりましたがいまだにいわゆるとんざして工事が進んでいない経過の中で、なぜこの工事ができないのか、そして話し合いはどの程度進んでおるのかどうか、ということでございます。残念ながらこの御答弁はいただけませんでした。この点についてお尋ねいたします。3点目でございます。同じく明星住宅地域の問題でございます。御存じのように、明星住宅地域もあの付近一帯は、当時の開発いわゆる宅造法あるいは要綱等も不完全な時代にできた所でございまして、防災あるいは公園、広場、住環境に今一つ不便を感じる地域でございます。そこで、このような中で当地の多摩動物公園に隣接しております。古くから住んでいられる塀内さんが、遺産相続時に物納として東京都へ納めた用地が唯一として残されておる。この用地を有効に利用できないものだろうかと、いうことを申し上げました。当時この件につきましての質問は3回目でございますが、当初は検討すると、2回目は進入路がないので、ちょっと今すぐ使用する状態ではない、けれどもこれは努力してみましょう、ということでした。さらに私はそのときにつけ加わえて、あすこに私設保育園でございますが、すぐその公園の下に保育園ができたんだから、公園、用地への進入路もそれもさほど難しい問題ではないんではないかと、このように申し上げてあったわけですが、それらについての回答はなんらいただいておりません。６月の質問のとき、この件も持ち出したんですが、この件には答弁は漏れておりました。したがいまして今回この当地域のこの土地利用、あの地域のいわゆる子供広場あるいは児童公園、地区広場というにはちょっと狭過ぎると思いますけれども、そういった面に活用できたらばよろしいんではなかろうかと、いうことで申し上げたわけでございます。この件3点目として質問いたしました。

４点目でございます。古い標識の更新と撤去をと、いうことで申し上げました。交通標識、公害関係の標識のうち、相当古いものがあり、既に標識価値の失われているものもある。道路

側に傾いたり、中には川に落ちているものもある、新たな障害物のないように、全標識をここで点検し、更新すべきものは早急に見直し、また立て直すようにすべきであると思う。この件の質問はかつて市民クラブの飯山議員が、一般質問でも指摘されております。昭和５９年の第３回の定例会であります。飯山議員の質問をちょっとここで要旨を読ませていただきますと、現在の標識で現状にそぐわないものが出ている。特に市役所から第七小学校前を通って中央線架橋を渡ると、矢頭橋から左に折れる道路、この道路は一方通行、進入禁止の標識が立っておる、大変不便だ、１・３・２路線が完成している現在、通過する車両も少なく、この際一方通行を解除した方がよい、公安委員会に働きかけていただきたい、と質問されております。それに対して部長の答弁を要約を申し上げますと、確かに１・３・２の道ができて、周辺道路環境が変わってまいりました。そういう中で過去に御指摘ございました関係の道路につきましては、地域住民の要望などもございまして、一方通行になっておったわけでございます。これを変化によりまして、それに対応していくということで、通過交通の改善を図ることにつきましては、当然なことでございまして、私どもの方も日野警察署の方と見解をただしております。道路交通規制の関係で当然日野警察署がこれを所管するわけでございますので、住民の方たちの一方通行解除という意見集約があれば警察はやりますと言っている、それから当然一方通行を解除することによって交通信号がかわってまいります。交通信号の関係につきましても信号を一方通行から総合交通用の信号にかえなければなりませんので、これらの予算措置なども当然、都と公安委員会が必要になってまいりますけれども、それらの点につきましては多少の時間がかかろうかと思います。このような答弁がされております。

以来、この件について一年の経過もありますが、現在なお飯山議員の指摘された状態となんら変わってないわけであります。一例として、市内、私はこの件について数カ所自分の脳裏にも確認をしている所あるわけでございますが、他の標識も含めて、特に一方通行あるいは学童注意等のものがいっぱいあるわけですが、特に公安委員会の設置のものが私どもにとって目につくような感じがいたします。こういったことは冒頭申し上げましたように破損して、もうその用をなさないもの、特に柱だけが立っていて標識がついてないもの、標識がついておっても曲がって川に落ちているもの等が目につくわけでございますが、これらは美観あるいはまた交通の利便、危険等も伴うゆえに、いま少し、しっかりした見直しをするべきではなかろうかと、こう思うわけでございます。この点について再度御質問を申し上げます。

5点目でございます。高幡不動地下道の側壁の危険についてでございます。高幡不動のすぐ下に潤徳小学校へ行く地下道があるわけでございますが、その地下道の外壁が剥離しておりまして、ぽとん、ぽとんとかなりの大きなコンクリート塊が天井側壁から落ちてまいります。こういったものが、いつかやるんだろうなあと思っておったんですが、現在なお放置されている状態でございますが、御存じのように、朝は潤徳小学校、そして南平高校、日野高校また反対側からは、新井都営住宅、またあの住宅地域から高幡駅へ通う通勤路、通学路として大変多くの人が利用しておるので、いつこのような事故が起きないとも限りませんので、早急な善処をされたいと思うんです。

それともう1つ、前にも、これは一般質問でなくて、私は担当課へ直接お伺いをいたしまして、いわゆる地下道の車道の方にございます側溝のグレーチングが腐食して用をなさない、もうほとんどないに等しい状態であったものですから、これは直していただきたいと申し上げて、グレーチングをかけていただきました。かけていただいたんですが、いわゆる一番底辺部で進入路、出口等のグレーチングがかかっていないために、前ほどではございませんですけども、相変らず車が側溝に車輪を片方脱しまして、出られなくなって中でエンジンをふかしておる、という場面を多々見るわけであります。あのグレーチングを全面的に施すべきではなかろうかなと、かように思うんですけれども、その辺についてもお尋ねいたします。

それから、小さな問題点の6点目でございます。これもまことに小さな問題で恐縮でございますけれども、実は私も浅川の提防は時々散策に行きますが、釣りいわゆる太公望が大変最近多うございます。そして、確かに鮎こそ見られませんけれども、ハヤ、鯉、鮒、その他のいわゆるお魚がいっぱいいるわけであります。そして、釣人も大勢釣っているわけでございますが、私は釣っている所へ行こうと思ったんですが、進入路がないんですね、その釣り場へ行く。いわゆる草が背丈ほどもある草をかき分けかき分け皆さんがその目的地へ行っているわけでございますが、釣り場は、御存じのように平山橋から多摩市の行政境まで長い距離で、ただし釣りのできる場所というのは、ごく限られた場所だと思うのであります。背丈ほどもある草をかき分けて釣り場へ向かうのは一般の人にとって勇気のいることでもありますし、また、釣りをする人たちも恐らくあまり気持がよい釣り場に赴くとは思われないんであります。釣りをする人は、いわゆるその目的達成のために、仕方なく草をかき分けて行かざるを得ない、ぜひ、ひとつ、こういった問題を解決していただきたい。私は前回にも浅川利用計画について一般質問を

したことがございますけれども、浅川利用計画というものが、昭和55年にできております。で、それを見ますと、各所につり橋とか、あるいは釣り場に、ちょうどバルコニーを浅川へつくったような釣り場ができておりますが、私はああいった人工的になにもすばらしいものをつくれと言うんではなくて、自然のままで結構だから、高齢者事業団等を利用して、幅2メートルぐらいの草刈りが釣り場に対してできれば十分ではなかろうかと、こう思うわけです。せっかくすばらしい構想も、実行に移さなければ意味がないわけでありまして、その釣り場も合わせ、高幡のいわゆる二番橋も、当初せっかくの調査費あるいは予算もついていながら、現在は幻の二番橋として消えうせておりますけれども、少くともせっかく浅川利用計画のような立派な構想があるわけでありますから、魚はいるんでありますから、ひとつ草を刈って、釣り場へ行ける程度の歩道の確保、これぐらいは市の行政サイドとしてやってもよろしいんではないか、それほど大きなお金もかかるわけではありませんし、いかがなもんかなと、こう思うわけであります。ぜひ、この点についても御質問させていただきます。

最後の7点目でございます。これも小さな問題でして恐縮でございますが、昨年度だったですか、日野市に大変御老人の方に親しまれているゲートボールの、いわゆる全国ゲートボール連盟の方に加入をなさった団体が多々あると聞いております。そして、そのために、いろいろとルールがあったものが、連盟加入によって統一ルールになった、ということであります。そのルールはもちろん結構でございますが、お年寄りたちのお話をお伺いいたしますと、大変厳しいルールで、現状、実情にそぐわないのではないか、不平、不満がある、ということをお聞きしております。一番の不平、不満はなんだとお尋ねしたところが、連盟参加費また来年度からは会費を納入しなければならない、ということもありますが、それはそれとして、新ルールによりますと、球を打った後、次の選手がその球に行って打つまでの間隔が10秒間だと、こう聞いております。10秒間というと、60代、70歳前半の方はいいんですけれども、もう80を過ぎたお年寄りにとっては、致命的だと。10秒間で球に行くのが苦しい。そこから考えて次の球を打つなどとゆとりは全くできない、せっかく連盟に加盟していながら打ったことでは私たちからゲートボールを取り上げられてしまうような気がすると、いうような悲報をお聞きしました。この点についてどのような状態なのか、ということをお考えいただきたいと思います。

以上でございます。

○副議長（米沢照男君）　　市川資信君の質問についての答弁を求めます。建設部長。

○建設部長（中村亮助君）　　建設部長。お答えを申し上げます。

まず第１点の御質問でございますけれども、高幡市営住宅の排水の問題、合わせましてあの地域の排水も含めたいわゆる浄化装置の問題でございますけれども、これにつきましては、当初予算をお認めいただいておりまして、現在、設計をする段階まできております。御存じのように、浄化装置そのものの方法につきましては幾つかあるようでございます。それぞれメーカーが開発をいたしましてあるようでございます。今回、私どもの方で採用いたしたいと思っておりますのは、いわゆる循環方式を使いまして、できるだけ浄化を図っていきたい、ということで、御質問の中にもございました建設省が、７年間の研究の末に実施しました野川のいわゆる礫間酸化方式とはちょっと違ってまいります。そういう装置を近々付けたいということで、計画を進めております。装置ができますと、当然排水は向島用水に放流をお願いする、という形になるわけでございますけれども、大体市営住宅を含めまして、対象の戸数が７０戸ぐらいになります。１戸当たり１日1.5トンということにいたしまして、日常で１０５トンを対象にした処理水が処理できるような能力を持った浄水装置をつくりたい、というように思っております。

それで、その浄化装置を付けた場合に、いわゆるＢＯＤの除去率でございますけれども、あすこの源水の水質調査をした人がございまして、それによりますとＢＯＤの濃度が１５０ミリグラムリットル、リッター当たり１５０ということになっております。で、これをいま申し上げたような浄化装置を通しまして、いわゆる循環接触曝気式で処理をいたしますと、ＢＯＤの除去率が、メーカーの話ですけれども、大体９０％ぐらいはできると、こういうふうなことでございます。したがって、これが１５０が１５近くになるわけでございます。さらに集水用のトレンチというのがございまして、それを通しましてＢＯＤの除去率をさらに除去しますと、結果的には最終処理水質が3.8ミリグラムリットルぐらいになると、いうふうに言われております。これは鮒や鯉などは住める水質というのは大体８ミリリットルでございますので、十分そういうものからいきましても、効果があるというふうに思っております。工場等につきましては、その２６メーターぐらいの幅３メーターぐらいの装置になるわけでございまして、そう場所も取らないということでございます。そして、そういう装置を試験的にあそこに付けるわけでございますけれども、できれば効果を見ながら、今後、必要な箇所に逐次計画をしていきたい、というふうには思っております。着手は６０年の１１月にはできる計画でございまして、竣工が年度内、３月までにはでき上がる、という予定にいたしております。

それから２点目の明星住宅地域の歩道の拡幅の問題でございますけれども、これにつきましては御質問の中にもございましたし、前回も御質問あったようでございますけれども、地主さんが４名おられまして、そのうち１名の地主さんが補償問題の金額的な問題で折り合いがつかなかったわけでございます。ガレージをつくるとかあるいは勉強部屋をつくるとかというふうな、そういうことの中で、補償できる範囲内のものと、そうでないものもあったわけでございます。そういう中で、金額的に折り合いがつかずに、やむを得ず見送らざるを得ない、という過去の経緯がございました。その後の交渉につきましては、機会を見つけまして、なお、さらに交渉を進めていきたい、というふうには思っておりますけれども、御存じのように、公道そのものが坂道でございまして、そして既に住宅がはりついている、というふうなこともございまして、かなり難しい点がございます。ガス会社の変圧器などもあったわけでございますけれども、それについても一応了解が得られて、計画も進める段階まで行ったわけでございますけれども、大変残念ですけれども、１名の地主さんの関係がございまして、今日まで延び延びになっております。できるだけ機会をとらえまして、再度交渉を再開した中で、できましたら、わずか１メートルぐらいの歩道の幅でございますから、それをなんとか解決をしたい、というふうに今後とも努力をいたしていきたい、というふうに思います。

それから３点目を除きまして、４点目の問題でございますけれども、道路標識の問題でございます。まず、道路標識の関係では、通学路の標識がございます。これは市内一般に言えることですけれども、約４５０本、教育委員会をとおしまして、各学校がそれぞれ自分の学区ごとに通学路を指定しておりまして、その通学路そのものは公道に限らず、学校側が指定しておりますので、一部が私有地もある、というふうな状況もあるわけで大変その辺も管理状態の問題につきましては、多少問題は抱えておるわけでございますけれども、約４５０本設置されております。破損等の問題等につきましては当然逐次整理をいたしまして、見にくいもの等については直していかなければならない、というふうに思っております。私どもの方、管理課が担当しておりまして、多少情報不足という点もあろうかと思いますけれども、どうかひとつ今後ともお気づきの点がございましたら御支援をいただければ大変ありがたいと思っております。

それから、なお交通標識の問題に絡みまして、実践女子大の東北部の進入禁止の問題でござ

います。それにつきましては、御質問の中に内容がるるお話しされておりますので、私から内容につきましてはお話しすることもございません。何分にも交通規制の問題につきましては、私どもの市の一存だけでいきませんで、日野警察署の方にも再三要請をいたしておりますけれども、信号機の一部付け替えの問題などでの予算措置の問題などもございますし、そういう中での、期間経過というものが今日まできてしまったわけでございます。この点につきましても、鋭意努力いたしまして直接の所管が日野警察署の方からの上申でございますので、本庁の方は交通管理課の運用係が担当いたしております。そういう面で、この問題につきましては、議会が終わりましたら、早速にでも直接本庁の方に出向きまして、実現の要請をしたい、というふうに思います。公安委員会の所管でございますのでこれは交通標識全体では、先の通学路の標識とは違いまして、交通標識そのものの関係については、都の公安委員会の方の所管になっておりますので、その辺の破損の問題の修理等につきましても、所管の警察署を通しまして強く要請をしていきたいというふうに思います。

それから５点目の高幡不動駅のすぐ東側にございます南から北側に、北側から南に抜ける地下道の側壁の剥離の問題ですけれども、これにつきましては、いわゆるモルタルで上塗りがしてありまして、その天端付近が部分的に剥離をしていた、という現象があったわけでございます。したがって、その剥離状態によっては、モルタルの一部が下に落ちるという危険があるわけでございまして、昨年その部分を取り除きました。上の方の部分ですけれども、土木課の方の直接の担当作業によりまして実施をいたしたわけでございます。で、最近も定期的に巡回をいたしまして、剥離の状態を解消している、という状態がございます。その後の際立っての進行は、剥離状態としては見受けられないわけでございます。しかし、場所が場所がらでございまして、下に歩道がございます。人は、通行があるわけでございますから、そういう点については、やはり点検を怠らずに、発生の防止に努めていかなければならない、というふうに思います。同時にまた、路面の排水の問題で、グレーチングがしてございますけれども、未設置部分の約３０メーターにつきましては、歩行の安全だとか、あるいは車両の脱却と言いますか、ふたがしてないわけですから、あれ車がかつかつで通るわけです。幅員もございませんので、そういう点で脱輪の防止というふうな点からも、早期にこれはふたをかけたいと思います。

それから最後に浅川の釣り場の通路の問題ですけれども、これにつきましては、当然御存じのように、浅川そのものは建設省の所管、管理になるわけでございます。そして釣り場そのも

のは、自然的な地形だとか、あるいはその場の環境などによって、釣り場が多少場所としては移動するかもしれませんけれども、現在の状況から見ますと、何カ所か釣りのできるような場所がございます。そこまでおりるのに、堤防からおりて行くのに、夏場は特に草が生えておりますので、そういう点の草刈りにつきましては、何回か年に、２回ぐらいでしょうか、最近建設省の方で草刈りをしておるようでございますけれども、なおこれについては、市の方でも建設省と協議しながら、草刈りをいたした経過が過去にもあったようでございますから、そういう経過を踏まえながら、河川敷きの釣り場に行くまでの安全を確保していくような草刈りを配慮していきたい、というように思います。

以上でございます。

○副議長（米沢照男君）　生活環境部長。

○生活環境部長（坂本金雄君）　生活環境部長。３点目の明星住宅地域内にある都有地の地域広場としての活用ができないか、という御質問にお答えをいたします。

先ほどの御質問伺っておりますと、地域広場という狭い意味ではなくて、児童公園、あるいは子供広場、そういうものも含めた広い意味で、という御質問でございますが、詳細な質問要旨の中に、地域広場という言葉が使われておりますので、地域広場を担当いたします生活環境部長からお答えをさせていただきます。

詳細な質問要旨をいただきまして、すぐ現地を含めた調査を行いました。現地は程久保422番地にございまして、三筆ほどに分かれております。その土地の総計が3,０００平米でございまして、一部雑木林の部分を含んでございます。で、御資問の中にございましたように、５３年までは個人の所有地でございましたけれども、それが都に移り、現在も都有地として、東京都が所有しております。この地域は、東側に第二武蔵野台団地がございまして、西側が雑木林に囲まれました、いわゆる谷戸でございます。沢状の広がりを持つ土地でございまして、緩やかな傾斜地になっております。現地へまいりまして、目測でございますけれども、およそ3,000平米のうち2,０００平米ぐらいの面積の広さは、草がすっかり刈り取られまして、自由な使用に任されている、そのような形でございます。進入路は、第二武蔵野台団地のメイン通り、京王線のガードをくぐりまして、すぐ左折をいたしまして、私立の若葉保育園のところからは、道幅が１メートルぐらいの狭い道になっております。極めて地形的には閉鎖的な立地条件がございまして、近隣からあまり目が届かない、そういうような状態の所です。しかも傾斜地でご

ざいます。そしてこれを仮に都から借り受けまして、平らに整地をいたしますと、擁壁の部分もかなり広くなりまして、相当自然をいじくるような形になります。大雨の折りの災害、こういうことも心配になるわけでございます。そういった防犯上の問題、それから災害対策上の問題、またはこの広場に到達するまでの交通の問題、主として道幅でございますか、そういったことを考え合わせますと、地区広場として位置づけるよりも、自由に使える形、今のままの形が最も適当ではないかと、このような結論に達したわけでございますけれども、せっかくの御提言でもございますので、なお続けて研究をさせていただきたいと思います。

第４点目、市街に設置されている公害標識の古くなったものを整理されたい、現在公害防災課で管理しております標識は、避難場所、それから避難場所に至るコースの案内標識、それから水利標識のうち防火貯水槽と消火栓用と、この四つがございます。御質問の標識は恐らく消火栓用のものと思われますけれども、市内の消火栓と私設と合わせて1,２３４カ所ございます。そのうち公設分は1,０９９カ所でございまして、その1,０９９カ所の公設の消火栓のうち、今までに約６００カ所の立て札を取り除きまして、道路に黄色い枠組みをした焼き付け方式に変えてございます。残りの分につきましては、来年度以降、無理のない年次計画を立てまして、毎年毎年計画的に立て札を焼き付方式に変更してまいりたい、そのように考えております。

以上です。

○副議長（米沢照男君）　福祉部長。

○福祉部長（高野　隆君）　福祉部長でございます。

第７点目のゲートボールのルール改正に伴う問題についてお答えいたします。先ほど御質問にありましたように、昨年、全国ゲートボール連盟ができまして、東京都もこれに参加する、また東京都の大会に出場するために、日野市でも自主的に老人クラブ連合会の中にゲートボールの連盟ができました。これによりまして全国のゲートボール連盟規約によって、今後いろいろなゲートボールが、今まで自主的に行われていましたゲートボール大会が一定の規約に沿って実施される、こういうようになるかと思います。これに伴いまして、老人クラブの中で自主的に各クラブの自主的な講習会が開かれております。既に５月１５日に１回目、それから６月、これは５月２２日に実施されております。また、この新規約の説明会が日野市ゲートボール連盟の手によって行われております。また、日野市の大会が１１月５、６と行われるわけでございますけれども、これに先立ちまして、１０月の２日と１１日にまた、さらにこのルールの改

正点の説明会、講習会等がゲートボールの愛好者の手によって行われております。現在そういう形では、周知徹底されている、という具合に了解しております。

○副議長（米沢照男君）　市川資信君。

○１９番（市川資信君）　御答弁ありがとうございました。

大体、今回は大変細かな御答弁をいただきましたので、ある程度納得できますが、数点について、ちょっと再質問させていただきます。

まず、１点目の礫間浄化槽の件につきまして、ＢＯＤですとか、着工だとか、そういったお答えいただいたわけですが、側溝の、いわゆる浄化槽ができましても、あれと隣接するいわゆる側溝工事も伴って行わなければならないんじゃなかろうかなと、上下ですね。その点については、どうなんだろうかと、これが１問目の一つの質問でございます。

それから、２点目の明星住宅地域の中央通りの拡幅工事についてなんですが、最近確かに部長のおっしゃられたように、ガレージをつくってくれと、そういう要求があった。不当要求と言うんでしょうか、そういったことに対して、予算措置もとれないし、無理だ、ということで、せっかく交渉が９分９厘決まったところが、流れてしまったと、いういきさつで断念して今日来ているんだと。ところが、最近、お話を聞きますと、その１人のためにできなかったがために、今まで協力をしてきた残りの９軒の方々が、いわゆる空き地を持っている人が家を建てたい、市でやらないんであれば、もうこれ以上我慢できない、もう家を建てますよ、ということを言っておる。ますますその可能性が薄くなってくるんではないかと、こう思うわけであります。この点については、せっかく乗りかけた船が、ここで頓挫、中断するということがないように、ひとつ、できないんならもうやむを得ない、それはもう仕方がないと思うんですが、可能性があるものがだめになるということでしたら、あまりにも残念な話でございますので、一層ひとつ努力をしていただきたい。これは回答は結構でございます。

それから、３点目でございます。３点目は明星地域内にある都有地の広場の活用はできないか、ということでございますが、確かに傾斜地でございます。傾斜地であることは事実でございますけれども、それほど、いわゆる斜面に沿った傾斜地なわけでありますね。特段がけだとか、そういう意味じゃないわけですよね、十分に子供たちだって遊びができる程度の広場なんで、当然、例えば明星住宅の方々の御老人のゲートボール場は、あの地域には一つもないんで、多摩動物公園の方へ行って、やっている状態です。確かにあそこ地区広場、あるいは児童公園、

子供広場等に活用すると仮定するならば、ある程度斜面を平地にならした上で、側壁をつくった上で、使用しなければならないと思うんですが、私はあの程度の工事だったならば、市民があすこで有効利用できるんだったらば、それほど、ものすごい大変な工事とは思われないんですけれども、この点について、再度、もうあきらめたのか、今後ともそういった面について努力していただけるのかどうかと、ちょっと簡単で結構ですからお答えいただきたいと思います。

それともう一つ、４点目でございますが、いわゆる飯山議員の質問に関連するんですが、交通信号標識がいわゆる単独方式から併設方式に変らなければならないので、信号も付け直さなければならない、それには公安委員会のいわゆる予算措置等もしなければならないので、重ねて今後、日野警察を通じて努力していく、というような答弁でしたが、部長、矢頭橋と言うんですか、矢頭橋の所には残念ながら信号がないんですよね、あすこは。進入禁止と一方通行の標識だけで、信号付いてないんですよ。だから、その先の信号のこと言っているんじゃないか。その先の信号ならばわかるんですけれども、進入禁止の所には信号はないんです。だから恐らくその先の意味じゃなかろうかと思うんですが、その点についても、同じ問題を２人の議員が取り上げるというようなこともございますので、ひとつさらに一層の御努力をお願いいたします。

５点目は、グレーチングをしてくださるということで、結構でございますが、今お答えを聞いておりますと、モルタルで塗ったところがはがれてきて、それが落ちて危険なので、時々担当の者が行ってそれをはがしている、ということでございます。あれは１カ所はがれると、次から次へ全部はがれるまでいっちゃうんですね。せっかくここでいいなあと思っていると、また雨が降ったりなにかすると浸透して、また次にくずれてくるという現象がございますので、はがすんだったら、いっぺんに全部はがしてしまうとか、なんかの方がむしろよろしいんじゃないかと思うんですが、そこらについて答弁は結構です。やっていただいているということでございますので、再度、一応要請だけしておきます。

それから浅川の釣り場についても、市も今後、釣り場に対して二、三メートルの草刈りぐらいはしますよ、ということに解釈しますのでよろしくお願いいたします。

最後の７点目のゲートボール、今、福祉部長の答弁ですと、それほど混乱来たしてないというような感じをちょっと受けたんですね。現場の声とちょっとかけ離れておりますので、私ちょっと、そこら辺を納得できないんですけども、部長のところに、まだそういう声が届いてないのか、例えば私が聞いているのは、こういうことを聞いております。今年度はほかのチームも皆んな連盟に加盟したんで、うちの方も乗りおくれるといけないと思って加盟をしました、けれども、とてもこれではついていけないので、来年からの会費は納入をやめて自然脱会をします、というふうに聞いております。ちょっとそこら辺くい違いますので、もし答弁があればいただきますし、また、今後調査して、実態はこうだったということがわかれば、それでも結構だと思うんですが、ひとつそういったことがあるということを念頭においておいていただきたいと、かように存じます。

以上です。今数点ちょっと再質問したんですが。

○副議長（米沢照男君）　再質問についての答弁を求めます。建設部長。

○建設部長（中村亮助君）　建設部長お答え申し上げます。

まず、第１点の浄化装置の問題でございますけれども、これも確かに今、特に市営住宅の関係につきましても、現況の排水路というものは、いわゆる素掘りで、自然侵透するような形になっております。したがって浄化装置を取り付けますと、一たん浄化装置の中に水をよび込まなければなりませんので、そういう点で、対象になる建物からの排水系統、これを直さなくちゃなりませんし、それから、当然流末処理の問題では、現在の素掘りの水路は直していかなければならないわけでございます。そういう一連の計画を立てまして、対処していく予定にしております。

それから、２点目の明星大学の前の歩道の問題ですけれども、これにつきましては、さっき申し上げましたように１人の地主さんの折り合いがつかないと、いうことであったわけでございます。確かに現況を見ますと、家が建てこんでおりますし、なかなかそういう問題含めた中での補償問題等も含めますと、困難な点があるわけでございます。けれども、先ほど申し上げましたように、拡幅できる可能性の範囲内で努力をしていきたい、というふうに思います。

一方通行の解除の問題につきましては、確かに信号機はあすこにございません。直進ができませんという道路標識だけあるわけです。その先行きますと、実践女子大学の正門の前を通りまして、交差をするわけですから、そういうあすこの信号の問題もございます。そういう一連の信号の手直しをしなければならないということでございます。信号機の設置につきましては、前回も申し上げましたけれども、かなりの１６カ所ほどの要望があるわけですけれども、なかなか予算措置の問題等で思うようにできません。御指摘をいただいた先般の日野９０号線につ

きましても、中央道のすぐ北側ですけれども、ついこの間、ようやく１年ちょっとを過ぎまして、これも直接お願いに行ったわけですけれども、きのう、ようやく使用開始できるような状態でございます。なお、一層の努力をしていきたい、というふうに思います。

○副議長（米沢照男君）　生活環境部長。

○生活環境部長（坂本金雄君）　生活環境部長。第３点目の再質問についてのお答えをいたします。

先ほどお答えいたしました防犯災害交通上難点があるという、一応の結論は、事務職員の目で見た結論でございまして、技術職員の目を使っておりません。そういうことと、それからさらに地主である東京都に対しまして、まだ東京都の意向も確めておりませんので、そういう問題を含めまして、もう少し調査、検討を続けたいと思っております。

○副議長（米沢照男君）　福祉部長。

○福祉部長（高野　隆君）　７点目の問題について、再度御質問ございましたけれども、現在、ルールの周知徹底に努めている、ということは聞いておりますけれども、その辺の御質問の内容については、さらによく調査してみたいと考えております。

○副議長（米沢照男君）　市川資信君。

○１９番（市川資信君）　ありがとうございました。大体言ってすぐできるというものはございませんけれども、私は、これをもって質問終わらせていただきますが、先ほど言った明星の中央道路とこの広場については、また、何かの機会にこの件については質問さしていただきますので、その間の努力を十分しておいていただきたい、十分な、またその際の答弁をいただけるような形をとっておいていただきたい、ということを要望いたしまして、私の一般質問終わらせていただきます。

大変ありがとうございました。

○副議長（米沢照男君）　これをもって２１の１(続)地域の小さな問題も積極的に取りあげる行政を推進せよに関する質問を終わります。

これより請願第６０－１１号（仮称）神明地区センター建設に関する請願、請願第60－12号静閑な住宅地の真中への駐車場建設反対に関する請願の件を一括議題といたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（米沢照男君）　御異議ないものと認め、一括議題といたします。

請願の要旨は、お手元に配付しました印刷物のとおりです。

請願第６０－１１号、請願第６０－１２号の常任委員会への付託は、会議規則第１３８条の規定により、議長において厚生委員会に付託いたします。

これより請願第６０－１３号、日野第二小学校校舎内の整備に関する請願の件を議題といたします。

請願の要旨は、お手元に配付しました印刷物のとおりです。

請願第６０－１３号の常任委員会への付託は、会議規則第１３８条の規定により、議長において文教委員会に付託いたします。

これより請願第６０－１４号、循環バス市案に加え全市的循環バス実現を願う請願の件を議題といたします。

請願の要旨は、お手元に配付しました印刷物のとおりです。

請願第６０－１４号の常任委員会への付託は、会議規則第１３８条の規定により、議長において総務委員会に付託いたします。

本日の日程はすべて終わりました。本日はこれにて散会いたします。

午後３時５３分散会

10月9日　水曜日　（第14日）

昭和60年
第3回定例会

日野市議会会議録　（第33号）

10月9日　水曜日（第14日）

出席議員　（27名）

1番	橋本文子君	2番	福島敏雄君
3番	小俣昭光君	5番	谷　長一君
6番	古谷太郎君	7番	馬場繁夫君
8番	馬場弘融君	9番	高橋徳次君
10番	旗野行雄君	11番	一ノ瀬　隆君
12番	板垣正男君	13番	鈴木美奈子君
14番	川嶋　博君	15番	飯山　茂君
16番	夏井明男君	17番	黒川重憲君
18番	古賀俊昭君	19番	市川資信君
20番	藤林理一郎君	21番	名古屋史郎君
22番	竹ノ上武俊君	23番	米沢照男君
24番	中山基昭君	25番	大柄　保君
26番	秦　正一君	27番	奥住芳雄君
28番	石坂勝雄君		

欠席議員　（1名）

30番　高橋通夫君

欠員

4番　29番

説明のため会議に出席した者の職氏名

市長	森田喜美男君		
助役	赤松行雄君	収入役	加藤一郎君
企画財政部長	前田雅夫君	総務部長	伊藤正吉君
市民部長	佐藤智春君	生活環境部長	坂本金雄君
清掃部長	藤浪竜徳君	都市整備部長	結城邦夫君
建設部長	中村亮助君	福祉部長	高野隆君
水道部長	土方武彦君	病院事務長	大貫松雄君
教育次長	小山哲夫君		

会議に出席した議会事務局職名

局長	岩沢代吉君	次長	馬場守君
書記	田中正美君	書記	土方留春君
書記	谷野省三君	書記	串田平和君
書記	佐々木茂晴君		

速記委託先　住所　東京都立川市曙町一丁目10の3

立川速記者養成所　所長　関根福次

速記者　小野口純子君

議事日程

昭和60年10月9日（水）

午前10時開議

（議案審査報告）　（総務委員会）

日程第1　議案第80号　仲田緑地築造工事請負契約の締結について

（総務、文教、厚生、建設）

日程第2　議案第72号　昭和60年度日野市一般会計補正予算について（第2号）

（厚生委員会）

日程第3　議案第66号　日野市立地区センター条例の一部を改正する条例の制定について

日程第4　議案第67号　日野市地区広場設置条例の一部を改正する条例の制定について

日程第5　議案第69号　日野市老人福祉手当条例の一部を改正する条例の制定について

日程第6　議案第70号　日野市心身障害者(児)福祉手当支給条例の一部を改正する条例の制定について

日程第7　議案第71号　日野市児童育成手当条例の一部を改正する条例の制定について

日程第8　議案第73号　昭和60年度日野市国民健康保険特別会計補正予算について（第1号）

日程第9　議案第75号　昭和60年度日野市立総合病院事業会計補正予算について（第2号）

日程第10　議案第76号　昭和60年度日野市受託水道事業特別会計補正予算について（第1号）

（建設委員会）

日程第11　議案第68号　日野市下水道条例の制定について

日程第12　議案第74号　昭和60年度日野市下水道事業特別会計補正予算について（第2号）

日程第13　議案第77号　市道路線の一部廃止について

日程第14　議案第78号　市道路線の廃止について

日程第15　議案第79号　市道路線の認定について

（一般会計決算特別委員会）

日程第16　議案第56号　昭和59年度日野市一般会計決算の認定について

（特別会計決算特別委員会）

日程第17　議案第57号　昭和59年度日野市国民健康保険特別会計決算の認定について

日程第１８　議案第５８号　昭和５９年度日野市都市計画事業特別会計決算の認定について

日程第１９　議案第５９号　昭和５９年度日野市下水道事業特別会計決算の認定について

日程第２０　議案第６０号　昭和５９年度日野市立総合病院事業会計決算の認定について

日程第２１　議案第６１号　昭和５９年度日野市受託水道事業特別会計決算の認定について

日程第２２　議案第６２号　昭和５９年度日野市農業共済事業特別会計決算の認定について

日程第２３　議案第６３号　昭和５９年度日野市老人保健特別会計決算の認定について

日程第２４　議案第６４号　昭和５９年度日野市仲田緑地用地特別会計決算の認定について

（請願審査報告）　（総務委員会）

日程第２５　請願第58－24号　循環バスに関する請願

日程第２６　請願第59－21号　市内循環バス路線の早期実現を求める請願

日程第２７　請願第60－４号　日野駅～豊田駅を結ぶ市内バスを速やかに滝合橋経由平山城址公園駅まで延長し、私たちの南北交通の足を確保するための請願

日程第２８　請願第60－14号　循環バス市案に加え全市的循環バス実現を願う請願

日程第２９　請願第59－29号　健康保険本人の１０割給付復帰、および国民健康保険への国庫補助率引き上げの意見書を求める請願

日程第３０　請願第60－８号　「国家秘密に係るスパイ行為等の防止に関する法律案」に対する日野市議会の反対決議を求める請願

日程第３１　請願第60－10号　「国家秘密に係るスパイ行為等の防止に関する法律案」に反対する日野市議会の意見書を求める請願

（文教委員会）

日程第３２　請願第60－13号　日野第二小学校校舎内の整備に関する請願

（取り下げ）　（総務委員会）

日程第３３　請願第58－29号　循環バス市案に反対する請願

（厚生委員会）

日程第３４　請願第60－５号　老人医療定率負担の導入に関する陳情

（継続審査）　（総務委員会）

日程第３５　請願第59－28号　世界連邦都市宣言に関する陳情

日程第３６　請願第60－７号　下町下河原地区に所在する(旧)日東精密時計株式会社跡地取得に関する請願

（文教委員会）

日程第３７　請願第57－７号　遊休農地をテニスコートとして利用することに関する請願

（厚生委員会）

日程第３８　請願第60－９号　無認可保育室の助成に関する陳情

日程第３９　請願第60－11号　（仮称）神明地区センター建設に関する請願

日程第４０　請願第60－12号　静閑な住宅地の真ん中への駐車場建設反対に関する請願

（建設委員会）

日程第４１　請願第57－37号　高幡不動駅北側地区の区画整理に対する反対請願

日程第４２　請願第57－51号　高幡地区区画整理に対する京王線高幡不動駅南側住民の反対請願

日程第４３　請願第57－55号　高幡不動駅南新井東地区の区画整理に対する反対請願

日程第４４　請願第57－59号　土地区画整理事業策定にあたって当該計画より第一豊田荘住宅地域を除外に関する請願

日程第４５　請願第57－62号　程久保６６２番地地域山林緑地保存に関する請願

日程第４６　請願第58－５号　高幡不動駅地区の区画整理に対する反対請願

日程第４７　請願第59－８号　生活道路設置に関する請願

日程第４８　請願第59－９号　下水道設置に関する請願

日程第４９　請願第59－16号　基盤整備に関する請願

（継続審査議決）

日程第５０　下水道対策特別委員会の継続審査議決に関する件

日程第５１　農林水産省跡地利用対策特別委員会の継続審査議決に関する件

日程第５２　　高幡踏切対策特別委員会の継続審査議決に関する件

日程第５３　　廃棄物対策特別委員会の継続審査議決に関する件

日程第５４　　市民会館建設対策特別委員会の継続審査議決に関する件

（請願上程）

日程第５５　請願第６０－１５号　日野本町四丁目のワンルーム・マンション建築に反対し市の適切な指導を求める請願

（議案上程）

日程第５６　議員提出議案第　８号　人事院勧告の完全実施に関する意見書

日程第５７　議員提出議案第　９号　老人医療費の不公正な負担増ならびに老人医療自己負担引き上げに反対する意見書

日程第５８　議員提出議案第１０号　東京都住宅供給公社の不当な定期的家賃値上げに反対する意見書

日程第５９　議員提出議案第１１号　健康保険本人の１０割給付復帰、および国民健康保険への国庫補助率引き上げを求める意見書

日程第６０　議員提出議案第１２号　「国家秘密に係るスパイ行為等の防止に関する法律案」制定に反対する決議

本日の会議に付した事件

日程第１から第６０まで

午前１０時３３分開議

○副議長（米沢照男君）　本日の会議を開きます。

ただいまの出席議員２３名であります。

これより議案第８０号、仲田緑地築造工事請負契約の締結の件を議題といたします。

総務委員長の審査報告を求めます。

〔総務委員長登壇〕

○総務委員長（竹ノ上武俊君）　総務委員会の審査報告を申し上げます。議案第８０号でございます。仲田緑地築造工事請負契約の締結についてであります。

この工事については、契約金額が１億4,６００万円でございます。指名競争入札が行われました結果、大成・日野大野建設共同企業体という形で、落札となりました。

この議案につきましては、共同企業体でなくても、地元の業者だけでやらせてみたらどうか、というような質疑がございました。しかし、これは全体の工事計画として大規模なものであるという点などで、共同企業体としたということでございます。

そのほか、慎重なる審議をいたしました結果、原案どおり可決と決しましたので、よろしくお願いをいたします。

○副議長（米沢照男君）　これより質疑に入ります。なければこれをもって質疑を終結いたします。

本件について御意見があれば承ります。なければこれをもって意見を終結いたします。

これより本件について採決いたします。本件に対する委員長報告は原案可決であります。本件は委員長報告のとおり決するに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（米沢照男君）　御異議ないものと認めます。よって議案第８０号、仲田緑地築造工事請負契約の締結の件は原案のとおり可決されました。

これより議案第７２号、昭和６０年度日野市一般会計補正予算（第２号）の件を議題といたします。

本件については４常任委員会に分割付託しておりますので、順次審査報告を願います。総務委員長の審査報告を求めます。

○総務委員長（竹ノ上武俊君）　総務委員会の審査報告を申し上げます。

昭和６０年度日野市一般会計補正予算第２号の説明書によるうちの、歳入及び議会費、総務費について、審査をいたしました。

歳入の補正額は、４億6,４２７万4,０００円でございます。これは、精神薄弱者福祉費などの措置人員の増でございますとか、あるいはまた、心身障害者福祉手当、これらの単価のアップ、老人クラブ運営費の単価のアップ、これらに伴う国庫支出金、都支出金等の補正による歳入が主たるものでございます。

歳出につきましては、議会費がございます。補正額は９６７万5,０００円でございます。この中で、議長印を今回つくり直すことになりました。他市町村、あるいは市長印との大きさを調整するという意味で、新たに２個つくり直すものが入っている次第でございます。

次に、総務費でございます。補正額2,２９２万9,０００円でございます。総務費の中にも、やはり市長印の２個をつくり直す補正予算が入っております。これは、古い時代の市長さんがつくった市長印が大き過ぎまして、２６市の市長会等で統一の文書を出すときに、日野市だけが目立ち過ぎるということで、他市に合わせて大きさを調整をし、かつまた横書きの文書などにも沿うものということで、２個ほど新調するものでございます。

質疑の中では、歳入部分につきまして、繰越金の扱いについて、慎重なる審議などをいたしました。今回の繰越金補正額４億3,７１４万1,０００円につきましては、前年度の繰越金の状況を見て、歳入補正したということでございます。

以上の審議を行いました結果、原案どおり可決と決しましたので、よろしく御審議をお願いいたします。

○副議長（米沢照男君）　これより質疑に入ります。なければこれをもって質疑を終結いたします。

これをもって総務委員会関係の審査報告を終わります。

次に、文教委員長の審査報告を求めます。

〔文教委員長登壇〕

○文教委員長（古賀俊昭君）　文教委員会に付託されました議案第７２号、昭和６０年度日野市一般会計補正予算（第２号）の歳出のうち、教育費について文教委員会の審査報告を申し上げます。

今回の補正は、教育費を6,５６５万6,０００円増額補正いたしまして、教育費の総額を５０

億4,０４２万9,０００円とするものであります。

主な内容について申し上げます。まず、特別職の報酬改定に伴いまして、差額分が計上されております。

そのほか、第五小学校の防球フェンスの設置、第一中学校給水管の洗浄、これは赤水対策として、冬休み中に工事が行われるものであります。

次に、七生中学校の防球フェンスの設置、これは五小と同じく、いわゆる防音公害から、フェンスを高くして近隣からの苦情等にこたえるものであります。

そのほか、中央図書館の屋上の防水改修費が計上されております。これは、開館１２年目を迎えております中央図書館の雨漏りが激しいために、工事が行われるものでございます。

そのほか、市民プール費、工事請負費がございます。市民プールの用地を、整地をいたしまして外棚等を設けるものであります。これも４０年にプールができまして、２０年を経過し、それに伴っていろいろ来年度の運営管理に支障を来すために行われる工事でございます。

以上、主な内容について申し上げました。

質疑につきましては、プールにつきましては、市長の公約として、流れるプール、流水プール等の考え方も示されているが、この設置については、その場所についてはどうなっているか、また、財政上の問題についてはどうなのか、この点について質疑がございました。

場所については、駒形公園内に考えているとの方針が示され、財政上の問題点については、ここ数年のうちに改修をしていくということは難しいのではないか、このような答弁がございました。

また、一中の赤水対策については、飲料水等には使わないのか、という質問がございました。給食等には関係なく、手洗いだけに使うということで、衛生上も問題はないという答弁でございました。

また、図書館については、工事請負費とは直接関係ありませんが、図書館日本一という日野市の図書館の位置づけが、最近危ういようだが、その点で、図書館は他市に比べて、現在の水準を維持するようなどのような考え方を持っているか、このような質疑もございました。

図書館長の方からは、他市の努力をたたえる発言もございましたが、人口１０万から２０万の都市の中では、３指、つまり３本の指には入る水準を保っているということで、現在、図書館運営協議会等で、図書館の今後の１０年後、また、将来構想について検討を行っているとい

うことで、前向きの答弁もございました。

その他、質疑がございましたが、特段ここで御報告させていただくというようなことはございません。

以上、慎重に審査を行いまして、原案を可決すべきものと全会一致決定をした次第でございます。よろしく御審議のほどお願い申し上げます。

○副議長（米沢照男君）　これより質疑に入ります。なければこれをもって質疑を終結いたします。

これをもって文教委員会関係の審査報告を終わります。

次に、厚生委員長の審査報告を求めます。

〔厚生委員長登壇〕

○厚生委員長（馬場弘融君）　厚生委員会の審査報告を申し上げます。

議案第７２号、昭和６０年度日野市一般会計補正予算第２号歳出のうち、民生費、衛生費、労働費、消防費につきまして、去る１０月３日に開催されました厚生委員会における審査の経過並びに結果を御報告申し上げます。

今回の補正の主なものを申し上げますと、各款に共通して、非常勤特別職の報酬アップに伴う増額、民生費では、地域難病活動記念事業への１００万円の補助金、それから、後ほど御審議をいただきます各種手当条例の改正に伴う福祉手当、育成手当等の増額がございます。

衛生費では、有害ごみの収集運搬処分に伴う委託料、及び市立病院への出資金それぞれの増額などがございまして、合わせて民生費では、3,７１１万4,０００円、衛生費では1,３８１万8,０００円、労働費では５万3,０００円、消防費では３８万6,０００円の増額補正となっております。

質疑の主なものでは、民生費の中では、地域難病活動記念事業への補助金につきまして、いかなる団体がどのような内容で実施をし、総予算はどのくらいであるか、補助金というものは当初予算で組むべきではなかったのか、また、遊び場費の中の委託料、浅川河川敷測量については、場所がどの辺か、測量しても国が使用許可をする見通しはあるのか、いずれ市が管理する遊び場となるのか、地元利用が可能ということは、河川敷のいわゆる自由使用を拡大解釈したためだと思うが、それならば、なぜ東光寺グラウンドの方も同様に対処できなかったのか、などが問われました。

委員会では、政策的な問題があるということから、市長の出席を求め、答弁を伺いました。地域難病記念事業につきましては、難病検診事業が日野市と民間団体を中心に育ったものであり、他市の評価も高いこと、スタート以来１０周年を迎えるので、この際、市が音頭をとって、さらに前進させたいという意向を持っている。実施団体は、医師会、日社協、医療と福祉を進める会、この３団体によりつくられた実行委員会が当たり、それへの市の補助金となる。内容的には、地域ケアをめぐる全国学術交流集会として行い、１１月２３日から２５日にかけて、市民会館及び市役所を中心に開催をされる。メインとなる講師には、作家の遠藤周作氏を予定をしている。予算的には、参加者負担金も含めて３４０万円を見込んでいるが、市としてはおよそ３分の１ぐらいの補助という考え方から、１００万円を補助したいということ。

さらには、本来ならこうした補助金は当初予算で組むべきであるが、今回は過去の事業実績を踏まえ、さらに日社協会長からの強い要請もあって、１回きりの特例として補助することにした、等の答弁がありました。

また、浅川河川敷の測量については、落川地区の広場の少なさから、地元の要望も強く、これまでもいわゆる自由使用がなされていたところで、多摩川、浅川の合流点近くである。既に建設省の内諾もいただき、正式の申請を出すについて要求された測量図を作成するためであり、利用については問題がない。利用申請は市で行うが、その後は地元で管理をしてもらい、市の広場などとしては扱わない。

東光寺グラウンドについても、努力はしてきたけれども、八王子市との境の複雑さ、堤防工事のおくれ、谷地川改修のおくれ、旧地主との話し合いが進行中であること、等の理由からおくれてしまった。今後は、自主使用を先行させるなど、積極的に努力をしたいとの答弁がございました。。

次に、清掃費におきましては、水銀含有など有害ごみの回収日、回収場所はどうなっているか、また、最終処分場はどこか、６月補正でスタートをした清掃パトロール車の現状はどうなっているか、先日越こったプロパンガスボンベの爆発による破砕機の破損、修理にはどのくらいかかるのか、水銀乾電池の扱いについて、国は分別の必要なしとの判断をしたようだが、市の考え方はどうなのか、空き瓶やガラス回収の現状を知りたい、等が問われました。

答弁としては、水銀含有ごみの回収については月２回行っており、回収場所も従来の１３０カ所から１８１カ所にふやしている。最終処分場は、北海道北見市の奥、野村興産イトムカ鉱

業所にお願いをしており、トン当たり約１０万7,０００円で処分をしている。

清掃パトロール車については、日野環境保全にお願いをし、７月以来既に軽自動車にて稼働中である。清掃部の破砕機爆発は大きな事故でありまして、今、仮の処置をしてあるが、本格的復旧には約1,２００万ぐらいかかるかと思うので、今後、補正をお願いをすることになろう。

水銀乾電池等の扱いについては、厚生省は、特に有害とは言えぬという発表をしたけれども、市としては、従来どおり疑わしいものは分別するという考えに立ち、措置をしていくし、市民にもそのようにＰＲをしていくつもりである。その上、２７市町でお願いをしている日の出町の最終処分場には、水銀含有物は捨てない、こういう協定を結んでいる面からも、分別せざるを得ないということもある。

ガラスの廃棄物回収については、無料で山村ガラスにお願いをしている。ボランティアへの補助など、行政の関与を拡大すべく検討中であるが、消費者運動の観点から、資源再利用という面で推進をしていきたい、等の説明がございました。

意見といたしましては、１、地域難病活動記念事業への補助金については、実績のない実行委員会に、１００万円もの多額の補助金を突然決めるという考え方はおかしい、主催の中心団体である日社協と市との密接な関係から見ても、当然、当初予算に組まれるべきものであったと思う。本来の姿ではないので、今後、十分注意をされたい。

２、浅川河川敷の測量費に関連をして、東光寺グラウンドの利用についても、従来から地元では自主使用等による実績積み上げ方式を強く要望をしてきた。しかし、市側は河川敷利用の難しさを強調するばかりで、対応に柔軟性がなかった。今回の落川の例を見れば、東光寺の場合ももっと早くできたのではないか。今後は、東光寺地域も含め、河川敷利用について市側の積極的かつ柔軟な対応を求めたい。

３、清掃破砕機の爆発に関連をして、二度と爆発事故等が起きないように、危険なごみの事前チェックには十分な配慮をされたい。

このような意見が出されたところであります。

以上申し上げましたような審査を踏まえ、採決に移りましたが、民生費、衛生費、労働費、消防費とも補正内容には全員異議なく、原案のとおり可決をすべきものと決した次第であります。よろしく御審議のほどお願いを申し上げます。

○副議長（米沢照男君）　これより質疑に入ります。古賀俊昭君。

○１８番（古賀俊昭君）　今、委員長の方からかなり詳細に御説明がありました。地域難病活動記念事業補助金について、お尋ねをいたします。

委員長の報告の中にもありましたように、非常に突飛な形でこの補正が提案をされてきた、ということであります。１０周年ということで、一つの節目、周年事業ということになろうかと思いますが、この１００万円支出の３分の１という一つの根拠は、３分の１補助という補助率での考え方が示されましたが、もう少し、１００万円の支出に至った経過について、その根拠を説明をしていただければと思います。委員会でそういう話が出ていれば、御説明いただきたいと思います。

なお、今回、特別の措置として、１回限りということを条件に、市は認めたというお話でございましたが、例えば５周年とか、その前の、まあ５周年であろうと思います。なにかそういうときには、特に市の方で補助等は行われなかったのかどうか。そうして、議論があれば聞かせていただきたいと思います。

また、総事業費３４０万円ほどかけて、この事業を行われるという委員長のお話でございました。その中で、主な支出の内訳として、講演会を開く。そして講師のお名前が遠藤周作さんということでございましたが、かなり著名な作家の方だと思います。５万や１０万では来ていただけない方だと思うんですが、ちなみに、こうした補助金が突然に使われることでもあります。遠藤周作さんの講演料は一体いかほどなのか、参考までにお聞きをしておきたいと思います。

○副議長（米沢照男君）　厚生委員長。

○厚生委員長（馬場弘融君）　３点の御質問だと思います。２点目、３点目につきましては、委員会で十分審議をされておりませんので、担当部の方での御説明をお聞きいただきたいと思うんです。

第１点目の、根拠といいますか、どういう理由で１００万円の補助をするかということでございますが、先ほど、報告もちょっと申し上げましたけれども、これまで日野市が民間の方々を中心にして、難病医療についてはかなり努力をしてきた。その行動が全国的に評価をされているということもあって、１０周年を期に、この事業をさらに前進をさせていきたい。それには、市が全面的にバックアップする必要があるだろうと、こういう判断に基づいて、しかも日社協の方からも、ぜひお願いをしたいという積極的な要請もあった、この辺を踏まえて、今回

は特例として補助を出した、こういうふうな説明であったというふうに聞いております。

あと、２点目、３点目、及び１点目の補足につきましては、担当の部の方からお聞きをいただきたいと思います。

お願いします。

○副議長（米沢照男君）　福祉部長。

○福祉部長（高野　隆君）　それでは、１点目の若干の補足と、２点目、３点目について、お答えいたします。

３分の１といいますのは、難病事業は、基本的には行政も、あるいは市民、医師会というような形での、三者の共同として進められてまいりましたし、そういう意味での関係、また、今回の支出の内容といたしましては、市民会館の借上料、その他宣伝物等がございますので、これについての応分の対応、というようなことで考えております。

また、２点目の、５周年記念につきましては、特段の御要請もありませんでしたし、このような大きな行事も組まれておりませんでしたので、そのようなことは、補助はしておりません。

３点目の、講師の講演料でございますが、講師は、先ほど御報告がありましたように、日本ペンクラブの会長の遠藤周作氏でございます。

当初は、会長から、会長のつき合いというようなことでのお願いで、遠藤周作氏の講演というようなことが決まった由に聞いておりますけれども、その後に、日本ペンクラブの会長というような立場から、会の方から、応分の講演料をお願いしたいというような、お申し出もあったと聞いております。

現在の支出予算としては、６０万円の講師予算、講師謝礼が組まれております。

以上でございます。

○副議長（米沢照男君）　古賀俊昭君。

○１８番（古賀俊昭君）　ちょっと再質問をいたします。

この難病事業、日野市独自の地域医療の対応としては、大変、他市に誇るべきものだということは、よくわかります。行政、市民、医師会ということで、三者が一体になって進めておられる事業でありますから、総事業費の経費の３分の１程度を持つという考えには、納得するものでありますが、５周年の事業は特におやりにならなかったということで、今回は１０周年という一つの大きな節目に、事業を行うということでございますが、たしか日社協には、市の職

員の方が、大体四六時中お１人行っていらっしゃるわけですね。ことしが１０周年ということは、１０年前からわかっているわけでして、ことし、当初予算の計上の段階でも、当然こうした行事をやりたいということであれば、委員長の報告の中にもありましたように、当初予算にまず計上されて、提案されるというのが当然だろうと思います。

突然、補正予算に９月議会、この第３回定例会の中で提案をされるというのは、大変突飛な感じがするんですが、これはいつごろ、具体的に１０周年事業の要請があったのか。しかも、最初に申し上げましたように、市の職員の方が、市長の肝いりで派遣をされて、日社協にいらっしゃるわけです。当然、日社協との意思疎通は十分に図られていることだと思いますが、にもかかわらず、このような形で補正が提案をされるというのは、どういうことかな、というふうな感じが強くいたしますので、この補正が提案をされてきた時期について、要請が日社協側からあった時期について、お尋ねをしたいと思います。

また、市の職員の方、つまり派遣をされている方から、こうした事業の予定について、あらかじめ、当初、昭和６０年度の予算編成には全くそうした御連絡等はなかったのかどうか、この点もお尋ねをいたします。

また、今回の記念事業の講演者、日本ペンクラブの会長の遠藤周作さんだということで、講演料は６０万ということでありますが、どなたがお決めになって、講演をしていただくかは、これは主催団体のもちろん自由でございますし、遠藤周作さんがどのようなお話しになるのかわかりませんが、大変高い講演料だと思います。

私は、先般、この議会の最初にも、福祉祭りのことを取り上げて、ちょっと質問をいたしました。先般、中央公園で行われました福祉祭りには、私が見たことも聞いたこともない、恐らく一般の市民の方も、多分余り御存じないのではないかと思うんですが、芸能人と称する歌手の方を呼んできて、その方に売り上げの中から７０万円近くのギャラを払っておられる。福祉事業ということの一環として市も後援をして、市民が参加をして、こぞってやっている行事でありますから、当然、こうした事業に理解を示しておられる芸能人なり、またはそうしたグループの人を呼んで、お願いをするという方法がとれなかったものかということを、お聞きしました。

金額については、後から福祉部長の方から、私の質問について御回答がありましたので、わかったんですが、まあ７０万円ぐらいだったと思います。大変大きなお金が、売り上げの中か

ら、市民の善意によって支えられている事業でありますが、大変大きい金額が、そうした芸能人の人に支払われている。

普通、心ある、理解のあるゲストの方であれば、それをまた何らかの形で、福祉協議会なり、日野市に対してカンパをされる、つまり寄付をしてバックをしていただくということも、よく聞く話であります。しかし、今回の福祉祭りでは、そうしたことは全くなかったようであります。

今回、またその日社協が中心になって行っておられるこの記念事業で、また、ほぼ同額程度の謝礼、謝金だと思いますが、支出をされる。遠藤周作さんという方と、この地域ケア、つまり難病検診事業がどのようなかかわりを持つ講師の方か、遠藤周作さんという方が、こうした事業に何か特に深い理解を示しておられて、選任をされたのか、選ばれたのかどうか、そうした経過について、もし御承知であれば、お聞きをしたいと思います。

また、遠藤周作さんという講師の方が、６０万で講演をお引き受けになったそうでありますが、この事業に対して、特に理解を示されて、まあお受け取りにならないことはないと思うんですが、やはり補助金のうちのかなりの額が、講演、講師料に支払われるということにもなりますので、こうした講師の選び方について、補助をする側として、何かお考えがあればお聞かせをいただきたいと思います。

特に、この事業について、補助金の最終的な決断、結論というのは、突然出されてきたということでもありますし、１回きりの特別の措置だということでありますから、市長の政治的な決断だったろうと思うんです。市長に、特にお聞きをしておきたいと思います。

○副議長（米沢照男君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　委員長報告のさなかでございますが、私の回答をということでございますので、お答えをしておきたいと思います。

日野市難病検診事業、これは、私どもも発生のきっかけにつきましては、全く関係者の方々の、特に日野保健所を中心として、あるいは東京都立府中病院の宇尾野先生が、いつもおいでいただいている。それにまた加えて、厚生省の公衆衛生院、ここの医師、技官というんでしょうか、そういう方が、多分日野医師会の要請によってということだと思いますけれど、そういうような形で、この難病検診事業が組まれてまいりました。

もちろん行政側といたしましても、地域の難病患者のケアについてのことでございますから、

できるだけの人員を派遣をするとか、あるいは精神的な支援をする、広報でＰＲをする、そういうようなことは、取り計らってまいりました。それが積み重なりまして、ちょうどことしは１０周年、それから患者2,０００名の検診、また、２０回です。１年に２回、そういうことが重なったようであります。

多分、７月半ばごろではなかったかと思っておりますけれど、花輪── もとの医師会長である、現在の日野市社会福祉協議会の会長を名乗っておられる方ですが、役所に来られまして、そうして計画書を示され、こういう事業を、突然といえば突然だけれど、ぜひこの秋を期して行いたいので、市の支援をお願いをしたいということでございました。

確かに唐突でありますし、もっと事前の経過というものも、私どももあったのかなかったのか、余り詳しくは知りませんが、とにかくあすこの、事務体制のこともありましょうけれど、多分これは医師会発想の、ことしは１０年だから何とかやろう、というようなことが動機ではなかっただろうかと思うわけであります。したがって、当初予算を組む事前に十分練られた、そういう提言ではなかったということが、はっきりいたしております。

それで、私もそのことを、補助金というものはそう安易なものではありませんよ、とりわけ予算の組み方としては、急遽補正で組むということは、余り例がありません。しかしながら、伺ってみると、日野市の誇り高い、全国にも知られる事業の一つでもありますし、せっかく機運が向いているということであるならば、これは支援をするということは当然だというふうに思います、ということで、総事業費等を伺ってみますと、３００万円余である、それから、地元の医師会が１００万円を負担をされるということでありますので、それでは市も３分の１負担ということを限度にして、検討をさせていただきましょう、とこういうことを回答した記憶がございます。

それから、３日間のシンポジウムの中で、講演ということが計画をされております。その講演にはどなたがおいでになり、どういう謝礼がなされるということまでは、余り詳しくは知りませんでしたが、個人的な知り合いという、有名な方を知り合っておられるということだと思うんですが、その名前のあがっている方、それはそのときに予定をしているという形で聞いたように思っております。

それから、謝礼の６０万円というのは、私も少々、こういう事業においてのあれとしましては、財界でやるとか何とかいうんなら別ですけれど、本来チャリティーであるべき性格の事業

でありますから、ちょっと私も奇異に感じております。このことにつきましての執行には、一言申し上げておかなきゃならぬとこのように思っております。

以上でございます。

お答えを落としている分があるかもしれませんが、大体そういうことでございます。

○副議長（米沢照男君）　古賀俊昭君。

○１８番（古賀俊昭君）　大体、通してお答えをいただいたと思います。

７月半ばごろに日社協の花輪会長さんがお見えになって、市長に事業の計画をお話しになって、そこでお願いがあったということでございますが、最初に私、触れましたように、事務体制としては、市から１名の職員の方が、大体常時派遣されているわけですね。その方については、特に難病検診事業等でも、非常に中心的な、事務局側として役目を果たしておられる方だと、私は思います。

事務体制に問題があるとすれば、市から派遣をしておられる職員の方があるにもかかわらず、市長が問題あるというふうにお思いならば、何らこういう、市長自身も多少疑問に感ずる点があるとおっしゃるわけですから、現在の日社協の事務局の体制を含めて、市の方から、何か具体的に改善を提言されるような、お考えになるような余地が、私はあるのではないかと思いますが、そうしたお気持ちがあれば、確認をしておきたいと思います。

なお、本来、人の善意といいますか、多くの人たちの奉仕の心や善意によって支えられて、こうした事業を進められていると思いますが、特にある方が、こうした高額な講演料を取って、講演をどうしてもやらなければならないという必然性は、そう強く感じられないといいますか、余り私には理解できないんです。

最初に申し上げましたように、日社協が中心になってやります事業は、ことし既に、今申し上げた福祉祭りでの、なにか歌手か芸能人の方に、売り上げ収益金の中から何十万円も、たしか七、八十万円だったと思いますが、お金が支払われているということで、これもやはり今の市長がおっしゃった趣旨からすれば、多少首をかしげたくなる、ということではなかろうかと思うんです。こうしたことが、続いてまた行われるわけですが、市の方から、この点についても、一言おっしゃるというお考えがございましたが、１年のうち二度までこうして市が後援をし、また、かかわっている事業について、市長のお考えとは異なるような、一部分のことかもわかりませんが、運営がなされているということで、将来に向けて、こうした活動について市

の方で御指導なさるお考えがあるかどうか、その点について、再びお聞きをいたします。

○副議長（米沢照男君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　日社協、今回の事業も、日野医師会、それから医療と福祉を進める会、難病検診、これまでも一応のボランティア的精神に立っての基盤がありますから、それが今回の事業を組んだものだ、このように考えております。

日社協が、そのまたある程度の事務的な推進の役目をやることかもしれませんが、少なくも今回の例は、日社協の役員会とか何とかいうことから出たことではなくて、やはり、実態を私も一番はっきりさせておかなきゃなりません。日社協に補助をするんではありませんので。今回の、つまり事業に対して補助するわけですから、今回の事業の主催者、そこを実行委員会という形で、正確に組んでください、もちろんこれから要綱もつくらなきゃなりません、そういうことは、指示といいますか、意見を申し上げております。

それから、福祉祭りの催しの中の芸能人の謝礼ということ、私も全く知りませんでしたが、一度明らかにしておきたい、とこう思っております。

なお、今後そういう市民主体の催しの際に、行き過ぎや、それから何か指摘がされるようなことは、本来あってはなりませんので、そういうような指導はやってまいりたい、しなきゃならない、このように思っております。

○副議長（米沢照男君）　古賀俊昭君。

○１８番（古賀俊昭君）　この機会に、最後に意見といいますか、私の思っていることを言っておきたいと思いますが、やはりこうした事業自体が目的になってしまって、つまり事業をできるだけ大がかりに、派手にといいますか、お金をかけることによって、それを成功させようという挨持ちはわかるんですが、派手になり過ぎて、本来の事業の目的が失われてはならないと思います。

ですから、今回のこうした目的は、記念事業という目的が、この難病検診の目的ではないわけですから、そうした取り違いが、まあ取り違えておられないでしょうけれども、こうした予算の計上の仕方、また、事業計画の計上の仕方というのを聞いておりますと、今後に悪い例を残すということも考えられます。十分担当部局、また、日野市もかかわって進めておられる事業でもありますので、今後、その点に留意をして、こうした記念事業自体が目的でなく、あくまでこうした難病検診事業を進めていく上の、ある手段にしかすぎないということを理解をし

ていただいて、多くの市民が参加をされるような、参加していただけるような記念事業にしていただきたい、とこのように思っております。

以上です。

○副議長（米沢照男君）　古谷太郎君。

○６番（古谷太郎君）　実は、市民の中で、こういう話が、今出ているんです。福祉祭りじゃなくて、赤旗祭りだと。ものすごく盛大にやったんだそうです。それで、我々の尊い日社協や赤い羽根のお金を、１００万円も損害を出して浪費したという話が伝わっております。

そこで、監督責任である、この赤旗祭りの主催者というか、名称は福祉祭りとしたようですけれど、監督責任者である福祉部長に聞きたい。

赤字が相当出たというけれども、幾ら出たか。市民の中に伝わっているうわさでは、１００万円も出たと。しかも、このお金を集めるのは赤い羽根。社協、大変なんですよ、こりゃあ。日野の駅へ行って、赤い羽根をみんな並んで集めておられる。あれだって、１０万円集めるには大変なんです。とても集まらない。１日立ってごらんなさい。それでも３万かそこらでしょう。市長さんはきっと御自分でやられたことがあると思いますから、わかるはずですけれど、そんなに集まらないんです、あれ。

いずれにしても、この、まあ、どこの人か知らない人を呼んで、６０万円も７０万円も、歌を歌っただけで払ったとかいうようなお話がありましたけれども、この点について、このうわさが事実であるかどうか、ひとつ福祉部長── まあ、これは赤旗祭りのようだというううわさが、飛んでいるわけで、別に、名前は福祉祭りなんです。

実際、本当に幾ら赤字出しちゃったのか。大体、福祉祭りなんていうのは、バザーかなにかやったりして、幾らかでも利益を、利益ということはいけないかもしれないけれど、上げて、そしてお困りの方々の方にお回しするというのが、本当の趣旨じゃないのかと思うんです、私は。

そこで、福祉部長さんに、市民の中に、そういうふうな不信感を抱くようなことがいいと仮定── 私は、市民から聞いたんです。だから、そういう点で御説明願いたい。収支はどうなったのか。

やはりふさわしくないような、赤旗の赤い歌でも歌う歌手を呼んで歌わせるということも、余りいいことじゃないだろうし、この点はどういうふうな基準で歌うたいを選定したんだか。

歌うたいもいろんなのがいるんですよ。委員長は、また聞くことにして、福祉部長、関連がありますので、お願いいたします。

○副議長（米沢照男君）　福祉部長。

○福祉部長（高野　隆君）　ただいまの御質問にお答えいたします。

福祉祭りということで、実施いたしたわけでございますので、特段にほかの政党の形をどうしたということではなくて、日社協の中での実行委員会を中心として企画されたということで、あくまで、やはり社協の主体性の中で行われた福祉祭りである、というぐあいに私どもは理解しております。

なおかつ、福祉祭りの収支決算も、社協の理事会に報告されております。その中では、収支は若干きつくなっているということと、若干のやはり余剰金について、各そこに集まった団体に、わずかではありましたけれども、分配金が出ている、こういう状況でございます。

当日、雨が降りましたので、昨年の実績は約２万5,０００人ぐらい参加したというような報告も聞いておりましたけれども、ことしにつきましては、約１万人ぐらいの参加であった。あるいは、そういう状況の中での売り上げといいますが、バザー等の売り上げ等については、昨年と比較すれば少なかった、こういう状況ではあろうかと思いますけれども、特段大きな赤字ということでは、私どもは聞いておりません。

また、福祉祭りに依頼をしました歌手等につきましては、なにかこれは八王子の方だそうですが、伊藤有人とブルースター、それに高山佳子という歌手がつきまして、約２時間半の契約で、出演料が７５万、こういうような形で、数名の楽団に払われた経費が出た。これについては、先般古賀議員から御質問がありましたので、直接古賀議員に御報告した内容でございます。

以上の形の中で、福祉祭りが総体の中で、雨の中で行われた、こういうことについては承知しておりますので、御報告いたします。

○副議長（米沢照男君）　古谷太郎君。

○６番（古谷太郎君）　いいですか、こういう問題は、前からもう出ているんだから、福祉部長は具体的に、福祉祭りには、歳入は、祭りの資金ですな、どこから幾らで、どこから幾らで、そうしてバザーで幾らあって、総額は幾らある、そして、支出の方はこうなんだと。これが答えてない。

わずかだが、利益が出たと。利益は、出ていないんです。出ていないんですよ、いいですか、

利益は。それは、日社協からたくさんお金を入れたかどうか、知りませんよ。そうすりゃ利益みたいに見える。見えるが、それは日社協からのお金が入っただけの話で、実質的には日社協は大きなお金が減ったわけですよ。あなたは、利益が出たと。ごまかしちゃいけませんよ。収支決算も見たと言ったでしょう。私が知らないで質問しているなんて思ったら、大間違い。

そういうごまかしは、一般の市民には通用するかもしれない。しかし、我々には通用しない。はっきり言いなさい。幾ら日社協からお金を出して、バザーの売り上げは幾らあって、こういう収入でこういう支出をしたと。説明できるでしょう。いいですか。はっきりしないと困るよ、そんなんじゃ。前から言われていて。

○副議長（米沢照男君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　私も、そういう状況をつまびらかに承知していなかったことは、不明でございますので。

第一、日社協が主催をする行事といえども、ちゃんと予算が、計画があるはずであります。

それから、赤い羽根で、市民の善意を受けたものを、これを地元で流用するということも、これもありません。赤い羽根の募金は、募金のセンターにお届けをして、配分がこっちに来る、こういうことでありますので、ですから今の、一つの事業につきましての収入支出、それから、それがどういうふうに運用されたかということは、来る決算委員会の日にでもはっきりとするようにして、資料をもって御報告をいたします。

今、御質問を聞いてそのように感じましたので、そのようにひとつお答えをしておきたい、こう思います。（「部長、わかるかい、じゃ、説明してくれよ、幾ら出したか。私の質問に市長さんが」と呼ぶ者あり）

○副議長（米沢照男君）　福祉部長。

○福祉部長（高野　野君）　この決算につきましては、先般の社協の理事会で報告されておりますけれども、現在、手元に資料を持っておりませんので、また後刻、決算委員会で御報告申し上げたいというふうに考えております。

○副議長（米沢照男君）　古谷太郎君。

○６番（古谷太郎君）　私は、理事会へお出になった方から聞いたんです。我々の税金の一部が入っているから、当然なんですよ、こういうことは。議員としては知らなきゃいけない。

赤旗祭りであるというわさだけでなくて、さらに我々の税金の一部、また善意の寄付が、こういうことに、例えば、もし利用されたとすれば、我々は市民に顔向けならないわけです。それは、日社協の理事の方々は善意でやっている。本当にまじめにやっている。

ただ、この運営は、市の職員が加わり、福祉部長なり、市の部長方が実質的には動くわけです。実際問題として、理事の人が、ではどういう楽団を頼んでくるか、そんなことまではできない。ですから、先ほどの難病対策の件とはわけが違うんです、これ。しかも、質問しても、今手元にありませんからわかりませんと。先ほどは、利益が出ましたと。ねえ、そういうふうないいかげんなことはおやめなさい。

私は、高野君を責めたくはない。ないけれども、せっかく善意でやっている日社協の理事や、理事長の方がかわいそうだ、それじゃ。

まあ、きょうはこの程度にしておきます。

○副議長（米沢照男君）　夏井明男君。

○１６番（夏井明男君）　それでは、今の地域難病の活動の記念事業については、もう補助金につきましては、今、古賀議員の方からるる質問があったわけですが、私も社会教育委員をしていまして、そこで補助金のあり方についてということで、答申の素案づくりに参加させてもらっているんですが、そこではかなり各種の団体がありまして、育成の補助の問題ですとか、さまざまな名称を使いながら、補助金のあり方について、かなり検討いたしております。

それでお聞きするわけなんですが、一つは、当初予算に掲げないで補助金を出したことについては、確かに異例だというふうに、今、市長から御答弁がありました。

その理由としては、日野市が難病対策に取り組んで、かなり社会的な評価も得て、１０周年を迎えたという、節目でもあるということですね。それから、日社協の会長でもあり、また花輪病院の院長さんからも強い要請があって、ぜひお願いをしたいという話があった。さらに、医師会の方からも、１００万の寄付をいただいての事業であるということを、るる検討すると、やはり市としても何らかの対応を考えていいんではないか、という御説明だったかと思います。

それで、一番心配しますのは、私は、これ、とっさに今、委員長報告の中で話を聞いて思いましたのは、難病の、一つの種類に入るんだろうと思いますが、精薄児を抱えているお母さんですとか、肢体不自由児を抱えているお母さんですとかが、地域の中でどういうふうに生きていくかということで、啓蒙運動、また社会運動を、非常に小さな力ですが、やっているわけで

すけれども、そこでは、経費の印刷代すら工面ができないという中で、地域の方にお願いをして、古新聞を集めまして、また、空き瓶等を集めて、それを資源回収に回して、そこからささやかな資金を得て、運動をしている実情が、片一方にあるわけです。

率直に申し上げて、こういうふうな小さな運動の中でも、例えば年に何万という金額でも、かなりこういう方々にとっては大きな励みにもなるわけですけれども、なかなかそういうふうな方にも、補助金をおいそれとつけるわけにいかないというふうに、私も何回か聞いております。

率直に申し上げて、疑問に思いますのは、記念事業の目的です、１０周年になったからやろう、というふうな目的ではないと思いますが、その効果といいますか、そういうのがどの辺にあるのかということが、いま一歩わかりません。

それから、この補助金を出す、出さないについての決定をするについて、いわゆる企画財政部長、市の大蔵大臣であります企画財政部長に御相談をるるなすって、決められたのかどうか。これは、皮肉で申し上げるんじゃなくて、かなり前に、行財政調査会の中で、補助金の検討のあり方について、話があったわけです。

これから、今後の補助金の、出す、出さないについてもそうですけれども、こういうふうな対応の仕方を、今後何回か、るる補助金を出す決定についての要素を掲げられましたけれども、こういうものがるるつけば、途中の補正で急遽決めることも、今後もあり得るということを、私は思うわけですけれども、こういうふうなお金の出し方というのは、どうなのかということを非常に心配するわけです。

先ほど、市長の話では、ちらっと、まあ１００万程度というお話がちょっとあったと思うんです。この思考は、非常に私は、市の財政を、市の運営をあずかる責任者としては、非常に不遜な発言だと私は思います。私の聞き間違いであれば、それでよろしいんですけれどね。金額的にも少ないから、そういうふうな発想がもしもあれば、それは改めていただきたいと思うんですが、その辺を含めて御答弁いただきたいと思います。

○副議長（米沢照男君）　企画財政部長。

○企画財政部長（前田雅夫君）　お答えいたします。

予算編成の関係といたしましては、主管部課の方から予算要求が出まして、その内容を審査し、最終的には市長が決定をして、予算化、いわゆる予算案をつくるということでございます。

○副議長（米沢照男君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　どういうニュアンスだったか、１００万程度ということを聞いて、つまり軽微な金額だというふうにとられたとしますならば、それは私の全く心にないことでございますので、金額のいかんに問わず、事業の効果でありますとか、あるいは、とにかく死んだ金に使っては、これはいけないことはもう当然でありますので、軽微な金という意味で、このことを取り扱ったということは、全くございません。

○副議長（米沢照男君）　夏井明男君。

○１６番（夏井明男君）　今の、軽微な話の以前に、何点か私、お尋ねしているわけです。個々の具体的な要件が整えば、こういうことも今後もあり得るもの、というふうな発想をすること自体どうなのかということが、一つあるんです。これからの補助金の出し方としてです。

それからもう１点は、これを決めるに当たって、やはり企画財政部長の財政の見通しの中で、こういうことが積み重なっていきますと、いわゆる補助金の全体のあり方ということが、当然私、問題になってくると思うんです。その辺で、やはりきちっとした枠組みといいますか、そういうものもやはり置いておく必要もありますので、その辺どうなのかということを一番心配をしているんですが、その点の御答弁がありませんので、再度お願いいたします。

○副議長（米沢照男君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　本来、補正予算ということは、年度間の過程の中で、どうしてもこの時期に必要だということで、補正を行うわけであります。原則から言えば、年度間補正はないにこしたことはない、こんなふうには言えると思います。

しかしながら、補正の、また補正としての理由がある。その補助金をなにか安易に補正の中に、毎回ちりばめていこうというふうなことは、もちろんこれはあってはなりません。原則は厳しく、しかも対応はやはり柔軟にということが、私は行政の中の一つのあるべき姿と、こう思っておりますので、絶対にしないとか、また、しばしばやるなんていうことは、これはもちろん簡単には言えませんので、厳しくやりたい、こういうふうにお答えをすることだと思っております。

○副議長（米沢照男君）　ほかに御質疑はありませんか。なければこれをもって質疑を終結いたします。

これをもって厚生委員会関係の審査報告を終わります。

次に、建設委員長の審査報告を求めます。

〔建設委員長登壇〕

○建設委員長（高橋徳次君）　それでは、昭和６０年度日野市一般会計補正予算（第２号）のうち、建設委員会に付託されました農業費、土木費につきまして、建設委員会の審査の経過と、並びにその結果を御報告申し上げます。

歳出の主なものは農業費で、これは農業委員の報酬の７１万1,０００円の補正であります。

また、土木費につきましては、公有財産購入費として、南平３２号線外２路線の１億8,５９９万8,０００円で購入するものであります。

本件に対する質疑の主なものは、豊田駅の北口の自転車置き場の位置、及び場所の拡大、工事請負費に関連しては、学校の緑化整備された後の管理はだれがやるのか、というような質疑がございました。細部については省略させていただきます。

以上により質疑を終結し採決の結果、本件は全員異議なく原案可決と決定いたしました。よろしく御審議のほどお願いします。

○副議長（米沢照男君）　これより質疑に入ります。なければこれをもって質疑を終結いたします。

これをもって建設委員会関係の審査報告を終わります。

各委員長報告について御意見があれば承ります。古谷太郎君。

○６番（古谷太郎君）　日野市議会自由民主党は、補正予算に反対いたします。

本来、我々は、３月の当初予算におきまして、この予算が町づくり、基盤整備、あるいは福祉の推進、あるいはまた市民の健康保持等について、何らの積極性の見られない、いわゆるだらかん予算である、だから反対である、何とかして補正等で、いわゆる基盤整備等の予算をふやしてもらいたい、という要望をつけて、反対したのであります。

ところが、今回補正されました内容は、我々の要望が全く入れられていない。わずかに南平高等学校の、当然東京都がつくるべき道路の買収が若干出ているにすぎないのであります。生活福祉センター、あるいは医療センター等の、前向きの姿勢は全く見られない。福祉についても、赤旗祭りですか、福祉祭り程度のものであります。

このような、いわゆるいいかげんな、だらかん的な、その場当たりの補正については、我々

の要望する骨格予算に相反するものでございますので、骨組みが違う、我々の考えている予算とは。全く骨組みが違う予算であります。我々、当初予算に反対したと同じような理由をもちまして、この補正に反対いたします。

○副議長（米沢照男君）　ほかに御意見はありませんか。なければこれをもって意見を終結いたします。

これより本件について採決いたします。本件に対する委員長報告は原案可決であります。本件は委員長報告のとおり決するに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○副議長（米沢照男君）　挙手多数であります。よって議案第７２号、昭和６０年度日野市一般会計補正予算（第２号）の件は原案のとおり可決されました。

これより議案第６６号、日野市立地区センター条例の一部を改正する条例の制定、議案第67号、日野市地区広場設置条例の一部を改正する条例の制定の件を一括議題といたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（米沢照男君）　御異議ないものと認め一括議題といたします。

厚生委員長の審査報告を求めます。

〔厚生委員長登壇〕

○厚生委員長（馬場弘融君）　厚生委員会に付託をされました議案第６６号、日野市立地区センター条例の一部を改正する条例の制定につきまして、去る１０月３日に開催をされました委員会における審査の経過並びに結果を御報告申し上げます。

本件は、５１館目の地区センターとして、三沢１１６番地の６に、市立三沢東地区センターが完成したことに伴い、当該地区センターを条例別表に追加するものであります。

敷地は、金田区画整理により得られた１８２平米の市有地であり、構造は木造モルタル２階建て、建物延べ面積９９平米となっております。なお、各種展示等の可能な構造であると伺いました。

質疑としては、地区センターは原則平家建てと聞いているがどうなっているか、敷地面積も原則はもっと広いのではないか、などが問われましたが、答弁としては、条例施行規則によれば、原則は平家建てであるし、敷地面積も２３１平米以上となっているが、最近の考え方とし

て、敷地難ということもあり、狭い敷地しかとれないところには２階建てもやむを得ないと考えている。都の補助金についても、原則は延面積３３０平米以上となっているが、特例として、おおむね１００平米程度であれば補助対象とされ、当地区センターも都の補助を受けている。今後も十分な広さ、望ましい形はとれなくても、柔軟に対応していきたい、とのお答えがございました。

本委員会では、慎重審査を進めた後、採決に移りましたが、全員異議なく原案のとおり可決すべきものと決した次第であります。

次に、議案第６７号、日野市地区広場設置条例の一部を改正する条例の制定につきまして、審査の経過並びに結果を御報告申し上げます。

本件は、市内７番目の地区広場として、南平一丁目１０番地の４３につくられた、市立かしまだい地区広場を条例別表に追加するものであります。

この地区広場は、新たな宅地開発に伴い業者から寄付されたもので、面積は約5,０８０平方メートル、同じく寄付をされた公園に隣り合っております。管理については、地元自治会を中心に協議会等をつくり、地元管理のモデルケースとしたい旨、説明がございました。

質疑としては、地元管理について責任問題はどうなるか、出入り口のスロープは安全か、地元の優先使用なのか、利用申し込みの窓口はどこか、等が問われました。

答弁としては、地元管理の考え方は、市の意向も踏まえて協定をつくり、小規模な草取りとか、交通整理などは地元にお願いをしたい。地区広場の性格は、本来、だれでもいつでも自由に使えるものであり、施設上に市の重大な過失があれば市の責任となろうが、一般的には当事者責任と考えている。出入り口については、十分安全を図りたい。地元の優先使用については、日時を限定して、地元使用の枠を多少設けるけれども、あとは全市民に開放していく、グループ使用の際の申し込みについては、協議会ないしは生活課が相談にあずかる、等、伺いました。

さらに、他の公共施設も含めた傷害保険の有無についても問われましたが、施設上の瑕疵は市の責任になるとの判断から、地区センターなどは施設賠償保険に入っているが、子供会などの団体保険を除けば、不特定多数を対象とした損害保険はない。個々の遊びによる事故については、市が責任を負うことはないと思う、との説明がございました。

意見といたしましては、一つ、公共施設の管理には責任の所在の明確化が必要である。今後、検討をされたい。

二つとして、逆に、管理責任の明確化は必要ではあるけれども、一方で、管理人が管理を強調する余り堅苦しくならないように、市民の利用がスムーズに、かつ使用しやすいように配慮をすべきであろう、との対象的な二つの意見が出されたところであります。

以上申し上げましたような審査を踏まえ、採決に移りましたが、本件につきましても全員異議なく、原案のとおり可決すべきものと決した次第であります。合わせて２議案、よろしく御審議のほどお願いを申し上げます。

○副議長（米沢照男君）　これより質疑に入ります。なければこれをもって質疑を終結いたします。

本２件について御意見があれば承ります。なければこれをもって意見を終形いたします。

これより本２件について採決いたします。本２件に対する委員長報告は原案可決であります。本２件は委員長報告のとおり決するに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（米沢照男君）　御異議ないものと認めます。よって議案第６６号、日野市立地区センター条例の一部を改正する条例の制定、議案第６７号、日野市地区広場設置条例の一部を改正する条例の制定の件は原案のとおり可決されました。

お諮りいたします。議事の都合により暫時休憩いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（米沢照男君）　御異議ないものと認めます。よって暫時休憩いたします。

午前１１時４８分休憩

午後　１時　４分再開

○副議長（米沢照男君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

これより議案第６９号、日野市老人福祉手当条例の一部を改正する条例の制定、議案第７０号、日野市心身障害者(児)福祉手当支給条例の一部を改正する条例の制定、議案第７１号、日野市児童育成手当条例の一部を改正する条例の制定の件を一括議題といたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（米沢照男君）　御異議ないものと認め一括議題といたします。

厚生委員長の審査報告を求めます。

〔厚生委員長登壇〕

○厚生委員長（馬場弘融君）　厚生委員会に付託をされました議案第６９号、７０号、７１号につきまして、審査報告を申し上げます。

初めに、議案第６９号、日野市老人福祉手当条例の一部を改正する条例の制定について、審査の経過並びに結果を御報告申し上げます。

本件は、本年３月の都条例改正に伴う市条例の改正でありまして、月額１万6,５００円の手当額を1,０００円増額し、１万7,５００円とするものであります。財源は、全額都の負担となっており、１０月１日から適用をされます。

当委員会では、慎重審査を進めた後、採決に移りましたが、全員異議なく可決すべきものと決した次第であります。

次に、議案第７０号、日野市心身障害者(児)福祉手当支給条例の一部を改正する条例の制定について、御報告申し上げます。

本件も、本年３月の都条例改正に伴う市条例の改正でございまして、福祉手当の額を、１、精神発育遅滞程度中以上の者、身体障害程度２級以上の者、脳性麻痺あるいは筋ジストロフィーの者、これは、これまでの月額9,５００円から１万円に。

２、難病の方は、7,５００円から8,０００円に。

３、精神発育遅滞程度軽度の者と、身体障害程度３級、４級の者については、5,５００円から6,０００円に。いずれも１０月より月額５００円ずつ増額をするものであります。

財源的には、都の所得制限にかかった人を市が救済をするという形で、従来どおり都と市の双方が負担をいたします。

質疑といたしましては、日野市と近隣各市の制度の違いが問われましたが、日野市の支給状況は、多摩２６市の中でもトップクラスであるとの説明がございました。

当委員会では、慎重審査を進めた後、採決に移りましたが、本件につきましても、全員異議なく原案のとおり可決をすべきものと決した次第であります。

次に、議案第７１号、日野市児童育成手当条例の一部を改正する条例の制定について、御報告を申し上げます。

本件も、前２件と同様に、３月の都条例改正に伴う市条例の改正であります。具体的には、

育成手当を月額7,５００円から8,０００円に、障害手当を9,５００円から１万円に、それぞれ５００円ずつ増額をするものであり、前２件と同様この１０月から適用をされます。

財源的には、全額都の負担となっております。当委員会では慎重審査を進めた後、採決に移りましたが、本件につきましても全員異議なく、原案のとおり可決をすべきものと決した次第であります。

以上、３件、かいつまんで審査報告を申し上げました。よろしく御審議のほどお願いを申し上げます。

○副議長（米沢照男君）　これより質疑に入ります。なければこれをもって質疑を終結いたします。

本３件について御意見があれば承ります。なければこれをもって意見を終結いたします。

これより本３件について採決いたします。本３件に対する委員長報告は原案可決であります。本３件は委員長報告のとおり決するに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（米沢照男君）　御異議ないものと認めます。よって議案第６９号、日野市老人福祉手当条例の一部を改正する条例の制定、議案第７０号、日野市心身障害者(児)福祉手当支給条例の一部を改正する条例の制定、議案第７１号、日野市児童育成手当条例の一部を改正する条例の制定の件は原案のとおり可決されました。

これより議案第７３号、昭和６０年度日野市国民健康保険特別会計補正予算（第１号）、議案第７５号、昭和６０年度日野市立総合病院事業会計補正予算（第２号）、議案第７６号、昭和６０年度日野市受託水道事業特別会計補正予算（第１号）の件を一括議題といたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（米沢照男君）　御異議ないものと認め一括議題といたします。

厚生委員長の審査報告を求めます。

○厚生委員長（馬場弘融君）　引き続きまして、厚生委員会に付託されました議案第73号、７５号、７６号につきまして御報告をいたします。

初めに、議案第７３号、昭和６０年度日野市国民健康保険特別会計補正予算（第１号）につきまして、審査の経過並びに結果を御報告申し上げます。

本件は、退職者医療制度新設に伴い、不確実であった各数値を、実績に合わせるための増額補正であります。主なものを申し上げますと、歳入面では、繰越金の大幅増額、歳出面では、退職被保険者等療養費の増額、及び実額決定に伴う国庫等への返還金の大幅増額等でありまして、歳入歳出それぞれ4,２１７万1,０００円を追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ３０億4,２７７万7,０００円とするものであります。

質疑といたしましては、いわゆるマル退、退職者医療制度に該当をする人は何人ぐらいいるのかが問われ、国保の総額は３万2,０４０人であるが、そのうちマル退に該当する人が2,291人となっており、割合では9.３４％であるとの説明がございました。

当委員会では慎重審査を進めた後、採決に移りましたが、補正内容につきましては全員異議なく、原案のとおり可決すべきものと決した次第であります。

次に、議案第７５号、昭和６０年度日野市立総合病院事業会計補正予算（第２号）について、御報告申し上げます。

本件は、当初予算第４条に定めた資本的収入及び支出の予定額を、それぞれ1,０３３万円増額をするとともに、一般会計からの補助もあわせて増額をするものであります。

具体的には、収入は一般会計からの出資金の増となり、支出の主なものは、ＣＴ導入に伴う受電設備の改修、屋上防水改修工事などであります。

本委員会では慎重審査を進めた後、採決に移りましたが、本件も補正内容には全員異議なく、原案のとおり可決すべきものと決した次第であります。

最後に、議案第７６号、昭和６０年度日野市受託水道事業特別会計補正予算（第１号）について、御報告を申し上げます。

本件は、歳入歳出予算に、それぞれ1,０７７万4,０００円を追加し、歳入歳出予算の総額を、それぞれ１１億2,２０２万円5,０００円とするものであります。

歳出の具体的内容は、先日の行政報告書にもございましたように、６月３０日の台風６号により、多少崩れた京王平山台の高区配水池のり面を修理、測量するための工事費、測量費であります。

質疑としては、高区配水池については、現在、防球保安のシート張りをしてあるようだが、本格的な工事はいつごろ、どこがやるのか、多摩平の石綿管の交換は順調に進んでいるか、赤水対策は進んでいるか、等が問われたところであります。

答弁としては、高区配水池ののり面工事については、地元の不安も強いので、工事方式などについて早目に地元の方と話し合いを行う。今月末から来月にかけて設計をし、業者発注の見通しである。なお、本格工事は、すべて都の多摩水対の責任で行うことになっている。石綿管から鋳鉄管への変更は、既に４カ所で終了をし、なお２カ所が発注済みであり、３ないし４カ所を計画中というところである。赤水対策では、原因となるさびをとるため、既に数カ所で管内のウオッシングを行っており、既に大分よくなっていると思う。今後も逐次進めていきたいとの説明がございました。

当委員会では慎重に審査を進めた後、採決に移りましたが、本件につきましても、補正内容には全員異議なく、原案のとおり可決すべきものと決した次第であります。

以上、３議案、かいつまんで審査結果を御報告申し上げました。よろしく御審議のほどお願いを申し上げます。

○副議長（米沢照男君）　これより質疑に入ります。なければこれをもって質疑を終結いたします。

本３件について御意見があれば承ります。なければこれをもって意見を終結いたします。

これより本３件について採決いたします。本３件に対する委員長報告は原案可決であります。本３件は委員長報告のとおり決するに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（米沢照男君）　御異議ないものと認めます。よって議案第７３号、昭和６０年度日野市国民健康保険特別会計補正予算（第１号）、議案第７５号、昭和６０年度日野市立総合病院事業会計補正予算（第２号）、議案第７６号、昭和６０年度日野市受託水道事業特別会計補正予算（第１号）の件は原案のとおり可決されました。

これより議案第６８号、日野市下水道条例の特定の件を議題といたします。

建設委員長の審査報告を求めます。

〔建設委員長登壇〕

○建設委員長（高橋徳次君）　それでは、建設委員会に付託されました議案第６８号、日野市下水道条例の制定について、建設委員会における審査の経過とその結果を御報告申し上げます。

本条例は、３３年多摩平処理場の供用開始に伴い、同年１０月７日に制定され、昭和３６年

１０月３日に全面改正され、その後、４４年一部改正、５３年に使用料の関係が改正されました。その後、昭和５４年、５５年と一部改正がなされてまいりましたが、それ以後は改正されておりません。

今回の全面改正の理由は、下水道法の改正により水質の規制関係が強化され、条例制定の必要事項が増加した。また、現況に合わない不備な点が多くなった。また、南多摩処理区の一部の供用開始に伴い、実質的に赤字が６億も累積している。下水道処理運営費の財政の健全化のため、使用料の改定を行う必要があるためで、その主な内容と申しますと、水質の規制の関係の整備、配水設備の設置義務の新設、配水設備申請手数料及び指定工事店保証金の徴収の廃止、占用規定の新設、その他条例全般にわたって、現況に合わない条項の内容の整備、６番、使用料の改定というのが、主なことです。

また、今回、改定の内容の主なものですけれども、建設委員会の質疑の中で主なものを申し上げますと、５５年以後、下水道料金の改定をしないで、なぜここで急に平均５０％近くの改定をするのか。

また、この間、多摩平処理場の改修費の内容はどうなっているのか。

また、一般会計より６億もの赤字がありながら５年間も放置しておくのは無責任であり、多摩平の人にとっては、いきなり５０％のアップでは大変なことである。多摩平の下水道料金を、５３年、５４年、５５年と改正しながら、その後、なぜ放置しておいたのか。

日野市内の公衆浴場は幾らあるのか。

１０立方以下の使用世帯はどのくらいあるのか。基本費とはどういうことなのか。

また、１０立方以上の場合、全部を２０立方の金額で計算するのか。

多摩平公社では説明会をしたというが、分譲地の方はどうしたのか。

また、多摩平公住と分譲地の人口の比率は。日野市の下水道はおくれている。南多摩処理区も一部供用を開始されることであり、将来全市的な問題であり、原案もやむを得ないと思うが、今後、料金改定等もあると思う。もっと早く、今後の改定のあり方については慎重に努力すべきではないか。

また、雨水は公費、汚水は受益者負担は当然で、南多摩と多摩平では、料金の高い、安いについて、受け取り方がそれぞれ違う。標準料金に持っていくのにはきちっとした説明が必要ではないか。南多摩処理区の１１ヘクタールの使用開始がなければ、値上げをしなかったのか。

また、多摩市と稲城市と料金体系が似ているが、もっと低く、年次計画という形ではできなかったのか等、これらの質疑がなされましたが、細部については省略させていただきます。

なお、意見としましては、南多摩処理区の１２月１日をもって供用開始になるのであり、原案はやむを得ないが、今後、値上げ等のあり方については努力する必要があるし、今後の値上げの方法については、全市的によく追求すべきである。

また、多摩平と南多摩の供用とを引っかけて、一緒に値上げをすることは賛成できない。多摩平と南多摩では同一ではない。供用開始、また条例の制定もやるべきだが、来年度の初めに出すように修正してもらいたい。今後どうしても出すのであれば、修正案を出したい。

また、修正案を出すということで休憩に入ったが、基本費の２％を１％にすることに対して、詳しい回答がなされなかった。

また、値上げ幅を３％ぐらいにすべきであるという考え方から、修正案をと言ったが、時間的に委員会では無理であり、条例の２１条の使用料についてのみ改正すべきである。

また、修正案が本会議で出される場合、会派間の調整もあるので、事前にその内容を話してもらいたい。

また、１２月１日から南多摩処理区が供用開始になるので、全市的立場で賛成する。下水道については、日野市もようやく進み始め、また料金も他市と比較して高くはない。要は、市民全体を考え、今後は早目に多くの意見を聞くとともに、説明し、理解してもらうべきではないか。

多摩平でも代表者に説明し、理解されていると思うとのことで、原案には賛成する等の意見が出されました。

以上により、意見を終結し採決の結果、本件は賛成多数で原案可決と決しました。よろしく御審議のほどお願いいたします。

○副議長（米沢照男君）　これより質疑に入ります。なければこれをもって質疑を終結いたします。

本件について御意見があれば承ります。一ノ瀬　隆君。

○１１番（一ノ瀬　隆君）　私どもの主張は、建設委員会で申し上げ、その委員長報告がありましたが、加えて、若干意見を申し上げておきたいと思います。

市政の中でも、最も重要であります下水道の推進には、この条例の全面改正は当然のことで

あると思います。しかしながら、この下水道料金について同調できないものがあります。平均約５０％値上げというお話でありますけれども、貧困世帯を多く含んでいる１０立方メートル以下の排水量の方にとっては、７７.８％の値上げであります。最も多い使用があるといいます２５立方メートルの世帯では、６３％の値上げであります。一挙にこのような大幅な下水道料金の値上げが含まれているこの条例改正であります。

私ども社会党は、多摩平住民にとって耐えがたい大幅値上げであるこの原案には、残念ながら賛成できません。もちろん値上げ一切を認めないというものではありません。

それで、委員会におきましても、この原案を、もう少し料金値上げを抑えた形での修正提案をすることができないか、ということを求めましたが、それについて執行部側からは、これが最善であり、できないという明確な回答もなされました。

また、修正するためには、必要であります数字を、幾通りかのものを求めましたが、それについても非常に時間を要する、困難であるということで、私の要求には応じていただけませんでした。私たちは、原案の値上げの約半分ぐらいはここで値上げする、しかるべき時期に原案に相当する原案程度に値上げすることが妥当である、と考えました。

したがって、ここではこれに沿った修正案を出すべきでありますが、残念ながら技術的に不可能であるという結論を出さざるを得なかったのであります。原案に賛成をし得ないということを申し上げ、意見とします。

○副議長（米沢照男君）　ほかに御意見はありませんか。秦　正一君。

○２６番（秦　正一君）　委員の１人ですけれど、あえて一言意見を述べさせていただきます。

議案第６８号、日野市下水道条例の改正について、下水道使用料の改定が、過去５３年、54年、５５年と、３カ年にわたって改定されてきております。その後、５５年から６０年まで改定されずにきている。先ほどの委員長の報告のとおりですが。

改定の理由といたしまして、まず１点といたしまして、維持管理費の使用料見返り収額は６億円に達している、また、維持管理費と資本費との歳入には、適正なる下水道使用料に改定したい、住民負担の公平の原則に著しく欠けることのないようにしていきたい、このように申されております。

昭和５５年度から６０年度５年間に、都の方とか、また多摩各市でも、使用料の改定を行ってきております。日野市においては、何の手を打たずに放置してきた。今になって使用料金の改定を出してきた。もっと、どうして早くこういった改定案を出してこなかったのか。ましてや、年度の途中でなく、このように使用料の問題は市民にかかわりある問題ですから、やはり大事な議案です。予算の当初にこういった問題を出すべきではないか、このように思います。今のやり方は余りにも無理があるし、無責任なやり方ではないか、このように思います。

また、２点目といたしまして、維持管理費と資本費との歳入した適正な料金とあるが、多摩平処理場の歴史と、南多摩処理区の維持管理、また、資本費とは、当然これは違うわけです、内容が。南多摩処理区の一部供用開始を迫られている１２月１日、これをめどに使用料金の改定がなされております。維持管理費と資本費が激増して、ふえて、当初から、維持管理費から回収できないことになり、資本費を含めて大幅な赤字となる。

また、１２月１日に、南多摩処理区の一部の供用開始となるときに、同時に料金改定をすることが、この辺がちょっと無理があるんじゃないか。多摩平処理場と南多摩処理区は、資本的に、また南多摩処理場の建設のほかに、昭和５５年から見ても、要するに多摩平処理場です、これの建設費、こういったものを昭和５５年から見ても、相当なお金を出費しているわけです。施設修理費といたしまして、３億3,０００万以上の費用がかさみ、料金も全然改定しないできている。

南多摩処理区の日野市分１１ヘクタール、この分の終末処理場の建設、この負担金、また分担金、こういったものや、また、下水本管埋設等の資本費、こういったものを見たときに、多摩平と南多摩処理区は同一視することが非常に理に合わないのであります。従って、使用料金についても同様に考えられると思います。多摩平処理場の赤字を、１２月１日から供用開始になる南多摩処理区の方へ転嫁することは、ちょっと感心しないんじゃないかと思います。少なくとも昭和６０年当初予算で、多摩平処理場の下水道使用料改定を実施して、その上に立って南多摩処理区は１２月１日から供用開始にもっていく。それで下水道使用料金の制度は１２月１日から適用される、このやり方が適切だと思います。

過去５年間、何の改定もしないで、現在にきて６３％の料金の改定をすることは、ちょっとひど過ぎる。少なくとも値上げのパーセントをこの半分ぐらい、３０％ぐらいに抑えるのが限度ではないかと思います。

そこで、建設委員会でも、この修正案についての提起をしましたが、いずれにしても、我々

といたしましては、日野市下水道条例２１条、使用料の６３％の値上げは反対でありまして、値上げ幅はもっと縮めて３０％にするのがよろしいんではないか、このように思いまして、意見を述べたわけでございます。よろしくお願いします。

○副議長（米沢照男君）　ほかに御意見はありませんか。なければこれをもって意見を終結いたします。

これより本件について採決いたします。本件に対する委員長報告は原案可決であります。本件は委員長報告のとおり決するに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○副議長（米沢照男君）　挙手多数であります。よって議案第６８号、日野市下水道条例の制定の件は原案のとおり可決されました。

これより議案第７４号、昭和６０年度日野市下水道事業特別会計補正予算（第２号）の件を議題といたします。

建設委員長の審査報告を求めます。

○建設委員長（高橋徳次君）　それでは、建設委員会に付託されました議案第７４号、昭和６０年度日野市下水道事業特別会計補正予算（第２号）につきまして、建設委員会の審査並びにその結果を御報告申し上げます。

今回の補正予算は、歳入歳出の総額を、それぞれ1,６１７万7,０００円を追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ２１億５６万9,０００円とするものであります。

歳入の主なものは、先ほど御報告申しましたとおり、議案第６８号の条例改正に伴う使用料の増額と繰越金であります。

歳出の主なものは、多摩平処理場の施設改良費、設計委託料費1,３００万円であります。

本件の質疑の主なものを申し上げますと、水洗便所の改造資金の融資あっせんの利子の補給の条件は、との質疑に対しては、債務補償問題、利率、その他問題があり、違ってくるので流動的であり、現在、金融機関と交渉中であるということです。

以上により、質疑を終結し採決の結果、賛成多数をもって原案可決と決定いたしました。よろしく御審議のほどお願いいたします。

○副議長（米沢照男君）　これより質疑に入ります。なければこれをもって質疑を終結いたします。

本件について御意見があれば承ります。なければこれをもって意見を終結いたします。

これより本件について採決いたします。本件に対する委員長報告は原案可決であります。本件は委員長報告のとおり決するに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（米沢照男君）　御異議ないものと認めます。よって議案第７４号、昭和６０年度日野市下水道事業特別会計補正予算（第２号）の件は原案のとおり可決されました。

これより議案第７７号、市道路線の一部廃止、議案第７８号、市道路線の廃止、議案第７９号、市道路線の認定の件を一括議題といたしたいと思いますが、これに御意議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（米沢照男君）　御異議ないものと認め一括議題といたします。

建設委員長の審査報告を求めます。

○建設委員長（高橋徳次君）　それでは、建設委員会に付託されました議案第７７号、市道路線の一部廃止について、議案第７８号、市道路線の廃止について、議案第７９号、市道路線の認定についての３議案を一括して、建設委員会における審査の経過、並びにその結果を御報告申し上げます。

まず、議案第７７号、市道路線の一部廃止については、上田１３号線、石灘１号線は、現況廃滅によるものであります。また、下耕地１号線外５路線は、平山下耕地の区画整理事業完了によるものであります。

議案第７８号、市道路線の廃止につきましては、下耕地２号線外１２路線は、下耕地の土地区画整理事業の完了によるものであります。

議案第７９号、市道路線の認定につきましては、４６路線がありますが、主な認定の理由としては、下耕地の区画整理事業完了による帰属と、道路敷きの寄付による受領等によるものであります。

質疑の主なものは、新井７１号線は下水道のために先に認定しておかないと買収ができないのか。また、東電敷地内の百草５号線の交換道路はいつ廃止しているのか。また、民地との境界は問題がなかったのか。落川２０号線ほか８路線は、下水管を埋めてつくったというが、埋没して水たまりが非常に多い。これを放置しておくのか。また、よく水道管、下水、ガス管等の工事で道路を切ることがあるが、非常に高低があり、また切り溝ができて、こういう点、市

では指導しているのか。議案第７１号の関係で高圧線下が認定されているが、市は移管された場合、東電からの補償はないのか等の質疑がありましたが、本委員会では現地調査を実施し、慎重審議を行いました。採決の結果、３議案とも全員異議なく原案可決と決定いたしました。よろしく御審議のほどお願いいたします。

○副議長（米沢照男君）　これより質疑に入ります。なければこれをもって質疑を終結いたします。

本３件について御意見があれば承ります。なければこれをもって意見を終結いたします。

これより本３件について採決いたします。本３件に対する委員長報告は原案可決であります。本３件は委員長報告のとおり決するに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（米沢照男君）　御異議ないものと認めます。よって議案第７７号、市道路線の一部廃止、議案第７８号、市道路線の廃止、議案第７９号、市道路線の認定の件は原案のとおり可決されました。

これより議案第５６号、昭和５９年度日野市一般会計決算の認定の件を議題といたします。

一般会計決算特別委員長の審査報告はこれを省略いたします。

本件については一般会計決算特別委員長より目下委員会において審査中の事件につき、閉会中の継続審査にされたいとの申し出があります。あわせて本委員会の所管事務を調査研究するため、閉会中の継続審査にされたいとの申し出があります。

お諮りいたします。一般会計決算特別委員長の申し出のとおり、閉会中の継続審査に付することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（米沢照男君）　御異議ないものと認めます。よって一般会計決算特別委員長の申し出のとおり、閉会中の継続審査に付することに決しました。

これより議案第５７号、昭和５９年度日野市国民健康保険特別会計決算の認定、議案第５８号、昭和５９年度日野市都市計画事業特別会計決算の認定、議案第５９号、昭和５９年度日野市下水道事業特別会計決算の認定、議案第６０号、昭和５９年度日野市立総合病院事業会計決算の認定、議案第６１号、昭和５９年度日野市受託水道事業特別会計決算の認定、議案第６２号、昭和５９年度日野市農業共済事業特別会計決算の認定、議案第６３号、昭和５９年度日野

市老人保健特別会計決算の認定、議案第６４号、昭和５９年度日野市仲田緑地用地特別会計決算の認定の件を一括議題といたしたいと思いますが、これに御意議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（米沢照男君）　御異議ないものと認め一括議題といたします。

特別会計決算特別委員長の審査報告はこれを省略いたします。

本８件については特別会計決算特別委員長から目下委員会において審査中の事件につき、閉会中の継続審査にされたいとの申し出があります。あわせて本委員会の所管事務を調査研究するため、閉会中の継続審査にされたいとの申し出があります。

お諮りいたします。特別会計決算特別委員長の申し出のとおり閉会中の継続審査に付することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（米沢照男君）　御異議ないものと認めます。よって特別会計決算特別委員長の申し出のとおり、閉会中の継続審査に付することに決しました。

これより請願第５８－２４号、循環バスに関する請願、請願第５９－２１号、市内循環バス路線の早期実現を求める請願、請願第６０－４号、日野駅～豊田駅を結ぶ市内バスを速やかに滝合橋経由平山城址公園駅まで延長し、私たちの南北交通の足を確保するための請願、請願第60－14号、循環バス市案に加え全市的循環バス実現を願う請願の件を一括議題といたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（米沢照男君）　御異議ないものと認め一括議題といたします。

総務委員長の審査報告を求めます。

〔総務委員長登壇〕

○総務委員長（竹ノ上武俊君）　総務委員会の請願審査に対する経過と結果を御報告申し上げます。

請願第５８－２４号、循環バスに関する請願、請願第５９－２１号、市内循環バス路線の早期実現を求める請願、請願第６０－４号、日野駅～豊田駅を結ぶ市内バスを速やかに滝合橋経由平山城址公園駅まで延長し、私たちの南北交通の足を確保するための請願、請願第６０－１４号、循環バス市案に加え全市的循環バス実現を願う請願の４件でございます。

このうち、請願５８－２４号につきましては、昨年１２月定例会におきまして、総務委員会に再付託された請願でございます。１０月４日総務委員会を開きました。この中で、同じく昨年の１２月定例会におきまして、総務委員会に付託をされました循環バス市案に反対する請願につきましては、後ほど御提案あると思いますが、請願者より取り下げる意向などが表明されておりましたので、一括審査から除いて審議した次第でございます。

総務委員会では、この４議案を種々慎重審議しました結果、全会一致で採決ということに決定をいたしました。

ただ、先ほど申し上げました１２月定例会での差し戻しのことがございましたので、請願58－２４号、循環バスに関する請願につきましては、総務委員会として付帯意見をつけた次第でございます。この付帯意見につきましては、お手元に配付されております審査報告書に出ているとおりでございます。読み上げてみたいと思います。「市案実現に際しては、全市的循環バス路線の確保をあわせ行うこと」── 以上の付帯意見をつけたわけでございます。よろしく御審議のほどをお願いをいたします。

○副議長（米沢照男君）　これより質疑に入ります。なければこれをもって質疑を終結いたします。

本４件について御意見があれば承ります。なければこれをもって意見を終結いたします。

これより本４件について採決いたします。本４件に対する委員長報告は採択であります。本４件は委員長報告のとおり決するに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（米沢照男君）　御異議ないものと認めます。よって請願第５８－２４号、循環バスに関する請願、請願第５９－２１号、市内循環バス路線の早期実現を求める請願、請願第６０－４号、日野駅～豊田駅を結ぶ市内バスを速やかに滝合橋経由平山城址公園駅まで延長し、私たちの南北交通の足を確保するための請願、請願第６０－１４号、循環バス市案に加え全市的循環バス実現を願う請願の件は委員長報告のとおり採択と決しました。

これより請願第５９－２９号、健康保険本人の１０割給付復帰、および国民健康保険への国庫補助率引き上げの意見書を求める請願の件を議題といたします。

総務委員長の審査報告を求めます。

○総務委員長（竹ノ上武俊君）　総務委員会の請願審査結果について、御報告を申し

上げます。

請願第５９－２９号についてでございます。健康保険本人の10割給付復帰、および国民健康保険への国庫補助率引き上げの意見書を求める請願でございます。

日野市神明１－１８－２、日野統一戦線促進労働組合懇談会代表、高橋宏さん外５０３名の方から出されている請願でございました。請願の趣旨は、昨年の１０月、新しい健康保険制度が実施されて以来、１割負担の重荷が家計を圧迫し、また不安を増している。あるいは、健康保険本人の受診を控える傾向などが強まり、疾病の長期化など、その他が心配されているという趣旨でございます。そういう状況の中で、１０割給付の復帰を求める内容となっております。

あわせまして、国民健康保険に対する国庫補助率についても、引き上げてほしいという趣旨でございました。

総務委員会は、慎重にこれを審査いたしました結果、全会一致で採択と決しました。

そして、請願趣旨に基づきまして、意見書を関係官庁に送付すべく、後ほど総務委員会のメンバーによりまして、提案をする予定でございます。あわせてこの点での御協力をお願いをいたしまして、審査結果の報告といたします。

○副議長（米沢照男君）　これより質疑に入ります。なければこれをもって質疑を終結いたします。

本件について御意見があれば承ります。なければこれをもって意見を終結いたします。

これより本件について採決いたします。本件に対する委員長報告は採択であります。本件は委員長報告のとおり決するに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（米沢照男君）　御異議ないものと認めます。よって請願第５９－２９号、健康保険本人の１０割給付復帰、および国民健康保険への国庫補助率引き上げの意見書を求める請願の件は委員長報告のとおり採択と決しました。

これより請願第６０－８号、「国家秘密に係るスパイ行為等の防止に関する法律案」に対する日野市議会の反対決議を求める請願、請願第６０－１０号、「国家秘密に係るスパイ行為等の防止に関する法律案」に反対する日野市議会の意見書を求める請願の件を一括議題といたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（米沢照男君）　　御異議ないものと認め一括議題といたします。

総務委員長の審査報告を求めます。

○総務委員長（竹ノ上武俊君）　　総務委員会の請願審査について、経過と結果を御報告申し上げます。

請願第６０－８号は、「国家秘密に係るスパイ行為等の防止に関する法律案」に対する日野市議会の反対決議を求める請願でございます。

請願第６０－１０号は、「国家秘密に係るスパイ行為等の防止に関する法律案」に反対する日野市議会の意見書を求める請願でございます。

請願第６０－８号につきましては、日野市南平５－２８－３８西山新次郎さん外１４名から提出をされております。

なおまた、請願第６０－１０号は、日野市旭が丘１－１３－７、林　洋さん外1,２５３名から提出されているものでございます。

総務委員会は、まず請願第６０－８号につきまして、審査をいたしました。そして、これに対する質疑と意見の交換がなされ、前回の総務委員会におきまして、９月定例会中の総務委員会で採決をしようではないか、という審議経過となったものでございます。

続きまして、今議会に請願第６０－１０号が、およそ同趣旨の内容で提出をされてまいりましたので、一括審査をした次第でございます。

請願の趣旨は、この６月、国会に提出をされました国家秘密にかかわるスパイ行為等の防止に関する法律案の内容が、軍事、外交などの国政の重要事項を、行政府の一方的な判断で国家機密とし、これを知ろうとしたり、話題とした人々に対して、最高刑死刑の重罰に処する。また、この内容は、戦前の軍事機密保護法などの経験から照らして、国民主権の原則、言論、出版、表現、報道の自由などを根本から侵害するものである。したがって、日本国憲法のもとでは、こういう法案をつくることには反対である、という趣旨のものでございます。

そして、このような立場に立って、日野市議会が反対決議をし、あるいは意見書の提出をしてほしい、という請願でございました。これらにつきまして、主として二つの意見が出されたわけでございます。

第１の意見は、請願の趣旨に全く賛成であるというものでございました。この請願が言うとおり、今度のこの法案は、現在、横行しているＣＩＡやＫＣＩＡなど、これらのスパイについては野放しをしている。しかし、現行法規をもってすれば、これを規制することはできるのである。だから新しい法律をつくる必要はない。むしろ、今後の法案の目的は、国民をスパイ行為者に仕立てて、国民の表現や報道、言論の自由を取り締まろうとするねらいがあるので、請願の趣旨に賛成だというものでございました。

また、第２の意見は、現在、日本はスパイ天国である。自衛隊の中にまでスパイがいる。そして、これに対する刑罰が軽い。福祉国家においては言論の自由は当然保障されなければならないけれども、福祉の汎用を乱すような行為に対しては、当然規制すべきである。また、国会議員等が国会において国家の機密に触れる発言などをするはずはないから、言論の自由は保障をされているのである、というような趣旨でございます。

詳細な意見は、省略をいたしました。

以上の二つの意見を中心として、（「赤旗の意見ばかり言うな」と呼ぶ者あり）いろいろの意見交換があったわけでございます。その結果、９月定例会において採決をしようということになっておりましたので、意見が分かれましたけれども、採決が行われました。その結果は、多数決によって本２請願を採択と決したわけでございます。

総務委員会は、決議を出してくれというのと、意見書を出してくれという二つの請願でございましたけれども、決議ということに、１本にまとめて、本定例会最終日に、総務委員会のメンバーで提案しようではないかということを、確認をいたした次第でございます。

したがいまして、本日、総務委員会のメンバーによりまして「国家秘密に係るスパイ行為等の防止に関する法律案」制定に反対する決議の趣旨をもちまして、提案をさせていただく予定でございますので、これらについても満場の御協力をお願いする次第でございます。

以上をもちまして審査結果の報告といたします。

○副議長（米沢照男君）　　これより質疑に入ります。古賀俊昭君。

○１８番（古賀俊昭君）　　簡単に委員長にお聞きをいたします。

いわゆるスパイ防止法についての請願でございます。今、委員長の御報告の中では、委員会の模様がある程度詳しく述べられたわけでありますが、私が知りたいと思う点についてはございませんでしたので、お聞きするわけであります。

請願６０－８号に、要旨として理由が述べられております。請願の提案理由が述べられております。その中に、１から４まで項目を挙げて、その反対の理由が上げられているわけですが、

当然、総務委員会においては、いわゆるスパイ防止法、先般国会に提出をされ、継続審議になっております「国家機密に係るスパイ行為等の防止に関する法律案」というものを、参照もなさったでありましょうから、お聞きするわけであります。

この１の、法案が成立すると国民の知る権利に重大な制限が加えられるということについては、この法律案のどこに該当するのか、どの条項を該当するとして、この１の理由が成り立つのか。そうした議論があったのであれば、教えていただきたいと思います。

同じように、２の、法案が成立すれば、言論、出版、表現の自由が犯されるというふうに書かれております。これは、国会に現在提案をされております法案の、第何条がこの第２の理由にかかわってくるのか。

同じように、３の、この法案は日本国憲法の平和主義の原則に抵触するということについても、同様にお聞きをしてみたいと思います。

また、確かに、この提出されております法案によれば、最高死刑という条文もあるわけでありますが、これらの重罰で国民に強制し、国民を威嚇をすることになる、威嚇するということが出ております。これは、いろいろスパイをやりたい人にとっては威嚇されるということになると思いますが、具体的に、国民全体を果たして威嚇するような結果になるのかどうか、こうした議論があったかについて、お尋ねをいたします。

以上です。

○副議長（米沢照男君）　総務委員長。

○総務委員長（竹ノ上武俊君）　総務委員会の審査結果を、ただいまの質問に関連してお答え申し上げます。

総務委員会は、全体といたしましては、今回の国家秘密に係るスパイ行為等の防止に関する法律案、その条文が第１４条までございます。これの逐条審議はいたしておりません。それぞれ、第２回目の総務委員会を前にいたしまして、会派に持ち返るということになりまして、各会派で資料をもとに勉強をしてこられた上で、各委員が資料等をもとに発言をされておりました。

それらの意見の中では、知る権利については、例えば戦前の例を出して、知る権利が犯されるんだという例などを、ある委員さんは出しております。例えば、宴会等で写真を撮影しただけで、その付近に軍事機密に関する建物があった等の理由で、食堂のおやじさんが逮捕されて、

２週間から２カ月の、スパイという容疑で刑務所にぶち込まれた例等を出された方もあります。そういうふうな性格の法案であるという意見が、一つはございました。

また、一方の、先ほど紹介いたしました第２の意見の立場の方は、憲法で言論の自由、そういうものは保障されているから、そういうことはないであろう、こういう反論的な意見も出されております。

それから、以下、請願の中に出ております３点についても触れられたわけですけれども、大体そういう趣旨でやりとりがありまして、結論に持っていったということでございます。一つ一つについては、一応両方の見解が、第１の意見と第２の意見でめぐらされたということでございまして、総務委員会がその問題について、これはこういうもんであるというような、決定みたいなものにしたというものではございませんので、そういうことで大体審議の模様を知っていただければと思います。

さらに質問があれば、メモによりましてお答えいたします。

○副議長（米沢照男君）　古賀俊昭君。

○１８番（古賀俊昭君）　請願者がせっかく１４名、そして1,２５３名もの方が署名を、苦労してお集めになって出されたその請願について、具体的に述べられている要旨について、詳しくこの法案と照らして御審議なさらなかったというのは、非常に私、今、奇異に感じたわけでございます。

特に、知る権利、また言論の自由、こうした重大な問題にかかわる件について、一体どの条項がこれに該当するのであろうかということを、少なくとも請願者が述べている以上は、総務委員会において、具体的な箇所については、それを挙げて確認をなさるぐらいのことは、私はあってもよかったんではないかと思うんです。ただ何となくいいのじゃないかとか、そういうことで軽々しく請願というものを、国民の請願権を扱ってもらっては、私は困ると思うんです。もう少し細かい審査というものが、具体的に国会に出された法案をもとに出されてきている請願でございますから、おやりになればよかったのではないかと思いますが、やっておられないということであれば仕方ございませんが（「いえ、やってないということじゃないんですよ」と呼ぶ者あり）。

まあ、これからいろいろな審査というのは、請願審査というのはございます。総務委員会に、これからいろいろ国政、また市民生活にかかわる問題というのは、たびたびかかるわけであり

ます。具体的に、きめ細かい審査というものを、やはり私、委員長においては心がけられた方がいいのではないかと思いますが、いかがでございますか。

○副議長（米沢照男君）　総務委員長。

○総務委員長（竹ノ上武俊君）　お答えいたします。

先ほど、省略すると申したわけでございまして、審議しなかったわけではございません。

例えば、名前を挙げて言いますと、総務委員の中の米沢委員は、この国家機密法の罰則の例を、さまざまな形で挙げておられました。抽象的に言えば、外国に通報する目的で、どういうことをしたらどうなるとか、あるいは、業務上探知したものはどういうふうになるんだ、というようなことを、条文に基づいて発言をされておりました。

それから一方で、例えば、旗野委員も、すべての条文に関する資料をお持ちになって、それを一つ一つ挙げて、これはこういうことで憲法を犯すには至らないんだという反論をされるとか、それは全部されておりますので、その結果、結論に導かれて採決をしたということでございますので、一応御了解いただきたいと思います。

○副議長（米沢照男君）　古賀俊昭君。

○１８番（古賀俊昭君）　今、相反する二つの意見があったということを、委員長、お述べになったんですが、逐条的に条項に沿って反対の理由が述べられたということも、今わかりました。

ただ、こういう法案というものが国家にとって必要であるという立場から、旗野委員は考え方を、意見を述べられたということでありますが、反対の方の意見の方が、かなり詳しく委員長報告の中で出てまいりましたが、旗野委員が今おっしゃったと、私、思われる意見については、委員長報告の中で余り出てこなかったように思うんです。ある程度、委員長の考え方、もちろん私もよくわかっておりますが、委員長報告でありますので、旗野委員の御意見を私は少し聞きたいと思いますので、御報告をお願いしたいと思います。

○副議長（米沢照男君）　総務委員長。

○総務委員長（竹ノ上武俊君）　それでは、せっかくの古賀議員の質問でございますので、平等に報告したつもりでございますけれども、重ねて御報告をしていきたいと思います。

主として、米沢議員が言われた点は、先ほど述べた第１の意見に属する意見の陳述展開でございました。これは、またそのほかに、外国との機密という点では、日本とアメリカとの軍事

演習とか、今後の軍事協力、こういうもとでの国家機密の扱いが、国民に知る権利などを犯すというようなことを、例を挙げての御説明がありました。

それからまた、市民生活については、先ほど挙げたようなことまで、戦争中は逮捕されたものである。ですから、そういうことで、この１４条にわたる条文というものは、拡大解釈ができるという危険性があるんだ、こういう主張などをされたわけであります。

それから、旗野委員の方の主張は、先ほど主要な点は申し上げたつもりでございますけれども、さらに補足をいたしますと、例えば（「米沢議員の意見は二度聞きましたよ」と呼ぶ者あり）　先ほど、第２の意見として発表したとおりでございますけれども、さらに旗野委員が主張された点は、憲法において、言論の自由、報道の自由はちゃんと保障されているということです。

そういう中で、今度の法案が軽々しく死刑とか、重罰を国民に処するというようなものではないんだ。その点から、例えば、これこれのことについては軽い刑で済ませるといいますか、そういう形の処理の仕方ということなども、ちゃんと保障されているんだ、ですから、福祉というような、国家の福祉に逸脱するようなことに対しては、規制をしなければいけない、と先ほど言いましたけれども、そういうことを強く主張されていたように、私は一応メモいたしております。

それから、そのほかにも、例えば、市川委員からも、具体例を挙げまして、最近行われたスパイ行為、自衛隊の例も出されております。こういうものに対しては、あいまいに結局されたではないか。というようなことがありまして、そういう意見も受けた形で、それをさらに旗野委員が、資料等に基づきまして、一つ一つ例を挙げて反論されたというふうに思うわけであります。

重ねて言いますと、市川議員は、数年前の本会議場で、この問題を論議したことがございます。そのときの会議録も、ほとんど主要な部分については、再度強調されておりますので、できればその議事録等をまた参考にしていただければ、市川委員のおっしゃったことはそこに全部言い尽くされておりますので、御了解いただきたいというふうに思います。

○副議長（米沢照男君）　古賀俊昭君。

○１８番（古賀俊昭君）　最初に、もう少し、私の耳が十分に総務委員長の審査報告をお聞きするのに機能していなかったのかもわかりませんけれど、私には、最初、非常に委員長

報告の賛成、反対の意見が、ある一つの御意見のみが強調されているように、たまたま感じたものですから、そのほかの御意見はどのようなものがあったかなということで、お聞きしたような次第であります。

具体的に細かくいろいろございますが、後ほど意見があるんでしょうから、そこで言わせていただきます。

○副議長（米沢照男君）　ほかに御質疑はありませんか。なければこれをもって質疑を終結いたします。

本２件について御意見があれば承ります。古賀俊昭君。

○１８番（古賀俊昭君）　去る、前の国会で、自由民主党の議員提案という形で、この国家機密に係るスパイ行為等の防止に関する法律案が提出をされまして、現在、継続審議で国会の方に上程されたままになっているわけであります。この、いわゆるスパイ防止法の制定を求める世論と申しますか、国民の声というのは、広範に全国的に認めることができるわけであります。

特に、今、市川議員のお話もありましたが、昭和５５年にはこの日野市議会で、こうした法案の成立を求める決議が、日野市議会でも良識ある議員の皆さんの力によって、可決をされております。

その後、全国的に地方議会の議決も相次いでおりまして、２８の県議会、１２４の市議会、1,３５３の町村議会等で、この法案の成立を求める意見書が可決をされ、決議されております。それに基づいて国会に提案をされた、という背景もあるわけでありますので、国民の大多数は、この法案の成立を心から願っているというふうに、私は考えます。

特に、今、反対の理由がいろいろ述べられましたが、これは意図的な曲解か、または全くな法律的な無知に基づく反対の意見だろうと思います。そもそも、スパイを取り締まろうという法律について、反対をするということは、これがつくられて困る人たちがいるわけであります。つくられて困るのは、恐らくスパイをやっている人か、スパイを今後やろうとする人は、取り締まりの対象になりますから、反対をするのは当然かなとも思います。

しかし、国民の大多数は、先ほど申し上げましたように、この法案を支持していると思います。特に、先般実施をされました共同通信等の世論調査を見ますと、中曽根内閣の支持率も60％に達そうとしております。こうした高い支持率を受けている背景に、このスパイ防止法が、

もし仮に国民の基本的な生存権とも言える知る権利、また言論の自由、表現の自由というものを、仮に犯すものであるとすれば、この法案を用意をしている自由民主党の政権である政府に対して、これを反対をして、これにこの法案をつぶそうという行為に出るはずであります。つまり、国民の大多数は、良識的な国民の多数は、この法案を心から支持し、一日も早い成立を願っていると思います。

特に、先ほど、国会議員が国家の機密にかかわるようなことは言わないだろう、というようなお話もありました。これは、国会法において、国会内の、いわゆる院内の発言については、責任は問われないという、国会法の規定があります。ですから、先ほど委員長の報告の中にありました国会議員云々ということは、全く根拠を持たないということであります。

また、例えば、新聞記者、または報道機関の人たちが外務省の機密を何か報道する、また外務省のいわゆる秘密扱いのものを報道したとします。しかしながら、本人に犯罪行為を行おうとする意思がなければ、これは犯罪として、いわゆるスパイ防止法の適用は受けないわけであります。つまり、正当な業務による行為というのは、この法律の対象にはならないことになっております。つまり、例えば、お医者さんが手術をするためにメスを振るう。しかし、これは傷害罪になりません。それと同じことであるわけです。

ですから、最初に私が申し上げましたように、非常にセンセーショナルな反対理由が述べられております。言論の自由が犯される、知る権利を奪われる、大変な時代主義的なものが並んでおりますが、戦前の、いわゆる国家保安法、国家機密保護法等の、いわゆるスパイ防止法に当たるものが幾つかあったと思います。しかし、戦前においてすら、これらの法案の適用によって、死刑になった人はいないと思います。今日、民主国家として再生をした日本が、この法案を振りかざして、だれかを捕まえて殺すなどということは、恐らく考えられないことであって、ためにする議論であると思います。

この請願については、先ほど申し上げましたように、法律的な大変無知か、またはそれに基づく誤解があるということで、請願採択反対の理由を述べておきたいと思いますが、とにかく緒外国でもこれに関する法律というのは、みな持っております。ことし市長が訪問されたソビエト連邦、ソ連においても最高刑は死刑ということで、いわゆるスパイ防止法がございます。昨年、森田市長が訪問された中華人民共和国においても、スパイ防止法はございます。同じく最高刑は死刑であります。

およそ独立国と名のつく国で、こうした国家機密を保護するための法律を持たない国というのは、存在しないわけであります。そのことは百も承知で、こうした意見書の採択、決議案の採択を求めて請願が出されてくる。ある特定の主義、主張、イデオロギーに基づく考え方によって、今日の社会体制においては、国民に絶対に幸せになれない、だからこの国の体制というものは変えなくてはならない、という人たちにとっては、やはりこの国の基盤を揺るがすことが必要になると思います。そういう人たちにとっては、このスパイ防止法というのは、非常に都合が悪いものだろうと、私なりに解釈をするわけでございます。

いろいろ反対の理由は、委員会では反対をなさる委員の方から逐条的に述べられたそうでありますので、細かくは申し上げませんが、とにかくこの法律の一日も早い成立を国が願っているということを、私、地方議会の議決等を引いて強調いたしました。この請願の採択には反対をいたします。

○副議長（米沢照男君）　板垣正男君。

○１２番（板垣正男君）　請願の６０－８号、請願の６０－１０号、いずれも採択の立場で意見を申し上げておきたいと思います。

今、自民党の古賀議員から、請願反対の立場での意見が、るるございましたが、５５年の第３回定例議会で、決議が上程された際、私も共産党市議団の反対する立場で、意見を述べておきました。大要、その場でも述べてありますけれども、改めて今日の時点に立って、この請願の採択、そしてスパイ防止ということに名をかりた国家機密法を廃案に追い込む、あるいは法案そのものの成立を阻むためにも、反対の意見を述べておきたいと思います。

新聞等でも報道されましたし、日本じゅうの国民が強い関心を持って見守っておりました、さきの国会での、あの国家機密法の上程、そして継続案件にしたということの一連の経過、これはまさに中曽根内閣や自民党が、あらゆる手段を講じてでも、法律の成立を図ろうという、こういう魂胆をむき出しにした、こういうことが言えると思うわけであります。世論の強い反対によりまして，委員会の付託もできないままに、会期の終幕を迎える、こういう事態になりまして、廃案になるのではないか、こういうふうに見られていたのであります。

ところが、自民党や中曽根内閣が、この国会の最終日、衆議院の議員運営委員会で、新自由クラブに割り当てていた委員を、自民党に差しかえてまで、法案の継続審議を強行した。そして、衆議院では、継続案件としては１９４９年以来３６年ぶりの記名投票を行って、継続にしたということを見ても、いかに強い執念を持っているか、こういうことが言えるわけであります。

その際、国民が大きな批判を行いました。そうして、多くの市民団体を初めとする、この日野市内だけにおいても、この法案の廃案を要求する、あるいは廃案を要求するだけではなく、国家機密法そのものを反対する、こういう動きとなって、今日、議会に提出されてきたものと思うわけであります。

この国家機密法は、スパイ防止ということを掲げております。しかし、これは全くの口実でしかない。この真のねらいとするところは、中曽根内閣自民党が目指す、日米軍事同盟体制の国家づくりを本格的に強行するために、国民の知る権利を初め、言論報道の自由、そして国民には耳も、口もふさげ、こういう目的を持った（「どこに書いてある、そんなことが。読んでみろよ」と呼ぶ者あり）　国民への一切の批判を封殺する、こういう内容と意図を持ったものであります。

この法案の内容は、大別すると三つの特徴に分けられると思います。

その一つは、防衛問題及び防衛にかかわる外交問題のすべてを、国家秘密としてこれらを国民から隠すというねらい。

第２には、この法案は政党や国会議員の国政調査、マスコミ等の正当な言論活動、一般市民の日常の活動にも、政府が必要とみなせば、すべて犯罪とするというものであります。

そして第３は、死刑や無期懲役を含む（「犯罪を犯す意思がなければ、犯罪は成立しないんだ」と呼ぶ者あり）戦時法制にしか見られないような、異常な重罰規定をもって臨んでいるということであります。死刑に処するというのは、この法案の第４条、冒頭に書かれてあるわけでございまして、念のためこのことを申し上げておきたいと思います。

日本の防衛問題や、あるいは外交をめぐる国政の重要問題で、情報主権者である国民に知らせない、完全にその情報を遮断する、壁の中に封じ込めてしまう、そしてこれをタッチしたり、批判、追及するというものを国賊のように扱って、徹底的に弾圧する、こういうねらいを持ったものであります。そして、国民の日常生活にまで目を光らせて、その結果、日米軍事同盟強化に基づく、作戦体制の確立、あるいは日本の国家機関の策動が、国民には知らされないままに進行させていこう、こういうねらいにあるかと思うわけであります。

この国家機密法の内容が、戦前、日本帝国主義や中国への侵略戦争を、中国全土に拡大した

年、すなわち１９３７年に公布された軍機保護法や、１９４１年太平洋戦争の開始を前に公布されました国防保安法、この二つの法案とそっくり同じだということも、偶然ではないのであります。これら二つの法案は、いずれも国民から一切の知る権利を奪って、侵略戦争に国民を駆り立てる戦時国家体制を支えた国民弾圧法、国家機密法は、その当時と同様の暗黒時代へと、国民を導こうというものであります。

中曾根首相が、６月の参議院の決算委員会で、日本共産党の橋本　敦議員の質問に答えまして、「あつものに懲りてなますを吹くということは繰り返さない方がいい」こういうふうに答弁したことが伝えられております。首相自身が、国家機密法を戦前の弾圧法と、本質的に同じものだ、とこういうふうに認識していることを、彼みずからが明らかにしたものであります。

こういう国民弾圧を目的とした国家機密法、多くの国民がその内容を知れば知るほど、反対の世論、反対の意見、そして運動が多く広まってくることは、当然なことでございます。そうしたことに基づいて、本議会にも二つの請願が提出され、総務委員会で慎重審議された結果、多数で採択と決したことは、まことにこれは日野市民の良識を代表する議会の、当然の結論を出したものと思うわけであります。

それから、この国家機密法の内容を、いろいろと弁護する意見の中で、報道の自由は犯されないとか、あるいは国会の審議に影響をもたらさないだろうとか、スパイ野放しというようなことなどを、いろいろと挙げておりますけれど、これは、国家機密法の本質を覆い隠すという意図にほかならない、このように指摘せざるを得ないわけであります。

総務委員会でも、スパイ天国論云々ということが、いろいろ議論されたようでございます。５５年の第３回定例議会で提案された決議案の内容、提案趣旨、それに賛成者の意見などにも、スパイ天国を取り締まる、こういうような趣旨があったわけでございますけれど、これは一体、スパイを取り締まるということは、国家機密法を改めて制定する必要があるかどうか、改めて見ていく必要があると思うわけであります。

自由新報が、国家機密法の制定をねらって、キャンペーンを繰り広げておりますけれど、その中にも、日本はスパイ天国だからスパイ防止法が必要だというようなことも、述べられております。

国家機密法は、日本の機密を漏らした者を処罰する、こういう目的を持っているのであります。初めから、日本を舞台にした外国同士のスパイ合戦をなくす、という目的を持っているものじゃないということを、はっきりと申し上げておきたいと思います。

例えば、日本を舞台にしたスパイ合戦で、警視庁公安部は、刑法の強要罪で捜査したように、これはソ連のタス通信特派員が、日本で中国人留学生に、中国情報を提供しなさい、こういう要求を行ったという事件でございますが、それに対して、強要罪を適用して捜査を行ったということに見られますように、現行法でも十分取り締まることができるということ、そして、日本を舞台にした外国のスパイ合戦には全く手を触れないということも、経過として幾つも挙げることはできるわけであります。

その一つとして、ロッキード事件のとき、児玉誉士夫がアメリカのＣＩＡの秘密工作に携わったということが、明らかになりました。アメリカの議会、新聞、雑誌等、ＣＩＡの対日工作の実態が、次々と暴露されてまいりました。そして、それらの資料をもとにいたしまして、日本共産党国会議員団が、７６年の４月でありますけれど、日本で活動するＣＩＡ要員のリストを発表しましたが、その数が、実に１９６人に上っているのであります。

また、韓国のスパイ謀略機関ＫＣＩＡが、日本滞在中の金大中氏をホテルかららちするという前代未聞の主権侵害事件を起こしたにもかかわらず、自民党政府は、このＫＣＩＡの責任をうやむやにしたまま、今日まで至っているのであります。もし、本当にスパイの問題を取り締まるということであるならば、こうしたＣＩＡ、ＫＣＩＡの暗躍こそ、取り締まらなければならないものであります。自民党は、そういうことに対して全く触れることができない、こういう問題点をさらしているわけであります。

さらに言論の自由云々ということが言われておりますけれど、これは、ことしの５月３１日号の朝日ジャーナルで、朝日新聞田岡俊次編集委員が述べておるのでありますけれど、この法案で言うようなことになってまいりますと、次のように述べております。「防衛担当記者の活動は、広報係の発表や記者会見の内容しか書かないような、よほど無能怠慢な記者を除いて、ほとんどすべてスパイ行為となり、重罰の対象になってしまう」――こういうふうに、防衛庁関係、外交関係の取材に関することで、述べておるわけであります。

ですから、政府が発表したこと以外は、一切取材してはならない、あるいは、新聞等で報道しちゃならない、こういうひどい内容と意図を持っているものでございます。

私は、もう１点、国会議員の審議云々ということについても触れたいと思うわけでありますけれど、国会は、もちろん国会の審議権がございます。法律で定められたように、国会の国政

調査権が正常な機能を果たすならば、さまざまな問題の解明はできるわけでありますけれど、しかし、今日、その国政調査権が大きく侵害されている、こういう点などもあるわけであります。（「どうして」と呼ぶ者あり）

そういう中においても、国会議員の質問に対しては、例えば、政府は、守秘義務を盾にして回答しないという例などもございます。それでも、現在、議員証言法によって証人喚問するということができるわけでありますが、国家機密法のもとでは、それもできなくなってしまうというおそれがあるわけであります。

議員の質問準備や日常活動も、大きく制約されてしまう、こういうことも目に見えて明らかでございます。（「絶対あり得ない、そんなこと」と呼ぶ者あり）議員の国会質問それ自体は、憲法で保障された議員の免責特権があって、処罰されなくても、質問準備のための調査活動は、不当な方法で国家機密を探知し、または収集した、ということにされてしまいますと、この法案の内容からいきますと、１０年以下の重罰に処せられる、こういうことにもなりかねない点が、指摘されているわけであります。

そして、議員に情報を提供した人も、その業務により取得し、または領有した国家秘密を他人に漏らしたという条項に適用されまして、処罰の対象になる、こういうことにもなってまいるおそれがあるわけであります。国家秘密法のもとでは、国民の知る権利や、言論出版報道の自由は著しく侵害され、国会議員といえども、必要な資料の収集や調査ができない、こういう状態に置かれてしまうわけであります。

最後に、私は、外国の例を一つだけ紹介しておきたいと思います。

先ほど、古賀議員は、外国はほとんど外交上の法律を持っていると、このように言っておりますけれど、例えば、こういう問題もあるわけでございます。（「国の名前を言え、みんなの知っている国を」と呼ぶ者あり）

自民党の安全保障調査会の、森　清という副会長が、朝日新聞の論談欄へ投稿しております。この中で、「西欧諸国にはこのスパイ防止法と同様の法規があるが、言論の自由とスパイ防止法が抵触するというような議論があることは、私は知らない」――こういうふうに、国家機密法の制定を正当化しようということで書かれているわけでございますが、しかし、これは西欧諸国の実態を余り勉強なされていないんではないか、こう疑わざるを得ないわけであります。

現に、ことしの３月、カイロで開かれました国際新聞編集者協会というのがございまして、

第３４回総会でも、英国オブザーバー紙編集長が、イギリスの行政府機密法が、いかに言論の自由を侵害しているかということを報告し、総会はこれを受けて、英国政府に抗議する決議を採択していることであります。

この行政府機密法は、１９世紀末に、スパイ防止を名目にして制定されました。その後、１９１１年に国防関係だけでなく、官公庁のあらゆる情報を漏らせば処罰するというものに拡大されたために、今や英国の言論機関は、公務の不正を暴露すれば、まず法律違反は免れない、こういうふうに、この集会で報告をしているくらいでございます。

外国の例でも、スパイということを名目にして制定し、実際は言論の自由を奪うということをねらっているという点では、これは、自民党が提出した国家機密法でも、同じ内容と意図を持っているもの、こう強く指摘せざるを得ないわけであります。

そして、今、この国家機密法の防止――国家機密法の法案の取り下げ、あるいは廃案を求める全国的な世論の大きな高まりもございますし、地方議会においても、１００近い議会で反対決議が行われているとも聞いております。本市議会が、総務委員会で多数で採択と決しましたこの請願６０－８号、請願６０－１０号は、本会議においても多数で可決されることを強く願いまして、私の請願採択の立場での意見を終わりたいと思います。

○副議長（米沢照男君）　ほかに御意見はありませんか。旗野行雄君。

○１０番（旗野行雄君）　総務委員会で、ある程度論議が尽くされましたので、私、建前上、本会議では発言しないつもりでありましたけれども、先ほど、下水道条例の審議に関して、所管委員会の委員さんからも発言がありましたので、それにならいまして一言発言させていただきます。

まず、問題になっております国家機密法案についての、最近の地方議会の取り扱いがどうか。先ほど、古賀議員もそれに触れられましたけれども、これは二、三日前の朝日新聞に出ておりましたんですけれども、反対決議をされた地方議会が８７、促進決議をされた地方議会が1,508、こういう数字になっています。明らかに、国民一般はスパイ防止法案の成立を望んでいる。これが常識だと、私、思っております。

それから、防衛、あるいは外交を国民に知らさないというのが目的だと、こういうことを、先ほど賛成された方から発言がありましたけれども、国家には機密があるのが、これは当然であります。外交に関してもそうです。防衛に関してもそうです。

申し上げますと、情報公開制度、これに対するいろいろ各党の、一応案が出ているわけであります。

まず、社会党の案を見てみますと、開示する必要のない文章等の範囲、というところに「我が国の安全または外交に関する事項は機密にしていい」とこういうことがあるわけです。

公明党、民社党、新自由クラブ等の案についても、我が国の防衛または外交に関する事項は、これは秘密でいい、国民に知らせなくてもいいんだ、こういう規定が入っているわけです。

共産党にしても、外交上の機密は、これは公開しなくていい、とこういうことを言っています。もちろん共産党ですから、自衛隊を認められないわけですから、これは軍事については触れられておりません。

自由人権協会という会がありますが、その案によりましても、我が国の安全に関しては、秘密でいい、こういう規定があるわけです。

そして、先ほどからいろいろ言われていますけれども、何かためにする発言か、あるいは国家機密法、この法案を誤解しているんではないかと、私、どうも判断したいと思うんです。

６０－１０号の方に、こういうことが書いてあります。「軍事、外交など国政の重要事項を行政府の一方的判断で国家機密とし、……」こういうことが書いてありますけれど、我が国は法治国家で、完全な三権分立体制をとっているわけでございます。したがって、国家機密はどういうものかということは、これは自主的に国家機密でなければならないということなんです。最終的に機密が、これは政府でしていただけでは、国家機密にはならないわけです。最終的には、司法の判断をまたなければならないわけです。ですから、一方的に指定して、どんどん守秘事項がふえる、このような心配は、まず、あり得ないわけです。

そして、いま一つ言われることは、日本では、外国でもそうですけれども、いろいろの国家機密保護法についても、基本的には刑法のいろいろの基本的概念、規則が適用されるわけです。どこかの法律を無視して、いきなり、やみからやみへ人を葬り去ってしまうような国とは、違うわけです。まず、どういう基本原則があるかということで、まず、財形法定主義ということがあるわけです。これは、法律で決められているきり罰則は適用できない。それから、不遡及の原則、これは過去にさかのぼって刑罰を擦ることはできない、こういうことと、類推解釈は、これは禁止されているわけです。構わず拡大解釈することはできないわけです。あるいは、罪を犯す意なき行為は、これは罰することができない、これも刑法の第３８条にあるわけです。

ですから、ここにありますけれども、不作意に何か国家機密をたまたま知ったとか、あるいは話題にした人が処罰されることは、これは絶対あり得ないことであります。どうも、その辺、誤解があると思うんです。

なにか非常に断片的な意見になりますけれども、最高刑、死刑の重罰に処す、これを知ろうとしたり、話題にした人に対して。これも非常にオーバーな表現であります。最高刑、死刑または無期懲役に処するというのが、法案の４条に書いてありますけれども、「外国に通報する目的を持って、または不当な方法で国家秘密を探知、または収集した者で、その探知または収集した国家秘密を外国に通報し、我が国の安全を著しく害した場合」とこういうふうに規定があるわけで、この一つの条項を外れても、死刑または無期懲役になることはあり得ないわけです。いきなり、何が何でも死刑にするんだ、そういう心配があるということはないわけであります。

以下、いま一つの請願についても、委員会で個別に反論したのでここで申し上げませんけれども、この法案の最後に、この法律の適用に当たっては、これを拡張して解釈して、国民の基本的人権を不当に侵害するようなことがあってはならないと、きちんと書かれているわけです。（「守らないからでしょう。憲法だってそうじゃないの」「何を言うか」と呼ぶ者あり）どの条文を具体的にとっても、この請願に書かれているような心配は、絶対にあり得ないと私は思っております。

よく、日本は自由度ナンバーワンの国家だと、こう言われております。この国家を守るためには、絶対にスパイ行為等の防止に関する法律が必要ではないか、こういうことを申し上げて、意見を終わります。

○副議長（米沢照男君）　　黒川重憲君。

○１７番（黒川重憲君）　　請願６０－８号、並びに６０－１０号、の請願に対しまして、賛成の意見を一言述べさせていただきます。

去る６月に、議員提出という形で、国家秘密に係るスパイ行為等の防止に関する法律案、いわゆるスパイ防止法案が、衆議院に提出をされたわけでございます。

この法案は、スパイの防止をうたっているわけでございますが、その内容をよく見てみますと、国民の基本的人権である表現の自由、あるいは知る権利を大幅に制限するものとなっております。そして、この法案では、国家の機密とは何であるかということが、明確でない。その

提起も著しくあいまいであります。

したがって、拡大適用の余地を残して、この場合もし、保守防衛外交にかかわるほとんどの事項を、国家機密の名のもとに、ベールで包んでしまっておる。国民の批判や監視のらち外に置いて、これらに関する情報を知り、もし他に漏らした場合には、報道関係者であろうと、一般市民であろうと、処罰されることになるわけであります。

しかも、この国家機密を公にした場合、最高死刑または無期懲役という刑を科すというのは、余りにも常軌を逸しているのであります。表現の自由、知る権利は、民主主義の中核でありまして、今や行政情報の公開が要求されている時代であるのであります。

しかし、私たちは、スパイというものは、当然非難されるべき行為であると考えておりますが、スパイ防止法に名をかりて、防衛、外交問題について一切国民に知らせない、論議をさせないということは、到底許しがたいことであろうと思います。

以上をもってこの請願に賛成の意を表します。

○副議長（米沢照男君）　ほかに御意見はありませんか。なければこれをもって意見を終結いたします。

これより本２件について採択いたします。本２件に対する委員長報告は採択であります。本２件は委員長報告のとおり決するに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○副議長（米沢照男君）　挙手多数であります。よって請願第６０－８号、「国家秘密に係るスパイ行為等の防止に関する法律案」に対する日野市議会の反対決議を求める請願、請願第６０－１０号、「国家秘密に係るスパイ行為等の防止に関する法律案」に反対する日野市議会の意見書を求める請願は採択と決しました。

お諮りいたします。議事の都合により暫時休憩いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（米沢照男君）　御異議ないものと認めます。よって暫時休憩いたします。

午後２時４５分休憩

午後４時２２分再開

○副議長（米沢照男君）　休憩に引き続き会議を開きます。

これより請願第６０－１３号、日野第二小学校校舎内の整備に関する請願の件を議題といたします。

文教委員長の審査報告を求めます。

〔文教委員長登壇〕

○文教委員長（古賀俊昭君）　私ども、代表者会議等に、少数会派でありますので、出ておりません。議会の動きがよくつかめませんので、少しおくれて入ってまいりました。御理解をいただきたいと思います。

去る１０月２日に文教委員会に付託をされました、請願第６０－１３号、日野第二小学校校舎内の整備に関する請願について、審査の経過とその結果を御報告申し上げます。

請願者は、日野第二小学校ＰＴＡ会長の一ノ瀬公男さん外2,１５１名の方々であります。請願の要旨は、第二小学校の教室や廊下の床に使用されている、専門的に言いますと、フロリングブロックという名称だそうですが、木製の建材がキクイムシなどによって食い荒らされている上に、昨年２月には、床の清掃の際に、児童が床板でけがをして１６針も縫う事故が現実に起きるなど、床の傷みが激しいために、昭和６１年度、来年度予算による全面的な改修を求めたものであります。

文教委員会では、去る４日、委員会開催の当日、現地視察を行い、篠宮校長、金田教頭両先生から現状の説明を受けるとともに、問題床の虫食いの状況、事故発生現場等を、委員会メンバー全員で確認をいたしました。

委員会において、教育委員会からは、来年度７分の２の国の補助制度が適用される見通しと、さらに全面的に良質の材質による建材を使って改修を行いたいとの意向が示されましたので、委員会としては、このまま放置をすれば再び事故が再発をする可能性も考えられるということから、全員異議なく採択すべきものと決定をいたしました。よろしく御審議のほどお願いいたします。

○副議長（米沢照男君）　これより質疑に入ります。なければこれをもって質疑を終結いたします。

本件について御意見があれば承ります。なければこれをもって意見を終結いたします。

これより本件について採決いたします。本件に対する委員長報告は採決であります。本件は委員長報告のとおり決するに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（米沢照男君）　御異議ないものと認めます。よって請願第６０－１３号、日野第二小学校校舎内の整備に関する請願の件は委員長報告のとおり採択と決しました。

これより請願第５８－２９号、循環バス市案に反対する請願の件を議題といたします。

本件については、請願者より委員会へ取り下げたいとの申し出がありましたので、総務委員長より報告を求めます。

〔総務委員長登壇〕

○総務委員長（竹ノ上武俊君）　請願取り下げについての御報告を申し上げます。

さきに提出をされておりました請願第５８－２９号、循環バス市案に反対する請願でございます。この請願については、請願代表者の斉藤　実さんより、都合により取り下げをしたいのでよろしくとのことでございます。

よろしくお取り計らいをお願いをいたします。取り下げということでございます。

○副議長（米沢照男君）　ただいまの委員長の報告のとおり、本請願については取り下げることに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（米沢照男君）　御異議ないものと認めます。よって請願第５８－２９号、循環バス市案に反対する請願の件については、取り下げることに決定いたしました。

これより請願第６０－５号、老人医療定率負担の導入に関する陳情の件を議題といたします。

本件については、陳情者より委員会へ取り下げたいとの申し出がありましたので、厚生委員長より報告を求めます。

〔厚生委員長登壇〕

○厚生委員長（馬場弘融君）　請願取り下げの御説明を申し上げます。

昭和６０年９月１３日付で、請願第６０－５号、老人医療定率負担の導入に関する陳情の陳情者、東京保険医協会南多摩支部支部長小林友雄さんから、請願取り下げ願いが提出をされました。

１０月３日に開催をされました厚生委員会で、全員異議なく取り下げを承認すべきものと決しました。

以上、御報告を申し上げます。よろしくお取り計らいのほど、お願いをいたします。

○副議長（米沢照男君）　ただいまの委員長の報告のとおり本陳情については取り下げ

ることの御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（米沢照男君）　御異議ないものと認めます。よって請願第６０－５号、老人医療定率負担の導入に関する陳情の件については、取り下げることに決定いたしました。

これより請願第５９－２８号、世界連邦都市宣言に関する陳情、請願第６０－７号、下町下河原地区に所在する（旧）日東精密時計株式会社跡地取得に関する請願の件を一括議題といたしたいと思いますが、これに御意議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（米沢照男君）　御異議ないものと認め一括議題といたします。

総務委員長の審査報告はこれを省略いたします。

本２件については総務委員長から目下委員会において審査中の事件につき、閉会中の継続審査にされたいとの申し出があります。あわせて本委員会の所管事務を調査研究するため、閉会中の継続審査にされたいとの申し出があります。

お諮りいたします。総務委員長の申し出のとおり閉会中の継続審査に付することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（米沢照男君）　御異議ないものと認めます。よって総務委員長の申し出のとおり閉会中の継続審査に付することに決しました。

これより請願第５７－７号、遊休農地をテニスコートとして利用することに関する請願の件を議題といたします。

文教委員長の審査報告はこれを省略いたします。

本件については文教委員長から目下委員会において審査中の事件につき、閉会中の継続審査にされたいとの申し出があります。あわせて本委員会の所管事務を調査研究するため、閉会中の継続審査にされたいとの申し出があります。

お諮りいたします。文教委員長の申し出のとおり閉会中の継続審査に付することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（米沢照男君）　御異議ないものと認めます。よって文教委員長の申し出のと

おり閉会中の継続審査に付することに決しました。

これより請願第６０－９号、無認可保育室の助成に関する陳情、請願第６０－１１号、（仮称）神明地区センター建設に関する請願、請願第６０－１２号、静観な住宅地の真ん中への駐車場建設反対に関する請願の件を一括議題といたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（米沢照男君）　御異議ないものと認め一括議題といたします。

厚生委員長の審査報告はこれを省略いたします。

本３件については、厚生委員長から目下委員会において審査中の事件につき、閉会中の継続審査にされたいとの申し出があります。あわせて本委員会の所管事務を調査研究するため、閉会中の継続審査にされたいとの申し出があります。

お諮りいたします。厚生委員長の申し出のとおり閉会中の継続審査に付することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（米沢照男君）　御異議ないものと認めます。よって厚生委員長の申し出のとおり閉会中の継続審査に付することに決しました。

これより請願第５７－３７号、高幡不動駅北側地区の区画整理に対する反対請願、請願第57－５１号、高幡地区区画整理に対する京王線高幡不動駅南側住民の反対請願、請願第５７－55号、高幡不動駅南新井東地区の区画整理に対する反対請願、請願第５７－５９号、土地区画整理事業策定に当たって当該計画より第一豊田荘住宅地域を除外に関する請願、請願第５７－６２号、程久保６６２番地地域山林緑地保存に関する請願、請願第５８－５号、高幡不動駅地区の区画整理に対する反対請願、請願第５９－８号、生活道路設置に関する請願、請願第５９－９号、下水道設置に関する請願、請願第５９－１６号、基盤整備に関する請願の件を一括議題といたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（米沢照男君）　御異議ないものと認め一括議題といたします。

建設委員長の審査報告はこれを省略いたします。

本９件については建設委員長から目下委員会において審査中の事件につき、閉会中の継続審

査にされたいとの申し出があります。あわせて本委員会の所管事務を調査研究するため、閉会中の継続審査にされたいとの申し出があります。

お諮りいたします。建設委員長の申し出のとおり閉会中の継続審査に付することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（米沢照男君）　御異議ないものと認めます。よって建設委員長の申し出のとおり閉会中の継続審査に付することに決しました。

次に日程第５０、下水道対策特別委員会の継続審査議決に関する件を議題といたします。下水道対策特別委員長より下水道建設に関する事件の調査研究のため、閉会中の継続審査にされたいとの申し出があります。

お諮りいたします。委員長の申し出のとおり閉会中の継続審査に付することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（米沢照男君）　御異議ないものと認めます。よって委員長の申し出のとおり閉会中の継続審査に付することに決しました。

次に日程第５１、農林水産省跡地利用対策特別委員会の継続審査議決に関する件を議題といたします。農林水産省跡地利用対策特別委員長より農林水産省跡地利用に関する事件の調査研究のため、閉会中の継続審査にされたいとの申し出があります。

お諮りいたします。委員長の申し出のとおり閉会中の継続審査に付することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（米沢照男君）　御異議ないものと認めます。よって委員長の申し出のとおり閉会中の継続審査に付することに決しました。

次に日程第５２、高幡踏切対策特別委員会の継続審査議決に関せる件を議題といたします。

高幡踏切対策特別委員長より高幡踏切に関する事件の調査研究のため、閉会中の継続審査にされたいとの申し出があります。

お諮りいたします。委員長の申し出のとおり閉会中の継続審査に付することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（米沢照男君）　御異議ないものと認めます。よって委員長の申し出のとおり閉会中の継続審査に付することに決しました。

次に日程第５３、廃棄物対策特別委員会の継続審査議決に関する件を議題といたします。

廃棄物対策特別委員長より廃棄物に関する事件の調査研究のため、閉会中の継続審査にされたいとの申し出があります。

お諮りいたします。委員長の申し出のとおり閉会中の継続審査に付することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（米沢照男君）　御異議ないものと認めます。よって委員長の申し出のとおり閉会中の継続審査に付することに決しました。

次に日程第５４、市民会館建設対策特別委員会の継続審査議決に関する件を議題といたします。

市民会館建設対策特別委員長より市民会館建設に関する事件の調査研究のため、閉会中の継続審査にされたいとの申し出があります。

お諮りいたします。委員長の申し出のとおり閉会中の継続審査に付することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（米沢照男君）　御異議ないものと認めます。よって委員長の申し出のとおり閉会中の継続審査に付することに決しました。

これより請願第６０－１５号、日野本町四丁目のワンルーム・マンション建設に反対し市の適切な指導を求める請願の件を議題といたします。

請願の要旨は、お手元に配付しました印刷物のとおりです。

請願第６０－１５号の常任委員会への付託は、会議規則第１３８条の規定により議長において建設委員会に付託いたします。

お諮りいたします。請願第６０－１５号は閉会中の継続審査にいたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（米沢照男君）　御異議ないものと認め閉会中の継続審査に付することに決しました。

議員提出議案第８号、人事院勧告の完全実施に関する意見書の件を議題といたします。

提案者から提案理由の説明を求めます。名古屋史郎君。

〔２１番議員登壇〕

○２１番（名古屋史郎君）　それでは、議員提出議案の第８号の提案理由の説明を申し上げます。

お手元に配付してありますとおりの趣旨で、賛成者が多くて、御遠慮願ったいきさつもありますので、ぜひ皆さんの御賛同を得たいと心からお願いいたしまして、提案にかえさせていただきます。

○副議長（米沢照男君）　質疑討論を省略し直ちに採決を行います。本件は原案のとおり決するに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（米沢照男君）　御異議ないものと認めます。よって議員提出議案第８号、人事院勧告の完全実施に関する意見書の件は原案のとおり可決されました。

議員提出議案第９号、老人医療費の不公正な負担増並びに老人医療自己負担引き上げに反対する意見書の件を議題といたします。

提案者から提案理由の説明を求めます。福島敏雄君。

〔２番議員登壇〕

○２番（福島敏雄君）　それでは、議員提出議案第９号、老人医療費の不公正な負担増並びに老人医療自己負担引き上げに反対する意見書でございます。

提案の趣旨につきましてはお手元に配付された資料のとおりでございます。なにとぞ皆さん方の御賛成をよろしくお願い申し上げます。

○副議長（米沢照男君）　質疑討論を省略し直ちに採決を行います。本件は原案のとおり決するに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○副議長（米沢照男君）　挙手多数であります。よって議員提出議案第９号、老人医療費の不公正な負担増並びに老人医療自己負担引き上げに反対する意見書の件は原案のとおり可

決されました。

議員提出議案第１０号、東京都住宅供給公社の不当な定期的家賃値上げに反対する意見書の件を議題といたします。

提案者から提案理由の説明を求めます。小俣昭光君。

〔３番議員登壇〕

○３番（小俣昭光君）　議員提出議案第１０号、東京都住宅供給公社の不当な定期的家賃値上げに反対する意見書であります。

文案要旨は、お手元に配付されております印刷物のとおりでございます。よろしくお願いいたします。

○副議長（米沢照男君）　これより質疑に入ります。夏井明男君。

○１６番（夏井明男君）　東京都住宅供給公社の不当な定期的家賃値上げに反対する意見書ということで、東京都知事あて、さらには住宅供給公社理事長あてということで、出されているわけであります。

過日も、日野市におきましては、下水道料金の値上げ、割合にしまして６割から７割の値上げが決まったところでありますが、その状況を踏まえて、何点か、疑問点もありますので、お伺いをしたいと思います。

まず、第１点、ここで、家賃額の設定は、維持管理費と固定資産税及び各団地のすべての建設費総額を償還できる家賃、個別原価家賃制度となっております、ということですが、まず第１点として、この制度に対して提案者はどのようにお考えになっているのか。要するに、この算定方法はまずいのかどうか、妥当性を欠くのかどうか、その辺が第１点です。

第２点は、「全国に先駆けて、昭和５１年以降２回の家賃値上げをし」とありますけれども、家賃の値上げ幅がどのぐらいであったのか、であります。それから「今回三たび値上げをする」とありますが、その時期の見通し、値上げ幅等がわかりましたら、お願いしたいと思います。それが第２点であります。

第３点目は、「公社住宅の既存住宅に基準家賃など現実を無視した不当な家賃算出方法を直ちに中止すること」とあります。それで、お尋ねしますが、基準家賃というものが、どうして不当な家賃算出方法なのか、それを御説明願いたいと思います。

第４点目であります。「公社設立の目的に沿って、家賃高額化抑止対策」ということですが、

私も公社のつくられた目的から考えまして、この趣旨というのはそのとおり受け取るわけですが、「住戸改善等の財源助成措置を図ること」とありますけれども、財源助成措置というのは、具体的にどういう意味なのか、お尋ねしたいわけであります。

この最後の点は、第１点でお尋ねしました維持管理費も、要するに家賃の設定には含むんだということですが、この一番最後のとこで、住宅改善というのは、当然、維持管理費というふうに受け取るわけですけれども、これを一般財源というふうな意味なのかどうか、わかりませんが、それで助成措置を図るということがどういう意味なのか、不明ですので、御答弁願いたいと思います。

○副議長（米沢照男君）　小俣昭光君。

○３番（小俣昭光君）　お答えいたします。

第１点目の、個別原価家賃についてどう評価するかということでありますが、私たちは、今までの公社の設立目的からいった場合において、各団地ごとによって家賃が設定されているということは、昭和２５年以来ずっとそういう形で、説明をされてきております。ですから、現段階においては、この個別原価家賃ということは、私たちは、正しいというように理解しております。

第２点目は、家賃が過去２回値上げされておりますが、第１回目の５１年のときには、家賃の約６０％が値上げされております。第２回目は、それから６年後ですから、５７年だと思いますけれど、ここのときには３５％の家賃が値上げされております。それで、今回は、今、公社は家賃値上げを言っておりませんが、家賃審議会で私たちの居住者にお知らせしているチラシなどでは、約１６％の値上げを言ってきております。

以上のあれから見ますと、私たちが最初に入居していた家賃から比べると、約、倍の家賃になろうとしておりますので、私たちは反対しているというように、御理解していただきたいと思います。

３番目の、基準家賃の設定であります。これは、５９年度につくられたもの、公社住宅でありますが、５９年度でつくられた家賃は、８万4,７００円ということが言われております。これに既存の住宅家賃、これが基準ですから、これに合わせてすべての家賃を合わせていくというのが、それが基準になっております。ですから、それに調整家賃という、いろんな言い方がありまして、例えば、何年たっているかというのがありますが、そういうので調整をして、そ

れで既存の家賃が幾らになるのかと。あくまでも５９年度に建った家賃は、８万4,７００円、これが、建てかえたときにそうなるということでありますので、限りない値上げにつながっていく可能性があります。そういうことで、この基準家賃については、私たちは断固反対しているわけであります。

第４点目は、財源の助成措置についてであります。この問題については、実際に建った後から法的に改善されなけりゃいけない。例えば、平山住宅の例をとってみますと、３年前に、地震対策ということで補強がされております。ピロティーが、建ったときには現行どおり、法規では正しかったわけでありますが、宮城沖地震、あるいは新潟沖地震によって、ピロティーが補強されなければいけないということで、それについて改善を命令されております。これらが、東京都の助成で行われています。

また、消防法の改正によりまして、避難場所がない住宅がありますので、それについて２方向避難できるよう、改善を求められております。これらも東京都の助成で、今まで改善をされつつあります。

あるいは、自転車置き場についても、平山住宅については、今まで建設年度のときには自転車置き場がなかったわけでありますが、それらが自転車置き場を設置するようになってきております。いま現在では、４０％の自転車置き場、世帯数において４０％でありますが、これを１００％に自転車置き場をつくるよう要求しておりますが、これらも東京都の助成で行われる運びとなっておりますが、残念ながらこの助成がおくれているために、これらが計画が進んでいない、というところが現状であります。

それともう一つは、先ほどの高家賃、新しい住宅についての家賃でありますが、土地や建物の値段の高騰によって、家賃が庫額化されてきております。私たちの公社住宅については、この提案の要旨のところにも書いてありますように、勤労者に良好な住環境と集団住宅を供給し、勤労者の生活を安定させることを目的としてつくられた公社住宅であります。これに、８万9,０００円の家賃などというような、法外な高い家賃になっていったんでは、とても一般勤労者は入れなくなれますので、これに対する処置をするようお願いしているわけであります。

以上です。

○副議長（米沢照男君）　夏井明男君。

○１６番（夏井明男君）　細かいことは、また別の機会にお聞きしますけれども、原則

的なことをもう一度お尋ねしますが、大体わかりましたけれども。

まず、第１点は、個別原価家賃制度というのは、これは支持するという立場だろうと思うんです。（「はい」と呼ぶ者あり）

第２点の、今、平山住宅を例に出されているんですが、今、平山住宅で、現状の家賃と６０年度の家賃の値上げ幅というのが、具体的に家賃で言うと大体どのくらいになるのか。日野市の、先ほどの下水道料金の値上げですと、高いところでは、先ほど一ノ瀬議員の方から７７％という数字も出たわけですけれども、具体的な数字が大体どのくらいなのか、その辺わかると思うんですが、御説明願いたいということです。

それから、私も、考え方の基本としましては、勤労者の住宅、特に個人で住宅を建てられないという方に対して、それに見合う住宅を供給していくという住宅政策は、基本的にはそうだろうというふうに思います。ですから、一般財源からある程度の助成措置がとられていくということも、それは納得がいくわけですけれども、具体的にこの中で、住宅の改善ということで今出された例が、大きな震災対策に対してどうかというものに対する財源、助成措置というふうに説明を伺ったわけですが、当然、個別原価家賃制度ということを前提としてお認めになる立場であれば、それ以降の文面のところで、例えば、今ありました基準家賃の問題につきましても、もう少し違った形の表現になってくるんじゃないか、というふうに思うわけですが、その辺どのようにお考えになっているでしょうか。

○副議長（米沢照男君）　小俣昭光君。

○３番（小俣昭光君）　家賃の問題においては、私は平山住宅だけを前提にしたわけでなく、公社住宅全体を指しております。そして、具体的に、私、平山住宅で言ったのは、住居改善を必要なところを、ほかでやっているやつを持ってきてどうのこうのと言ってもわかりずらいですから、私は目の前にあるもので見ていただくということで言ったわけです。

それと、基準家賃というのは、何も私たちが引っ張り出してきて言っているわけじゃありませんで、公社が家賃を値上げする根拠を何らかの形で求めるために、不当に引っ張り出してきた家賃です。先ほども言いましたように、５９年度の建設した家賃が、ここの中でも言われていますように、２番で、公社住宅の既存住宅に――でなくて、３番です、最低居住水準以下の住宅について、居住水準を引き上げるように、これも法律が変わったわけです。

ですから、平山住宅の住宅でも、この最低居住水準にも達してない部屋があるわけです。で

すから、そういうところと、今言っている５９年度の家賃、これと一緒にすること自体が、本来おかしいわけです。そういう点で、比較をするんではなく、１００歩譲って、それなら一番高い家賃と一番低い家賃、それの真ん中をとって、これが基準家賃だといわれるなら、まだ多少納得はできるわけですけれど、最高額を基準家賃にしているわけですから、とても居住者にしては納得できない、というように思うわけであります。

以上です。

○副議長（米沢照男君）　夏井明男君。

○１６番（夏井明男君）　大体大要はわかりました。もう1回だけ、ちょっとお尋ねしておきたいと思います。

私も、日本住宅公団の方に住んでおりますので、家賃問題については絶えず悩みがあるわけです。居住者とすれば、なるべく安い家賃でいたいというのは、そのとおりだと思います。また、定期的に際限なく家賃が上がっていくということに対しても、やはり住民の方も不安に思っています。

しかし、例えば公団の補修費用とか、そういうことすら賄い切れないというふうな議論も、前になされたことがあるわけです。事実としてあったわけですけれども、今のお話の中で、その辺の説明は、今の御説明ですと、一番最後の方の「住戸改善等の財源助成措置を図ること」という意味は、要するに普通の個別原価家賃制度の中の維持管理費等については、そういうものについては含まないんだというふうに、私、理解しておるわけですけれども、それでよろしいかどうか、確認をしておきたいと思います。

それから、先ほど、ちょっと細かい話になりましたが、平山住宅ということでパーセンテージを出されたわけですが、その辺の具体的な数字というのは、大体どのくらいになるのか。小俣議員も公社に住まわれていますから、その辺、具体的に、身近におわかりになると思うんですけれども。その辺を、ちょっと５１年から御参考程度に、これは無理な質問ではないと思いますので、わかりましたら教えていただきたいと思います。

それから、最後の、最低居住水準以下の住宅ということも、国の制度で住宅の基準が変わったということで、私も承知しております。その点はわかります。

以上です。

○副議長（米沢照男君）　お諮りいたします。議事の都合によりあらかじめ会議時間の

延長をいたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（米沢照男君）　御異議ないものと認めます。よって会議時間を延長することに決しました。小俣昭光君。

○３番（小俣昭光君）　財源の助成措置に、部分について、維持管理を含むかどうかということで、平山住宅自治会の方針でも、自治協の方針でも、いかなる家賃の値上げは反対、ということを唱えたことは一度もありません。ですから、納得いく家賃値上げであれば認める、という方針をとってきております。

ただし、それについては資料を公開する必要がある。どこにどう使われているかわからない家賃、経営が赤字になりましたから値上げしてください、ということだけでは納得できない、という方針をとっております。

それと、現在の家賃、私のところは３Ｋであります。６畳１間４畳半が１間、そして３畳の板の間の、この部屋であります。これが、約２０年前にできた住宅であります。ここで、今は共益費含めて２万1,０６０円だと思います。（「それでも安いよ」と呼ぶ者あり）

これは、２０年前の家賃でしたら、とても一般の家庭では入れない家賃であります。先ほど言いましたように、これは、ここで個別家賃制度というのがあるわけです。ですから、ここを３０年で償還するということで、家賃が決められていたわけですから、これを３０年で割ったのが家賃であります。ですから、とても高い家賃になっていたわけであります。今でこそ皆さん方は安いと言われますが、最初から入居していた方たちにとっては、膨大な高い家賃を払ってきたわけであります。そういう点で、こういう運動が起きてきているわけです。

以上です。

○副議長（米沢照男君）　夏井明男君。

○１６番（夏井明男君）　大要はよくわかりました。それで、私も今回の下水道料金値上げについては、非常に悩んだ立場ですから。

そうしますと、今、小俣議員のおっしゃるとおりに、何でもかんでも値上げに反対ではないんだということですね。私も、例えば、維持管理費等も人件費等で上がりますから、また、いろんな材料も上がりますから、そういうことも含めて値上げになる、料金の改定につながるということは、日野市のいろいろな保育園の値上げにつきましても、全体的に見ても、そういう

ふうな方式といいますか、やむを得ないものがあるということも多少認識しています。

そういいますと、一番根本的に疑問に思いますのは、大体大要については理解しましたけれども、個別原価家賃制度というのは、前提として賛成であるということが、前提にあります。それで、その後の基準家賃については、設定の仕方から逆算をした家賃の算出方法は納得がいかないということなんですね。その意味も、私は理解している方ですけれども、そうしますと、どういうふうな算定の方法で値上げを―― 値上げの算定方法をとっていったらば、要するに妥当な、定期的な値上げになるのか、その辺の話が、実はないんですけれど、その辺の代案といいますか、そういうものがここには示されていない。

むしろ、話し合いを、値上げをするのを直ちに中止しなさいとかいうこともあるわけですけれど、こういうふうなものを、逃げ場のないような意見書として提出される可能性があれば、かなり日野市の議会として、意見書を東京都、国じゃありません、東京都ですから非常に身近なところでありますので、その辺どういうふうに、代案といいますか、そういうものはやはり若干こういうふうにあるべきじゃないかとかいうものが、やはり示されるべきだろうと思うんです。

最終的には、ここでとられているのは、結局「財源の助成措置を図ること」ということだけで終わっているわけですけれど、その辺は、今のこの場の中で、基本的な考えがあれば、お聞きしておきたいと思うんです。

○副議長（米沢照男君）　小俣昭光君。

○３番（小俣昭光君）　今まで、私たちは家賃値上げに絶対反対ということは掲げておりません。それの一つのあれとしては、第１回、第２回の家賃値上げの、最終的には合意をしてきているわけです。ですから、そういう点では、何が何でもということは、先ほど言っているように、運動としてやってきているわけじゃありません。

もう一つは、共益費というのが私たちの居住者にあるわけですけれど、この中で、共益費も、私たちは自主的に値上げをしてきております。共益費が赤字であれば、居住者と相談いたしまして、そして値上げをしてきております。ですから、公社の家賃、共益費と同じような形で、すべて明らかにしてくれば、反対をしているわけじゃありません。ですから、資料公開も迫ってきております。この審議会の中にも、２人のメンバーが、居住者代表として入って、運動を進めてきております。ですが、この審議会にも資料を提出をしないできているわけです。

ですから、そういう点では、何の、公社が赤字だと言っているから赤字なんだという方式では、残念ながら賛成できるわけにいかない。これは、何でもそうではないかというように思います。

それともう一つは、基準家賃については、（「もういいよ、言うなよ」と呼ぶ者あり）では、そういうところです。

○副議長（米沢照男君）　ほかに御質疑はありませんか。なければこれをもって質疑を終結いたします。

これより本件について採択いたします。本件は原案のとおり決するに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○副議長（米沢照男君）　挙手多数であります。よって議員提出議案第１０号、東京都住宅供給公社の不当な定期的家賃値上げに反対する意見書の件は原案のとおり可決されました。

議員提出議案第１１号、健康保険本人の１０割給付福帰、および国民健康保険への国庫補助率引き上げを求める意見書の件を議題といたします。

提案者から提案理由の説明を求めます。竹ノ上武俊君。

〔２２番議員登壇〕

○２２番（竹ノ上武俊君）　議員提出議案第１１号についての提案理由を申し上げます。

タイトルは、健康保険本人の１０割給付復帰、および国民健康保険への国庫補助率引き上げを求める意見書でございます。この提案理由につきましては、お手元に配付されております案文のような理由によるものでございますので、満場の御賛成をいただきたいと思います。

○副議長（米沢照男君）　質疑、討論を省略し直ちに採決を行います。本件は原案のとおり決するに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（米沢照男君）　御異議ないものと認めます。よって議員提出議案第１１号、健康保険本人の１０割給付復帰、および国民健康保険への国庫補助率引き上げを求める意見書の件は原案のとおり可決されました。

議員提出議案第１２号、「国家秘密に係るスパイ行為等の防止に関する法律案」制定に反対する決議の件を議題といたします。

提案者から提案理由の説明を求めます。竹ノ上武俊君。

○２２番（竹ノ上武俊君）　議員提出議案第１２号についての提案理由を説明いたします。

「国家秘密に係るスパイ行為等の防止に関する法律案」制定に反対する決議でございます。この提案理由につきましては、先ほど同様お手元に配付いたしました決議案文に盛り込まれておりますので、よろしく御審議の上、全会一致での決議をお願いいたします。

○副議長（米沢照男君）　質議、討論を省略し直ちに採決を行います。本件は原案のとおり決するに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○副議長（米沢照男君）　挙手多数であります。よって議員提出議案第１２号、「国家秘密に係るスパイ行為等の防止に関する法律案」制定に反対する決議の件は原案のとおり可決されました。

本日の日程はすべて終わりました。

これをもって昭和６０年第３回日野市議会定例会を閉会いたします。

午後５時１２分閉会

地方自治法第１２３条第２項及び日野市議会会議規則第８１条の規定により署名する。

日野市議会議長　高　橋　通　夫

署名議員　竹ノ上　武　俊

署名議員　米　沢　照　男